FUJI Xerox

ApeosPort® 3060
ApeosPort® 2560
ApeosPort® 1860

ユーザーズガイド

Adobe、および PostScript は、米国ならびに他の国における Adobe の登録商標または商標です。

Microsoft、Active Directory、Azure、Outlook、Windows、Windows Server、Internet Explorer は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Apple, AirPrint, App Store, Bonjour, iBeacon, iPad, iPhone, Mac, macOS, and OS X are trademarks of Apple Inc., registered in the U.S. and other countries.

The trademark “iPhone” is used in Japan with a license from Aiphone K.K.

IOS は、Cisco の米国およびその他の国における商標または登録商標であり、ライセンスに基づき使用されています。

BMLinkS は、社団法人ビジネス機械・情報システム産業協会（JBMIA）の商標です。

RSA および BSAFE は、EMC コーポレーションの米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Mopria® は、Mopria Alliance, Inc. の米国およびその他の国における登録商標およびサービスマークです。無断使用は固く禁じられています。

その他の社名、または商品名等は各社の登録商標または商標です。

Microsoft Corporation の許可を得て画面写真を使用しています。

この取扱説明書のなかで⚠と表記されている事項は、安全にご利用いただくための注意事項です。必ず操作を行う前にお読みいただき、指示をお守りください。

本機には偽造防止機能が搭載されているため、まれに原稿によっては適切なコピーやスキャンデータが得られないことがあります。

平成明朝体 ™W3、平成角ゴシック体 ™W5 は、財団法人日本規格協会を中心に制作グループが共同開発したものです。なお、フォントの一部には、弊社でデザインした外字を含みます。許可なく複製することはできません。

万一、本体の補助記憶装置に不具合が発生した場合、受信したデータ、蓄積されたデータ、設定登録されたデータなどが消失することがあります。データの消失による損害については、弊社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

コンピューターウイルスや不正侵入などによって発生した障害については、弊社はその責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

・このマニュアルの編集、変更、または無断で転載はしないでください。

・このマニュアルに記載されている内容は、将来予告なしに変更されることがあります。

・このマニュアルに記載されている画面やイラストは一例です。ご使用の機種やソフトウェア、OS のバージョンによって異なることがあります。

Xerox、Xerox ロゴ、Fuji Xerox ロゴ、および CentreWare は、米国ゼロックス社の登録商標または商標です。
ApeosPort、ApeosWare、DocuLyzer、DocuWorks、および TrustMarkingBasic は、富士ゼロックス株式会社の登録商標または商標です。

目次

1 お使いいただく前に 17

はじめに 18

本書の使い方 19

本書の構成 19

本書の表記 20

本機のセキュリティ設定 22

環境について 23

サポートについて 24

法律上の注意事項 25

各部の名称と働き 26

操作パネル 33

本機で使用している記号 34

ライセンス 35

2 本機をセットアップする 37

電源について 38

電源を入れる 38

電源を切る 38

リモート操作で電源を切る 39

本機をコンピューターに接続する 40

有線 LAN で接続する 40

USB で接続する 40

無線キットの接続 42

本機とモバイル機器との接続方法 42

Wi-Fi で接続する 43

Wi-Fi Direct で接続する 50

Wi-Fi Direct の接続を切断する 54

ファクス機能の設定 55

インターネットファクス / インターネットファクスダイレクトの設定 55

IP ファクス（SIP）の設定 57

スキャン機能の設定 60

ボックス保存の設定 60

スキャン送信（直接コンピューターに保存する）の設定 61

スキャン送信（メールで送信する）の設定 62

マイフォルダーの設定 62

USB 保存の設定 63

WSD スキャンの設定 64

メール機能の設定 65

3 本機の基本操作 67

節電機能について 68
節電状態に移行する 68
節電状態から復帰する 68

暖機モードについて 70
暖機モード動作を設定する 70

タッチパネルディスプレイについて 71
ホーム画面の説明 71
基本の操作方法 77
共通の操作ボタンの説明 79
文字の入力方法 80

割り込み機能について 81

認証モードへのログイン 82
タッチパネルディスプレイで認証モードにログインする 82
IC カード利用時に認証モードにログインする 82

カスタマイズ機能について 83
ホーム画面のカスタマイズ 83
機能リストのカスタマイズ 84

ワンタッチアプリについて 88
ワンタッチアプリを作成する 88
ワンタッチアプリを削除 / 非表示にする 90

CentreWare Internet Services を使う 91
Web ブラウザーの設定 91
CentreWare Internet Services を起動する 92
認証モードへのログイン 93

用紙をセットする 94
用紙について 94
用紙トレイ 1 ～ 4 に用紙をセットする 98
用紙トレイ 5（手差し）に用紙をセットする 99
用紙の設定を変更する 102

原稿をセットする 104
原稿送り装置 104
原稿ガラス 105
定形サイズ以外の原稿をセットする 108

4 プリント 109

機能の紹介 110
最新ソフトウェアの入手方法について 110

コンピューターからの指示でプリント 111
プリンタードライバーを使ってプリント 111
メールに添付した文書をプリント（メール受信プリント） 111
CentreWare Internet Services を使ってプリント 113

本機に蓄積したデータのプリント 114
サンプルプリント 114
時刻指定プリント 115
セキュリティープリント 116
認証プリント 116
プライベートプリント 118
USB メモリーに保存されたデータのプリント 120
文書プリント 121
USB メモリーの取り外し 121
機能リスト 122
その他のプリントサービス 123
モバイル機器からのプリント 123
AirPrint 124
Mopria プリントサービス 126
BMLinkS 127

5 コピー 129
機能の紹介 130
コピーの基本操作 131
コピー中の操作 132
コピーを中止する 132
次の原稿を続けてコピーする 132
ジョブの状況を確認する 133
ID カードコピー 134
機能リスト 135
部数 135
[プリセット] 135
[両面 / 片面選択] 135
[用紙選択] 135
[倍率選択] 135
[ちょっと小さめ] 136
[まとめて 1 枚（N アップ)] 136
[コピー濃度] 136
[ホチキス] 136
[仕分け] 136
[パンチ] 136
[オフセット排出] 137
[原稿の画質] 137
[ミックスサイズ原稿送り] 137
[原稿セット向き指定] 137
[原稿サイズ入力] 137
[シャープネス] 137
[地色除去] 137
[ページ連写] 138
[ブック両面] 138
[わく消し] 138
[コピー位置 / とじしろ] 138
[鏡像] 138

[ネガポジ反転] 138
[自動画像回転] 139
[製本] 139
[表紙付け] 139
[ポスター] 141
[画像繰り返し] 141
[アノテーション] 141
[複製管理] 141
[紙折り指定] 142
[ダブルコピー] 142
[ビルドジョブ] 142
[サンプルコピー] 142
[フォーム合成] 143
[抽出 / 削除] 143
[次原稿] 143

6 ファクス 145

機能の紹介 146
ファクスの基本操作 147
指定した宛先を編集する 149
通信モードを指定する 149
指定した宛先を削除する 149
指定した宛先を修正する 149
入力した宛先をアドレス帳に登録する 150
宛先の詳細を確認する 150
ファクス中の操作 151
ファクスを中止する 151
次の原稿を続けて読み込む 151
ジョブの状況を確認する 152
インターネットファクス 153
インターネットファクスを送信する 153
インターネットファクスを受信する 154
便利な機能を使う 155
IP ファクス（SIP） 157
企業内ネットワーク（イントラネット）を利用する 157
次世代ネットワーク（NGN）を利用する 157
IP ファクス（SIP）を送信する 157
IP ファクス（SIP）を受信する 158
ダイレクトファクス 159
ダイレクトファクスするための準備 159
ダイレクトファクスを送信する 159
宛先を指定する 160
ファクス宛先表ツールを利用する 161
送信シートを付けて送信する 162
機能リスト 165
[同報する] 165
[回線選択] 165
[プリセット] 166

[プレビュー] 166
[両面原稿送り] 166
[送信画質] 166
[送信濃度] 166
[原稿の画質] 166
[読み取り倍率] 166
[モニターレポート] 166
[開封確認（MDN）] 166
[配送確認（DSN）] 167
[通信モード] 167
[ミックスサイズ原稿送り] 168
[発信元記録] 168
[読み取りサイズ] 168
[ページ連写] 168
[原稿通過スタンプ] 168
[優先通信] 169
[時刻指定] 169
[送信シート] 169
[並列合成送信] 170
[親展通信] 170
[F コード通信] 170
[ポーリング（相手から取り出し）] 170
[オンフック（手動送信 / 受信）] 171
[チェーンダイヤル] 171
[インターネットファクス件名] 171
[インターネットファクスコメント] 171
[インターネットファクスプロファイル] 171
[暗号化] 172
[デジタル署名] 172
[次原稿] 173

ポーリング予約 174
ポーリング予約文書のプリント / 削除 174

受信について 176
自動受信と手動受信を切り替える 176
自動で受信する 176
手動で受信する 176
親展受信について 177

未送信文書の再送信 / 削除 178

7 スキャン 179

機能の紹介 180
ボックス保存 181
メール送信 183
宛先の編集 185
出力ファイル形式の設定 186
スキャン送信 188
USB 保存 191

WSD スキャン 193
本機でスキャンしたデータをコンピューターに保存する 193
コンピューターからスキャンを開始する 193
スキャン中の操作 195
スキャンを中止する 195
次の原稿を続けて読み込む 195
ジョブの状況を確認する 196
スキャンデータの取り込み 197
TWAIN 対応アプリケーションソフトウェアを使って取り込む 197
DocuWorks を使って取り込む 199
親展ボックスビューワー 3 を使って取り込む 200
CentreWare Internet Services を利用して取り込む 201
機能リスト 203
[プリセット] 203
[プレビュー] 203
[カラーモード] 203
[両面原稿送り] 203
[読み取り解像度] 203
[原稿の画質] 203
[原稿セット向き指定] 203
[PDF セキュリティ - 文書を開くパスワード] 204
[読み取りサイズ] 204
[ミックスサイズ原稿送り] 204
[読み込み濃度] 204
[シャープネス] 204
[読み取り倍率] 204
[画質 / ファイルサイズ] 204
[印画紙スキャン] 205
[地色除去] 205
[コントラスト] 205
[裏写り防止] 205
[色空間] 205
[ページ連写] 206
[わく消し] 206
[ファイル名重複時の処理] 206
[次原稿] 206
[本文（URL 送信）] 206
[件名（URL 送信）] 206
[件名] 206
[送信者] 206
[本文] 206
[開封確認（MDN）] 207
[返信先アドレス] 207
[分割送信] 207

8 ボックス操作 209
ボックスの登録 210
親展ボックスの操作 213
親展ボックスの設定変更 215

親展ボックスの削除 216
保存文書のプリント 217

9 ジョブフロー 219
ジョブフローの概要 220
親展ボックスを起点とするジョブフローの作成 221
親展ボックスに蓄積された時点でジョブフローを自動で実行 222
親展ボックスに関連付けされているジョブフローを手動で実行 223
文書とジョブフローを選択して手動で実行 224
Device Setup（デバイス設定ツール）で作成したジョブフローを選択して手動で実行 225
親展ボックスに関連付けされているジョブフローの解除 226
Device Setup（デバイス設定ツール）の利用設定 227

10 アドレス帳 229
アドレス帳の登録 230
詳細項目の設定 232
宛先グループの登録 236
連絡先およびグループの修正 237
連絡先およびグループの削除 238
フィルター機能と検索機能について 239
フィルター機能 239
検索機能 240
宛先からアプリを起動する 241
アドレス帳の一括登録 242
登録用のテンプレートをダウンロードする 242
本機にアドレス帳を登録する 242
他の同機種へのアドレス帳登録 243
本機のアドレス帳をダウンロードする 243
他の同機種に取り込む 243

11 ジョブ情報 245
ジョブ情報の概要 246
実行完了 / 実行中 / 実行待ちジョブの確認 247
実行中 / 実行待ちジョブの中止 248
実行待ちジョブを優先実行 249
実行待ちジョブのプリント 250

12 基本設定 251
概要 252
[言語切り替え] 253
[キーボード] 253
[ホームに [言語切り替え] ボタンを表示] 253
[機械確認 / レポート] 254
[機械構成] 254
[ソフトウェアバージョン] 254
[ファクス認定番号] 254
[無線 LAN の接続状態] 254
[レポート / リストの出力] 254
[通知] 262
[用紙トレイ] 263
[共通設定] 263
[消耗品確認] 266
[メーター確認] 267
[ユーザー別メーター確認] 267
[機能別カウンターのリセット] 268
[保守] 269
[保守レポートの出力] 269
[点検 / 修理依頼] / [EP 診断 / 修理依頼] / [EP 診断] / [修理依頼] 271
[初期設定項目] 271
[EP 通信確認] 271
[ソフトウェアオプションの設定] 271
[ソフトウェアオプションの設定 -USB] 271
[ソフトウェアバージョンアップ] 272
[機械起動時のプログラム診断] 272
[IC カード情報の確認] 272
[証明書の一括削除 / 初期化] 272
[画質調整] 272
[パンチユニット設定] 273
[製本折り位置の調整] 273
[パンチ位置の調整] 273
[トレイ 5（手差し）ガイド調整] 273
13 詳細設定 275
概要 276
[システム設定] 277
[システム時計 / タイマー設定] 277
[節電モードの設定] 278
[音の設定] 279
[画面 / ボタンの設定] 280
[画質の設定] 283
[レポート設定] 283
[複製管理] 284
[強制アノテーション] 286

[UUID 印字] 287
[イメージログ管理] 288
[ジョブ終了時のメール通知設定] 290
[プラグイン設定] 290
[その他の設定] 291
[アプリ設定] 294
[コピー設定] 294
[ID カードコピー設定] 296
[プリンター設定] 296
[スキャン送信設定] 303
[ボックス保存設定] 307
[メール送信設定] 308
[ファクス設定] 310
[インターネットファクス設定] 318
[ポーリング予約設定] 322
[アドレス帳設定] 323
[ボックス操作設定] 324
[ジョブ情報設定] 325
[ジョブフロー設定] 325
[USB 設定] 326
[外部アクセス設定] 327
[Web ブラウザー設定] 327
[リモートアシスタンス設定] 328
[ワンタッチボタン設定] 328
[ネットワーク設定] 329
[ポート設定] 329
[無線 LAN 設定] 334
[プロトコル設定] 334
[本体メールアドレス / ホスト名] 337
[プロキシサーバー一覧] 338
[EP プロキシサーバー設定] 339
[次世代ネットワーク（NGN）設定] 341
[SIP 設定] 341
[T.38 設定] 342
[メール送受信設定] 343
[外部認証サーバー / ディレクトリサービス設定] 344
[セキュリティ設定] 349
[その他の設定] 354
[認証 / 集計管理] 355
[ユーザー情報の設定] 355
[集計管理] 355
[認証・セキュリティ設定] 358
[監査ログ設定] 368
[リセット] 370
[IPsec と 802.1x の設定をリセット] 370
[フォントとフォーム、マクロを消去] 370
[工場出荷時の設定に戻す] 370

14 暗号化と署名機能の設定 371

暗号化と署名機能の概要 372

証明書の種類 372
証明書の状態 373
通信の暗号化機能 373
スキャン文書の暗号化と署名機能 375

HTTP の通信を暗号化するための設定 376

Step1 証明書の準備 376
Step2 証明書の設定 377
Step3 コンピューターから本機へのアクセス方法 377

IPsec を使用して暗号化するための設定 378

Step1 証明書の準備 378
Step2 IPsec の設定 379
Step3 通信先機器の設定 379

メールの暗号化 / デジタル署名をするための設定 380

設置手順の概要 380
Step1 証明書の準備 380
Step2 S/MIME の設定 381
Step3 送信元と送信先の設定 382

PDF 署名 /DocuWorks 署名をするための設定 385

Step1 証明書の準備 385
Step2 PDF 署名 /DocuWorks 署名の設定 385
Step3 コンピューターの設定 386

15 認証と集計管理機能について 387

認証機能と集計管理機能の概要 388

ユーザーの種類について 388
管理の権限と権限グループについて 388
利用制限について 389
認証の種類について 389
集計管理機能について 390

認証機能を使ったサービスの利用制限 394

利用制限できるサービス 394
認証モードと集計管理モードの組み合わせ 394

ジョブフローと親展ボックスの認証 396

ジョブフローの作成 / 利用について 396
親展ボックスの作成 / 利用について 398

ユーザー認証機能を有効にする 399

認証方式を設定する 399
アクセス制御を設定する 399
権限グループを設定する（本体認証） 400
ユーザーを登録する（本体認証） 401
デフォルト権限グループを設定する（外部認証） 403
認証システムを設定する（外部認証） 404
外部認証の LDAP サーバーを設定する 404
その他の設定事例（LDAP） 406

外部認証の Azure Active Directory を設定する 409
その他の設定事例（Azure Active Directory） 411
IC カードリーダー（オプション）で認証するための設定 414
Step1 事前準備 414
Step2 IC カードとパスワードの併用の設定 414
Step3 IC カード使用時の認証解除の設定 414
Step4 IC カード情報の登録 415
Step5 外部認証に LDAP サーバーを使うときの設定 415
集計管理するための設定 417
ユーザー認証の操作 418
登録ユーザーの認証 418
パスワードの変更 418

16 日常の管理 421
消耗品を交換する 422
トナーカートリッジを交換する 424
ドラムカートリッジを交換する（スポット保守のお客様のみ） 426
ホチキスカートリッジを交換する（フィニッシャー A2（オプション）装着時） 426
ホチキスカートリッジを交換する（フィニッシャー B3（オプション）装着時） 428
中とじ用ホチキスカートリッジを交換する（フィニッシャー B3 中とじユニット（オプション）装着時） 430
パンチダストボックスのパンチくずを捨てる 432
スタンプを交換する 433
本体を清掃する 435
本体外部の清掃 435
本体内部（LED プリントヘッド部）の清掃 435
タッチパネルの清掃 436
原稿カバー、原稿ガラスの清掃 437
フィルム、原稿読み取りガラスの清掃 437
原稿送り装置のローラー部の清掃 438
設定復元ツール 440
アライメント調整を行う 441
手動アライメント調整 441
製本折り位置の調整 445

17 困ったときは 447
トラブルを解決する 448
機械本体のトラブル 449
画質のトラブル 454
コピーのトラブル 459
コピーできない 459
思ったとおりのコピー結果にならない 459
プリンターのトラブル 462
プリントできない 462
思ったとおりのプリント結果にならない 463

ファクスのトラブル 464
送信時のトラブル 464
受信時のトラブル 468
スキャナーのトラブル 472
本機でスキャンできない 472
スキャン文書をコンピューターに取り込めない 472
スキャン文書を開けない 473
スキャン文書をネットワーク転送（FTP/SFTP/SMB）できない 473
メール送信できない 474
イメージが思ったとおりの結果にならない 474
ネットワークのトラブル 477
TCP/IP を使用したときのトラブル 477
CentreWare Internet Services を使用したときのトラブル 477
メール機能のトラブル 478
インターネット / イントラネット接続のトラブル 479
IPv4 または IPv6 接続のトラブル 481
ヘルプ / リモートアシスタンス接続時のトラブル 482
文書プリントのトラブル 484
プライベートプリント（一括出力）のトラブル 485
メール受信プリントのトラブル 486
AirPrint のトラブル対処 487
プリンター選択時のトラブル 487
プリント時のトラブル 487
用紙が詰まった場合 488
本体の左側面上部カバー［A］での紙づまり 489
本体の左側面下部カバー［B］での紙づまり（2 トレイ構成の場合） 492
本体の左側面下部カバー［B］での紙づまり（4 トレイ構成の場合） 492
本体の左側面最上部カバー［C］での紙づまり 493
用紙トレイ 1 ～ 4 での紙づまり 494
用紙トレイ 5（手差し）での紙づまり 495
フィニッシャー A2（オプション）での紙づまり 496
フィニッシャー B3（オプション）での紙づまり 497
原稿が詰まった場合 499
自動両面原稿送り装置 のカバー部での原稿づまり 499
ホチキスがうまく留められないとき 502
ホチキスカートリッジの針づまり（フィニッシャー A2（オプション）の場合） 503
ホチキスカートリッジの針づまり（フィニッシャー B3（オプション）の場合） 505
エラーコード 508

18 付録 509

主な仕様 510

基本機能 / コピー機能 510
プリント機能 515
スキャン機能（オプション） 517
ファクス機能（オプション） 519
ダイレクトファクス機能（オプション） 520
インターネットファクス機能（オプション） 520
IP ファクス（SIP）機能（オプション） 521
両面出力機能 521
自動両面原稿送り装置（オプション） 521
サイドトレイ（オプション） 522
フィニッシャー A2（オプション） 523
フィニッシャー B3（オプション） 524

プリント可能領域 526

標準印字領域 526
拡張印字領域 526

エミュレーション 527

エミュレーションモード 527
プリント言語の切り替え 527
モードメニュー画面 528
使用できるフォント 528
ART IV、ESC/P エミュレーションについて 528
PC-PR201H エミュレーションについて 536
PCL エミュレーションについて 543
HP-GL/2 エミュレーションについて 548

PDF ダイレクトプリントを使用するには 564

モードメニュー画面 564
PDF ダイレクトプリント機能の設定項目 564

DocuWorks ダイレクトプリントを使用するには 566

モードメニュー画面 566
DocuWorks ダイレクトプリント機能の設定項目 566

外部アクセス 568

外部アクセスの概要 568
接続先を登録する 568
サーバー証明書の検証を行う場合の設定 569
外部サービスに接続する 570

保守サービスについて 571

トータルサービス契約 571
スポット保守サービス方式 571
補修用性能部品の保有期間について 571

EP システムについて 572

使い方のヒント 574

操作パネルでヘルプを使う 574
本機とコンピューターで厚紙を指定してプリントする 575

1

お使いいただく前に

はじめに

このたびは ApeosPort 3060/2560/1860（以降、本機と呼びます）をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

本書には、本機の操作方法および使用上の注意事項を記載しています。本機の性能を十分に発揮させ、効果的にご利用いただくために、本書を最後までお読みください。

なお、本書の内容は、お使いのパーソナルコンピューターの環境や、ネットワーク環境の基本的な知識や操作方法を習得されていることを前提に説明しています。お使いのパーソナルコンピューターの環境や、ネットワーク環境の基本的な知識や操作方法については、パーソナルコンピューター、オペレーティングシステム、ネットワークシステムなどに付属の説明書をお読みください。

富士ゼロックス株式会社

弊社は、製品の研究開発から廃棄にいたる事業活動全般において、地球環境の保全を経営の重要課題の一つに位置づけております。これまでも環境負荷を低減するために、生産施設におけるフロンの全廃など、さまざまな活動を展開してまいりました。
また、お客様の身近なところでは、複写機やプリンターで使用した用紙、消耗品のカートリッジやパーツなどのリサイクルを推進することにより、今後も資源の保護に積極的に取り組んでまいります。

本書の使い方

本書の構成

■1 お使いいただく前に

本書の使い方、各部の名称について説明しています。

■2 本機をセットアップする

電源の入 / 切、コンピューターとの接続方法、ファクス機能、スキャン機能、メール機能の初期設定について説明しています。

■3 本機の基本操作

アプリの概要や、用紙などについて説明しています。

■4 プリント

プリントの基本的な操作方法と、機能について説明しています。

■5 コピー

コピーの基本的な操作方法と、機能について説明しています。

■6 ファクス

ファクスの基本的な操作方法と、機能について説明しています。

■7 スキャン

スキャンの基本的な操作方法と、機能について説明しています。

■8 ボックス操作

親展ボックスの基本的な操作方法と、機能について説明しています。

■9 ジョブフロー

ジョブフローを使う操作について説明しています。

■10 アドレス帳

アドレス帳の基本的な操作方法と、機能について説明しています。

■11 ジョブ情報

ジョブの状態を確認したり、ジョブを削除したりする方法について説明しています。

■12 基本設定

［設定］アプリのうち、一般ユーザーや機械管理者が確認 / 設定できる項目を説明しています。

■13 詳細設定

［設定］アプリのうち、機械管理者が確認 / 設定する項目を説明しています。

■14 暗号化と署名機能の設定

本機で暗号化と署名機能を利用するための設定方法について説明しています。

■15 認証と集計管理機能について

各機能を利用するときに利用に制限をかける認証機能と、認証機能を元にして、各機能の利用状況を管理する集計管理機能について説明しています。

■16 日常の管理

消耗品を交換する方法や、本体を清掃する方法について説明しています。

■17 困ったときは

本機に何らかのトラブルが発生した場合の対処方法について説明しています。

■18 付録

本機の主な仕様や、保守サービスなどについて説明しています。

本書の表記

- 本書に記載している画面や本機のイラストは、各種オプション製品が装着された状態のものです。使用している機種や構成によっては、表示されない項目や使用できない機能があります。
- 各種ドライバーやユーティリティソフトウェアのバージョンによって、本書に記載している内容が、お客様がお使いのものと異なる場合があります。
- 本文中の「コンピューター」は、パーソナルコンピューターやワークステーションの総称です。
- 本文中では、説明する内容によって、次のマークを使用しています。

注記
- 注意すべき事項を記述しています。必ずお読みください。

補足
- 補足事項を記述しています。

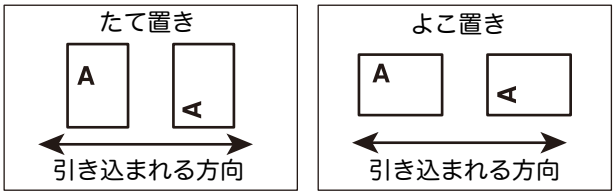
参照
- 参照先を記述しています。

- 本文中では、次の記号を使用しています。

「　」	• 本書内にある参照先を表しています。 • メディア、機能、タッチパネルディスプレイのメッセージなどの名称や入力文字などを表しています。
『　』	• 参照するマニュアルを表しています。
[　]	• 本機のタッチパネルディスプレイに表示されるボタンやメニューなどの名称を表しています。 • コンピューターの画面に表示されるメニュー、ウィンドウ、ダイアログボックスなどの名称と、それらに表示されるボタンやメニューなどの名称を表しています。
〈　〉 キー	• コンピューターのキーボード上のキーを表しています。
>	• 操作パネルまたはコンピューターで順に項目を選択する手順を、省略して表しています。

- 本文中では、原稿または用紙の向きを、次のように表しています。

、、たて置き	• 本機の正面から見て、原稿や用紙をたて長にセットした状態を表しています。
、、よこ置き	• 本機の正面から見て、原稿や用紙をよこ長にセットした状態を表しています。



- 機能によっては、カストマーエンジニアの設定が必要になります。詳しくは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にお問い合わせください。
- 機能によっては、オプション製品が必要になります。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。
- 認証状態や装着しているオプションによって、操作パネルに表示される項目は異なります。
- 「XPS」とは、「XML Paper Specification」の略です。
- 「WSD」とは、「Web Services on Devices」の略です。
- 本書では、内蔵増設ハードディスク （HDD）や Solid State Drive（SSD）を総称して「ストレージ」と表記します。

本機のセキュリティ設定

本機の設定が次のどれかを満たす状態で機械管理者モードに入ると、セキュリティ警告画面が表示されます。本機をより安全にご利用いただくために、本機を設置したあと、すぐに設定を変更することをお勧めします。

- 機械管理者のユーザー ID とパスワードが初期値
- SNMP プロトコルの設定でコミュニティ名や認証用パスワードが初期値
- グローバル IP アドレスが設定され、かつ［認証方式の設定］が［認証しない］に設定されている

機械管理者のユーザー ID とパスワードおよび、SNMP プロトコルのコミュニティ名や認証用パスワードの設定を初期値から変更することをお勧めします。これらの初期値を変更することで、悪意のある第三者による攻撃（ 設定変更や情報搾取など）を防ぐことができます。

補足

- 機械管理者のユーザー ID とパスワード、SNMP プロトコルのコミュニティ名や認証用パスワードを初期値から変更すると、複合機と連携するソフトウェアやユーティリティーの動作に影響が出る場合があります。影響を確認のうえ、実施してください。

また、本機にグローバル IP アドレスを設定する場合、受付 IP アドレスを制限することにより、本機を外部ネットワークからの不正アクセス（ジョブ履歴の閲覧、親展ボックスへのアクセス）から防ぐことができます。

さらに、［認証方式の設定］を［本体認証］または［外部認証］に設定することをお勧めします。［本体認証］の場合、本機に登録したユーザー情報を使用して認証管理を行います。認証が成功したユーザーだけが本機を使用できます。ただし、使用時には操作パネルからユーザー ID を入力するか、IC カードの利用が必要となります。［外部認証］の場合、外部認証サーバーに登録されたユーザー情報を使用して認証管理を行います。

参照

- 機械管理者のユーザーID とパスワードの変更については、「［機械管理者情報の設定］」(P.359) を参照してください。
- SNMP 認証データの変更と受付 IP アドレス制限の設定については、CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。
- 認証方式の設定については、「［認証の設定］」(P.359) を参照してください。

環境について

- 回収したトナーカートリッジおよびドラムカートリッジは、環境保護・資源有効活用のため、部品の再使用、材料としてのリサイクル、熱回収などの再資源化を行っています。
- 不要となったトナーカートリッジおよびドラムカートリッジは適切な処理が必要です。トナーカートリッジおよびドラムカートリッジは、無理に開けたりせず、必ず弊社または販売店にお渡しください。
- 粉塵、オゾン、ベンゼン、スチレン、総揮発性有機化合物（TVOC）の放散については、エコマーク複写機・プリンタなどの画像機器の物質エミッションの放散に関する認定基準を満たしています。試験方法はドイツ環境ラベルの Blue Angel に基づき試験を実施しました。

サポートについて

弊社は本製品の補修用性能部品（機械の機能を維持するために必要な部品）を機械本体の製造終了後 7 年間保有しています。

法律上の注意事項

1 本物と偽って使用する目的で次の通貨や有価証券を複製することは、犯罪として厳しく処罰されます。

- 紙幣（外国紙幣を含む）、国債証書、地方債証書、郵便為替証書、郵便切手、印紙。これらは、本物と偽って使用する意図がなくても、本物と紛らわしいものを作ること自体が犯罪になります。
- 株券、社債、手形、小切手、貨物引換証、倉荷証券、クーポン券、商品券、鉄道乗車券、定期券、回数券、サービス券、宝くじ・勝馬投票券・車券の当たり券などの有価証券。

2 次の文書や記名捺印などを複製・加工して、正当な権限なく新たな証明力を加えることは、犯罪として厳しく処罰されます。

- 各種の証明書類など、公務員または役所を作成名義人とする文書・図面。
- 契約書、遺産分割協議書など私人を名義人とする権利義務に関する文書。
- 推薦状、履歴書、あいさつ状など、私人を名義人とする事実証明に関する文書。
- 役所または公務員の印影、署名、記名。
- 私人の印影または署名。

3 著作権が存在する書籍、新聞、雑誌、冊子、絵画、図画、版画、地図、図面、写真などの著作物は、法律に定める例外にあたる場合 ※ を除き、権利者の許諾なく、次の行為はできません。

（1）複製

紙に定着させた著作物を複写機でコピーすること、電子的に読み取った著作物のデータをハードディスクや外部メディアに記録すること、記録した著作物のデータをプリンターで出力すること、ネットワークを介してダウンロードすることなど。

（2）改変

紙に定着させた著作物を加工や修正すること、電子的に読み取った著作物のデータを切除、書き換え、切り貼りすることなど。

（3）送信

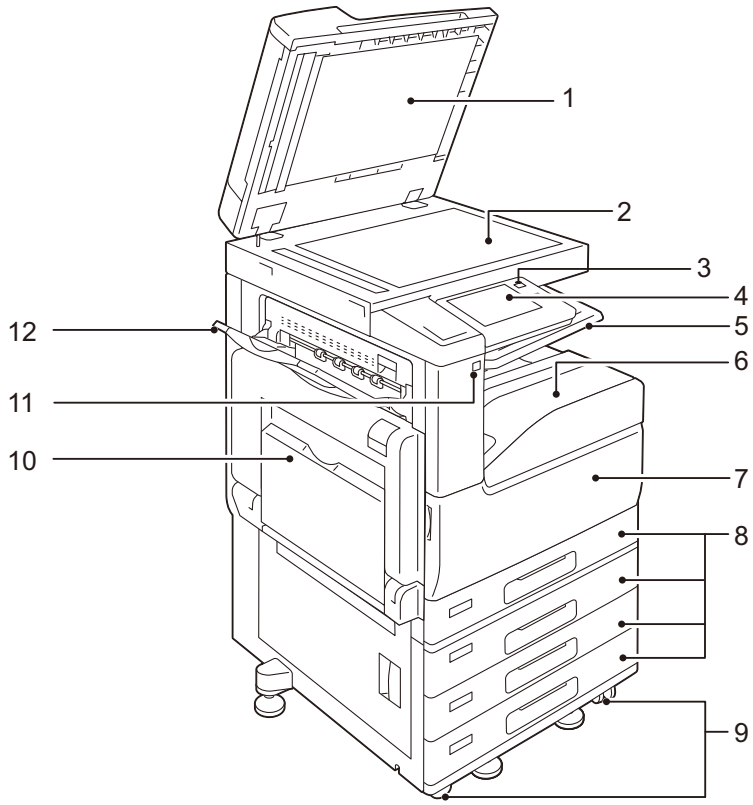
電子的に読み取った著作物のデータを、インターネットその他の公衆の電気通信回線を通じて電子メールやファクシミリで送信すること、ホームページへの掲載など、公衆の電気通信回線に接続したネットワークサーバーに著作物のデータを格納することなど。

※ 法律に定める例外にあたる場合の例

個人的または家庭内、その他これに準ずる生活範囲での私的な使用を目的として複製する場合。国立図書館、私立図書館、学校付属施設、公立の博物館、公立の各種資料センター、公益目的の研究機関など、公衆利用への提供を目的とする図書館等が複製する場合。学校その他教育機関において教員または授業の受講者が授業で使用するために複製する場合。ただし、種類・用途・部数・態様に照らして、権利者の利益を不当に害しない範囲内に限ります。

各部の名称と働き

■本体



1 原稿カバー
原稿を押さえます。

2 原稿ガラス
原稿をセットします。

3 電源 / 節電ボタン
本機の電源を入 / 切します。このボタンを使って、本機を節電状態から解除したり、節電状態にしたりすることもできます。

4 操作パネル
操作に必要なボタン、ランプ、タッチパネルディスプレイがあります。

参照
- 詳しくは、「操作パネル」(P.33) を参照してください。

5 インナー排出トレイ（オプション）
センタートレイを 2 段に分けて排出できるようになります。

6 センタートレイ（排出トレイ）
コピーやプリントされたものが排出されます。

7 正面カバー
消耗品を交換するときに開けます。

8 用紙トレイ 1、2、3、4
用紙をセットします。

補足
- 用紙トレイ 2、3、4 は、お使いの機種によっては利用できません。

9 キャスター
移動時に使用します。設置後は、ロックしてください。

補足
- お使いの機種によっては利用できません。

10 用紙トレイ 5（手差し）
用紙トレイ 1、2、3、4 にセットしていない用紙、またはできない用紙（はがきなど）をコピー、またはプリントするときに使用します。

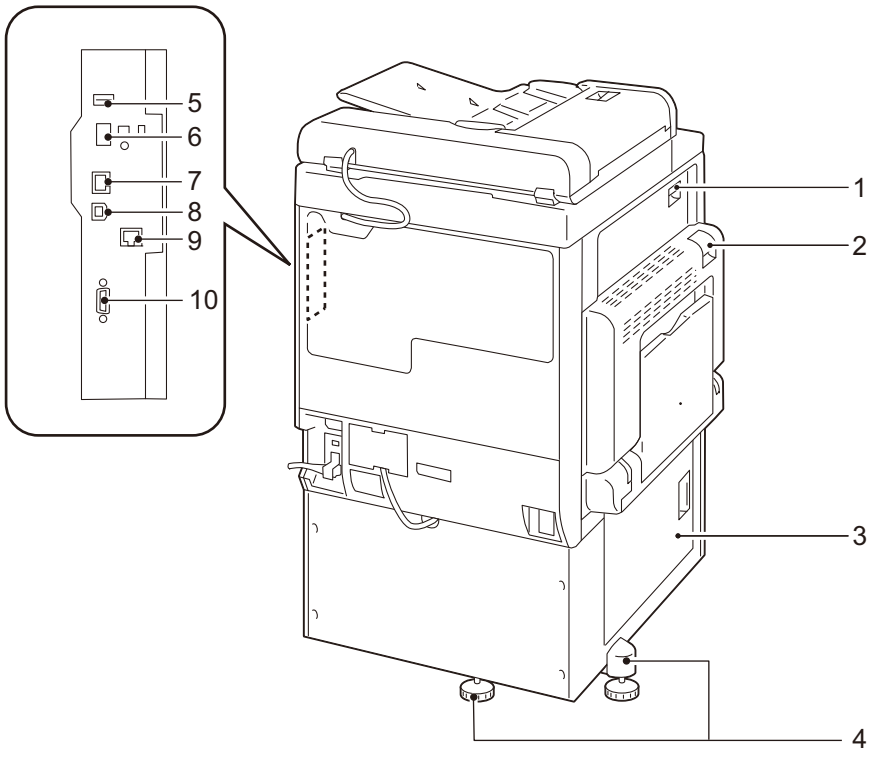
11 USB メモリー差込口

注記
- メモリーカードリーダーや USB メモリーのケーブルは接続できません。

補足
- お使いの機種によっては利用できません。

12 サイドトレイ（オプション）
コピーやプリントされたものが排出されます。

■左側面部、および背面



1 左側面上部カバー（C）
紙づまりを処理するときに開けます。

2 左側面上部カバー（A）
紙づまりを処理するときに、リリースレバーを上げながら開けます。

3 左側面下部カバー（B）
紙づまりを処置するときに開けます。

4 アジャスターフット
本機の転倒を防止します。本機の設置後に床に接するまで時計回りに回転させます。

5 USB2.0 インターフェイスコネクター
関連商品のケーブルを接続します。

6 Wi-Fi アダプター接続口
Wi-Fi アダプターを接続します。

7 10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T コネクター
ネットワークケーブルを接続します。

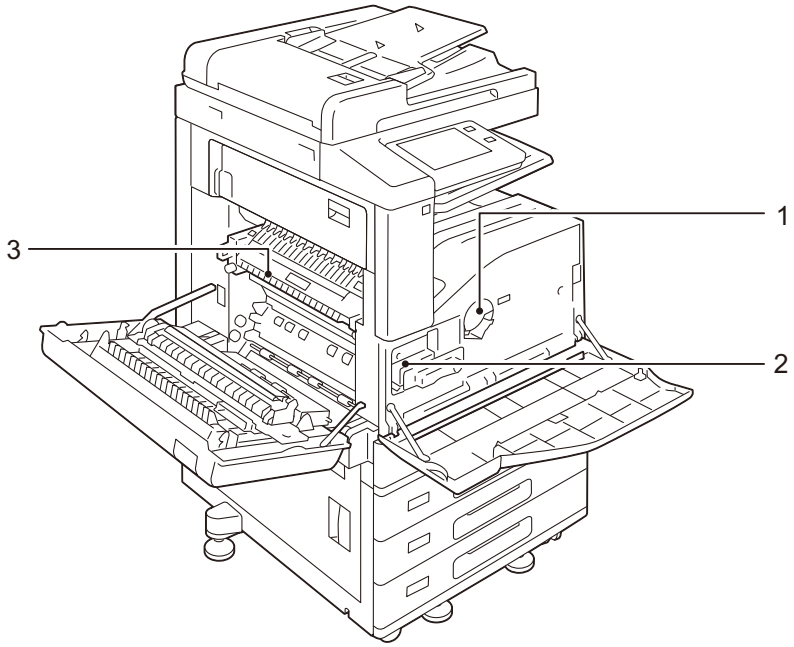
8 USB3.0 インターフェイスコネクター
プリンター用の USB ケーブルを接続します。

補足
- お使いの機種によっては利用できません。

9 セカンダリーイーサネットコネクター（オプション）
ネットワークケーブルを接続します。

10 EP インターフェイス
課金装置や認証機器等の複合機関連商品を接続します。

■内部

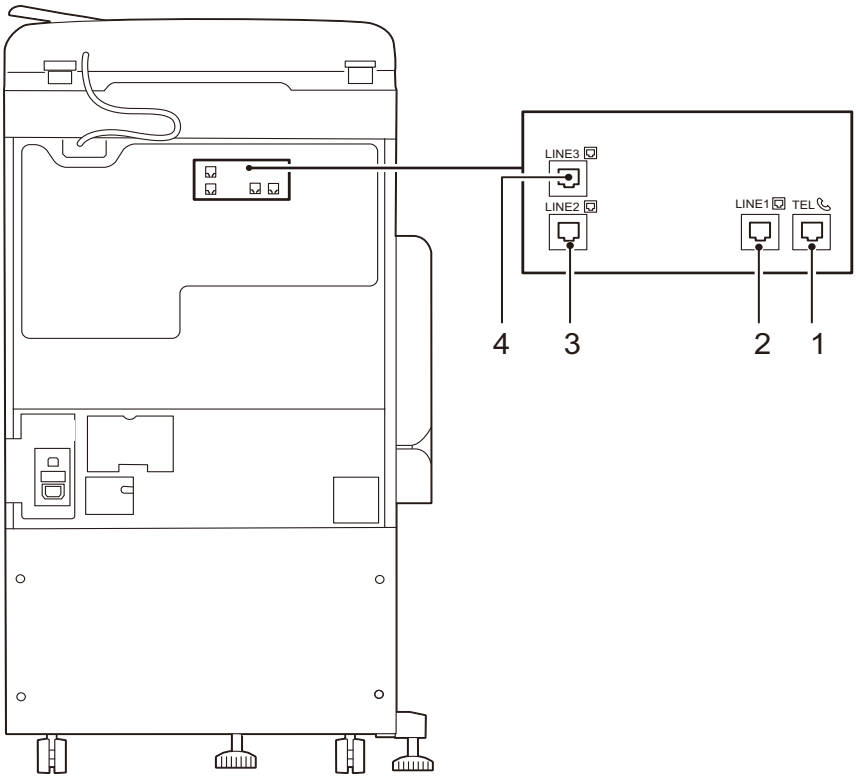


1 トナーカートリッジ
トナー（画像形成剤）が入っています。

2 ドラムカートリッジ
感光体と現像器がセットされています。

3 定着ユニット（R8）
トナーを用紙に定着させます。高温なので触れないように注意してください。

■電話回線接続部



1 TEL
ハンドセット（オプション）を使用する場合は、ここに接続します。お手持ちの電話を接続することもできます。電話機以外の機器（FAX など）は接続しないでください。

2 LINE 1（回線 1）
一般回線（内線も可）を接続します。

3 LINE 2（回線 2）
一般回線（内線も可）を接続します。ISDN 接続機能はありません。

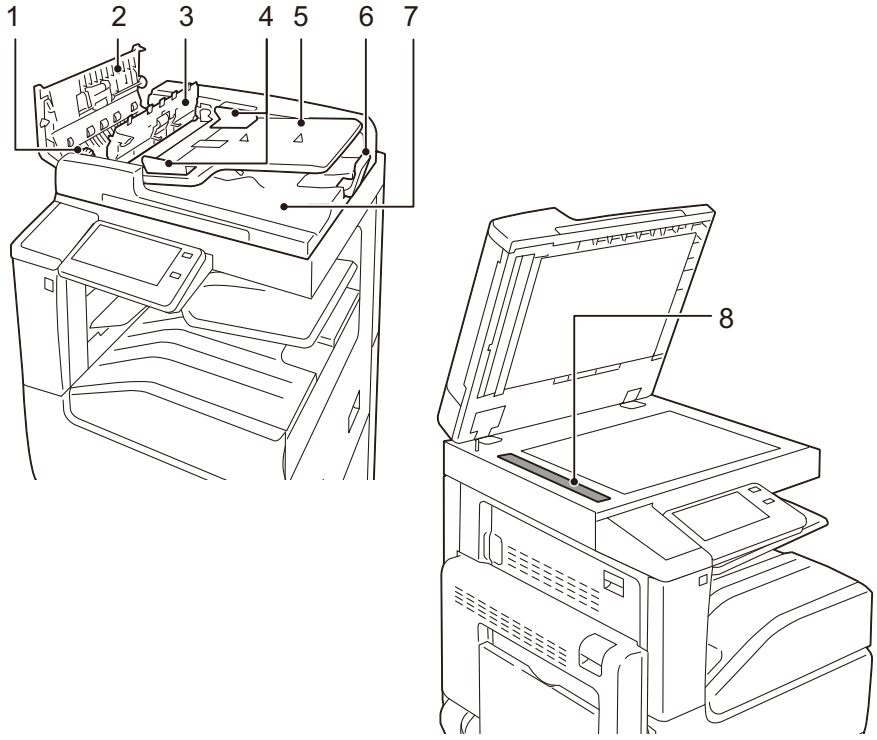
4 LINE 3（回線 3）
一般回線（内線も可）を接続します。ISDN 接続機能はありません。

補足

- （ ）内の回線 1、回線 2、回線 3 は、タッチパネルディスプレイに表示される名称です。
- TEL 端子へ接続した受話器から通話できるのは、LINE 1 に接続した回線だけです（LINE 2、LINE 3 に対して、受話器からの通話はできません）。

■自動両面原稿送り装置

補足
- お使いの機種によっては利用できません。



1 ノブ
原稿づまりを処置するときに回します。

2 左側カバー
原稿づまりを処置するときに開けます。

3 上面カバー
原稿づまりを処置するときに開けます。

4 原稿ガイド
原稿の端をそろえます。

5 原稿送りトレイ
原稿をセットします。

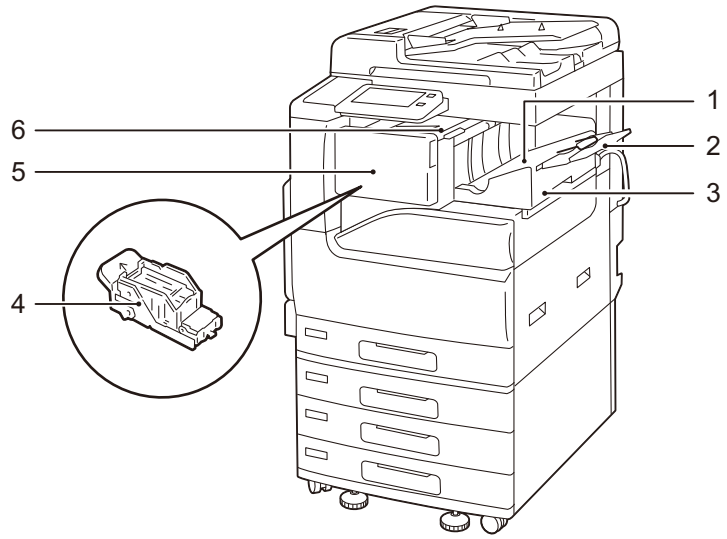
6 原稿受けストッパー
排出された原稿の飛び出しを防ぎます。

7 原稿受け
原稿が排出されます。

8 原稿読み取りガラス
原稿を読み取ります。

補足
- 本文中では、「自動両面原稿送り装置」を、「原稿送り装置」と表します。

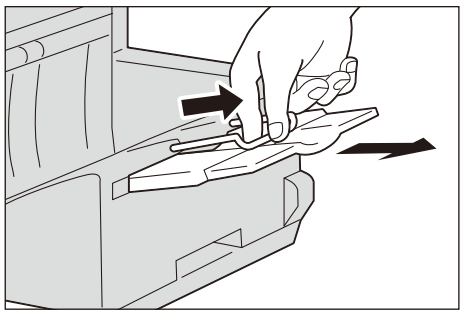
■フィニッシャー A2（オプション）

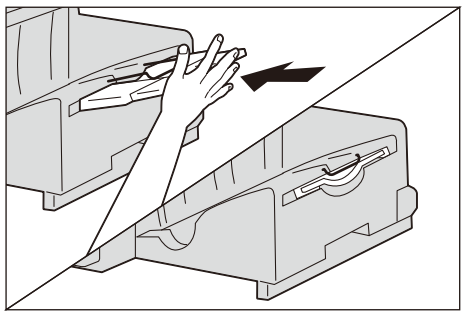


1 センタートレイ
コピーやプリントされた用紙が排出されます。

2 延長トレイ
排出された用紙の飛び出しを防ぎます。

注記
- よこ置きの用紙を排出する場合は、延長トレイと用紙ガイドワイヤを引き出してください。延長トレイを閉じるときは、用紙ガイドワイヤも一緒に押し入れてください。





3 フィニッシャー A2（オプション）
コピーやプリントされた用紙をホチキスで留めます。

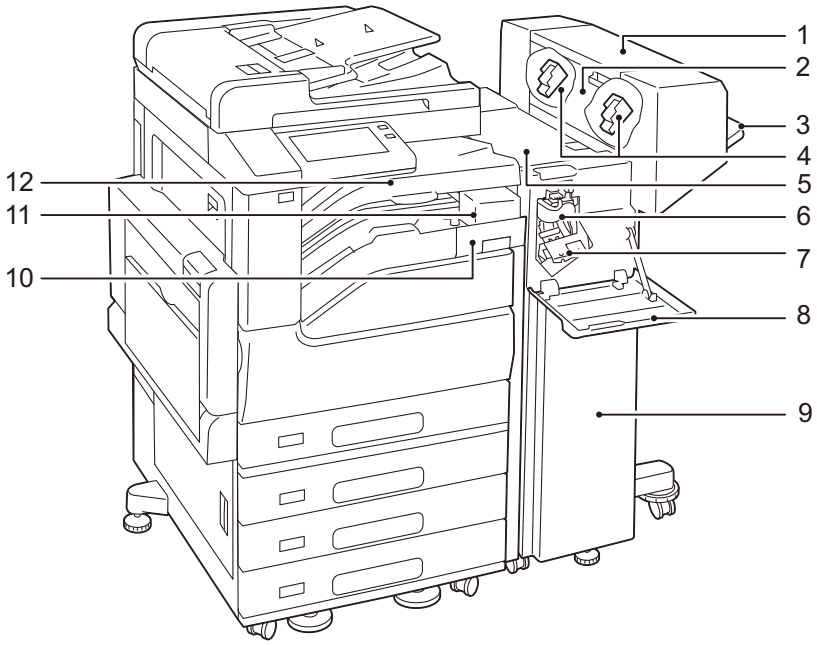
4 ホチキスカートリッジ
ホチキス針が内蔵されています。ホチキス針の交換・補給、針づまりの処置のときに取り出します。

5 正面カバー
ホチキス針の交換や針づまりの処置のときに、このカバーを開けます。

6 上面カバー
紙づまりの処置のときに、このカバーを開けます。

補足
- フィニッシャー A2、B3 共通の説明をしているときは、「フィニッシャー」と表します。

■フィニッシャー B3（オプション）



1 中とじユニット（オプション）
折り目を付けた用紙にホチキスを留めます。

2 中とじユニット側面カバー
中とじ用ホチキスカートリッジを交換するときに開けます。

3 フィニッシャートレイ
ホチキス留めされた用紙や折り目が付いた用紙などが排出されます。

4 中とじ用ホチキスカートリッジ
中とじ用ホチキス針が内蔵されています。中とじ用ホチキス針を交換するときに取り出します。

5 上面カバー
紙づまりの処置のときに、このカバーを開けます。

6 折り目ユニット
用紙に二つ折りの折り目を付けます。

7 ホチキスカートリッジ
ホチキス針が内蔵されています。

8 正面カバー
紙づまりの処置やホチキス針の交換などのときに開けます。

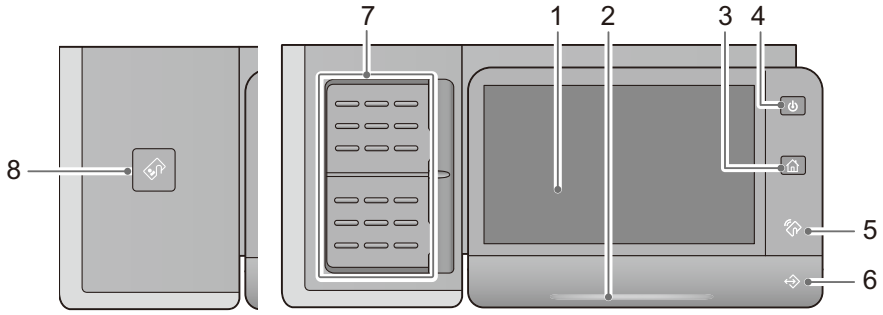
9 フィニッシャー B3（オプション）
コピーやプリントされた用紙をホチキス針で綴じます。

10 パンチダストボックス
パンチ穴の切りくずが入ります。

11 パンチユニット 2/4 穴（オプション）
パンチユニット 2/3 穴（US 規格）（オプション）
パンチ穴を開けます。

12 センタートレイ（フィニッシャー接続部上面カバー）
用紙が排出されます。フィニッシャートレイに用紙が排出できないときも、ここに排出されます。
紙づまりの処置のときは、上に開けます。

操作パネル



1 タッチパネルディスプレイ
操作に必要なメッセージや各機能のボタンが表示されます。タッチパネルディスプレイに直接触れて、画面の指示や機能の設定をします。

2 状態表示ランプ
操作を受け付けたときや、処理が完了したときに、青色で短く光ります。システムエラーや、紙づまり、用紙切れ、トナー切れなどで機械に異常が発生している間は、オレンジ色で点滅します。

3 ホームボタン
ホーム画面を表示するときに押します。

4 電源 / 節電ボタン
このボタンを押して、本機の電源を入 / 切します。このボタンを使って、本機を節電状態から解除したり、節電状態にしたりすることもできます。節電状態のときは、このボタンが点滅します。

5 NFC タッチエリア
お使いの NFC 対応モバイル機器をかざすエリアです。相互通信するには、本機の NFC 機能が有効になっている必要があります。

参照
- 詳しくは、「NFC 機能でプリントする」(P.123) を参照してください。

6 データランプ
本機からデータを送信中や、クライアントからのデータを受信中に、点滅します。また、機械内部に文書を蓄積しているときや、ファクス親展受信文書がボックス内に蓄積されているときは点灯します。

7 ワンタッチボタン（ファクス取り付け機のみ）
宛先をワンタッチで指定できます。ワンタッチボタンによる宛先指定は、ファクス、インターネットファクス、IP ファクス（SIP）、メール送信、およびスキャン送信で使用できます。

参照
- 宛先をワンタッチボタンに登録する必要があります。詳しくは、「[ワンタッチボタン設定]」(P.328) を参照してください。

8 本体内蔵型 IC カードリーダー（オプション）
IC カードをタッチすると、登録されたユーザー情報が本体に読み込まれ、機械がユーザー認証します。

補足
- 機械が低電力モードで節電中に IC カードをタッチすると、節電状態は解除されます。ただし、スリープモードに移行した場合は解除されません。詳しくは、「節電状態から復帰する」(P.68) を参照してください。

本機で使用している記号

記号	説明
	注意、危険、警告
	高温注意
	指挟み注意
	接触禁止
	指挟み注意
	インクジェット紙を使用しないこと
	封筒を使用しないこと
	窓付きの封筒を使用しないこと
	はがき使用を使用しないこと
	折り目、しわ、カール紙を使用しないこと
	ホチキス、クリップを使用した用紙を使用しないこと
	お金をコピーしないこと
	USB 端子
	LAN 端子
	トナーカートリッジを火中に投じないこと
	トナー回収ボトルを火中に投じないこと
	ドラムカートリッジを火中に投じないこと
	電源 / 節電ボタン
	紙詰まり

ライセンス

ここでは、ソフトウェアライセンスについて説明します。必ずご確認ください。

本製品は、第三者が権利を有するオープンソースソフトウェア（以降、OSS と呼びます。）が含まれています。各 OSS の適用ライセンス、著作権表示および個別のライセンス条件については、CentreWare Internet Services の［ホーム］タブ>［サポート］>［OSS ライセンス情報のダウンロード］から取得できます。

本製品は、GNU Library General Public License 2.0 など、OSS ライセンスに基づき許諾されるソフトウェアを含んでいます。

OSS ライセンスに基づき、対象となるソフトウェアのソースコードの入手を希望される方は、以下のサイトより入手が可能です。

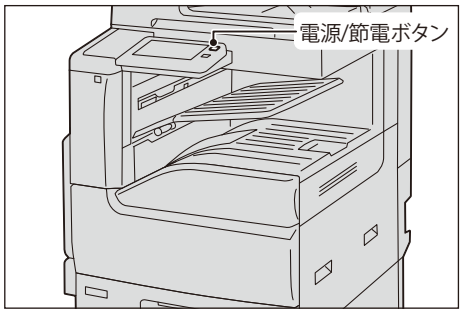
http://www.fujixerox.co.jp/etc/oss/mfp/ap7_c7773/v1_0

2

本機をセットアップする

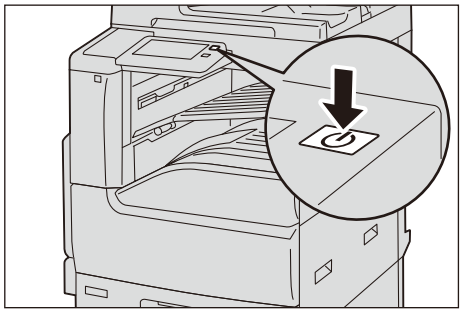
電源について

本機を動作させるときに、電源 / 節電ボタンを押して、電源を入れます。ウォームアップが終了すると、各機能の操作ができるようになります。



電源を入れる

1 電源 / 節電ボタンを押して、電源を入れます。



電源を切る

補足

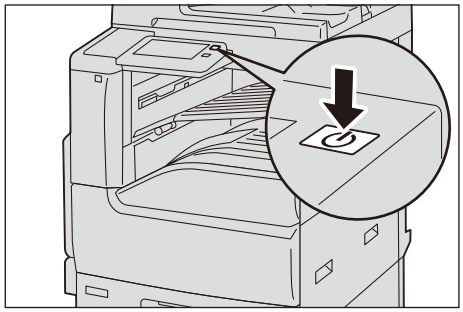
- 電源を切ったあと、画面表示が消える前に電源を入れても、すぐに起動しません。電源を入れる場合は、操作画面の表示が消えたことを確認し、少し時間をおいてから入れてください。
- 指定した時刻に電源がオフになるように設定することもできます。詳しくは、「[電源の自動制御]」(P.279) を参照してください。

1 コピー、またはプリントが完全に終了していることを確認します。また、データランプが点滅していないことを確認します。

注記

- 次の状態の場合は、電源を切らないでください。電源を切ると、処理中のデータが消去されることがあります。
  - データの受信が行われている
  - プリント処理が行われている
  - コピーが行われている
  - スキャンが行われている
- 用紙排出終了後、5 秒たってから、電源を切ってください。

2 電源 / 節電ボタンを押します。



3 タッチパネルディスプレイの［電源を切る］を選択します。

注記
- 電源を切ったあとも、しばらくの間は本機内部で電源オフ処理をしています。タッチパネルディスプレイが消灯して電源 / 節電ボタンの点滅が終わるまでお待ちください。電源プラグを抜くときは、点滅していないことを確認してから、抜いてください。

補足
- 電源を切ったあとに、再度、電源を入れる場合は、タッチパネルディスプレイ消灯後、電源 / 節電ボタンの点滅が終わったことを確認し、少し時間をおいてから入れてください。

リモート操作で電源を切る

補足
- リモート操作で電源を切るには、機械管理者 ID とパスワードが必要です。機械管理者 ID とパスワードについては、機械管理者にお問い合わせください。

1 コンピューターから CentreWare Internet Services に接続します。

参照
- CentreWare Internet Services については、「CentreWare Internet Servicesを起動する」(P.92)を参照してください。

2 ［サポート］をクリックします。

3 ［電源を切る］をクリックします。

4 ［はい（電源を切る)］をクリックします。

本機をコンピューターに接続する

有線 LAN で接続する

補足

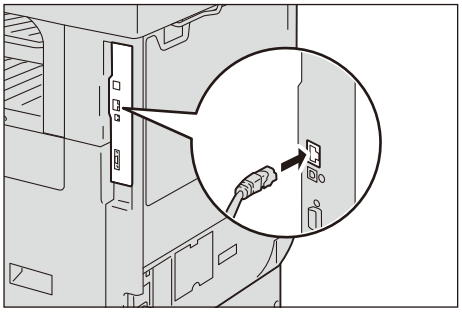
- 次の不具合が発生する場合、［設定］＞［ネットワーク設定］＞［プロトコル設定］＞［Ethernet 設定］＞［Energy Efficient Ethernet］を［無効］に設定すると改善することがあります。
  - 本機のネットワーク接続が遅い
  - 本機のネットワーク接続が不安定で、頻繁にタイムアウトする
  - 長時間のスリープモードから復帰した後に、本機がネットワークに接続できなくなる

1 電源 / 節電ボタンを押し、［電源を切る］を選択して、電源を切ります。

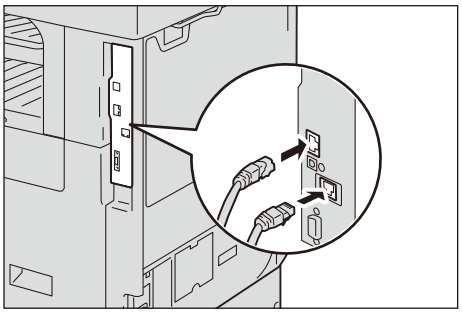
2 タッチパネルディスプレイと電源 / 節電ボタンが消灯していることを確認します。

3 Ethernet インターフェイスのコネクターに、ネットワークケーブルを接続します。

- セカンダリーイーサネットキット（オプション）を装着していない場合



- セカンダリーイーサネットキット（オプション）を装着している場合



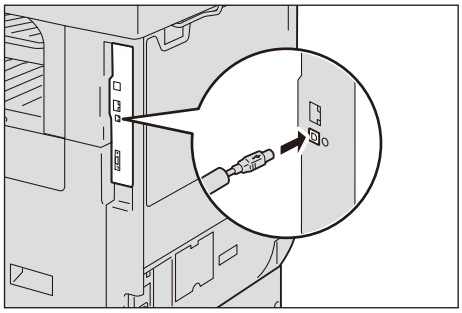
4 電源 / 節電ボタンを押して、電源を入れます。

USB で接続する

1 電源 / 節電ボタンを押し、［電源を切る］を選択して、電源を切ります。

2 タッチパネルディスプレイと電源 / 節電ボタンが消灯していることを確認します。

3 インターフェイスコネクターに、USB インターフェイスケーブルを接続します。



4 コンピューターに、USB インターフェイスケーブルのもう一方のコネクターを接続します。

5 電源 / 節電ボタンを押して、電源を入れます。

6 コンピューターを再起動します。

無線キットの接続

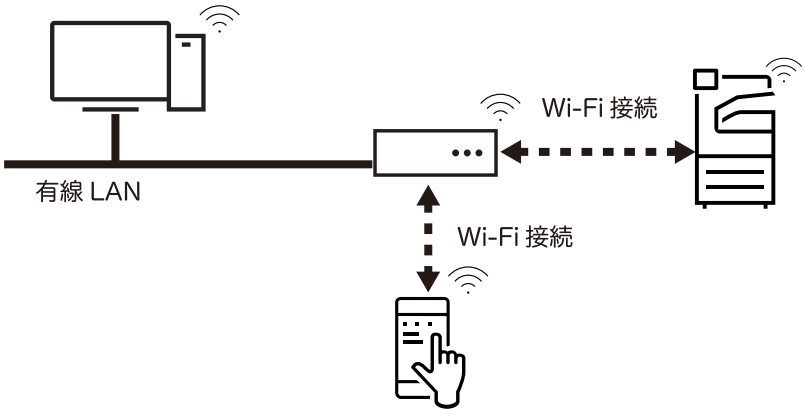
補足
- お使いの機種によっては利用できません。

本機とモバイル機器との接続方法

無線ネットワークで本機を使用するときの接続方法には、「Wi-Fi 接続」と「Wi-Fi Direct 接続」があり、どちらも本機での設定が必要です。

■Wi-Fi 接続

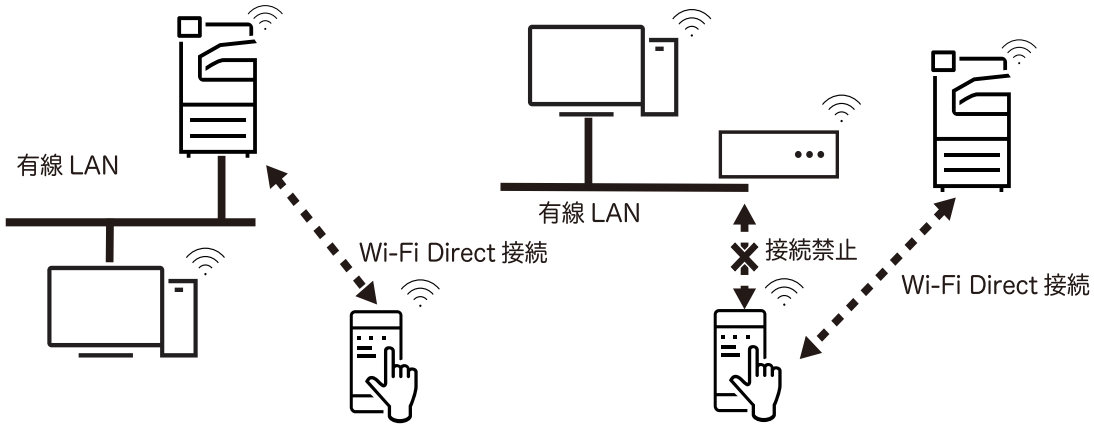
本機とモバイル機器を無線 LAN アクセスポイント経由で接続します。社内に無線ネットワークがある場合、こちらの設定を行ってください。



参照
- 詳しい設定方法については、「Wi-Fi で接続する」(P.43) を参照してください。

■Wi-Fi Direct 接続

無線 LAN アクセスポイントを経由せず、本機とモバイル機器を直接接続します。社内に有線ネットワークしかない場合や、社内に無線ネットワークはあるが、スマートフォンなどを接続させたくない場合は、こちらの設定を行ってください。



補足
- Wi-Fi Direct は、IPv6 やアドホック環境では使用できません。
- Wi-Fi Direct では、同時に 3 台まで接続できます。

参照
- 詳しい設定方法については、「Wi-Fi Direct で接続する」(P.50) を参照してください。

Wi-Fi で接続する

本機に Wi-Fi 接続の設定をする

補足
- 設定内容によっては、本機の再起動が必要です。再起動を指示する画面が表示された場合は、再起動してください。

1 機械管理者モードにログインし、ホーム画面で［設定］をタップします。

参照
- 詳しくは、「認証モードへのログイン」(P.82) を参照してください。

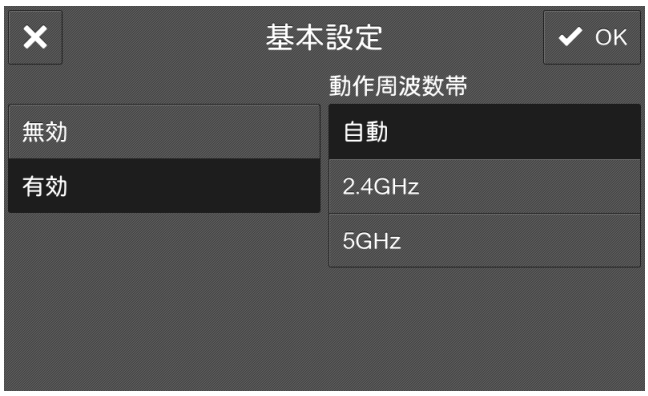
2 ［ネットワーク設定］をタップします。

3 ［無線 LAN 設定］をタップします。

補足
- ［無線 LAN 設定］が表示されない場合は、本機に正しくキットが取り付けられていません。弊社カストマーエンジニアにお問い合わせください。

4 ［基本設定］をタップします。

5 ［有効］を選択し、［OK］をタップします。



6 RADIUS サーバ認証(IEEE802.1X 認証)を使用する無線 LAN アクセスポイントに接続する場合は、CentreWare Internet Services で証明書を設定する必要があります。「CentreWare Internet Services を使って高度なセキュリティ環境に接続する」(P.48) に進みます。
証明書が不要な接続先に接続する場合は、手順 7 に進みます。

7 ［Wi-Fi 接続設定］をタップします。

8 次のどれかの方法で、無線ネットワークに接続します。

補足

- Wi-Fi についての本機の設定値は、機能設定リストをプリントすることで確認できます。

方法	設定内容	手順の参照先
一覧から選択して接続する *1	表示されている無線 LAN アクセスポイントの一覧から SSID（無線ネットワークを識別する名前）を選択して接続します。	(P.46)
手動設定で接続する *1	接続する無線 LAN アクセスポイントが一覧に表示されていない場合は、SSID を指定して無線ネットワークに接続します。	(P.46)
WPS（プッシュボタン）で接続する *2	本機の操作パネルで接続指示をしたあと、2 分以内に、お使いの無線 LAN アクセスポイントに付いている WPS ボタンを押して接続します。	(P.47)
WPS（PIN コード）で接続する *2	本機に割り当てられる PIN コードを、2 分以内に無線 LAN アクセスポイントに入力して設定します。	(P.48)

*1 :無線 LAN アクセスポイントの SSID と、認証情報（WEP キー、パスフレーズなど）が必要になります。無線 LAN アクセスポイントの情報については、機械管理者またはネットワーク管理者に確認してください。

*2 :無線 LAN アクセスポイントが WPS 方式に対応している必要があります。無線 LAN アクセスポイント側の WPS 操作については、無線 LAN アクセスポイントの取扱説明書を参照してください。

■一覧から選択して接続する

1 [Wi-Fi 接続設定]画面に表示されている一覧から、接続する無線 LAN アクセスポイントの SSID をタップします。

補足
- アクセスポイントにセキュリティが設定されていない場合は、これで設定は完了です。
- 一覧に表示される無線 LAN アクセスポイントは、電波が強いものから順に 5 台までです。

2 アクセスポイントにセキュリティが設定されている場合は、認証情報画面が表示されます。必要な情報を入力して、[OK] をタップします。

補足
- アクセスポイントを選択したとき、すでに他のアクセスポイントと接続中だった場合は、接続解除の確認画面が表示されます。[はい（解除する）] をタップします。

3 設定が更新されたことを確認できたら［確認］をタップします。
本機が再起動し、設定が有効になります。

■手動設定で接続する

1 [Wi-Fi 接続設定] 画面で［手動設定］をタップします。

2 使用環境にあわせて各項目を設定し、[OK] をタップします。

設定項目	設定内容
SSID	無線ネットワークを識別する名前を設定します。32 文字以内の英数字を入力できます。

設定項目		設定内容
通信モード		[Infrastructure] または [Ad-hoc] *1 のどちらかに設定します。
暗号化設定	暗号化なし	暗号化を設定しません。
	WEP	WEP キーは、4 つまで登録できます。[送信キー] で、その中から使用する WEP キーを選択します。
	WPA2 Personal*2	パスフレーズを設定します。
	Mixed mode Personal(AES/TKIP)*2	
	WPA2 Enterprise*2	認証方式を設定します。 PEAP を選択した場合は、さらに [Identity]、[ユーザー名]、[パスワード] を設定します。 EAP-TLS や EAP-TTLS を使用する場合は、CentreWare Internet Services で証明書を設定したり、認証方式の詳細設定をする必要があります。 **参照** • CentreWare Internet Services での設定方法については、「CentreWare Internet Services を使って高度なセキュリティ環境に接続する」(P.48) を参照してください。
	Mixed mode Enterprise(AES/TKIP)*2	

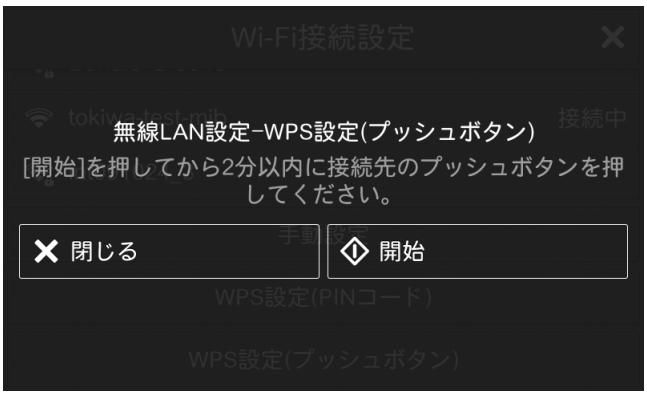
*1 :Wi-Fi Direct 接続が有効の場合は、使用できません。
*2 :[通信モード] を [Ad-hoc] に設定した場合は、使用できません。

3 設定が更新されたことを確認できたら [確認] をタップします。
本機が再起動し、設定が有効になります。

■WPS（プッシュボタン）で接続する

1 [Wi-Fi 接続設定] 画面で [WPS 設定（PIN コード)] をタップします。

2 [開始]をタップしてから 2 分以内に、無線 LAN アクセスポイントに付いている WPS ボタンを押します。



3 本機の画面で、設定が更新されたことを確認できたら [確認] をタップします。
本機が再起動し、設定が有効になります。

■WPS（PIN コード）で接続する

1 ［Wi-Fi 接続設定］画面で［WPS 設定（PIN コード)］をタップします。

2 [開始]をタップしてから２分以内に、表示されたPINコードを無線LANアクセスポイントに入力します。

3 本機の画面で、設定が更新されたことを確認できたら［確認］をタップします。
本機が再起動し、設定が有効になります。

CentreWare Internet Services を使って高度なセキュリティ環境に接続する

本機の Wi-Fi 接続では、IEEE802.1X 認証を使用できます。IEEE802.1X 認証方式を使用する場合は、認証局に証明書の発行を依頼し、発行された証明書を CentreWare Internet Services で本機にインポートします。

各 IEEE802.1X 認証方式と必要な証明書は、以下のとおりです。

項目	EAP-TLS	EAP-TTLS	PEAP
CA 証明書	必須	必須	任意*
クライアント証明書	必須	-	-

* :サーバー証明書検証を行う場合に必要です。サーバー証明書検証は CA 証明書が登録されている場合に行われます。

インポートできる証明書の規格は、以下のとおりです。

- X.509 証明書（DER/PEM）（ルート CA 証明書）
- PKCS#7（DER）（ルート CA 証明書）
- PKCS#12 (DER)（デバイス証明書 (＝クライアント証明書）／ルート CA 証明書）

補足

- CentreWare Internet Services で証明書をインポートするには、HTTP の通信を暗号化する設定がされている必要があります。CentreWare Internet Services の操作、および HTTP 通信を暗号化する方法については、「HTTP の通信を暗号化するための設定」(P.376) を参照してください。
- 証明書の種類については、「暗号化と署名機能の概要」(P.372) を参照してください。

1 Web ブラウザーのアドレス入力欄に「https://（本機の IP アドレス)」を入力して <Enter> キーを押し、CentreWare Internet Services を起動します。

2 証明書をインポートします。

1) ［ログイン］をクリックします。

2) 表示された画面で機械管理者 ID とパスワードを入力して[OK]をクリックします。
確認画面が表示された場合は、2 回続けて［確認］をクリックします。

3) ［システム］＞［セキュリティー設定］＞［証明書設定］をクリックします。

4) ［インポート］をクリックします。

5) ［選択］をクリックし、インポートするファイル名を指定します。

6) ［パスワード］にインポートする証明書に設定されたパスワードを入力します。

7) ［パスワードの再入力］に同じパスワードを入力します。

8) ［実行］をクリックします。

9) Web ブラウザーの再読み込みを行います。

3 Wi-Fi 接続の設定をします。

1) ［ネットワーク］をクリックします。

2) ［インターフェイス設定］＞［Wi-Fi］をクリックします。
［Wi-Fi］画面が表示されます。

3) ［SSID］に接続先の SSID を入力します。

4) ［通信モード］を選択します。

4 セキュリティの設定をします。お使いの環境の認証方式によって、設定方法が異なります。

1) ［システム］＞［セキュリティー設定］をクリックします。

2) ［暗号化設定］で、［WPA2 Enterprise］または［Mixed Mode Enterprise(AES/TKIP)］を選択します。

3) ［認証方式］を選択します。

4) ［Identity］に EAP-Identity の値を入力します。
認証方式が EAP-TLS の場合は、手順 9) に進みます。

補足
- EAP-Identity については、RADIUS サーバー管理者に確認してください。

5) 認証方式が PEAPv0 MS-CHAPv2、EAP-TTLS/PAP、EAP-TTLS/CHAP、EAP-TTLS/MS-CHAPv2 の場合は、［ユーザー名］および［パスワード］に WPA-Enterprise 認証用のログインユーザー名およびパスワードを設定します。

6) ［パスワードの再入力］に同じパスワードを入力します。

7) ［ルート証明書］で、インポートした CA 証明書を選択します。

8) 認証方式が EAP-TLS の場合は、［クライアント証明書］で、インポートしたクライアント証明書を選択します。

9) ［保存］をクリックします。

10)［再起動］をクリックします。
本機が再起動し、設定した値が反映されます。

Wi-Fi Direct で接続する

本機に Wi-Fi Direct 接続の設定をする

補足

- 設定内容によっては、本機の再起動が必要です。再起動を指示する画面が表示された場合は、再起動してください。
- CentreWare Internet Services を使って設定することもできます。詳しくは、CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。

1 機械管理者モードにログインし、ホーム画面で［設定］をタップします。

参照

- 詳しくは、「認証モードへのログイン」(P.82) を参照してください。

2 ［ネットワーク設定］をタップします。

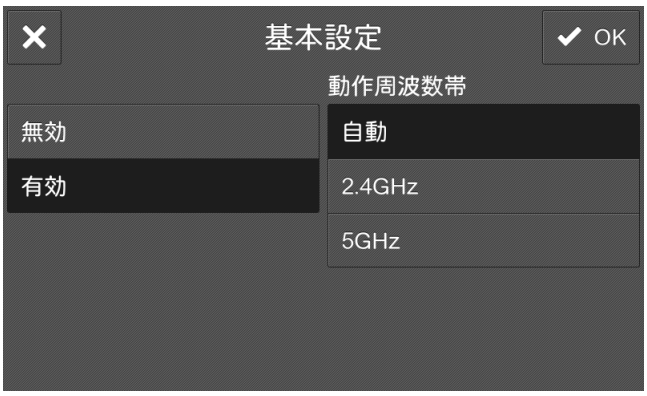
3 ［無線 LAN 設定］をタップします。

補足

- ［無線 LAN 設定］が表示されない場合は、本機に正しくキットが取り付けられていません。弊社カストマーエンジニアにお問い合わせください。

4 ［基本設定］をタップします。

5 ［有効］を選択し、［OK］をタップします。



6 ［Wi-Fi Direct 設定］をタップします。

7 ［有効］を選択し、［OK］をタップします。

■グループ設定について

［グループ設定］では、次の項目が設定できます。初期設定はグループオーナーです。必要に応じて、変更してください。

設定項目		設定内容
自動		本機をグループオーナーに固定しない場合に選択します。
	デバイス名	Wi-Fi Direct ネットワークで識別する本機の名前を、32 文字以内の英数字で入力します。モバイル機器から接続先を選択するときは、ここで指定した名前が表示されます。
グループオーナー		本機を Wi-Fi ネットワークのグループオーナーに設定します。グループオーナーに設定すると、無線 LAN アクセスポイントと同様に、モバイル機器から本機を検出できるようになります。
	SSID サフィックス	Wi-Fi Direct で識別するネットワークの名前を表示します。「DIRECT-」に続く部分を 23 文字以内の英数字で入力できます。モバイル機器から接続先のネットワークを選択するときは、ここで指定した名前が表示されます。
	パスフレーズ	パスフレーズとして 8 ～ 63 文字の英数字を入力できます。モバイル機器から Wi-Fi Direct ネットワークに接続するときは、ここに表示されるパスフレーズを入力します。

注記
- iOS 端末など、Wi-Fi Direct に対応していない機器を接続する場合は、［グループオーナー］に設定されている必要があります。

8 ホームボタンを押します。

9 ［はい（再起動する）］をタップします。
本機が再起動し、設定が更新されます。

補足
- Wi-Fi Direct についての本機の設定値は、機能設定リストをプリントすることで確認できます。

モバイル機器と接続する

モバイル機器から本機に Wi-Fi Direct で接続する方法には、「自動接続」と「手動接続」があり、お使いのモバイル機器によって異なります。

補足
- 操作方法は、モバイル機器によって異なります。詳しくはお使いのモバイル機器の取扱説明書を参照してください。

■自動接続する（Android OS）

1 モバイル機器の Wi-Fi 設定画面を開き、Wi-Fi を［ON］にします。

2 ［ ］（メニュー）をタップし、［Wi-Fi Direct］を選択します。

3 一覧から接続する本機を選択します。

補足
- 本機に設定されているデバイス名が表示されます。本機のデバイス名は、機能設定リストをプリントすることで確認できます。

4 本機の操作パネルに表示される画面で、接続するモバイル機器名を確認し、［はい（開始する）］をタップします。

■手動接続する（Android OS/iOS）

補足
- 手動接続する場合は、本機で機械管理者モードに入り、［設定］＞［ネットワーク設定］＞［無線 LAN 設定］＞［Wi-Fi Direct 設定］の［グループ設定］が［グループオーナー］に設定されている必要があります。

1 ホーム画面で［設定］＞［機械確認 / レポート］をタップします。

2 ［無線 LAN の接続状態］をタップします。

3 ［Wi-Fi Direct 接続状況］の［SSID］と［パスフレーズ］を確認します。

4 モバイル機器の Wi-Fi 設定画面を開き、Wi-Fi を［ON］にします。

5 一覧から、手順 3 で確認した本機の SSID を選択します。

6 手順 3 で確認した本機のパスフレーズを入力し、接続します。

Wi-Fi Direct の接続を切断する

グループオーナー動作時の Wi-Fi Direct が接続台数の上限（3 台）に達してしまい、ほかの端末が接続できない場合は、次のように接続を切断できます。

本機のメニューからモバイル機器との接続を解除する方法

1 ［設定］>［機械確認 / レポート］>［無線 LAN］の［Wi-Fi Direct 切断］を選択します。現在接続されている全てのモバイル機器の接続が切断されます。

補足
- 切断したモバイル機器からの自動接続を防ぐため、本操作により切断したモバイル機器とは 30 秒間 Wi-Fi Direct 接続できません。

2 ［設定］>［ネットワーク設定］>［無線 LAN 設定］の［Wi-Fi Direct 設定］メニューで、［SSID サフィックス］または［パスフレーズ］を変更します。

新しい SSID、パスフレーズで Wi-Fi Direct のグループが再構築されるため、モバイル機器との接続が解除されます。

補足
- 接続解除されたモバイル機器と本機を再接続する場合は、改めてモバイル機器のWi-Fi設定画面で新しい SSID の選択とパスフレーズの入力が必要となります。

接続中のモバイル機器の Wi-Fi 設定画面から本機との接続を解除する方法

1 モバイル機器の Wi-Fi 設定画面を開き、Wi-Fi の接続を解除します。

- モバイル機器の自動接続が有効の場合：
  Wi-Fi の接続を解除しても、モバイル機器は自動で本機の Wi-Fi Direct と再接続します。そのため、新たなモバイル機器の接続の前に自動接続してしまい、再び接続上限になってしまう可能性があります。その場合は、モバイル機器の自動接続を無効に設定するか、手順 2 の設定削除を実行してください。
- モバイル機器の自動接続が無効の場合：
  Wi-Fi 接続を解除すると、モバイル機器の Wi-Fi 設定画面から再接続を実行するまで接続が解除されます。

補足
- モバイル機器によっては、自動接続の切り替えができない場合があります。

2 モバイル機器の Wi-Fi 設定画面を開き、接続中の本機の SSID を選択し、モバイル端末に保存された Wi-Fi 接続設定情報を削除します。

補足
- 接続解除されたモバイル機器と本機を再接続する場合は、改めてモバイル機器のWi-Fi設定画面で新しい SSID の選択とパスフレーズの入力が必要となります。

ファクス機能の設定

ファクス機能を使うには本機を電話回線に接続し、本機の操作パネルからファクスの初期設定をします。

インターネットファクス / インターネットファクスダイレクトの設定

利用するためには、次の設定が必要です。

設定項目	インターネットファクス	インターネットファクスダイレクト
TCP/IP アドレス	○	○
送信経路	○	○
メールポート	○	○
サブネットマスク	△	△
ゲートウェイ	△	△
DNS サーバー	△	△
本体メールアドレス	○	○
メール受信プロトコル	○	○
POP3 サーバー	△	×
POP3 ログイン名 / パスワード	△	×
SMTP サーバー	○	○
SMTP AUTH ログイン名 / パスワード	△	△

○ : 設定が必要
× : 設定不要
△ : 必要に応じて設定

参照
- TCP/IP アドレスの設定については、「[プロトコル設定]」(P.334) を参照してください。

1 機械管理者モードにログインします。

参照
- 詳しくは、「認証モードへのログイン」(P.82) を参照してください。

2 ホーム画面で、[設定] をタップします。

3 送信経路を設定します。

1) [アプリ設定] > [インターネットファクス設定] > [インターネットファクス動作制御] をタップします。

2) インターネットファクスの場合は、[メールサーバー経由] をタップします。インターネットファクスダイレクトの場合は、[ダイレクト (P2P)] をタップします。

3) [<] をタップして、[設定] 画面まで戻ります。

4 メールポートを起動します。

1) [ネットワーク設定] > [ポート設定] > [メール受信] > [メール受信 - ポート] をタップします。

2) [起動] をタップします。

3) [<] をタップして、[ネットワーク設定] 画面まで戻ります。

5 本機のメールアドレスを設定します。

1) [本体メールアドレス / ホスト名] をタップします。

2) 項目を設定します。

参照
- 詳しくは、「[本体メールアドレス / ホスト名]」(P.337) を参照してください。

3) [<] をタップして、[ネットワーク設定] 画面まで戻ります。

6 受信プロトコルを設定します。

1) [その他の設定] > [メール受信プロトコル] をタップします。

2) [SMTP] または [POP3] をタップします。

3) [<] をタップして、[ネットワーク設定] 画面まで戻ります。

7 受信の設定をします。

1) [メール送受信設定] をタップします。

- [メール受信プロトコル] で [SMTP] を選んだ場合

  SMTP サーバーの設定をします。

参照
- SMTP サーバーの設定については、「[SMTP サーバー設定]」(P.343) を参照してください。
- SMTP受信をする場合の本体メールアドレスの設定については、「[本体メールアドレス/ホスト名]」(P.337) を参照してください。

- [メール受信プロトコル] で [POP3] を選んだ場合

  POP3 サーバーの設定をします。

参照
- POP3 サーバーの設定については、「[POP3 サーバー設定]」(P.343) を参照してください。
- POP3受信をする場合の本体メールアドレスの設定については、「[本体メールアドレス/ホスト名]」(P.337) を参照してください。

補足
- POP3 サーバー設定で POP over SSL を ON にすると、メールの受信が暗号化されます。POP over SSL は CentreWare Internet Services を使用して設定できます。

2) [<] をタップして、[メール送受信設定] 画面まで戻ります。

8 送信の設定をします。

補足
- メールの送信には、SMTP　サーバーの設定が必要です。[メール受信プロトコル] で [POP3] を選択した場合は、[メール送受信設定] で SMTP サーバーを設定してください。詳しくは、「[SMTP サーバー設定]」(P.343) を参照してください。

9 ホームボタンを押します。

補足
- 設定を有効にするには、再起動が必要です。画面の表示に従って再起動してください。

IP ファクス（SIP）の設定

利用するためには、次の設定が必要です。

- TCP/IP アドレス
- SIP ポート
- SIP 本体アドレス
- 自局情報
- SIP サーバー（必要に応じて設定）
- VoIP ゲートウェイ（必要に応じて設定）

参照
- TCP/IP アドレスの設定については、「[プロトコル設定]」(P.334) を参照してください。

■SIP ポート /SIP 本体アドレスの設定

1 機械管理者モードにログインします。

参照
- 詳しくは、「認証モードへのログイン」(P.82) を参照してください。

2 ホーム画面で、[設定] をタップします。

3 IP ファクス（SIP）で使用するポートを起動します。

1) [ネットワーク設定] > [ポート設定] > [SIP] > [SIP- ポート] をタップします。

2) [起動] をタップします。

3) [<] をタップして、[ネットワーク設定] 画面まで戻ります。

4 SIP 本体アドレスを設定します。

1) [ネットワーク設定] > [SIP 設定] > [SIP 本体アドレス] をタップします。

2) SIP 本体アドレスを入力します。

参照
- 詳しくは、「[SIP 設定]」(P.341) を参照してください。

5 ホームボタンを押します。

補足
- 設定を有効にするには、再起動が必要です。画面の表示に従って再起動してください。

■自局情報の設定

参照
- 詳しくは、「[自局情報]」(P.317) を参照してください。

1 機械管理者モードにログインします。

参照
- 詳しくは、「認証モードへのログイン」(P.82) を参照してください。

2 ホーム画面で、[設定] をタップします。

3 [アプリ設定] > [ファクス設定] > [自局情報] をタップします。

4 [自局名] をタップして、自局の名前を入力します。

5 [発信元名] をタップして、発信元の名前を入力します。

6 ホームボタンを押します。

補足
- 設定を有効にするには、再起動が必要です。画面の表示に従って再起動してください。

■SIP サーバーの設定

1 機械管理者モードにログインします。

参照
- 詳しくは、「認証モードへのログイン」(P.82) を参照してください。

2 ホーム画面で、[設定] をタップします。

3 [ネットワーク設定] > [SIP 設定] をタップします。

4 [SIP サーバーの使用] をタップして、チェックマークを付けます。

5 [SIP サーバーアドレス取得方法] をタップして、取得方法を選択します。

6 [SIP プロキシサーバー設定] をタップして、各項目を設定します。

補足
- [SIP サーバーアドレス取得方法] で、[DHCP から取得] または [DHCPv6 から取得] を選択している場合でも、ポート番号、認証用ユーザー名、認証用パスワード、サーバー種別の設定は必要です。

7 [SIP レジストラサーバー設定] をタップして、各項目を設定します。

補足
- [SIP サーバーアドレス取得方法] で、[DHCP から取得] または [DHCPv6 から取得] を選択している場合でも、ポート番号、認証用ユーザー名、認証用パスワード、サーバー種別の設定は必要です。

8 ホームボタンを押します。

補足
- 設定を有効にするには、再起動が必要です。画面の表示に従って再起動してください。

■VoIP ゲートウェイの登録

1 機械管理者モードにログインします。

参照
- 詳しくは、「認証モードへのログイン」(P.82) を参照してください。

2 ホーム画面で、[設定] をタップします。

3 [ネットワーク設定] > [SIP 設定] > [VoIP ゲートウェイ登録] をタップします。

4 未登録の VoIP ゲートウェイをタップします。

5 [識別番号] をタップして、識別番号を設定します。

6 [アドレス] をタップして、VoIP ゲートウェイの IP アドレスを設定します。

7 [OK] をタップします。

補足
- 複数の VoIP ゲートウェイを登録する場合は、手順 4 ～ 7 を繰り返します。

8 ホームボタンを押します。

補足
- 設定を有効にするには、再起動が必要です。画面の表示に従って再起動してください。

NGN を利用するための設定

補足
- NTT と NGN 契約が必要です。

利用するためには、IP ファクス（SIP）の設定のほかに、次の設定が必要です。

- 次世代ネットワーク（NGN）接続
- 発信者 ID 通知（必要に応じて設定）
- 最大使用帯域幅
- 自動再送信（必要に応じて設定）

1 機械管理者モードにログインします。

参照
- 詳しくは、「認証モードへのログイン」(P.82) を参照してください。

2 ホーム画面で、[設定] をタップします。

3 [ネットワーク設定] > [次世代ネットワーク（NGN）設定] をタップします。

4 [次世代ネットワーク（NGN）接続] をタップして、チェックマークを付けます。

5 [発信者 ID 通知] を有効にする場合は、チェックマークを付けます。

6 [IP ファクス（SIP）最大使用帯域幅] をタップして、最大使用帯域幅を設定します。

補足
- 最大使用帯域幅は、NTT のデータ通信向けの料金表を確認して設定してください。

7 [ファクスによる自動再送信] を有効にする場合は、チェックマークを付けます。

8 ホームボタンを押します。

補足
- 設定を有効にするには、再起動が必要です。画面の表示に従って再起動してください。

スキャン機能の設定

補足
- スキャン機能の設定変更は、機械管理者が実施してください。

ボックス保存の設定

利用するには、次の設定が必要です。

- TCP/IP アドレス
- ポートの起動
- 親展ボックスの登録
- ソフトウェアのインストール

参照
- TCP/IP アドレスの設定については、「[プロトコル設定]」(P.334) を参照してください。

■ポートの起動

1 機械管理者モードにログインします。

参照
- 詳しくは、「認証モードへのログイン」(P.82) を参照してください。

2 ホーム画面で、[設定] をタップします。

3 ポートを起動します。

1) [ネットワーク設定] > [ポート設定] > [SNMP] > [SNMP- ポート] をタップします。

2) [起動] をタップします。

3) [<] をタップして、[ポート設定] 画面まで戻ります。

4) [SOAP] > [SOAP- ポート] をタップします。

5) [起動] をタップします。

6) [<] をタップして、[ポート設定] 画面まで戻ります。

7) [WebDAV] > [WebDAV- ポート] をタップします。

8) [起動] をタップします。

4 ホームボタンを押します。

補足
- 設定を有効にするには、再起動が必要です。画面の表示に従って再起動してください。

■親展ボックスの登録

スキャンデータを保存する親展ボックスを登録します。

参照
- 親展ボックスの登録については、「ボックスの登録」(P.210) を参照してください。

■ソフトウェアのインストール

ネットワークスキャナユーティリティ 3 を使用する場合は、ネットワークスキャナユーティリティ 3 をコンピューターにインストールします。

参照

- ネットワークスキャナユーティリティ 3 は、付属の「ソフトウェア / 製品マニュアル」ディスクに入っています。

スキャン送信（直接コンピューターに保存する）の設定

補足

- FTP 転送で使用する場合は、FTP サーバーと FTP サーバーへのアカウント（ログイン名とパスワード）が必要です。
- SFTP 転送で使用する場合は、SFTP サーバーと SFTP サーバーへのアカウント（ログイン名とパスワード）が必要です。
- SMB 転送で使用する場合は、共有フォルダー機能が利用できる、本機でサポートしている OS のコンピューターが必要です。macOS/OS X の場合は、共有できるユーザーアカウントが必要です。

利用するには、次の設定が必要です。

- TCP/IP アドレス
- ポートの起動
- 転送先フォルダの作成

参照

- TCP/IP アドレスの設定については、「[プロトコル設定]」(P.334) を参照してください。

■ポートの起動

1 機械管理者モードにログインします。

参照

- 詳しくは、「認証モードへのログイン」(P.82) を参照してください。

2 ホーム画面で、[設定] をタップします。

3 ポートを起動します。

■FTP 転送

1) [ネットワーク設定] > [ポート設定] > [FTP クライアント] > [FTP クライアント - ポート] をタップします。

2) [起動] をタップします。

■SFTP 転送

1) [ネットワーク設定] > [ポート設定] > [SFTP クライアント] > [SFTP クライアント - ポート] をタップします。

2) [起動] をタップします。

■SMB 転送

1) [ネットワーク設定] > [ポート設定] > [SMB クライアント] > [SMB クライアント - ポート] をタップします。

2) [起動] をタップします。

4 ホームボタンを押します。

補足
- 設定を有効にするには、再起動が必要です。画面の表示に従って再起動してください。

■転送先フォルダーの作成

FTP/SFTP 転送

ログインするサーバーに転送先のフォルダーを作成して、書き込み権限を設定します。

SMB 転送

コンピューター上にフォルダーを作成して、共有フォルダーに設定します。共有フォルダーに書き込み権限を設定します。

補足
- macOS/OS X で SMB を使用する場合は、システム環境設定にある［共有］の［サービス］タブで［Windows ファイル共有サービス］を［入］に設定する必要があります。

スキャン送信（メールで送信する）の設定

スキャンデータをメールに添付して送信したり、本機に保存されたスキャンデータの取り出し用と削除用の URL を本文に添付して送信したりできます。

参照
- 利用するための設定は、「メール機能の設定」(P.65) を参照してください。

マイフォルダーの設定

本機能は、本機の認証モードが外部認証のときに利用できます。

認証ユーザーに応じて、異なる転送先にスキャン文書を転送できる機能です。

補足
- 外部認証サーバーに、ApeosWare Management Suite 2（別売）を使用する場合は、［Authentication Agent］を選択してください。

参照
- 外部認証サーバーの設定については、「[認証システム]」(P.344) を参照してください。

利用するには、次の設定が必要です。

- TCP/IP アドレス
- ポートの起動
- サービス開始と転送方法の設定
- 転送先の指定

参照
- TCP/IP アドレスの設定については、「[プロトコル設定]」(P.334) を参照してください。

■ポートの起動

1 機械管理者モードにログインします。

参照
- 詳しくは、「認証モードへのログイン」(P.82) を参照してください。

2 ホーム画面で、［設定］をタップします。

3 ［ネットワーク設定］＞［ポート設定］＞［SMB クライアント］＞［SMB クライアント - ポート］をタップします。

4 ［起動］をタップします。

5 ホームボタンを押します。

補足
- 設定を有効にするには、再起動が必要です。画面の表示に従って再起動してください。

■サービス開始と転送方法の設定

CentreWare Internet Services を使用して、マイフォルダー機能を設定します。

1 CentreWare Internet Services を起動します。

参照
- 詳しくは、「CentreWare Internet Services を起動する」(P.92) を参照してください。

2 機械管理者モードにログインします。

3 ［アプリ］＞［スキャン送信］＞［マイフォルダー保存］をクリックします。

4 ［有効］＞［保存］をクリックします。

5 ［マイフォルダー保存先の変更］をクリックします。

6 ［禁止］または［許可］を選んで、［保存］をクリックします。

7 ［マイフォルダー保存時のフォルダー設定］をクリックします。

8 各項目を設定して、［保存］をクリックします。

9 ［マイフォルダー保存時の認証設定］をクリックします。

10 保存時に使用する認証情報を選んで、［保存］をクリックします。

USB 保存の設定

事前の準備は必要ありません。

CentreWare Internet Services を使用して、USB 保存機能を有効 / 無効に切り替えができます。無効に設定すると、ホーム画面に［USB 保存］が表示されなくなり、利用できません。

WSD スキャンの設定

補足

- Windows　Server の環境では、初期設定のままではスキャン機能を使用できません。詳しくは、Microsoft 社の公式サイトを参照してください。

利用するには、次の設定が必要です。

- TCP/IP アドレス
- ポートの起動

参照

- IP アドレスの設定については、「[プロトコル設定]」(P.334) を参照してください。

■ポートの起動

1 機械管理者モードにログインします。

参照

- 詳しくは、「認証モードへのログイン」(P.82) を参照してください。

2 ホーム画面で、[設定] をタップします。

3 ポートを起動します。

1) [ネットワーク設定] > [ポート設定] > [WSD] > [WSD スキャン - ポート] をタップします。

2) [起動] をタップします。

4 ホームボタンを押します。

補足

- 設定を有効にするには、再起動が必要です。画面の表示に従って再起動してください。

メール機能の設定

利用するには、次の設定が必要です。

- メールポート
- TCP/IP アドレス
- サブネットマスク（必要に応じて設定）
- ゲートウェイアドレス（必要に応じて設定）
- DNS サーバーアドレス（必要に応じて設定）
- 本体メールアドレス
- メール受信プロトコル
- SMTP サーバーアドレス
- SMTP AUTH ログイン名、パスワード（必要に応じて設定）
- POP3 サーバーアドレス（必要に応じて設定）
- POP3 ログイン名、パスワード（必要に応じて設定）
- S/MIME（必要に応じて設定）

補足
- S/MIME で暗号化したりデジタル署名をつけたりしてメールを送受信するには、あらかじめ証明書が必要です。

参照
- TCP/IP アドレスの設定については、「[プロトコル設定]」(P.334) を参照してください。

1 機械管理者モードにログインします。

参照
- 詳しくは、「認証モードへのログイン」(P.82) を参照してください。

2 ホーム画面で、[設定] をタップします。

3 メールポートを起動します。

1) [ネットワーク設定] > [ポート設定] > [メール送信] > [メール送信 - ポート] をタップします。

2) [起動] をタップします。

3) [<] をタップして、[ポート設定] 画面まで戻ります。

4) [メール受信] > [メール受信 - ポート] をタップします。

5) [起動] をタップします。

補足
- メール通知、ジョブの終了通知を使用する場合は、同様に [メール通知サービス] の [メール通知サービス - ポート] を [起動] に設定します。

6) [<] をタップして、[ネットワーク設定] 画面まで戻ります。

4 受信プロトコルを設定します。

1) [その他の設定] > [メール受信プロトコル] をタップします。

2) [SMTP] または [POP3] をタップします。

3) [<] をタップして、[ネットワーク設定] 画面まで戻ります。

5 本機のメールアドレスを設定します。

1) [本体メールアドレス / ホスト名] をタップします。

2) メールアドレスやホスト名を設定します。

参照
- 詳しくは、「[本体メールアドレス / ホスト名]」(P.337) を参照してください。

3) [<] をタップして、[ネットワーク設定] 画面まで戻ります。

6 受信の設定をします。

1) [メール送受信設定] をタップします。

- [メール受信プロトコル] で [SMTP] を選んだ場合
  SMTP サーバーの設定をします。

参照
- SMTP サーバーの設定については、「[SMTP サーバー設定]」(P.343) を参照してください。
- SMTP受信をする場合の本体メールアドレスの設定については、「[本体メールアドレス/ホスト名]」(P.337) を参照してください。

- [メール受信プロトコル] で [POP3] を選んだ場合
  POP3 サーバーの設定をします。

参照
- POP3 サーバーの設定については、「[POP3 サーバー設定]」(P.343) を参照してください。
- POP3受信をする場合の本体メールアドレスの設定については、「[本体メールアドレス/ホスト名]」(P.337) を参照してください。

補足
- POP3 サーバー設定で POP over SSL を ON にすると、メールの受信が暗号化されます。POP over SSL は CentreWare Internet Services を使用して設定できます。

7 送信の設定をします。

補足
- メールの送信には、SMTP サーバーの設定が必要です。[メール受信プロトコル] で [POP3] を選択した場合は、[メール送受信設定] で SMTP サーバーを設定してください。詳しくは、「[SMTP サーバー設定]」(P.343) を参照してください。

8 [<] をタップして、[ネットワーク設定] 画面まで戻ります。

9 S/MIME についての設定をします。

1) [セキュリティ設定] > [S/MIME 設定] をタップします。

2) 各項目を設定します。

参照
- 詳しくは、「[S/MIME 設定]」(P.350) を参照してください。

10 ホームボタンを押します。

補足
- 設定を有効にするには、再起動が必要です。画面の表示に従って再起動してください。

3

本機の基本操作

節電機能について

節電機能を利用すると、電力消費量を抑えることができます。

節電機能には、低電力モードとスリープモードがあります。本機は一定時間使用しないと低電力モードに入ります。そのあと、設定時間が経過すると、スリープモードに移行します。

補足
- 暖機モード動作中は、スリープモードに移行しません。

参照
- 節電モードに関する設定については、「[節電モードの設定]」(P.278) を参照してください。

節電状態に移行する

次の場合に節電状態になります。節電状態になると操作パネルの電源 / 節電ボタンが点滅します。

- 操作パネルの電源 / 節電ボタンを押して、[節電モードに移行する] をタップする
- 節電状態に移行する時間まで、本機を操作しなかったとき、ジョブが実行されなかったとき、プリントやファクスデータを受信しなかったとき

補足
- 用紙詰まりや、消耗品交換などエラー表示中は、節電状態に移行しません。
- 暖機モード動作中は、スリープモードに移行しません。
- タッチパネルディスプレイが消灯してすぐに電源/節電ボタンを押した場合や、本機が節電状態に完全に移行していない場合は、節電解除に時間がかかることがあります。本機が節電解除の操作を受け付ける状態になるまで待ってから、再度電源 / 節電ボタンを押してください。

参照
- 節電モードに移行するまでの時間を変更するには、「[節電モード移行時間]」(P.278) を参照してください。

節電状態から復帰する

節電状態からは、次の操作または状況により復帰します。

- 操作パネルの電源 / 節電ボタンを押す
- プリントやファクスなどのジョブを受信する
- CentreWare Internet Services の [保存] をクリックする
- 正面カバーを開ける（低電力モード時のみ復帰）

補足
- オプション製品や別売品を操作することで、自動復帰する場合もあります。

使用する部分のみ節電を解除する

本機には、節電状態から復帰する場合、使用する機能に必要な電力だけを供給して、消費電力を節約する機能が搭載されています。

参照
- 使用する部分のみ節電を解除するかどうかの設定は、「[節電解除の制御]」(P.279) を参照してください。

電源 / 節電ボタンを押しても、タッチパネルディスプレイは点灯しますが、原稿読み取り部や出力部は節電状態から復帰しません。その後、タッチパネルディスプレイで機能を選択することで、機能の実行に必要な部分に電力を供給します。

注記

- 節電状態での用紙セットや消耗品交換では、本機は用紙や新しい消耗品の情報を取得できません。電源 / 節電ボタンを押し、ホーム画面で［設定］>［用紙トレイ］または［消耗品確認］をタップしてから、用紙のセットや消耗品の交換を行ってください。

補足

- プリントジョブやファクス受信プリントジョブを受信した場合は、タッチパネルディスプレイは点灯せず、出力部のみ節電状態から復帰してプリントを開始します。
- 蓄積プリントジョブ（セキュリティープリント、時刻指定プリント、課金認証プリント、プライベートプリント）、ダイレクトファクス、ファクス親展受信などのジョブを受信した場合や、CentreWare Internet Services から親展ボックスを利用する場合は、タッチパネルディスプレイは点灯せず、ストレージのみ節電状態から復帰します。

暖機モードについて

使用環境によっては、スリープモードから復帰するときに、本機内の温度が上昇し、結露が発生する場合があります。暖機モードとは、結露の発生を防止または軽減する機能です。

季節の変わり目などに設定することをお勧めします。

補足

- 暖機モード動作中は、スリープモードに移行しません。
- お使いの環境によっては、消費電力が上がる場合があります。

暖機モード動作を設定する

1 機械管理者モードにログインします。

参照

- 詳しくは、「認証モードへのログイン」(P.82) を参照してください。

2 ［設定］＞［システム設定］＞［システム時計 / タイマー設定］＞［暖機モード動作］をタップします。

3 必要に応じて設定します。

参照

- 詳しくは、「[暖機モード動作]」(P.278) を参照してください。

4 ［OK］をタップします。

タッチパネルディスプレイについて

ホーム画面の説明

ホーム画面に表示されているアプリをタップして、機能を利用できます。

よく利用するアプリだけを表示させたり、配置を変更したり、ワンタッチで実行できるアプリを作成して、ホーム画面に配置することもできます。

次のホーム画面は、表示例です。利用状況に応じたホーム画面にカスタマイズしてご利用ください。

参照

- カスタマイズ機能については、「カスタマイズ機能について」(P.83) を参照してください。
- ワンタッチアプリについては、「ワンタッチアプリについて」(P.88) を参照してください。

■ **認証情報の表示エリア**

画面左上の認証情報の表示エリアをタップすると、ユーザー ID の入力画面が表示されます。

認証されると、認証ユーザーが表示されます。

補足

- 認証状態からログアウトするには、認証情報の表示エリアをタップします。

■ **[リセット]**

操作中のすべてのアプリ設定をリセットします。

■ **[割り込み]**

連続コピー中やプリント中に、実行中の作業を一時中断して、ほかの作業を優先させたいときに選びます。

[割り込み解除] を選ぶと、元の作業を再開します。

参照

- 詳しくは、「割り込み機能について」(P.81) を参照してください。

■ **[カスタマイズ] または [個人用カスタマイズ]**

ホーム画面に配置しているアプリの表示 / 非表示を変更したり、表示位置を変更したりします。

参照

- 詳しくは、「カスタマイズ機能について」(P.83) を参照してください。

アプリの説明

ホーム画面に表示されるアプリについて説明します。

■ **[コピー]**

コピー機能を操作します。

参照

- 詳しくは、「コピー」(P.129) を参照してください。

■ **[ファクス]**

電話回線を利用したファクスを操作します。

参照

- 詳しくは、「ファクス」(P.145) を参照してください。

■ **[インターネットファクス]**

インターネットファクス機能を操作します。

参照

- 詳しくは、「インターネットファクス」(P.153) を参照してください。

■ **[メール送信]**

スキャンしたデータをメールに添付して送ります。

参照

- 詳しくは、「メール送信」(P.183) を参照してください。

■[スキャン送信]

スキャンしたデータを一時的に保存し、取り出し用と削除用 URL を本文に添付してメールで送信したり、FTP や SMB プロトコルを使ってネットワーク上のコンピューターに転送したりします。

参照

- 詳しくは、「スキャン送信」(P.180) を参照してください。

■[ボックス保存]

スキャンしたデータを本機の親展ボックスに保存します。

参照

- 詳しくは、「ボックス保存」(P.181) を参照してください。

■[ボックス操作]

親展ボックスに保存されている文書を操作します。

参照

- 詳しくは、「ボックス操作」(P.209) を参照してください。

■[設定]

本機の設定を変更したり、状態を確認したりできます。

参照

- 詳しくは、「基本設定」(P.251) および「詳細設定」(P.275) を参照してください。

■[ジョブ情報]

実行中や実行待ちのジョブや、完了したジョブなどを確認できます。また、プリントを中止したり、プリント待ちや操作待ちのジョブをプリントしたりできます。

参照

- 詳しくは、「ジョブ情報」(P.245) を参照してください。

■[アドレス帳]

アドレス帳の登録および変更します。

参照

- 詳しくは、「アドレス帳」(P.229) を参照してください。

■[ヘルプ]

ヘルプを表示します。本機の操作方法を確認できます。

補足

- このボタンを初めて使用するときは、機械管理者モードで利用規約への同意が必要になります。

参照

- ヘルプの操作方法については、「操作パネルでヘルプを使う」(P.574) を参照してください。

■[USB]

スキャンしたデータを USB メモリーに保存したり、USB メモリーに保存した文書データをプリントしたりします。

参照

- 詳しくは、「USB 保存」(P.191)、「文書プリント」(P.121) を参照してください。

■ [ID カードコピー]

ID カードのコピー機能を操作します。

参照
- 詳しくは、「ID カードコピー」(P.134) を参照してください。

■ [外部アクセス]

本機に組み込まれたブラウザーから、ネットワークを介して Web サーバーにアクセスし、データを格納したり表示したりします。

参照
- 詳しくは、「外部アクセス」(P.568) を参照してください。

■ [WSD スキャン]

本機にセットした原稿をコンピューターからの操作でスキャンし、保存します。また、本機の操作パネルで、ネットワーク上にあるコンピューターを選択して、スキャンデータを保存できます。

参照
- 詳しくは、「WSD スキャン」(P.193) を参照してください。

■ [ジョブフロー]

登録したジョブフローを使ってスキャンします。

ジョブフローとは、スキャン文書などの、配信方法や配信先など一連の処理の流れをあらかじめ本機に設定しておくことによって、定型的な配信作業を効率化できる機能です。

参照
- 詳しくは、「ジョブフロー」(P.219) を参照してください。

■ [ポーリング予約]

ポーリング予約した文書を蓄積します。蓄積した文書をプリントしたり、削除したりできます。

参照
- 詳しくは、「ポーリング予約」(P.174) を参照してください。

■ [リモートアシスタンス]

操作方法でお困りのとき、オペレーターと画面を共有しながら、オペレーターの指示で問題を解決できます。

補足
- このボタンを初めて使用するときは、機械管理者モードで利用規約への同意が必要になります。

■ [プライベートプリント]

プライベートプリントに保存された文書をプリントまたは削除します。

参照
- 詳しくは、「プライベートプリント」(P.118) を参照してください。

■ [プライベートプリント（一括出力）]

プライベートプリントに保存された文書を一度にプリントできます。

補足
- 本機能は、サーバーレスオンデマンドプリント（オプション）で保存した文書でも利用できます。操作した複合機にサーバーレスオンデマンドプリントで保存された文書があれば、一括出力します。

参照
- 詳しくは、「プライベートプリント（一括出力）」(P.119) を参照してください。
- サーバーレスオンデマンドプリントについては、弊社の公式サイトを参照してください。

■[セキュリティープリント]

セキュリティープリントに保存された文書をプリントまたは削除できます。

参照
- 詳しくは、「セキュリティープリント」(P.116) を参照してください。

■[サンプルプリント]

サンプルプリントに保存された文書をプリントまたは削除します。

参照
- 詳しくは、「サンプルプリント」(P.114) を参照してください。

■[時刻指定プリント]

時刻指定プリントに保存された文書をプリントまたは削除します。

参照
- 詳しくは、「時刻指定プリント」(P.115) を参照してください。

■[認証プリント]

認証プリントに保存された文書をプリントまたは削除します。

参照
- 詳しくは、「認証プリント」(P.116) を参照してください。

■[画面輝度調整]

画面の明るさを調整します。

■[通信管理レポート]

送受信が正常に終了したかどうかを確認するためのレポートをプリントします。

参照
- 詳しくは、「[通信管理レポート]」(P.255) を参照してください。

■[ファクス受信モード]

ファクスの受信モードを設定します。

参照
- 詳しくは、「受信について」(P.176) を参照してください。

■[プリンターモード]

オンライン／オフラインの切り替え、ESC/P などのエミュレーション設定を行います。

本機の設定変更やメンテナンスをするときなど、コンピューターからのプリントデータを受信しない状態にしたい場合に［オフライン］にします。なお、データ受信中に切り替えた場合は、データ受信が中断され、プリントされません。

参照
- エミュレーション設定については、「エミュレーション」(P.527) を参照してください。

■[自動プリントの許可 / 禁止]

プリントを一時的に禁止したり、許可したりします。

参照

- 詳しくは、「[プリント禁止の設定]」(P.277) を参照してください。
- [許可する] に設定したときの動作については、「[プリント起動]」(P.277) を参照してください。

■[メーター確認]

メーター確認画面を表示します。

参照

- 詳しくは、「[メーター確認]」(P.267) を参照してください。

■[レポート / リストの出力]

レポートまたはリストをプリントします。

参照

- 詳しくは、「[レポート / リストの出力]」(P.254) を参照してください。

■[親展ボックス名 XXX]

親展ボックスのショートカットを表示します。親展ボックス内の文書をプリントまたは削除できます。

また、[受信文書の保存先 / 排出先] で、回線ごとの受信文書を振り分けた親展ボックスも表示できます。

補足

- アイコン表示は、親展ボックス名称と親展ボックス番号です。

参照

- 詳しくは、「ボックスの登録」(P.210)、「[受信文書の保存先/排出先]」(P.316)を参照してください。

■[保守レポートの出力]

保守レポート画面を表示します。機能別のカウンターレポートやユーザー別の集計管理レポートをプリントします。

参照

- 詳しくは、「[保守レポートの出力]」(P.269) を参照してください。

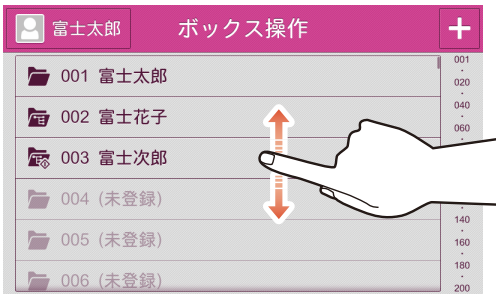
■カスタムサービス

カスタムサービスがインストールされている場合、各サービスのアイコンが表示されます。

基本の操作方法

■ドラッグ

タッチパネルディスプレイに軽く触れたままで、目的の位置まで指を移動させます。
上下にドラッグすると画面のスクロールができます。

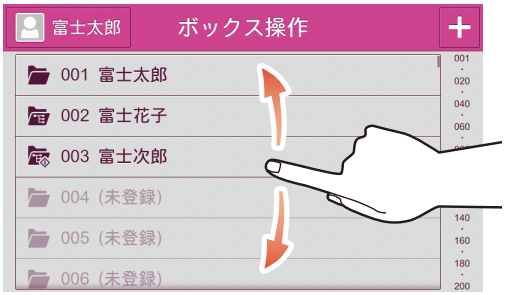


■フリック操作

タッチパネルディスプレイをはらうように指を動かします。
上下にフリック操作すると画面やリストのスクロールができます。

補足

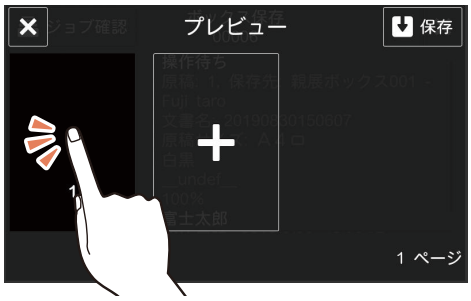
- フリック操作の場合は、指を離したあとでも少しの間スクロールが継続します。



■タップ / ダブルタップ

タッチパネルディスプレイに軽く触れ、すぐに指を離します。2回連続で同じ位置をタップする操作をダブルタップと呼びます。

プレビュー画像をダブルタップすると、画像サイズの拡大表示ができます。



■ロングタッチ

タッチパネルディスプレイ上のアプリやアイコンに指を触れたまま長押しすることをロングタッチと呼びます。

アプリや機能リストの配置を変更するときに使用します。

共通の操作ボタンの説明

各機能で表示される共通の操作ボタンについて説明します。

補足

- 機能によっては、操作ボタンの色が異なります。

操作ボタン	説明
*	操作中のすべてのアプリの設定値をリセットして、ホーム画面に戻ります。
	ひとつ前の画面に戻ります。
	表示中の画面を閉じます。
	検索します。
	データや項目などを削除します。
	機能を表示します。
	アドレス帳を表示します。
	宛先の履歴を表示します。
	最新の情報に表示を更新します。
	リスト形式で表示します。
	サムネール形式で表示します。
	プレビューを表示します。
	ファイル、フォルダー、機能の詳細を表示します。
	選択しているすべての項目を解除します。
	すべての項目を選択します。
	登録または更新日時の新しい順で表示します。
	登録または更新日時の古い順で表示します。
	名称の昇順で表示します。
	名称の降順で表示します。

* :ボタン表示については、「[リセットボタンの表示]」(P.282) を参照してください。

文字の入力方法

キーボードを使って文字を入力する

アドレス帳の入力や各種設定などで文字を入力するときは、タッチパネルディスプレイに表示されるキーボードを使います。

ボタン	説　明
	入力方法、入力言語を変更できます。
予測	入力文字に対する予測候補が表示されます。
変換	入力文字に対する変換候補が表示されます。
空白	スペースを入力できます。
ABC	アルファベットを入力します。
	アルファベットの大文字小文字を切り替えます。
&123	数字を入力できます。
[-]	記号を入力できます。
ア	カタカナを入力できます。
あ	ひらがなを入力できます。
	カーソルを１文字ずつ移動できます。
小	小さいひらがなやカタカナを入力できます。
	１文字ずつ消去できます。
	すべての文字を削除します。
確定	入力文字を確定します。
次へ	入力文字を確定して、次の入力ボックスにカーソルを移動します。
全角	全角で入力できます。
半角	半角で入力できます。
	キーボードを非表示にします。

補足

- 入力画面、入力言語によって、表示されるボタンおよびボタンの色は異なります。
- 入力できる漢字は、JIS の第一水準と第二水準です。

割り込み機能について

連続コピー中やプリント中に、実行中の作業を一時中断して、ほかの作業を優先させることができます。

補足

- 原稿ガラスを使用した 10 部以下のコピー動作中は、割り込みが受け付けられない場合があります。
- 予約中のジョブがある場合は、割り込み機能は利用できません。

ここでは、連続コピー中に割り込み機能を使ったコピーを例に説明します。

1 連続コピー中に、ホームボタンを押します。

2 コピー動作中の表示を閉じます。

3 ホーム画面下部の［割り込み］をタップします。

4 割り込んでコピーする原稿をセットします。

5 ［コピー］をタップします。

6 必要に応じて、各機能を設定します。

参照

- 各機能の設定については、「機能リスト」(P.135) を参照してください。

7 ［スタート］をタップします。

8 割り込みコピー動作中の表示を閉じます。

9 ホーム画面下部の［割り込み解除］をタップします。

割り込みコピー終了後、元の作業を再開します。

認証モードへのログイン

認証モードにログインすると、認証情報の表示エリアに認証ユーザー名が表示されます。

認証機能を利用していないときは、[一般ユーザー] と表示されます。

機械管理者権限でログインすると [機械管理者] と表示されます。

参照

- 機械管理者のログイン情報については、「[認証・セキュリティ設定]」(P.358) を参照してください。

タッチパネルディスプレイで認証モードにログインする

1 認証情報の表示エリアをタップします。

2 ユーザー ID を入力して、[OK] をタップします。

補足

- パスワードの入力が必要な場合は、[次へ] をタップしてパスワードを入力し、[OK] をタップします。
- ユーザー ID の指定方法は、[一覧から選択] と [キーボードで入力] があります。[一覧から選択] に設定されている場合は、[アカウント選択] 画面からユーザー ID を指定できます。指定方法の変更については、CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。
- 認証を解除する場合は、認証情報の表示エリア > [ログアウト] をタップします。

IC カード利用時に認証モードにログインする

1 IC カードリーダー（オプション）に IC カードを確実にタッチします。

補足

- 認証を解除する場合の操作は、[非接触型 IC カード設定] に従います。詳しくは、「[非接触型 IC カード設定]」(P.362) を参照してください。

カスタマイズ機能について

ホーム画面のアプリや、各機能の機能リストの項目の表示 / 非表示を切り替えたり、並び順を変更したりしてカスタマイズできます。認証機能を使用している場合は、それぞれのユーザーごとにカスタマイズして利用できます。

カスタマイズ機能を利用できる画面には、画面下部に［カスタマイズ］または［個人用カスタマイズ］が表示されます。

補足

- 認証機能を利用していない場合は［カスタマイズ］、認証機能を利用している場合は［個人用カスタマイズ］が表示されます。
- 機械管理者モードにログインした場合は、認証機能の利用の有無に関わらず、［カスタマイズ］または［個人用カスタマイズ］が表示されます。

  ［個人用カスタマイズ］>［ホームの編集］では、機械管理者モードにログインしたときに表示されるホーム画面をカスタマイズできます。［カスタマイズ］>［ホームの編集］では、カスタマイズしていないすべてのユーザーのホーム画面に反映されます。
  ホーム画面の目的に応じて、個人モードまたは共用モードに切り替えてください。

ホーム画面のカスタマイズ

ホーム画面に表示するアプリを変更します。

1 ホーム画面の下部にある［カスタマイズ］または［個人用カスタマイズ］をタップします。

2 次の操作をします。

■アプリを非表示にする場合

1) 非表示にするアプリの×をタップします。

■アプリを表示させる場合

1) [追加] をタップします。

2) 追加するアプリをタップします。

補足
- 複数のアプリを表示させる場合は、手順 1)、2) を繰り返します。

■アプリの位置を変更する場合

1) アプリをロングタッチしたまま移動させます。

3 [完了] をタップします。

機能リストのカスタマイズ

機能リストとは、コピー、ファクス、スキャンなどの操作画面で、設定できる機能のことです。利用できるカスタマイズ機能は次のとおりです。

補足
- 機械管理者モードにログインした場合は、認証機能の利用の有無に関わらず、[カスタマイズ] または [個人用カスタマイズ] が表示されます。
  [個人用カスタマイズ] では、機械管理者モードにログインしたときに表示される機能リストのカスタマイズができます。[カスタマイズ] では、カスタマイズしていないすべてのユーザーの機能リストに反映されます。
  機能リストの利用目的に応じて、個人モードまたは共用モードに切り替えてください。

カスタマイズ機能	説　　明
[プリセットとして保存]	現在の設定をプリセットとして保存します。頻繁に使用する設定を保存しておくと、必要に応じて設定を呼び出すことができます。
[プリセットを上書き保存]	プリセットを選んでから設定を変更したときに、プリセットを上書き保存します。
[機能リスト編集]	機能リストの表示 / 非表示を設定します。表示順も変更できます。
[初期表示画面]	アプリを起動したときに表示される画面を設定します。
[プリセット削除]	プリセットとして保存した設定を削除します。
[お気に入り編集]	お気に入りに表示する連絡先を設定します。
[すべてのカスタマイズをクリア]	すべてのカスタマイズの設定を削除します。

補足
- 機能画面によって、利用できるカスタマイズ機能は異なります。

ここでは、ファクス機能の画面を例に説明します。

プリセットとして保存する

1 機能リストを設定します。

2 画面下部の［カスタマイズ］または［個人用カスタマイズ］をタップします。

3 ［プリセットとして保存］をタップします。

4 プリセット名を入力します。

5 ［次へ］をタップします。

6 表示アイコンをタップします。

7 ［確定］をタップします。
機能リストの先頭に［プリセット］とプリセット名が表示されます。

保存したプリセットを上書きする

1 ［プリセット］をタップして、変更するプリセットを呼び出します。

2 機能リストで設定を変更します。

3 画面下部の［カスタマイズ］または［個人用カスタマイズ］をタップします。

4 ［プリセットを上書き保存：XXX］をタップします。（XXX は、プリセット名）

機能リストを編集する

1 画面下部の［カスタマイズ］または［個人用カスタマイズ］をタップします。

2 ［機能リスト編集］をタップします。

■表示 / 非表示を設定する

1) 機能リスト編集画面で または をタップします。

補足

- 表示されている機能は 、非表示の機能は のアイコンが表示されます。

■表示位置を変更する

1) 移動したい機能をロングタッチして、希望の位置まで移動します。

3 ［確定］をタップします。

初期表示画面を設定する

1 画面下部の［カスタマイズ］または［個人用カスタマイズ］をタップします。

2 ［初期表示画面］をタップします。

3 表示させる画面を選択します。

4 ［完了］をタップします。

保存したプリセットを削除する

1 画面下部の［カスタマイズ］または［個人用カスタマイズ］をタップします。

2 ［プリセット削除］をタップします。

3 削除するプリセットの をタップします。

4 ［はい（削除する）］をタップします。

5 ［完了］をタップします。

お気に入りを編集する

1 画面下部の［個人用カスタマイズ］をタップします。

2 ［お気に入り編集］をタップします。

3 ［お気に入りを追加］をタップします。

4 お気に入りに表示する連絡先をタップします。

5 ［確定］をタップします。

補足

- お気に入りから表示を削除する場合は、をタップします。

カスタマイズで保存 / 編集した設定を削除する

1. 画面下部の［カスタマイズ］または［個人用カスタマイズ］をタップします。
2. ［すべてのカスタマイズをクリア］をタップします。
3. ［はい（削除する）］をタップします。

ワンタッチアプリについて

日常的に使用する機能の設定値をワンタッチアプリとしてホーム画面に登録できます。ワンタッチアプリを起動させるだけで、設定した機能を実行できます。

補足

- ワンタッチアプリの作成は、画面下部に［ワンタッチアプリの作成］が表示されているときに利用できます。
- 認証機能を利用している場合は、それぞれのユーザーごとにワンタッチアプリを作成できます。
- 設定内容によっては、ワンタッチアプリ起動時に確認画面が表示されます。

ワンタッチアプリを作成する

ここでは、コピー機能を例に説明します。

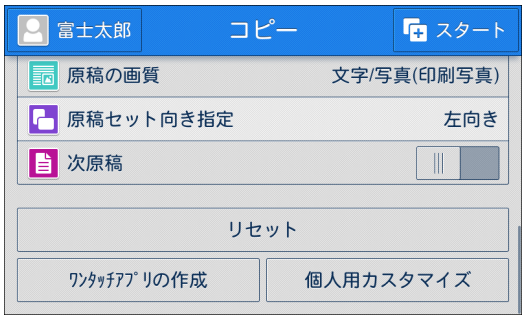
補足

- 登録する機能および選択内容によって、表示される設定項目は異なります。

1 ホーム画面で、［コピー］をタップします。

2 ワンタッチで実行させたい機能を設定します。

3 画面下部にある［ワンタッチアプリの作成］をタップします。

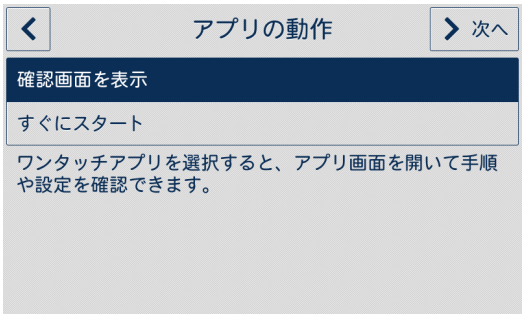


4 ワンタッチアプリ名を入力して、［次へ］をタップします。

5 アプリのテーマ色を選んで、［次へ］をタップします。

6 アイコンを選んで、［次へ］をタップします。

7 ワンタッチアプリを起動させたときの動作を設定して、［次へ］をタップします。

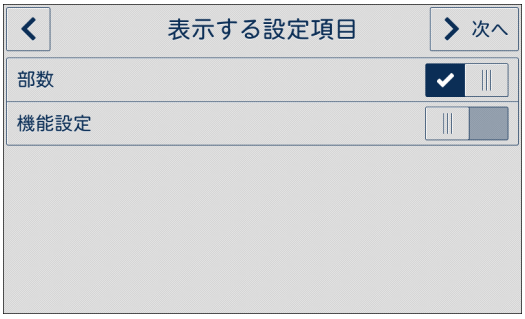


補足

- ［すぐにスタート］を選択した場合は、手順 10 に進みます。
- ［ファクス］、［インターネットファクス］、［ボックス保存］では、［すぐにスタート］は選択できません。［メール送信］は、［すぐにスタート］を選択しても、設定によっては宛先の確認画面が表示されます。

8 操作ガイドに操作内容などを入力して、［次へ］をタップします。

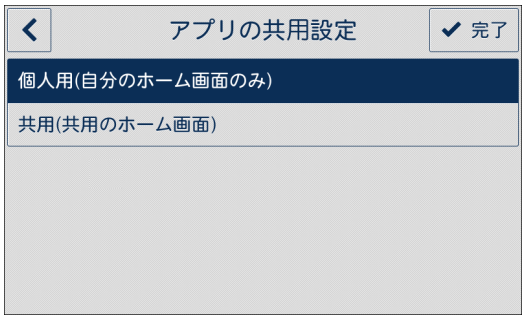
9 ワンタッチアプリ起動時の確認画面に表示させる項目を選んで、「次へ」をタップします。



10 ワンタッチアプリを表示させるホーム画面を選んで、[完了] をタップします。

補足

- ユーザー権限によっては、[アプリの共用設定] が表示されずワンタッチアプリの作成が完了します。



設定したアプリがホーム画面に表示されます。

補足

- 手順 7 で [すぐにスタート] を選択した場合は、アプリに が表示されます。

ワンタッチアプリを削除 / 非表示にする

1 ホーム画面で、[カスタマイズ] または [個人用カスタマイズ] をタップします。

2 削除または非表示にするワンタッチアプリの をタップします。

3 [削除] または [非表示] をタップします。

補足

- ワンタッチアプリ起動時に確認画面を表示させる設定の場合は、確認画面下部の [削除] をタップしてもワンタッチアプリを削除できます。

CentreWare Internet Services を使う

CentreWare Internet Services は、Web ブラウザーを使用して、本機の状態やジョブの履歴を表示したり、本機の設定を変更したりするためのサービスです。

TCP/IP 環境で、本機とネットワーク接続されたコンピューターで使用できます。

メニュー名	主な機能
[ホーム]	用紙トレイ、排出トレイ、および消耗品の状態、サポート情報、通知などを確認できます。
[アプリ]	アプリの設定ができます。
[アドレス帳]	アドレス帳の一括登録、他製品へのアドレス帳の一括登録、削除などができます。
[ジョブ]	ジョブ一覧やジョブ履歴を確認できます。
[ネットワーク] *	ネットワーク通信に必要な設定ができます。
[認証 / 集計 / 権限] *	ユーザーごとに認証、集計管理、権限の設定ができます。
[システム] *	セキュリティーと機械管理者の設定ができます。

* :CentreWare Internet Services の管理者モードが有効の場合は機械管理者としてログインすると、メニューが表示されます。

補足

- 項目によっては、再起動後に有効になるものがあります。
- 操作パネルの操作中は、CentreWare Internet Services で設定を変更できません。

参照

- CentreWare Internet Services から設定できる項目については、CentreWare Internet Services ヘルプを参照してください。

Web ブラウザーの設定

ここでは、Internet Explorer 11 を例に説明します。

インターネット一時ファイルの設定をする

1. [ツール] > [インターネット オプション] をクリックします。
2. [全般] タブで、[閲覧の履歴] の [設定] をクリックします。
3. [インターネット一時ファイル] タブで、[保存しているページの新しいバージョンがあるかどうかの確認]から、[Web サイトを表示するたびに確認する]または[Internet Explorer を開始するたびに確認する] を選びます。
4. [OK] をクリックします。
5. [インターネット オプション] 画面で [OK] をクリックします。

本機の IP アドレスについて、プロキシサーバーを使用しないように設定する

1. [ツール] > [インターネット オプション] をクリックします。

2 ［接続］タブで、［ローカル エリア ネットワーク（LAN）の設定］の［LAN の設定］をクリックします。

3 ［プロキシサーバー］を、次のどちらかに設定します。

- ［LAN にプロキシサーバーを使用する］のチェックマークを外す。
- ［詳細設定］をクリックし、［例外］に本機の IP アドレスを入力して［OK］をクリックする。

4 ［OK］をクリックします。

5 ［インターネット オプション］画面で［OK］をクリックします。

JavaScript を有効にする

1 ［ツール］>［インターネット オプション］をクリックします。

2 ［セキュリティ］タブで、［ローカル イントラネット］をクリックして、［レベルのカスタマイズ］をクリックします。

3 ［スクリプト］までスクロールし、［アクティブ スクリプト］が有効化されていることを確認します。

4 ［OK］をクリックします。

5 ［インターネット オプション］画面で［OK］をクリックします。

CentreWare Internet Services を起動する

1 Web ブラウザーを起動します。

2 Web ブラウザーのアドレス入力欄に、本機の IP アドレス、またはインターネットアドレスを入力し、〈Enter〉キーを押します。

- IP アドレスの入力例

  https://192.0.2.1/（IPv4 の場合）

  https://［2001:DB8::1234］（IPv6 の場合）

- インターネットアドレスの入力例（本機のインターネットアドレスが、myhost.example.com の場合）

  https://myhost.example.com/

補足

- お使いのネットワークが DNS（Domain Name System）を使用していて、DNS のネームサーバーに本機のホスト名が登録されている場合は、ホスト名とドメイン名を組み合わせたインターネットアドレスを使って本機にアクセスできます。ホスト名が「myhost」、ドメイン名が「example.com」の場合、インターネットアドレスは「myhost.example.com」となります。
- ポート番号を指定する場合は、IP アドレスまたはインターネットアドレスのあとに「:」を付けて、続けてポート番号を入力してください。
- 本機で認証機能を使用している場合は、［ユーザー名］と［パスワード］にユーザー ID とパスワードを入力してください。ユーザー ID とパスワードについては、機械管理者にお問い合わせください。ユーザーに与えられている機械管理の権限によって、操作できる機能が異なります。

参照

- CentreWare Internet Services が表示されない場合は、「CentreWare Internet Services を使用したときのトラブル」(P.477) を参照してください。

認証モードへのログイン

認証機能を利用している場合は、次の操作で認証モードにログインしてください。

1 CentreWare Internet Services を起動します。

2 画面右上の［ログイン］をクリックします。

3 ［ユーザー ID］を入力して、［ログイン］をクリックします。

補足

- パスワードの入力が必要な場合は、パスワードを入力して、［ログイン］をクリックします。
- 認証を解除する場合は、画面右上の認証ユーザー名>［ログアウト］をクリックします。

用紙をセットする

用紙について

弊社が推奨する用紙

> ⚠警告
>
> 電気を通しやすい紙(折り紙 / カーボン紙 / 導電性コーティングを施された紙など)を使用しないでください。ショートして火災の原因となるおそれがあります。

注記

- 水、雨、蒸気などの水分により、印刷面の画像がはがれることがあります。詳しくは弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にお問い合わせください。

用紙名	用紙トレイに設定する用紙種類	用紙種類別画質処理	用紙質量（g/m^2）
P 紙	上質紙	普通紙（A）	64
Vpaper	上質紙	普通紙（A）	64

その他の用紙については、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にお問い合わせください。

補足

- 用紙を用紙トレイにセットするときには、セットした用紙に合わせて、用紙種類を設定してください。詳しくは、「用紙の設定を変更する」(P.102) を参照してください。
- 用紙の種類ごとに画質処理を設定すると、用紙に合った画質でプリントできます。詳しくは、「[用紙種類別画質処理]」(P.264) を参照してください。

再生紙の利用について

本機で利用できる再生紙は次のとおりです。

用紙名	用紙トレイに設定する用紙種類	用紙種類別画質処理	用紙質量（g/m^2）	古紙パルプ配合率
C^{2r}	再生紙	普通紙（C）	70	70%
G70	再生紙	普通紙（C）	67	70%

使用できる用紙の質量と枚数

用紙トレイ	対応用紙質量 (g/m^2)	セット可能枚数 *	用紙の種類
用紙トレイ 1 ～ 4	60 ～ 256 g/m^2	560 枚	普通紙（60 ～ 105 g/m^2）、 上質紙（60 ～ 105 g/m^2）、 再生紙（60 ～ 105 g/m^2）、 うら紙（60 ～ 105 g/m^2）、 厚紙 1（106 ～ 169 g/m^2）、 厚紙 1（ウラ面）（106 ～ 169 g/m^2）、 厚紙 2（170 ～ 216 g/m^2）、 厚紙 2（ウラ面）（170 ～ 216 g/m^2）、 厚紙 3（217 ～ 256 g/m^2）、 厚紙 3（ウラ面）（217 ～ 256 g/m^2）、 ラベル紙 1（106 ～ 169 g/m^2）、 ラベル紙 2（170 ～ 216 g/m^2）、 ラベル紙 3（217 ～ 256 g/m^2）、 ユーザー定義用紙 1 ～ 5（60 ～ 105g/m^2）
用紙トレイ 5（手差し）	60 ～ 216 g/m^2	10 mm まで 100 枚	普通紙（60 ～ 105 g/m^2）、 上質紙（60 ～ 105 g/m^2）、 再生紙（60 ～ 105 g/m^2）、 うら紙（60 ～ 105 g/m^2）、 厚紙 1（106 ～ 169 g/m^2）、 厚紙 1（ウラ面）（106 ～ 169 g/m^2）、 厚紙 2（170 ～ 216 g/m^2）、 厚紙 2（ウラ面）（170 ～ 216 g/m^2）、 コート紙 1（106 ～ 169 g/m^2）、 コート紙 1（ウラ面）（106 ～ 169 g/m^2）、 コート紙 2（170 ～ 216 g/m^2）、 コート紙 2（ウラ面）（170 ～ 216 g/m^2）、 ラベル紙 1（106 ～ 169 g/m^2）、 ラベル紙 2（170 ～ 216 g/m^2）、 封筒（75 ～ 90 g/m^2）、 ユーザー定義用紙 1 ～ 5（60 ～ 105 g/m^2）

* :弊社 P 紙の場合

用紙の種類と使用方法は、次のとおりです。

用紙種類	備考
上質紙（90 ～ 105 g/m^2）	
普通紙（60 ～ 79 g/m^2）	
再生紙（60 ～ 79 g/m^2）	
うら紙（60 ～ 105 g/m^2）	普通紙のうち片面が使用済みの際に設定します。自動両面はできません。

用紙種類	備考
ユーザー定義用紙 1 ～ 5 （60 ～ 105 g/m^2）	お好みの名前をつけることができます。用紙は普通紙（A）～（S）を設定できます。
厚紙 1（106 ～ 169 g/m^2）	
厚紙 1（ウラ面）（106 ～ 169 g/m^2）	厚紙 1 に設定した用紙を手動で両面印刷する際に設定できます。
コート紙 1（106 ～ 176g/m^2）	
コート紙 1（ウラ面）（106 ～ 176g/m^2）	コート紙 1 を手動で両面印刷する際に設定します。
厚紙 2（170 ～ 256 g/m^2）	
厚紙 2（ウラ面）（170 ～ 256 g/m^2）	厚紙 2 を手動で両面印刷する際に設定します。
コート紙 2（170 ～ 216 g/m^2）	自動両面はできません。
コート紙 2（ウラ面）（170 ～ 216 g/m^2）	コート紙 2 を手動で両面印刷する際に設定します。
厚紙 3（221 ～ 300 g/m^2）	自動両面、手差しはできません。
厚紙 3（ウラ面）（221 ～ 300 g/m^2）	厚紙 3 を手動で両面印刷する際に設定します。
コート紙 3（217 ～ 256 g/m^2）	自動両面はできません。
コート紙 3（ウラ面）（217 ～ 256 g/m^2）	コート紙 3 を手動で両面印刷する際に設定します。自動両面はできません。
ラベル紙 1（106 ～ 169 g/m^2）	自動両面、手差しはできません。
ラベル紙 2（170 ～ 216 g/m^2）	自動両面、手差しはできません。
ラベル紙 3（217 ～ 256 g/m^2）	自動両面、手差しはできません。
封筒	手差しで設定できます。

使用できない用紙

故障の原因となるので、次の用紙は使用しないでください。

- OHP フィルム
- インクジェット用紙
- 感熱紙 / 熱転写用紙
- 布地転写用紙
- 水転写紙
- ホチキス、クリップ、リボン、テープなどが付いた用紙
- 窓付きの封筒
- 凹凸や留め金のある封筒
- 表面に特殊コーティングされた用紙
- ざら紙や繊維質の用紙など、表面が滑らかでない用紙
- 定着時の熱で変質するインクが使用されている用紙

その他にも、使用できない用紙があります。詳しくは、弊社の営業担当者、またはカストマーコンタクトセンターにお問い合わせください。

用紙の保管と取り扱い

■用紙の保管

- 用紙はキャビネットの中や、湿気が少ない場所に保管してください。用紙が湿気を含むと、用紙づまりや画質不良の原因になります。
- 開封後、用紙の残りは包装紙に包んで保管してください。
- 用紙は、折れや曲がりを防ぐために、立てかけずに水平に保管してください。
- 直射日光を避けて保管してください。

■用紙の取り扱い

- 用紙の束は、きちんとそろえてからセットしてください。
- サイズの異なる用紙を重ねてセットしないでください。
- ラベル用紙は、紙づまりを起こしたり複数枚が同時に送られたりすることがあるので、よくさばいてからご使用ください。

用紙トレイにセットする用紙の種類について

用紙トレイにセットした用紙のサイズと向きは、本機が自動的に検知しますが、用紙の種類は、設定が必要です。通常、各トレイは、普通紙が設定されています。ほかの種類の用紙をセットする場合は、設定を変更してください。また、用紙に名前を付けて、ユーザー定義用紙として設定することもできます。ユーザー定義用紙は 5 種類まで設定できます。

注記

- 1 つのトレイに異なるサイズの用紙を重ねてセットしないでください。

参照

- 用紙種類の設定については、「用紙の設定を変更する」(P.102) を参照してください。
- 対応する用紙サイズについては、「[サイズ検知切り替え]」(P.291) を参照してください。
- 非定形サイズの用紙にコピーする方法は、「[用紙選択]」(P.135) を参照してください。非定形サイズの用紙にプリントする方法は、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

用紙補給について

コピーやプリント中に用紙がなくなると、操作パネルのディスプレイにメッセージが表示されます。メッセージに従って、用紙を補給してください。用紙を補給するとコピーやプリントが再開されます。

注記

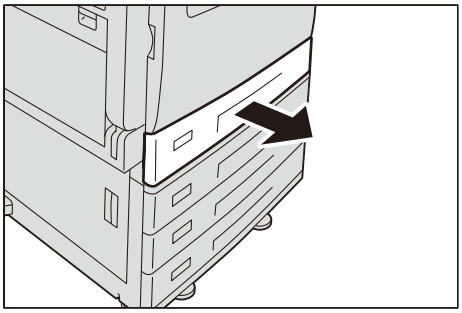
- 節電状態のときに用紙を補給しないでください。用紙を補給するときは、電源 / 節電ボタンを押し、ホーム画面の［設定］>［機械確認 / レポート］をタップしてから補給してください。
- 紙づまりや用紙セットの間違いをしないために、用紙トレイに残っている用紙の上に用紙を補給しないでください。

補足

- 紙づまりを起こしたり、複数枚が同時に送られたりすることがあるので、用紙トレイにセットする前に、用紙をよくさばいてください。

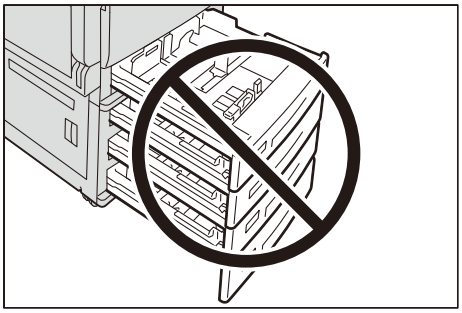
用紙トレイ１～４に用紙をセットする

1 用紙トレイを、手前に止まるところまで引き出します。



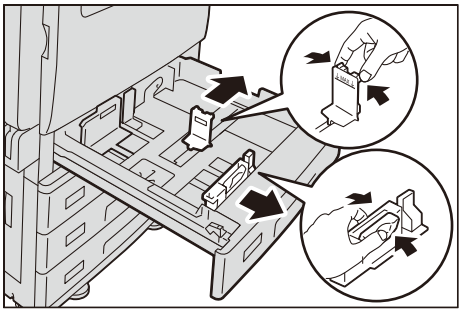
注記

- すべての用紙トレイを同時に引き出すと、機械全体が傾き、転倒などによりケガの原因となるおそれがあります。

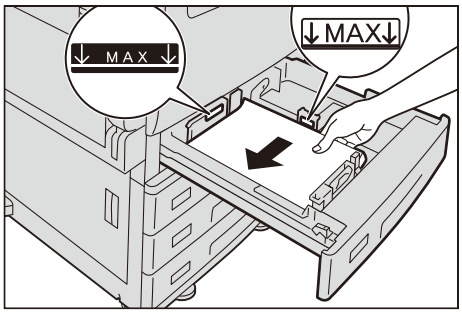


2 用紙がセットされている場合は、用紙を取り出します。

3 2 か所の用紙ガイドレバーをつまみながら、ガイドをそれぞれ用紙サイズに合った位置まで移動します。



4 コピー、またはプリントする面を上にして、用紙の先端を左側にそろえてセットします。



注記
- 用紙上限線（「MAX」の位置）を超える量の用紙をセットしないでください。紙づまりや故障の原因になります。
- 用紙トレイ１～４の右側空きスペースには、用紙や物を置かないでください。紙づまりや故障の原因になります。

5 奥に突き当たるところまで、用紙トレイをゆっくりと押し込みます。

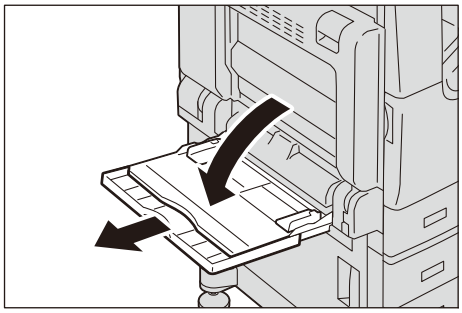
注記
- 用紙トレイを押し込むときは、ゆっくりと押し込んでください。トレイを勢いよく押し込むと、故障の原因になります。

6 用紙の種類を変更した場合は、用紙トレイに、用紙種類を設定します。

参照
- 用紙の種類の設定は、「用紙の設定を変更する」(P.102) を参照してください。

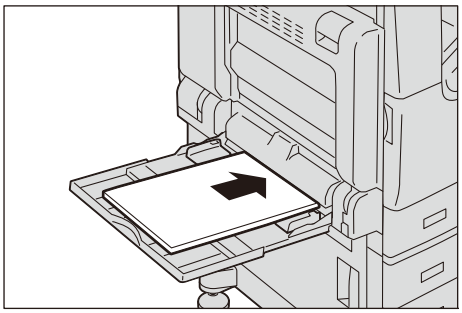
用紙トレイ５（手差し）に用紙をセットする

1 用紙トレイ５（手差し）を開きます。



補足
- 必要に応じて、延長トレイを引き出します。延長トレイは、２段階に引き出せます。延長トレイを引き出すときは、ゆっくりと引き出してください。

2 コピー、またはプリントする面を下に向けて、用紙をそろえた状態で先端を軽く突き当たるまで差し込みます。

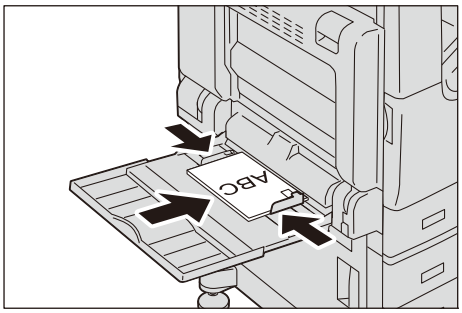


注記

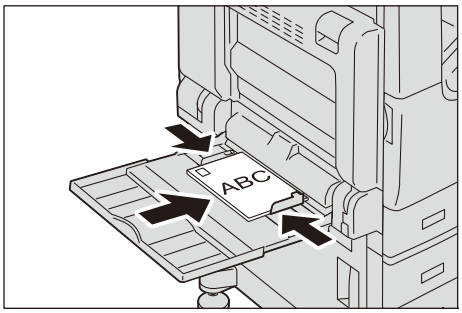
- 種類が異なる用紙を一緒にセットしないでください。
- 用紙上限線を超える量の用紙をセットしないでください。紙づまりや故障の原因になります。

■はがきの場合

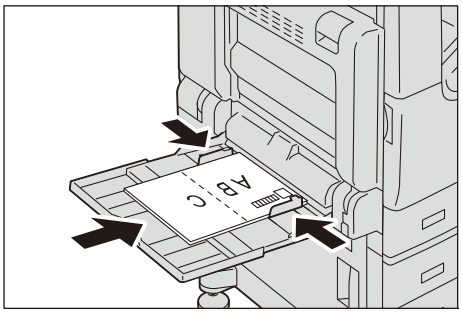
- 郵便はがき（コピー）



- 郵便はがき（プリント）

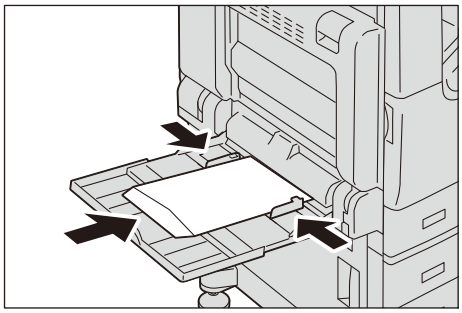


- 郵便往復はがき

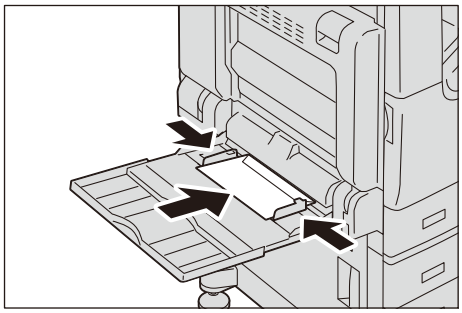


■封筒の場合

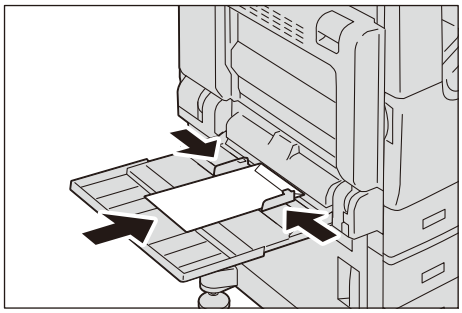
- 和封筒



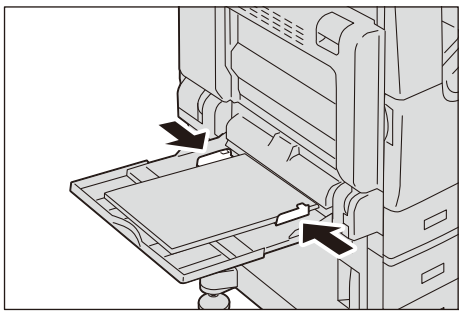
- 洋封筒



- のりやシールが付いた封筒



3 用紙サイズ合わせガイドを、セットした用紙に軽く合わせます。



補足

- 表示された［トレイ 5（手差し）］画面で、用紙について設定します。［自動サイズ検知］を選択した場合は、用紙サイズを自動的に認識します。［自動サイズ検知］ができるのは、定形サイズの用紙をセットしたときだけです。

4 コピー、またはプリントを指示します。

用紙の設定を変更する

用紙トレイの用紙を変更したら、セットした用紙の種類、用紙の色などを設定してください。また、非定形サイズの用紙をセットした場合は、用紙サイズも設定してください。

補足

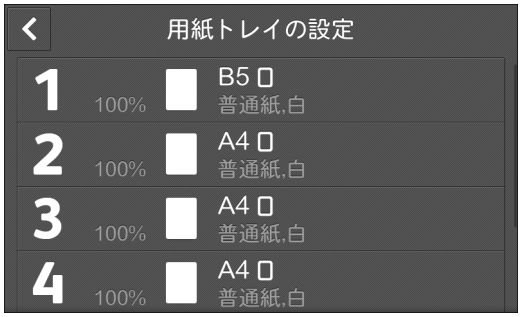
- ［自動トレイ切り替え］、［トレイの優先順位］、および［定形サイズボタン設定］は、機械管理者モードで設定できます。

参照

- ［共通設定］については、「［共通設定］」(P.263) を参照してください。

1 ホーム画面で、［設定］＞［用紙トレイ］をタップします。

2 用紙設定を変更するトレイをタップします。



3 用紙サイズをタップします。

補足

- 非定形サイズの用紙をセットした場合は、［サイズ入力］をタップして、用紙サイズを設定します。
- ［自動サイズ検知］を設定すると、用紙を自動的に認識します。

4 用紙の種類を変更する場合は、用紙の種類をタップして設定します。

5 用紙の色を変更する場合は、用紙の色をタップして設定します。

6 選択しているトレイの用紙がなくなったときに、自動的にトレイを切り替える場合は、［自動トレイ切り替え］をタップしてチェックマークを付けます。

7 自動トレイ選択時に同様の用紙設定で複数のトレイがセットされている場合、［トレイの優先順位］で優先順位を設定します。

8 トレイ 5（手差し）の場合は、［定形サイズボタン設定］が表示されます。用紙サイズを変更する場合に、頻繁に使用する用紙を上位に設定しておくと、より使いやすくなります。

9 ［OK］をタップします。

原稿をセットする

ここでは、原稿のセット方法について説明します。

- 原稿送り装置を使う場合

  1 枚もの

  複数枚の原稿

- 原稿ガラスを使う場合

  1 枚もの

  本などの冊子

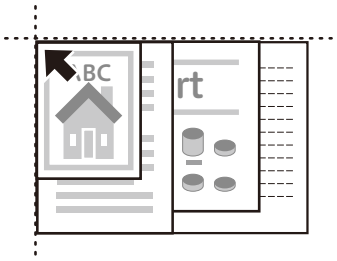
原稿送り装置

原稿送り装置には、最小が 125×85 mm（定形サイズの場合は、A5、A5⊐）、最大が 297×432 mm（定形サイズの場合は、A3、11×17"）の 1 枚ものまたは複数枚の原稿をセットできます。

定形サイズの原稿は、原稿サイズを自動検知できます。

注記

- 三角形の原稿検知部で原稿サイズを検知します。折りやしわが入っている原稿をセットした場合は、原稿が原稿検知部に接触しないと、正しくサイズを検知できないことがあります。
- 折り目、しわのある原稿、切り貼り原稿、カール紙、裏カーボン紙は、紙づまりの原因になりますので、原稿ガラスにセットしてください。
- うす紙原稿（38 ～ 49 g/m^2）の両面読み込みはできません。
- 原稿送り装置が正しく原稿サイズを検知できるように、原稿の左上の角をそろえてセットしてください。

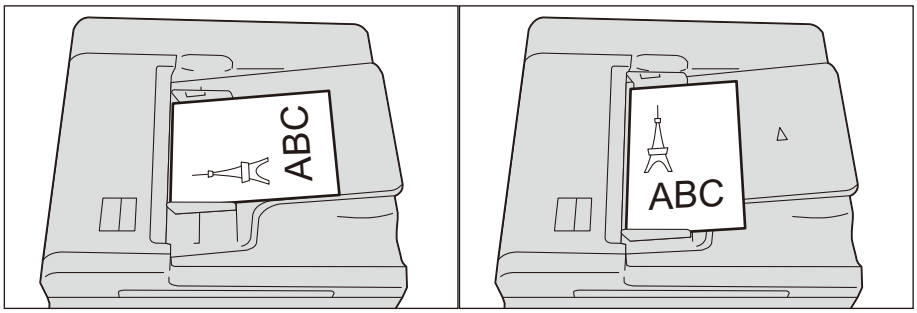


補足

- ファクス機能をお使いの場合、セットできる原稿の最大サイズは 297×600 mm（長尺）です。
- 自動検知できる原稿サイズは、機械管理者モードの［サイズ検知切り替え］の設定によって異なります。

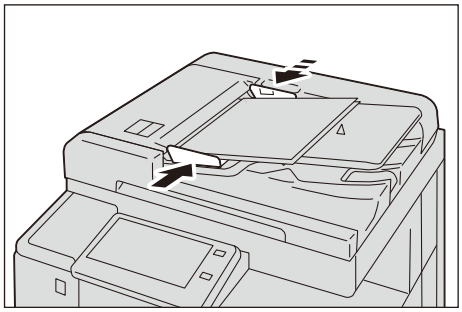
1 原稿をセットする前に、クリップやホチキスを外します。

2 読み取る面（両面原稿の場合はおもて面）を上に向けて、原稿送り装置の中央にセットします。



注記
- 原稿上限線（「MAX」の位置）を超える量の原稿をセットしないでください。紙詰まりや故障の原因になります。

3 原稿ガイドを移動して、原稿の両側に合わせます。



補足
- 原稿受けストッパーを開くと、原稿の落下を防止できます。

原稿ガラス

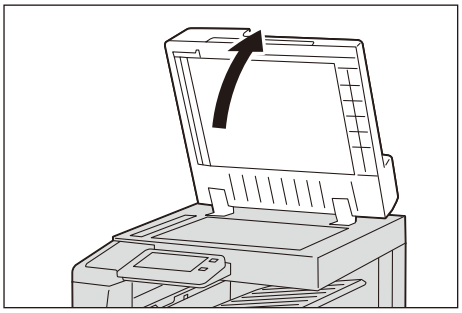
原稿ガラスには、最大で 297×432 mm（定形サイズの場合は、A3、11×17"）までの 1 枚もの、または本などの原稿をセットできます。

定形サイズの原稿は、原稿サイズを自動検知できます。

> ⚠**注 意**
>
> 書籍などの厚手の原稿をコピーするとき、原稿を強く押さえないでください。原稿ガラスが割れてケガの原因となるおそれがあります。

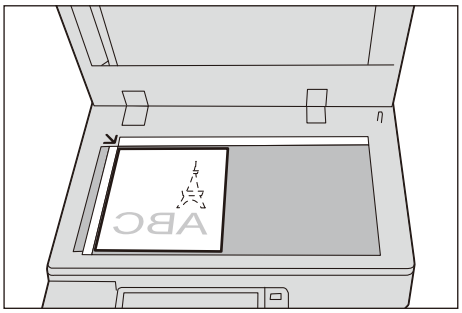
1 原稿カバーを開けます。

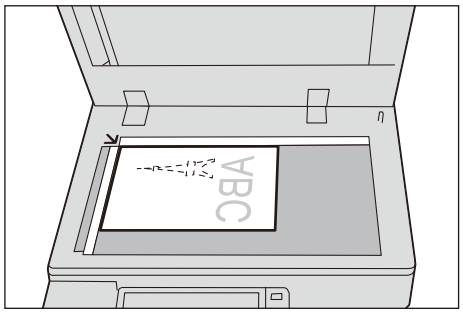
注記
- 画面が表示される前に原稿をセットすると、サイズを正しく検知できないことがあります。



2 読み取る面を下に向けて、原稿ガラスの左奥の角に合わせて原稿をセットします。

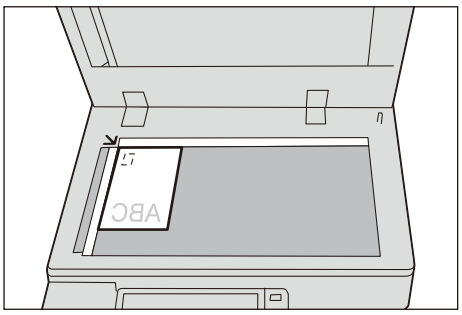
補足
- 原稿ガラスに、A5、B5、A4 などの原稿をたて置きにセットした場合、読み取られた画像は 180 度回転してファクス送信されます。



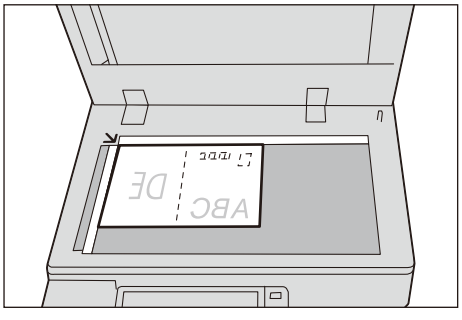


■はがきの場合

- 郵便はがき



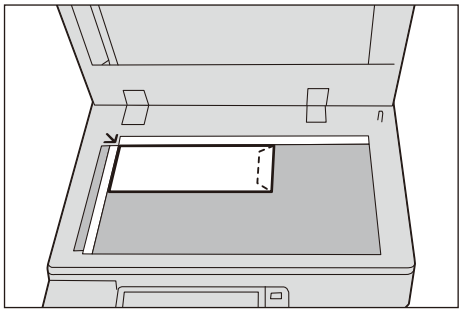
- 郵便往復はがき



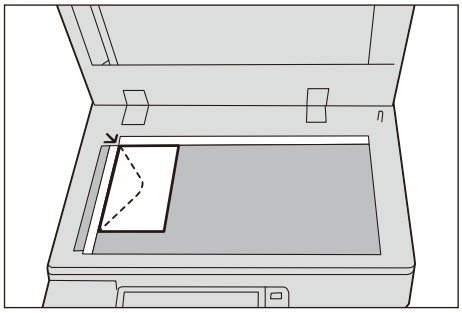
注記
- これ以外の向きにセットしてコピーする場合、原稿のイメージを回転させて、原稿と用紙のたてよこ方向を合わせる必要があります。詳しくは、「[自動画像回転]」(P.139) を参照してください。

■封筒の場合

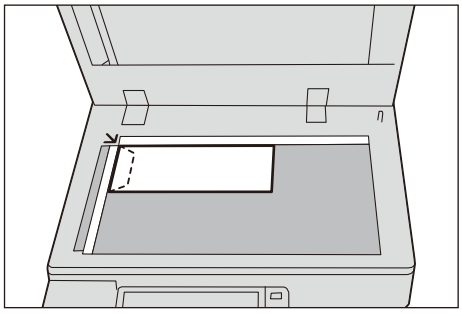
- 和封筒



- 洋封筒



- のりやシールが付いた封筒



用紙が封筒の場合は、用紙のセット方向に合わせて封筒をセットする必要があります。

- 用紙の封筒のフラップを給紙方向に向けてセットした場合
  原稿の封筒のフラップは、左に向けてセットします。
- 用紙の封筒の底辺を給紙方向に向けてセットした場合
  原稿の封筒のフラップは、右に向けてセットします。
- 用紙の封筒のフラップを給紙方向に向かって右に向けてセットした場合
  原稿の封筒のフラップは、原稿ガラスに向かって手前にセットします。

3 原稿カバーを閉じます。

定形サイズ以外の原稿をセットする

非定形の原稿を読み取る場合や、セットしている原稿とは異なるサイズで読み取りたい場合は、原稿をセットしてから、原稿サイズを指定します。

参照

- 詳しくは、次を参照してください。
  - コピー：「[原稿サイズ入力]」(P.137)
  - ファクス：「[読み取りサイズ]」(P.168)
  - スキャン：「[読み取りサイズ]」(P.204)

4
プリント

機能の紹介

プリント機能の概要について説明します。

本機では、次のようなプリント機能を利用できます。

■コンピューターからの指示でプリント

- プリンタードライバーを使ってプリント
- メールに添付した文書をプリント（メール受信プリント）
- CentreWare Internet Services を使ってプリント

■本機に蓄積したデータのプリント

- サンプルプリント
- 時刻指定プリント
- セキュリティープリント
- 認証プリント
- プライベートプリント

■USB メモリーに保存されたデータのプリント

- 文書プリント

■その他のプリントサービス

- モバイル機器からのプリント
- AirPrint
- Mopria®
- BMLinkS

最新ソフトウェアの入手方法について

プリンタードライバー、ファクスドライバー、ネットワークスキャナードライバー、ユーティリティーなどの、最新版のソフトウェアは、弊社公式サイトから入手できます。なお、通信費用はお客様の負担になりますので、ご了承ください。

次の URL にアクセスして、ダウンロードしてください。

https://www.fujixerox.co.jp/download/

コンピューターからの指示でプリント

プリンタードライバーを使ってプリント

参照
- プリンタードライバーの機能については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

プリントする

ここでは代表的なプリント手順を説明します。

補足
- プリンタードライバー画面の［用紙設定ガイド］をクリックすると、ナビゲーション画面が表示され、印刷する用紙に応じて必要な項目を設定できます。

1. プリントするファイルを開きます。
2. ［ファイル］メニューから、［印刷］を選択します。
3. 本機を選び、必要に応じて設定を変更し、［OK］をクリックします。
4. ［印刷］をクリックします。

プリントを中止する

実行中のプリントジョブを中止する方法を説明します。

1. ホーム画面で、［ジョブ情報］をタップします。
2. 中止するプリントジョブをタップします。
3. ［ストップ］をタップします。
4. ［中止］をタップします。

メールに添付した文書をプリント（メール受信プリント）

コンピューターや携帯電話などから文書を添付したメールを本機に送信したり、転送したりできます。受信したメールは、本機の設定に応じて自動的にプリントされます。

補足
- 本機が認証モードに設定されている場合は、自動的にプリントされません。
- 本機能を利用するには、メールアドレスの登録およびメール機能の設定が必要です。

コンピューターからメールを送信する

1 お使いのメールソフトで本文を作成し、添付文書がある場合は添付します。

補足

- メール本文がテキスト形式でも HTML 形式でも受信できます。ただし、HTML 形式で本文がプリントされるのは、HTML とテキストの両方の形式のデータを持つメール（マルチパートメール）だけです。テキスト形式のデータがない場合、本文はプリントされません。
- 添付ファイルの拡張子が「.tif」、「.tiff」、「.pdf」、「.jpeg」、「.jpg」、「.jpe」、「.jfif」、「.xps」、「.oxps」、「.xdw」、「.xbd」の場合は、プリントされます。
- 添付ファイルの拡張子が「.txt」の場合は、Content-Type に「text/plain」が指定され、charset が指定されている場合のみ、プリントされます。

参照

- 本機がサポートする Web メールであっても、送信方法によっては正しくプリントされないことがあります。詳しくは、「メール受信プリントのトラブル」(P.486) を参照してください。

2 宛先に本機のメールアドレスを入力します。

3 メールを送信します。

ジョブ属性を指定してメールプリントする

ジョブ属性を指定すると、用紙サイズなどを設定してメールプリントできます。
設定できるジョブ属性、項目、およびその指定方法は、次のとおりです。

ジョブ属性	指定できる項目	指定方法
両面 / 片面	片面	simp
	両面（長辺とじ）	dup
	両面（短辺とじ）	tumble
N-up[*1*2]（まとめて一枚）	1 アップ[*3]	1up
	2 アップ	2up
	4 アップ	4up
用紙サイズ[*2]	A3	a3
	B4	b4
	A4	a4
	B5	b5
	A5	a5
	レター（8.5 × 11"）	letter
	リーガル	legal

*1 :添付文書の拡張子が「.pdf」の文書は、［PDF エミュレーション設定］の［プリント処理モード］を［PS］に設定している場合、N-up 指定は無効となります。1 アップ以外を指定しても 1 アップでプリントされます。
*2 :メールヘッダー、メール本文、および添付文書の拡張子が「.txt」の場合、指定は無効となります。
*3 :[1アップ]を指定した場合は、出力サイズに印刷内容が収まるように、原稿を自動的に拡大縮小して印刷されます。

補足

- 本文と添付文書のジョブ属性は、個別に設定できません。転送メールの場合、本文とその添付文書、転送メールの本文とその添付文書のジョブ属性を個別に設定できません。添付文書は本文の設定に従ってプリントされます。
- 原稿サイズと用紙サイズが異なる場合、添付ファイルの種類により、拡大縮小されるものとされないものがあります。

1 お使いのメールソフトで本文を作成し、添付文書がある場合は添付します。

2 メールの件名の前に「@@ ジョブ属性 @@」と入力します。

ジョブ属性を複数指定する場合は、カンマ（,）で区切り、「@@ ジョブ属性（, ジョブ属性）(, ジョブ属性）@@」と入力します。

例）件名が「参考資料」で、モノクロ、両面（長辺とじ）、2 アップでプリントする場合

@@mono,dup,2up@@ 参考資料

補足

- ジョブ属性を指定するときに、大文字、小文字の区別はありません。
- ジョブ属性、カンマ（,）、およびアットマーク（@）は、半角で入力してください。

参照

- メール本文のプリントは、CentreWare Internet Services の［受信メールシートのプリント］でも設定できます。詳しくは、CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。

3 メールの件名を確認し、送信します。

CentreWare Internet Services を使ってプリント

ファイルをプリンタードライバーを使用せずにプリントできます。

補足

- CMYK の TIFF ファイルと JPEG（JFIF）ファイルには対応していません。

参照

- 詳しくは、CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。

1 CentreWare Internet Services を起動します。

2 ホーム画面下部の［プリント］をクリックします。

3 ［選択］をクリックして、ファイルを指定します。

4 必要に応じて［プリント設定］を設定します。

5 ［プリント実行］をクリックします。

本機に蓄積したデータのプリント

サンプルプリント

複数の部数をプリントする場合、試しに 1 部だけプリントして内容を確認したあと、残りの部数を本機側からプリントできます。

ここでは、保存された文書のプリント、および削除方法について説明します。

補足

- プリント指示はプリンタードライバーから行います。プリント方法については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。
- サンプルプリントは、［認証 / プライベートプリントの設定］の［受信制御］の設定によっては利用できません。詳しくは、「［受信制御］(P.364) を参照してください。

1 ホーム画面で、［ジョブ情報］をタップします。

補足

- カスタマイズ機能を利用して、［サンプルプリント］をホーム画面に表示させることもできます。詳しくは、「カスタマイズ機能について」(P.83) を参照してください。

2 画面下部の［サンプルプリント］をタップします。

補足

- ［サンプル / 時刻指定プリント］と表示されている場合は、［サンプル / 時刻指定プリント］＞［サンプルプリント］をタップしてください。
- ［その他の文書］の表示がある場合は、［その他の文書］＞［サンプルプリント］をタップしてください。

3 文書が保存されているフォルダーをタップします。

4 プリントする文書をタップして、チェックマークを付けます。

補足

- 文書を削除する場合は、文書を選んで［削除］をタップします。
- 複数の文書を選択した場合、文書は選択順にプリントされます。
- USB ポートから入力されたダイレクトプリントジョブのプレビュー画像は生成されません。

参照

- ボタン操作については、「共通の操作ボタンの説明」(P.79) を参照してください。

5 プリントするときは、部数を入力します。

補足

- 表示されている部数は、プリンタードライバーで設定した部数から 1 部差し引かれた部数です。

6 ［プリント］をタップします。

サンプルプリント文書をプリントします。残り部数をプリントしたあと、文書は削除されます。

補足

- ［プリント時の確認画面表示］が［しない］に設定されている場合は、確認画面は表示されずに、プリント後に文書は自動的に削除されます。詳しくは、「［プリント時の確認画面表示］(P.298) を参照してください。

時刻指定プリント

指定された時刻に自動的に印刷を開始します。印刷待機中（指定したプリント時刻より前）に本機の電源を切った場合、指定時刻が過ぎたジョブは、次に本機の電源を入れた直後に自動的に印刷が開始されます。

ここでは、保存された文書を指定時間前にプリント、および削除方法について説明します。

補足

- プリント指示はプリンタードライバーから行います。プリント方法については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。
- 時刻指定プリントは、［認証 / プライベートプリントの設定］の［受信制御］の設定によっては利用できません。詳しくは、「[受信制御]」(P.364) を参照してください。

1 ホーム画面で、［ジョブ情報］をタップします。

補足

- カスタマイズ機能を利用して、［時刻指定プリント］をホーム画面に表示させることもできます。詳しくは、「カスタマイズ機能について」(P.83) を参照してください。

2 画面下部の［時刻指定プリント］をタップします。

補足

- ［サンプル / 時刻指定プリント］と表示されている場合は、［サンプル / 時刻指定プリント］＞［時刻指定プリント］をタップしてください。
- ［その他の文書］の表示がある場合は、［その他の文書］＞［時刻指定プリント］をタップしてください。

3 プリントする文書をタップします。

補足

- 文書を削除する場合は、文書を選んで［削除］をタップします。
- USB ポートから入力されたダイレクトプリントジョブのプレビュー画像は生成されません。

参照

- ボタン操作については、「共通の操作ボタンの説明」(P.79) を参照してください。

4 ［プリント］をタップします。

時刻指定プリントで保存されている文書をプリントします。プリントしたあと、文書は削除されます。また、手動でプリント指示をすると、予定時刻になってもプリントされません。

補足

- ［プリント時の確認画面表示］が［しない］に設定されている場合は、確認画面は表示されずに、プリント後に文書は自動的に削除されます。詳しくは、「[プリント時の確認画面表示]」(P.298) を参照してください。

セキュリティープリント

プリント文書に暗証番号を設定して本機に保存します。操作パネルで暗証番号を入力したときだけプリントできるので、機密文書をプリントする場合に便利です。

ここでは、保存された文書のプリント、および削除方法について説明します。

補足

- プリント指示はプリンタードライバーから行います。プリント方法については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。
- セキュリティープリントは、［認証 / プライベートプリントの設定］の［受信制御］の設定によっては利用できません。詳しくは、「［受信制御］(P.364) を参照してください。

1 ホーム画面で、［ジョブ情報］をタップします。

補足

- カスタマイズ機能を利用して、［セキュリティープリント］をホーム画面に表示させることもできます。詳しくは、「カスタマイズ機能について」(P.83) を参照してください。

2 画面下部の［セキュリティープリント］をタップします。

3 対象のユーザーをタップします。

補足

- ユーザーに が表示されている場合は、プリンタードライバーで指定した暗証番号の入力が必要です。暗証番号を入力して、［OK］をタップしてください。

4 プリントする文書をタップして、チェックマークを付けます。

補足

- 文書を削除する場合は、文書を選んで［削除］をタップします。
- 複数の文書を選択した場合、文書は選択順にプリントされます。

参照

- ボタン操作については、「共通の操作ボタンの説明」(P.79) を参照してください。

5 プリントするときは、部数を入力します。

6 ［プリント］をタップします。

プリントしたあとの文書処理の選択画面が表示されます。

補足

- ［プリント時の確認画面表示］が［しない］に設定されている場合は、確認画面は表示されずに、プリント後に文書は自動的に削除されます。詳しくは、「［プリント時の確認画面表示］(P.298) を参照してください。

認証プリント

認証プリントは、本機にユーザーを認証させることにより、不正なプリントをさせない機能です。

プリンタードライバーで蓄積用ユーザー ID を設定したジョブは、蓄積用ユーザー ID ごとに保存されます。プリンタードライバーで蓄積用ユーザー ID が設定されていないジョブは、［(ユーザー ID なし)］に保存されます。

ここでは、保存された文書のプリント、および削除方法について説明します。

補足

- 認証プリントは、Coinkit（別売）または Dispenser（別売）による不特定ユーザーのプリント課金に向いています。また、プライベートプリントには保存できない、ユーザー ID なしのジョブ（ContentsBridge、CentreWare Internet Services を使用したプリント、メールプリントなど）も認証してプリントできます。
- プリント指示はプリンタードライバーから行います。プリント方法については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。
- 認証プリントは、［認証 / プライベート プリントの設定］の［受信制御］の設定によっては利用できません。詳しくは、「［受信制御］」(P.364) を参照してください。

参照

- 本機でユーザー ID を設定するには、「［ユーザー登録 / 集計確認］」(P.355) を参照してください。
- 認証プリントの設定方法は、「［認証 / プライベートプリントの設定］」(P.364) を参照してください。

1 認証モードにログインします。

2 ホーム画面で、［ジョブ情報］をタップします。

補足

- カスタマイズ機能を利用して、［認証プリント］をホーム画面に表示させることもできます。詳しくは、「カスタマイズ機能について」(P.83) を参照してください。

3 画面下部の［認証プリント］をタップします。

補足

- ［その他の文書］の表示がある場合は、［その他の文書］＞［認証プリント］をタップします。

4 対象のユーザーをタップします。

補足

- ユーザーに が表示されている場合は、暗証番号の入力が必要です。暗証番号を入力して、［OK］をタップしてください。

5 プリントする文書を選びます。

補足

- 文書を削除する場合は、文書を選んで［削除］をタップします。
- 複数の文書を選択した場合、文書は選択順にプリントされます。
- Coinkit（別売）と Dispenser（別売）を接続している場合は、全文書および複数文書の選択ができません。1 文書ずつ選択し、プリントまたは削除の指示をしてください。
- USB ポートから入力されたダイレクトプリントジョブのプレビュー画像は生成されません。

参照

- ボタン操作については、「共通の操作ボタンの説明」(P.79) を参照してください。

6 プリントするときは、部数を入力します。

7 ［プリント］をタップします。

プリントしたあとの文書処理の選択画面が表示されます。

補足

- ［プリント時の確認画面表示］が［しない］に設定されている場合は、確認画面は表示されずに、プリント後に文書は自動的に削除されます。詳しくは、「［プリント時の確認画面表示］」(P.298) を参照してください。

プライベートプリント

プリントを指示したデータを一時的に認証用ユーザー ID ごとに蓄積させ、プリントしたいときに本機側の指示でプリントできます。必要な文書だけ選択してプリントできるため、無駄な出力を抑えることができます。また、認証されたユーザーの文書およびユーザーに関連づけられたサブユーザーの文書しか本機に表示されないため、プライバシーの保護を図ることができます。機械管理者によって管理されている特定ユーザーの認証 / 集計管理に向いています。

ここでは、保存された文書のプリント、および削除方法について説明します。

補足

- 認証ユーザーのユーザーID にサブユーザーを関連づける機能を利用するには、別途アプリケーションが必要です。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。
- プリント指示はプリンタードライバーから行います。プリント方法については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。
- プライベートプリントは、ユーザーID 認証のほかに、カード認証や、カード認証とユーザーID 認証の併用でも使用できます。詳しくは、「認証の種類について」(P.389) を参照してください。

1 認証モードにログインします。

2 ホーム画面で、［ジョブ情報］をタップします。

3 画面下部の［プライベートプリント］をタップします。

4 プリントする文書を選びます。

補足

- 文書を削除する場合は、文書を選んで［削除］をタップします。
- 複数の文書を選択した場合、文書は選択順にプリントされます。
- USB ポートから入力されたダイレクトプリントジョブのプレビュー画像は生成されません。

参照

- ボタン操作については、「共通の操作ボタンの説明」(P.79) を参照してください。

5 プリントするときは、部数を入力します。

6 ［プリント］をタップします。

プリントしたあとの文書処理の選択画面が表示されます。

補足

- ［プリント時の確認画面表示］が［しない］に設定されている場合は、確認画面は表示されずに、プリント後に文書は自動的に削除されます。詳しくは、「［プリント時の確認画面表示］」(P.298) を参照してください。

プライベートプリント（一括出力）

プライベートプリントに保存された文書を、一度にプリントします。

1 認証モードにログインします。

2 ホーム画面で、[プライベートプリント（一括出力)] をタップします。

保存された文書がすべてプリントされます。

プリントが終了すると、自動でホーム画面に戻ります。

補足

- 正常にプリントされた文書は削除されます。
- 一度の操作で、100 文書までプリントできます。最新の文書から順にプリントされます。
- [ジョブ情報] 画面やジョブ履歴レポートでは、プライベートプリントのジョブとして扱われます。

■プライベートプリント（一括出力）の制限事項

- 本機能の利用中は、ジョブの割り込みはできません。
- 使用できない状態のフィニッシャーの機能を指定してプリントすると、自動的に指定が解除されてプリントされます。
- IC カードリーダー（オプション）以外の機器を接続している場合は、利用できません。
- 認証機能を利用していない場合は、利用できません。
- エラー画面が表示された状態で何も操作しないと、自動リセットが実行されて認証が解除されます。このとき、自動リセット後の画面を [ホーム] に設定していない、かつ [デバイスへのアクセス] を [制限する] に設定していない場合は、次のユーザーが認証したときに、エラージョブがプリントされることがあります。
- 外部認証で認証システムが「Authentication　Agent」以外の場合、サービスの利用制限が適用されません。この場合、プリントの利用を制限していても、[プライベートプリント（一括出力)] が利用できます。

USB メモリーに保存されたデータのプリント

USB メモリーを本機に接続して、USB メモリーに保存されたデータをプリントします。この機能をメディアプリントと呼びます。

注記

- USB メモリー内のデータは、次のような理由により消失、破損するおそれがありますので、必ず内部のデータをバックアップしてからご使用ください。なお、お客様のデータ消失による直接、間接の損害につき、弊社はその責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
  - マニュアルに記載された方法以外で USB メモリーの抜き差しをしたとき
  - 静電気や電気的ノイズの影響を受けたとき
  - 故障、修理などのとき
  - 天災による被害を受けたとき
- 著作権保護機能付きの音楽データなどのバックアップできないデータが保存されたメディアは使用しないでください。データの破損・消失による直接・間接の損害につき、弊社は一切の責任を負いかねます。

補足

- 文書プリントでは、市販のシングルスロットタイプのメモリーカードリーダーを使用できますが、動作保証はできません。マルチスロットのメモリーカードリーダーでは、特定の 1 つのスロットだけしか使用できません。どのスロットを使用できるかはリーダーの機種ごとに異なり、お客様が使いたいメディア / メモリーカードのスロットを複合機では使えない場合があります。また、動作保証はできません。
- CentreWare Internet Services での設定によっては、本機能を使用できないことがあります。

参照

- USB メモリーの取り外しについては、「USB メモリーの取り外し」(P.121) を参照してください。

対応ファイル

対応ファイルは次のとおりです。

- PDF ファイル（拡張子：pdf、PDF1.3 以上）
- TIFF ファイル（拡張子：tif、MH/MMR 圧縮、8 ビットグレースケール（非圧縮、PackBits 圧縮、JPEG 圧縮）、8 ビット RGB インデックスカラー（非圧縮、PackBits 圧縮）、24 ビット RGB カラー（非圧縮、PackBits 圧縮、JPEG 圧縮））
- XPS ファイル（拡張子：xps、oxps）
- DocuWorks 文書（拡張子：xdw）
- DocuWorks バインダー文書（拡張子：xbd）
- JPEG（JFIF）ファイル（拡張子：jpg、グレースケール（8 ビット）、カラー（24 ビット、sRGB 色空間））

注記

- フォルダーの数が 900 個を超えるメディアは、正しく認識されないことがあります。
- ファイルのフルパス（すべての階層のフォルダー名、およびファイル名を含んだ文字列）が 257 文字を超える場合は、表示されません。
- ファイル名に、本機でサポートしていない文字が含まれる場合は、画面に表示されないことがあります。

補足

- メディアプリントで処理できるファイル数は、900 ファイルです。
- メディア内のファイル数や容量によっては、プリントに数分から数十分かかることがあります。
- メディアプリントで PDF ファイルをプリントする場合、［PDF エミュレーション設定］の［プリント処理モード］の設定にかかわらず、［PDF Bridge］が使用されます。
- メディアは、コンピューターでフォーマットしたものを使用してください。対応しているフォーマットは FAT12、FAT16、FAT32 のみです。NTFS、exFAT フォーマットには対応していません。

- メディアは、最大容量が 128 GB までのものを使用してください。
- ファイル名に機種依存コードを使用している場合は、ファイル認識や画面表示が正しく行われない場合があります。
- CMYK の TIFF ファイルと JPEG（JFIF）ファイルには対応していません。
- 次の USB メモリーは対象外です。
  - USBメモリーのコンテンツにアクセスするために別途ユーティリティが必要なメディアパーティションが複数ある USB メモリー
  - 外付けのハブを介して接続した USB メモリー

文書プリント

1 USB メモリー差込口に、USB メモリーを差し込みます。

補足
- 節電中の場合は、節電状態を解除してから USB メモリーを差し込んでください。
- USB メモリーを差し込んだ状態のときは、ホーム画面で、[USB] をタップして、手順 3 へ進みます。

2 ［確認］をタップします。

3 ［文書プリント］をタップします。

4 対象フォルダーからプリントする文書をタップします。

補足
- ［文書プリント］画面が表示されたら、［文書を追加する］をタップしてください。
- 複数の文書をプリントまたは削除する場合は、チェックボックスにチェックマークを付けます。

5 必要に応じて、各機能を設定します。

参照
- 詳しくは、「機能リスト」(P.122) を参照してください。

6 ［プリント］をタップします。

USB メモリーの取り外し

注記
- USB メモリー内のデータへのアクセス中やプリント中に USB メモリーを取り外すと、USB メモリー内のデータを破壊する場合があります。
- 本機の電源を切るときには、メディアを取り出してから行ってください。

USB メモリーは、次の手順で取り外してください。

1 設定画面の をタップします。

2 ［はい（取り出す）］をタップします。

3 USB メモリーを取り外します。

機能リスト

補足

- 機能によって、表示される項目が異なります。

[部数]

部数を入力します。

[用紙選択]

用紙トレイを選びます。[自動] を選ぶと、適切な用紙トレイが選択されます。

[両面プリント]

用紙の両面にプリントするかどうかを設定します。

[まとめて 1 枚（N アップ)]

2 枚、4 枚、8 枚の原稿を 1 枚にまとめてプリントします。プリント時のレイアウトや原稿のセット向きを指定します。

[スムージング]

画像部分の回転および拡大縮小に伴う補正処理をして、画質を向上させるかどうかを指定します。

その他のプリントサービス

モバイル機器からのプリント

Print Utility（Android OS/iOS）や AirPrint（iOS）、Mopria（Android OS）で、モバイル機器から本機にプリントできます。ここでは、Android 端末から Print Utility を使って、プリントする例を説明します。

補足

- Print Utility for AndroidはGoogle Playから、Print Utility for iOSはApp Storeから無料でダウンロードできます。
- モバイル機器の操作方法については、モバイル機器の取扱説明書を参照してください。
- Print Utility については、弊社公式サイトをご覧ください。

1 ［Print Utility］を起動します。

2 ［プリント］をタップし、プリントしたい項目を選択します。

3 ［印刷設定］をタップします。

4 ［プリンター未登録］をタップし、本機を選択して［閉じる］をタップします。

5 ［プリント］をタップします。

補足

- 本機が表示されない場合は、[IP アドレス指定に切り替える] をタップして、本機の Wi-Fi Direct の IP アドレスを設定してください。IP アドレスは、「手動接続する（Android OS/iOS）」(P.53) の手順を参照して確認してください。

NFC 機能でプリントする

モバイル機器が NFC タッチプリントに対応している場合は、操作パネルの NFC タッチエリアにタッチするだけで自動的にプリントできます。

本機の NFC 機能を利用するには、CentreWare Internet Services の設定が必要です。

■NFC の設定を有効にする

1 CentreWare Internet Services を起動して、機械管理者モードにログインします。

2 左側のメニューから［ネットワーク］をクリックします。

3 ［インターフェイス設定］の［NFC］をクリックします。

4 ［有効］にチェックマークを付けます。

5 ［保存］をクリックします。

補足

- 設定を反映するには再起動が必要です。画面の指示に従って、再起動してください。

AirPrint

AirPrint は、Apple Inc. が提供する印刷サービスです。プリンタードライバーや特別なソフトウェアをインストールすることなく、iPad/iPhone などの iOS 搭載端末や macOS/OS X のコンピューターから指示した文書を、お使いの機械でプリントできます。また、macOS/OS X のコンピューターからファクスやスキャンを指示することもできます。

補足
- AirPrint の最新の情報については、Apple Inc. の公式サイトを参照してください。

iBeacon for Printers を有効にする

AirPrint を使ってプリントしたりスキャンしたりするときに、iOS 端末の［アクション］>［プリント］>［プリンタ］で近くにある本機を選択できるようにします。PIN の入力などは必要ありません。

iBeacon for Printers 機能を使用すると、異なるサブネットに接続されているために Bonjour で見つけることのできない本機を検索できます。

1. CentreWare Internet Services を起動して、機械管理者モードにログインします。
2. ［ネットワーク］>［Bluetooth］をクリックします。
   ［Bluetooth low energy］画面が表示されます。
3. ［ポート（Bluetooth low energy)］にチェックマークを付けます。
4. ［iBeacon for Printers］にチェックマークを選択します。
5. ［保存］をクリックします。

補足
- 設定を反映するには再起動が必要です。画面の指示に従って、再起動してください。

AirPrint の設定を有効にする

1. CentreWare Internet Services を起動して、機械管理者モードにログインします。
2. 左側のメニューから［ネットワーク］をクリックします。
3. ［モバイルプリント設定］の［AirPrint™］をクリックして、［有効］にチェックマークを付けます。

補足
- USB で接続しているときは、［AirPrint］の［USB 接続］にもチェックマークを付けます。

4. 必要に応じて、各機能を設定します。
5. ［保存］をクリックします。

補足
- 設定を反映するには再起動が必要です。画面の指示に従って、再起動してください。

■コンピューター側の設定（macOS/OS X のみ）

AirPrint を使用する場合は、あらかじめお使いの機械をコンピューターに登録しておく必要があります。

補足
- USB接続を経由してAirPrintを使用する場合は、本機とコンピューターをUSBケーブルで接続すると自動的に登録されるため、この設定は不要です。

1. ネットワークに接続されたコンピューターで、[Apple] メニュー> [システム環境設定] をクリックします。
2. [プリンタとスキャナ] をクリックします。
3. [+]（追加）をクリックします。

補足
- [+]（追加）をクリックしたときにドロップダウンメニューが表示された場合は、[プリンタまたはスキャナを追加] を選択してください。

4. [名前] の一覧から本機を選択します。

補足
- ネットワーク内のプリンターが自動的に検出されて [名前] の一覧に表示されます。表示されない場合は、本機とコンピューターのネットワーク設定を確認してください。

5. [ドライバ] > [Secure AirPrint] または [AirPrint] > [追加] をクリックします。

[プリンタとスキャナ] 画面の [プリンタ] および [ファクス] の項目に本機が追加されます。

プリントする

■iOS からプリントする

ここでは iPad を例に、iOS からプリント指示する手順を説明します。

1. プリントする文書を開きます。
2. メニューから [プリント] をタップします。
3. [プリンタを選択] をタップします。
4. 本機を選び、プリント設定をします。
5. [プリント] をタップします。

■macOS/OS X からプリントする

1. プリントする文書を表示します。
2. [ファイル] メニュー> [プリント] をクリックします。
3. [プリンタ] で本機を選択し、プリント設定を確認して、[プリント] をクリックします。

補足
- 本機で対応していないプリント設定は選択できません。

ファクスする

macOS/OS X からファクス指示する手順を説明します。

1 ファクスする文書を表示します。

2 ［ファイル］メニュー>［プリント］をクリックします。

3 ［プリンタ］>［XXXX（本機の名前）- Fax］をクリックします。

4 宛先を入力し、その他の設定を必要に応じて行います。

5 ［ファクス］をクリックします。

スキャンする

macOS/OS X からスキャン指示する手順を説明します。

注記
- コンピューターを操作するために、原稿をセットしたまま本機から離れる場合は、十分に注意してください。他のユーザーが誤って本機を操作した場合やコンピューターからスキャンを指示した場合、原稿の紛失および情報漏えいのおそれがあります。

  できるだけ、本機に近い場所でコンピューターの操作をしてください。また、複合機から離れているときに、セットした原稿を他人が触れることがないようご注意ください。スキャン完了後は、すべての原稿が揃っていることを確認してください。

1 スキャンする原稿を原稿送り装置または原稿ガラスにセットします。

補足
- 原稿は左向きにセットしてください。原稿をセットする向きは変更できません。

2 ［Apple］メニュー>［システム環境設定］をクリックします。

3 ［プリンタとスキャナ］>［スキャン］>［スキャナを開く］をクリックします。

4 ［スキャン］をクリックします。

Mopria プリントサービス

Mopria プリントは Android 搭載のスマートフォンやタブレット（Android 4.4 以降）から、Mopria 認証を受けたプリンターに接続してプリントできるサービスで、特別な設定をすることなく利用できます。

はじめに Google Play ストアから、Mopria プリントサービスのアプリケーションを、お使いの Android 機器にダウンロードしてインストールします。

プリント時はモバイル機器を本機と同じネットワークに接続するか、Wi-Fi Direct 機能を使って本機に接続します。

補足
- 認証 / 集計管理機能を有効にしているときは、CentreWare Internet Services の［認証 / 集計 / 権限］>［権限設定］>［アクセス制限設定］>［ユーザー指定なしプリント］を［制限しない］に設定する必要があります。

本機に Mopria プリントサービスを設定する

1. CentreWare Internet Services を起動して、機械管理者モードにログインします。
2. 左側のメニューから［ネットワーク］をクリックします。
3. ［モバイルプリント設定］の［Mopria］をクリックして、［オン］をクリックします。
4. ［保存］をクリックします。

補足
- 設定を反映するには再起動が必要です。画面の表示に従って、再起動してください。

Mopria プリントサービスでプリントする

参照
- 詳しくは、次の URL を参照してください。
  http://mopria.org/

BMLinkS

BMLinkS は、JBMIA が推進しているオフィス機器インターフェイスです。

本機は、仕様環境 BMLinkS 2013 に準拠し、JBMIA による BMLinkS 認証を受けています。

BMLinkS 対応プリンターなら、機種およびメーカーを問わずプリントできます。印刷データの暗号化や認証プリント、出力可能な機器の検索なども利用できます。使用するには、プリンタードライバーが必要です。プリンタードライバーとマニュアルを次のアドレスからダウンロードしてください。

http://bmlinks-committee.jbmia.or.jp/

5

コピー

機能の紹介

コピー機能について説明します。

■コピー

詳細な機能を設定してコピーできます。

参照

- 詳しくは、「コピーの基本操作」(P.131) を参照してください。

■ID カードコピー

ID カードなど、おもてとうらを 1 枚の用紙に並べてコピーできます。

参照

- 詳しくは、「ID カードコピー」(P.134) を参照してください。

コピーの基本操作

1 原稿をセットします。

参照
- 原稿のセット方法については、「原稿をセットする」(P.104) を参照してください。

2 ホーム画面で、［コピー］をタップします。

3 必要に応じて、各機能を設定します。

参照
- 各機能の設定については、「機能リスト」(P.135) を参照してください。

4 部数を入力します。

5 ［スタート］をタップします。

補足
- ジョブの状態は、［ジョブ情報］画面で確認できます。詳しくは、「ジョブ情報」(P.245) を参照してください。

コピー中の操作

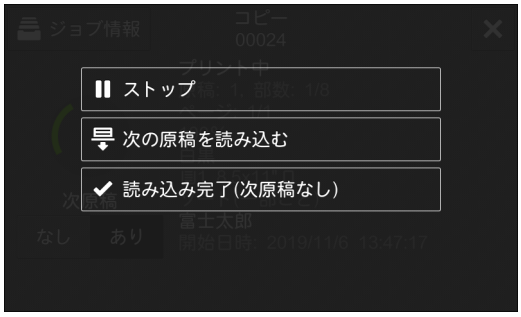
コピーを中止する

1 ［ストップ］をタップします。

2 ［中止］をタップします。

次の原稿を続けてコピーする

機能リストで［次原稿］にチェックマークを付けたときの操作を説明します。
次の確認画面が表示されます。



1 前の原稿の読み込みが終了したら、次の原稿をセットします。

2 ［次の原稿を読み込む］をタップします。

3 すべての原稿を読み込んだら、［読み込み完了（次原稿なし)］をタップします。

ジョブの状況を確認する

ジョブの状況を確認したり、ジョブを中止したりできます。

1 ［ジョブ情報］をタップします。

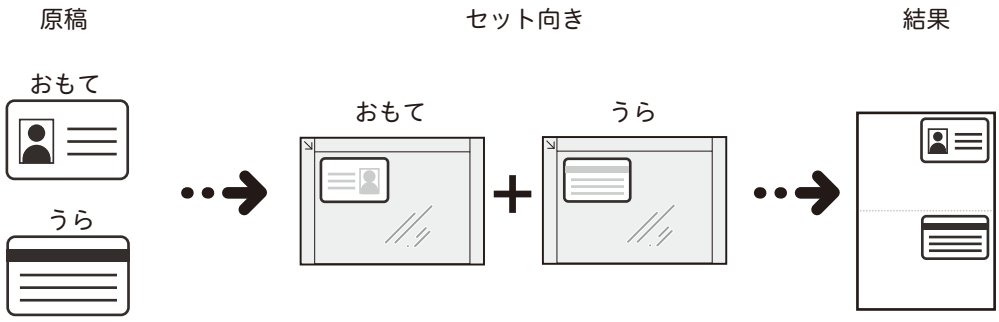
［ジョブ情報］画面が表示されます。

参照

- ジョブ情報については、「ジョブ情報」(P.245) を参照してください。

ID カードコピー

ID カードのように原稿サイズを自動で検知できない原稿を、おもてとうらの両面を 1 枚の用紙に並べてコピーできます。



1 原稿カバーを開きます。

2 原稿ガラスの上端および左端から最低 5 mm 離した位置に、コピーする面を下にして ID カードをセットします。

補足

- 原稿ガラスの上端および左端に ID カードを近づけすぎると、ID カードの端を正しくコピーできないことがあります。

3 原稿ガラスを閉じます。

4 ホーム画面で、[ID カードコピー] をタップします。

5 必要に応じて、各機能を設定します。

参照

- 各機能の設定については、「機能リスト」(P.135) を参照してください。

6 [スキャン] をタップします。

ID カードのおもて面の読み込みが完了すると、カードを裏返すように促すメッセージがタッチパネルディスプレイに表示されます。

7 原稿ガラスの上端および左端から最低 5 mm 離した位置に、コピーする面を下にして ID カードをセットします。

8 原稿ガラスを閉じます。

9 [スキャン] をタップします。

機能リスト

補足

- ご利用の機種および機能によって、表示される項目が異なります。
- 機能リストの設定を初期値に戻す場合は、画面下部の［リセット］をタップしてください。

参照

- ［カスタマイズ］および［個人用カスタマイズ］については、「カスタマイズ機能について」(P.83)を参照してください。
- ［ワンタッチアプリの作成］については、「ワンタッチアプリについて」(P.88) を参照してください。

部数

コピーする部数を入力します。

［プリセット］

カスタマイズ機能でプリセットを登録すると表示されます。

［両面 / 片面選択］

原稿を用紙の両面にコピーするかどうかを設定します。

［用紙選択］

コピーする用紙がセットされた用紙トレイを選びます。

補足

- 登録した手差しトレイの用紙設定を選択できます。登録方法については、「［プリセットボタンの設定］」(P.294) を参照してください。
- 各用紙トレイの選択項目に表示されるアイコンで、用紙の残量を確認できます。

：用紙が 25 ～ 100% セットされていることを表します。

：用紙の残量が 25% 以下で、少なくなっていることを表します。

：用紙切れ、またはセットされていないことを表します。

［倍率選択］

コピーする倍率を設定します。

［自動%］を選ぶと、原稿サイズと用紙サイズから、適切な倍率を設定します。

［他の倍率］を選ぶと、倍率を直接入力したり、たてとよこにそれぞれ異なった倍率を設定したりできます。

■［他の倍率］＞［定形変倍 / ズーム］を選択した場合

あらかじめ設定されている定形の倍率を選んだり、倍率を直接入力します。

■［他の倍率］＞［たてよこ独立変倍］を選択した場合

たてとよこに異なる倍率を指定して、たて長やよこ長に変形します。

■[他の倍率] > [寸法指定変倍] を選択した場合

たてとよこをそれぞれ異なる寸法で指定します。

原稿のサイズとコピー後のサイズをそれぞれ指定すると、自動的にたてとよこの倍率が計算されます。

補足

- [原稿の寸法] と [コピー寸法] は、倍率を計算するために入力する項目です。[原稿の寸法]、[コピー寸法] で入力した値は、原稿の読み取りサイズや用紙サイズには反映されません。必ず、原稿の読み取りサイズを設定してください。

[ちょっと小さめ]

画像が欠けないように、選択した倍率よりも少しだけ縮小してコピーします。

注記

- [ちょっと小さめ] を選択してもわく消しされる場合があります。原稿わくを消したくないときは、わく消し量を 0mm に指定してください。なお、わく消し量を 0mm にすると、原稿によってはコピーの端が汚れたりすることがあります。わく消し量は、[わく消し] で設定できます。

[まとめて 1 枚 (N アップ)]

2 枚、4 枚、8 枚の原稿を 1 枚にまとめてコピーします。コピー時のレイアウトや原稿のセット向きを指定します。

補足

- [まとめて 1 枚 (N アップ)] を選択すると、自動的に [倍率選択] の [自動 %] が選択されます。本機が自動的に倍率を設定して、選択した用紙に画像が収まるようにコピーします。
- [倍率選択] で [自動 %] を解除した場合 (倍率を選択し直した場合)、原稿の画像サイズによっては、画像が欠けることがあります。
- コピー位置を設定した場合、まとめられた原稿全体に対して移動が実行されます。そのため、原稿の画像サイズによっては、画像が欠けることがあります。
- [わく消し] を設定した場合、まとめる原稿に対してそれぞれ、わく消しが実行されます。
- [用紙選択] で [自動] が表示される機種の場合は、[自動] 以外を選択してください。[用紙選択] が [自動] の場合は、自動的に [自動解除時のトレイ] で設定した用紙トレイが選択されます。必要に応じて変更してください。詳しくは、「[自動解除時のトレイ]」(P.294) を参照してください。

[コピー濃度]

コピーの濃度を調整します。

[ホチキス]

ホチキスで留める位置を設定します。

注記

- セットした原稿の向きと、[原稿セット向き指定] の設定が同じになっているか、確認してください。

[仕分け]

用紙の排出方法を設定します。

[パンチ]

パンチ穴を開ける位置を設定します。

注記

- セットした原稿の向きと、[原稿セット向き指定] の設定が同じになっているか、確認してください。

[オフセット排出]

区切りがわかるように用紙の排出位置を交互にずらして排出します。

[原稿の画質]

原稿の種類に合わせて画質タイプを設定します。

[ミックスサイズ原稿送り]

いろいろなサイズの原稿を一度に読み取って、それぞれのサイズにコピーしたり、1つのサイズにそろえてコピーしたりできます。この機能を使う場合は、原稿送り装置に原稿をセットします。

注記

- 原稿はよこ置きにセットしてください。ただし、A5 の原稿は必ずたて置きにセットしてください。
- B5の原稿を、A4たて置きまたはA3の原稿と一緒にセットする場合、B5の原稿はたて置きにしてください。
- 紙づまりの原因になるので、左上の角をきちんとそろえてセットしてください。
- 推奨する組み合わせは、A4 たてと A3 よこ、B5 たてと B4 よこです。推奨以外の組み合わせでは、原稿が斜めに引き込まれるなどして正しく読み取れないことがあります。

[原稿セット向き指定]

原稿の上の部分を指示するために原稿のセット向きを設定します。

補足

- 実際の原稿の向きと［原稿セット向き指定］の設定が合っていないと、原稿の上の部分を本機が間違って認識します。

[原稿サイズ入力]

本機では、原稿サイズを自動で検知します。非定形サイズの原稿を読み取るときや、異なるサイズでコピーするときは、サイズを指定できます。

注記

- 原稿送り装置にセットしている場合、たて方向（［Y］）の読み取るサイズの基点は、中央になります。たとえば、読み取りたいサイズを 100mm に指定すると、原稿の半分から上方向に 50mm、下方向に 50mm が読み取るサイズになります。

補足

- 原稿サイズを自動検知できないときは、原稿サイズを入力する画面が表示されます。

参照

- 自動検知できる原稿サイズは、機械管理者モードの［サイズ検知切り替え］の設定によって異なります。詳しくは、「[サイズ検知切り替え]」(P.291) を参照してください。

[シャープネス]

シャープさを調整します。

[地色除去]

新聞や下地（背景）に色がついている原稿の下地の色を除いてコピーします。

補足

- ［原稿の画質］の設定が［写真］の場合、この機能は働きません。

[ページ連写]

本などの冊子の見開きページを、別々の用紙にページ順にコピーします。

補足

- 定形サイズ以外の原稿やサイズを検知できない原稿などは、正確に 2 分割されないことがあります。
- 原稿は原稿ガラスにセットしてください。

[ブック両面]

製本された本などの見開きページを、原稿と同じ見開き状態になるようにページを割り当てて両面コピーします。また、見開きページの左右で開始ページと終了ページを指定したり、中央のとじ部分の影を消す範囲を指定したりできます。

補足

- 定形サイズ以外の原稿やサイズを検知できない原稿などは、正確に 2 分割されないことがあります。
- 原稿は原稿ガラスにセットしてください。

[わく消し]

原稿カバーを開いたままコピーしたり、冊子になっている原稿をコピーしたりするときに、用紙の周りや中央のとじ部分に黒い影ができることがあります。このような場合に、影を消してコピーします。

補足

- 両面原稿の場合は、原稿のおもて面とうら面に同じわく消し量が設定されます。
- [倍率選択] を設定している場合は、倍率に比例して、わく消し量も拡大 / 縮小されます。
- 製本機能のとじしろ量を設定している場合でも、わく消し量は影響を受けません。
- 両面原稿を原稿ガラスを使用してコピーする場合、[おもて面と対称] の指定は無効となります。自動原稿送り装置を使用するか、または自動原稿送り装置を使用できない原稿は、ビルドジョブを選択しておもて / うらで枠消し設定を変更してください。

参照

- わく消しの幅を [0mm] に設定しても全面コピーできません。実際にコピーできる領域については、「プリント可能領域」(P.526) を参照してください。

[コピー位置 / とじしろ]

原稿イメージの位置を上下左右へ移動したり、原稿の中心を用紙の中心へ移動したりしてコピーします。また、上下左右に余白（とじしろ）を付けて、コピーすることもできます。両面にプリントする場合は、[おもて面]、[うら面] それぞれに移動する位置を設定します。

補足

- イメージの移動量は、用紙に対して設定されます。倍率選択で拡大 / 縮小を設定していても影響を受けません。

[鏡像]

原稿イメージの左右を反転させてコピーします。

[ネガポジ反転]

原稿イメージを白黒に反転してコピーします。

補足

- [ネガポジ反転] と [わく消し] を同時に設定したとき、わく消し領域は「白」になります。

[自動画像回転]

セットした原稿と、用紙トレイにセットされている用紙のたてよこ方向が異なるときに、自動的に原稿のイメージを回転させて、原稿と用紙のたてよこを合わせてコピーします。また、たて原稿とよこ原稿が混在している場合、どこを基準に回転させるかを選択できます。

[製本]

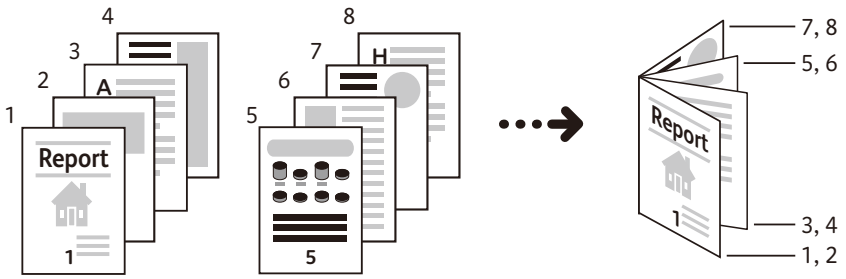
複数ページにコピーされた用紙を、冊子（中とじ冊子）になるようにページ順を割り付けてコピーします。また、製本するときに、中とじしろを設定したり、表紙を付けたりできます。

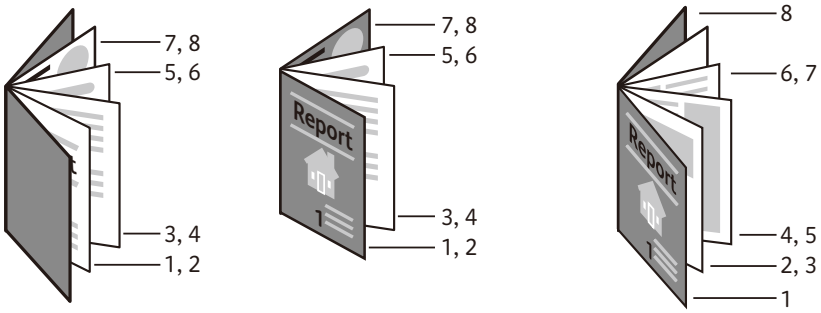
注記

- セットした原稿の向きと、[原稿セット向き指定] の設定が同じになっているか、確認してください。

補足

- 4 枚の原稿を 1 枚の用紙にコピーするので、原稿の枚数が 4 の倍数にならない場合は、残りのページは白紙ページになります。
- [用紙選択] が [自動] の場合は、自動的に [自動解除時のトレイ] で設定した用紙トレイが選択されます。必要に応じて変更してください。詳しくは、「[自動解除時のトレイ]」(P.294) を参照してください。





[表紙付け]

表紙を付けてコピーします。原稿の先頭ページに別の用紙（色紙 / 厚紙など）を使って、おもて表紙やうら表紙としてコピーできます。

■[おもて表紙]

◆[なし]

表紙を付けません。

◆[コピーしない]

白紙の表紙が付けられます。

◆[表1にコピー（おもて面）]

表紙のおもて面に原稿の 1 ページめをコピーします。

◆[表2にコピー（うら面）]

表紙のうら面に原稿の 1 ページめをコピーします。

◆[表1と表2にコピー（両面）]

表紙の両面に原稿の 1 ページめと 2 ページめをコピーします。

■[うら表紙]

◆[なし]

表紙を付けません。

◆[コピーしない]

白紙の表紙が付けられます。

◆[表3にコピー（おもて面）]

表紙のおもて面に原稿の 1 ページめをコピーします。

◆[表4にコピー（うら面）]

表紙のうら面に原稿の 1 ページめをコピーします。

◆[表3と表4にコピー（両面）]

表紙の両面に原稿の 1 ページめと 2 ページめをコピーします。

補足
- ［おもて表紙］と［うら表紙］の両方を設定した場合、うら表紙原稿を先に読み込ませてください。うら表紙原稿の次の原稿からおもて表紙原稿としてコピーします。

■用紙の選択

◆[用紙選択（おもて表紙）]

おもて表紙に使用するトレイを設定します。

◆[用紙選択（うら表紙）]

うら表紙に使用するトレイを設定します。

◆[用紙選択（本文トレイ）]

本文に使用するトレイを設定します。

補足
- 手差しトレイに設定する場合は、［用紙選択（おもて表紙）］および［用紙選択（うら表紙）］で手差しトレイを選択してください。手差しトレイを選択した場合は、［トレイ 5（手差し）］画面が表示され、用紙の設定ができます。

■[おもて表紙枚数（1 → 99 枚）]

［おもて表紙］を［コピーしない］に設定しているときに表示されます。白紙のおもて表紙の枚数を指定します。

■[うら表紙枚数（1 → 99 枚）]

［うら表紙］を［コピーしない］に設定しているときに表示されます。白紙のうら表紙の枚数を指定します。

[ポスター]

原稿を何枚かの用紙に分割して、拡大コピーします。

分割されたコピーを貼り合わせることで、大きなサイズのポスターが作成できます。コピーされた用紙には切り貼りができるように、のりしろ分があります。のりしろ分は、10 mm に固定されています。

注記
- セットした原稿の向きと、[原稿セット向き指定] の設定が同じになっているか、確認してください。

補足
- この機能は、原稿送り装置では使用できません。

[画像繰り返し]

1 枚の用紙に原稿イメージを指定した個数分だけ、繰り返してコピーします。

倍率が自動に指定されている場合、繰り返したイメージが選択した用紙に収まるようにコピーされます。また、原稿イメージの配置方法も指定できます。

補足
- [用紙選択] が [自動] の場合は、自動的に [自動解除時のトレイ] で設定した用紙トレイが選択されます。必要に応じて変更してください。詳しくは、「[自動解除時のトレイ]」(P.294) を参照してください。

[アノテーション]

用紙に、スタンプ、日付、ページ番号を付けてコピーします。

スタンプの種類や日付、ページ番号、印字位置は、あらかじめ用意されている形式から選択できます。

補足
- 拡大 / 縮小の設定をしても、アノテーションのイメージや文字の大きさは変更されません。
- [まとめて 1 枚 (N アップ)] を設定している場合は、合成後のイメージに対してアノテーションが付きます。
- [画像繰り返し]、[製本] を設定している場合は、個々のイメージに対してアノテーションが付きます。
- 機械管理者モードで [強制アノテーション] の [レイアウトテンプレートの関連付け] でレイアウトテンプレートを設定している場合、そのテンプレートに重なって、ここで設定するスタンプ、日付、ページ番号が印字されます。詳しくは、「[強制アノテーション]」(P.286) を参照してください。

[複製管理]

コピーされた用紙の背景全体に管理番号（部単位に連続した番号）を薄く印字できます。

たとえば、開始番号を「1」に設定すると、1 部めのすべてのページには「1」、2 部めのすべてのページには「2」が印字されます。

会議で配布する機密文書などの複写を抑制するため、配布するコピーと配布した人を関連づけるための通し番号として利用できます。

補足
- 機械管理者モードで [強制アノテーション] の [レイアウトテンプレートの関連付け] でレイアウトテンプレートを設定している場合、そのテンプレートに重なって、複製管理のデータが印字されます。詳しくは、「[強制アノテーション]」(P.286) を参照してください。
- [強制複製管理 - コピー] を [する] にすると、[複製管理] が [する] に固定され、変更できなくなります。詳しくは、「[複製管理]」(P.284) を参照してください。

[紙折り指定]

コピーした用紙を折って排出できます。

フィニッシャー B3 中とじユニット（オプション）を装着している場合は、コピーした用紙を二つ折りの折り目をつけて排出します。

補足

- 用紙の向きは、□限定となります。□にセットされている用紙トレイを選択してください。

■[しない]

紙折りをしません。

■[二つ折り]

二つ折りにして製本トレイに排出します。

■[二つ折り（折り目）]

フィニッシャー B3 中とじユニット（オプション）を装着している場合に表示されます。

二つ折りの折り目をつけます。

■[印字位置指定]

◆[内側に印字]

二つ折りをした結果、イメージが内側になるようにコピーします。

◆[外側に印字]

二つ折りをした結果、イメージが外側になるようにコピーします。

[ダブルコピー]

1 枚の原稿を、1 枚の用紙上に指定した枚数に合わせて均等分割して、同じ画像を繰り返しコピーします。枚数は、[2 枚]、[4 枚]、[8 枚] から選択できます。

補足

- [倍率選択] で [自動 %] 以外を設定した場合、原稿の画像サイズによっては、画像が欠けることがあります。

[ビルドジョブ]

原稿のページまたは束ごとに設定を変更して保存しながら、最終的に 1 つのジョブとして、異なる設定の原稿をまとめてコピーします。

[サンプルコピー]

コピーを複数部で設定したときに、1 部をコピーして、できあがり状態を確認してから残りをコピーします。確認してから残りの部数のコピーを続けるか、コピーを中止するか選択できます。また、部数の変更もできます。サンプルコピーの 1 部は、部数に含まれます。

補足

- 1 部をコピーしたあと、放置したまま [自動リセット] の時間が経過すると、残りのコピーを開始するかどうかを設定できます。詳しくは、「[ジョブ一時停止後の処理]」(P.293) を参照してください。

参照

- 自動リセットについては、「[ジョブ自動解除]」(P.277) を参照してください。

[フォーム合成]

1 枚めの原稿を合成用のフォーム原稿として蓄積し、2 枚め以降の原稿と合成してコピーします。

[抽出 / 削除]

領域を指定して、その部分を抽出または削除してコピーします。原稿上の 2 点を指定して、領域を設定してください。領域は、3 か所まで指定できます。また、抽出または削除する原稿面も指定できます。

[次原稿]

原稿送り装置に一度にセットできない枚数の原稿をコピーするときや、原稿ガラスを使用して複数の原稿を 1 つのジョブとしてコピーするときに設定します。

[次原稿] を設定すると、原稿読み取りの確認画面が表示され、次原稿のあり、なしを指定できます。

補足

- 原稿送り装置を使っているときは、最初にセットした原稿をすべて読み取ってから、次の原稿をセットします。

6
ファクス

機能の紹介

ファクス機能について説明します。

■ファクス

通常のファクス機能です。詳細な機能を設定してファクスできます。

参照

- 詳しくは、「ファクスの基本操作」(P.147) を参照してください。

■インターネットファクス

インターネットを経由して、本機で読み取ったデータなどを電子メールの添付文書として送受信する機能です。

参照

- 詳しくは、「インターネットファクス」(P.153) を参照してください。

■IP ファクス（SIP）

IP ネットワーク（イントラネット）に接続された機器同士で通信できます。

参照

- 詳しくは、「IP ファクス（SIP）」(P.157) を参照してください。

■ダイレクトファクス

ファクスドライバーを使用して、コンピューターから直接ファクス送信できます。

参照

- 詳しくは、「ダイレクトファクス」(P.159) を参照してください。

■その他

macOS/OS X のコンピューターから AirPrint でファクスを指示することもできます。

参照

- 詳しくは、「AirPrint」(P.124) を参照してください。

ファクスの基本操作

1 原稿をセットします。

参照
- 原稿のセット方法については、「原稿をセットする」(P.104) を参照してください。

2 ホーム画面で、［ファクス］をタップします。

補足
- IP ファクスを送信する場合は、キーボードの［IP ファクス］を選択します。詳しくは、「IP ファクス（SIP）」(P.157) を参照してください。

3 ［宛先を入力してください。］をタップして、宛先を指定します。

宛先は、キーボード入力、ワンタッチボタン、アドレス帳（）、またはリダイヤル（）で指定します。

補足
- 複数の宛先を指定する場合は、宛先の入力エリアをタップします。
- アドレス帳で宛先を検索すると、本体アドレス帳だけでなくディレクトリサービスからも検索できます。ディレクトリサービスを利用するには、LDAP サーバーおよびディレクトリサービスの設定が必要です。詳しくは、「[LDAP サーバー / ディレクトリサービス設定]」(P.345) および「[ディレクトリサービス]」(P.323) を参照してください。
- ワンタッチボタンで指定する場合は、宛先をワンタッチボタンに登録する必要があります。詳しくは、「[ワンタッチボタン設定]」(P.328) を参照してください。
- 指定した宛先を修正したり、削除したり、アドレス帳に追加したりするときは、該当する宛先をタップします。詳しくは、「指定した宛先を編集する」(P.149) を参照してください。
- IP ファクス（SIP）が利用可能な状態の場合、［ファクス］と［IP ファクス］を選択できます。
- G3 増設ポートキット 3（オプション）を装着している場合には、回線（ポート）を指定して送信できます。キーボードまたは［回線選択］から回線を選択できます。詳しくは、「[回線選択]」(P.165) を参照してください。

■パスワード送信について

誤送信を防ぐために、パスワード送信機能が利用できます。受信側の機器に送信側の機器の G3ID（ファクス番号）が登録されている場合に利用できます。回線接続時に受信側から送られてくる G3ID と宛先の S 以降に設定された番号を比較して、一致した場合だけ送信します。

入力例：受信側ファクス番号 +S+ 受信側に登録されている G3ID

「03012345678S03087654321」

補足
- 受信側の機器に登録されている G3ID にハイフンなど数字以外の記号が含まれている場合は、次のように入力します。

  入力例：登録されている G3ID が「03-8765-4321」の場合、「S4321」と入力します。

4 ［完了］をタップします。

補足
- 複数の宛先を入力する場合は、［次宛先］をタップしてください。

5 必要に応じて、各機能を設定します。

参照
- 詳しくは、「機能リスト」(P.165) を参照してください。

6 ［送信］をタップします。

補足
- 設定によっては、［送信］をタップしたあとに、再度宛先を入力する画面が表示されることがあります。送信先に指定した宛先を、もう一度入力してください。
- 機能リストの［プレビュー］にチェックマークを付けると、［送信］から［プレビュー］にボタン表示が変わります。
- 機能リストの［オンフック（手動送信 / 受信）］にチェックマークを付けると、［送信］から［ダイヤル］にボタン表示が変わります。
- ファクスしたジョブの状態は、［ジョブ情報］、または［通信管理レポート］で確認できます。詳しくは、「ジョブ情報」(P.245) を参照してください。

参照
- 未送信文書を保存するには、機械管理者モードでの設定が必要です。詳しくは、「［ファクス未送信時の文書保存］」(P.312) を参照してください。
- 未送信文書の再送信および削除方法は、「未送信文書の再送信 / 削除」(P.178) を参照してください。

指定した宛先を編集する

補足

- 宛先の形式によって、表示される項目は異なります。

通信モードを指定する

キーボードを使って宛先を直接入力した場合に設定できます。

1 入力した宛先をタップします。

2 [G3]または[4800bps]をタップします。

参照

- 詳しくは、「[通信モード]」(P.167) を参照してください。

指定した宛先を削除する

1 削除したい宛先をタップします。

2 [リストから削除]をタップします。

3 [はい（削除する）]をタップします。

指定した宛先を修正する

キーボードで直接入力した場合に利用できます。

1 修正したい宛先をタップします。

2 [編集]をタップします。

3 宛先を修正して、[完了]をタップします。

入力した宛先をアドレス帳に登録する

キーボードを使って宛先を直接入力した場合に利用できます。

1 登録する宛先をタップします。

2 ［アドレス帳に追加］をタップします。

3 登録方法をタップして、アドレス帳に登録します。

参照
- アドレス帳については、「アドレス帳」(P.229) を参照してください。

宛先の詳細を確認する

1 確認する宛先をタップします。

2 ［詳細］をタップします。

ファクス中の操作

読み込み画面で次の操作ができます。

ファクスを中止する

1 ［ストップ］または［中止］をタップします。

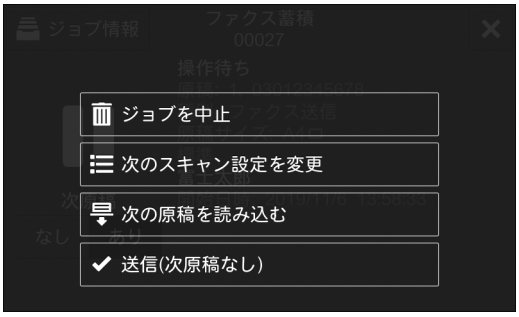
次の原稿を続けて読み込む

1 ［次原稿］の［あり］をタップします。

補足

- 機能リストで［次原稿］にチェックマークを付けると、手順 2 の画面が表示されます。

2 確認画面が表示され、次の操作ができます。



■次原稿を読み込む

1) 次の原稿をセットします。

2) ［次の原稿を読み込む］をタップします。

■次原稿の設定を変更する

1) 次の原稿をセットします。

2) ［次のスキャン設定を変更］をタップします。

3) 機能リストの設定を変更します。

参照

- 機能リストについては、「機能リスト」(P.165) を参照してください。

4) ［スキャン］をタップします。

3 すべての原稿を読み込んだら、[送信（次原稿なし）]をタップします。

ジョブの状況を確認する

1 [ジョブ情報]をタップします。

[ジョブ情報]画面が表示されます。

参照

- ジョブ情報については、「ジョブ情報」(P.245) を参照してください。

インターネットファクス

インターネットファクスとは、電話回線を経由するファクス通信とは異なり、企業内ネットワークやインターネットを経由して、本機で読み取ったデータなどを電子メールの添付文書として送受信する機能です。

また、インターネットファクスダイレクトは、SMTP サーバーを経由しないで、インターネットファクス対応機へ直接送信できます。

補足

- 添付文書のファイル形式は、TIFF 形式です。
- インターネットファクスでは、通信モード、優先通信、時刻指定、送信シート、F コード通信、親展通信、ポーリング、手動送信、親展ボックスへの振り分け（ボックスセレクター）、ダイレクトファクスは使用できません。ただし、通信モードと F コード通信は、ファクスゲートウェイ機能を使用した場合に設定できます。ファクスゲートウェイ機能については、「中継局を介してインターネットファクスを一般のファクスに送信する」(P.155) を参照してください。
- インターネットファクス とインターネットファクスダイレクトは、両方を有効にできません。利用状況に応じて、機械管理者モードで切り替えてください。詳しくは、「[送信経路]」(P.320) を参照してください。

インターネットファクスを送信する

1 原稿をセットします。

2 ホーム画面で、[インターネットファクス] をタップします。

3 [宛先を入力してください。] をタップして、宛先を指定します。

宛先は、キーボード入力、アドレス帳（）、またはリダイヤル（）で指定します。

注記

- 一般のメールで使用する CC、BCC、Reply-to 機能は使用できません。
- ファクス番号を指定した場合は、エラーになり送信できません。

補足

- インターネットファクスダイレクトの宛先は、次の方法で指定します。
  - ホスト名を指定

    例：local-part@device.domain.jp
    @の右側が FQDN であることが必要です。
  - IP アドレスを指定

    例 :local-part@[192.0.2.1]
    @の右側に、[ ] で囲った IP アドレスを入力します。

4 ［完了］をタップします。

5 必要に応じて、各機能を設定します。

参照
- 各機能の設定については、「機能リスト」(P.165) を参照してください。

6 ［送信］をタップします。

補足
- 機能リストの［プレビュー］にチェックマークを付けると、［送信］から［プレビュー］にボタン表示が変わります。
- インターネットファクス送信中に本機のストレージがいっぱいになった場合は、送信が中止され、文書は削除されます。
- 本機種以外のインターネットファクス対応機に送信した場合、送信先でプリントされないことがあります。受信側のインターネットファクス機能を確認して送信してください。

インターネットファクスを受信する

■受信方法

本機は、インターネットファクス対応機から本機に宛てたメールを受信すると、自動的に受信文書をプリントします。

また、「BOX123@myhost.example.com」のように、メールアドレスに親展ボックスを指定したメールも受信できます。

■プリントされるサイズ

受信したインターネットファクスは、基本的に送信側の送信原稿と同じサイズでプリントされます。

補足
- プロファイルに［TIFF-S］が選択されている場合は、A4 となります。
- 送信原稿と同じサイズの用紙がセットされていない場合や、受信した文書をプリントする用紙トレイを限定している場合の処理などは、通常のファクス文書の受信処理と同じです。

便利な機能を使う

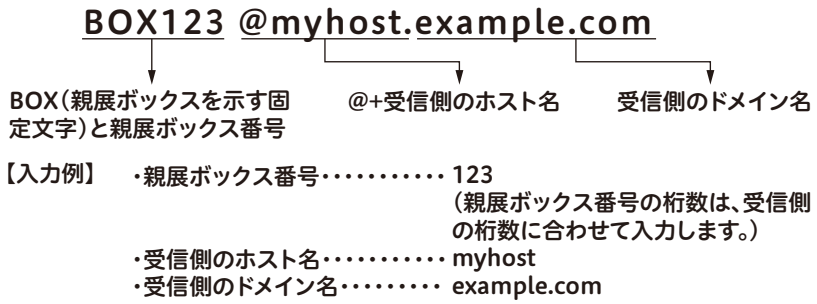
メールアドレスを使って親展ボックスに送信する

参照

- この機能は、受信側が SMTP 受信の場合にだけ使用できます。受信側にパスワードを設定していない親展ボックスが登録されている必要があります。親展ボックスの登録方法は、「ボックスの登録」(P.210) を参照してください。

1 ホーム画面で、[インターネットファクス] をタップします。

2 受信側のメールアドレスを次のように入力します。



中継局を介してインターネットファクスを一般のファクスに送信する

特定の形式でメールアドレスを指定することによって、ネットワーク上の本機から、一般のファクス（インターネットファクス機能を持たないファクス）にファクス文書を送信できます。

この機能では、ネットワークに接続されたインターネットファクス対応機（ファクスゲートウェイ）までは、インターネット経由でメールとして送信されます。インターネットファクス対応機で、受信したメールをファクス文書に変換し、指定したファクスに送信します。

注記

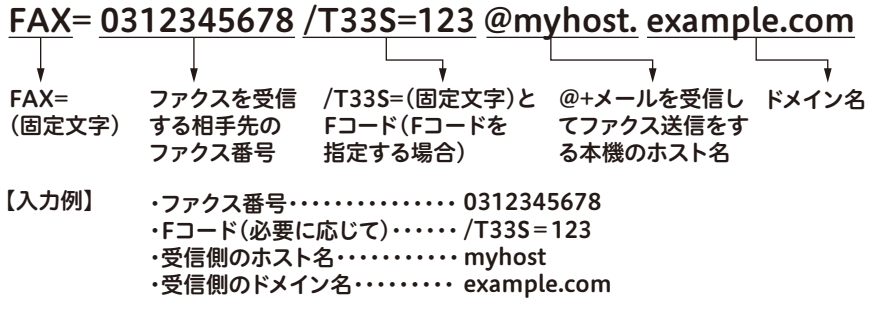
- この機能は、ファクスゲートウェイのメール受信方法が SMTP の場合にだけ使用できます。

補足

- [通信モード] の指定は、ファクスゲートウェイから送信先ファクスの間の通信モードに適用されます。

1 ホーム画面で、[インターネットファクス] をタップします。

2 受信側のメールアドレスを次のように入力します。



親展ボックスに蓄積された文書を転送する

親展ボックスに蓄積されたファクス文書を、自動的にメールの添付文書として転送できます。

参照

- ボックスセレクター機能の設定方法は、「[受信文書の保存先 / 排出先]」(P.316) を参照してください。

インターネットファクスの転送機能を使うためには、次の操作が必要です。

- ファクスを送信する側

  FAX 信号方式（弊社独自の通信手順）、F コード方式、DTMF 方式を使って親展送信します。

- 親展ボックスにファクスを受信し、インターネットファクスを転送する側

  転送先を指定したジョブフローを作成し、作成したジョブフローを親展ボックスに関連づけます。

補足

- 転送できる宛先は、100 か所までです。
- 「親展ボックス番号」と「暗証番号」は、ファクス送信側で必要となります。設定内容を送信側に知らせてください。

参照

- ジョブフローの作成方法は、「ジョブフロー」(P.219) を参照してください。

IP ファクス（SIP）

IP ファクス（SIP）を利用すると、企業内の IP ネットワーク（イントラネット）に接続された機器同士で通信したり、NTT が提供するひかり対応ゲートウェイを経由して、次世代ネットワーク（NGN）対応機種同士で通信できます。

企業内ネットワーク（イントラネット）を利用する

企業内の IP ネットワーク（イントラネット）を経由して、イントラネットに接続された機器同士で文書の送受信ができます。また、イントラネット内の VoIP ゲートウェイを経由すれば、イントラネットの外に送信できます。

補足

- IP ファクス（SIP）機の通信は、イントラネット内に設置された弊社、および株式会社リコーの SIP 対応 IP ファクス搭載複合機種間で交信性を確認しています。

参照

- IP ファクス（SIP）の設定については、「IP ファクス（SIP）の設定」(P.57) および「[SIP 設定]」(P.341) を参照してください。

次世代ネットワーク（NGN）を利用する

次世代ネットワーク（NGN）とは、従来の公衆電話回線網がもつ信頼性や安定性を確保しながら、IP ネットワークの柔軟性や経済性を取り入れた情報通信ネットワークです。

補足

- 弊社および他社の NGN 対応機種と、IP ファクス（SIP）通信が可能です。送信相手が NGN 通信に対応していない場合は、G3 ファクス通信することもできます。
- 次世代ネットワーク（NGN）の設定については、「[次世代ネットワーク（NGN）設定]」(P.341)、「[SIP 設定]」(P.341) および「IP ファクス（SIP）の設定」(P.57) を参照してください。

IP ファクス（SIP）を送信する

1. 原稿をセットします。
2. ホーム画面で、[ファクス] をタップします。
3. キーボードの [IP ファクス] をタップします。
4. 宛先を指定します。

   補足

   - IP ファクス（SIP）の宛先は、次の方法で指定します。
     - 電話番号の入力例：0312345678
     - IP アドレスの入力例：local-part@192.0.2.1
   - IP ファクス（SIP）の場合、送信先のファクスの種類や IP ファクス（SIP）の接続構成によって、宛先の入力形式が異なります。
5. [完了] をタップします。
6. 必要に応じて、各機能を設定します。

   参照

   - 各機能の設定については、「機能リスト」(P.165) を参照してください。

7 ［送信］をタップします。

IP ファクス（SIP）を受信する

受信した文書は一般のファクスのように自動的にプリントされます。

参照

- 親展受信した文書の操作方法は、「受信について」(P.176) を参照してください。

ダイレクトファクス

ファクスドライバーをインストールすると、アプリケーションソフトウェアで作成した文書を、コンピューターから直接ファクス送信できます。この機能を「ダイレクトファクス」といいます。

参照
- ダイレクトファクス機能については、ファクスドライバーのヘルプを参照してください。

ダイレクトファクスするための準備

コンピューターにファクスドライバーをインストールします。

参照
- ファクスドライバーのインストール方法は、付属の「ソフトウェア / 製品マニュアル」ディスク内の『メディア情報』を参照してください。

ダイレクトファクスを送信する

ダイレクトファクス送信の手順は、お使いのアプリケーションソフトウェアによって異なります。詳しくは、各アプリケーションソフトウェアのマニュアルを参照してください。

1 アプリケーションソフトウェアの［ファイル］メニューから、［印刷］を選択します。

2 使用するファクス用プリンターを選択します。

3 ［詳細設定］をクリックします。

4 ［ファクス送信］タブで、宛先を指定します。

参照
- 宛先の指定方法については、「宛先を指定する」(P.160) を参照してください。

補足
- G3 増設ポートキット 2（オプション）を装着し、本機の［内線設定］で内線に使用する回線を選択している場合は、［通信設定］をクリックして表示される画面で、［外線 / 内線］のドロップダウンリストから [外線] または [内線] を選択すると、外線または内線の専用ポートが割り当てられます。詳しくは、ファクスドライバーのヘルプを参照してください。

5 必要に応じて、各項目を設定します。

6 ［OK］をクリックします。

7 ［印刷］ダイアログボックスで、［印刷］をクリックします。

8 ［ファクス送信の設定 / 確認］ダイアログボックスで内容を確認し、［送信開始］をクリックします。

宛先を指定する

宛先の指定には、次の方法があります。

- 本機のアドレス帳から直接指定する

  [宛先表から追加] > [本体の宛先表を参照する] を選び、表示される宛先一覧から宛先を指定します。

- ファクス宛先表ツールで作成した宛先表から指定する

  [宛先表から追加] > [宛先表ファイルを参照する] を選び、使用する宛先表ファイル（fxt 形式）を指定します。表示される宛先一覧から宛先を指定します。

- ファクス番号を直接入力する

  [宛先種別] で [ファクス] を選択し、[宛先番号 / アドレス] にファクス番号を入力します。

  [宛先種別] で [ファクス] または [IP ファクス (SIP)] を選択し、[宛先番号 / アドレス] にファクス番号または IP ファクスアドレスを入力します。

注記

- 本機能を利用する前に、SOAP 通信が有効であることを確認してください。詳しくは、「[SOAP]」(P.333) を参照してください。
- 本機を共有プリンターとして利用している場合など、ダイレクトファクス指示をするコンピューターと本機が直接通信できない場合は、本機能を利用できません。本機の運用環境については、機械管理者にお問い合わせください。
- 本機の認証方式が [本体認証] の場合、あらかじめファクスドライバーに認証情報を設定しておく必要があります。詳しくは、ファクスドライバーのヘルプを参照してください。
- ファクスドライバーのプロパティ画面の [初期設定] タブ> [認証情報の設定] で、[ジョブごとに認証の入力画面を表示する] を選択した場合、本機能は利用できません。本機能を利用するには、[常に同じ認証情報を使用する] を選択してください。
- 本体のアドレス帳に登録されている宛先に [送信画質] と [時刻指定] が設定されていても、ダイレクトファクスで使用するときは、無視されます。ファクスドライバーの [送信画質] および [時刻を指定して送信する] の設定が適用されますのでご注意ください。
- 本機能を利用する場合は、本体のアドレス帳に登録されている宛先に、[送信シート] > [添付する] を設定しないでください。ファクスドライバーの [送信シートを付ける] 設定と指示が重複すると、二重に送信シートが送付されてしまいます。本体宛先表の登録宛先に送信シートが添付されているかどうかは、「連絡先リスト」で確認できます。連絡先リストについては、「[レポート / リストの出力]」(P.254) を参照してください。

ここでは、本機に登録されているアドレス帳を直接参照して、宛先を指定する方法を説明します。

1 ファクスドライバーの [ファクス送信] タブで、[宛先表から追加] をクリックします。

補足

- [前回参照先を使用] にチェックマークが付いている場合、2 回目以降は [宛先表の選択] 画面を表示せずに、手順 3 に進みます。

2 [本体の宛先表を参照する] を選択し、[OK] をクリックします。

補足

- 宛先の登録件数やネットワーク環境により、一定の時間が経過しても宛先表の取得が完了しないときは、自動的に宛先表の取得を中断します。この場合、その時点で取得済みのデータだけが [宛先表のデータの一覧] に表示されます。

3 宛先を選択し、[宛先へ追加] をクリックします。

4 [OK] をクリックすると、[ファクス送信] タブの [宛先の一覧] に宛先が追加されます。

ファクス宛先表ツールを利用する

ダイレクトファクス送信するときの宛先表を作成するツールです。あらかじめ宛先表に作成しておくと、送信時に宛先表から宛先を選択するだけで、送信準備ができます。

ファクス宛先表ツールのインストールについて

参照
- ファクス宛先表ツールのインストール方法は、付属の「ソフトウェア / 製品マニュアル」ディスク内の『メディア情報』を参照してください。

ファクス宛先表ツールの起動

ファクス宛先表ツールを起動するには、コンピューター側で次の操作を行います。

1 ［スタート］メニューから［プログラム］＞［Fuji Xerox］＞［ユーティリティ］＞［ファクス宛先表ツール］＞［ファクス宛先表ツール］をクリックします。

ファクス宛先表ツールの機能概要

ファクス宛先表ツールには、次のような機能があります。

- 1 つの宛先表ファイルに 9,999 件まで、宛先を登録できます。また、複数の宛先表ファイルを作成できます。必要に応じて任意の宛先表を読み込んで使用します。
- 同一原稿を一度に送信することが多い宛先をまとめて、1 つの宛先グループに登録できます。

注記
- CentreWare Internet Services を使用して取り出した CSV フォーマットのファイル（宛先表のデータ）は Excel などのソフトウェアを使用して編集 / 変更しないでください。取り出した機種によっては、登録時に警告メッセージが表示されずに本機に登録できてしまい、その結果、既存データが損なわれたり、改変されたデータによって意図しない送信先にファクスが送信されてしまうおそれがあります。

補足
- すでに作成した宛先表に宛先を追加する場合は、［ファイル］メニューの［宛先表を開く ...］をクリックして、表示する宛先表ファイル（拡張子が「.fxt」のファイル）を選択してください。

操作方法は、次のとおりです。

1 CentreWare Internet Services を起動します。

2 左側のメニューから［アドレス帳］＞［詳細設定］をクリックします。

3 ［アドレス帳のエクスポート］＞［はい（エクスポートする)］をクリックします。

4 ［保存］をクリックします。

5 ファイルの保存先を指定して、ファイルを保存します。

6 宛先表ツールを起動します。

7 ［ファイル］メニューから、［読み込み］＞［Internet Services 宛先表 CSV ファイル］を選択し、手順 5 で保存したファイルを指定します。

送信シートを付けて送信する

送信する原稿の先頭に表紙（送信シート）を付けることができます。送信シートには、標準フォームのほかに、任意に作成したフォームを指定できます。

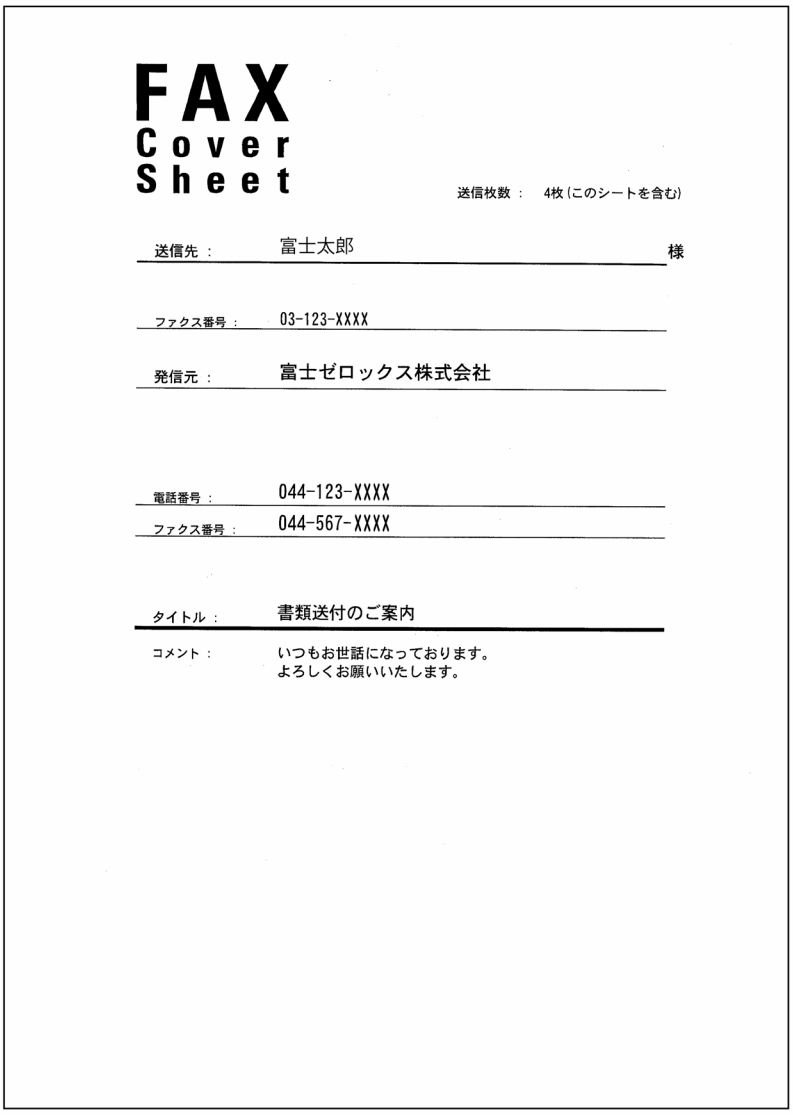
注記

- コンピューターから直接ファクスを送信するときに添付できる送信シートと、本機での設定によって添付できる送信シートは異なります。本機で添付する送信シートは、「[送信シート]」(P.169) を参照してください。

参照

- 送信方法、送信シートについては、ファクスドライバーのヘルプを参照してください。

標準の送信シートのプリント例


FAX
Cover
Sheet

送信枚数 : 4枚 (このシートを含む)

送信先 : 富士太郎 様

ファクス番号 : 03-123-XXXX

発信元 : 富士ゼロックス株式会社

電話番号 : 044-123-XXXX

ファクス番号 : 044-567-XXXX

タイトル : 書類送付のご案内

コメント : いつもお世話になっております。
よろしくお願いいたします。

送信シートを作成する

ダイレクトファクスで送信する原稿の先頭に付ける表紙（送信シート）を、任意のフォームで作成する手順を説明します。

参照

- プリンタードライバーおよびファクスドライバー画面について詳しくは、[ヘルプ] をクリックして表示されるヘルプを参照してください。

■フォームを作成する

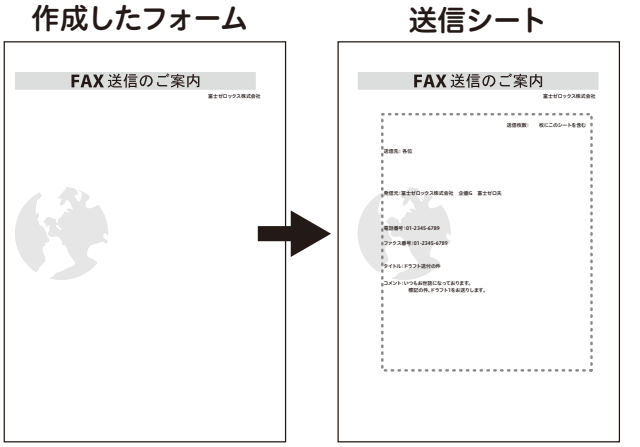
1 ［スタート］メニューから、［Windows システムツール］＞［コントロールパネル］＞［ハードウェアとサウンド］＞［デバイスとプリンターの表示］を選択します。

2 本機に該当するファクス機を右クリックして［印刷設定］を選択します。

3 ［ファクス送信］タブの［送信シートを付ける］にチェックマークを付けて、［送信シート設定］をクリックします。

4 ［送信シートの選択］で［ユーザーフォーム（アドレス表示あり）］または［ユーザーフォーム（アドレス表示なし）］を選択して、［テスト印刷］をクリックします。

5 テスト印刷の内容と重なってプリントされることに注意して、アプリケーションソフトウェアでフォームの原稿を作成します。



点線内は、宛名等と重なるエリアの目安です。

■フォームを登録する

1 作成したフォームを開いて、プリントを指示します。

2 プリンターの選択で本機の（ファクスドライバーではなく）プリンタードライバーを選択して、［印刷設定］を開きます。

3 ［プリントの種類］で［フォーム登録］を選択して、［編集］をクリックします。

4 ［フォーム名］と［フォルダー］を指定して、［OK］をクリックします。

5 プリンタードライバー画面を［OK］で閉じ、プリントを実行します。

■送信シートを付ける

1 ダイレクトファクスで送信する文書のプリントを指示します。

2 プリンターの選択で、本機のファクスドライバーを選択して、［印刷設定］を開きます。

3 ［ファクス送信］タブの［送信シートを付ける］にチェックマークを付けて、［送信シート設定］をクリックします。

4 ［送信シートの選択］で［ユーザーフォーム（アドレス表示あり）］または［ユーザーフォーム（アドレス表示なし）］を選択して、［フォーム選択］をクリックします。

5 登録したフォームを指定して、［OK］をクリックします。

6 ［送信シート］画面を［OK］で閉じます。

7 宛先を指定して、ダイレクトファクスを送信します。

機能リスト

補足
- ご利用の機種および機能によって、表示される項目が異なります。
- 機能リストの設定を初期値に戻す場合は、画面下部の［リセット］をタップしてください。

参照
- ［カスタマイズ］および［個人用カスタマイズ］の説明については、「カスタマイズ機能について」(P.83) を参照してください。
- ［ワンタッチアプリの作成］については、「ワンタッチアプリについて」(P.88) を参照してください。

［同報する］

誤同報送信の抑止として、複数宛先を指定する前に同報するかどうかの設定をします。

補足
- ［同報する］は［同報切り替えボタンの表示］が［する］に設定されている場合に表示されます。詳しくは、「[同報切り替えボタンの表示]」(P.311) を参照してください。

［回線選択］

G3 増設ポートキット 3（オプション）を装着している場合には、回線（ポート）を指定して送信できます。回線ごとに自局情報を登録できるため、回線を使い分けたいときに使用します。

補足
- ［回線選択］を表示するには、機械管理者モードの設定が必要です。詳しくは、「[ファクス回線選択の表示]」(P.310) を参照してください。
- キーボードでも回線を指定できます。
- 宛先種別が［インターネットファクス］または［IP ファクス（SIP)］の場合、［回線選択］で回線を選択できますが、設定は無効となり、選択した回線で送信することはできません。
- ユーザーによって任意の回線名を設定できます。詳しくは、「[ファクス回線選択の表示]」(P.310) を参照してください。

参照
- 自局情報の登録方法は、「[自局情報]」(P.317) を参照してください。

■機械管理者モードで内線が設定されていない場合

- 自動
- ファクス < 回線 N>

■機械管理者モードで内線が設定されている場合

- 自動
- 外線 < 回線 N>

補足
- 機械管理者モードで内線が設定されている場合は、内線を設定した回線は表示されません。内線設定については、「[内線設定]」(P.310) を参照してください。
- ［ファクス < 回線 N>］または［外線 < 回線 N>］を選択した場合は、指定したすべてのファクス宛先または外線宛先に、選択した回線で送信されます。指定した宛先の中に、宛先種別が内線に設定された宛先がある場合は、その宛先のみが内線で送信されます。

[プリセット]

カスタマイズ機能でプリセットを登録すると表示されます。

[プレビュー]

原稿の読み込み時に、読み込んだ原稿を確認します。

[プレビュー] にチェックマークを付けると、直前に読み込んだ原稿を表示します。

[両面原稿送り]

原稿送り装置を利用する場合に有効です。読み込む原稿の面を指定します。

[送信画質]

原稿を読み取るときの解像度を設定します。

[送信濃度]

送信濃度を調整します。

[原稿の画質]

文字の原稿、写真が入っている原稿など、原稿の内容に応じて画質を選択します。

[読み取り倍率]

読み取った原稿を指定した倍率に拡大 / 縮小して送信できます。

固定の倍率から選択するか、数値を入力して指定します。

注記

- 送信先によっては、指定した倍率で送信されないことがあります。

補足

- 倍率を指定した場合、自動回転送信機能は働きません。

[モニターレポート]

ファクスの送信結果を確認するには、モニターレポートを使用します。[モニターレポート] を設定しておくと、通信が正常に終了した場合にはモニターレポートが、通信が正常に終了しなかった場合には未送信レポートが、自動的にプリントされます。

インターネットファクスの送信結果を確認するには、開封確認（MDN）または配送確認（DSN）のどちらかを使用します。配送確認（DSN）は、送信した原稿が、最終宛先のメールボックスまで正しく送信されたかどうかを確認できます。

開封確認（MDN）は、送信した原稿が、最終宛先で添付ファイルの処理を含めて正しく処理されたかどうかを確認できます。

[開封確認（MDN）]

開封確認の機能を使用するかどうかを設定します。送信したインターネットファクスが正しく処理されたかどうかを確認できます。

補足

- 開封確認は、相手が MDN 機能に対応している場合に使用できます。配送確認は、相手が DSN 機能に対応している場合に使用できます。
- 開封確認と配送確認のどちらを使用するかは、機械管理者モードで設定できます。詳しくは、「[送達確認方式]」(P.321) を参照してください。

[配送確認（DSN)]

配送確認の機能を使用するかどうかを設定します。送信したインターネットファクスが宛先のメールボックスまで正しく送信されたかどうかを確認できます。

補足

- 開封確認と配送確認のどちらを使用するかは、機械管理者モードで設定できます。詳しくは、「[送達確認方式]」(P.321) を参照してください。
- 配送確認（DSN）によってメールの到着を確認できるのは、配送確認の機能に対応しているサーバーまでです。また、すべての送信経路にあるメールサーバーが、配送確認の機能に対応していない場合は配送確認できませんが、メール送信は通常どおり行われます。そのため、配送確認の結果が実際のメールの到着結果と異なることがあります。

[通信モード]

送信先の機能に応じて通信モードを選択します。

■[G3 自動]

送信先が G3 のときに選択します。通常はこの通信モードを選択します。

送信先の受信能力に応じて、G3 Unique ECM → G3 Unique → ITU-T G3 ECM → ITU-T G3 の優先順位で自動的に切り替わります。

■[4800bps]

雑音が多い、声が小さいなど、電話回線の状態が良くない地域の場合に選択します。

補足

- [4800bps] を選択すると、より確実に送るために伝送速度が 4,800 bps 以下になり、通信時間が長くかかることがあります。

ここでは、宛先に直接ダイヤルできる地域の場合を説明します。

1 電話会社識別番号「010」、国番号、地域番号、宛先のファクス番号を次のように入力します。

電話会社識別番号	0	1	0	国番号	地域番号	相手先の電話番号

注記

- 地域によっては、電話会社識別番号を入力したあと、ポーズを入力する必要があります。

補足

- マイラインのサービスを登録している場合は、電話会社識別番号を入力する必要はありません。
- 電話会社識別番号については、各電話会社にお問い合わせください。

2 [通信モード] をタップします。

3 [4800bps] をタップします。

[ミックスサイズ原稿送り]

いろいろなサイズの原稿を一度に読み取って、それぞれのサイズの用紙に送信したり、1つのサイズにそろえて送信したりできます。原稿送り装置に原稿をセットします。

注記

- 原稿はよこ置きにセットしてください。ただし、A5 または B5 の原稿は、原稿サイズを自動検知させるために、必ずたて置きにセットしてください。
- 紙づまりの原因になるので、左上の角をきちんとそろえてセットしてください。
- 推奨する組み合わせは、A4 たてと A3 よこ、B5 たてと B4 よこです。推奨以外の組み合わせでは、原稿が斜めに引き込まれるなどして正しく読み取れないことがあります。

補足

- ミックスサイズ原稿送り機能を使用する場合、[読み取りサイズ] を必ず [自動検知] に設定してください。

[発信元記録]

ファクス送信時にスキャンした送信文書に通信開始時刻、発信元名、宛先名、送信ヘッダ宛先名、G3ID、枚数を付けて送信します。インターネットファクス送信時は、日時、発信者情報、枚数 / 総ページ数を付けて送信します。また、プレビューを表示させて発信元記録の付加位置を確認することもできます。

注記

- 発信元記録は、原稿のデータの先端に上書きするため、スキャンした文書の先端の情報が 3 ～ 5mm 程度欠けることがあります。

[読み取りサイズ]

原稿の読み取りサイズを指定して送信できます。

非定形サイズの原稿を読み取る場合や、セットしている原稿とは異なるサイズで読み取りたい場合は、原稿サイズを指定します。

補足

- 読み取りサイズボタンのうち、[自動検知] 以外の読み取りサイズの初期値は、機械管理者モードで変更できます。詳しくは、「[読み取りサイズボタン]」(P.317) を参照してください。
- 原稿サイズを自動検知できない場合は、原稿サイズを入力する画面が表示されます。
- 自動検知できる原稿サイズは、機械管理者モードの [サイズ検知切り替え] の設定によって異なります。詳しくは、「[サイズ検知切り替え]」(P.291) を参照してください。

[ページ連写]

本などの冊子の見開きページを、別々に読み取って送信できます。

原稿ガラスに原稿をセットします。

補足

- 定形でない原稿やサイズを検知できない原稿などは、正確に 2 分割されないことがあります。

[原稿通過スタンプ]

原稿が原稿送り装置を通過するときにスタンプを付けます。読み取った面の後端に丸印（○）を付けます。スタンプの有無によって、原稿を 1 枚ずつ読み取ったかどうかを確認できます。

注記
- 次の原稿にはスタンプが付きません。
  - 原稿ガラスに置いた原稿
  - ［ストップ］を押して中断された原稿
  - 紙づまりにより中断された原稿
  - 片面読み込みで 600 mm を超える原稿
  - 両面読み込みで 431.8 mm を超える原稿
  - 原稿送り装置に残った原稿
  - メモリーのオーバーフローにより中断された原稿
  - イミディエト送信が中断したときに読み込み中だった原稿

［優先通信］

優先通信をすると、すでに予約されている通信よりも、優先させて送信やポーリングができます。

補足
- 通信中に優先送信を行う場合は、その通信が終わってから送信されます。
- 再送信となった場合は、設定しているリダイヤル間隔をとったあと、優先して送信されます。
- 同報先、または集信先の 1 つずつを、個別に優先させることはできません。
- ［優先通信］と［時刻指定］は、組み合わせて設定できます。その場合、設定した時間になると優先して送信されます。

参照
- 実行待ちの通信を優先させることもできます。詳しくは、「ジョブ情報」(P.245) を参照してください。

［時刻指定］

指定した時刻に通信を開始します。

注記
- 指定時刻を過ぎてから送信を指示した場合は、翌日の指定時刻に通信を開始します。

補足
- 時刻は 24 時間以内で指定できます。日付の指定はできません。
- 指定時刻に回線が使用中などの理由で送信できなかった場合は、通信可能になると送信します。
- ［通信開始時刻］の初期値は機械管理者モードで変更できます。

［送信シート］

送信シートとは、原稿の先頭ページに表紙を付ける機能です。

送信シートには、送信先、送信ヘッダ宛先名、コメント、発信元名、本機のファクス番号、送信枚数、送信日時などが記載されます。

補足
- ［発信元記録］を設定した場合、送信シート自体には発信元記録は記載されません。
- 送信シートのサイズおよび解像度は、原稿の 1 ページめと同じ設定になります。

[並列合成送信]

複数枚の原稿を 1 枚にまとめて送信できます。たとえば、まとめる原稿の枚数を 3 枚に指定し、原稿送り装置に 12 枚の原稿をセットした場合は、4 ページとして蓄積されます。1 枚にまとめられる原稿枚数は、2 ～ 9 枚です。

注記

- 原稿を合成した結果原稿が長くなると、受信側で分割されることがあります。
- 指定枚数よりも原稿の枚数が少ない場合は、読み取った分の原稿だけを合成して送信します。

[親展通信]

送信先に親展ボックスが設定されている場合に、親展ボックス番号とパスワードを指定すると、本機から親展送信ができます。

あらかじめ、送信先の親展ボックスとパスワードを確認してください。

補足

- 本機能は相手（送信先）が弊社製の機種である必要があります。送信先が弊社製の機種以外の場合は、F コードや DTMF 通信をご利用ください。

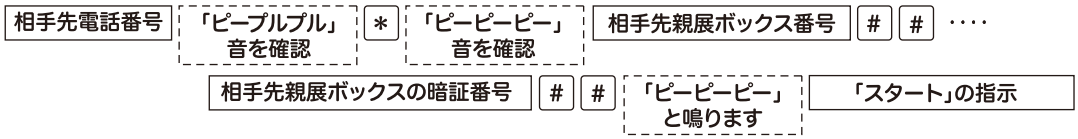
■自動で親展送信する（DTMF 方式）

[宛先を入力してください。] をタップして、次の形式で入力します。

相手先電話番号 | ! | * | $ | 相手先親展ボックス番号 | # | # | / | 相手先親展ボックスの暗証番号 | / | # | # | $

■手動で親展送信する（DTMF 方式）

[オンフック（手動送信 / 受信）] にチェックマークを付けたあと、[宛先を入力してください。] をタップして、次の形式で入力します。



補足

- 暗証番号は必要に応じて入力してください。

[F コード通信]

送信先に親展ボックスが設定されている場合に、F コード（サブアドレス）と、必要に応じてパスワードを指定すると、本機から親展送信ができます。

あらかじめ、送信先の F コード（サブアドレス）とパスワードを確認してください。

（例）送信先

F コード（サブアドレス）：0（F コード通信を表します）＋送信先の親展ボックス番号

パスワード（必要に応じて）：送信先の親展ボックスの暗証番号

選択すると、F コードとパスワードが設定できます。

[ポーリング（相手から取り出し）]

ポーリングとは、相手先に蓄積されている文書を、本機からの操作で送信させる機能です。

補足
- ポーリングは、相手機によっては使用できないことがあります。
- 集信（マルチポーリング）の場合は、複数の相手先を指定します。

[オンフック（手動送信 / 受信）]

手動送信は、相手先の応答を確認してから手動で送信します。手動受信は、ファクス情報サービスなどを、手動で受信するときに使用します。

補足
- 複数ページを送信するときに、2 ページめ以降でエラーが発生した場合、1 ページめの文書は異常終了になることがあります。
- IP ファクス（SIP）では、オンフックを利用できません。

[チェーンダイヤル]

アドレス帳に登録してある宛先のダイヤル番号と入力した番号を組み合わせて、1 つの宛先として指定します。

参照
- チェーンダイヤルの表示については、「[チェーンダイヤル]」(P.311) を参照してください。

[インターネットファクス件名]

インターネットファクスの件名を指定します。

補足
- 件名に何も入力しない場合は、自動的に「InternetFAX ; < 発信者情報 > ; < 送信日時 >」が設定されます。

[インターネットファクスコメント]

インターネットファクスの本文を編集します。

[インターネットファクスプロファイル]

プロファイルとは、送受信するインターネットファクス対応機間で、画像の解像度や紙サイズなどの属性情報を制限するための決めごとです。

補足
- 送信先によって、処理できるプロファイルが異なります。プロファイルを指定する場合は、送信先で処理できるプロファイルを確認してください。
- プロファイルと、蓄積原稿サイズと送信画質の組み合わせで、不整合が発生した場合は、プロファイルの指定が優先されます。
- 同報送信をする場合で、宛先ごとにプロファイルが異なるときは、最も小さいサイズが最大蓄積サイズとなります。

■ [TIFF-S]

インターネットファクスの標準規格です。A4 より大きいサイズの原稿の場合は、自動的に A4 に縮小して送信されます。

- 符号化方式：MH
- 蓄積原稿サイズ：A4
- 送信画質：標準、高画質

補足

- ［送信画質］で［超高画質（400dpi）］または［超高画質（600dpi）］を選択している場合は、［TIFF-S］では送信できません。

■［TIFF-F］

送信画質で超高画質を指定したり、A3、B4 の原稿を送信したりする場合に選択します。

- 符号化方式：MMR
- 蓄積原稿サイズ：A4、B4、A3
- 送信画質：標準、高画質（200dpi）、超高画質（400dpi）、超高画質（600dpi）

補足

- ［TIFF-F］をサポートしない機種と通信した場合は、送信が終了しても、受信側では受信した画像を表示 / プリントできません。

■［TIFF-J］

JBIG で原稿を送信する場合に選択します。

- 符号化方式：JBIG
- 蓄積原稿サイズ：A4、B4、A3
- 送信画質：標準、高画質（200dpi）、超高画質（400dpi）、超高画質（600dpi）

補足

- ［TIFF-J］をサポートしない機種と通信した場合は、送信が終了しても、受信側では受信した画像を表示 / プリントできません。

［暗号化］

S/MIME で暗号化して、インターネットファクスを送信できます。

暗号化してインターネットファクスを送信するときは、暗号化できる証明書が関連づけられたメールアドレスをアドレス帳から選択してください。

補足

- S/MIME で暗号化してインターネットファクスを送信するには、あらかじめ本機や送信先の証明書が必要です。証明書については、「メールの暗号化 / デジタル署名をするための設定」(P.380) を参照してください。

［デジタル署名］

S/MIME でデジタル署名して、インターネットファクスを送信できます。

デジタル署名をすると、インターネットファクスの内容を改変されていないか、正しい送信者から送信されたインターネットファクスかどうかなどを受信者が確認できます。

補足

- S/MIME でデジタル署名をしてインターネットファクスを送信するには、あらかじめ本機や送信先の証明書が必要です。証明書については、「メールの暗号化 / デジタル署名をするための設定」(P.380) を参照してください。
- 機械管理者モードで［署名 - インターネットファクス送信］を［常に署名する］または［常に署名しない］に設定している場合は、その値によって［する］または［しない］が表示され、変更できません。［署名 - インターネットファクス送信］については、「[S/MIME 設定]」(P.350) を参照してください。

［次原稿］

原稿送り装置に一度にセットできない枚数の原稿をファクスするときや、原稿ガラスを使用して複数の原稿を１つのジョブとしてファクスするときに設定します。

［次原稿］を設定すると、原稿読み取りの確認画面が表示され、次原稿のあり、なしを指定できます。

補足

- 原稿送り装置を使っているときは、最初にセットした原稿をすべて読み取ってから、次の原稿をセットします。

ポーリング予約

ポーリング予約とは、本機に原稿を蓄積しておいて、相手先からの操作で送信できるようにすることです。ポーリング予約には、ポーリング予約と親展ポーリング予約の 2 種類があります。

補足
- ポーリング予約文書を送信後に自動的に削除できます。詳しくは、「[ポーリング予約文書の自動削除]」(P.311) を参照してください。

1 ホーム画面で、[ポーリング予約] をタップします。

補足
- 工場出荷時には、表示されていません。カスタマイズ機能で表示させて使用してください。

2 [ポーリング予約ボックス] をタップして、保存するフォルダーを選びます。

補足
- [ポーリング予約ボックス] と親展ボックスが表示されます。親展ボックスに保存すると、パスワードの設定によって、ほかの人に文書を見られることなく送信できます。
- [ポーリング予約ボックス] に保存すると、文書の種別が [ポーリング予約] になります。親展ボックスに保存すると、文書の種別が [親展ポーリング予約] になります。
- ボックスにアクセス制限が設定されている場合は、パスワードの入力画面が表示されます。パスワードを入力して、[OK] をタップします。
- 親展ボックスはあらかじめ登録しておく必要があります。詳しくは、「ボックスの登録」(P.210) を参照してください。

3 必要に応じて、各機能リストを設定します。

参照
- 詳しくは、「機能リスト」(P.165) を参照してください。

4 [スキャン] をタップします。

ポーリング予約文書のプリント / 削除

1 ホーム画面で、[ポーリング予約] をタップします。

2 [ポーリング予約ボックス] をタップして、プリントまたは削除するフォルダーを選びます。

3 フォルダー名の をタップします。

4 次の操作をします。

■プリントする場合

1) プリントする文書にチェックマークを付けます。

2) をタップします。

3) [はい（プリントする）] をタップします。

■選択した文書を削除する場合

1) 削除する文書にチェックマークを付けます。

2) [削除] または [全削除] をタップします。

3) [はい（削除する)] をタップします。

受信について

受信には、自動受信と手動受信があります。

自動受信は、相手からの送信に対して自動的に受信を開始します。

手動受信は、相手からの送信を手動で受信します。相手先を確認したり、受話器（ハンドセット（オプション））を使って通話してから受信する場合に便利です。

また、G3ID を利用して特定のファクス番号の受信や非通知番号の受信を拒否できます。拒否するファクス番号は最大 50 件まで登録できます。

- 特定ファクス番号の受信拒否：

  拒否するファクス番号として登録された中に、送信機から送られてきた G3ID がある場合に受信を拒否します。

- 非通知番号の受信拒否：

  送信機から G3ID が送られてこなかった場合に受信を拒否します。

補足

- G3ID は、ナンバーディスプレイサービスなどで通知される発信者番号ではなく、送信機で登録された電話番号などの情報です。
- IP ファクス（SIP）の場合、手動受信を利用できません。

参照

- ［ファクス受信モード］の初期値は変更できます。詳しくは、「［ファクス受信モード］」(P.313) を参照してください。
- 特定のファクス番号や非通知番号の受信拒否を設定する方法は、「［受信制限番号］」(P.316)、および「［非通知番号の受信制限］」(P.316) を参照してください。

自動受信と手動受信を切り替える

1 ホーム画面で、［ファクス受信モード］をタップします。

2 ［手動受信］または［自動受信］をタップします。

自動で受信する

ファクス受信モードが自動受信に設定されている場合、ファクス識別信号が検知されると自動的にファクスを受信します。また、ファクス受信を開始するまでの時間を設定すると、設定時間呼び出し音を鳴らしたあとに自動的にファクス受信を開始したり、呼び出し音が鳴っている間に受話器（ハンドセット（オプション））を取ると、相手と会話したりできます。

参照

- 自動受信時の受信方法については、「［ファクス自動受信時の受信方式］」(P.312) を参照してください。

手動で受信する

ファクス受信モードが手動受信に設定されているときに、相手からの呼び出し音が鳴った場合は、受話器（ハンドセット（オプション））を取るか、着信時に表示される画面で［オンフック］をタップします。

参照

- ［オンフック］を使用する場合は、ラインモニター音量を［大］にすることをお勧めします。ラインモニターの音量の変更方法は、「［ラインモニター音］」(P.280) を参照してください。

1 呼び出し音が鳴ると、着信画面が表示されます。

受話器がある場合は、受話器を取ります。ない場合は、[オンフック] をタップします。

2 相手を確認します。相手が電話のときは、受話器を使って通話できます。

相手がファクスのときは、「ポー・ポー・ポー」という音が鳴ります。

補足

- [オンフック]を使用した場合は、本機のスピーカーから音が聞こえます。ただし、通話はできません。

3 [スタート] をタップします。

4 受話器を使用している場合は、操作パネルのデータランプが点滅したら、受話器を戻します。

親展受信について

親展受信を使用して受信した文書は、親展ボックスに蓄積されます。親展受信するとデータランプが点灯し、親展受信レポートが出力されます。親展受信レポートには、親展ボックス No.、親展ボックス名称が記載されています。

なお、F コード方式を使用して親展受信する場合は、相手先に次の情報を伝えてください。

F コード（サブアドレス）：0（F コード通信を表します）＋蓄積する親展ボックス No.

パスワード（必要に応じて）：蓄積する親展ボックスのパスワード

補足

- IP ファクス（SIP）では、FAX 信号方式と F コード方式が利用できます。
- IP ファクス (SIP) で VoIP ゲートウェイを経由して通信する場合は、FAX 信号方式での親展通信を利用できません。F コード方式の親展通信のみ利用できます。

参照

- レポートのプリント設定によっては、親展受信しても、親展受信レポートがプリントされないことがあります。詳しくは、「[親展受信レポート]」(P.284) を参照してください。
- 親展受信文書のプリント方法は、「保存文書のプリント」(P.217) を参照してください。

未送信文書の再送信 / 削除

ファクスを送信して未送信となった文書の再送信、および削除方法について説明します。

1 ホーム画面で、[ジョブ情報] をタップします。

2 画面右上の をタップします。

3 再送信または削除したい文書をタップします。

■削除する場合

1) [この文書を削除] > [はい（削除する)] をタップします。

■再送信する場合

1) [送信] をタップします。

■宛先を変更して再送信する場合

1) [宛先変更して再送信] をタップします。

2) 宛先を変更して、[送信] をタップします。

補足

- 宛先を変更した場合、発信元記録を付けるように設定していても発信元記録は付きません。

7

スキャン

機能の紹介

スキャン機能について説明します。

■ボックス保存

スキャンした文書を親展ボックスに保存できます。

参照

- 詳しくは、「ボックス保存」(P.181) を参照してください。

■メール送信

スキャンした文書をメールに添付して送信できます。

参照

- 詳しくは、「メール送信」(P.183) を参照してください。

■スキャン送信

スキャンした文書を FTP や SMB プロトコルを使って、ネットワーク上のコンピューターに転送します。また、スキャンした文書を一時的に本機に保存し、メールに保存先の URL を添付して送信します。メールを受信したユーザーは、URL から文書を取り出すことができます。

参照

- 詳しくは、「スキャン送信」(P.188) を参照してください。

■USB 保存

スキャンしたデータを USB メモリーに保存できます。

参照

- 詳しくは、「USB 保存」(P.191) を参照してください。

■WSD スキャン

本機にセットした原稿をコンピューターからの操作でスキャンし、保存できます。

また、本機の操作パネルで、ネットワーク上にあるコンピューターを選んで、文書を保存することもできます。

補足

- 「WSD」とは、「Web Services on Devices」の略です。

参照

- 詳しくは、「WSD スキャン」(P.193) を参照してください。

■その他

macOS/OS X のコンピューターから AirPrint でスキャンを指示することもできます。

参照

- 詳しくは、「AirPrint」(P.124) を参照してください。

ボックス保存

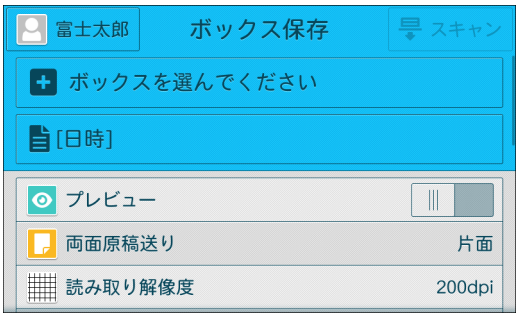
1 原稿をセットします。

参照
- 原稿のセット方法については、「原稿をセットする」(P.104) を参照してください。

2 ホーム画面で、[ボックス保存] をタップします。

3 保存するボックスを選択します。

1) [ボックスを選んでください] をタップします。



2) 保存するボックスをタップします。

補足
- 画面右側の 001・020・040・・・・をタップまたはドラッグすると、その番号のボックスが先頭に表示されます。
- ボックスにアクセス制限が設定されている場合は、パスワードの入力画面が表示されます。パスワードを入力して、[OK] をタップします。
- ボックス名の をタップすると、ボックス内を確認できます。

4 ファイル名を指定します。

1) [日時] をタップします。

2) ファイル名を入力し、[完了] をタップします。

補足
- ファイル名を指定しない場合は、自動的に生成されます。詳しくは、「[ファイル名の形式]」(P.306) を参照してください。

5 必要に応じて、各機能を設定します。

参照

- 詳しくは、「機能リスト」(P.203) を参照してください。

6 ［スキャン］をタップします。

補足

- 機能リストの［プレビュー］にチェックマークを付けると、［スキャン］から［プレビュー］にボタン表示が変わります。
- スキャンしたジョブの状態は、［ジョブ情報］画面で確認できます。詳しくは、「ジョブ情報」(P.245) を参照してください。
- ボックスに保存した文書をコンピューターに取り込むことができます。詳しくは、「スキャンデータの取り込み」(P.197) を参照してください。

メール送信

原稿をスキャンして、メールに添付して送信できます。

注記
- メール用に設定した宛先だけ使用できます。

補足
- S/MIME で暗号化やデジタル署名をしてメールを送信することもできます。その場合は、あらかじめ本機や送信先の証明書が必要です。証明書については、「メールの暗号化 / デジタル署名をするための設定」(P.380) を参照してください。

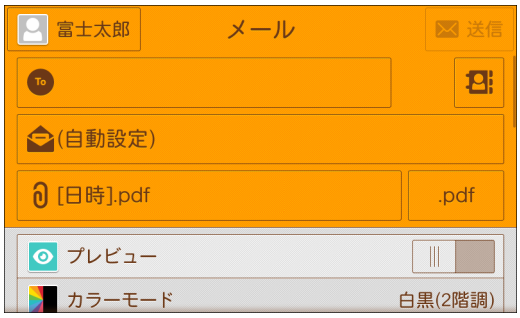
1 原稿をセットします。

参照
- 原稿のセット方法については、「原稿をセットする」(P.104) を参照してください。

2 ホーム画面で、[メール送信] をタップします。

3 宛先の入力エリア をタップして、宛先を指定します。

宛先は、キーボード入力、ワンタッチボタン、またはアドレス帳から指定します。



補足
- キーボードで入力する場合、宛先の一部分の文字列を入力すると、その文字列を含んだアドレス帳に登録されている連絡先が候補として表示されます。送信する相手をタップして指定できます。
- ファクス機能を搭載していない機械には、ワンタッチボタンはありません。
- ワンタッチボタンで指定する場合は、宛先をワンタッチボタンに登録する必要があります。詳しくは、「[ワンタッチボタン設定]」(P.328) を参照してください。
- アドレス帳で宛先を検索すると、本体アドレス帳だけでなくディレクトリサービスからも検索できます。ディレクトリサービスを利用するには、LDAP サーバーおよびディレクトリサービスの設定が必要です。詳しくは、「[LDAP サーバー / ディレクトリサービス設定]」(P.345) および「[ディレクトリサービス]」(P.323) を参照してください。
- 複数の宛先を指定する場合は、宛先の入力エリアをタップします。

4 宛先の種類を指定します。

補足
- 宛先の種類（[To]、[Cc]、[Bcc]）を指定したり、修正したりできます。詳しくは、「宛先の編集」(P.185) を参照してください。

5 件名の入力エリアをタップして、件名を入力します。

6 ファイル名の入力エリアをタップして、ファイル名を入力します。

補足

- ファイル名を指定しない場合は、自動的に生成されます。詳しくは、「[メールに添付するファイル名の日付]」(P.306) を参照してください。

7 出力ファイル形式を指定します。

補足

- 出力ファイル形式の設定については、「出力ファイル形式の設定」(P.186) を参照してください。

8 必要に応じて、各機能を設定します。

参照

- 詳しくは、「機能リスト」(P.203) を参照してください。

9 [送信] をタップします。

補足

- 機能リストの [プレビュー] にチェックマークを付けると、[送信] から [プレビュー] にボタン表示が変わります。

参照

- 読み込み中の操作は、「スキャン中の操作」(P.195) を参照してください。

宛先の編集

指定した宛先を編集します。

補足

- 宛先の形式によって、表示される項目が異なります。

1 宛先の入力エリアをタップします。

2 編集する宛先をタップします。

■宛先の種類を指定する

メール送信では、[To]、[Cc]、[Bcc] が指定できます。スキャン送信では、To だけ設定されます。

■[リストから削除]

宛先を削除します。

■[編集] または [変更]

宛先を修正します。

■[アドレス帳に追加]

新しく連絡先を作成します。または、既存の連絡先に宛先を追加します。

参照

- アドレス帳への登録方法については、「アドレス帳」(P.229) を参照してください。

■[ネットワーク参照]

宛先を表示します。

■[詳細] または [確認]

宛先の内容を表示します。

出力ファイル形式の設定

スキャンしたデータを送信するときのファイル形式を選びます。

■[TIFF/JPEG 自動]

フルカラーとグレースケールの画像は［JPEG］が、白黒画像は［TIFF］がページごとに設定されます。

■[TIFF]

TIFF ファイル形式で保存します。

■[JPEG]

JPEG ファイル形式で保存します。［カラーモード］で［フルカラー］または［グレースケール（256 階調）］を選択した場合に設定できます。

■[PDF]

PDF ファイル形式で保存します。

■[DocuWorks]

DocuWorks ファイル形式で保存します。

■[詳細設定]

［出力ファイル形式］画面が表示されます。

出力ファイル形式の詳細設定

■[圧縮方式]

スキャンしたあとの画像データの圧縮方式を設定します。

■[高圧縮（MRC）]

PDF ファイルまたは DocuWorks ファイルを高圧縮形式で保存します。

■[文字認識（OCR）]

PDF ファイルまたは DocuWorks ファイルに、文字認識するか、しないかを設定します。

同時に、文字認識する言語を設定します。

［文字認識（OCR)］を設定したときは、次の読み取り設定が可能です。

読み取り設定	［高圧縮（MRC)］を設定しない場合	［高圧縮（MRC)］を設定する場合
［カラーモード］	［白黒（2 階調)］、［自動］、［フルカラー］、［グレースケール（256 階調)］	［自動］、［フルカラー］、［グレースケール（256 階調)］
［原稿の画質］	［文字 / 写真］、［文字］	
［出力ファイル形式］	［PDF］、［DocuWorks］	
［色空間］*	［標準色空間］	
［読み取り解像度］	［200dpi］、［300dpi］	
［読み取り倍率］	［100%］ ［自動 %］には対応していません。	

*:［色空間］は、お使いの機種によっては利用できません。また、機械管理者モードの設定によっては、［色空間］が表示されないことがあります。詳しくは、「［色空間機能の表示］」(P.306) と「［色空間］」(P.205) を参照してください。

■［少数色で圧縮］

色数の少ない原稿に圧縮して保存します。ファイルサイズは［高圧縮（MRC)］を選択して保存した場合よりも小さくなります。

■［サムネールを付加］

DocuWorks ファイルを選択した場合、スキャンデータにサムネールをつけることができます。

■［1 ページずつ分割する］

1 ページずつ 1 ファイルにして、指定したファイル形式で保存します。

■［PDF セキュリティ］

PDF ファイル形式で保存したデータにセキュリティーを設定して、不正なアクセスを防ぎます。

■［PDF 署名］

ファイルに署名を付けます。

■［Web 表示用に最適化する］

Web ブラウザーで PDF を表示するとき、ページが表示されるまでの時間を短くできます。

■［DocuWorks セキュリティ］

DocuWorks ファイル形式で保存したデータにセキュリティーを設定して、不正なアクセスを防ぎます。

■［DocuWorks 署名］

ファイルに署名を付けます。

スキャン送信

スキャン送信では、次の機能を利用できます。

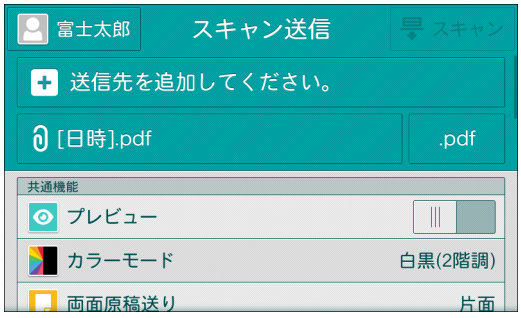
機能	説明
お気に入り	お気に入りを表示します。お気に入りの宛先から該当するアプリを起動できます。 **参照** • お気に入りへの登録については、「アドレス帳の登録」 (P.230) を参照してください。 • 宛先からのアプリ起動については、「宛先からアプリを起動する」(P.241) を参照してください。
連絡先	アドレス帳を表示します。宛先から該当するアプリを起動できます。 **参照** • 連絡先については、「アドレス帳」(P.229) を参照してください。 • 宛先からのアプリ起動については、「宛先からアプリを起動する」(P.241) を参照してください。
メール	スキャンしたデータをメールに添付して送信します。 **参照** • メール送信については、「メール送信」(P.183) を参照してください。
SMB/FTP/SFTP	スキャンしたデータをネットワーク上のコンピューターに転送します。
URL	本機に保存されたスキャンデータの取り出し用と削除用の URL を本文に添付して送信します。送信できる宛先は、本機で認証されたユーザー本人だけです。
マイフォルダー	認証モードが外部認証のときに利用できます。認証ユーザーに応じて、異なる転送先にスキャン文書を転送します。

補足

- SMB/FTP/SFTP およびマイフォルダー機能を利用する場合は、事前の設定が必要です。詳しくは、「スキャン機能の設定」(P.60) を参照してください。
- メール、SMB/FTP/SFTP、URL など、同時に複数機能の宛先に送信できます。

1 ホーム画面で、[スキャン送信] をタップします。

2 [送信先を追加してください。] をタップします。



3 使用する機能を選んで、宛先を指定します。

宛先は、キーボード入力、ワンタッチボタン、またはアドレス帳から指定します。

補足

- 指定した宛先を変更したり、削除したりする方法については、「宛先の編集」(P.185) を参照してください。
- サーバーの SMBv1 を無効にした場合は、[SMB] で宛先を検索できなくなります。その場合は、[保存先設定] を選んで入力します。
- CentreWare Internet Services の [ネットワーク] > [SMB] > [NetBIOS 機能] のチェックマークを外した場合、[SMB] で宛先を検索できなくなります。その場合は、[保存先設定] を選んで入力します。また、[SMB] でホスト名だけを指定しても送信できません。

4 [日時] をタップして、ファイル名を入力します。

補足

- ファイル名を ASCII 以外の文字で入力して、[1 ページずつ分割する] に設定した場合、URL 機能で取得した ZIP ファイル解凍後のファイル名が文字化けすることがあります。コンピューターにインストールされた ZIP 展開アプリケーションが UTF-8 に対応していない場合などが原因です。もし文字化けが発生した場合は、ファイル名を ASCII 文字で入力するか、OS 標準の ZIP 展開アプリケーションを使用してください。
- ファイル名を指定しない場合は、自動的に生成されます。詳しくは、「[メールに添付するファイル名の日付]」(P.306) を参照してください。

5 出力ファイル形式を指定します。

参照

- 出力ファイル形式の設定については、「出力ファイル形式の設定」(P.186) を参照してください。

6 必要に応じて、各機能を設定します。

参照

- 詳しくは、「機能リスト」(P.203) を参照してください。

7 ［スキャン］をタップします。

補足

- 機能リストの［プレビュー］にチェックマークを付けると、［スキャン］から［プレビュー］にボタン表示が変わります。

参照

- 読み込み中の操作は、「スキャン中の操作」(P.195) を参照してください。

USB 保存

スキャンしたデータを USB メモリーに保存できます。

注記
- USB メモリー内のデータは、次のような理由により消失、破損するおそれがありますので、必ず内部のデータをバックアップしてからご使用ください。
  - 本書に記載された方法以外で USB メモリーの抜き差しをしたとき
  - 静電気や電気的ノイズの影響を受けたとき
  - 故障、修理などのとき
  - 天災による被害を受けたとき
- USB メモリーを取り外す場合は、必ず手順に従って取り外してください。詳しくは、「USB メモリーの取り外し」(P.121) を参照してください。
- お客様のデータ消失による直接、間接の損害について、弊社はその責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

補足
- ソフトウェアによって暗号化された USB メモリーは利用できません。
- USB メモリーは次のものを使用してください。
  - フォーマット済みのもの（対応しているフォーマットは FAT12、FAT16、FAT32 のみです。）
  - 最大容量が 128 GB までのもの

1 USB メモリー差込口に、USB メモリーを差し込みます。

補足
- 節電中の場合は、節電状態を解除してから USB メモリーを差し込んでください。
- USB メモリーを差し込んだ状態のときは、ホーム画面で、[USB] をタップして、手順 3 へ進みます。

2 [確認] をタップします。

3 [USB 保存] をタップします。

4 文書を保存するフォルダーを選択します。

補足
- [USB 保存] 画面が表示されたら、 / をタップしてください。
- 保存先を指定しない場合、スキャンデータはルートディレクトリー直下に保存されます。

5 [日時] をタップして、ファイル名を入力します。

補足
- ファイル名を指定しない場合は、自動的に生成されます。

6 出力ファイル形式を指定します。

参照
- 出力ファイル形式については、「出力ファイル形式の設定」(P.186) を参照してください。

7 必要に応じて、各機能を設定します。

参照
- 詳しくは、「機能リスト」(P.203) を参照してください。

8 [保存] をタップします。

USB メモリーの取り外し

USB メモリー内のデータへのアクセス中やプリント中に USB メモリーを取り外すと、USB メモリー内のデータを破壊する場合があります。

USB メモリーは、次の手順で取り外してください。

1 設定画面の をタップします。

2 ［はい（取り出す）］をタップします。

3 USB メモリーを取り外します。

WSD スキャン

コンピューターからの操作でスキャンを開始したり、本機でスキャンの指示をしたりして、スキャンしたデータを指定したコンピューターに保存できます。

補足

- コンピューターから操作するために、原稿をセットしたまま本機から離れると、他のユーザーが誤って本機を操作したり、コンピューターからスキャン指示をしたり、原稿の紛失および情報漏えいのおそれがあります。原稿の取り扱いには十分に注意してください。コンピューターから操作する場合は、できるだけ本機に近い場所で行ってください。また、スキャン完了後は、すべての原稿が揃っていることを確認してください。
- 設定によっては、ホーム画面に [WSD スキャン] が表示されないことがあります。詳しくは、「WSD スキャンの設定」(P.64) を参照してください。
- スキャン時の解像度やファイル形式などは、本機の操作パネルでは設定できません。Windows のスキャンプロファイルで設定してください。詳しくは、Windows のヘルプを参照してください。

本機でスキャンしたデータをコンピューターに保存する

本機でスキャンしたデータを、ネットワーク上の指定されたコンピューターに転送します。

1 本機に原稿をセットします。

参照

- 原稿のセット方法については、「原稿をセットする」(P.104) を参照してください。

2 ホーム画面で、[WSD スキャン] をタップします。

3 ネットワーク上のコンピューターのコンピューター名と、そのコンピューターでの処理方法が表示されます。用途に合わせてリストから保存先を選択します。

4 [スキャン] をタップします。

5 保存先として指定されたコンピューターに、スキャンしたデータが転送されます。

6 転送先のコンピューターで、転送されたデータを確認します。

コンピューターからスキャンを開始する

ネットワーク上のコンピューターから操作して、本機にセットした原稿をスキャンします。

ここでは、Windows 10 での操作を例に説明します。

1 本機に原稿をセットします。

2 [スタート] をクリックし、[Windows アクセサリ] から [Windows FAX とスキャン] を選択します。

3 [スキャン] をクリックしてから、[新しいスキャン] をクリックします。

4 [デバイスの選択] 画面で、本機を選択します。

5 ［新しいスキャン］画面で、［スキャナー：］の右に本機の機種名が表示されていることを確認します。

補足

- 本機の機種名が表示されていない場合は、［変更］をクリックして、本機を選択します。

6 ［プロファイル］で［ドキュメント］を選択します。

7 必要に応じて、各項目を設定します。

8 ［スキャン］をクリックします。

スキャン中の操作

読み込み画面で次の操作ができます。

スキャンを中止する

1 ［ストップ］または［中止］をタップします。

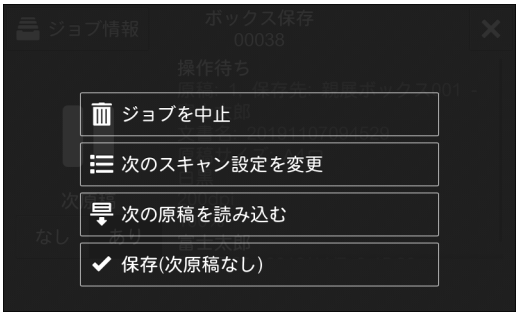
補足
- 原稿送り装置内に原稿が残っている場合は、メッセージが表示されます。画面の指示に従って原稿を取り除いてください。

次の原稿を続けて読み込む

1 ［次原稿］の［あり］をタップします。

補足
- 機能リストで［次原稿］にチェックマークを付けると、手順 2 の画面が表示されます。

2 確認画面が表示され、次の操作ができます。



■次原稿を読み込む

1) 次の原稿をセットします。

2) ［次の原稿を読み込む］をタップします。

■次原稿の設定を変更する

1) 次の原稿をセットします。

2) ［次のスキャン設定を変更］をタップします。

3) 機能リストの設定を変更します。

参照
- 機能リストについては、「機能リスト」(P.203) を参照してください。

4) [スキャン] をタップします。

3 すべての原稿を読み込んだら、[保存（次原稿なし)] をタップします。

ジョブの状況を確認する

1 [ジョブ情報] をタップします。

[ジョブ情報] 画面が表示されます。

参照
- 詳しくは、「ジョブ情報」(P.245) を参照してください。

スキャンデータの取り込み

本機の親展ボックスに保存されている文書をコンピューターに取り込む方法について説明します。

TWAIN 対応アプリケーションソフトウェアを使って取り込む

蓄積文書の取り込みには、ネットワークスキャナードライバーを使用します。

ネットワークスキャナードライバーを使用するためには、ネットワークスキャナユーティリティ 3 をコンピューターにインストールします。

補足

- 付属の「ソフトウェア / 製品マニュアル」ディスクを使って、ネットワークスキャナユーティリティ 3 をインストールします。
- スキャンした文書を TIFF ファイル形式で取り出す場合、付属の「ソフトウェア / 製品マニュアル」ディスクを使って TIFF Viewer をインストールします。

  TIFF Viewer は、TIFF6.0 準拠の TIFF ファイル、およびインターネットファクス仕様準拠の TIFF-FX ファイルの画像を、表示およびプリントするためのソフトウェアです。
- セカンダリーイーサネットキット（オプション）を装着している場合、Ethernet2 の IP アドレスを指定しても、「ネットワークスキャナユーティリティ 3」は動作しません。詳しくは、「［TCP/IP - ネットワーク設定］/［TCP/IP 設定（Ethernet1）］、［TCP/IP 設定（Ethernet2）］、［TCP/IP 設定（Wi-Fi）］」(P.335) を参照してください。

参照

- 親展ボックスの文書を取り込むには、ポートの起動など、あらかじめ設定しておく項目があります。詳しくは、「ボックス保存の設定」(P.60) を参照してください。また、アプリケーション側の操作方法は、各アプリケーションのマニュアルを参照してください。
- ネットワークスキャナユーティリティ 3 および TIFF Viewer のインストール方法は、付属の「ソフトウェア / 製品マニュアル」ディスク 内の『メディア情報』を参照してください。
- 表示されるダイアログボックスの項目は、［ヘルプ］をクリックして表示されるネットワークスキャナードライバーのヘルプを参照してください。

1 文書を取り込むアプリケーションソフトウェアを起動します。

注記

- アプリケーションソフトウェアは、TWAIN に対応している必要があります。

2 ［ファイル］メニューから、スキャナー（ソース）を選択するコマンドを選択します。

3 ［FX Network Scanner 3 TWAIN］を選択し、［選択］をクリックします。

4 ［ファイル］メニューから、スキャナーから画像を取り込むコマンドを選択します。

5 表示されているリストの中から、接続する本機のスキャナー名をクリックし、［次へ］をクリックします。

補足

- 何も表示されない場合は、［再検索］をクリックしてください。スキャナーの再検索を行います。
- スキャナー名の表示方法は、［検索 / 表示の設定］をクリックして表示されるダイアログボックスで変更できます。詳しくは、「スキャナー名の表示方法を設定する」(P.198) を参照してください。
- 自動的にスキャナー名が表示されるのは、同一ネットワーク内にあるスキャナーだけです。ほかのネットワークにあるスキャナーを表示するには、［検索 / 表示の設定］をクリックして、IP アドレスとスキャナー名を登録してください。詳しくは、「スキャナー名の表示方法を設定する」(P.198) を参照してください。

6 ［ボックス番号］に取り込む文書が蓄積されている親展ボックス番号と、［パスワード］にパスワードを入力します。

補足
- ［登録済みのボックス］に表示されたボックス番号を選択できます。
- ［スキャナー選択画面へ］をクリックすると、手順 5 の画面に戻り、スキャナーの再選択ができます。

7 ［決定］をクリックします。

8 リストから取り込む文書を選択し、［取り込み］をクリックします。

補足
- 複数の文書を選択して取り込むことができます。
- ［取り込み］［最新の情報に更新］［削除］は、リスト上で右クリックして表示されるメニューからも選択できます。

文書の取り込みが開始すると、親展ボックスからスキャンデータがコンピューターに転送されます。

転送が終了すると、文書がアプリケーションソフトウェアに取り込まれ、親展ボックス内の文書が削除されます。

補足
- ページ単位で取り込みした場合、取り込まれていないページのある文書は、リスト内のその文書の先頭に、取り込み途中を示すアイコンが表示されます。
- DocuWorks を除くほとんどのアプリケーションソフトウェアの場合、ネットワークスキャナードライバーは、圧縮データを展開し、BMP フォーマットでアプリケーションソフトウェアに渡します。DocuWorks の場合は、伸長処理を行わず、データをそのままアプリケーションソフトウェアに渡すため、データの転送に時間がかかりません。
- 転送後、親展ボックス内の文書を削除しないように設定できます。詳しくは、「ボックスの登録」(P.210) を参照してください。

ネットワークスキャナードライバーの設定変更

参照
- 表示されるダイアログボックスの項目は、［ヘルプ］をクリックして表示されるネットワークスキャナードライバーのヘルプを参照してください。

■スキャナー名の表示方法を設定する

スキャナーを選択するときに、リストに表示されるスキャナー名の表示方法を変更できます。

スキャナー名の表示方法は、スキャナーを選択するダイアログボックスで、［検索 / 表示の設定］をクリックして表示されるダイアログボックスで設定します。

［スキャナー名の表示］で［検索するスキャナー］に表示するスキャナー名の表示方法を変更できます。

［検索対象の設定］で検索対象とするスキャナーを指定します。

補足
- ［追加］をクリックしてスキャナーを登録すると、異なるサブネットワークにあるスキャナーを表示できます。

■スキャンした文書の取り込み方法を設定する

親展ボックスの文書を取り込むときの文書の表示方法や取り込み方法を変更できます。

取り込み方法は、取り込む文書を選択するダイアログボックスで、［ファイル］メニューから［取り込み設定］を選択して表示されるダイアログボックスで設定します。

DocuWorks を使って取り込む

DocuWorks 7 以降をお使いの場合、スキャナードライバーを利用せずにスキャン文書を取り込めます。

1 ［スタート］メニューから［Fuji Xerox］>［DocuWorks Desk］をクリックします。

2 ［親展ボックス］を選択して、［親展ボックスの追加］をダブルクリックします。

3 親展ボックス設定ウィザード画面が表示されたら、［次へ］をクリックします。

4 表示されているリストの中から、接続する本機のスキャナー名を選択して、［次へ］をクリックします。

補足
- 本機を検索できない場合は、IP アドレスを入力します。
- 本機に認証設定がされている場合は、ログイン画面が表示されます。ユーザー ID とパスワードを入力して、［OK］をクリックしてください。

5 表示されているリストの中から、親展ボックスを選択して、［次へ］をクリックします。

補足
- 登録済みの親展ボックスが表示されない場合は、［親展ボックス番号］を入力します。
- 必要に応じて、［パスワード］と［Desk ツリーに表示する名称］を入力し、［取得時の文書形式］を選択します。

6 確認画面が表示されたら、［完了］をクリックします。

7 ［親展ボックス］の下に追加された親展ボックスを選択します。

補足
- 本機に認証設定がされている場合は、ログイン画面が表示されます。ユーザー ID とパスワードを入力して、［OK］をクリックしてください。

8 親展ボックス内に蓄積されている文書を、［ユーザーフォルダ］または任意のフォルダーにドラッグ＆ドロップします。

9 ［ファイルの取り込み］画面が表示されたら、［はい］をクリックします。

補足
- ファイル形式は、XDW で保存されます。
- ［DocuWorks 文書に変換せずにファイルを取り込む］にチェックマークを付けると、親展ボックスを追加するときに設定した［取得時の文書形式］で保存されます。

10 必要に応じて［イメージファイルの取り込み］画面で設定を変更して、［OK］をクリックします。

指定したフォルダーに、文書が入ります。

親展ボックスビューワー 3 を使って取り込む

親展ボックスビューワー 3 を使用すると、アプリケーションソフトウェアを介さずに、本機の親展ボックスに蓄積されている文書を、コンピューターに取り込めます。

親展ボックスビューワー 3 を使用するためには、ネットワークスキャナユーティリティ 3 をコンピューターにインストールします。

補足

- 付属の「ソフトウェア / 製品マニュアル」ディスクを使って、ネットワークスキャナユーティリティ 3 をインストールします。
- スキャンした文書を TIFF ファイル形式で取り出す場合、付属の「ソフトウェア / 製品マニュアル」ディスクを使って TIFF Viewer をインストールします。

  TIFF Viewer は、TIFF6.0 準拠の TIFF ファイル、およびインターネットファクス仕様準拠の TIFF-FX ファイルの画像を、表示およびプリントするためのソフトウェアです。
- セカンダリーイーサネットキット（オプション）を装着している場合、Ethernet2 の IP アドレスを指定しても、「ネットワークスキャナユーティリティ 3」は動作しません。詳しくは、「［TCP/IP - ネットワーク設定］/［TCP/IP 設定（Ethernet1）］、［TCP/IP 設定（Ethernet2）］、［TCP/IP 設定（Wi-Fi）］」(P.335) を参照してください。

参照

- 親展ボックスの文書を取り込むには、ポートの起動など、あらかじめ設定しておく項目があります。詳しくは、「ボックス保存の設定」(P.60) を参照してください。また、アプリケーション側の操作方法は、各アプリケーションのマニュアルを参照してください。
- ネットワークスキャナユーティリティ 3 および TIFF Viewer のインストール方法は、付属の「ソフトウェア / 製品マニュアル」ディスク内の『メディア情報』を参照してください。
- 表示されるダイアログボックスの項目は、［ヘルプ］をクリックして表示される親展ボックスビューワー 3 のヘルプを参照してください。

1 ［スタート］メニューから［Fuji Xerox］>［親展ボックスビューワー 3］をクリックします。

補足

- インストール時にディレクトリーを変更した場合は、そのディレクトリーを指定してください。

2 表示されているリストの中から、接続する本機のスキャナー名をクリックし、［次へ］をクリックします。

補足

- 何も表示されない場合は、［再検索］をクリックしてください。
- スキャナー名の表示方法は、［検索 / 表示の設定］をクリックして表示されるダイアログボックスで変更できます。詳しくは、親展ボックスビューワー 3 のヘルプを参照してください。
- 自動的にスキャナー名が表示されるのは、同一ネットワーク内に本機が接続されている場合だけです。ほかのネットワークにある本機を表示するには、［検索 / 表示の設定］をクリックして、IP アドレスとスキャナー名を登録してください。詳しくは、親展ボックスビューワー 3 のヘルプを参照してください。

3 ［ボックス番号］に取り込む文書が蓄積されている親展ボックス番号（3 桁の半角数字）と、［パスワード］にパスワード（20 桁以内の半角数字）を入力します。

補足

- ［登録済みのボックス］に表示された親展ボックス番号を選択できます。
- ［スキャナー選択画面へ］をクリックすると、手順 2 の画面に戻り、スキャナーの再選択ができます。

4 ［決定］をクリックします。

補足

- 本機に認証設定がされている場合は、ログイン画面が表示されます。ユーザー ID とパスワードを入力して、［OK］をクリックしてください。

5 リストから取り込む文書を選択します。選択した文書をコンピューターに取り込むには、次の方法があります。

■[取り込み] をクリックして取り込む

[取り込み] をクリックします。

文書が取り出され、指定した保存先に保存されます。

■ドラッグ&ドロップで取り込む

デスクトップなどの保存先にドラッグ & ドロップします。

ドロップした文書は親展ボックス内に残ります。

補足

- コピー&ペーストで取り込むこともできます。ペーストした文書は親展ボックス内に残ります。
- 親展ボックス内の文書を削除するには、ツールバーの [削除] をクリックします。

CentreWare Internet Services を利用して取り込む

CentreWare Internet Services は、TCP/IP 環境が利用できる場合、お使いのコンピューターから Web ブラウザーを介して本機にアクセスし、本機の親展ボックスに蓄積されている文書を、コンピューターに取り込むことができます。Web ブラウザーを利用するので、macOS/OS X からもスキャン文書を取り出せます。

補足

- 親展ボックス内の文書を取り出す場合、DocuWorks、PDF 形式で取り出すことはできますが、取り出すときに、DocuWorks、PDF ファイルを暗号化、または署名することはできません。

1 CentreWare Internet Services を起動します。

補足

- お使いのネットワークが DNS (Domain Name System) を使用していて、DNS のネームサーバーに本機のホスト名が登録されている場合は、ホスト名とドメイン名を組み合わせたインターネットアドレスを使って本機にアクセスできます。ホスト名が「myhost」、ドメイン名が「example.com」の場合、インターネットアドレスは「myhost.example.com」となります。
- ポート番号を指定する場合には、アドレスのあとに、「:」に続けて「8080」のように指定してください。
- 本機で、認証機能を使用している場合、[ユーザー名] と [パスワード] にユーザー ID とパスワードを入力してください。ユーザーID とパスワードについては、機械管理者にお問い合わせください。
- 通信を暗号化している場合、CentreWare Internet Services にアクセスするには、Web ブラウザーのアドレス欄には「http」ではなく「https」から始まるアドレスを入力してください。

2 左側のメニューから [アプリ] をクリックします。

3 [ボックス操作] をクリックします。

補足

- [一覧表示] が表示される場合は、[一覧表示] をクリックします。

4 取り出す文書データが保存されている親展ボックスをクリックします。

5 取り出す文書のチェックボックスをクリックして、チェックマークを付けます。

6 画面右の [文書の操作] をクリックして、[取り出し] をクリックします。

7 ［ファイルの形式］をクリックして、ファイル形式を指定します。

補足

- 取り出すファイルのページを指定する場合は、［ページ指定］にチェックマークを付けて、ページを指定します。
- 文字認識（OCR）を設定する場合は、［文字認識（OCR）］にチェックマークを付けて、言語などを指定します。

8 ［取り出し］をクリックします。

9 ファイル名を確認して をクリックします。

ファイルがコンピューターにダウンロードされます。

10 ［閉じる］をクリックします。

機能リスト

補足

- ご利用の機種および機能によって、表示される項目が異なります。
- 機能リストの設定を初期値に戻す場合は、画面下部の［リセット］をタップしてください。

参照

- ［カスタマイズ］および［個人用カスタマイズ］の説明については、「カスタマイズ機能について」(P.83) を参照してください。
- ［ワンタッチアプリの作成］については、「ワンタッチアプリについて」(P.88) を参照してください。

［プリセット］

カスタマイズ機能でプリセットを登録すると表示されます。

［プレビュー］

原稿の読み込み時に、スキャンした原稿を確認します。

［プレビュー］にチェックマークを付けると、直前にスキャンした原稿の先頭ページを表示します。

［カラーモード］

原稿を読み取るときのカラーモードを設定します。

［両面原稿送り］

片面 / 両面原稿を両面や片面にスキャンします。

原稿の綴じ方を設定すると、原稿のおもてとうらの天地をそろえて読み取ります。

［読み取り解像度］

原稿を読み取るときの解像度を設定します。

補足

- ［出力ファイル形式］で PDF ファイル、DocuWorks ファイルの［高圧縮（MRC）］、［文字認識（OCR）］、［少数色で圧縮］を設定した場合、［読み取り解像度］を［200dpi］または［300dpi］に設定します。

［原稿の画質］

スキャンするときの原稿画質を選択します。

［原稿セット向き指定］

原稿をセットする向きを指定します。

補足

- 実際に原稿をセットする向きと［原稿セット向き指定］の設定が合っていないと、原稿の上の部分を本機が間違って認識します。

[PDF セキュリティ - 文書を開くパスワード]

チェックマークを付けてパスワードを設定すると、ファイルを開くときにパスワードが必要になります。

[読み取りサイズ]

原稿の読み取りサイズを設定できます。

あらかじめ設定されているサイズから指定したり、サイズを入力したりできます。

[ミックスサイズ原稿送り]

いろいろなサイズの原稿を一度に読み取って、それぞれのサイズにスキャンしたり、1つのサイズにそろえてスキャンしたりできます。原稿送り装置に原稿をセットします。

注記

- [両面原稿送り]の[両面(左右開き)]または[両面(上下開き)]を選択して、A3 原稿を読み取る場合、[読み取り解像度]は[400dpi]までにしてください。[読み取り解像度]で[600dpi]を指定すると、エラーメッセージが表示されます。
- B5の原稿を、A4たて置きまたはA3の原稿と一緒にセットする場合、B5の原稿はたて置きにしてください。
- 紙づまりの原因になるので、左上の角をきちんとそろえてセットしてください。
- 推奨する組み合わせは、A4 たてと A3 よこ、B5 たてと B4 よこです。推奨以外の組み合わせでは、原稿が斜めに引き込まれるなどして正しく読み取れないことがあります。

補足

- [読み取り倍率]を[自動 %]にして、[出力サイズ]でサイズを指定すると、指定したサイズに自動的に拡大 / 縮小してスキャンします。
- 原稿サイズを自動検知できない場合は、原稿サイズを入力する画面が表示されます。

[読み込み濃度]

原稿の読み込み濃度を調整します。

[シャープネス]

画像のシャープさを調整します。

[読み取り倍率]

読み取った原稿を指定した倍率に拡大 / 縮小してスキャンします。

補足

- [出力ファイル形式]の[文字認識(OCR)]を設定した場合、[高圧縮(MRC)]を設定した場合、[少数色で圧縮]を設定した場合は、[読み取り倍率]が[100%]になり、変更できません。

[画質 / ファイルサイズ]

[カラーモード]を[フルカラー]、または[グレースケール(256 階調)]でスキャンするときの画像の圧縮率を選択します。

[印画紙スキャン]

カラーの印画紙写真原稿をスキャンする場合に設定します。

注記
- この機能は、原稿送り装置では使用できません。
- [印画紙スキャン] を選択した場合、[裏写り防止]、[地色除去] の機能は使用できません。

[地色除去]

新聞や下地（背景）に色が付いている原稿の下地の色を除いてスキャンできます。

補足
- [印画紙スキャン] とは同時に使用できません。

[コントラスト]

[カラーモード] が [自動]、[フルカラー]、[グレースケール（256 階調）] の場合、コントラストを調整します。

[裏写り防止]

薄い紙に両面にプリントしてある原稿などをスキャンする場合、原稿の裏が写らないようにできます。

[カラーモード] が [自動]、[フルカラー]、[グレースケール（256 階調）] の場合に設定できます。

補足
- [印画紙スキャン] とは同時に使用できません。

[色空間]

色空間を指定してスキャンできます。

補足
- 色空間は、[カラーモード] が [フルカラー] のときに指定できます。
- [色空間] 機能を表示させるには、設定が必要です。詳しくは、「[色空間機能の表示]」(P.306) を参照してください。
- [出力ファイル形式] の [文字認識 (OCR)] を設定した場合は、[デバイス色空間] は選択できません。

■ [標準色空間]

sYCC に準拠した色表現の基準（色空間）でスキャンされます。

■ [デバイス色空間]

本機独自の色表現の基準（色空間）でスキャンされます。カラーを忠実に再現するために高度な色処理をする場合にご使用ください。

補足
- デバイス色空間用の ICC プロファイルデータは、付属の「ソフトウェア / 製品マニュアル」ディスクに入っています。色を専門に扱うアプリケーションソフトウェアで、[デバイス色空間] を指定してスキャンしたデータに、特別な加工を行なうときなどに、ICC プロファイルが有効です。
- [デバイス色空間] を指定した場合、読み込み濃度、シャープネス、裏写り防止、コントラスト、地色除去の画質調整機能は標準の設定に変更されます。
- [カラーモード] が [自動] のときのカラーページは、[標準色空間] が適用されます。
- [デバイス色空間] を指定した場合、[両面原稿送り] 画面で [両面] を選択できません。

[ページ連写]

本などの冊子の見開きページを、別々の用紙にページ順にスキャンします。

原稿ガラスに原稿をセットします。

補足

- 定形サイズ以外の原稿やサイズを検知できない原稿などは、正確に 2 分割されないことがあります。

[わく消し]

原稿カバーを開いたままスキャンしたり、冊子になっている原稿をスキャンするときに、スキャンの周りや中央のとじ部分に黒い影ができることがあります。このような場合に、影を消してスキャンできます。

補足

- 両面原稿の場合は、原稿のおもて面とうら面には同じわく消し量が設定されます。
- [読み取り倍率] を設定している場合は、倍率に比例して、わく消し量も拡大 / 縮小されます。

[ファイル名重複時の処理]

指定された保存先に、すでに同じ名前のファイルが存在しているときの処理を設定できます。

[次原稿]

原稿送り装置に一度にセットできない枚数の原稿をスキャンするときや、原稿ガラスを使用して複数の原稿を 1 つのジョブとしてスキャンするときに設定します。

[次原稿] を設定すると、原稿読み取りの確認画面が表示され、次原稿のあり、なしを指定できます。

補足

- 原稿送り装置を使っているときは、最初にセットした原稿をすべて読み取ってから、次の原稿をセットします。

[本文（URL 送信）]

URL 送信時の本文を入力します。

[件名（URL 送信）]

URL 送信の件名を入力します。件名を入力しない場合は、「Scan Reference from XXX」（XXX には本機のホスト名が入ります）に自動的に設定されます。

[件名]

メールの件名を入力します。件名を入力しない場合は、「Scan Reference from XXX」（XXX には本機のホスト名が入ります）に自動的に設定されます。

[送信者]

送信者のメールアドレスを表示します。

[本文]

メールの本文を入力します。

[開封確認（MDN）]

メール送信機能を使用する場合、メールの送信結果を相手がメールで知らせてくれるように設定できます。相手が MDN 機能に対応している必要があります。

補足

- この機能は、[設定] > [アプリ設定] > [メール送信設定] > [メール送信動作制御] > [開封確認（MDN）機能の使用] を [許可] にしているときだけ表示されます。
- [分割送信] で複数のメールが送信された場合は、各メールに対して開封確認の要求をします。
- 応答メールの宛先は、[返信先アドレス] が設定されている場合は [返信先アドレス] のアドレスに、設定されていない場合は [送信者] のアドレスになります。
- この機能は、相手が開封確認を返す設定になっているときだけ使用できます。

[返信先アドレス]

アドレスの入力エリアをタップして、返信先のアドレスを設定します。[送信アドレスを設定] をタップすると、送信者に設定されているアドレスが、返信先のアドレスに入力されます。

[分割送信]

メール送信機能を使用する場合、添付するデータの量が大きいときに、設定されたページ単位、または一定のデータ量単位で分割して送信できます。

参照

- 分割送信のページ単位については、「[メールの分割方式]」(P.309) を参照してください。

■ [ページの区切りで分割]

データをページ単位で分割します。

補足

- [出力ファイル形式] で [PDF]、[DocuWorks] のどれかを選択したとき、または [TIFF] で [1 ページずつ分割する] にチェックマークを付けていないときだけ設定できます。

■ [データサイズ単位で分割]

データを一定のデータ量ごとに分割します。

補足

- [データサイズ単位で分割] は、受信者が message/partial に対応している場合に選択してください。

8

ボックス操作

ボックスの登録

ボックスとは、本機から読み込んだスキャン文書や、ファクス文書、コンピューターから指示したプリント文書を本機に保存する場所のことです。

また、保存するだけではなく、ボックスに格納された文書をメール送信したり、ネットワーク上のコンピューターから取り出すこともできます。

個人ボックスや共有ボックスを登録し使い分けることもできます。

1 ホーム画面で、[ボックス操作]をタップします。

2 画面右上の[+]をタップします。

3 未登録のボックスをタップします。

4 ボックス名称を入力します。

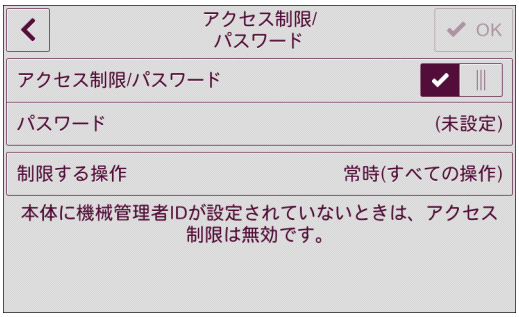
参照

- 文字の入力方法については、「文字の入力方法」(P.80) を参照してください。

5 [次へ]をタップします。

6 ボックス名称を確認して、[次へ]をタップします。

7 必要に応じて、[アクセス制限 / パスワード] にチェックマークを付けて、[パスワード] と [制限する操作] を設定します。



■[パスワード]

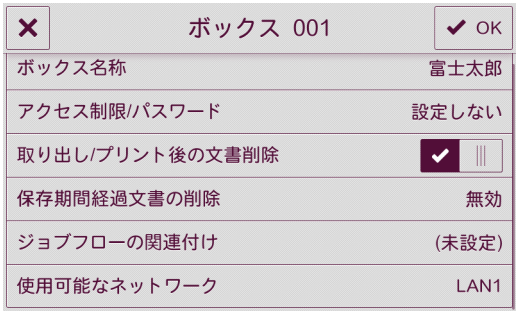
ボックス利用時のパスワードを設定します。

■[制限する操作]

ボックス利用時にパスワードが必要な操作を指定します。

8 各設定が終わったら、画面右上の [OK] をタップします。

9 必要に応じて、その他の設定をします。



■[取り出し / プリント後の文書削除]

ボックス内の文書の取り出しやプリントしたあとに、文書を削除するかどうかを設定します。

■[保存期間経過文書の削除]

ボックス内に保存されている文書を、保存期間経過後に削除するかどうかを設定します。

参照

- 保存期間の設定については、「[ボックス文書の保存期間]」(P.298) を参照してください。

■[ジョブフローの関連付け]

ジョブフローを親展ボックスに関連付けできます。一連の作業内容を登録したジョブフローを関連付けることにより、親展ボックス内に保存されている文書の処理方法を設定できます。

参照

- 設定方法については、「ジョブフロー」(P.219) を参照してください。

■[使用可能なネットワーク]

文書の保存や取り出しに使用されるネットワークを設定します。親展ボックスに文書が保存されている場合は、設定を変更できません。

■[ホームにショートカットボタンを配置]

ホーム画面に親展ボックスのショートカットを作成するかどうかを設定します。親展ボックスのショートカットは、最大 10 個まで作成できます。

10 各設定が終わったら、画面右上の［OK］をタップします。

親展ボックスの操作

ボックス操作では、親展ボックスに保存された文書を確認したり、プリントしたり、メール送信したり、ネットワーク上のコンピューターから取り出したりできます。

参照

- ジョブフローの作成、実行については、「ジョブフロー」(P.219) を参照してください。

1 ホーム画面で、[ボックス操作] をタップします。

2 親展ボックスをタップします。

補足

- ジョブフローが関連づけられているボックスには が表示されます。自動実行が設定されているボックスには が表示されます。
- 画面右側の 3 桁の番号をタップすると、その番号の親展ボックスが先頭に表示されます。
- ボックスにアクセス制限が設定されている場合は、パスワードの入力画面が表示されます。パスワードを入力して、[OK] をタップします。

■サムネール表示

■リスト表示

格納されている文書の内容を表すアイコンは、次のとおりです。

- : スキャン文書
- : プリント文書
- : ポーリング予約文書
- : ファクス親展受信文書、IP ファクス（SIP）親展受信文書
- : インターネットファクス親展受信文書

補足

- サムネール画面、リスト画面の操作ボタンで、文書の確認ができます。操作ボタンについては、「共通の操作ボタンの説明」(P.79) を参照してください。

親展ボックスの設定変更

登録した親展ボックスの設定の変更方法を説明します。

1 ホーム画面で、[ボックス操作]をタップします。

2 設定を変更するボックスをタップします。

3 > [ボックス設定]をタップします。

4 変更したい項目を選択して、設定を変更します。

参照
- 詳しくは、「ボックスの登録」(P.210) を参照してください。

5 変更が終わったら、[OK]をタップします。

親展ボックスの削除

1 ホーム画面で、[ボックス操作]をタップします。

2 削除するボックスをタップします。

3 > [ボックス設定]をタップします。

4 [ボックス削除]をタップします。

5 [はい（削除する）]をタップします。

保存文書のプリント

ボックス内に保存された文書をプリントします。

1 ホーム画面で、[ボックス操作] をタップします。

2 ボックスをタップします。

3 プリントする文書をタップします。

補足
- 文書のチェックボックスにチェックマークが付きます。また、複数の文書をプリントする場合は、チェックマークを付けた順にプリントします。

4 [プリント / ジョブフローを実行] をタップします。

5 [プリントする] をタップします。

6 必要に応じて、各機能を設定します。

■[個別 / 束ねプリント]

複数の文書を選択した場合に、[個別プリント] または [束ねプリント] にするかを設定します。束ねプリントを設定すると、1 つの文書としてプリントできます。文書は、選択した順番に結合されます。100 文書まで束ねられます。

補足
- 複数の文書を束ねた結果、サイズの異なる原稿が混在すると、意図しない向きでプリントされることがあります。
- 束ねプリントは、割り込み中には実行できません。
- 親展ポーリング予約文書、ファクス親展受信文書、インターネットファクス親展受信文書などは、束ねプリントできません。

参照
- 各機能の設定については、「機能リスト」(P.135) を参照してください。

7 [プリント] をタップします。

8 [はい（プリントする)] をタップします。

9

ジョブフロー

ジョブフローの概要

ジョブフローとは、登録された一連の作業内容を実行する機能です。ジョブフローは 1,000 件まで登録できます。

親展ボックスにジョブフローを関連付けて、蓄積された文書をプリントしたり、送信先を指定して送信したりできます。また、スキャン操作にジョブフローを直接関連付けて、実行することもできます。

親展ボックスを起点とするジョブフローは、本機で作成できます。スキャンを起点とするジョブフローは、Device Setup（デバイス設定ツール）を使って作成します。

補足

- Device Setup（デバイス設定ツール）は、弊社の会員制ポータルサイト「富士ゼロックスダイレクト」の ApeosWare Management Suite 2 のページから、ネットワーク上のコンピューターにダウンロードします。
- ジョブフローを利用するには、ポートの設定が必要です。詳しくは、「Device Setup（デバイス設定ツール）の利用設定」(P.227) を参照してください。
- ジョブフローの実行結果は、ジョブ履歴レポートをプリントして確認してください。詳しくは、「[ジョブ履歴レポート]」(P.255) を参照してください。

ジョブフローを実行するには、次の方法があります。

- ボックスに文書が蓄積された時点で自動で実行
- ボックスに保存されている文書を選択して、関連付けされているジョブフローを手動で実行
- ボックスに保存されている文書とジョブフローを選択して、手動で実行
- Device Setup（デバイス設定ツール）で作成したジョブフローを選択して、手動で実行

参照

- ジョブフローの利用制限については、「ジョブフローと親展ボックスの認証」(P.396) を参照してください。

親展ボックスを起点とするジョブフローの作成

1 ホーム画面で、[設定] をタップします。

補足

- [ボックス操作] からでも作成できます。[ボックス操作] >ボックスを選択> > [ジョブフローの関連付け] > [関連付けられているジョブフロー] をタップして、手順 3 に進みます。

2 [アプリ設定] > [ジョブフロー設定] > [ジョブフロー登録] をタップします。

3 画面右上の [+] をタップします。

4 [名称] にジョブフロー名を入力して、[完了] をタップします。

5 必要に応じて、[説明]、[検索キーワード] を設定します。

6 [送信先 / 処理] でジョブフローの動作をタップします。

7 必要に応じて、各項目を設定して、[OK] をタップします。

8 設定が終わったら、新規作成画面で [OK] をタップします。

親展ボックスに蓄積された時点でジョブフローを自動で実行

1 ホーム画面で、[ボックス操作]をタップします。

2 ボックスをタップします。

3 > [ジョブフローの関連付け]をタップします。

4 [関連付けられているジョブフロー]をタップします。

5 使用するジョブフローをタップします。

補足

- [表示するジョブフロー]をタップすると、ジョブフローの所有者を指定して検索できます。

6 [OK]をタップします。

7 [自動実行]をタップして、チェックマークを付けます。

8 [OK]をタップします。

補足

- 親展ボックスにジョブフローが関連付けされると、[ボックス操作]画面のボックス表示が に変わります。また、自動実行が設定されると、ボックス表示が に変わります。

親展ボックスに関連付けされているジョブフローを手動で実行

親展ボックスに関連付けされているジョブフローに自動実行が設定されていない場合は、ジョブフローを手動で実行します。

1 ホーム画面で、[ボックス操作]をタップします。

2 ボックスをタップします。

3 ジョブフローを使って実行する文書をタップします。

補足
- 文書のチェックボックスにチェックマークが付きます。また、複数の文書をプリントする場合は、チェックマークを付けた順にプリントされます。

4 > [ジョブフローの関連付け]をタップします。

補足
- [関連付けられているジョブフロー]に使用するジョブフローが指定されているかを確認します。

5 [今すぐ実行]をタップします。

文書とジョブフローを選択して手動で実行

親展ボックスにジョブフローが関連付けられていない場合、親展ボックスに蓄積されている文書と登録されているジョブフローを選択して手動で実行します。

1 ホーム画面で、[ボックス操作]をタップします。

2 ボックスをタップします。

3 ジョブフローを使って実行する文書をタップします。

補足
- 文書のチェックボックスにチェックマークが付きます。また、複数の文書をプリントする場合は、チェックマークを付けた順にプリントされます。

4 [プリント / ジョブフローを実行]をタップします。

5 [ジョブフローを実行する]をタップします。

6 [ジョブフローを選択する]をタップして、使用するジョブフローを選びます。

7 [OK]をタップします。

8 [スタート]をタップします。

Device Setup（デバイス設定ツール）で作成したジョブフローを選択して手動で実行

ここでは、スキャン文書を対象とするジョブフローの操作について説明します。

1 原稿をセットします。

補足
- アプリケーション連携のジョブフローを実行する場合は、原稿セットは不要です。

2 ホーム画面で、[ジョブフロー]をタップします。

3 [ジョブフローを選択する]をタップします。

4 使用するジョブフローをタップします。

5 [OK]をタップします。

6 ジョブフローの設定を一時的に変更する場合は、次の操作をします。

1) [設定の一時変更]をタップして、項目を変更します。

2) 変更が終わったら、[OK]をタップします。

補足
- 設定を変更できるジョブフローを選択したときに、[設定の一時変更]が表示されます。

7 [スタート]をタップして、ジョブフローを実行します。

親展ボックスに関連付けされているジョブフローの解除

1. ホーム画面で、[ボックス操作]をタップします。
2. ジョブフローを解除するボックスをタップします。
3. > [ジョブフローの関連付け]をタップします。
4. 関連付けられているジョブフローを確認して、[関連付けを解除]をタップします。
5. [はい（解除する）]をタップします。

Device Setup（デバイス設定ツール）の利用設定

Device Setup（デバイス設定ツール）を使ってジョブフローを作成するには、次の設定が必要です。

- TCP/IP アドレス設定
- SOAP ポートの起動
- SNMP ポートの設定
- ソフトウェアのインストール

参照
- IP アドレスの設定については、「[プロトコル設定]」(P.334) を参照してください。
- ソフトウェアのインストールについては、「ジョブフローの概要」(P.220) を参照してください。

■SOAP ポートの起動

1 機械管理者モードにログインします。

参照
- 詳しくは、「認証モードへのログイン」(P.82) を参照してください。

2 ホーム画面で、[設定] をタップします。

3 [ネットワーク設定] > [ポート設定] > [SOAP] > [SOAP- ポート] をタップします。

4 [起動] をタップします。

5 ホームボタンを押します。

補足
- 設定を有効にするには、再起動が必要です。画面の表示に従って再起動してください。

■SNMP ポートの設定

CentreWare Internet Services を使用して、SNMP ポートのトランスポートプロトコルを設定します。

1 CentreWare Internet Services を起動します。

参照
- 詳しくは、「CentreWare Internet Services を起動する」(P.92) を参照してください。

2 機械管理者モードにログインします。

3 左側のメニューから [ネットワーク] をクリックします。

4 [SNMP] をクリックして、[ポート] にチェックマークを付けます。

5 [認証失敗の通知] にチェックマークを付けます。

6 [保存] をクリックします。

補足
- 設定を有効にするには、再起動が必要です。画面の表示に従って再起動してください。

10
アドレス帳

アドレス帳の登録

よく使用する相手の連絡先を、アドレス帳に登録できます。

アドレス帳に登録すると、メールやファクス、スキャン機能の宛先や転送先を、アドレス帳から簡単に指定できます。また、アドレス帳の宛先からアプリを起動させて、送信することもできます。

アドレス帳には、5,000 件の連絡先を登録できます。1 件の連絡先には、メール、ファクス、サーバー、インターネットファクス、IP ファクス（SIP）の宛先をそれぞれ 1 件ずつ登録できます。

補足

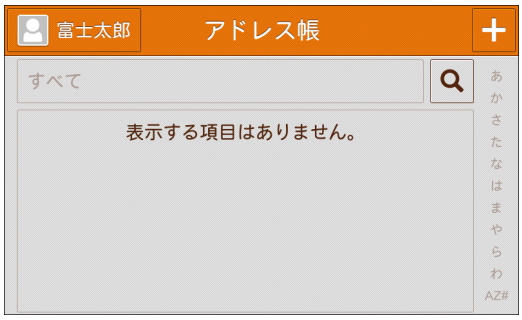
- アドレス帳の宛先をワンタッチボタンに登録できます。詳しくは、「［ワンタッチボタン設定］」(P.328) を参照してください。

参照

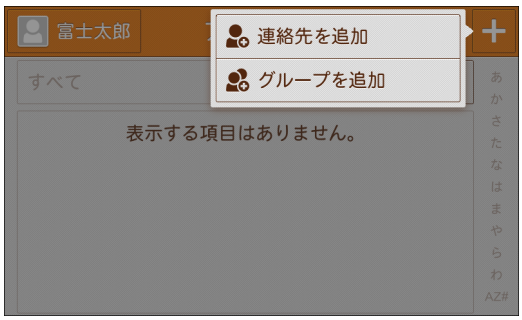
- 文字の入力方法については、「文字の入力方法」(P.80) を参照してください。

1 ホーム画面で、［アドレス帳］をタップします。

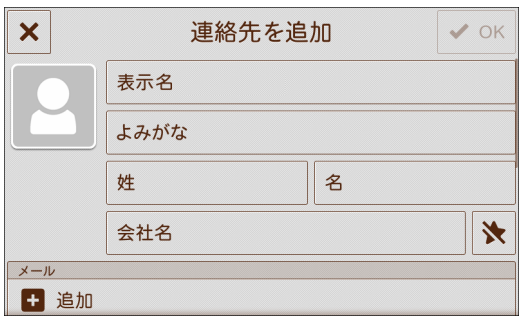
2 画面右上の［+］をタップします。



3 ［連絡先を追加］をタップします。



4 表示名を入力します。



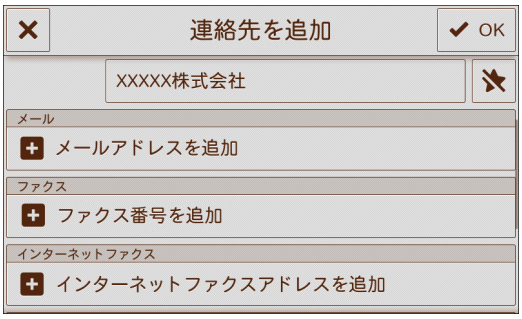
5 必要に応じて、よみがな、姓、名、会社名を入力します。

補足

- ［表示名］を入力後、キーボードの［次へ］をタップすると、次の項目へカーソルが移動し、入力できます。各入力エリアをタップしても入力できます。
- 会社名右側のをタップすると、表示がに変わり、連絡先に登録したすべての宛先を［お気に入り］に登録できます。宛先ごとに［お気に入り］に登録する場合は、入力した宛先右側のをタップして、にしてください。

6 各宛先を追加します。

1) 各機能のをタップして、宛先を入力します。



補足

- 登録した宛先を削除する場合は、各宛先のをタップします。連絡先を削除する場合は、「連絡先およびグループの削除」(P.238) を参照してください。

2) ［完了］をタップします。

3) ［設定］をタップして、詳細項目を設定します。

参照

- 詳しくは、「詳細項目の設定」(P.232) を参照してください。

4) ［<］をタップして、［連絡先を追加］画面まで戻ります。

7 連絡先の追加が終わったら、［連絡先を追加］画面で［OK］をタップします。

詳細項目の設定

属性名 1

［補助項目 1 の属性名］で設定した属性名が、項目名として表示されます。

補助的な項目として、任意の情報を入力できます。文字列が短めの情報（電話番号や社員番号など）に適しています。

参照
- 属性名については、「［補助項目 1 の属性名］～［補助項目 3 の属性名］(P.348) を参照してください。

属性名 2

［補助項目 2 の属性名］で設定した属性名が、項目名として表示されます。

補助的な項目として、任意の情報を入力できます。文字列が長めの情報（事業所や部署など）に適しています。

参照
- 属性名については、「［補助項目 1 の属性名］～［補助項目 3 の属性名］(P.348) を参照してください。

属性名 3

［補助項目 3 の属性名］で設定した属性名が、項目名として表示されます。

補助的な項目として、任意の情報を入力できます。文字列が長い情報（部署名や住所など）に適しています。

参照
- 属性名については、「［補助項目 1 の属性名］～［補助項目 3 の属性名］(P.348) を参照してください。

［S/MIME 用証明書］

S/MIME 用証明書の関連付けができます。あらかじめ、証明書を作成しておく必要があります。

証明書を関連付ける場合は、［関連付けの変更］をタップして、表示された画面で証明書を選択します。関連付けを解除する場合は、［関連付け解除］をタップします。

注記
- ［設定］＞［リセット］＞［工場出荷時の設定に戻す］や証明書の削除により、アドレス帳の S/MIME 用証明書に関連付けられていた証明書が削除されると、S/MIME 用証明書の関連付けは無効になります。関連付けした S/MIME 用証明書を再度登録した場合には、アドレス帳の S/MIME 用証明書の関連付けを手動でやり直してください。

補足
- 本機に登録されている証明書が多い場合は、証明書の関連付けに時間がかかる場合があります。

参照
- 証明書については、「暗号化と署名機能の設定」(P.371) を参照してください。

［サーバー名：］

転送先のサーバー名または IP アドレスを入力します。

［共有名：］

SMB フォルダーに設定されている共有名を入力します。

注記
- 共有名の先頭に「/」を使用すると、ジョブフローで正しく共有名を読み出せません。共有名の先頭には、「/」を使用しないでください。

[保存場所：]

文書を保存するためのディレクトリーを入力します。SMB の場合は、UNC 形式で入力します。

◆FTP/SFTP 転送の場合

例）ログイン時のルートディレクトリーにある、aaa ディレクトリーの bbb ディレクトリーに保存する場合

aaa/bbb

◆SMB 転送の場合

例）指定したボリュームの aaa ディレクトリーにある、bbb ディレクトリーに保存する場合

aaa￥bbb

[ポート番号：]

転送先のポート番号を指定します。

[ユーザー名：]

転送先のサーバーからユーザー名の入力を求められる場合は、ユーザー名を設定します。

■UPN 形式の場合

ユーザー名 @ ドメイン名

入力例：fuji@example.com（fuji：ユーザー名、example.com：ドメイン名）

■NetBIOS 形式の場合

ドメイン名￥ユーザー名

入力例：example￥fuji（example：ドメイン名、fuji：ユーザー名）

■ワークグループの場合

ローカルユーザー名

入力例：Fuji-Taro

[パスワード：]

転送先のサーバーからパスワードの入力を求められる場合は、パスワードを設定します。

[内線 / 外線]

指定された宛先に内線または外線で送信するように設定します。

参照

- この項目は内線が設定されている場合に表示されます。内線設定については、「[内線設定]」(P.310)を参照してください。

[送信ヘッダ宛先名]

送信ヘッダーに表示される宛先名を設定します。

[通信モード]

通信モードを設定します。

[送信画質]

送信するときの画質を設定します。

[送信シート]

送信シートを添付して送信するかどうかを設定します。添付する場合は、送信シートに入れる送信先と発信元のコメントを指定します。

参照

- 送信シート上の「送信先」をアドレス帳等の宛先名にするかファクス番号にするかは、「[発信元記録 / 送信シートの宛先]」(P.311) で設定できます。

[最大蓄積サイズ]

相手先の受信紙サイズや処理できるプロファイルに合わせて、最大蓄積サイズを選択します。

[時刻指定]

時刻指定送信をするかどうかを設定できます。

参照

- 本機のシステム時計の時刻を 24 時間表示に設定している場合は、[午前（AM）] と [午後（PM）] は表示されません。詳しくは、「[時刻]」(P.277) を参照してください。

[親展通信指示]

親展通信をするかどうかを設定します。なお、親展通信をする場合は、あらかじめ相手先の親展ボックスの番号と暗証番号が必要です。

[F コード]

F コード通信をするかどうかを設定します。

補足

- F コードは、「0」+ 親展ボックス番号になります。たとえば、親展ボックス番号が「123」の場合、F コードは、「0123」になります。

[課金情報（昼間料金）]、[課金情報（夜間料金）]、[課金情報（深夜料金）]

時間帯（昼間 / 夜間 / 深夜）別の 1 度数あたりの通信時間（単位通信時間）を設定します。

補足

- 登録した内容は、「課金データリスト」をプリントして確認できます。詳しくは、「[課金データリスト]」(P.259) を参照してください。

[インターネットファクスプロファイル]

インターネットファクスのプロファイル形式を設定します。

プロファイルとは、送受信するインターネットファクス対応機間で、画像の解像度や用紙サイズなどの属性情報を制限するための決めごとです。

■ **[TIFF-S]**

インターネットファクスの標準規格です。A4 より大きいサイズの原稿の場合は、自動的に A4 に縮小して送信されます。

- 符号化方式：MH
- 蓄積原稿サイズ：A4
- 送信画質：標準、高画質

補足

- ［送信画質］で［超高画質（400dpi）］または［超高画質（600dpi）］を選択している場合は、［TIFF-S］では送信できません。

■［TIFF-F］

送信画質で超高画質を指定したり、A3、B4 の原稿を送信したりする場合に選択します。

- 符号化方式：MMR
- 蓄積原稿サイズ：A4、B4、A3
- 送信画質：標準、高画質（200dpi）、超高画質（400dpi）、超高画質（600dpi）

補足

- ［TIFF-F］をサポートしない機種と通信した場合は、送信が終了しても、受信側では受信した画像を表示 / プリントできません。

■［TIFF-J］

JBIG で原稿を送信する場合に選択します。

- 符号化方式：JBIG
- 蓄積原稿サイズ：A4、B4、A3
- 送信画質：標準、高画質（200dpi）、超高画質（400dpi）、超高画質（600dpi）

補足

- ［TIFF-J］をサポートしない機種と通信した場合は、送信が終了しても、受信側では受信した画像を表示 / プリントできません。

宛先グループの登録

同報送信する宛先をまとめて宛先グループとして登録できます。

なお、宛先グループに登録する宛先は、あらかじめアドレス帳に登録しておく必要があります。

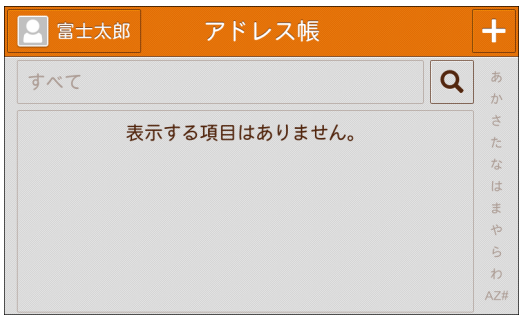
宛先グループは、メール送信およびファクス送信時の宛先に指定できます。

補足

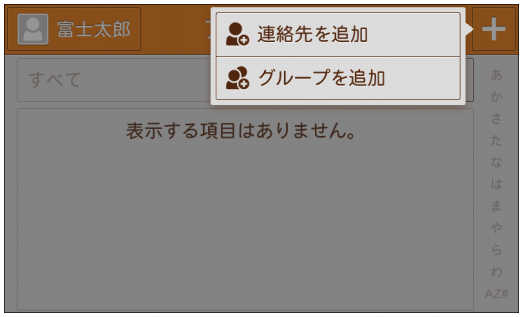
- 宛先グループは、最大 500 件（メールグループ 250 件、ファクスグループ 250 件）を登録できます。

1 ホーム画面で、［アドレス帳］をタップします。

2 画面右上の［+］をタップします。



3 ［グループを追加］をタップします。



4 登録するグループの種類をタップします。

5 グループ名、よみがなを入力して、［完了］をタップします。

補足

- グループを［お気に入り］に登録する場合は、をタップします。表示がに変わり、［お気に入り］に登録されます。

6 ［メンバーを追加］をタップします。

7 登録する宛先をタップして、チェックマークを付けます。

8 ［OK］をタップします。

9 宛先の追加が終わったら、［グループを追加］画面で［OK］をタップします。

連絡先およびグループの修正

1 ホーム画面で、[アドレス帳]をタップします。

2 変更する連絡先またはグループをタップします。

3 [編集]をタップします。

4 連絡先を修正して、[OK]をタップします。

5 修正が終わったら、[連絡先を編集]画面で[OK]をタップします。

連絡先およびグループの削除

1 ホーム画面で、［アドレス帳］をタップします。

2 削除する連絡先またはグループをタップします。

3 ［連絡先を削除］または［グループを削除］＞［はい（削除する）］をタップします。

フィルター機能と検索機能について

機能	説明
フィルター機能	アドレス帳の各連絡先に登録されている宛先種別ごとに表示できます。
検索機能	入力した文字列を含んだ連絡先を表示します。

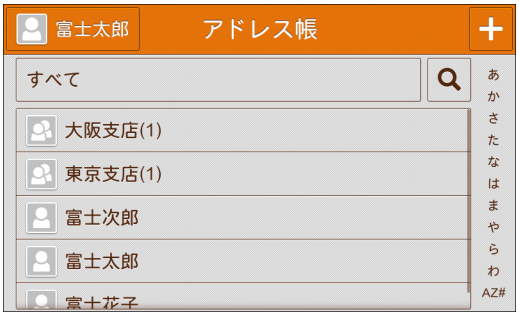
補足

- 本機能では、本体アドレス帳およびディレクトリサービスに登録されている宛先を表示します。

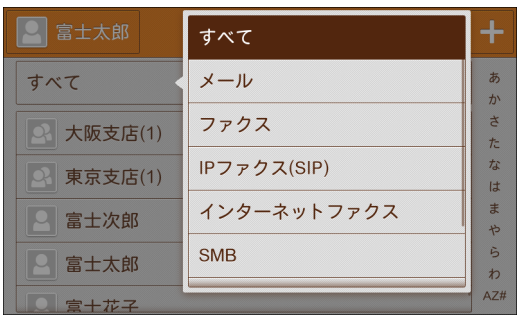
フィルター機能

1 ホーム画面で、[アドレス帳]をタップします。

2 [すべて]をタップします。



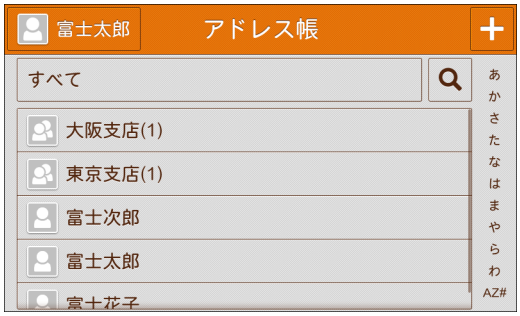
3 該当する宛先種別をタップします。



検索機能

1 ホーム画面で、［アドレス帳］をタップします。

2 をタップします。



3 キーボードで検索する文字列を入力します。

入力した文字列を含んだ連絡先がリスト表示されます。

4 表示された連絡先から該当する連絡先をタップします。

宛先からアプリを起動する

アドレス帳に登録している宛先からアプリを起動できます。

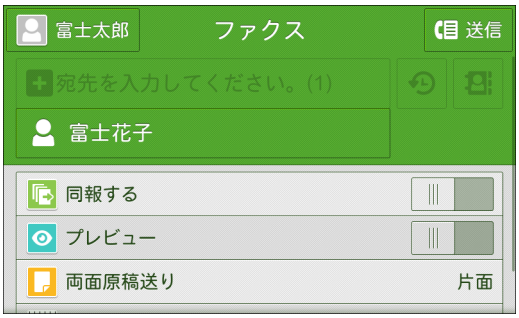
ここでは、アドレス帳に登録しているファクス番号からファクスを起動させる方法を例に説明します。

1 ホーム画面で、[アドレス帳]をタップします。

2 ファクスを送信する相手をタップします。

3 ファクス番号をタップします。

ファクス画面が表示されます。



参照

- ファクスの送信については、「ファクスの基本操作」(P.147) を参照してください。

アドレス帳の一括登録

CentreWare Internet Services を使用して、大量のアドレス情報を CSV フォーマットで一度に登録できます。

注記
- CentreWare Internet Services には、複数のユーザーが同時にアクセスできるため、管理者 / パスワードを設定していないと、登録データを上書きされる可能性があります。管理者 / パスワードを設定し、編集は管理者が行うことをお勧めします。
- 操作パネルからのアドレス帳登録と同時に使用しないでください。

補足
- CSV フォーマットのファイルのバージョンや、機種によっては、本機のアドレス帳に取り込めない場合があります。

参照
- CentreWare Internet Services から設定できる項目については、CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。

登録用のテンプレートをダウンロードする

1 CentreWare Internet Services を起動して、機械管理者モードにログインします。

参照
- 詳しくは、「CentreWare Internet Services を起動する」(P.92) を参照してください。

2 左側のメニューから［アドレス帳］をクリックします。

3 ［詳細設定］>［登録用テンプレートのダウンロード］または［記入例付き登録用テンプレートのダウンロード］>［はい（ダウンロードする)］をクリックします。

4 アドレス帳を編集します。

本機にアドレス帳を登録する

1 左側のメニューから［アドレス帳］をクリックします。

2 ［詳細設定］>［テンプレートによる新規登録］をクリックします。

3 ［登録用ファイル（*.csv)］の［選択］をクリックして、編集した登録用テンプレートを指定します。

4 ［次へ］をクリックします。

5 登録内容を確認します。

1) ［連絡先の登録方法］をクリックして、登録方法を設定します。

2) ［ファクス番号の記述形式］をクリックして、記述形式を設定します。

3) ［登録項目の対応付け］の内容を確認します。

6 ［保存］をクリックします。

他の同機種へのアドレス帳登録

本機に登録されているアドレス帳を、CentreWare Internet Service を使用して、ネットワーク上の他の同機種に一括で登録できます。

本機のアドレス帳をダウンロードする

1 CentreWare Internet Services を起動して、機械管理者モードにログインします。

参照
- 詳しくは、「CentreWare Internet Services を起動する」(P.92) を参照してください。

2 左側のメニューから［アドレス帳］をクリックします。

3 ［詳細設定］>［アドレス帳のエクスポート］>［はい（エクスポートする）］をクリックします。

4 保存先を指定して、アドレス帳データを保存します。

他の同機種に取り込む

1 CentreWare Internet Services を起動して、機械管理者モードにログインします。

参照
- 詳しくは、「CentreWare Internet Services を起動する」(P.92) を参照してください。

2 左側のメニューから［アドレス帳］をクリックします。

3 ［詳細設定］>［アドレス帳のインポート］をクリックします。

補足
- CentreWare Internet Services を使用して取り出した CSV フォーマットのファイル（宛先表のデータ）は Excel などのソフトウェアを使用して編集 / 変更しないでください。取り出した機種によっては、登録時に警告メッセージが表示されずに本機に登録できてしまい、その結果、既存データが損なわれたり、改変されたデータによって意図しない送信先にファクスが送信されてしまうおそれがあります。

4 ［選択］をクリックして、取り込むアドレス帳データを指定します。

5 登録方法を選択します。

6 ［インポート］をクリックします。

11

ジョブ情報

ジョブ情報の概要

ジョブ情報では、実行中や実行待ちのジョブや、完了したジョブなどを確認できます。また、プリントを中止したり、プリント待ちや操作待ちのジョブをプリントしたりできます。

実行完了 / 実行中 / 実行待ちジョブの確認

ジョブの状況を確認できます。

1 ホーム画面で、[ジョブ情報] をタップします。
すべてのジョブが表示されます。

ジョブ単位で表示

1 [すべてのジョブ] をタップします。

2 表示させるジョブをタップします。

実行中 / 実行待ちジョブの中止

1 ホーム画面で、[ジョブ情報] をタップします。

2 [すべてのジョブ] > [実行中 / 待ちジョブ] をタップします。

3 中止するジョブをタップします。

4 [中止] をタップします。

補足

- 機能によって、表示が異なります。画面の表示に従って操作してください。

実行待ちジョブを優先実行

1 ホーム画面で、[ジョブ情報] をタップします。

2 [すべてのジョブ] > [実行中 / 待ちジョブ] をタップします。

3 優先で実行するジョブをタップします。

4 [優先] をタップします。

実行待ちジョブのプリント

［プリント起動］で設定されている時間まで、プリント待ちになっているジョブを強制的にプリントできます。

また、プリント中に中断されているジョブがある場合は、プリントを再開します。

参照

- プリント起動については、「［プリント起動］(P.277) を参照してください。

1 ホーム画面で、［ジョブ情報］をタップします。

2 ［すべてのジョブ］>［実行中 / 待ちジョブ］をタップします。

3 実行するジョブをタップします。

4 ［スタート］をタップします。

補足

- 機能によって、表示が異なります。画面の表示に従って操作してください。

12

基本設定

概要

本機の設定を変更したり、設定内容を確認したりできるメニューについて説明します。

ホーム画面で［設定］をタップしてください。

補足

- この章では、機械管理者モードでのみ操作できる項目も含めて記載しています。また、お使いの機種やほかの設定によって、表示されない項目もあります。

［言語切り替え］

タッチパネルディスプレイに表示される言語を切り替えます。

［キーボード］

文字入力時に表示されるキーボードのレイアウトを設定します。

［ホームに [言語切り替え] ボタンを表示］

ホーム画面に言語切り替えボタンを表示するかどうかを設定します。

[機械確認 / レポート]

シリアル番号やプリントページ数、IP アドレスなどの本機のさまざまな情報を画面で確認できます。また、レポート / リストをプリントして、ジョブの履歴や設定 / 登録内容などを確認できます。

[機械構成]

本機の構成を確認できます。

[ソフトウェアバージョン]

本機のソフトウェアのバージョンを確認できます。

[ファクス認定番号]

本機のファクス認定番号（電気通信端末機器の技術基準適合認定番号等）を確認できます。

[無線 LAN の接続状態]

Wi-Fi 接続状況と Wi-Fi Direct 接続情報が表示されます。

[レポート / リストの出力]

をタップすると、レポートまたはリストをプリントできます。

[ジョブ確認 / 通信管理レポート]

■[ジョブ履歴レポート]

ジョブの実行結果について確認できます。最新の 200 件までのジョブがプリントされます。ジョブの種類ごとのレポートをプリントすることもできます。

[関連ジョブを含める] にチェックマークを付けると、関連ジョブそれぞれを 1 行ずつプリントします。チェックマークを外すと、複数の関連ジョブ（ジョブフローのジョブなど）を 1 行にまとめてプリントします。

参照

- [ジョブ履歴レポート] は、50 件を超えるごとに自動的にプリントさせることもできます。自動プリントについては、「[レポート設定]」(P.283) を参照してください。自動プリントの場合は、すべてのジョブの実行結果が印字されます。

■[エラー履歴レポート]

参照

- 詳しくは、「[エラー履歴レポート]」(P.261) を参照してください。

■[通信管理レポート]

送受信が正常に終了したかどうかを確認できます。相手局名や通信結果 / 状態が発信と着信に分けて記録されます。

次の場合は、[通信管理レポート] に掲載されません。

- リダイヤルされる送信やポーリングの場合
- 送信待機中やリダイヤル待機中に、送信待ちの文書を削除した場合
- 通信中に電源が切断された場合やシステムエラーが発生した場合

通信結果の合計が 100 件になるごとに、自動的にレポートをプリントさせることができます。

参照

- 設定については、「[レポート設定]」(P.283) を参照してください。

■[蓄積文書リスト]

親展ボックスに保存されている未完了ジョブ（送受信が完了していない文書、ポーリング予約文書）のリストがプリントされます。

[コピー設定]

本機のハードウェア構成やネットワーク情報、プリント機能やコピー機能の設定状態を確認できる機能設定リストがプリントされます。

補足

- 機能設定リストは、[コピー設定]、[プリンター設定]、[スキャナー設定]、[ファクス設定] のどこからプリントしても、同じ内容がプリントされます。

[プリンター設定]

■[機能設定リスト（共通項目)]

本機のハードウェア構成やネットワーク情報、プリント機能やコピー機能の設定状態が確認できます。

補足

- 機能設定リストは、[コピー設定]、[プリンター設定]、[スキャナー設定]、[ファクス設定] のどこからプリントしても、同じ内容がプリントされます。

■[ART EX フォーム登録リスト]

オーバーレイ印字機能で、フォームとして登録した文書の一覧がプリントされます。

補足

- ART EX フォーム登録については、ART EX プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

■[PCL 設定リスト]

PCL の各設定がプリントされます。

■[PCL マクロ登録リスト]

PCL 用に登録したフォームの一覧がプリントされます。

■[PDF 設定リスト]

PDF プリンターモードでの各設定がプリントされます。

■[TIFF/JPEG 設定リスト]

TIFF および JPEG プリンターモードでの各設定がプリントされます。

■[TIFF/JPEG 論理プリンター登録リスト]

TIFF および JPEG プリンターモードで作成した論理プリンターの一覧がプリントされます。

参照

- TIFF および JPEG 論理プリンターの設定は、CentreWare Internet Services で行います。各項目については、CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。

■[PostScript 論理プリンター登録リスト]

PostScript® で作成した論理プリンターの一覧がプリントされます。

参照

- PostScript 論理プリンターの設定は、CentreWare Internet Services で行います。各項目については、CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。

■[ESC/P 設定リスト]

ESC/P エミュレーションモードの各設定がプリントされます。

■[ESC/P メモリー登録リスト]

ESC/P エミュレーションモードのメモリー登録の各設定がプリントされます。

■［ART IV, ESC/P ユーザー定義リスト］

ART IV、ESC/P、PC-PR201H で利用できるフォーム、ロゴ、パターンの登録内容がプリントされます。

参照
- ART IV のユーザー定義については『リファレンスマニュアル（ART IV 対応）』を、ESC/P のユーザー定義については『リファレンスマニュアル（ESC/P 対応）』を、PC-PR201H のユーザー定義については『リファレンスマニュアル（PC-PR201H 対応）』を、それぞれ参照してください。

■［HP-GL/2 設定リスト］

HP-GL、HP-GL/2、HP-RTL エミュレーションモードの各設定がプリントされます。

■［HP-GL/2 メモリー登録リスト］

HP-GL、HP-GL/2、HP-RTL エミュレーションモードのメモリー登録の各設定がプリントされます。

■［PC-PR201H 設定リスト］

PC-PR201H エミュレーションモードの各設定がプリントされます。

■［PC-PR201H メモリー登録リスト］

PC-PR201H エミュレーションモードのメモリー登録の各設定がプリントされます。

■［フォントリスト］

本機で使用できるフォントの一覧がプリントされます。

補足
- プリントされる内容は、取り付けられているオプションによって異なります。

■［PCL フォントリスト］

PCL で使用できるフォントがプリントされます。

■［PostScript フォントリスト］

PostScript で使用できるフォントがプリントされます。

■［DocuWorks プリント設定リスト］

DocuWorks ダイレクトプリントのための設定がプリントされます。

［スキャナー設定］

■［機能設定］

◆［機能設定リスト（共通項目）］

本機のハードウェア構成やネットワーク情報、プリント機能やコピー機能の設定状態が確認できます。

補足
- 機能設定リストは、［コピー設定］、［プリンター設定］、［スキャナー設定］、［ファクス設定］のどこからプリントしても、同じ内容がプリントされます。

◆［拡張機能設定リスト］

スキャナー機能やファクス機能に関する設定状態が確認できます。

補足
- 拡張機能設定リストは、［スキャナー設定］、［ファクス設定］のどちらからプリントしても、同じ内容がプリントされます。

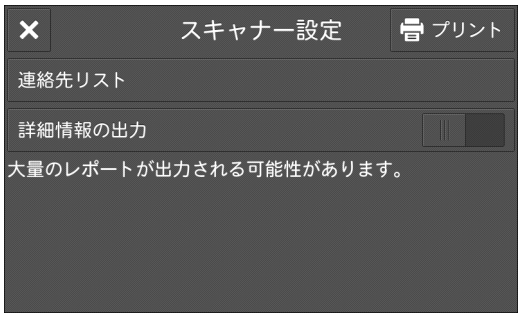
◆[送受信ドメイン制限リスト]

送受信を制限するドメインの設定状況が確認できます。

■[連絡先リスト]

アドレス帳の登録内容を確認できます。

補足
- [詳細情報の出力]にチェックマークを付けると、宛先種別や通信モードなどの情報も出力されます。



[ファクス設定]

■[機能設定]

◆[機能設定リスト（共通項目)]

本機のハードウェア構成やネットワーク情報、プリント機能やコピー機能の設定状態が確認できます。

補足
- 機能設定リストは、[コピー設定]、[プリンター設定]、[スキャナー設定]、[ファクス設定]のどこからプリントしても、同じ内容がプリントされます。

◆[拡張機能設定リスト]

ファクス機能やスキャナー機能に関する設定状態が確認できます。

補足
- 拡張機能設定リストは、[スキャナー設定]、[ファクス設定]のどちらからプリントしても、同じ内容がプリントされます。

◆[ボックスセレクターリスト]

親展ボックスへの振り分け機能の設定状況が確認できます。

◆[ファクス受信制限リスト]

ファクス受信を禁止している G3ID（電話番号）の設定状況が確認できます。

◆[送受信ドメイン制限リスト]

送受信を制限するドメインの設定状況が確認できます。

◆[VoIP ゲートウェイ登録リスト]

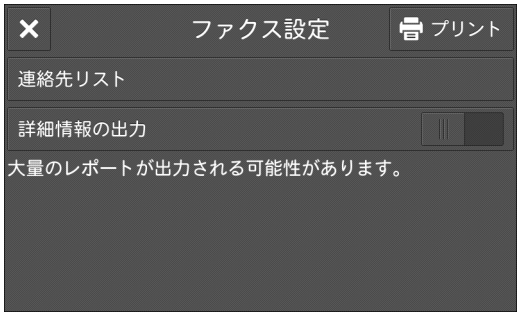
VoIP ゲートウェイの登録状況が確認できます。

■[連絡先リスト]

アドレス帳の登録内容を確認できます。

補足

- [詳細情報の出力]にチェックマークを付けると、宛先種別や通信モードなどの情報も出力されます。

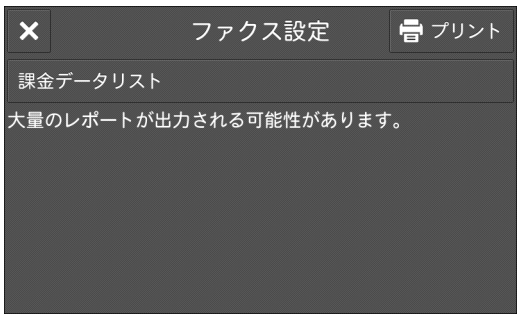


■[コメント登録リスト]

送信シートで使用するコメントの登録内容が確認できます。

■[課金データリスト]

指定した宛先番号の課金データの登録状況が確認できます。



[機能別カウンターレポート]

機能別のカウンターレポートをプリントします。機能別のカウンターレポートでは、各機能別に実際に利用した内訳（プリント枚数や使用回数など）や利用していない時間（待機時間、低電力モード時間、スリープモード時間、電源オフ時間など）の累計を分単位で確認できます。

自動的にプリントするレポート / リストについて

ファクスやスキャン機能に関するレポート / リストには、手動ではプリントできないレポート / リストがあります。ここでは、自動的にプリントできるレポート / リストについて説明します。

■[未送信レポート]

スキャンしたデータをネットワーク上のコンピューターへ転送するときや、スキャンしたデータをメール送信するときに、データの送信に失敗するとプリントされます。また、ファクス送信に失敗したときにプリントされます。読み取った原稿の縮小イメージと、その送信結果を確認できます。

未送信レポートを、プリントしないように設定することもできます。

参照

- メール送信の未送信レポートを自動的にプリントするかどうかの設定方法は、「[転送モニターレポート]」(P.284) を参照してください。
- ファクス送信の未送信レポートを自動的にプリントするかどうかの設定方法は、「[未送信レポート]」(P.283) を参照してください。

■[モニターレポート]

スキャンしたデータをネットワーク上のコンピューターへ転送するときや、スキャンしたデータをメール送信するときに、データの送信に成功するとプリントされます。また、ファクス送信に成功したときにプリントされます。読み取った原稿の縮小イメージと、その送信結果を確認できます。

モニターレポートを、プリントしないように設定することもできます。

参照
- メール送信のモニターレポートを自動的にプリントするかどうかの設定方法は、「[転送モニターレポート]」(P.284) を参照してください。
- ファクス送信のモニターレポートを自動的にプリントするかどうかの設定方法は、「[モニターレポート]」(P.166) を参照してください。

■[親展受信レポート]

親展ボックスに文書が蓄積されたことを確認できます。

参照
- 自動的にプリントするかどうかの設定方法は、「[親展受信レポート]」(P.284) を参照してください。

■[同報レポート]

同報送信の送信結果を確認できます。宛先や通信結果 / 状態が記録されます。

自動的にプリントするように設定していると、同報の通信終了後にプリントされます。

参照
- 自動的にプリントするかどうかの設定方法は、「[同報 / 集信レポート]」(P.284) を参照してください。

■[集信レポート]

集信（複数の宛先からポーリング受信すること）の通信結果を確認できます。相手局名や通信結果 / 状態が記録されます。

自動的にプリントするように設定していると、集信の通信終了後にプリントされます。

参照
- 自動的にプリントするかどうかの設定方法は、「[同報 / 集信レポート]」(P.284) を参照してください。

■[ジョブフローエラーレポート]

ジョブフローでエラーが発生したことを通知するためのレポートです。エラーの発生日時やエラーコードなどがプリントされます。

ジョブフローエラーレポートを、プリントしないように設定することもできます。

参照
- 自動的にプリントするかどうかの設定方法は、「[ジョブフローエラーレポート]」(P.284) を参照してください。

［エラー履歴レポート］

本機に発生したエラーに関する情報を確認できます。

エラー履歴レポートには、最新の 50 件までのエラーがプリントされます。

補足

- ［エラー履歴レポート］は、［レポート / リストの出力］画面の［ジョブ確認 / 通信管理レポート］からも指示できます。
- ［レポート設定］の［レポート出力の許可］のチェックマークを外している場合は、［エラー履歴レポート］は表示されません。詳しくは、「［レポート設定］(P.283) を参照してください。

[通知]

障害の状態、交換時期やその他の重要なメッセージなどの本機からの通知を重要度順に表示します。

通知を選ぶと、詳細や関連するページを確認できます。

［用紙トレイ］

本機に設定されている用紙トレイを、一覧で確認できます。

参照
- 各トレイの設定は、「用紙の設定を変更する」(P.102) を参照してください。

［共通設定］

［ユーザー用紙属性の名称設定］

［ユーザー用紙種類 1］～［ユーザー用紙種類 5］、および［ユーザー用紙色 1］～［ユーザー用紙色 5］に名称を付けられます。

たとえば、色付きの用紙に「色紙」と付けたり、上質紙に「表紙用」と付けるなど、用途に応じた名称を付けることもできます。

［用紙選択画面の補助属性表示］

用紙トレイの自動サイズ検知の設定有無を用紙選択画面に表示するように設定します。

［トレイセット時の用紙変更画面表示］

用紙トレイを出し入れしたときに、対象トレイの設定変更画面を表示するかどうかを設定します。

補足
- トレイ 5（手差し）は設定できません。

［用紙種類の優先順位］

自動トレイ選択時に同一サイズ、同一方向の用紙が複数セットされている場合に、使用する用紙種類がセットされた用紙トレイの優先順位を設定します。

［トレイの優先順位］よりも、用紙種類の設定が優先されます。

ただし、異なる用紙種類に同じ優先順位を設定した場合は、［トレイの優先順位］によって、選択される用紙が決まります。また、［自動トレイ選択しない］に設定した用紙種類がセットされているトレイは、自動トレイ選択の対象にはなりません。

補足
- 自動トレイ選択とは、適切な用紙がセットされたトレイを、機械が自動的に選択してコピーやプリントすることです。

［自動トレイ動作制御］

選択しているトレイの用紙がなくなったときに、切り替える対象を設定します。

■［自動トレイ切り替え］

自動切り替えの条件を設定します。［[自動] 選択時に切り替える］に設定すると、用紙トレイの［自動トレイ切り替え］の設定に応じて切り替えます。［同一用紙種類 / 色で切り替える］に設定すると、用紙種類と色が同じトレイを切り替え対象とします。

■［対象用紙種類（コピー）］

トレイを切り替えるときの用紙種類の扱いを設定します。

［優先順位に従う］を選ぶと、［用紙種類の優先順位］に従って動作します。［指定用紙種類のみ］を選ぶと、用紙の種類が指定できます。

■[対象用紙色（コピー）]

対象をすべての用紙色にするか、指定の用紙色にするかを設定します。

[用紙種類別画質処理]

用紙種類ごとに、画質の処理方法が設定できます。

本機は、コピーやプリントをするとき、[用紙種類別画質処理]で設定している用紙の種類と、その用紙種類に設定されている画質処理によって、画質をコントロールします。

設定できる項目は、次の表を参照してください。

参照

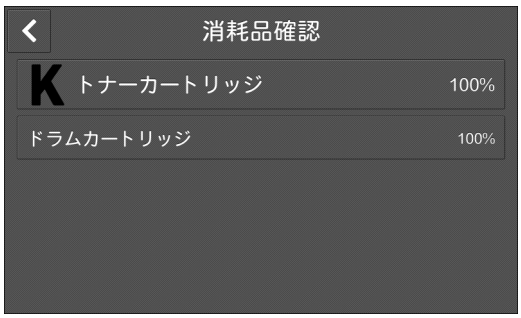
- 用紙の特長と使用上の注意は、「用紙をセットする」(P.94) を参照してください。

用紙種類	設定値	内　容
[普通紙の画質処理]	[普通紙（A)]	60 ～ 79 g/m^2 の用紙を使うときに設定します。
	[普通紙（B)]	通常は設定しないでください。
	[普通紙（C)]	通常は設定しないでください。
	[普通紙（D)]	80 ～ 89 g/m^2 の用紙を使うときに設定します。
	[普通紙（E)]	通常は設定しないでください。
	[普通紙（F)]	90 ～ 105 g/m^2 の用紙を使うときに設定します。
	[普通紙（G)]	通常は設定しないでください。
	[普通紙（S)]	カスタム設定用です。
[上質紙の画質処理]	[普通紙（A)]	60 ～ 79 g/m^2 の用紙を使うときに設定します。
	[普通紙（B)]	通常は設定しないでください。
	[普通紙（C)]	通常は設定しないでください。
	[普通紙（D)]	80 ～ 89 g/m^2 の用紙を使うときに設定します。
	[普通紙（E)]	通常は設定しないでください。
	[普通紙（F)]	90 ～ 105 g/m^2 の用紙を使うときに設定します。
	[普通紙（G)]	通常は設定しないでください。
	[普通紙（S)]	カスタム設定用です。
[再生紙の画質処理]	[普通紙（A)]	通常は設定しないでください。
	[普通紙（B)]	通常は設定しないでください。
	[普通紙（C)]	60 ～ 79 g/m^2 の用紙を使うときに設定します。
	[普通紙（D)]	80 ～ 89 g/m^2 の用紙を使うときに設定します。
	[普通紙（E)]	通常は設定しないでください。
	[普通紙（F)]	90 ～ 105 g/m^2 の用紙を使うときに設定します。
	[普通紙（G)]	通常は設定しないでください。
	[普通紙（S)]	カスタム設定用です。

用紙種類	設定値	内　容
［うら紙の画質処理］	［普通紙（A）］	60 ～ 79 g/m^2 の用紙を使うときに設定します。
	［普通紙（B）］	通常は設定しないでください。
	［普通紙（C）］	通常は設定しないでください。
	［普通紙（D）］	80 ～ 89 g/m^2 の用紙を使うときに設定します。
	［普通紙（E）］	通常は設定しないでください。
	［普通紙（F）］	90 ～ 105 g/m^2 の用紙を使うときに設定します。
	［普通紙（G）］	通常は設定しないでください。
	［普通紙（S）］	カスタム設定用です。
［厚紙１の画質処理］	［厚紙１（A）］	106～169 g/m^2 の用紙を使うときに設定します。
	［厚紙１（B）］	カスタム設定用です。
	［厚紙１（C）］	カスタム設定用です。
	［厚紙１（S）］	カスタム設定用です。
［厚紙１（ウラ面）の画質処理］	［厚紙１（A）（ウラ）］	106 ～ 169 g/m^2 の用紙のうら面を使うときに設定します。
	［厚紙１（B）（ウラ）］	カスタム設定用です。
	［厚紙１（C）（ウラ）］	カスタム設定用です。
	［厚紙１（S）（ウラ）］	カスタム設定用です。
［厚紙２の画質処理］/［厚紙 3 の画質処理］	［厚紙２（A）］	170～256 g/m^2 の用紙を使うときに設定します。
	［厚紙２（B）］	カスタム設定用です。
	［厚紙２（C）］	カスタム設定用です。
	［厚紙２（D）］	カスタム設定用です。
	［厚紙２（S）］	カスタム設定用です。
［厚紙２（ウラ面）の画質処理］/［厚紙 3（ウラ面）の画質処理］	［厚紙２（A）（ウラ）］	170 ～ 256 g/m^2 の用紙のうら面を使うときに設定します。
	［厚紙２（B）（ウラ）］	カスタム設定用です。
	［厚紙２（C）（ウラ）］	カスタム設定用です。
	［厚紙２（D）（ウラ）］	カスタム設定用です。
	［厚紙２（S）（ウラ）］	カスタム設定用です。
［ユーザー用紙 1 の画質処　理］～［ユーザー用紙 5 の画質処理］	［普通紙（A）］	60 ～ 79 g/m^2 の用紙を使うときに設定します。
	［普通紙（B）］	通常は設定しないでください。
	［普通紙（C）］	通常は設定しないでください。
	［普通紙（D）］	80 ～ 89 g/m^2 の用紙を使うときに設定します。
	［普通紙（E）］	通常は設定しないでください。
	［普通紙（F）］	90 ～ 105 g/m^2 の用紙を使うときに設定します。
	［普通紙（G）］	通常は設定しないでください。
	［普通紙（S）］	カスタム設定用です。

[消耗品確認]

消耗品の状態は、[消耗品確認] 画面で確認できます。



注記

- 使いかけのトナーカートリッジ（同じ機種のほかの製品から取り出したトナーカートリッジなど）を使用した場合、残量表示と実際の残量が合わないことがあります。トナーカートリッジを交換するときは、なるべく新品を使用することをお勧めします。

[メーター確認]

メーター別に、コピー / プリントページ数を確認できます。

注記

- コンピューター上で作成したドキュメント・画像をプリントした場合、プリント料金の計算基準となるメーターは、次のようにカウントされます。ただし、お客様が選択されたコンピューターやソフトウェアとの組み合わせにおいて、次のとおりカウントされない場合もあります。
  - プリントされる用紙がA3の1.5倍以上のサイズから長尺用紙と判断し、メーターに2カウントされます。また長尺用紙は A3 の等倍分でカウント(例:A3 サイズ 3 倍比のとき、3 カウント)されます。

[シリアル番号]

本機のシリアル番号が表示されます。

[メーター 1]

コピー、プリント、ファクスの合計ページ数が表示されます。

[ユーザー別メーター確認]

ユーザー別のページ数を確認できます。

集計管理機能が有効に設定されている場合に、現在認証されているユーザー ID のメーターを確認できます。

メーターを確認したい認証ユーザーまたは機械管理者モードにログインしてから、この機能を使用してください。

補足

- [ユーザー別メーター確認] は、[集計管理機能の運用] が [本体集計管理] のときだけ表示されます。
- 集計管理機能で [集計する] に設定しているサービスのメーターを確認できます。

参照

- 集計管理機能については、「[集計管理]」(P.355) を参照してください。

■[コピーメーター]

コピーをしたページ数が表示されます。

■[スキャナーメーター]

スキャンをしたページ数が表示されます。

■[プリンターメーター]

プリントをしたページ数が表示されます。

補足

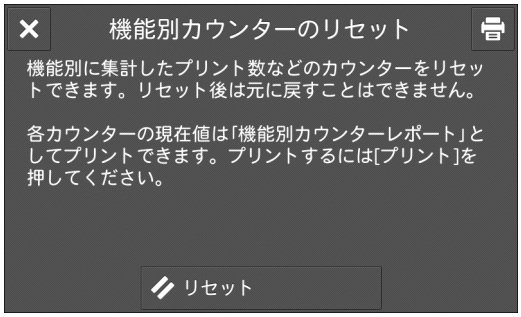
- 機械管理者モードのときには、プリンターメーターは表示されません。

[機能別カウンターのリセット]

機能別に集計したスキャン、プリント数や稼動状況の累積時間などのカウントをリセットできます。

補足

- [機能別カウンターのリセット] は、集計管理の権限を持つユーザーまたは機械管理者で認証しているときに表示されます。



■

各カウンターの現在の値を、機能別カウンターレポートとしてプリントできます。

■[リセット]

機能別に集計した値をリセットできます。リセットする場合は、表示された確認画面で、[はい（リセットする)] を選びます。

注記

- リセットすると元に戻すことはできません。

［保守］

点検または修理の依頼、その他の調整をします。

［保守レポートの出力］

［親展ボックス登録リスト］

指定した番号の範囲の親展ボックスに設定されている内容と、ボックス保存時の処理方法を表形式でプリントします。

［機能別カウンターレポート］

参照

- 詳しくは、「［機能別カウンターレポート］」(P.259) を参照してください。

［ユーザー別集計管理］

ユーザー別の集計管理レポートをプリントできます。なお、ユーザー別集計管理レポートは、集計管理機能を有効にしているかどうかで、表示される画面が異なります。

■［集計管理機能の運用］が［本体集計管理］以外に設定されている場合

［集計管理機能の運用］が［本体集計管理］以外に設定されている場合は、次の画面が表示され、プリンター集計レポートをプリントできます。

◆［プリンター集計］

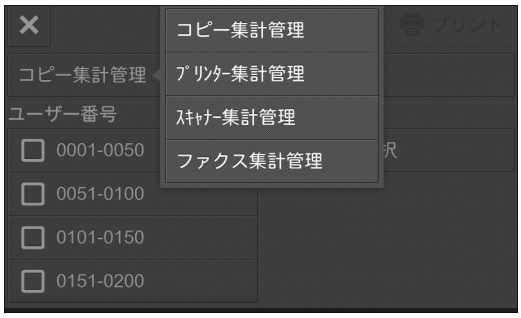
クライアント別（ジョブオーナー別）に、本機でプリントした総ページ数、使用した用紙の総枚数を確認できます。［プリンター集計］は、データを初期化した時点からのカウントになります。

■[集計管理機能の運用]が[本体集計管理]に設定されている場合

[集計管理機能の運用]が[本体集計管理]に設定されている場合は、[ユーザー別集計管理]画面が表示されます。集計管理機能を[集計する]に設定している機能の、ユーザー別の集計管理レポートを、機能ごとにプリントできます。

参照
- 各機能の集計管理機能の設定は、「[集計管理]」(P.355) を参照してください。

集計管理レポートをプリントするには、各集計管理レポートを選び、ユーザー番号の範囲を指定します。



補足
- [すべて選択]を選ぶと、すべてのユーザーが選択されます。

◆[コピー集計管理]

本機でコピーした総ページ数、プリントページ数を確認できます。また、ページ数の制限を設定している場合は、それらの制限値を表示します。[コピー集計管理レポート]は、データを初期化した時点からのカウントになります。

補足
- レポートに表示される[No.]は、[集計管理]、[認証・セキュリティ設定]で、ユーザー登録したNo.(ユーザー管理番号)です。

◆[プリンター集計管理]

クライアント別(ジョブオーナー別)に、本機でプリントした総ページ数、使用した用紙の総枚数を確認できます。[プリンター集計管理]は、データを初期化した時点からのカウントになります。

注記
- [集計管理機能の運用]の[各機能の集計]で[プリンター]を[集計しない]に設定している場合は、[プリンター集計管理]ではなく、[プリンター集計]が表示されます。プリンター集計レポートについては、「[プリンター集計]」(P.269) を参照してください。

補足
- レポートに表示される[No.]は、[集計管理]、[認証・セキュリティ設定]で、ユーザー登録したNo.(ユーザー管理番号)です。

◆[スキャナー集計管理]

本機でスキャンした総ページ数を機能別に確認できます。また、ページ数の制限を設定している場合は、それらの制限値を表示します。[スキャナー集計管理]は、データを初期化した時点からのカウントになります。

補足
- レポートに表示される[No.]は、[集計管理]、[認証・セキュリティ設定]で、ユーザー登録したNo.(ユーザー管理番号)です。

◆［ファクス集計管理］

通信回数、送信原稿枚数などのデータをユーザー別に確認できます。

補足
- レポートに表示される［No.］は、［集計管理］、［認証・セキュリティ設定］で、ユーザー登録した No.（ユーザー管理番号）です。

［使用済み製品回収情報シート］

使用済みの本機の回収を依頼する場合に、情報シートをプリントできます。お客様から弊社のカストマーコンタクトセンターに本機の情報を通知していただくことにより、本機の回収経路が決定します。

［GS1-128 バーコードサンプル］

GS1-128 バーコードサンプルを出力できます。

バーコードモードを有効にした場合と無効にした場合のバーコードの印刷状態を確かめることができます。

［点検 / 修理依頼］/［EP 診断 / 修理依頼］/［EP 診断］/［修理依頼］

点検や修理が必要になったときに、弊社のカストマーコンタクトセンターに連絡します。

補足
- EP システムの利用有無や修理要否によって、表示される項目が異なります。

参照
- EP システムについて詳しくは、「EP システムについて」(P.572) を参照してください。

［初期設定項目］

本機を使うための初期設定が完了しているかどうかを確認できます。初期設定されてない項目は、ここから設定画面を起動できます。

［EP 通信確認］

インターネットを使った EP システムを利用している場合、本機と弊社の間で通信が正常に行われるかを確認できます。

参照
- EP システムについて詳しくは、「EP システムについて」(P.572) を参照してください。

［ソフトウェアオプションの設定］

この機能は、カストマーエンジニアが設定します。

［ソフトウェアオプションの設定 -USB］

USB ドングルを取り付けてオプション機能を使えるようにします。

[ソフトウェアバージョンアップ]

EP システムを利用している場合、本機のソフトウェアのバージョンアップが必要になったときに、ソフトウェアを更新するための機能です。

ソフトウェア更新をすぐに実行したり、日時を指定して実行したりできます。

注記

- ソフトウェアがダウンロードされると、自動的に再起動して、ソフトウェアの更新を行います。そのあと再起動し、ホーム画面が表示されたらソフトウェアバージョンアップは終了です。ソフトウェアバージョンアップが終了するまで、電源は切らないでください。途中で電源を切ると、ソフトウェアが不完全な状態となり、本機が起動できなくなることがあります。

補足

- 本機能を利用するには、EP システムのご利用に加えて専用の契約が必要です。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。
- EP システムは、一部の地域で利用できない場合があります。適用については、担当の営業または販売店にお問い合わせください。

参照

- EP システムについて詳しくは、「EP システムについて」(P.572) を参照してください。

[機械起動時のプログラム診断]

本機の電源を入れたときに、プログラム診断をするかどうかを設定します。

プログラム診断で意図的なプログラムの書き換えなどの異常が見つかった場合は、起動を停止し、監査ログに記録します。

補足

- プログラム異常の状態によっては、監査ログに記録されないことがあります。

[IC カード情報の確認]

[IC カード情報の確認] を選び、ご利用の IC カードを IC カードリーダー（オプション）にタッチすると、IC カードの情報がタッチパネルディスプレイに表示されます。

補足

- 認証に使用する情報は、CentreWare Internet Services で設定します。詳しくは、CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。

[証明書の一括削除 / 初期化]

証明書を一括削除し、初期化します。[ネットワーク設定] > [セキュリティ設定] の [SSL/TLS 設定] で証明書を使用するように設定しているにもかかわらず、証明書ファイルの異常などが原因で、証明書データが使用できなくなった場合に使用します。

[画質調整]

[アライメント調整]

用紙にプリントする出力イメージの位置を調整します。

参照

- 手順については、「アライメント調整を行う」(P.441) を参照してください。

［パンチユニット設定］

2/4 穴パンチユニット（オプション）か 2/3 穴パンチユニット（US 規格）（オプション）かを設定します。

［製本折り位置の調整］

製本折り位置を、B4 未満 / 以上の場合でそれぞれ設定します。

参照

- 詳しくは、「製本折り位置の調整」(P.445) を参照してください。

［パンチ位置の調整］

パンチ位置を、B4 未満 / 以上の場合でそれぞれ設定します。

［トレイ 5（手差し）ガイド調整］

トレイ 5（手差し）のガイド幅の検知精度を補正します。

13

詳細設定

概要

本機の動作を制御するための項目について説明します。本章の機能は、おもに機械管理者が設定します。

ホーム画面で［設定］をタップしてください。

補足

- お使いの機種やほかの設定によって、表示されない項目があります。

［システム設定］

［システム時計 / タイマー設定］

時刻をセットしたり、リセットなどの機能が働くまでの時間を設定したりします。

［日付］

本機のシステム時計の日付を指定します。

［時刻］

本機のシステム時計の時刻を指定します。

［時刻サーバー（NTP）と同期］

時刻サーバー（NTP）の時刻と同じになるように、サーバーから時刻を取得し、本機の時間を合わせます。

［時刻サーバーの接続間隔］

時刻サーバーに何時間ごとに接続するかを指定します。

［時刻サーバーアドレス］

時刻サーバーのサーバー名または IP アドレスを指定します。

［自動リセット］

何も操作をしない状態で一定の時間が経過したとき、リセットされる時間を指定します。

補足

- ［しない］に設定しても、原稿を読み込んでジョブに対する操作待ちになっている画面の状態で、操作を 1 分間しないと、操作待ちを解除し、読み込み済みの原稿の処理を開始します。

［ジョブ自動解除］

コピーやスキャン中に、エラー（用紙の補給、原稿づまり、用紙づまりなど）が発生したとき、現在のジョブを解除して、次のジョブを実行できるまでの時間を指定します。

［プリント起動］

操作パネル（［スタート］は除きます）の操作後、プリントができるようになるまでの時間を設定します。

［プリント禁止の設定］

プリントを一時的に禁止するように設定します。

［手動で禁止する］に設定すると、［自動プリントの許可 / 禁止］をホーム画面に表示できます。

ホーム画面で［自動プリントの許可 / 禁止］をタップすると、設定画面が開きます。［禁止する］を選ぶと、一時的にプリントを禁止できます。［許可する］を選ぶと、プリントが可能になります。

参照

- 特定の時間帯をプリント禁止に設定することもできます。詳しくは、CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。

補足

- ［手動で禁止しない］を選ぶと、ホーム画面から［自動プリントの許可 / 禁止］の表示が消えます。

[タイムゾーン]

GMT を基準に、-12 時間から +12 時間の範囲で設定します。

[サマータイム]

夏時間（サマータイム）を設定します。夏時間（サマータイム）として設定した期間は、現在の時間に 1 時間加えた時刻になります。

[暖機モード動作]

本機内の結露を防止または軽減する暖機モードに移行するかどうかを設定します。

- [する] を選択して、[開始時刻] と [継続時間] を指定すると、[開始時刻] から [継続時間] まで暖機モードに移行します。
- [自動的に動作する] にチェックマークを付けると、[しない] / [する] にかかわらず、結露状況を予測して自動的に暖機モード動作が有効になります。指定した [開始時刻] になると、暖機モードに移行します。
- [自動的に停止する] にチェックマークを付けると、結露しない状態が一定期間続いたときに、暖機モード動作が自動的に無効になります。
- [結露注意の表示] にチェックマークを付けると、本機が結露発生の可能性を感知したときに、メッセージを表示します。

補足

- お使いの製品によっては、カストマーエンジニアの設定が必要です。詳しくは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にお問い合わせください。
- 暖機モード動作中は、スリープモードに移行しません。

[オンデマンド印刷の有効時間]

外部アクセスを使用してプリントする場合の有効時間を設定します。印刷を指示したあと、ここで設定した時間以内に外部接続先からプリントデータを受信しないと、プリント指示が無効になります。

補足

- 一度に大量の文書をプリント指示した場合や、処理に時間がかかる複雑な文書が含まれる場合、最後のページを受け付ける前にタイムアウトすることがあります。

[節電モードの設定]

[節電モード移行時間]

節電モードには、「低電力モード」と「スリープモード」があり、設定時間が経過すると次のように移行し、消費電力を下げます。

「本機を最後に操作」→「低電力モード」→「スリープモード」

補足

- 低電力モードおよびスリープモードに移行しないように設定することはできません。
- スリープモードに移行するまでの時間は、低電力モードに移行するまでの時間と同じか、それより大きくなるように指定してください。
- スリープモードに移行するまでの時間が低電力モードに移行するまでの時間と同じときは、低電力モードには移行せずにスリープモードに移行します。

[自動プリント後の節電モード移行]

コンピューターからのプリントやファクスなどの受信プリントが完了したあとに、節電モードへ移行するタイミングを設定します。

［スリープモード設定］

スリープモード中の動作を、省電力優先にするか復帰時間優先にするかを設定します。

補足

- ［省電力優先］に設定されている場合でも、本機の構成や機能設定によっては、本機の内部で［復帰時間優先］として動作することがあります。

［節電解除の制御］

節電状態を解除するときに、使用する部分のみを解除するかどうかを設定します。

［電源の自動制御］

設定した時刻になると電源が切れるように設定します。

補足

- ［自動的に電源を切る］が設定されていても、本機に紙づまりなどの異常が発生している場合や、ジョブなどの処理を行っている場合には、電源は切れません。

［音の設定］

ジョブの終了や機械の異常などを知らせる音を、鳴らすかどうかを設定します。

［音の種類］

［標準音］、［ビープ音］から選びます。

［正常入力音］

操作パネル上のボタンを正しくタップしたときに鳴る音量を設定します。

［異常入力音］

選べないボタンをタップしたときや、エラーが発生しているときに操作をしたときに鳴る音量を設定します。

［準備完了音］

電源を入れたときなど、本機がコピーやプリントできる状態になったときに鳴る音量を設定します。

［正常終了音］

ジョブが正常に終了したときに鳴る音量を設定します。

対象ジョブごとに鳴らすかどうかを設定します。

［正常終了音（受信回線 1）］～［正常終了音（受信回線 3）］

ファクスの受信プリントと親展受信が正常に終了したときに鳴る音量を、受信回線ごとに設定します。

［異常終了音］

ジョブが異常終了したときに鳴る音量を設定します。

対象ジョブごとに鳴らすかどうかを設定します。

[自動リセット事前通知音]

自動リセット機能を設定している場合に、自動的に初期画面に戻る 5 秒前に鳴る音量を設定します。

参照
- 自動リセットについては、「[自動リセット]」(P.277) を参照してください。

[異常警告音]

原稿や用紙が詰まるなどの異常が発生し、ジョブが異常状態のまま保留になったときに鳴る音量を設定します。

[用紙切れ警告音]

用紙トレイの用紙切れによって、ジョブが異常状態のまま保留になったときに鳴る音量を設定します。

[トナー残量警告音]

トナーカートリッジが交換時期になったときに鳴る音量を設定します。

[エラー解除通知音]

エラーが解除され、操作が可能になったときに鳴る音量を設定します。

[ログイン音]

機械管理者や認証ユーザーとして本機にログインしたときに鳴る音量を設定します。

[電源オフ音]

本機の電源を切ったときに鳴る音量を設定します。

[モバイル端末の接続音]

本機がモバイル端末からの接続を検知したときに鳴る音量を設定します。

[ラインモニター音]

ファクス送信時にダイヤルしてから、相手先に接続されるまでの間、電話回線上の音を本機のスピーカーから聞けるように設定します。FAX 情報サービスを受話器を使用しないで利用するときなどに便利です。

[呼び出しベル音]

本機にファクスが着信したときに鳴る音量を設定します。

[画面 / ボタンの設定]

補足
- [初期表示言語]、[ボタンの配色]、[通知バナーの抑制] は、最新のソフトウェアの場合に表示されます。

[初期表示画面]

電源を入れたり、節電状態を解除したときに表示する画面を設定します。

[初期表示言語]

デフォルトで表示する言語を選択します。

［自動リセット後の画面］

自動リセット後の画面を設定します。

［認証画面の自動表示］

認証機能を利用している場合、電源を入れたり、節電状態を解除したときに、認証画面を自動的に表示するかどうかを設定します。

［ボタンの配色］

［メリハリ］を選択すると、各画面に共通の、スタート / ストップ / リセットなどのボタンが強調される色合いに変更されます。

［画面輝度調整］

タッチパネルディスプレイの明るさを調整します。

補足

- 調整スライダーの下側にある画面パーツは、表示サンプルです。

［宛先確認 - メール］

メール送信時に宛先を確認する画面を表示するかどうかを設定します。

［宛先確認 - ファクス / インターネットファクス］

ファクス / インターネットファクス /IP ファクス（SIP）の宛先指定時や送信時に、宛先を確認する画面を表示するかどうかを設定します。

［消耗品情報画面の表示］

交換が必要な消耗品がある場合に、消耗品の状態を自動的に表示させるかどうかを設定します。

［USB メモリー検出時の画面表示］

USB メモリー差込口に USB メモリーを挿入したときに、画面表示を切り替えるかどうかと、切り替える場合の画面を設定します。

補足

- ［機能選択画面］に設定すると、USB メモリー挿入時に［USB 保存］、［文書プリント］のどちらかを選ぶ画面を表示できます。
- USB メモリーを挿入した状態で、電源を入れたときは、機能選択画面は表示されずにホーム画面が表示されます。
- 節電中は、USB メモリー差込口に USB メモリーを差し込んでも、タッチパネルディスプレイは点灯しません。節電状態を解除してから、USB メモリーを差し込み直すか、ホーム画面から利用する機能ボタンをタップしてください。
- 市販のメモリーカードリーダーを本機の USB メモリー差込口に常時差し込んである場合、そのメモリーカードリーダーにメディアを挿入しても、画面は切り替わりません。

［USB メモリー検出時の警告画面表示］

USB メモリー差込口に USB メモリーを挿入したときに、確認画面を表示させるかどうかを設定します。

［キーボード入力制限］

本機で表示されるキーボードの入力可能文字を ASCII のみに制限するかどうかを設定します。

[ダブルタップの間隔]

本機の操作パネルでダブルタップ操作をしたときに、ダブルタップとして認識される間隔を設定します。

[リセットボタンの表示]

アプリ画面の上部に、リセットボタンを表示させるかどうかを設定します。

[セキュリティ警告 - 機械管理者設定]

機械管理者のユーザー ID とパスワードが初期値のまま、本機または CentreWare Internet Services で機械管理者モードに入ったとき、セキュリティ警告画面を表示するかどうかを設定します。

[セキュリティ警告 -SNMP 設定]

SNMP プロトコルの設定で、コミュニティ名や認証用パスワードが初期値のまま、本機または CentreWare Internet Services で機械管理者モードに入ったとき、セキュリティ警告画面を表示するかどうかを設定します。

補足

- SNMP プロトコルの設定は、CentreWare Internet Services で設定します。
  詳しくは、CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。

[セキュリティ警告 - グローバル IP アドレス]

本機にグローバル IP アドレスが設定され、かつ［認証方式の設定］が［認証しない］に設定されている状態で、本機または CentreWare Internet Services で機械管理者モードに入ったとき、セキュリティ警告画面を表示するかどうかを設定します。

[アプリ起動時の設定継続確認画面表示]

ホーム画面の各機能をタップしたときに、前回の設定を引き継ぐかどうかの確認画面を表示するかどうかを設定します。

[通知バナーの抑制]

チェックマークを付けると、イベント通知（メンテナンスや注意を促すメッセージ）が非表示になります。

[通知バナーの表示時間]

メッセージの表示時間を選択します。

[ジョブ確認バナーの表示設定]

自動リセット後に実行中のジョブに関するメッセージを表示するかどうかを設定します。

[ラン画面の表示形式]

ジョブを実行したときに、実行中画面とメッセージのどちらを表示するかを設定します。

［画質の設定］

本機が原稿を読み取るときの、画質の処理方法について設定できます。

［文字 / 写真分離レベル］

［原稿の画質］の［文字 / 写真］でコピーする場合、本機が原稿を読み取るときに、文字か写真かを判別するレベルを変更できます。

［白黒 / カラー分離レベル］

［カラーモード］を［自動］に設定したときに、原稿が白黒かカラーかを判別するレベルを変更できます。

［地色除去方式（白黒コピー）］

白黒でコピーするときの地色除去の方式を設定します。

注記

- ［画質優先］に設定した場合、［コピー位置 / とじしろ］で［コーナー移動］を設定し、［倍率選択］で 60% 以下の倍率を設定すると、画像欠けや白紙コピーが発生することがあります。

［地色除去方式（スキャナー）］

スキャンするときの地色除去の方式を設定します。

［イメージエンハンス］

コピーとファクスで出力するイメージを、滑らかに見えるように処理します。

［レポート設定］

［レポート出力の許可］

チェックマークを外すと、［機械確認 / レポート］＞［レポート / リストの出力］の内容が、機械管理者モード以外のときに表示されなくなります。

参照

- ［レポート / リストの出力］の詳細は、「［レポート / リストの出力］(P.254) を参照してください。

［ジョブ履歴レポート］

処理を行ったジョブの合計が 50 件になったときに、ジョブ履歴レポートを自動的にプリントさせるかどうかを設定できます。

参照

- ジョブ履歴レポートを手動でプリントする方法は、「［ジョブ履歴レポート］(P.255) を参照してください。

［通信管理レポート］

通信結果の合計が 100 件になったときに、通信管理レポートを自動的にプリントさせるかどうかを設定できます。

参照

- 通信管理レポートを手動でプリントする方法は、「［通信管理レポート］(P.255) を参照してください。

［未送信レポート］

未送信レポートを自動的にプリントさせるかどうかを設定できます。

[取消し文書の未送信レポート]

通信を中止した文書の未送信レポートを自動的にプリントさせるかどうかを設定できます。

[親展受信レポート]

親展受信レポートを自動的にプリントさせるかどうかを設定できます。

[同報 / 集信レポート]

同報レポート、集信レポートをプリントするかどうかを設定できます。

[転送モニターレポート]

スキャンしたデータをネットワーク上のコンピューターへ転送したときや、スキャンしたデータをメール送信したときの、データの送信結果をプリントするかどうかを設定できます。

[レポートの両面プリント]

レポート / リストをプリントするときに、片面でプリントするか両面でプリントするかを設定します。

[通信管理レポート - 相手表示]

相手先の情報のどの部分を通信管理レポートに印字するかを設定します。

[通信管理レポート - カード番号]

通信管理レポートにカード番号を表示させるかどうかを設定します。カード番号が 1 ～ 9999999 の場合に印字されます。

[ジョブフローエラーレポート]

ジョブフローエラーレポートを自動的にプリントさせるかどうかを設定できます。

[複製管理]

複製管理とは、書類の複製を抑制するために、用紙の背景全体に文字列や背景パターンを印字する機能です。

[印字する日付の形式]

ここで設定した値は、アノテーション、複製管理、強制アノテーションで共通になります。

[隠し印刷初期値]

複製管理の隠し印刷の初期値を設定します。

[文字列初期値]

複製管理で印字される文字列を設定します。

参照

• ユーザー登録文字列は、「[文字列登録 1] ～ [文字列登録 3]」(P.285) を参照してください。

[文字列の大きさ]

複製管理で印字される文字の大きさを設定します。

［背景パターン］

隠し印刷で使用する文字列を埋め込むための、背景パターンを設定します。

［印刷の濃度］

複製管理で印字される文字の濃度を設定します。

［文字 / 背景コントラスト］

複製管理で印字される文字 / 背景のコントラストを設定します。

［サンプルリストの出力］でプリントしたサンプルを参考にして設定してください。

［強制複製管理 - コピー］

コピーをしたときに、強制的に複製管理するかどうかを設定します。［する］に設定すると、コピー機能の［複製管理］が［する］に固定され、変更できなくなります。

印字される文字列は、ユーザー管理番号、本機の ID、印刷日時です。

補足

- ユーザーに強制印字を一時的に解除する権限を与えることもできます。詳しくは、「［権限グループ登録］」(P.361) を参照してください。
- ユーザー管理番号は、認証モードの設定によって印字されないことがあります。

［強制複製管理 - クライアントプリント］

コンピューターからプリントをしたときに、強制的に複製管理するかどうかを設定します。

本機の設定を優先する場合は［本体の設定を優先］を、TrustMarkingBasic（別売）などのソフトウェアの設定を優先する場合は、［クライアントの設定を優先］を選びます。

［本体の設定を優先］を選んだ場合は、ユーザー情報またはユーザー管理番号、本機の ID、印刷日時が印字されます。

補足

- ユーザー管理番号は、認証モードの設定によって印字されないことがあります。

［強制複製管理 - ボックスプリント］

親展ボックスからプリントをしたときに、強制的に複製管理するかどうかを設定します。

印字される文字列は、ユーザー管理番号、本機の ID、印刷日時です。

補足

- ユーザーに強制印字を一時的に解除する権限を与えることもできます。詳しくは、「［権限グループ登録］」(P.361) を参照してください。
- ユーザー管理番号は、認証モードの設定によって印字されないことがあります。

［強制複製管理 - メディアプリント］

文書プリントをしたときに、強制的に複製管理するかどうかを設定します。

印字される文字列は、ユーザー管理番号、本機の ID、印刷日時です。

補足

- ユーザーに強制印字を一時的に解除する権限を与えることもできます。詳しくは、「［権限グループ登録］」(P.361) を参照してください。
- ユーザー管理番号は、認証モードの設定によって印字されないことがあります。

［文字列登録 1］～［文字列登録 3］

複製管理で印字される文字列を登録します。

[サンプルリストの出力]

背景のコントラストが異なる複数のサンプルをプリントします。プリントサンプルをもとに、[文字 / 背景コントラスト] を設定してください。

[強制アノテーション]

ジョブの種類ごとに関連づけられたレイアウトテンプレートに従い、ユーザー名や日付などの文字列（アノテーション）が強制印字されます。

補足

- 複製管理、UUID 印字が指定されている場合は、それらと重なって印字されます。

本機にはあらかじめ [preset1] ～ [preset4] のレイアウトテンプレートが用意されています。これらのテンプレートで印字される項目は次のとおりです。

- [preset1]、[preset2]

  [文字列登録 1] で登録した文字が、用紙中央に透かし文字で斜めに印字されます。

  用紙の右下（[preset1] の場合）、または左下（[preset2] の場合）に、次の項目が印字されます。

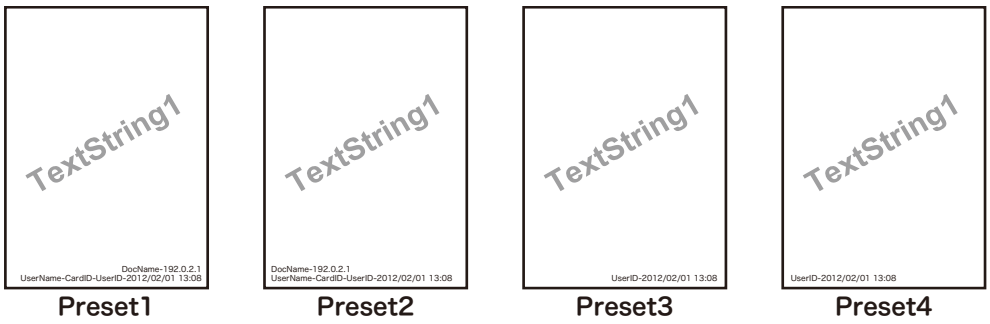
  - 上段：文書名、印字を指示したコンピューターの IP アドレス
  - 下段：ユーザー名、カード ID、ユーザー ID、年月日時

- [preset3]、[preset4]

  [文字列登録 1] で登録した文字が、用紙中央に透かし文字で斜めに印字されます。

  用紙の右下（[preset3] の場合）、または左下（[preset4] の場合）に、次の項目が印字されます。

  - ユーザー ID、年月日時



補足

- ジョブの種類や実行形態によっては、印字されない項目があります。
- 本機が作成した白紙ページには、強制アノテーションは印字されません。
- 強制アノテーションを印字する設定にしているときは、トレイ 5（手差し）の自動サイズ検知機能は使用できません。
- 強制アノテーションで印字される時刻は、本機の状況や設定、出力内容によって、出力を指示した時刻と異なることがあります。印字される時刻は、出力を開始した時刻になります。

参照

- 文字列の登録は、「[文字列の登録]」(P.287) を参照してください。

[レイアウトテンプレートの関連付け]

レイアウトテンプレートとの関連づけを設定します。

補足

- クライアントプリントは、コンピューターからプリント指示をした場合です。
- メディアプリントは、USB メモリーに保存されたデータをプリント指示した場合です。

[レイアウトテンプレートの削除]

レイアウトテンプレートを削除します。

補足

- あらかじめ用意されているテンプレートは削除できません。

[文字列の登録]

強制アノテーションで使用する文字列を登録します。

補足

- あらかじめ用意されているテンプレートで使用できる文字列は、[文字列登録 1] だけです。

[UUID 印字]

印刷ジョブごとにジョブを特定できるように、識別 ID（UUID）を印字できます。

ApeosWare Management Suite 2（別売）やイメージログ管理機能を利用すると、UUID をキーとしてログを検索し、ジョブごとに「いつ」、「誰が」、「コピー、プリント、スキャンしたか」などの情報を確認できるため、情報漏えいの抑止に効果があります。

補足

- ユーザーに強制印字を一時的に解除する権限を与えることもできます。詳しくは、「権限グループ」(P.389) を参照してください。
- [強制アノテーション] の [レイアウトテンプレートの関連付け] でレイアウトテンプレートを設定している場合は、設定しているテンプレートの上に、ここで設定する文字が印字されます。

参照

- イメージログについては、「[イメージログ管理]」(P.288) を参照してください。
- 強制アノテーションについては、「[強制アノテーション]」(P.286) を参照してください。

[UUID 印字]

UUID 印字をするかどうかを設定します。

補足

- UUID 印字を設定すると、トレイ 5（手差し）の自動サイズ検知機能は使用できません。

[印字位置]

印字する位置を設定します。

[印字位置の微調整]

印字する位置を調整します。

補足

- 微調整値は、用紙の端を 0 mm として、値を大きくすると用紙中央方向に移動します。ただし、印字位置で [中央上] または [中央下] を選んだ場合、よこ方向の調整値は用紙の中央を 100 mm としています。印字位置で [中央上] または [中央下] を選ぶ場合は、微調整値をいったん 100 mm に設定してから調整をしてください。

[うら面の印字位置]

両面にプリントするときに、うら面に印字する UUID の位置を設定します。

[イメージログ管理]

イメージログ管理は、本機で実行されたジョブの文書を画像データとして保存し、ジョブの利用者、利用時刻、部数などのデータと共に、ログとして蓄積 / 管理する機能です。文書が漏えいしたときに、対象文書に対してジョブを実行したユーザーを特定するための情報を保存します。

注記

- イメージログ管理の設定で、[作成保証レベル] を [高]、または [転送保証レベル] を [高] に設定すると、イメージログの作成や転送処理が行われてから印刷されるため、印刷開始が遅くなることがあります。
- ジョブの文書イメージ、データの容量、イメージログ管理機能以外の複数ジョブの処理の有無、[作成保証レベル] の設定、または [転送保証レベル] の設定によっては、イメージログ管理機能が優先して処理されます。
- イメージログ管理機能は、文書に対するセキュリティー機能を補う目的があるため、イメージログの作成に時間がかかったり、イメージログ管理機能以外のジョブの処理に時間がかかったりすることがあります。
- セキュリティー機能の観点から、本機はデータを蓄積保存することを優先するため、イメージログの作成を中止（強制終了）できません。
- イメージや印刷ジョブのログ（ジョブログ）を検索することによって、システム管理者などが出力者の「識別情報」を把握することになります。イメージログ管理機能を使用したことによる出力者個人のプライバシー保護に関しては、責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 停電などで強制的に電源が切れた場合や、ストレージに異常が発生した場合などは、イメージログの作成・転送が必ず実施されるとは限りません。
- イメージログ管理機能の起動後に実行されたジョブだけが、イメージログ管理機能の対象になります。
- 管理するイメージは、入力イメージを元に作成するため、出力イメージと同じになるとは限りません。次に記載する情報は、出力時に加えられたり、編集されたりする情報のため、イメージには反映されません。
  - 出力時のレイアウト変更
  - 複製管理
  - 合紙
  - バナー
  - 製本（コピー）
  - アノテーション
  - 送信シート（ファクス）
  - フォームオーバーレイ（プリント）
- イメージとして作成される PDF ファイルに対しては、[PDF セキュリティ]、[PDF 署名] の機能は使用できません。
- [イメージログ作成] の [解像度] の設定にかかわらず、入力イメージよりも解像度が高いイメージは作成されません。入力イメージの解像度が、[イメージログ作成] の [解像度] よりも低い場合は、入力イメージと同じ解像度でイメージが作成されます。
- ファクス送受信のジョブは、[イメージログ作成] の [作成保証レベル] の設定にかかわらず、常に [作成保証レベル] を [低] として動作します。
- イメージは、最大 8,191 ページまで作成できます。本機への入力イメージが 8,191 ページ以上の場合は、[イメージログ作成] の [作成範囲] に [全ページ] を設定しても、8,191 ページまでのイメージが作成されます。
- ストレージ内のイメージ格納領域が不足した場合、[イメージログ作成] の [作成保証レベル] の設定によって、本機は次のように動作します。
  - [高] の場合：ジョブは中止されます。
  - [低] の場合：ジョブは実行されます。ただし、ジョブ終了時に警告が表示され、イメージ作成が失敗したことを知らせます。

- イメージ作成中にエラーが発生した場合、[イメージログ作成] の [作成保証レベル] の設定によって、本機は次のように動作します。
  - [高] の場合 : イメージをエラーイメージ (1x1 ピクセル) と置き換え、システムエラーが発生します。本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。
  - [低] の場合 : イメージをエラーイメージ (1x1 ピクセル) と置き換え、ジョブ終了時にエラー情報が記録されます。
- 本機に格納できるイメージログの最大数は、2,000 件です。
- [イメージログ作成] の [解像度] の設定によって、読み取り可能な文字のサイズが異なります。解像度を設定する場合は、次の表を参考にしてください。

解像度	読み取り可能な文字サイズ	一般文書でのめやす
200 dpi	6 pt	一般文書では問題ないレベルです。
100 dpi	14 pt	大きめの文字がわかるレベルです。
72 dpi（初期値）	18 pt	タイトルの文字がわかるレベルです。
50 dpi	24 pt	文字はわかりません。プレビュー用に適しています。
25 dpi	32 pt	文字はわかりません。サムネール用に適しています。

[イメージログ管理]

イメージログ管理を利用するかどうかを設定します。

[イメージログ作成対象]

ジョブの種類ごとに、イメージログを作成するかどうかを設定します。

[イメージログ作成]

ログとして管理する画像データについて設定します。画像データは、ジョブひとつに対して、1 ファイル（PDF 形式）作成されます。

■[作成保証レベル]

ログとして管理する画像データを確実に作成するかどうかの保証レベルを、[低]、[高] から設定します。

補足
- [低] に設定した場合、状況によっては、画像データが作成されないことがあります。

■[解像度]

ログとして管理する画像データの解像度を設定します。

■[作成範囲]

ログとして管理する画像データを作成する範囲を設定します。

[イメージログ転送]

本機で作成したイメージログは、ログ管理サーバーに転送して、保存 / 管理できます。

■[転送機能]

転送機能を使用して、イメージログをログ管理サーバーに転送するかどうかを設定します。

■[転送保証レベル]

作成したイメージログが、ログ管理サーバーに確実に転送されるかどうかを保証するレベルを設定します。[高]に設定すると、イメージログが転送できなかった場合、本体に 2,000 件まで未送信ログとして保存され、2,000 件を超えると次のジョブは実行できなくなります。[低]に設定すると、次のジョブは実行され、2,000 件を超えた古いジョブから削除されます。

■[転送動作]

本機からログ管理サーバーに、イメージログを自動転送するかどうかを設定します。

■[時刻指定転送]

[転送動作]で[まとめて転送]に設定すると表示されます。

毎日決まった時刻にイメージログを転送するかどうかを設定します。

■[転送タイミング]

[転送動作]で[まとめて転送]に設定すると表示されます。

本機からログ管理サーバーに、イメージログを転送するタイミングを指定します。

[ジョブ終了時のメール通知設定]

[通知対象ジョブ]

ジョブの実行結果を通知するサービスと、通知するタイミングを設定します。通知対象ジョブが 1 つ以上設定されている場合は、[設定あり]が表示されます。

[ファクス]を通知対象ジョブとして選んだ場合、[ファクス送信原稿の添付]を設定できます。ここで設定されたページ数に応じて、PDF 化されたファクス送信原稿が通知メールに添付されます。

[メールアドレス 1]～[メールアドレス 5]

メールの通知先を設定します。

[メール本文]

メールに付加されるコメントを入力できます。

[プラグイン設定]

カスタム認証機能を利用する場合に利用できるプラグインの一覧を表示したり、切り替えの設定をしたりできます。

補足

- この項目は、カスタマイズ拡張機能をご利用されている場合に表示されます。
- 電子署名の検証の設定は、CentreWare Internet Services で行います。詳しくは、CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。

[組み込みプラグイン機能]

組み込まれているプラグイン機能を使用するかどうかを設定します。

[組み込みプラグイン一覧]

本機に組み込まれているプラグインの名称、および状態を一覧表示します。

[その他の設定]

[オフセット排出]

用紙を排出するときに、位置をずらして用紙を排出することを、「オフセット」といいます。直前の用紙の排出位置が手前ならば、次は奥にずらして排出します。オフセット機能の動作をトレイごとに設定します。

[セット単位]に設定すると部数単位で、[ジョブ単位]に設定するとジョブ（プリント指示）単位で、オフセット排出をします。

[折り目あり分割製本のオフセット]

分割単位でのオフセットの有無を設定します。

[オフセット排出（フィニッシャートレイ）]を［セット単位］に設定している場合のみ有効です。ただし、製本の設定を［折り目 + ホチキス］に設定した場合は、オフセットしません。

[プリントジョブの追い越し]

本機が何らかの原因で実行開始できない（コピーやプリントを開始しようとしたときに、用紙トレイの用紙がなくなったなど）場合、ほかに実行開始できるジョブがあるときに、ジョブの追い越しを許可するかどうかを設定します。

補足

- セキュリティープリントやサンプルプリントなどの蓄積文書は、追い越し許可の対象外です。
- プリントを禁止する時間帯を設定している場合、禁止時間帯に受信したジョブは、[追い越されたジョブの自動解除]にチェックマークを付けていても自動解除されません。

参照

- プリント禁止の設定については、「[プリント禁止の設定]」(P.277) を参照してください。

[プリント用紙サイズ初期値]

レポート / リストをプリントするときに使う用紙サイズを設定します。

[奇数ページ文書の両面処理]

文書のページ数が奇数のときに、最終ページを両面処理するかどうかを設定します。

[サイズ検知切り替え]

定形サイズの原稿、および用紙を検知するときの、用紙サイズグループを設定します。

[ミリ / インチ切り替え]

画面に表示される単位を設定します。

[データの暗号化]

本機に記録されるデータを暗号化するかどうかを設定します。

本機からの情報漏えいを抑止するため、本機に保存されているアドレス帳、認証情報、蓄積文書などのデータを暗号化します。また、コピー、スキャン、およびプリントしたデータを本機に書き込むときに、暗号化されます。

機能ごとに暗号化をするかしないかを設定することはできません。

■ データ暗号化機能の利用開始と設定変更について

データの暗号化の設定 / 解除、および暗号化キーを変更した場合、本機を再起動する必要があります。対応する記憶領域（ストレージ）は、再起動時に初期化されます。このとき、切り替え前のデータは保証されません。

記憶領域には、次のようなデータが保存されます。

- スプールされるプリントデータ
- セキュリティープリント、サンプルプリントなどのプリントデータ
- フォームオーバーレイ機能のフォーム
- 親展ボックスやジョブフローの設定（ボックス名、暗証番号など）
- 親展ボックス内の文書
- アドレス帳のデータ
- デジタル証明書

注記

- データの暗号化機能の利用開始と設定変更は、必ず、必要な設定や文書を保存してから行ってください。
- 現在接続されているストレージが、暗号化の設定と一致しない場合は、エラーとなります。エラーメッセージと処置は、「エラーコード」(P.508) を参照してください。

[秘密情報の暗号化キー]

機械管理者のパスワードや親展ボックスのパスワードなどの秘密情報を暗号化するための暗号化キーを設定します。秘密情報を暗号化することで、ネットワーク上の盗聴や秘密情報の所有者以外からの参照を抑止します。

注記

- 暗号化キーを変更すると、バックアップした秘密情報を復元できなくなることがあります。

[カストマーエンジニアの操作制限]

カストマーエンジニアのなりすましによって、本機のセキュリティーの設定が変更されないように、カストマーエンジニアの操作を制限するかどうかを設定します。

カストマーエンジニアは、次の項目が変更できなくなります。

- 「[イメージログ管理]」(P.288)
- 「[その他の設定]」(P.291)
- 「[データの暗号化]」(P.291)
- 「[秘密情報の暗号化キー]」(P.292)
- 「[カストマーエンジニアの操作制限]」(P.292)
- 「[SSL/TLS 設定]」(P.349)
- 「[S/MIME 設定]」(P.350)
- 「[IPsec 設定]」(P.351)
- 「[機械管理者情報の設定]」(P.359)
- 「[不正使用防止の設定]」(P.363)
- 機械管理の権限を与えられたユーザーの作成 / 変更
- SNMP v 3 の設定変更

カストマーエンジニアが本機の保守作業をするときには、保守パスワードの入力が必要になります。保守パスワードを 4 ～ 12 桁の英数字で設定してください。

注記

- ［カストマーエンジニアの操作制限］を設定した場合、次のことにご注意ください。
  - 機械管理者のユーザーIDとパスワードを忘れると、カストマーエンジニアに制限されている項目の変更ができなくなります。
  - 保守パスワードを忘れると、本機でトラブルが発生したときにカストマーエンジニアによる保守作業ができなくなります。
- 制限項目の変更や保守作業をするには、電子基板の交換が必要になります。電子基板の交換には、代金ならびに交換手数料が必要になりますので、機械管理者のユーザーIDとパスワード、および保守パスワードは忘れないようにご注意ください。

参照

- 機械管理の権限は、「管理の権限」(P.388) を参照してください。

［ソフトウェアダウンロード］

ソフトウェアダウンロードを許可するかどうかを設定します。この機能は、カストマーエンジニアが設定します。弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にお問い合わせください。

［原稿ガイド位置の確認］

原稿送り装置のガイド位置を 8.5" にセットして読み込みを開始したときに、確認画面を表示させるかを設定します。

［データランプの点灯パターン］

データランプの点灯パターンを設定します。

［ジョブ一時停止後の処理］

起動したジョブの操作を途中で止め、［自動リセット］で指定した時間が経過するまで放置した場合に、そのジョブを自動的に継続するか、自動的に中止するか、ユーザーが操作を再開するまで一時停止したままにするかどうかを設定します。

参照

- 自動リセットについては、「［自動リセット］」(P.277) を参照してください。

［割り込み機能の設定］

ホーム画面の下部に、［割り込み］を表示するかどうかを設定します。

参照

- 詳しくは、「［割り込み］」(P.72) を参照してください。

[アプリ設定]

[コピー設定]

[プリセットボタンの設定]

■[倍率ボタン -3 段目]、[倍率ボタン -4 段目]

機能リストの［倍率選択］にあらかじめ用意されている倍率ボタンの設定を変更します。

倍率ボタンに割り当てる設定値は、［固定倍率ボタン］に登録した中から選びます。

参照

- ［固定倍率ボタン］の設定方法は、「[固定倍率ボタン]」(P.296) を参照してください。

■[手差しトレイプリセット 1] ～ [手差しトレイプリセット 4]

［用紙選択］のトレイ 5（手差し）の画面に表示するプリセットを登録します。

［有効］にチェックマークを付け、［プリセット名］、［用紙サイズ］、［用紙種類］を設定します。

[コピー動作制御]

コピー動作の制御に関連する設定をします。

■[メモリーオーバーフローの処理]

原稿の読み込み中に、ストレージの領域が不足した場合、途中まで蓄積されていたデータの処理をどうするか確認する画面が表示されます。

確認画面を表示させたまま一定時間が経過したあとの処理方法を設定します。

参照

- メモリーオーバーフローの処理を実行するまでの時間を設定できます。詳しくは、「[ジョブ自動解除]」(P.277) を参照してください。

■[最大蓄積ページ数]

コピーの原稿最大蓄積ページ数を指定します。

■[自動解除時のトレイ]

［コピー］画面にある、［用紙選択］の［自動］が解除されたときに選択されるトレイを設定します。

補足

- 倍率に［自動 %］を選んだり、［たてよこ独立変倍］の［自動］、［自動（ちょっと小さめ）］を選んだりすると［用紙選択］の［自動］が解除されます。

■[異サイズ原稿の裏面コピー]

両面コピーでおもて面とうら面の原稿サイズが異なる場合に、自動用紙選択でおもて面とうら面で異なるサイズの用紙が選択されたときのうら面をコピーする用紙を設定します。

注記

- おもて面とうら面の原稿サイズが異なる場合に、おもて面と同じ用紙にうら面をコピーすると、画像欠けが発生することがあります。

◆［しない（新しい用紙にコピー）］

自動的に選択された新しい用紙のおもて面にコピーします。

◆［する］

用紙サイズを変更しないで、そのままおもて面と同じ用紙のうら面にコピーします。

■［等倍微調整］

等倍（100%）でコピーするときの倍率を微調整できます。設定値は、［コピー］画面の倍率［100%］に反映されます。

注記
- この機能は、原稿ガラスでコピーする場合だけ適用されます。また［たてよこ独立変倍］、［寸法指定変倍］で設定した等倍（100%）には反映されません。

補足
- 値を指定しても、倍率は［100.0%］で表示されます。

■［写真画質の擬似階調方式］

写真原稿の階調表現方式が設定できます。写真の画質に近づけるために、中間の明るさ（グレー）部分の処理方式を切り替えます。［誤差拡散］または［ディザ］に設定します。

■［原稿の画質 - うす紙原稿］

［原稿の画質］に［うす紙原稿］を表示するかどうかを設定します。

■［アノテーション - スタンプの透過度］

アノテーションで印字されるスタンプの透過度を設定します。

補足
- ［0%（ベタ）］は、文字の上に重なると文字を確認できなくなることがあります。

■［スタンプ位置微調整 - 左上］～［スタンプ位置微調整 - 右下］

アノテーションのスタンプをプリントする位置を調整できます。

■［日付位置微調整 - 左上］～［日付位置微調整 - 右下］

アノテーションの日付をプリントする位置を調整できます。

■［ページ位置微調整 - 左上］～［ページ位置微調整 - 右下］

アノテーションのページ番号をプリントする位置を調整できます。

■［文字付ページ位置調整 - 左上］～［文字付ページ位置調整 - 右下］

アノテーションの文字付きページ番号をプリントする位置を調整できます。

■［アノテーション - スタンプ－ 1 の編集］～［アノテーション - スタンプ－ 8 の編集］

アノテーションのスタンプとして印字する文字列の登録や変更を、ユーザーに許可するかどうかを設定します。

［禁止］に設定すると、機械管理者を含むすべてのユーザーが、文字列を編集できなくなります。

■［コピー部数の制限］

コピー部数の上限を設定します。ここで設定した数を超える部数は、指定できなくなります。

[原稿サイズボタン]

[原稿サイズ入力]に表示する原稿サイズを設定します。

[自動検知]以外のボタンに、原稿サイズを割り当てられます。

定形外サイズの原稿を頻繁にコピーするときなど、あらかじめ定形外サイズを設定しておくと、コピーのたびに原稿サイズを入力する操作が省けます。

[固定倍率ボタン]

[倍率選択]で、[定形変倍 / ズーム]に表示する倍率を設定します。

[100%]と[自動 %]以外のボタンに割り当てる倍率を変更できます。

[ID カードコピー設定]

[コピー動作制御]

■[等倍微調整]

等倍（100%）でコピーするときの倍率を微調整できます。設定値は、[コピー]画面の倍率[100%]に反映されます。

注記

- この機能は、原稿ガラスでコピーする場合だけ適用されます。また[たてよこ独立変倍]、[寸法指定変倍]で設定した等倍（100%）には反映されません。

補足

- 値を指定しても、倍率は[100.0%]で表示されます。

■[ID カードコピー選択時の倍率]

ID カードコピーをするときの倍率を設定します。

補足

- 縮小率によっては、原稿のセット向きと異なる向きにコピーされることがあります。

■[原稿の画質 - うす紙原稿]

[原稿の画質]に[うす紙原稿]を表示するかどうかを設定します。

■[コピー部数の制限]

コピー部数の上限を設定します。ここで設定した数を超える部数は、指定できなくなります。

[固定倍率ボタン]

[倍率選択]で、[定形変倍 / ズーム]に表示する倍率を設定します。

[100%]と[自動 %]以外のボタンに、任意の倍率を割り当てることができます。

[プリンター設定]

[プリンター設定]では、プリンター機能に関する仕様を設定します。

[メモリー設定]

インターフェイスごとに、受信バッファ（クライアントから送信されるデータを一時的に蓄えておく場所）のメモリー容量を設定します。

受信バッファ容量は、使用状況と目的に応じて変更できます。受信バッファ容量を増やすと、各インターフェイスに対応するクライアントの解放が早くなることがあります。

注記
- メモリー容量を変更すると、メモリーがリセットされるので、各メモリー領域に格納されているデータは、すべて消去されます。
- メモリーの全体量を超えた割り振りはできません。電源を入れたときに、設定値が搭載メモリー容量を超えた場合は、システムによって自動的に調整されます。

補足
- ポートが［停止］に設定されている場合は、対応する各項目は表示されません。
- クライアントから送信されるデータ量によっては、メモリーの容量を増やしてもクライアントの解放時間が変わらないことがあります。

■［PostScript 使用メモリー］

PostScript の使用メモリー容量を指定します。

■［ART EX フォームメモリー］

ART EX でフォームを使用するときの、作業用メモリー領域を設定します。ストレージが取り付けられているときは、ストレージが指定され、変更できません。ストレージが取り付けられていない場合は、作業用メモリー領域を指定します。

■［ART IV, ESC/P, 201H フォームメモリー］

ART IV、ESC/P、201H でフォームを使用するときの、作業用メモリー領域を設定します。ストレージが取り付けられているときは、ストレージが指定され、変更できません。ストレージが取り付けられていない場合は、作業用メモリー領域を指定します。

■［ART IV ユーザー定義用メモリー］

ART IV のユーザーが定義するデータ（外字、フォーム、線パターンフォームなど）を格納するメモリー容量を指定します。

■［HP-GL/2 オートレイアウト用メモリー］

HP-GL/2 のオートレイアウト機能を使用するときの、作業用メモリー領域を設定します。ストレージが取り付けられているときは、ストレージが指定され、変更できません。ストレージが取り付けられていない場合は、作業用メモリー領域を指定します。

■［ジョブチケット用メモリー］

ジョブチケット（ジョブの出力部数や後処理などを記述したもの）の処理に使用するメモリー容量を指定します。

■［受信バッファ - LPD］

スプール処理するかどうかを設定します。スプール処理用の受信バッファは、ストレージが使用されます。

補足
- ［スプールしない］に設定すると、LPD プリント処理をしている間は、同じインターフェイスで別のクライアントからのデータを受信できません。
- ［LPD のプリント順序］の設定により、［受信バッファ -LPD］が変更できないことがあります。詳しくは、「［LPD のプリント順序］」(P.302) を参照してください。

■［受信バッファ -IPP］

スプール処理するかどうかを設定します。スプール処理用の受信バッファは、ストレージが使用されます。

補足
- ［スプールしない］に設定すると、IPP プリント処理をしている間は、同じインターフェイスで別のクライアントからのデータを受信できません。

[フォーム削除]

登録されたフォームを個別に削除します。プリンターモードごとのフォーム番号を指定して、表示されたフォーム名称を確認してから削除してください。

[ボックス文書の保存期間]

親展ボックス内の文書の保存期間を設定します。自動的に削除する場合は、削除する日（経過日数）と時刻を設定できます。この設定は、すべての親展ボックスに共通の設定となります。

[蓄積プリント文書の保存設定]

蓄積されているプリント文書（認証プリント、プライベートプリント、セキュリティープリント、サンプルプリントの文書）を保存期間が経過したときに削除するかどうかを設定します。

補足

- [ボックス文書の設定に従う]を選ぶと、[ボックス文書の保存期間]の設定に従った動作になります。

[プリント文書一覧の初期表示]

蓄積プリント文書（認証プリント、セキュリティープリント、サンプルプリント、時刻指定プリント、プライベートプリントの文書）の一覧を［リスト表示］または［サムネール表示］に設定します。

[プリント時の確認画面表示]

蓄積プリント文書をプリントするときに、プリント後の文書削除に関する確認画面を表示するかどうかを設定します。［しない］に設定すると、プリント後に文書は自動的に削除されます。

[プレビューイメージの作成]

蓄積プリント文書（認証プリント、セキュリティープリント、サンプルプリント、時刻指定プリント、プライベートプリントの文書）の一覧を表示するときに、プレビューイメージを作成するかどうかを設定します。

補足

- プレビューイメージを作成するかしないかはプリンタードライバーから設定することもできます。プリンタードライバーと本体とで異なる設定が行われた場合は、プリンタードライバーの設定が優先されます。

[プレビューイメージの作成時間]

蓄積プリント文書のプレビューイメージの作成時間を制限するかどうかを設定します。［制限する］に設定すると、制限時間内で作成されたプレビューイメージだけが表示され、制限時間を超えたプレビューイメージは表示されません。

[蓄積時の暗証番号最小桁数]

セキュリティープリント文書や認証プリント文書を蓄積したり、プリントしたりするときに必要な暗証番号の最小桁数を設定します。

補足

- 最小桁数を指定しない場合や、暗証番号を入力しない場合は、［0］に設定します。

[全文書選択時のプリント順]

保存文書の全文書を選んだ場合のプリントの順番を設定できます。

[その他の設定]

プリンターで使用する用紙に関する設定をします。

■［プリント可能領域］

プリント可能領域を拡張するかどうかを設定します。

参照
- プリント可能領域は、「プリント可能領域」(P.526) を参照してください。
- 拡張した場合の印字領域は、「拡張印字領域」(P.526) を参照してください。

■［用紙の置き換え］

自動トレイ選択で選択された用紙サイズの用紙がセットされたトレイがない場合に、ほかの用紙トレイにセットされている用紙に置き換えてプリントをするかどうかを設定します。

補足
- ART IV、PC-PR201H、ESC/P、HP-GL/2 などのエミュレーションを使用してプリントする場合は、ここでの設定にかかわらず、用紙補給のメッセージが表示されます。
- クライアント側から指定があった場合は、クライアント側の指定が優先されます。

◆［用紙補給を表示］

置き換えはしないで、用紙補給のメッセージを表示します。

◆［大きいサイズを選択］

選択されている用紙サイズの次に大きなサイズの用紙に置き換えて、等倍でプリントします。

◆［近いサイズを選択］

選択されている用紙サイズに最も近いサイズの用紙に置き換えてプリントします。置き換える用紙の長さ、または幅が画像のサイズに足りないときは、自動的に縮小してプリントされます。

◆［近いサイズを選択（等倍）］

選択されている用紙サイズに最も近いサイズの用紙に置き換えてプリントします。

画像が収まらない場合でも縮小は行われません。

◆［トレイ 5（手差し）を選択］

選択されている用紙サイズでトレイ 5（手差し）からプリントします。サイズが異なる用紙がセットされていた場合は、選択されているサイズの用紙をセットするようにメッセージが表示されます。

◆［AB 系 / インチ系置き換え］

AB 系サイズの用紙と、インチ系サイズの用紙を置き換えてプリントします。

置き換え可能な組み合わせは以下の通りです。

- A5 と 5.5×8.5"
- A4 とレター（8.5×11"）
- A3 とリーガル（8.5×14"）

■［用紙種類不一致時の処理］

プリンタードライバーなどでプリント時に指定された用紙種類と、用紙トレイにセットされている用紙種類が一致しない場合の処理を設定します。

◆［プリントする］

用紙トレイに設定されている用紙の種類でプリントされます。

◆[確認画面を表示する]

プリントするかどうかの確認画面が表示されます。

プリントする場合は、プリンタードライバーなどでプリント時に指定された用紙種類の指定は無効となり、[トレイの優先順位]や用紙サイズ、[用紙の置き換え]の設定に従ってプリントされます。

◆[設定変更画面を表示する]

ディスプレイに表示されたメッセージに従って、用紙トレイの用紙を入れ替えたあと、[スタート]をタップすると、用紙トレイに設定されていた用紙種類が、ディスプレイに表示された用紙種類の設定に変更されて、プリントされます。

注記
- 用紙種類が変更された用紙トレイは、プリントが終了したあとも、変更後の用紙種類の設定が保持されます。
- 用紙を入れ替えずに[スタート]をタップした場合、用紙トレイの用紙種類の設定が、ディスプレイに表示された用紙種類に変更されてプリントされますが、実際にセットされている用紙の種類とプリンタードライバーなどで指定した用紙種類が異なるため、印字品質は保証されません。

■[手差しトレイの優先選択]

プリンタードライバーで[用紙トレイ選択]を[自動]に指定しているときに、トレイ 5（手差し）を最優先で選ぶかどうかを設定します。

補足
- プリントジョブで指定している用紙サイズと用紙種類がセットされている用紙と一致するときに、トレイ 5（手差し）から給紙されます。

■[手差しプリントの確認]

トレイ 5（手差し）の用紙にプリントするときに、セットされている用紙を確認する画面を表示するかどうかを設定します。

■[未登録フォーム指定時の処理]

フォームデータファイル（オーバーレイ印字）にプリント指示されたフォームが、プリンター側で未登録だった場合に、ジョブをプリントするかどうかを設定します。[プリントする]に設定した場合、指定したフォームがないため、データだけがプリントされます。

■[異常終了後のプリント処理]

エラーなどでプリントジョブがキャンセルされるときに、そのジョブを自動的にキャンセルするかどうかを設定します。

補足
- 本機は後続のプリントジョブを制限するため、オフライン状態になります。

◆[自動的に再開する]

そのジョブを自動的にキャンセルし、以降のジョブを連続してプリントします。

◆[ユーザー操作で再開する]

そのジョブをキャンセルする前に、確認画面を表示します。ジョブをキャンセルしてオンラインに戻すと、以降のジョブのプリントが再開されます。

注記
- [ユーザー操作で再開する]に設定すると、プリント中の[割り込み]操作はできなくなります。

■[紙づまり発生時のプリント処理]

プリント実行中に紙づまりなどのエラーが発生した場合、紙づまりの処置が終了したあとのプリント処理方法を設定します。

◆［紙づまり除去後再開する］

紙づまりの処置が終了すると、正常に排出された次のページから、自動的にプリントを再開します。

◆［プリントを中止する］

プリントを中止して、そのプリントジョブを削除します。

補足
- 蓄積されているプリント文書（認証プリント、プライベートプリント、セキュリティープリント、サンプルプリントの文書）は、［プリントを中止する］を設定していても、紙づまりの処置が終了するとプリントを再開します。

■［ID 印字］

プリンタードライバーを使ってプリントする場合、ユーザーを区別するために、プリントする用紙にプリンタードライバーに設定されたユーザー ID を印字するかどうかを設定します。プリンタードライバーに設定されたユーザー ID のうち、先頭の 64 文字まで印字されます。

補足
- ID 印字機能を使用するには、あらかじめプリンタードライバーで、ユーザー ID の設定が必要です。設定方法は、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。
- プリンタードライバーに設定されたユーザーID が取得できない場合は、「UnknownUser」と印字されます。

■［バナーシート出力］

本機を複数のユーザーで使用している場合など、ユーザーごとのジョブを区分けして、印刷物が混在しないようにバナーシートを出力します。ジョブの前や後ろに出力できます。

バナーシートには、日付、時間、ユーザー名、ファイル名などが印刷されます。

補足
- ホチキスを設定している場合でも、バナーシートはホチキス留めされません。
- macOS/OS X からのプリントジョブのバナーシートには、文書名は表示されません。
- バナーシートをプリントした場合は、メーターに加算されます。

■［バナーシートのオフセット出力］

仕分け用の用紙（バナーシート）を出力するときにオフセット排出するかどうかを設定します。

■［バナーシートトレイ］

仕分け用の用紙（バナーシート）を給紙するトレイを設定します。

トレイ 5（手差し）は設定できません。

■［PostScript の用紙選択］

用紙選択時に、PostScript の遅延媒体選択（Deferred Media Selection）機能を有効にするかどうかを設定します。遅延媒体選択機能を有効にする場合は［自動］に、無効にする場合は［用紙トレイから選択］に設定します。

プリンタードライバー以外が生成する PostScript データを印刷するときに、PostScript データの記述方法によっては、意図どおりにトレイが選択されないことがあります。その場合は［用紙トレイから選択］に設定してください。

補足
- ［自動］に設定していても、［用紙の置き換え］で［大きいサイズを選択］または［近いサイズを選択］を選んで、PostScript データを印字すると、自動的に［用紙トレイから選択］に切り換わります。

■[PS フォント未搭載時の処理]

ジョブで指定された PostScript フォントがなかった場合の処理を設定します。[フォントを置換えてプリントする]に設定したときに、指定されたフォントがなかった場合は、Courier に置き換えられます。

置き換えられたフォントが日本語の場合は正しくプリントされません。日本語フォントでプリントする場合は[PostScript のフォント置き換え]を[ATCx を使用する]に設定してください。

■[PostScript のフォント置き換え]

ジョブで指定された PostScript フォントがなかった場合、フォントの置き換えで ATCx を使用するかどうかを設定します。

ATCx 機能は、ジョブで指定されたフォントが本機に搭載されていない日本語フォントの場合に、本機に搭載されている日本語の PostScript フォントに置き換えてプリントする機能です。

■[XPS PrintTicket 処理]

XPS（XML Paper Specification）文書内に記述された印刷設定（PrintTicket）を読み込むときの本機の動作を設定します。

◆[無効]

PrintTicket 処理をしません。

◆[標準モード]

PrintTicket 処理を標準モードで行います。

◆[準拠モード]

PrintTicket で記述された印刷設定を Microsoft の仕様に準拠した動作で行います。

■[LPD のプリント順序]

LPD のプリントの順番を設定します。

補足

- [LPD のプリント順序]の変更により、[受信バッファ -LPD]が自動的に変更されることがあります。詳しくは、「[受信バッファ - LPD]」(P.297) を参照してください。

◆[受け付けと同時にプリント]

印刷データを受信後すぐに印刷されます。

注記

- 本設定は LPD の受信バッファが[スプールする]設定のときのみ有効です。ほかの設定のときは[データ処理順]で印刷されます。

◆[データ処理順]

印刷データを受信後、出力可能な状態になった順序で印刷されます。

複数の文書を連続して印刷要求した場合、データ処理に時間がかかる印刷データを先に印刷要求しても、データ処理が終了した印刷データが先に印刷されることがあります。

◆[受け付け順]

lpr の印刷要求を受け付けた順番で印刷されます。

注記

- 本設定は LPD の受信バッファが[スプールする]設定のときのみ有効です。ほかの設定のときは[データ処理順]で印刷されます。

■［OCR フォントのグリフ（0x5C）］

OCR フォントを使用するときに、「0x5C」の文字をバックスラッシュ（\）と円記号（¥）のどちらで印字するかを設定します。

［スキャン送信設定］

［スキャナー画面表示設定］

機能リストの［読み取り倍率］にあらかじめ用意されている倍率ボタンの設定を変更します。

倍率ボタンに割り当てる設定値は、［固定倍率ボタン］に登録した中から選びます。

参照

• ［固定倍率ボタン］の設定方法は、「［固定倍率ボタン］」(P.304) を参照してください。

［PC 保存機能設定初期値］

■［保存時の認証ユーザー］

SMB/FTP/SFTP 送信でコンピューターにログインするとき、外部認証したユーザーを利用するかどうかを設定します。外部認証のときに有効な機能です。

■［FTP 時のユーザー名］

FTP 送信をするとき、外部認証ユーザーをログインユーザー名に使用する場合、認証ユーザーのドメイン部分を使用するかどうかを指定します。

◆［ユーザー名のみ］

認証ユーザー名のユーザー名部分（「@」の前）だけをログイン名に使用し、ドメイン部分は使用しません。

◆［ドメインを付加する］

認証ユーザー名のドメイン名（「@」の後ろ）も含めた認証ユーザー名をログイン名に使用します。

■［SFTP 時のユーザー名］

SFTP 送信をするとき、外部認証ユーザーをログインユーザー名に使用する場合、認証ユーザーのドメイン部分を使用するかどうかを指定します。

◆［ユーザー名のみ］

認証ユーザー名のユーザー名部分（「@」の前）だけをログイン名に使用し、ドメイン部分は使用しません。

◆［ドメインを付加する］

認証ユーザー名のドメイン名（「@」の後ろ）も含めた認証ユーザー名をログイン名に使用します。

［読み取りサイズボタン］

［読み取りサイズ］に表示する原稿サイズを設定します。［自動検知］以外の各ボタンに、原稿サイズを割り当てられます。

定形外サイズの原稿を頻繁にスキャンするときなど、あらかじめ定形外サイズを設定しておくと、スキャンのたびに原稿サイズを入力する操作が省けます。

[出力サイズボタン]

[読み取り倍率]で、[自動 %]を選んでスキャンする場合に表示するサイズを設定します。

出力サイズボタンに、任意の出力サイズを割り当てることができます。

よく使うサイズを設定しておくと、スキャンのたびに設定する操作が省けます。

[固定倍率ボタン]

[読み取り倍率]で、[定形変倍 / ズーム]に表示する倍率を設定します。

[100%]以外の各ボタンに、任意の倍率を割り当てることができます。

[メール送信動作制御]

メールを送信するときの仕様に関する設定をします。

■[指定可能な最大送信先数]

メールを送信するときの最大宛先アドレス数を指定します。

宛先アドレス数は、To:/Cc:/Bcc: の合計数です。

最大宛先アドレス数は、1 ～ 100 件の範囲で指定できます。最大宛先アドレス数を超えた場合は、メールの送信は中止されます。

■[受信メールシートのプリント]

本機のメールアドレスに宛てたメールを受信したときの、プリント動作について設定できます。

■[エラー通知メールの自動プリント]

間違ったアドレスを設定した場合や、エラーが発生して送信できなかった場合に、エラー通知メールを自動的にプリントするかどうかを設定します。

補足

- エラー通知メールのジョブ処理は、正常にプリントされた場合でも [ジョブ情報] 画面、またはジョブ履歴レポートでは、「異常終了」と表示されます。

■[開封確認（MDN）要求への応答]

開封確認（MDN）を要求するメールを開封したときに、開封したことを送信元に知らせるかどうかを設定します。

■[開封確認（MDN）機能の使用]

本機からメールを送信するときに、開封確認機能を使用するかどうかを設定します。

■[送達確認メールの自動プリント]

送信結果のメール（DSN 返信メール /MDN 返信メール）を自動的にプリントするかどうかを設定します。

■[メールの分割方式]

メールの分割方法の初期値を設定します。

◆[ページの区切りで分割]

ページの区切りで分割します。

◆[データサイズ単位で分割]

[1 通ごとのデータサイズ上限]で設定されたサイズで分割します。

注記
- S/MIME によるメールのデジタル署名 / 暗号化通信をする場合、［データサイズ単位で分割］を使用することはできません。

■［1 通ごとのデータサイズ上限］

メールを分割するデータサイズの上限を設定します。

■［合計データサイズ上限］

メールのデータサイズの上限を設定します。

■［分割送信時の分割数上限］

メール分割時の分割数の上限を設定します。

■［送信者アドレスの変更］

メール送信時に機能リストの［送信者］で送信アドレスを変更できるようにするかどうかを設定します。

■［取得失敗時のメール送信制限］

認証ユーザーがメールアドレスを取得できなかった場合、メール送信の利用を制限するかどうかを設定します。

■［ユーザーのアドレスを宛先に追加］

送信者のアドレスを、宛先に自動的に追加するかどうかを設定します。

■［ユーザーのアドレスを CC に追加］

送信者のアドレスを、CC に自動的に追加するかどうかを設定します。

■［メール送信先の編集］

メールの送信先（宛先、CC、BCC）の編集を、許可するかどうかを設定します。メールの送信先の編集を禁止すると、メールの誤送信を防ぐことができます。

注記
- ［メール送信先の編集］を［禁止］に設定した場合は、［ユーザーのアドレスを宛先に追加］にチェックマークを付けてください。

［その他の設定］

スキャン送信の仕様に関するそのほかの設定をします。

■［メモリーオーバーフローの処理］

原稿の読み込み中に、スキャナー用のストレージの領域が不足した場合、途中まで蓄積されていたデータの処理をどうするか確認する画面が表示されます。

確認画面を表示させたまま一定時間が経過したときの処理方法を設定します。

参照
- メモリーオーバーフローの処理を実行するまでの時間を設定できます。詳しくは、「［ジョブ自動解除］(P.277) を参照してください。

■［最大蓄積ページ数］

スキャン原稿の最大蓄積ページ数を指定します。

■［彩度］

フルカラー原稿をスキャンするときの彩度を設定します。スキャンをするときに、ここで設定した値に従って自動的に調整されます。

■［地色除去レベル］

地色除去レベルを設定します。

■［裏写り防止レベル］

裏写り防止レベルを設定します。

■［色空間機能の表示］

機能リストに、［色空間］を表示するかどうかを設定します。

■［TIFF の形式］

スキャンデータを読み込むときの、TIFF の形式を設定します。

■［文字認識時のページ向き］

文字認識（OCR）して、原稿を読み込んだときに、文字が正立するように処理するかどうかを設定します。

■［文字認識時の正立判定］

文字認識（OCR）して原稿を読み込んだときに、文字が正立するように処理する機能の精度を設定します。

■［読み込み終了後の画面表示］

原稿を読み込んだあとに、終了メッセージや転送画面を表示するかどうかを設定します。

■［ファイル名の形式］

スキャンした文書のファイル名の形式を設定します。

補足

- ［YYYYMMDDHHMMSS］の年月日の順序は、［設定］>［システム設定］>［システム時計 / タイマー設定］>［日付］の［日付の形式］で変更できます。
- ［img-MDDHHMMSS］に設定した場合、10 月、11 月、12 月はそれぞれ X、Y、Z となります。

■［メールに添付するファイル名の日付］

［メール送信］を使用する場合、送信する文書のファイル名に日付やページ番号を付加するかどうかを設定します。

ファイル名を自動生成するかどうか、または［ファイル名の形式］の設定によって、次のようになります。

設定値	自動生成の場合の例	ファイル名を指定した場合の例
［付加する］	20121002023309-0001.tif または img-X02023309-0001.tif	Report-20121002023309-0001.tif または Report-X02023309-0001.tif
［付加しない］	20121002023309-0001.tif または img.tif	Report.tif

補足

- インターネットファクスで送信した場合も、この設定が適用されます。
- ［ファイル名の形式］で［YYYYMMDDHHMMSS］を指定した場合は、［付加しない］を選んでも、ファイル名に日付が付加されます。

■［URL 送信の文書保存期間］

URL 送信の文書の保存期間を設定します。

■［URL 送信の URL 生成方法］

URL 送信 で送信する URL の生成方法を設定します。

URL の例は次のとおりです。

［IP アドレスを使用］の場合 :

http://192.0.2.1/scanUrl/doc1/get.htm

［FQDN を使用］の場合 :

http://pc1.mycompany.co.jp/scanUrl/doc1/get.htm

■［URL 送信の最大蓄積サイズ］

URL 送信の文書の最大蓄積サイズを設定します。

■［認証ユーザー名の記載（PDF）］

本体認証、外部認証などを利用して PDF 形式でスキャンした場合、保存した PDF 文書の属性情報の「作成者」に、認証ユーザー名を記載するかどうかを設定します。

注記

- ［する］に設定すると、文書の利用目的によっては、個人情報の開示につながり、好ましくない場合があります。スキャンした文書の属性情報に、認証ユーザー名やカードの ID 番号を記載したくない場合は、［しない］に設定してください。
- ［する］に設定すると、Microsoft Office 形式の文書にも認証ユーザー名やカードの ID 番号が記載されます。

■［スタート後の設定値リセット］

ジョブ実行後に宛先を含む送信設定をリセットするかどうかと、リセットしない場合のメッセージの表示有無を設定します。

補足

- 最新のソフトウェアの場合に表示されます。

［ボックス保存設定］

［スキャナー画面表示設定］

機能リストの［読み取り倍率］にあらかじめ用意されている倍率ボタンの設定を変更します。

倍率ボタンに割り当てる設定値は、［固定倍率ボタン］に登録した中から選びます。

参照

- ［固定倍率ボタン］の設定方法は、「［固定倍率ボタン］」(P.308) を参照してください。

［読み取りサイズボタン］

［読み取りサイズ］に表示する原稿サイズを設定します。［自動検知］以外の各ボタンに、原稿サイズを割り当てられます。

定形外サイズの原稿を頻繁にスキャンするときなど、あらかじめ定形外サイズを設定しておくと、スキャンのたびに原稿サイズを入力する操作が省けます。

［出力サイズボタン］

［読み取り倍率］で、［自動 %］を選んでスキャンする場合に表示するサイズを設定します。

出力サイズボタンに、任意の出力サイズを割り当てることができます。

よく使うサイズを設定しておくと、スキャンのたびに設定する操作が省けます。

[固定倍率ボタン]

[読み取り倍率]で、[定形変倍 / ズーム]に表示する倍率を設定します。

[100%]以外の各ボタンに、任意の倍率を割り当てることができます。

[その他の設定]

ボックス保存の仕様に関するそのほかの設定をします。

参照

- 表示される項目の詳細については、[スキャン送信設定]の「[その他の設定]」(P.305) を参照してください。

[メール送信設定]

参照

- スキャナー機能を使用するための設定は、「スキャン機能の設定」(P.60) を参照してください。

[スキャナー画面表示設定]

機能リストの[読み取り倍率]にあらかじめ用意されている倍率ボタンの設定を変更します。

倍率ボタンに割り当てる設定値は、[固定倍率ボタン]に登録した中から選びます。

参照

- [固定倍率ボタン]の設定方法は、「[固定倍率ボタン]」(P.308) を参照してください。

[読み取りサイズボタン]

[読み取りサイズ]に表示する原稿サイズを設定します。[自動検知]以外の各ボタンに、原稿サイズを割り当てられます。

定形外サイズの原稿を頻繁にスキャンするときなど、あらかじめ定形外サイズを設定しておくと、スキャンのたびに原稿サイズを入力する操作が省けます。

[出力サイズボタン]

[読み取り倍率]で、[自動 %]を選んでスキャンする場合に表示するサイズを設定します。

出力サイズボタンに、任意の出力サイズを割り当てることができます。

よく使うサイズを設定しておくと、スキャンのたびに設定する操作が省けます。

[固定倍率ボタン]

[読み取り倍率]で、[定形変倍 / ズーム]に表示する倍率を設定します。

[100%]以外の各ボタンに、任意の倍率を割り当てることができます。

[メール送信動作制御]

メールを送信するときの仕様に関する設定をします。

■[指定可能な最大送信先数]

メールを送信するときの最大宛先アドレス数を指定します。

宛先アドレス数は、To:/Cc:/Bcc: の合計数です。

最大宛先アドレス数は、1 ～ 100 件の範囲で指定できます。最大宛先アドレス数を超えた場合は、メールの送信は中止されます。

■［受信メールシートのプリント］

本機のメールアドレスに宛てたメールを受信したときの、プリント動作について設定できます。

■［エラー通知メールの自動プリント］

間違ったアドレスを設定した場合や、エラーが発生して送信できなかった場合に、エラー通知メールを自動的にプリントするかどうかを設定します。

補足

- エラー通知メールのジョブ処理は、正常にプリントされた場合でも［ジョブ情報］画面、またはジョブ履歴レポートでは、「異常終了」と表示されます。

■［開封確認（MDN）要求への応答］

開封確認（MDN）を要求するメールを開封したときに、開封したことを送信元に知らせるかどうかを設定します。

■［開封確認（MDN）機能の使用］

本機からメールを送信するときに、開封確認機能を使用するかどうかを設定します。

■［送達確認メールの自動プリント］

送信結果のメール（DSN 返信メール /MDN 返信メール）を自動的にプリントするかどうかを設定します。

■［メールの分割方式］

メールの分割方法の初期値を設定します。

◆［ページの区切りで分割］

ページの区切りで分割します。

◆［データサイズ単位で分割］

［1 通ごとのデータサイズ上限］で設定されたサイズで分割します。

注記

- S/MIME によるメールのデジタル署名 / 暗号化通信をする場合、［データサイズ単位で分割］を使用することはできません。

■［1 通ごとのデータサイズ上限］

メールを分割するデータサイズの上限を設定します。

■［合計データサイズ上限］

メールのデータサイズの上限を設定します。

■［分割送信時の分割数上限］

メール分割時の分割数の上限を設定します。

■［送信者アドレスの変更］

メール送信時に機能リストの［送信者］で送信アドレスを変更できるようにするかどうかを設定します。

■［取得失敗時のメール送信制限］

認証ユーザーがメールアドレスを取得できなかった場合、メール送信の利用を制限するかどうかを設定します。

■[ユーザーのアドレスを宛先に追加]

送信者のアドレスを、宛先に自動的に追加するかどうかを設定します。

■[ユーザーのアドレスを CC に追加]

送信者のアドレスを、CC に自動的に追加するかどうかを設定します。

■[メール送信先の編集]

メールの送信先（宛先、CC、BCC）の編集を、許可するかどうかを設定します。メールの送信先の編集を禁止すると、メールの誤送信を防ぐことができます。

注記

- [メール送信先の編集] を [禁止] に設定した場合は、[ユーザーのアドレスを宛先に追加] にチェックマークを付けてください。

[その他の設定]

メール送信の仕様に関するそのほかの設定をします。

参照

- 表示される項目の詳細については、[スキャン送信設定] の「[その他の設定]」(P.305) を参照してください。

[ファクス設定]

[ファクス画面表示設定]

■[送信中画面表示]

送信中に、送信の状態を画面に表示するかどうかを設定します。

■[ファクス回線選択の表示]

機能リストに、[回線選択] を表示するかどうかを設定します。

[ファクス動作制御]

■[内線設定]

ファクスを内線で使用する場合に、どの回線で使用するかを設定します。

■[宛先の再入力]

ファクス、IP ファクス（SIP）の誤送信を避けるため、宛先を指定したあとに、宛先の再入力を必要とするかしないかを設定します。[する] に設定した場合、ダイヤル入力を使用して宛先を指定すると、もう一度宛先を指定する画面が表示されます。1 回めに指定した宛先と一致する場合だけ、送信できます。

■[再入力時の同報指示]

[宛先の再入力] を [する] に設定した場合に、同報送信を許可するかしないかを設定します。

■[再入力時の連絡先指示]

[宛先の再入力] を [する] に設定した場合に、アドレス帳宛先を指定したときの確認画面の表示有無を設定します。

■[再入力時のグループ宛先指示]

[宛先の再入力] を [する] に設定した場合に、グループ宛先の指定許可と確認画面の表示有無を設定します。

■［同報切り替えボタンの表示］

同報指示を明確にするための［同報する］を機能リストに表示するかしないかを設定します。

■［チェーンダイヤル］

アドレス帳に登録してある宛先のダイヤル番号と入力した番号を組み合わせて、1 つの宛先として指定できるようにするかどうかを設定します。

■［手動リダイヤル宛先保存数］

リダイヤル宛先として保存される件数を設定します。

■［手動リダイヤル対象宛先］

リダイヤル宛先として保存される宛先の種別を設定します。

すべてのチェックマークを外すと、リダイヤル機能なしになります。

■［発信元記録 / 送信シートの宛先］

発信元記録と送信シートの相手欄に印字する送信先の項目を設定します。

登録されている文字列から、先頭の 18 文字が印字されます。

補足

- アドレス帳で［送信ヘッダ宛先名］が設定されている宛先に送信する場合は、宛先に設定された文字列が印字されます。

■［ポーリング予約の発信元記録］

ポーリング予約文書に発信元記録を付けるかどうかを設定します。

■［ポーリング予約文書の自動削除］

ポーリング予約した文書を、送信後に自動的に削除するかどうかを設定します。

■［相手機からのポーリング / 蓄積］

次の機能の使用を許可するかどうかを設定します。

- ポーリング予約（相手用蓄積）
- 相手機からの指示によるポーリング予約文書の送信
- ファクス親展受信

■［自動回転送信］

原稿の向きを回転させると原稿イメージを縮小しないで送信できる場合に、自動的に原稿の向きを回転させるかどうかを設定します。

補足

- 読み取り倍率で任意倍率を指定した場合は、自動回転送信機能は働きません。

■［G3-ID の送出 - ファクス］

G3 通信時に、G3ID を相手先に通知するかどうかを設定できます。

■［G3-ID の送出 -IP ファクス（SIP）］

G3 通信時に、G3ID を IP ファクス（SIP）の相手先に通知するかどうかを設定できます。

■［リダイヤル回数］

リダイヤルする回数を指定します。

■[リダイヤル間隔]

リダイヤルする間隔を指定します。

■[ファクス未送信時の文書保存]

ファクスが送信できなかった場合に、文書を保存するかどうかを設定します。
チェックマークを付けた場合、[ジョブ情報]画面に が表示されます。[ファクス未送信文書]画面から、送信できなかった文書を選んで再送信できます。

参照
- ファクス未送信文書の再送信または削除については、「未送信文書の再送信/削除」(P.178)を参照してください。

■[ファクス送信強制終了時の文書]

[ファクス未送信時の文書保存]にチェックマークを付けた場合、強制的にファクス送信を終了した文書を保存対象にするかどうかを設定します。

■[ファクス保存文書の自動削除]

[ファクス未送信時の文書保存]にチェックマークを付けた場合、保存された文書を24 時間後に自動的に削除するかどうかを設定します。

■[通信インターバル]

1 つの通信が終わったあと、次に送信を始めるまでの時間を指定します。

通信インターバルが長いほど、同報送信などにかかる全体の時間は長くなりますが、待機時間中に受信できるようになります。

■[同一宛先一括送信]

一括送信とは、複数の送信が予約されている場合に同一の宛先があるとき、1 回の通信で同一の宛先の文書を送信する機能です。一括送信で送信すると、通信コストを低減できます。ここでは、一括送信の機能を使用するかどうかを設定します。

なお、手動送信、同報、親展通信、指定時刻より前の時刻指定通信などの場合は、一括送信できません。リダイヤル、再送、時刻指定送信になった通信ジョブや認証機能を使用しているときに、別々のユーザーから同一宛先に送信した場合は、一括送信の対象になりません。

■[手動送受信初期値]

一般のファクスでオンフックまたはオフフックを使用した場合、タッチパネルディスプレイに最初に表示される状態を手動受信にするか、手動送信にするかを設定します。

補足
- IP ファクス（SIP）の場合は、手動受信 / 送信機能がないため、ここでの設定は適用されません。

■[ファクス自動受信時の受信方式]

一般のファクスでの自動受信時の受信方式を設定します。

補足
- IP ファクス（SIP）の場合は、本設定は適用されません。

◆[指定時間後に受信]

電話がかかってきてからファクス通信を開始するまでの時間を設定します。

相手が電話なら、設定時間内にハンドセット（オプション）や外付け電話を取って会話ができます。ファクス通信なら手動受信ができます。

◆［ファクス識別信号検知後に受信］

ファクス識別信号が検知されると自動的にファクス通信が開始されます。

■［ファクス受信モード］

相手からの送信を自動で受信するか手動で受信するかを設定します。

補足
- IP ファクス（SIP）の場合は、ここでの設定に関係なく、自動受信になります。

■［ページ分割しきい値］

受信文書の長さが用紙サイズより長い場合、どの長さでページを分割するかを設定します。

次項目の自動縮小受信機能と組み合わせて設定すると便利です。

■［自動縮小受信］

受信文書の長さが、ページ分割しきい値以内で用紙の長さを超える場合、用紙に収まるように自動的に画像を縮小するかどうかを設定します。

前項目のページ分割しきい値と組み合わせて設定すると便利です。チェックマークを外している場合、用紙の長さを超えた部分の画像は切り捨てられます。

■［受信紙宣言］

ファクスの受信側から送信側に、受信文書をプリントする用紙を知らせる方法（モード）を設定できます。

◆［トレイモード］

ファクスの受信文書をプリントするために使用する用紙トレイを指定します。ここで指定した用紙トレイだけが、受信文書をプリントするために使用されます。手差しトレイを除く、すべての用紙トレイを複数指定できます。ここで指定した用紙トレイでプリントできないときは、手差しトレイに用紙をセットするよう促すメッセージが表示されます。手差しトレイに用紙をセットして、［スタート］をタップすると、プリントが開始されます。プリントを中止するときは、［中止］をタップしてください。

◆［ユーザーモード］

プリントする用紙サイズを指定（宣言）し、トレイにセットされているかどうかに関係なく、宣言したサイズの用紙だけをプリント用紙の対象にします。用紙サイズは、複数選択が可能です。

■［ページ合成受信］

2 ページを 1 ページに合成して受信するように設定できます。用紙を節約したい場合に便利です。

たとえば A5 を 2 枚受信した場合、A4 の用紙 1 枚にプリントされます。ただし、［受信紙宣言］で、受信した用紙と同じ用紙サイズの用紙が宣言されていれば、その用紙にプリントされます。また、受信する文書サイズによっては、ページ合成をしないことがあります。

■［両面プリント］

ファクス受信文書を用紙の両面にプリントするかどうかを設定します。用紙を節約したい場合に便利です。

補足
- チェックマークを付けても、データによっては、両面にプリントされないことがあります。

■[上下わく消し量]

原稿の上下方向のわく消し量を指定します。

■[左右わく消し量]

原稿の左右方向のわく消し量を指定します。

■[8.5 × 11"□原稿の A4□縮小]

[読み取り倍率]が[自動 %]の場合で、8.5×11" サイズの原稿を読み取るときに、A4 に縮小するかどうかを設定できます。

■[写真画質の擬似階調方式]

写真原稿の階調表現方式が設定できます。写真の画質に近づけるために、中間の明るさ（グレー）部分の処理方式を切り替えます。[誤差拡散]または[ディザ]から設定できます。

この設定を変更すると、スキャン機能のカラーモード（2 階調）の写真原稿の階調表現方式も変更になります。

■[回線 1 付加サービス]～[回線 3 付加サービス]

回線 1 ～ 3 で電話会社が提供しているサービスを利用しているかどうかを設定します。

ナンバー・ディスプレイ契約をしている場合は、[発信電話番号]を[あり]に、ダイヤルイン契約をしている場合は、[ダイヤルイン]を[あり]に設定します。サービスを利用していない場合は、[なし]を設定します。

補足

- IP ファクス（SIP）の場合、回線 1 ～ 3 付加サービスは利用できません。

■[回線 SIP 付加サービス]

次世代ネットワーク（NGN）を使用するときに、電話会社が提供しているサービスを利用しているかどうかを設定します。

企業内ネットワークでの IP ファクス（SIP）利用時は、電話会社との契約によらず、発信者電話番号を取得したい場合は、[発信電話番号]を[あり]に、自局の電話番号を取得したい場合は[ダイヤルイン]を[あり]に設定します。

■[電話番号別ボックスセレクター]

電話番号 /G3ID 別ボックスセレクター機能を使用するかどうかを設定します。

受信文書を、相手の電話番号（発信者電話番号）や、相手の G3ID や、自分の電話番号（ダイヤルイン番号）ごとに、指定した親展ボックスに振り分けて蓄積できます。

補足

- 本機が自局の G3ID 相手局に送出しない場合、相手局から G3ID が送られてこないことがあります。相手局が G3ID を送出しない場合、ボックスセレクターを設定しても G3ID による振り分けはできません。
- G3ID 規格上、電話番号を設定する決まりになっていますが、相手局のユーザが手動で登録する ID のため、正しい電話番号が設定されていないことがあります。実際に相手局が送出した G3ID はジョブ履歴レポートで確認ができます。
- 相手局の G3ID はジョブ履歴レポートの[入力（送信）元]欄で確認できます。

参照

- 親展ボックスに振り分ける条件の設定は、「[受信文書の保存先/排出先]」(P.316)を参照してください。

■［ボックスセレクター優先度］

電話番号 /G3ID 別ボックスセレクター機能を使用する場合に、送信した相手の電話番号（発信者電話番号）や G3ID、受信した自局の電話番号（ダイヤルイン）に優先度を設定して親展ボックスに受信文書を振り分けます。親展ボックスに振り分ける優先度は第 1 優先、第 2 優先、第 3 優先の順に設定できます。

■［受信回線別ボックスセレクター］

受信回線別ボックスセレクター機能を使用するかどうかを設定します。

受信回線別ボックスセレクター機能を使用すると、受信文書を受信した回線ごとに、指定した親展ボックスに振り分けて蓄積できます。

参照

- 親展ボックスに振り分ける条件の設定は、「［受信文書の保存先/排出先］」(P.316)を参照してください。

■［ボックス保存時のファイル名形式］

ファクス文書を親展ボックスに保存するときのファイル名の形式を設定します。

［YYYYMMDDHHMMSS］に設定すると、年月日時分秒を並べたファイル名が生成されます。［img-MDDHHMMSS］に設定すると、固定文字列［img-］のあとに、月日時分秒を並べたファイル名が生成されます。

補足

- ［YYYYMMDDHHMMSS］の年月日（YYYYMMDD）の順序は、［設定］＞［システム設定］＞［システム時計 / タイマー設定］＞［日付］の［日付の形式］で変更できます。
- ［img-MDDHHMMSS］に設定した場合、10 月、11 月、12 月はそれぞれ X、Y、Z となります。

■［メモリオーバフローの処理］

原稿の読み込み中に、ストレージの領域が不足した場合、途中まで蓄積されていたデータの処理をどうするかを確認する画面が表示されます。

確認画面を表示させたまま一定時間が経過したときの処理方法を設定します。

参照

- メモリオーバフローの処理を実行するまでの時間を設定できます。詳しくは、「［ジョブ自動解除］」(P.277) を参照してください。

■［最大蓄積ページ数］

ファクス原稿の最大蓄積ページ数を指定します。

■［ミックスサイズ原稿読み取りモード］

自動原稿送り装置で複数のサイズが混在した原稿を読み込むときの、読み取りモードを設定します。常に定形サイズの原稿を読み込む場合は、［定形モード］に設定することをお勧めします。

注記

- ［定形モード］に設定すると、次の原稿を読み込んだ場合、画像欠けが発生することがあります。
  - 非定形サイズの原稿を読み込んだ場合
  - ［サイズ検知切り替え］でインチ系に設定して、B4 原稿を読み込んだ場合

■［親展受信情報の表示優先順 1 ］～［ 親展受信情報の表示優先順 5］

親展受信した文書のファクス情報を表示するための優先順位を設定します。たとえば、ネットワークスキャナーユーティリティ 3 の場合、ここで設定した優先順位に従って、文書一覧画面の［相手先］欄に、ファクス情報を表示します。

優先順位は 1 ～ 5 まであり、それぞれに項目を設定できますが、常に 1 つの情報だけを表示させたいときは、優先順位の 1 ～ 5 に同じ項目を設定します。

■[ダイレクトファクスの使用]

コンピューターからファクスドライバーで指示されたファクスの送信を許可するかどうかを設定します。[禁止]に設定すると、ダイレクトファクスは使用できません。

■[受信制限番号]

ファクス受信を拒否する G3ID（電話番号）を指定します。

補足
- ファクス受信拒否をしたい相手先の G3ID（電話番号）は、通信管理レポートの［相手］欄やジョブ履歴レポートの［入力（送信）元］欄で確認できます。

■[非通知番号の受信制限]

G3ID が非通知のファクスを受信するかどうかを設定します。

■[1300Hz 無鳴動受信]

ファクシミリ通信網からの 1,300 Hz 無鳴動受信をするかどうかを設定します。

チェックマークを付けると、[ファクス受信モード]が［手動受信］の場合でも、ファクスが自動的に受信されます。

補足
- IP ファクス（SIP）の場合は、本設定は適用されません。

[受信文書の保存先 / 排出先]

受信文書を指定した親展ボックスに振り分けるボックスセレクター機能の振り分け方法、および受信プリント時の排出先を設定します。

補足
- ボックスセレクター機能を両方使用した場合は、電話番号 /G3ID 別ボックスセレクターの振り分けが優先されます。

参照
- ボックスセレクター機能を有効にする設定は、「[電話番号別ボックスセレクター]」(P.314)、または「[受信回線別ボックスセレクター]」(P.315) を参照してください。

■[電話番号 /G3ID 別ボックスセレクター]

受信文書を、相手の電話番号（発信者電話番号）や、相手の G3ID や、自分の電話番号（ダイヤルイン番号）ごとに各親展ボックスに振り分けて蓄積できます。500 件まで登録できます。

注記
- 発信者番号通知サービスによる振り分けを利用する場合、送信側の設定などによってはナンバー・ディスプレイ情報が、認識できないことがあります。その場合、プリント排出されることがあります。

  また、モデムダイヤルインによる振り分け機能についても同様にプリント排出されることがあります。

補足
- モデムダイヤルインによる振り分けを使用する場合は、NTT とモデムダイヤルインの契約を結ぶ必要があります。また、発信者番号通知サービスによる振り分けを使用する場合は、NTT とナンバー・ディスプレイの契約を結ぶ必要があります。

■[受信回線別ボックスセレクター]

受信回線を利用した振り分けを設定しておくと、受信した文書を受信した回線ごとに、指定した親展ボックスに振り分けて蓄積します。

補足

- 各回線に指定した親展ボックスを、ホーム画面の機能ボタンに割り当てることができます。機能ボタンには親展ボックスに格納されている文書数が表示され、ボタンをタップすると、親展ボックス内の文書を確認できます。親展ボックスをホーム画面に表示させるには、［受信回線別ボックスセレクター］を［有効］に設定する必要があります。詳しくは、［ファクス動作制御］の「［受信回線別ボックスセレクター］」(P.315) を参照してください。

■［受信回線別排出先］

［受信回線別排出先］では、受信回線別の排出先などが設定できます。

◆［回線 1 の排出先］～［回線 3 の排出先］

各回線の排出トレイを設定します。

◆［回線 SIP の排出先］

IP ファクス（SIP）の排出トレイを設定します。

◆［ポーリング予約ボックスの排出先］

ポーリング予約ボックスの排出トレイを設定します。

［固定倍率ボタン］

［読み取り倍率］に表示する倍率を設定します。［100%］と［自動 %］以外の各ボタンに、任意の倍率を割り当てることができます。

［読み取りサイズボタン］

［読み取りサイズ］に表示する原稿サイズを設定します。

［自動検知］以外の各ボタンに、原稿サイズを割り当てられます。

定形外サイズの原稿を頻繁に読み取るときなど、あらかじめ定形外サイズを設定しておくと、読み取るたびに原稿サイズを入力する手間が省けます。

［自局情報］

自局名や発信元名など自局に関する設定をします。

補足

- G3 通信で使用できる回線は、回線 1、回線 2、回線 3 で、最大 3 回線です。

■［自局名］

自局の名前を自局名として登録します。

自局名は、相手側のディスプレイや通信管理レポートに表示されます。ただし、相手機によっては表示されないことがあります。

■［発信元名］

発信元の名前を登録します。発信元名は、発信元記録や送信シートなどにプリントされる自局の名称です。

補足

- 回線（ポート）を指定したファクス送信、または IP ファクス（SIP）送信でも、［回線 1 発信元名］～［回線 3 発信元名］や［回線 SIP 発信元名］が未登録の場合は、この［発信元名］が使用されます。

■［受信パスワード］

受信パスワードは、ファクスを送信してくる相手を制限したいときに設定します。

受信パスワードを設定すると、F コードで正しい受信パスワードを指定して送ってくる相手だけ、受信やポーリングを受け付けます。F コード機能を持っていないファクスなどからは、受信できなくなるので、注意してください。

■［回線 1 発信元名］～［回線 3 発信元名］

回線 1 ～ 3 の発信元の名前を登録します。発信元名は、発信元記録や送信シートなどにプリントされる自局の名称です。

■［回線 1 G3 ID（ファクス番号）］～［回線 3 G3 ID（ファクス番号）］

回線 1 ～ 3 の G3 通信をする場合の G3ID の登録をします。G3ID には、通常、自局のファクス番号を設定します。

■［回線 1 G3 ダイヤル種別］～［回線 3 G3 ダイヤル種別］

回線 1 ～ 3 のダイヤル種別を設定します。

■［回線 1 G3 発信動作］～［回線 3 G3 発信動作］

回線 1 ～ 3 の発信動作を設定します。

補足

- 工場出荷時は［トーン検知する］が設定されています。通常はこの設定を変更しないでください。

◆［トーン検知する］

NTT または PBX で発信する場合に設定します。

一般電話回線や構内交換回線などをお使いで、ダイヤルトーンを検出したら発呼させたい場合に選んでください。

◆［トーン検知しない］

NTT または PBX 設定で発信できない場合に選んでください。

■［回線 SIP 発信元名］

IP ファクス（SIP）の発信元の名前を登録します。発信元名は、発信元記録や送信シートなどにプリントされる自局の名称です。

■［回線 SIP G3 ID］

IP ファクス（SIP）をする場合の相手局に送信する G3ID を登録します。

［コメント登録］

送信シートに付けるコメントを登録します。

［インターネットファクス設定］

［インターネットファクス画面表示設定］

■［送信中画面表示］

送信中に、送信の状態を画面に表示するかどうかを設定します。

［ファクス動作制御］

■［宛先の再入力］

インターネットファクスの誤送信を避けるため、宛先を指定したあとに、宛先の再入力を必要とするかしないかを設定します。［する］に設定した場合、ダイヤル入力を使用して宛先を指定すると、もう一度宛先を指定する画面が表示されます。1 回めに指定した宛先と一致する場合だけ、送信できます。

■［再入力時の同報指示］

［宛先の再入力］を［する］に設定した場合に、同報送信を許可するかしないかを設定します。

■［再入力時の連絡先指示］

［宛先の再入力］を［する］に設定した場合に、アドレス帳宛先を指定したときの確認画面の表示有無を設定します。

■［再入力時のグループ宛先指示］

［宛先の再入力］を［する］に設定した場合に、グループ宛先の指定許可と確認画面の表示有無を設定します。

■［自動回転送信］

原稿の向きを回転させると原稿イメージを縮小しないで送信できる場合に、自動的に原稿の向きを回転させるかどうかを設定します。

補足
- 読み取り倍率で任意倍率を指定した場合は、自動回転送信機能は働きません。

■［ページ分割しきい値］

受信文書の長さが用紙サイズより長い場合、どの長さでページを分割するかを設定します。

次項目の自動縮小受信機能と組み合わせて設定すると便利です。

■［自動縮小受信］

受信文書の長さが、ページ分割しきい値以内で用紙の長さを超える場合、用紙に収まるように自動的に画像を縮小するかどうかを設定します。

前項目のページ分割しきい値と組み合わせて設定すると便利です。チェックマークを外している場合、用紙の長さを超えた部分の画像は切り捨てられます。

■［ページ合成受信］

2 ページを 1 ページに合成して受信するように設定できます。用紙を節約したい場合に便利です。

たとえば A5 を 2 枚受信した場合、A4 の用紙 1 枚にプリントされます。また、受信する文書サイズによっては、ページ合成をしないことがあります。

■［両面プリント］

インターネットファクス受信文書を用紙の両面にプリントするかどうかを設定します。用紙を節約したい場合に便利です。

補足
- チェックマークを付けても、データによっては、両面にプリントされないことがあります。

■［上下わく消し量］

原稿の上下方向のわく消し量を指定します。

■［左右わく消し量］

原稿の左右方向のわく消し量を指定します。

■［8.5 × 11"原稿の A4縮小］

［読み取り倍率］が［自動 %］の場合で、8.5×11" サイズの原稿を読み取るときに、A4 に縮小するかどうかを設定できます。

■[メモリオーバフローの処理]

原稿の読み込み中に、ストレージの領域が不足した場合、途中まで蓄積されていたデータの処理をどうするかを確認する画面が表示されます。

確認画面を表示させたまま一定時間が経過したときの処理方法を設定します。

参照

- メモリオーバフローの処理を実行するまでの時間を設定できます。詳しくは、「[ジョブ自動解除]」(P.277) を参照してください。

■[最大蓄積ページ数]

ファクス原稿の最大蓄積ページ数を指定します。

■[ミックスサイズ原稿読み取りモード]

自動原稿送り装置で複数のサイズが混在した原稿を読み込むときの、読み取りモードを設定します。常に定形サイズの原稿を読み込む場合は、[定形モード] に設定することをお勧めします。

注記

- [定形モード] に設定すると、次の原稿を読み込んだ場合、画像欠けが発生することがあります。
  - 非定形サイズの原稿を読み込んだ場合
  - [サイズ検知切り替え] でインチ系に設定して、B4 原稿を読み込んだ場合

[受信文書の保存先 / 排出先]

受信プリント時の排出先を設定します。

■[受信回線別排出先]

ファクス受信文書の排出トレイを設定します。

[固定倍率ボタン]

[読み取り倍率] に表示する倍率を設定します。[100%] と [自動 %] 以外の各ボタンに、任意の倍率を割り当てることができます。

[読み取りサイズボタン]

[読み取りサイズ] に表示する原稿サイズを設定します。

[自動検知] 以外の各ボタンに、原稿サイズを割り当てられます。

定形外サイズの原稿を頻繁に読み取るときなど、あらかじめ定形外サイズを設定しておくと、読み取るたびに原稿サイズを入力する手間が省けます。

[自局情報]

■[発信元名]

発信元の名前を登録します。発信元名は、発信元記録や送信シートなどにプリントされる自局の名称です。

[インターネットファクス動作制御]

■[送信経路]

◆[メールサーバー経由]

SMTP サーバーを経由してメールを送信します。

◆［ダイレクト（P2P)］

SMTP サーバーを経由しないで、インターネットファクス 対応機へ直接送信できます。

注記
- 同じ送信先に対して、ホスト名の指定と IP アドレスの指定を混在して使用することはできません。
- 送信先の本体メールアドレスと送信元で設定するメールアドレスが一致しているときにだけ、プリントされます。

■［同報時のプロファイル］

インターネットファクスの同報送信をするときの、インターネットファクスプロファイルの初期値を設定します。

プロファイルとは、送受信するインターネットファクス対応機間で、画像の解像度や用紙サイズなどの属性情報を制限するための決めごとです。

注記
- 相手先のインターネットファクス対応機によっては､処理できるTIFF ファイルのプロファイルが異なります。プロファイルを指定する場合は、相手先のインターネットファクス対応機で処理できるプロファイルを確認してください。

◆［TIFF-S］

A4 サイズより大きいサイズの原稿の場合は、自動的に A4 サイズに縮小して送信されます。

◆［TIFF-F］

送信画質で超高画質を指定したり、A3 サイズ、B4 サイズの原稿を送信したりする場合に選びます。

◆［TIFF-J］

JBIG で原稿を送信する場合に選びます。

■［送達確認方式］

送信したインターネットファクスが、受信側に届いたかどうかを確認する方法を設定します。

送信結果をプリントするには、［メール送信動作制御］＞［送達確認メールの自動プリント］を［する］に設定してください。

補足
- ［配送確認（DSN)］は、相手先が DSN 機能に対応している場合に使用できます。また、［開封確認（MDN)］は、相手先が MDN 機能に対応している場合に使用できます。

◆［配送確認（DSN)］

送信したインターネットファクスが、最終宛先のメールボックスまで正しく送信されたかどうかを確認できます。

◆［開封確認（MDN)］

送信したインターネットファクスが、最終宛先で添付ファイルの処理を含めて正しく処理されたかどうかを確認できます。

■［受信文書の排出先］

インターネットファクス受信文書の排出トレイを設定します。

■［受信メールシートのプリント］

インターネットファクス対応機から本機のメールアドレスに宛てたメールを受信したときの、プリント動作について設定できます。

■[アドレス帳によるファクス転送制限]

SMTP による形式でインターネットファクス受信したメールを、アドレス帳に登録されていないファクスに転送しないように制限します。

■[ファクス転送時の発信元記録]

受信メールをインターネットファクスからファクスに送信するときに、発信元記録（通信開始時刻、発信元名、宛先名、G3ID、枚数など）を付けるかどうかを設定します。

■[ファクス転送時の上限データサイズ]

受信メールをインターネットファクスからファクスに送信するときの、最大データサイズを設定します。

[メール送信動作制御]

■[エラー通知メールの自動プリント]

間違ったアドレスを設定した場合や、エラーが発生して送信できなかった場合に、エラー通知メールを自動的にプリントするかどうかを設定します。

補足
- エラー通知メールのジョブ処理は、正常にプリントされた場合でも [ジョブ情報] 画面、またはジョブ履歴レポートでは、「異常終了」と表示されます。

■[開封確認（MDN）要求への応答]

開封確認（MDN）を要求するメールを開封したときに、開封したことを送信元に知らせるかどうかを設定します。

■[送達確認メールの自動プリント]

送信結果のメール（DSN 返信メール /MDN 返信メール）を自動的にプリントするかどうかを設定します。

■[合計データサイズ上限]

メールのデータサイズの上限を設定します。

[ポーリング予約設定]

ポーリング予約とは、本機のポーリング予約ボックスに原稿を蓄積しておいて、相手先からの操作で送信できるようにする機能です。

[ファクス動作制御]

■[ポーリング予約の発信元記録]

ポーリング予約文書に発信元記録を付けるかどうかを設定します。

■[ポーリング予約文書の自動削除]

ポーリング予約した文書を、送信後に自動的に削除するかどうかを設定します。

■[相手機からのポーリング / 蓄積]

次の機能の使用を許可するかどうかを設定します。

- ポーリング予約（相手用蓄積）
- 相手機からの指示によるポーリング予約文書の送信
- ファクス親展受信

■［メモリオーバフローの処理］

原稿の読み込み中に、ストレージの領域が不足した場合、途中まで蓄積されていたデータの処理をどうするかを確認する画面が表示されます。

確認画面を表示させたまま一定時間が経過したときの処理方法を設定します。

参照

- メモリオーバフローの処理を実行するまでの時間を設定できます。詳しくは、「［ジョブ自動解除］(P.277) を参照してください。

■［最大蓄積ページ数］

ファクス原稿の最大蓄積ページ数を指定します。

■［ミックスサイズ原稿読み取りモード］

自動原稿送り装置で複数のサイズが混在した原稿を読み込むときの、読み取りモードを設定します。常に定形サイズの原稿を読み込む場合は、［定形モード］に設定することをお勧めします。

注記

- ［定形モード］に設定すると、次の原稿を読み込んだ場合、画像欠けが発生することがあります。
  - 非定形サイズの原稿を読み込んだ場合
  - ［サイズ検知切り替え］でインチ系に設定して、B4 原稿を読み込んだ場合

［受信文書の保存先 / 排出先］

受信プリント時の排出先を設定します。

■［受信回線別排出先］

ポーリング予約ボックスの排出トレイを設定します。

［固定倍率ボタン］

［読み取り倍率］に表示する倍率を設定します。［100%］と［自動 %］以外の各ボタンに、任意の倍率を割り当てることができます。

［読み取りサイズボタン］

［読み取りサイズ］に表示する原稿サイズを設定します。

［自動検知］以外の各ボタンに、原稿サイズを割り当てられます。

定形外サイズの原稿を頻繁に読み取るときなど、あらかじめ定形外サイズを設定しておくと、読み取るたびに原稿サイズを入力する手間が省けます。

［アドレス帳設定］

［ディレクトリサービス］

ディレクトリーサーバーに保存されているアドレス帳を利用するかどうかを設定します。

［宛先の選択方法］

アドレス帳の宛先を選ぶときに、一度に複数の宛先を選べるようにするかどうかを設定します。

[ボックス操作設定]

親展ボックスに保存された文書の処理方法を設定します。

[ボックス操作時のアクセス制限]

ボックス操作時に、パスワードの入力を必須にするかどうかを設定します。

補足

- [する]に設定すると、パスワードの設定がないボックスは登録できなくなりますが、すでに登録されているボックスには適用されません。

[外部取り出し後の文書削除]

親展ボックス内に保存されている文書がクライアント側から取り出された場合に、文書を削除するかどうかを設定します。

[親展ボックス文書の初期表示]

文書一覧画面を開いたときの表示方法を［リスト表示］または［サムネール表示］に設定します。

[プリント文書保存時の向き指定]

非定形サイズの文書を保存するときの向きを設定します。[たて]を指定していても、用紙トレイにセットできない向きのプリント文書が保存されると強制的に［よこ］で保存されます。

[プリント時の削除確認画面表示]

親展ボックス内の文書をプリントしたあとに、文書を自動的に削除する確認画面を表示するかどうかを設定します。

[非定形文書転送時の定形化]

親展ボックス内のファクス / インターネットファクス受信文書、親展ポーリング予約文書などを転送するときに、非定形サイズから定形サイズに変更するかどうかを設定します。

[定形化時のサイズしきい値]

[非定形文書転送時の定形化]にチェックマークを付けたときの、非定形サイズを定形サイズに変更するための、しきい値を設定します。

[インターネットファクス受信文書転送 -1]

インターネットファクス受信文書をインターネットファクスで転送できるようにするかどうかを設定します。

[インターネットファクス受信文書転送 -2]

インターネットファクス受信文書をメールで転送できるようにするかどうかを設定します。

[取り出し時の画質 / ファイルサイズ]

親展ボックスから文書を高圧縮して取り出す場合の、ファイル画質とファイルサイズを設定します。

[ボックス文書の保存期間]

親展ボックス内の文書の保存期間を設定します。自動的に削除する場合は、削除する日（経過日数）と時刻を設定できます。この設定は、すべての親展ボックスに共通の設定となります。

［ジョブ情報設定］

［ボックス文書の保存期間］

親展ボックス内の文書の保存期間を設定します。自動的に削除する場合は、削除する日（経過日数）と時刻を設定できます。この設定は、すべての親展ボックスに共通の設定となります。

［蓄積プリント文書の保存設定］

蓄積されているプリント文書（認証プリント、プライベートプリント、セキュリティープリント、サンプルプリントの文書）を保存期間が経過したときに削除するかどうかを設定します。

補足

- ［ボックス文書の設定に従う］を選ぶと、［ボックス文書の保存期間］の設定に従った動作になります。

［プリント文書一覧の初期表示］

蓄積プリント文書（認証プリント、セキュリティープリント、サンプルプリント、時刻指定プリント、プライベートプリントの文書）の一覧を［リスト表示］または［サムネール表示］に設定します。

［プリント時の確認画面表示］

蓄積プリント文書をプリントするときに、プリント後の文書削除に関する確認画面を表示するかどうかを設定します。［しない］に設定すると、プリント後に文書は自動的に削除されます。

［プレビューイメージの作成］

蓄積プリント文書（認証プリント、セキュリティープリント、サンプルプリント、時刻指定プリント、プライベートプリントの文書）の一覧を表示するときに、プレビューイメージを作成するかどうかを設定します。

補足

- プレビューイメージを作成するかしないかはプリンタードライバーから設定することもできます。プリンタードライバーと本体とで異なる設定が行われた場合は、プリンタードライバーの設定が優先されます。

［プレビューイメージの作成時間］

蓄積プリント文書のプレビューイメージの作成時間を制限するかどうかを設定します。［制限する］に設定すると、制限時間内で作成されたプレビューイメージだけが表示され、制限時間を超えたプレビューイメージは表示されません。

［蓄積時の暗証番号最小桁数］

セキュリティープリント文書や認証プリント文書を蓄積したり、プリントしたりするときに必要な暗証番号の最小桁数を設定します。

補足

- 最小桁数を指定しない場合や、暗証番号を入力しない場合は、［0］に設定します。

［全文書選択時のプリント順］

保存文書の全文書を選んだ場合のプリントの順番を設定できます。

［ジョブフロー設定］

ジョブフローとは、登録された一連の作業を実行する機能です。

[表示するジョブフローの初期値]

ホーム画面の［ジョブフロー］をタップしたときに表示される、所有者、起点の初期値を設定します。

■[所有者]

機械管理者と機械管理者以外のジョブフローを表示するかどうかを設定します。

補足

- 認証有りの場合、共有と個人のジョブフローを表示するかどうかを設定します。

■[起点]

スキャンのジョブフローを表示するかどうかを設定します。

[カラー文書ファクス転送時の解像度]

ジョブフローを使用して、カラー文書をファクス送信するときの解像度について設定します。

■[保存時のまま（画質優先）]

ファクス転送時に、読み取り解像度のままカラー文書を白黒文書に変換します。高解像度の文書ほど白黒への変換処理に時間がかかります。

■[200dpi に変換（速度優先）]

ファクス転送時に、カラー文書の解像度を 200 dpi の白黒文書に変換します。解像度 300 dpi 以上の文書は、白黒への変換時間を短縮できます。

200 dpi はファクスの［高画質］に相当する送信画質です。

[ジョブフローの自動実行]

ジョブフローを自動的に実行できるユーザーを設定します。

[ジョブフロー登録]

ジョブフローを新規に登録したり、内容を変更したりできます。

参照

- 詳しくは、「親展ボックスを起点とするジョブフローの作成」(P.221) を参照してください。

[USB 設定]

[スキャナー画面表示設定]

機能リストの［読み取り倍率］にあらかじめ用意されている倍率ボタンの設定を変更します。

倍率ボタンに割り当てる設定値は、［固定倍率ボタン］に登録した中から選びます。

参照

- ［固定倍率ボタン］の設定方法は、「[固定倍率ボタン]」(P.327) を参照してください。

[読み取りサイズボタン]

［読み取りサイズ］に表示する原稿サイズを設定します。

［自動検知］以外の各ボタンに、原稿サイズを割り当てられます。

定形外サイズの原稿を頻繁に読み取るときなど、あらかじめ定形外サイズを設定しておくと、読み取るたびに原稿サイズを入力する手間が省けます。

［出力サイズボタン］

［読み取り倍率］で、［自動 %］を選んでスキャンする場合に表示するサイズを設定します。

出力サイズボタンに、任意の出力サイズを割り当てることができます。

よく使うサイズを設定しておくと、スキャンのたびに設定する操作が省けます。

［固定倍率ボタン］

［読み取り倍率］で、［定型変倍 / ズーム］に表示する倍率を設定します。

［100%］以外の各ボタンに、任意の倍率を割り当てることができます。

［その他の設定］

USB 保存機能に関するそのほかの設定をします。

参照

- 表示される項目の詳細については、［スキャン送信設定］の「［その他の設定］」(P.305) を参照してください。

［外部アクセス設定］

外部アクセスの接続先を設定します。

外部アクセスとは、本機と連携した外部サービスを操作パネルに直接表示したり、本機でスキャンした文書を外部サービスにアップロードしたり、外部のサーバーに保存されている文書を選んで直接プリントしたりする機能です。コンピューターを経由せずに、ファイルのアップロードやプリントができます。

［接続先の登録］

外部アクセスの接続先を登録します。

補足

- 登録したいサーバーが複数ある場合は、登録先をホーム画面に表示されるボタンに割り付けると便利です。ホーム画面のボタンの表示方法は、「ホーム画面のカスタマイズ」(P.83) を参照してください。

［その他の設定］

■［認証情報送信時の確認画面］

本機でユーザー認証をしたときのユーザー情報（認証したユーザー ID、パスワード、メールアドレス、サービス制限など）を外部アクセスの接続先サーバーに送信するときに、確認画面を表示するかどうかを設定します。

補足

- ［表示しない］に設定しても、認証情報に不備があるときには確認画面が表示されます。

［Web ブラウザー設定］

外部アクセス時の Web ブラウザーに関する設定をします。外部アクセスとは、本機と連携した外部サービスを操作パネルに直接表示したり、本機でスキャンした文書を外部サービスにアップロードしたり、外部のサーバーに保存されている文書を選んで直接プリントしたりする機能です。コンピューターを経由せずに、ファイルのアップロードやプリントができます。

注記

- ［外部アクセスバージョンの選択］は、他機との連携サービス使用時に必要に応じて設定します。

[外部アクセスバージョンの選択]

外部アクセスバージョンを設定します。

補足

- Web ブラウザーバージョンの V3 を使用する場合は、[V4] に設定します。

[終了時の永続 Cookie 削除]

外部アクセス終了時に永続（期限付き）Cookie を削除するかどうかを設定します。

補足

- 本機が認証モードに設定されている場合は、この機能の設定に関わらず、ユーザーがログアウトするたびに永続 Cookie を削除します。

[終了時のキャッシュ削除]

外部アクセス終了時にキャッシュを削除するかどうかを設定します。

[キャッシュの使用]

キャッシュを利用するかどうかを設定します。

[Cookie の使用]

Cookie を使用するかどうかを設定します。

[SSL 証明書検証失敗時の動作]

SSL サーバー証明書の検証を失敗したときに、サーバーへのアクセスを中止するか、アクセス確認画面を表示するかを設定します。

[ファイルプリント機能の使用]

ファイルプリント機能を使用するかどうを設定します。ファイルプリント機能とは、外部 Web サーバーから取得した印刷可能なファイルを直接プリントできる機能です。

[機能コード]

他機との連携サービス使用時に必要に応じて設定します。

[リモートアシスタンス設定]

リモートアシスタンスに関する仕様を設定します。

[サービス起動待ち時間の上限]

サービス起動待ち時間の上限を、60 ～ 600 秒の範囲で 1 秒単位で指定します。

[ワンタッチボタン設定]

アドレス帳に登録されている宛先をワンタッチボタンに割り当てます。

補足

- 各ワンタッチ番号に割り当てることができる宛先は、1 つだけです。
- 割り当て済みの宛先を別の番号に割り当てると、当初の番号の割り当ては解除されます。
- [プリント] をタップすると、現在の割り当て設定のリストを出力できます。

［ネットワーク設定］

参照
- ネットワーク設定については、「本機をコンピューターに接続する」 (P.40)、「メール機能の設定」 (P.65) も参照してください。

［ポート設定］

クライアントに接続されている本機のインターフェイスの設定をします。

注記
- LPD、Port9100、HTTP-SSL/TLS 通信、SIP は、ほかのポートのポート番号と同じ番号を使用しないでください。

  HTTP を使用するポート (IPP、インターネットサービス (HTTP)、UPnP ディスカバリー、SOAP、WebDAV、Web Services on Devices（WSD)、BMLinkS）は、LPD、Port9100、HTTP-SSL/TLS 通信のポート番号と同じ番号を使用しないでください。
  また上記のどれも、次のポート番号を設定した場合、ポートの設定状況によっては正常に動作しなくなることがあります。
  25、139、427、445、631、15000
- Ethernet インターフェイス回線が 2 回線のとき、セカンダリーネットワークは LPD、Port9100、SNMP、インターネットサービス（HTTP)、Bonjour、IPP、ThinPrint、WSD、AirPrint、Mopria のみ通信できます。それ以外のポートは通信できません。

参照
- HTTP-SSL/TLS 通信ポートについては、「［HTTP - SSL/TLS 通信ポート番号］」 (P.349) を参照してください。

［USB］

■［USB- ポート］

USB を使用するときは［起動］に設定します。

■［USB- プリントモード指定］

使用するプリント言語の種類を設定します。［自動］に設定すると、ホスト装置から受信したデータが、どの言語で記述されているかを自動的に判断し、データに合わせて適切にプリント処理します。

■［USB-JCL］

JCL（Job Control Language）コマンドとは、実際のプリントジョブの先頭に付加されたデータです。通常は、［有効］のままで使用します。

■［USB- 自動排出時間］

本機にデータが送られなくなってから、用紙を自動的に排出するまでの時間を設定します。

◆［PS 印刷待ちタイムアウト］

本機ではデータを一定時間受信しないと、接続を自動的に切断します。［USB- Adobe 通信プロトコル］を［RAW］に設定して、データを印刷しているときに、接続を切断するまでの時間を［USB- 自動排出時間］に従う場合は［無効］、PostScript のタイムアウトに従う場合は［有効］に設定します。

■［USB - Adobe 通信プロトコル］

◆［標準］

プリンタードライバーの出力プロトコルが ASCII 形式のときに設定します。

◆ [バイナリー]

プリンタードライバーの出力プロトコルが BCP 形式のときに設定します。

◆ [TBCP]

プリンタードライバーの出力プロトコルが TBCP 形式のときに設定します。

◆ [RAW]

プリンタードライバーの出力プロトコルが ASCII 形式またはバイナリ形式のときに設定します。

Adobe® 通信プロトコルの制御を受けないで、データをそのまま出力します。

[LPD]

■ [LPD- ポート]

LPD を使用するときは［起動］に設定します。

■ [LPD- ポート番号]

LPD のポート番号を設定します。

注記
- ほかのポートのポート番号と同じ番号を使用しないでください。

■ [LPD- セッション数]

本機に LPD で同時に接続できるクライアントの最大数を設定します。

[SMB クライアント]

■ [SMB クライアント - ポート]

［スキャン送信］で SMB 転送する場合や SMB 認証を行う場合など、SMB を使用するときは［起動］に設定します。

[IPP]

■ [IPP- ポート]

IPP を使用するときは［起動］に設定します。

IPP（Internet Printing Protocol）を使って、インターネット経由でプリントするときに設定します。

■ [IPP- 追加ポート番号]

標準のポート番号以外で IPP を受け付けるかどうかを設定します。

注記
- ほかのポートのポート番号と、同じ番号を使用しないでください。ただし、HTTP を使用するポート（インターネットサービス（HTTP）、UPnP ディスカバリー、SOAP、WebDAV、Web Services on Devices（WSD）、BMLinkS）は、同じポート番号を共用できます。

補足
- ［IPP- ポート］が［停止］に設定されているときは、［IPP- 追加ポート番号］は設定できません。［IPP- ポート］を［起動］に設定し、ホームボタンを押して［はい（再起動する）］をタップして本機が再起動したあとに、［IPP- 追加ポート番号］を設定してください。

[Bonjour]

■ [Bonjour- ポート]

Bonjour を使用するときは［起動］に設定します。

補足
- Bonjour を使用して検出したプリンターでプリントするためには、LPD ポートを起動しておく必要があります。

［Port9100］

■［Port9100- ポート］

Port9100 を使用するときは［起動］に設定します。

Windows の標準 TCP/IP ポートモニターで Raw プロトコルを使用する場合に設定します。

■［Port9100- ポート番号］

Port9100 のポート番号を設定します。

注記
- ほかのポートのポート番号と同じ番号を使用しないでください。

［SNMP］

■［SNMP- ポート］

本機をネットワーク上で管理する弊社製アプリケーションを使用する場合など、SNMP を使用するときは［起動］に設定します。

［SIP］

■［SIP- ポート］

IP ファクス（SIP）を使用するときは［起動］に設定します。

■［SIP- ポート番号］

IP ファクス（SIP）に使用するポート番号を設定します。

注記
- ほかのポートのポート番号と同じ番号を設定しないでください。

補足
- IP ファクス（SIP）は、お使いの機種によっては利用できません。

［FTP クライアント］

■［FTP クライアント - ポート］

［スキャン送信］で FTP 転送する場合など、FTP を使用するときは［起動］に設定します。

補足
- スキャンした画像を FTP 通信で送信する際の通信モードを設定できます。設定を変更する場合は、CentreWare Internet Services を使用してください。

［メール受信］

■［メール受信 - ポート］

メールやインターネットファクスを受信するときは［起動］に設定します。

［メール送信］

■［メール送信 - ポート］

メールやインターネットファクスを送信するときは［起動］に設定します。

[メール通知サービス]

■[メール通知サービス - ポート]

メール通知サービスを使用するときは［起動］に設定します。メール通知サービスとは、本機の状態やプリントジョブ、ダイレクトファクスジョブの実行終了をメールで通知する機能です。

補足

- 通知される本機の状態は、［消耗品の状態］、［交換部品の状態］、［用紙の状態］、［排出先の状態］、［ジャム状態］、［インターロック状態］、［フォルトの通知］です。
- メール通知サービスの設定は CentreWare Internet Services で行います。詳しくは、CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。

[UPnP ディスカバリー]

■[UPnP ディスカバリー - ポート]

UPnP を使用するときは［起動］に設定します。

■[UPnP ディスカバリー - ポート番号]

UPnP の通信で使用するポート番号を設定します。

注記

- ほかのポートのポート番号と、同じ番号を使用しないでください。ただし、HTTP を使用するポート（IPP、インターネットサービス（HTTP）、UPnP ディスカバリー、SOAP、WebDAV、Web Services on Devices（WSD）、BMLinkS）は、同じポート番号を共用できます。

[WSD]

■[WSD プリント - ポート]

WSD プリントを使用するときは［起動］に設定します。

Windows OS からネットワーク内の機器を検索するときに設定します。

■[WSD スキャン - ポート]

WSD スキャンを使用するときは［起動］に設定します。

Windows OS からネットワーク内の機器を検索するときに設定します。

補足

- Windows Server の環境では、初期設定のままではスキャン機能を使用できません。
  詳しくは、Microsoft 社の公式サイトを参照してください。

■[WSD- ポート番号]

WSD の通信で使用するポート番号を設定します。

注記

- ほかのポートのポート番号と、同じ番号を使用しないでください。ただし、HTTP を使用するポート（IPP、インターネットサービス（HTTP）、UPnP ディスカバリー、SOAP、WebDAV、Web Services on Devices（WSD）、BMLinkS）は、同じポート番号を共用できます。

[BMLinkS]

■[BMLinkS - ポート]

BMLinkS を使用するときは［起動］に設定します。

■[プリントサービス - ポート番号]

プリントサービス用のポート番号を設定します。

注記
- ほかのポートのポート番号と、同じ番号を使用しないでください。ただし、HTTP を使用するポート（IPP インターネットサービス（HTTP）、UPnP ディスカバリー、SOAP、WebDAV、Web Services on Devices（WSD）、BMLinkS）は、同じポート番号を共用できます。

■［ディスカバリー - ポート番号］

ディスカバリー用のポート番号を設定します。

注記
- ほかのポートのポート番号と、同じ番号を使用しないでください。ただし、HTTP を使用するポート（IPP、インターネットサービス（HTTP）、UPnP ディスカバリー、SOAP、WebDAV、Web Services on Devices（WSD）、BMLinkS）は、同じポート番号を共用できます。

［インターネットサービス（HTTP）］

■［インターネットサービス - ポート］

CentreWare Internet Services を使用するときは［起動］に設定します。

参照
- 詳しくは、「CentreWare Internet Services を使う」(P.91) を参照してください。

■［インターネットサービス - ポート番号］

インターネットサービスで使用するポート番号を設定します。

注記
- ほかのポートのポート番号と、同じ番号を使用しないでください。ただし、HTTP を使用するポート（IPP、インターネットサービス（HTTP）、UPnP ディスカバリー、SOAP、WebDAV、Web Services on Devices（WSD）、BMLinkS）は、同じポート番号を共用できます。

補足
- ［インターネットサービス - ポート］が［停止］に設定されているときは、［インターネットサービス - ポート番号］は設定できません。［インターネットサービス - ポート］を［起動］に設定し、ホームボタンを押して［はい（再起動する）］をタップしてください。本機が再起動したあとに、［インターネットサービス - ポート番号］を設定してください。

［SOAP］

■［SOAP- ポート］

Device Setup（デバイス設定ツール）などのアプリケーションを使用する場合など、SOAP ポートを使用するときは［起動］に設定します。

■［SOAP- ポート番号］

SOAP で使用するポート番号を設定します。

注記
- ほかのポートのポート番号と、同じ番号を使用しないでください。ただし、HTTP を使用するポート（IPP、インターネットサービス（HTTP）、UPnP ディスカバリー、SOAP、WebDAV、Web Services on Devices（WSD）、BMLinkS）は、同じポート番号を共用できます。

［WebDAV］

■［WebDAV- ポート］

ネットワークスキャナーユーティリティ 3 などのアプリケーションを使用して本機の親展ボックスにアクセスする場合など、WebDAV を使用するときは［起動］に設定します。

注記
- WebDAV を使用するときは［SSL/TLS 設定］の［HTTP - SSL/TLS 通信］を有効にすることをお勧めします。パスワード漏えいの抑止に効果があります。

補足
- ［WebDAV- ポート］が［停止］に設定されているときは、［WebDAV- ポート番号］、［WebDAV- 操作の時間制限］は設定できません。［WebDAV- ポート］を［起動］に設定し、ホームボタンを押して［はい（再起動する）］をタップしてください。本機が再起動したあとに、［WebDAV- ポート番号］、［WebDAV- 操作の時間制限］を設定してください。

■［WebDAV - ポート番号］

WebDAV で使用するポート番号を設定します。

注記
- ほかのポートのポート番号と、同じ番号を使用しないでください。ただし、HTTP を使用するポート（IPP、インターネットサービス（HTTP）、UPnP ディスカバリー、SOAP、WebDAV、Web Services on Devices（WSD）、BMLinkS）は、同じポート番号を共用できます。

■［WebDAV - 操作の時間制限］

タイムアウトの時間を設定します。

［ThinPrint］

■［ThinPrint- ポート］

本機は、ThinPrint 環境での印刷に対応しています。サーバー（Windows Server）から圧縮して送られた印刷データを解凍して印刷します。

■［ThinPrint- ポート番号］

ThinPrint で使用するポート番号を設定します。

注記
- ほかのポートのポート番号と、同じ番号を使用しないでください。

補足
- 通信プロトコルが IPv4 で動作しているときに利用できます。
- 同時に接続できる最大接続数は、3 です。

［SFTP クライアント］

■［SFTP クライアント - ポート］

［スキャン送信］で SFTP 転送する場合など、SFTP を使用するときは［起動］に設定します。

［無線 LAN 設定］

無線 LAN 通信を行う際の基本設定をします。

参照
- 設定手順については、「無線キットの接続」(P.42) を参照してください。

［プロトコル設定］

通信に必要な条件を設定します。

［Ethernet 設定］

■［Ethernet1- ネットワークの名称］、［Ethernet2- ネットワークの名称］

Ethernet インターフェイスを 2 回線利用する場合に、それぞれの名称を設定します。

■［Ethernet- 速度設定］/［Ethernet1- 速度設定］、［Ethernet2- 速度設定］

Ethernet インターフェイスの通信速度を設定します。接続するネットワーク環境に合わせて、自動検知または固定の速度を選びます。

■［Energy Efficient Ethernet］

Ethernet インターフェイスの省電力機能を有効にするかどうかを設定します。

［TCP/IP - 共通設定］

■［プライマリーネットワーク］

複数のインターフェイスを使用している場合、プライマリーネットワークとして動作するネットワークの名称が表示されます。

補足
- プライマリーネットワークの設定は、CentreWare Internet Services で行います。詳しくは、CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。

■［IP 動作モード］

TCP/IP の動作モードを設定します。

補足
- 次世代ネットワーク（NGN）を利用する場合は、［IPv4 モード］または［デュアルスタック］に設定します。

［TCP/IP - ネットワーク設定］/［TCP/IP 設定（Ethernet1）］、［TCP/IP 設定（Ethernet2）］、［TCP/IP 設定（Wi-Fi）］

注記
- ［TCP/IP 設定（Ethernet1）］、［TCP/IP 設定（Ethernet2）］、［TCP/IP 設定（Wi-Fi）］に同じ IP アドレスを設定することはできません。同一 IP アドレスを設定したい場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
- セカンダリーネットワークで使用できるポートは、LPD、Port9100、SNMP、インターネットサービス（HTTP）、Bonjour、IPP、ThinPrint、WSD、AirPrint、Mopria です。ネットワークスキャナーユーティリティ 3 など、その他のポートを使用するアプリケーションでセカンダリーネットワークのインターフェイスを設定しても動作しないことがあります。

補足
- 本設定のタイトルはインターフェイスが 1 回線のとき［TCP/IP - ネットワーク設定］のみ表示されます。インターフェイスが複数のとき、使用しているインターフェイスにあわせて、［TCP/IP 設定（Ethernet1）］、［TCP/IP 設定（Ethernet2）］、［TCP/IP 設定（Wi-Fi）］が表示されます。
- ［TCP/IP 設定（Ethernet1）］、［TCP/IP 設定（Ethernet2）］、［TCP/IP 設定（Wi-Fi）］には［TCP/IP - ネットワーク設定］と同じ設定項目が表示されます。インターフェイスごとに独立した TCP/IP のネットワーク設定ができます。
- ［Ethernet1- ネットワークの名称］と［Ethernet2- ネットワークの名称］で任意の名称を設定した場合、［TCP/IP 設定（Ethernet1）］と［TCP/IP 設定（Ethernet2）］の「Ethernet1」と「Ethernet2」に設定した名称がそれぞれ表示されます。

■［IPv4 - IP アドレス取得方法］

IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイアドレスの取得方法を指定します。

補足
- 次世代ネットワーク（NGN）を利用する場合は、［DHCP/AutoIP から取得］または［DHCP から取得］に設定します。

■［IPv4 - IP アドレス］

［IPv4-IP アドレス取得方法］で［手動で設定］を選んだ場合に、IP アドレスを指定します。

■ [IPv4 - サブネットマスク]

[IPv4-IP アドレス取得方法] で [手動で設定] を選んだ場合に、サブネットマスクを指定します。

■ [IPv4 - ゲートウェイアドレス]

[IPv4-IP アドレス取得方法] で [手動で設定] を選んだ場合に、ゲートウェイアドレスを指定します。

■ [IPv4 - DNS 設定]

DNS サーバーを設定します。

◆ [DHCP からのアドレス取得]

DNS サーバーのアドレスを DHCP サーバーから自動的に取得するかどうかを設定します。

◆ [DNS サーバーアドレス 1] ～ [DNS サーバーアドレス 3]

[DHCP からのアドレス取得] のチェックマークを外したときは、DNS サーバーのアドレスを手動で設定します。DNS サーバーアドレス 2 と 3 には代替 DNS サーバー のアドレスを設定できます。

■ [IPv4 - 受付 IP アドレス制限]

本機への接続を IPv4 アドレスで制限するかどうかを設定します。

補足

- [IPv4- 受付 IP アドレス制限] は、TCP/IP を使用する全機能が対象となります。たとえば、プリント、スキャン（親展ボックススキャン）、CentreWare Internet Services、外部アクセスなどです。
- 接続を受け付ける IPv4 アドレスの登録は、CentreWare Internet Services の [受付 IP アドレス制限] で行います。設定方法は、CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。また、使用方法は、「CentreWare Internet Services を使う」(P.91) を参照してください。
- [受付 IP アドレス制限]を有効に設定して、本機からスキャン画像を FTP 転送する場合は、FTP の通信モードを必ず[Activeモード]に切り替えてください。FTP通信モードの切り替えは、CentreWare Internet Services で設定できます。

■ [IPv6 - アドレスの手動設定]

IPv6 アドレスを手動で設定するかどうかを設定します。

■ [IPv6 - 手動設定 IP アドレス]

[IPv6- アドレスの手動設定] にチェックマークを付けたときに、本体の IPv6 アドレスを設定します。

■ [IPv6 - 手動 IP アドレスプレフィクス]

[IPv6- 手動設定 IP アドレス] を設定した場合に、プレフィクス長を設定します。

■ [IPv6 - 手動設定ゲートウェイ]

[IPv6- 手動設定 IP アドレス] を設定した場合に、ゲートウェイアドレスを設定します。

■ [IPv6 - DNS 設定]

DNS サーバーを設定します。

◆ [DHCP からのアドレス取得]

DNS サーバーのアドレスを DHCP サーバーから自動的に取得するかどうかを設定します。

◆[DNS サーバーアドレス 1] ～ [DNS サーバーアドレス 3]

[DHCP からのアドレス取得] のチェックマークを外したときは、DNS サーバーのアドレスを手動で設定します。DNS サーバーアドレス 2 と 3 には代替 DNS サーバー のアドレスを設定できます。

■[IPv6 - 自動設定アドレス]

自動的に設定された IP アドレスを表示します。

補足
- 手動でIPアドレスを設定している場合、ステートレス自動設定で割り当て可能なアドレスは2つまでです。

■[IPv6 - 受付 IP アドレス制限]

本機への接続を IPv6 アドレスで制限するかどうかを設定します。

補足
- [IPv6- 受付 IP アドレス制限] は、TCP/IP を使用する全機能が対象となります。たとえば、プリント、スキャン（親展ボックススキャン）、CentreWare Internet Services、外部アクセスなどです。
- 接続を受け付ける IPv6 アドレスの登録は、CentreWare Internet Services の [受付 IP アドレス制限] で行います。設定方法は、CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。また、使用方法は、「CentreWare Internet Services を使う」(P.91) を参照してください。
- [受付 IP アドレス制限]を有効に設定して、本機からスキャン画像を FTP 転送する場合は、FTP の通信モードを必ず [Active モード] に切り替えてください。FTP の通信モードは、CentreWare Internet Services で設定できます。

[Ping 接続確認]

設定した条件で本機とお使いのコンピューターが正しく通信できるかを確認できます。

[ネットワークプロトコルレポート出力]

プライマリーインターフェイスのプロトコル設定をレポート出力します。

[本体メールアドレス / ホスト名]

[メールアドレス]

本機のメールアドレスを、128 文字以内で入力します。

■SMTP 受信の場合

アカウント（@ マークの左側）は、任意の名称を設定できます。アドレス部（@ マークの右側）には、ホスト名とドメイン名を組み合わせたものを設定します。エイリアスは設定できません。

たとえば、

- アカウント名：mymail
- ホスト名：myhost
- ドメイン名：example.com

の場合、メールアドレスは、mymail@myhost.example.com となります。

■ POP3 受信の場合

アカウント（@ マークの左側）には POP3 ユーザー名を、アドレス部（@ マークの右側）には受信用 POP3 メールサーバー名を設定します。mymail@example.com のようなエイリアスも設定できます。

たとえば、

- アカウント名：mymail

の場合、メールアドレスは、mymail@myhost.example.com となります。

[名前]

本機の名前を 32 文字以内で入力します。

[ホスト名]

ホスト名を半角 32 文字以内で入力します。

注記
- SMB で通信する場合、先頭から半角 15 文字までをホスト名として使用します。本機を正しく識別するためには、ホスト名を半角 15 文字以内で設定してください。

[ドメイン名]

ドメイン名を 64 文字以内で入力します。

[プロキシサーバー一覧]

外部アクセスを使用するときに設定してください。

注記
- プロキシ設定が必要なサービスを使う場合だけ、設定を変更してください。

[プロキシサーバー設定] / [プロキシサーバー設定 -Ethernet1]、[プロキシサーバー設定 -Ethernet2]、[プロキシサーバー設定 -Wi-Fi]

お使いのネットワーク環境に応じて、インターフェイスごとのプロキシサーバー設定ができます。

補足
- 本設定は SFTP サーバーとの接続にも適用されます。

■ [プロキシサーバーの使用]

プロキシサーバーを使用するかどうかを設定します。

■ [プロキシサーバー指定方法]

プロキシサーバーの指定方法を設定します。

■ [PAC ファイルの URL]

[プロキシサーバー指定方法] を [PAC ファイルを指定] に設定した場合に、URL を指定します。

■ [プロキシを使用しないアドレス]

プロキシサーバーを使用しないアドレスを設定します。IPv4 アドレス、IPv6 アドレスおよび FQDN 形式で指定できます。また、「*」（ワイルドカード）を使った指定もできます。

■［HTTP プロキシサーバー - サーバー名］

HTTP プロキシサーバーのサーバー名または IP アドレスを入力します。IPv4 アドレス、IPv6 アドレスおよび FQDN 形式で指定できます。

■［HTTP プロキシサーバー - ポート番号］

HTTP プロキシサーバーのポート番号を指定します。

注記
- ほかのポートのポート番号と同じ番号を使用しないでください。

■［HTTP プロキシサーバー - 認証］

HTTP プロキシサーバーに接続するときに認証が必要な場合は、［有効］に設定します。

■［HTTP プロキシサーバー - ログイン名］

HTTP プロキシサーバーのログイン名を入力します。

■［HTTP プロキシサーバー - パスワード］

HTTP プロキシサーバーのパスワードを入力します。

■［HTTPS プロキシサーバー - サーバー名］

HTTPS プロキシサーバーのサーバー名または IP アドレスを入力します。IPv4 アドレス、IPv6 アドレスおよび FQDN 形式で指定できます。

■［HTTPS プロキシサーバー - ポート番号］

HTTPS プロキシサーバーのポート番号を指定します。

注記
- ほかのポートのポート番号と同じ番号を使用しないでください。

■［HTTPS プロキシサーバー - 認証］

HTTPS プロキシサーバーに接続するときに認証が必要な場合は、［有効］に設定します。

■［HTTPS プロキシサーバー - ログイン名］

HTTPS プロキシサーバーのログイン名を入力します。

■［HTTPS プロキシサーバー - パスワード］

HTTPS プロキシサーバーのパスワードを入力します。

［EP プロキシサーバー設定］

インターネットを使用して EP システムを利用する場合の、EP 通信用のプロキシサーバーについて設定します。

注記
- インターネットを使用する EP システムの場合に、設定を変更してください。

参照
- 詳しくは、「EP システムについて」(P.572) を参照してください。

[プロキシサーバー指定方法]

プロキシサーバーの指定について設定します。[プロトコルごとに設定]に設定すると、HTTPS プロキシサーバーおよび HTTP プロキシサーバーをそれぞれ設定できます。

[すべてのプロトコルに同じ設定]に設定すると、HTTPS プロキシサーバーの設定が HTTP プロキシサーバーに反映されます。

[HTTPS プロキシサーバー - サーバー名]

HTTPS プロキシサーバーのサーバー名または IP アドレスを入力します。IPv4 アドレス、IPv6 アドレスおよび FQDN 形式で指定できます。

[HTTPS プロキシサーバー - ポート番号]

HTTPS プロキシサーバーのポート番号を、1 ～ 65535 の範囲で指定します。

注記
- ほかのポートのポート番号と同じ番号を使用しないでください。

[HTTPS プロキシサーバー - 認証]

HTTPS プロキシサーバーに接続するときに認証が必要な場合は、[有効]に設定します。

[HTTPS プロキシサーバー - ログイン名]

HTTPS プロキシサーバーのログイン名を入力します。

[HTTPS プロキシサーバー - パスワード]

HTTPS プロキシサーバーのパスワードを入力します。

[HTTP プロキシサーバー - サーバー名]

HTTP プロキシサーバーのサーバー名または IP アドレスを入力します。IPv4 アドレス、IPv6 アドレスおよび FQDN 形式で指定できます。

[HTTP プロキシサーバー - ポート番号]

HTTP プロキシサーバーのポート番号を指定します。

注記
- ほかのポートのポート番号と同じ番号を使用しないでください。

[HTTP プロキシサーバー - 認証]

HTTP プロキシサーバーに接続するときに認証が必要な場合は、[有効]に設定します。

[HTTP プロキシサーバー - ログイン名]

HTTP プロキシサーバーのログイン名を入力します。

[HTTP プロキシサーバー - パスワード]

HTTP プロキシサーバーのパスワードを入力します。

［次世代ネットワーク（NGN）設定］

［次世代ネットワーク（NGN）接続］

次世代ネットワーク（NGN）を利用するかどうかを設定します。

補足
- IP ファクス（SIP）が利用可能な状態で、TCP/IP の動作モードを［IPv4 モード］または［デュアルスタック］設定時に利用できます。

［発信者 ID 通知］

発信者 ID を通知するかどうかを設定します。

［発信者 ID］

発信者 ID として登録されている電話番号を確認できます。

［IP ファクス（SIP）最大使用帯域幅］

IP ファクスに使用する最大使用帯域幅を設定できます。

補足
- 最大使用帯域幅は、NTT のデータ通信向けの料金表を確認して、設定してください。

［ファクスによる自動再送信］

送信相手に IP ファクス（SIP）機能がなく、G3 ファクスが利用できる場合に、自動的に G3 で再送信するかどうかを設定します。

［SIP 設定］

IP ファクス（SIP）を使用するときの設定をします。

［SIP 本体アドレス］

本機の SIP 本体アドレスを設定します。

補足
- SIP サーバーを使用していない場合には、@ 以後に、本機の IP アドレスを指定してください。
- Cisco® 社製 SIP サーバーを使用する場合、本機に設定する［SIP 本体アドレス］では、@ 以降は SIP サーバーの IPv4 アドレス文字列だけが指定できます。

  IPv6アドレス文字列、FQDN文字列、およびSIPドメイン名文字列を指定した場合は、動作しません。
- 次世代ネットワーク（NGN）を利用する場合、SIP 本体アドレスは自動で取得され、変更できません。

［SIP トランスポートプロトコル設定］

SIP トランスポートプロトコルを設定します。

補足
- Cisco 社製 SIP サーバーを使用する場合、［UDP］を設定してください。

［SIP サーバーの使用］

SIP サーバーを使用するかどうかを設定します。

補足
- 次世代ネットワーク（NGN）を利用する場合は、チェックマークが付き、変更できません。

［SIP サーバーアドレス取得方法］

SIP プロキシサーバー、SIP レジストラーサーバーの IP アドレス取得方法を指定します。

補足

- [DHCP から取得]、[DHCPv6 から取得]の場合でも、SIP プロキシサーバー、SIP レジストラーサーバーのポート番号、認証ユーザー名、認証パスワード、種別は手動で設定する必要があります。
- [DHCP から取得]に設定して IP アドレスを自動取得する場合は、本機の TCP/IP 設定で、[IPv4-IP アドレス取得方法] を［DHCP から取得］または［DHCP/AutoIP から取得］に設定してください。
- IP アドレスを自動取得した場合は、プロキシサーバーとレジストラーサーバーの両方に、自動取得した同じ IP アドレスが設定されます。プロキシサーバーとレジストラーサーバーで異なるアドレスを使用する場合は、手動で設定してください。

  複数のアドレスを自動取得した場合は、1 番めのアドレスをプライマリーのプロキシ / レジストラーサーバーに、2 番めのアドレスをセカンダリーのプロキシ / レジストラーサーバーにそれぞれ設定します。3 番め以降のアドレスは使用されません。
- IP アドレスを自動取得した場合でも、ポート番号、認証ユーザー名、認証パスワード、サーバー種別は自動取得できません。これらの項目は手動で設定してください。
- 次世代ネットワーク（NGN）を利用する場合は、［DHCP から取得］に設定してください。

[SIP プロキシサーバー設定]

SIP プロキシサーバーを設定します。プライマリーサーバーとセカンダリーサーバーが設定できます。

補足

- 利用できる SIP プロキシサーバーは 2 台までです。

[SIP レジストラサーバー設定]

SIP レジストラーサーバーを設定します。プライマリーサーバーとセカンダリーサーバーが設定できます。

補足

- 利用できる SIP レジストラーサーバーは 2 台までです。

[VoIP ゲートウェイ登録]

VoIP ゲートウェイ 1 ～ 50 を設定します。

相手先の電話番号によって、別々の VoIP ゲートウェイが設定できます。

補足

- 固定の VoIP ゲートウェイを使用したい場合には、VoIP ゲートウェイ 1 に、識別番号を登録しないで、アドレスだけを設定してください。
- IPv6 ネットワークでは、使用できません。

■ [識別番号]

相手先の電話番号を特定する数字を設定します。

たとえば「03」と設定した場合、0312345678、0312345679 など「03」で始まる電話番号には、この VoIP ゲートウェイが使用されます。

補足

- 特定の電話番号を指定する場合には、「0312345678」などの電話番号全体を設定してください。

■ [アドレス]

VoIP ゲートウェイの IP アドレスを入力します。IPv4 アドレス、IPv6 アドレスおよび FQDN 形式で指定できます。

[T.38 設定]

IP ファクス（SIP）を使用するときの、T.38 について設定します。通常、この設定を変更する必要はありません。

［メール送受信設定］

［POP3 サーバー設定］

■［POP3 サーバー - サーバー名 / アドレス］

POP3 サーバーのサーバー名または IP アドレスを入力します。

■［POP3 サーバー - ポート番号］

POP3 サーバーのポート番号を設定します。

■［POP3 サーバー - 受信間隔］

POP3 サーバーへのメールの確認間隔を設定します。

■［POP3 サーバー - ログイン名］

POP3 サーバーにログインするための名前を入力します。

■［POP3 サーバー - パスワード］

POP 受信用のパスワードを設定します。

■［POP 受信パスワードの暗号化］

パスワードを暗号化するかどうかを設定します。

［SMTP サーバー設定］

［接続確認］をタップし、本機から指定したメールアドレスにテストメールを送信することで、本機と SMTP サーバーとの接続状況を確認できます。また、［接続確認］＞［SMTP 通信レポート出力］を選ぶと、本機が送信 / 受信した SMTP 通信のプロトコルの内容を表すレポートが出力されます。

■［SMTP サーバー - サーバー名 / アドレス］

SMTP サーバーのサーバー名または IP アドレスを入力します。

■［SMTP サーバー - ポート番号］

SMTP サーバーのポート番号を設定します。

■［送信時の認証方式］

SMTP 送信時の認証方法を設定します。

補足

- 認証方式は、AUTH GSSAPI (Kerberos 指定時のみ)、AUTH NTLMv2、AUTH NTLMv1、AUTH PLAIN、AUTH LOGIN、AUTH CRAM-MD5 に対応しています。

■［送信時の認証ユーザー］

送信時の認証ユーザーを設定します。

［外部認証のユーザー］に設定した場合、ジョブの実行前に本機で外部認証していれば、外部認証のユーザー名 / パスワードで SMTP サーバーに認証します。また、認証に失敗した場合の動作を選ぶことができます。外部認証を利用しない場合は、本体設定のユーザー名 / パスワードが使用されます。

■［SMTP AUTH - ログイン名］

SMTP サーバーのログイン名を設定します。

■ [SMTP AUTH - パスワード]

SMTP サーバーの認証用パスワードを設定します。

[外部認証サーバー / ディレクトリサービス設定]

[認証システムの設定]

■ [認証システム]

認証するためのシステムを選びます。

補足

- 外部認証サーバーに、ApeosWare Management Suite 2（別売）を使用する場合は、[Authentication Agent] を選んでください。
- Azure Active Directory の設定は、CentreWare Internet Services で行います。各項目については、CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。
- 以下の場合は、変更前の認証システムで運用されていた個人ボックスや個人ジョブフローは自動的に削除されます。
  - [Azure Active Directory] からその他の認証システムに変更したとき
  - その他の認証システムから [Azure Active Directory] に変更したとき
  - [Azure Active Directory] で、[外部認証情報の本体保存] を [しない] に変更したとき
  - [Azure Active Directory] で、ディレクトリ ID を変更したとき

■ [認証応答待ち時間の上限]

認証の応答の待ち時間の上限を設定します。

■ [ユーザー情報検索時間の上限]

ユーザー情報の検索の待ち時間の上限を設定します。

[Kerberos サーバー設定]

■ [Kerberos サーバー 1（標準）] ～ [Kerberos サーバー 5]

Kerberos サーバー 1 ～ 5 それぞれに、次の設定をします。

Kerberos サーバー 1 に設定した内容が、認証時の初期値として使用されます。

◆ [プライマリーサーバー - 名前 / アドレス]

プライマリーサーバーのサーバー名または IP アドレスを指定します。

◆ [プライマリーサーバー - ポート番号]

プライマリーサーバーのポート番号を指定します。

注記

- ほかのポートのポート番号と同じ番号を使用しないでください。

◆ [セカンダリーサーバー - 名前 / アドレス]

セカンダリーサーバーのサーバー名または IP アドレスを指定します。

◆ [セカンダリーサーバー - ポート番号]

セカンダリーサーバーのポート番号を指定します。

注記

- ほかのポートのポート番号と同じ番号を使用しないでください。

◆［認証先（レルム名）］

サーバーとして、Windows Server のアクティブディレクトリーを使用する場合は、アクティブディレクトリーのドメイン名を認証先に指定します。

注記
- 認証先名は、必ず大文字で設定してください。小文字で設定すると認証エラーになります。

■［サーバー証明書の検証］

サーバー証明書を検証するかどうかを設定します。

［LDAP サーバー / ディレクトリサービス設定］

LDAP 認証および LDAP によるアドレス帳検索を行うための、ディレクトリーサーバーや認証方式、検索のための属性や範囲などについて設定します。

［接続確認］をタップすることで、サーバーとの接続を確認できます。

［接続確認］＞［LDAP 通信レポート出力］を選ぶと、本機が送信 / 受信した LDAP 通信のプロトコルの内容を表すレポートが出力されます。

■［プライマリーサーバー - 名前 / アドレス］

プライマリーサーバーのサーバー名または IP アドレスを指定します。

■［プライマリーサーバー - ポート番号］

プライマリーサーバーのポート番号を指定します。

注記
- ほかのポートのポート番号と同じ番号を使用しないでください。

■［セカンダリーサーバー - 名前 / アドレス］

セカンダリーサーバーのサーバー名または IP アドレスを指定します。

■［セカンダリーサーバー - ポート番号］

セカンダリーサーバーのポート番号を指定します。

注記
- ほかのポートのポート番号と同じ番号を使用しないでください。

■［認証方式］

◆［直接認証］

入力したユーザー ID とパスワードで、LDAP サーバーに認証します。

◆［ユーザー属性認証］

入力したユーザー ID は、［入力ユーザー名の属性］に設定された属性の値として、LDAP サーバーで検索するために使用されます。見つかったユーザーの、［認証用ユーザー名の属性］に設定された属性の値は、ジョブのユーザー ID、およびジョブフローや親展ボックスの所有者として使用されます。

■［入力ユーザー名の属性］

LDAP 認証の認証方式が［ユーザー属性認証］の場合に、入力されたユーザー ID のユーザー名の属性を設定します。

操作パネルからユーザー名として入力する値に対応して、LDAP サーバーに登録されている UserAttribute 情報の属性を設定します。たとえば、メールアドレスを入力させる場合は「mail」を設定します。

■[認証用ユーザー名の属性]

LDAP サーバーに登録されている UserAttribute 情報の中から実際に認証に使用する属性を入力します。

■[ユーザー名追加文字列の使用]

操作パネルから認証情報を入力するときに、[ユーザー名の追加文字列]で入力した情報を自動で付加するかどうかを設定します。

■[ユーザー名の追加文字列]

ユーザー名追加文字列を使用する場合の、追加する文字列を設定します。

[ユーザー名追加文字列の使用]で[使用する]を設定した場合にその固定文字列を入力します。

例)

[入力ユーザー名の属性]に「mail」を設定し、その対象ユーザーの登録情報が「mail@myhost.example.com」だった場合、通常は「mail@myhost.example.com」と入力する必要があります。

[ユーザー名追加文字列の使用]を[使用する]に設定し、[ユーザー名の追加文字列]で「@myhost.example.com」と指定すれば、操作パネルから入力するデータは「mail」だけで後ろの「@myhost.example.com」は本機が付加するので、入力の手間を簡略化できます。

■[IC カード認証に使用する属性]

IC カードを使用して LDAP 認証する場合に、カード ID の検索属性を設定します。

■[ネットワーク用ユーザー ID 属性]

IC カードを使用して LDAP 認証する場合に、IC カードのカード ID で検索するユーザー名の属性を設定します。取得したユーザー名は、外部サービスに通知する認証情報として使用されます。

■[検索用の認証ユーザー]

検索のときに使用するユーザーを設定します。

■[検索用ログイン名]

アドレス帳検索および[ユーザー属性認証]方式の LDAP 認証で、ディレクトリーサーバーにアクセスするときのユーザー名を設定します。ディレクトリーサービス認証が必要なときだけ設定してください。

■[検索用パスワード]

[検索用ログイン名]で指定したユーザーのログインパスワードを設定します。

■[検索起点エントリー(DN)]

検索の起点となる文字列を入力できます。

■[起点からの検索範囲]

起点からの検索範囲を設定します。

■[検索対象のオブジェクトクラス]

検索のためのオブジェクトクラスを入力できます。

■［リフェラルの使用］

接続した LDAP サーバーから、別の LDAP サーバーへの接続を指示された場合に、指示されたサーバーに再接続するかどうかを設定します。

■［リフェラルのホップ数上限］

リフェラル機能を使用する場合に、接続するサーバーの切り替えを何回まで許可するかを設定します。

■［サーバーのソフトウェア］

ディレクトリーサーバーで使用されるソフトウェアを設定します。

■［名前の検索条件 - 宛先名］

名前を検索キーとして検索する場合に、宛先名の属性型を検索条件として使用するかどうかを設定します。

■［名前の検索条件 - 姓］

名前を検索キーとして検索する場合に、姓の属性型を検索条件として使用するかどうかを設定します。

■［名前の検索条件 - 名］

名前を検索キーとして検索する場合に、名の属性型を検索条件として使用するかどうかを設定します。

■［宛先名の属性型］

宛先名の属性型を設定します。使用する LDAP サーバーに登録されているユーザー情報の項目の中で、宛先名として使用するフィールドの属性名を入力できます。Windows の場合は、宛先名として使用する属性名に「cn」を入力します。

■［姓の属性型］

送信先の姓の属性型を設定します。

■［名の属性型］

送信先の名の属性型を設定します。

■［メールアドレスの属性型］

メールアドレスの属性型を設定します。使用する LDAP サーバーに登録されているユーザー情報の項目の中で、メール情報として使用するフィールドの属性名を設定します。Windows の場合は、メール情報として使用する属性名に「mail」を入力します。

■［ファクス番号の属性型］

ファクス番号の属性型を設定します。

■［IP ファクス（SIP）番号の属性型］

使用する LDAP サーバーに登録されているユーザー情報の中で、IP ファクス（SIP）番号の情報として使用するフィールドの属性名を設定します。

■［インターネットファクスアドレスの属性型］

インターネットファクスアドレスの属性型を設定します。

■[補助項目 1 の属性型] ～ [補助項目 3 の属性型]

補助項目 1 ～ 3 の LDAP 属性型を設定します。[宛先名の属性型] または [メールアドレスの属性型] 以外に、検索の対象の LDAP サーバーに登録されたユーザー属性を任意で指定できます。

■[補助項目 1 の属性名] ～ [補助項目 3 の属性名]

補助項目 1 ～ 3 に割り当てる属性名を設定します。

■[証明書の属性型]

証明書の属性型を設定します。使用する LDAP サーバーに登録されているユーザー情報の項目の中で、証明書として使用するフィールドの属性名を入力できます。

Windows の場合は、証明書の情報として利用する属性名に「userCertificate;binary」を入力します。この情報は、ディレクトリサービスを使って宛先を選択し、メール送信で S/MIME の暗号化を行う場合に、S/MIME の証明書として使用します。

補足

- この機能を使って暗号化通信を行う場合は、本機に使用する証明書のパスに登録されている、信頼されたルート証明機関、中間証明機関すべての登録が必要です。

■[検索結果の最大表示数]

検索条件に合ったアドレスを表示する件数を設定します。検索結果が上限数を超えた場合は、それ以上の検索処理は中断します。

■[検索時間の上限]

検索のタイムアウト時間を設定するかどうかを設定します。

[SMB サーバー設定]

外部認証サーバーとして SMB サーバーを利用するときに設定します。

■[SMB サーバー指定方法]

サーバーの指定方法を、[ドメイン名で指定]、[ドメイン名とサーバー名 / アドレス] から設定できます。

ここで設定した指定方法に合わせて、SMB サーバー 1 ～ 5 それぞれに、次の設定をします。

SMB サーバー 1 に設定した内容が、認証時の初期値として使用されます。

■[SMB サーバー 1（標準)] ～ [SMB サーバー 5]

◆[サーバー - ドメイン名]

サーバーのドメイン名を設定できます。

[SMB サーバー指定方法] で設定している SMB サーバーの指定方法にかかわらず、ドメイン名の設定は必須です。

注記

- ドメイン名は NetBIOS ドメイン名、またはアクティブディレクトリーのドメイン名を指定してください。

◆[サーバー - サーバー名 / アドレス]

サーバーのサーバー名または IP アドレスを指定します。

注記

- サーバー名はNetBIOSコンピューター名、またはDNSサフィックス付きのフルコンピューター名を指定してください。

［セキュリティ設定］

［SSL/TLS 設定］

サーバーやクライアント PC と本機との通信を暗号化するときに設定します。SSL/TLS を設定するとネットワーク上で不正アクセスをしようとしても、経路が暗号化されているため、情報の漏えいやデータの改ざんを抑止できます。

■［本体の証明書 - サーバー］

SSL/TLS 通信するための、サーバー証明書を設定します。

■［HTTP - SSL/TLS 通信］

SSL/TLS 通信のみを使用可能にするかどうかを設定します。

注記

- ［HTTPS のみ使用可能］に設定すると、［UPnP ディスカバリー］、［WSD］、および［BMLinkS］の各ポートは停止されます。

■［HTTP - SSL/TLS 通信ポート番号］

SSL/TLS 通信のポート番号を指定します。

注記

- ほかのポートのポート番号と同じ番号を使用しないでください。

■［LDAP - SSL/TLS 通信］

認証や検索などのアクセスに SSL/TLS 通信するかどうかを設定します。

SSL 通信を有効にした場合には、［LDAP サーバー / ディレクトリサービス設定］の［プライマリーサーバー - ポート番号］と［セカンダリーサーバー - ポート番号］を変更する必要があります。LDAP のディレクトリーサーバーの SSL 通信のポート番号は、通常、636 になります。

■［SMTP-SSL/TLS 通信］

SSL/TLS 通信について設定します。

補足

- インターネットファクスダイレクト（P2P）には、対応していません。

◆［無効］

SSL/TLS 通信しません。

◆［STARTTLS 接続（利用可能時）］

証明書を検証して、SSL/TLS 通信します。検証できない場合は、SSL/TLS 通信しません。

◆［STARTTLS 接続］

証明書を検証して、SSL/TLS 通信します。検証できない場合は、通信できません。

◆［SSL/TLS 接続］

SSL/TLS 通信します。

■［ThinPrint-SSL/TLS 通信］

SSL/TLS 通信を有効にするかどうかを設定します。

■［本体の証明書 - クライアント］

SSL/TLS 通信するための、クライアント証明書を設定します。

■[相手サーバーの証明書の検証]

本機を SSL クライアントとして動作させるときに、相手サーバーの証明書を検証するかどうかを設定します。

[S/MIME 設定]

メールやインターネットファクスを暗号化または署名機能を利用して送受信するときに設定します。

■[本体の証明書 - S/MIME]

S/MIME 通信で使用する証明書を設定します。

参照

• 詳しくは、「暗号化と署名機能の設定」(P.371) を参照してください。

■[S/MIME 通信]

S/MIME 通信を有効にするかどうかを設定します。

■[信頼できないメール]

[受信しない] に設定すると、次のメールは受信できません。

- [S/MIME 通信] を有効にした場合の S/MIME 以外のメール
- 署名 / 検証に失敗したメール
- 期限切れの証明書が添付されたメール

■[信頼できないインターネットファクス]

[受信しない] に設定すると、次のインターネットファクスは受信できません。

- [S/MIME 通信] を有効にした場合の S/MIME 以外のインターネットファクス
- 署名 / 検証に失敗したインターネットファクス
- 期限切れの証明書が添付されたインターネットファクス

■[メッセージダイジェスト方式]

メールをメッセージダイジェストと呼ばれるハッシュ値に変換するときに使われる暗号方式を設定します。

補足

- 証明書の公開鍵が RSA 512 ビットの場合、[SHA512] に設定すると不完全なメールが送信されることがあります。

■[本文の暗号化方式]

本文の暗号化方式を設定します。

■[暗号化メール分割送信]

暗号化メールを送信先ごとに分割送信するかどうかを設定します。

■[暗号化インターネットファクス分割送信]

暗号化したインターネットファクスを送信先ごとに分割送信するかどうかを設定します。

■[署名 - メール送信]

メールを送信するときに、常にデジタル署名をするかどうか、または送信するときに選ぶかを設定できます。

■［署名用証明書（メール）］

メール送信の［デジタル署名］で使用する証明書を指定します。

■［署名 - インターネットファクス送信］

本機からインターネットファクスを送信するときに、常にデジタル署名をするかどうか、または送信するときに選ぶかを設定できます。

■［証明書の自動取得］

アドレス帳に登録されているメールアドレスから S/MIME 用証明書が添付されたメールを受信したときに、自動的に証明書を保存するかどうかを設定します。

［PDF/DocuWorks の署名設定］

■［本体の証明書］

署名に使用する証明書を設定します。

参照

• 詳しくは、「暗号化と署名機能の設定」(P.371) を参照してください。

■［PDF 署名］

PDF 文書に署名するかどうかを設定します。

■［PDF 署名ハッシュアルゴリズム］

PDF 署名をする際のハッシュアルゴリズムを設定します。

■［DocuWorks 署名］

DocuWorks 文書に署名するかどうかを設定します。

■［DocuWorks 署名ハッシュアルゴリズム］

DocuWorks 署名をする際のハッシュアルゴリズムを設定します。

■［署名用証明書］

スキャナーの PDF/DocuWorks 署名で使用する証明書を設定します。

［IPsec 設定］

■［IPsec 設定］

ネットワークをパケット単位で暗号化して安全に通信するように設定します。

補足

- セカンダリーイーサネットキット（オプション）または無線キット（オプション）を取り付けている場合、この項目は 1 回線にのみ指定できます。
- ［IKE 認証方式］、［事前共有鍵］、［DH グループ］、［PFS 設定］についてはネットワーク管理者に確認してください。

• ［IKE 認証方式］

IKE 認証方式を設定します。

• ［事前共有鍵］

事前共有鍵を入力します。

［IKE 認証方式］が［事前共有鍵による認証］の場合に設定します。

- ［本体の証明書］

  IPsec 通信で使用する証明書を設定します。

  ［IKE 認証方式］が［デジタル署名による認証］の場合に設定します。

  ここでは、CentreWare Internet Services で作成した自己証明書は使用できません。

参照
- 詳しくは、「証明書の種類」(P.372) を参照してください。

- ［IPsec 通信］

  IPSec 通信を有効にするかどうかを設定します。

- ［IKE SA のライフタイム］

  IKE SA の有効期間を設定します。

補足
- ［IPsec SA のライフタイム］より長くなるように設定してください。

- ［IPsec SA のライフタイム］

  IPsec SA の有効期間を設定します。

補足
- ［IKE SA のライフタイム］より短くなるように設定してください。

- ［DH グループ］

  DH グループを設定します。

- ［PFS 設定］

  PFS を有効にするかどうかを設定します。

- ［相手アドレス - IPv4］

  通信を許可する相手先の IPv4 アドレスまたは範囲を設定します。

- ［相手アドレス - IPv6］

  通信を許可する相手先の IPv6 アドレスまたは範囲を設定します。

- ［非 IPsec 通信］

  相手アドレスで設定した以外のアドレスの、IPsec に対応していない機器に対して、通信をするかどうかを設定します。

［IEEE802.1x 設定］

■［IEEE 802.1x 設定］/［IEEE 802.1x 設定（Ethernet1）］、［IEEE 802.1x 設定 (Ethernet2)］

- ［IEEE 802.1x 認証の使用］

  IEEE 802.1x 認証を使用するかどうかを設定します。

- ［認証方式］

  IEEE 802.1x の認証方式を設定します。

- ［認証ユーザー名］

  認証ユーザー名を 128 文字以内で入力します。

- ［認証パスワード］

  認証パスワードを 1 ～ 128 バイト以内で入力します。

- ［サーバー証明書の検証］

  ［認証方式］が［PEAP/MS-CHAPv2］の場合に、サーバー証明書を検証するかどうかを設定します。

［証明書失効確認の設定］

証明書失効確認の設定をします。

■［証明書検証レベル］

証明書の検証レベルを設定します。

［低］の場合、証明書の失効確認を行いません。

［中］の場合、証明書の失効確認まで行います。ネットワークエラーなどで失効確認できなかったときも有効な証明書として扱います。

［高］の場合、失効していないと確認された証明書だけを有効な証明書として扱います。

■［証明書失効確認方式］

証明書失効確認の方式を設定します。

本機が検証局から失効リスト（CRL）を取得して照合する場合は、［失効リスト（CRL）を取得する］に設定します。証明書の有効性を確認できる OCSP（Online Certificate Status Protocol）を使って認証局や検証局に問い合わせて確認する場合は、［OCSP で問い合わせる］に設定します。

■［失効リスト（CRL）の自動取得］

失効リスト（CRL）を自動取得するかどうかを設定します。

■［失効リスト（CRL）取得時間上限］

失効リスト（CRL）を取得する時間の上限を設定します。

■［OCSP レスポンダ指定方法］

OCSP レスポンダーの指定方法を指定します。

［証明書に記載の URL を使用］、［本体で設定した URL を使用］から設定できます。

■［OCSP レスポンダ］

［OCSP レスポンダ指定方法］で［本体で設定した URL を使用］を選んだ場合は、問い合わせ先の URL を設定します。

■［OCSP 通信時間上限］

OCSP レスポンダーとの通信時間の上限を設定します。

［その他の設定］

■［FIPS140 認定モード］

FIPS140（Federal Information Processing Standard 140）とは、暗号モジュールに関するセキュリティー要件の仕様を規定する米国連邦標準規格です。

FIPS140-2 認定モードを［有効］に設定することによって、セキュリティーをより強化できます。

補足

- 以下の機能はFIPS140認定されていない暗号アルゴリズムで動作します。FIPS140に対応した環境での運用をおすすめします。

  - SMB 認証
  - SMTP 認証
  - HTTP 認証
  - SMB 転送
  - ボックス保存
  - DocuWorks ダイレクトプリント
  - LDAP 認証
  - Kerberos 認証
  - 802.1x 認証
  - メール送信 *1
  - PDF ダイレクトプリント

  *1: S/MIME、SMTP AUTH を使用した場合に該当します。

■[蓄積文書のネットワーク分離]

親展ボックスでの文書の蓄積や取り出しに使用するネットワークを限定するかどうかを設定します。

[その他の設定]

ネットワークに関するそのほかの設定をします。

[メール受信プロトコル]

使用環境に合わせて設定します。

[認証ユーザー名へのドメイン付加]

ユーザー名にドメイン名を付加するかどうかを設定します。

[メールプリントの排出先]

メール受信プリントの排出先を設定します。[自動] に設定すると、排出先の初期設定値に設定されている排出先が自動的に選択されます。

[送受信ドメインの制限]

メール、インターネットファクス、IP ファクス（SIP）の送受信を許可または禁止するドメインを設定します。

■[制限方法]

[送受信許可ドメインの指定] に設定すると、送受信を許可するドメインを指定できます。[送受信拒否ドメインの指定] に設定すると、送受信を禁止するドメインを指定できます。

■[ドメイン 1] ～ [ドメイン 50]

[制限方法] を [送受信許可ドメインの指定] または [送受信拒否ドメインの指定] に設定した場合に、送受信ドメイン名を指定できます。

[USB ポート ID 固定機能]

USB インターフェースで通知する ID としてシリアル番号を使用するか固定値を使用するかを設定します。

[認証 / 集計管理]

[ユーザー情報の設定]

[パスワード変更]

認証ユーザーが自分のパスワードを変更できます。

参照
- 変更方法については、「パスワードの変更」(P.418) を参照してください。

[集計管理]

本機を利用するユーザーの登録や集計管理機能の運用設定ができます。

参照
- 機能については、「認証と集計管理機能について」(P.387) を参照してください。

[ユーザー登録 / 集計確認]

集計管理を有効にする場合、登録したユーザーの認証を行うために、ユーザー ID、およびユーザー名を登録します。

本機を利用するユーザーごとに、使用枚数の上限を設定できます。また、登録したユーザーごとの累積ページの確認などができます。

[認証・セキュリティ設定] の [認証の設定] の [ユーザー登録 / 集計確認] と同じ内容です。

注記
- ユーザー登録は、「[集計管理機能の運用]」(P.356) で、使用する集計管理モードを設定してから、行ってください。

補足
- この項目は、「[集計管理機能の運用]」(P.356) を [ネット集計管理] に設定しているときは表示されません。

参照
- 詳しくは、「ユーザーを登録する（本体認証）」(P.401) を参照してください。

[登録内容の削除 / 集計リセット]

全登録ユーザーに対して、一括で登録内容を削除したり、集計データをリセットしたりできます。削除 / リセットする前に、レポートを出力して、削除 / リセットされる内容を事前に確認することもできます。

[認証・セキュリティ設定] の [認証の設定] の [登録内容の削除 / 集計リセット] と同じ内容です。

補足
- この項目は、「[集計管理機能の運用]」(P.356) を [ネット集計管理] に設定しているときは表示されません。

■ [全ユーザーの登録内容]

ユーザーごとに登録している設定内容をすべて削除します。また、上限ページ数、累積ページ数、プリンター集計データなどのデータもすべて削除します。

注記
- ユーザーがオーナーになっているジョブフロー、親展ボックス、親展ボックス内の文書、およびプライベートプリントジョブも削除されます。ユーザーがオーナーになっている対象が多い場合（大量の文書が親展ボックス内に残っている場合など）は、削除にかなり時間がかかります。

■[全ユーザーの機能制限]

全ユーザーの機能制限をすべて削除します。

■[全ユーザーの上限ページ数]

全ユーザーの上限ページ数を初期値にリセットします。

■[全ユーザーの集計管理データ]

機械管理者を含む、全ユーザーのすべての集計管理データをリセットします。ページ数も、「0」にリセットされます。

■[全ユーザーの権限グループ]

全ユーザーのすべての権限グループをリセットします。

■[プリンター集計データ]

すべてのプリンター集計データをリセットし、自動登録されたジョブオーナー名を削除します。プリントした集計枚数も、「0」にリセットされます。

補足

- [プリンター集計データ] は、プリンターを集計しない設定の場合に表示されます。

■[全機能の集計管理レポート]

全機能の集計データのレポートをプリントできます。削除 / リセットする内容を、事前に確認する場合に使用します。

■[プリンター集計レポート]

プリントの集計データのレポートをプリントできます。削除 / リセットする内容を、事前に確認する場合に使用します。

補足

- [プリンター集計レポート] は、プリンターを集計しない設定の場合に表示されます。

■[削除 / リセット]

選んだ項目のデータを削除 / リセットします。

[機械管理者のコピー集計確認]

機械管理者モードから使用したコピーの累積ページ数を、画面で確認 / リセットできます。

補足

- この項目は、「[集計管理機能の運用]」(P.356) を [ネット集計管理] に設定しているときは表示されません。
- DocuLyzer（別売）接続時は、機械管理者で認証してもカードを挿入しないとコピーできません。そのため、機械管理者の累積ページ数としてはカウントされず、挿入したカード番号にカウントされます。詳しくは、DocuLyzer のマニュアルを参照してください。

[集計管理機能の運用]

集計管理機能を使用するかどうかを設定します。

■[運用しない]

本機で操作するときに、集計管理は行いません。

■[本体集計管理]

集計管理します。

■[ネット集計管理]

外部サービスで管理されているユーザー情報を使用して集計管理します。ユーザー情報は、外部サービスから登録します。

補足

- [ネット集計管理] に設定すると、集計が必要なサービスを利用しようとしたときに表示される認証画面で、「Account ID」を入力できるようになります。

参照

- 詳しくは、「集計管理モードの種類」(P.390) を参照してください。

■[各機能の集計]

サービスごとに集計管理機能を使用するかどうかを設定します。設定できるサービスは次のとおりです。

- [コピー]
- [ファクス / インターネットファクス]
- [ボックス保存]
- [メール送信]
- [PC 保存]
- [USB 保存]
- [URL 送信]
- [WSD スキャン]
- [Client Scan]
- [文書プリント]
- [プリンター]

補足

- 表示される項目は、搭載しているサービスによって異なります。
- [Client Scan] とは、AirPrint などを使ったコンピューターから操作するスキャンのことです。
- サービスを [集計する] に設定すると、ホーム画面の該当するサービスに が表示されます。認証すると表示は消えます。
- 「[受信制御]」(P.364) の設定によっては、ジョブが中止されることがあります。

■[入力情報の照合]

入力するときに、入力情報を照合するかどうかを設定します。

[する] を選ぶと、[プリント / ダイレクトファクスジョブの照合] も選ぶことができます。

■[ユーザー入力項目]

認証するために、ユーザーが入力する項目を設定します。

補足

- Account ID は集計のための ID です。

[集計管理情報の設定]

■[User ID の代替表記]

タッチパネルディスプレイの認証情報の表示エリアをタップしたときに表示される認証画面の、「ユーザー ID」と表示されている表記を、「UserName」や「Number」のように必要に応じて変更できます。

補足
- 設定した値は、レポート / リストの表示にも反映されます。

■[User ID の入力表示]

ユーザー ID を入力したときの文字列の表示方法を設定できます。

■[Account ID の代替表記]

タッチパネルディスプレイの認証情報の表示エリアをタップしたときに表示される認証画面の、「Account ID」と表示されている表記を、「AccountName」や「Number」のように必要に応じて変更できます。

補足
- この項目は、「[集計管理機能の運用]」(P.356) を［ネット集計管理］に設定しているときに表示されます。
- 設定した値は、レポート / リストの表示にも反映されます。

■[Account ID の入力表示]

Account ID を入力したときの文字列の表示方法を設定できます。

補足
- この項目は、「[集計管理機能の運用]」(P.356) を［ネット集計管理］に設定しているときに表示されます。

■[認証時の集計情報表示]

認証直後に、ユーザー別の集計情報を表示するかどうかを設定します。チェックマークを付けると、コピー、プリント、スキャンの機能別に、認証中のユーザーの［累積ページ数］、［上限ページ数］、［残りページ数］を確認できます。

補足
- この項目は、［認証方式の設定］が［本体認証］に設定されていて、さらに［集計管理機能の運用］が［本体集計管理］に設定されているときに表示されます。
- 利用を制限されている機能は表示されません。
- 機械管理者で認証したときには、表示されません。

[ファクス課金データの設定]

ファクス課金の単位料金を設定します。

注記
- 課金データを登録する場合は、ファクス/インターネットファクスの集計を有効にしてから操作してください。有効にする方法は、「[各機能の集計]」(P.357) を参照してください。

補足
- 時間帯（昼間 / 夜間 / 深夜）別の 1 度数あたりの通信時間は、［課金情報（昼間料金）］/［課金情報（夜間料金）］/［課金情報（深夜料金）］で設定してください。詳しくは、「［課金情報（昼間料金）］、［課金情報（夜間料金）］、［課金情報（深夜料金）］」(P.234) を参照してください。
- 登録した内容は、「課金データリスト」をプリントして確認できます。プリント方法は、「[課金データリスト]」(P.259) を参照してください。

[認証・セキュリティ設定]

本機を利用するユーザーの登録や認証およびセキュリティーの設定ができます。

参照
- 機能については、「認証と集計管理機能について」(P.387) を参照してください。

[機械管理者情報の設定]

設定変更の抑止やセキュリティー確保のために、本機を設置したあと、すぐに機械管理者 ID とパスワードの変更をお勧めします。

■[機械管理者 ID]

機械管理者のユーザー ID を設定します。

■[機械管理者パスワード]

機械管理者のパスワードを設定します。

[認証の設定]

■[認証方式の設定]

◆[認証しない]

認証機能を利用しません。

◆[本体認証]

本機に登録されたユーザー情報を、認証に使用します。

注記

- [本体認証] から、[認証しない] または [外部認証] に変更した場合、本機に登録されているユーザー情報がすべて削除されます。

◆[外部認証]

外部認証サーバーに登録されたユーザー情報を、認証に使用します。

注記

- 外部認証を行うと、ユーザー情報が本機に保存され、外部認証時に外部認証サーバーが起動していなくても、本機に保存されたユーザー情報を利用してユーザーを認証し、本機を使用できます。
- 外部認証に使用したユーザー情報を本機に保存させたくない場合は、[認証情報の設定] の [外部認証情報の本体保存] を [しない] に設定してください。詳しくは、「[外部認証情報の本体保存]」(P.362) を参照してください。
- 本機に保存された外部認証のユーザー情報を自動的に削除できます。詳しくは、「[保存済み外部認証情報削除]」(P.363) を参照してください。

◆[カスタム認証]

サーバーレス認証連携キット（別売）を有効にした時の認証に使用します。

■[アクセス制御]

認証モードでは、本機自体および各サービスの利用を制限できます。利用するには、ユーザー認証が必要になります。

補足

- 外部認証時（ApeosWare Management Suite 2（別売）を使用する場合を除く）は、外部認証サーバーから取得した利用可能なサービスへのアクセス許可情報に基づき、操作パネルから利用できます。
- 外部認証時にゲストユーザーを使用する場合、ゲストユーザーにアクセス制御は設定できません。本機を使用できるゲストユーザーを制限する場合は、「[ゲストの使用]」(P.362) を参照してください。

◆[仕様設定へのアクセス]

機械管理者以外の本機の設定変更を制限するかどうかを設定します。

注記

- [制限しない] に設定すると、誰でも本機の設定を変更できる状態になります。

◆[デバイスへのアクセス]

本機の操作パネルのボタンの操作を制限するかどうかを設定します。

◆[サービスへのアクセス]

本機の各サービスについて、制限するかどうかを設定します。

補足

- [Client Scan]とは、AirPrint などを使ったコンピューターから操作するスキャンのことです。
- サービスを[制限する(表示)]に設定すると、ホーム画面の該当するサービスに が表示されます。認証すると の表示は消えます。
- サービスを[制限する(非表示)]に設定すると、ホーム画面に該当するサービスは表示されません。認証すると該当するサービスも表示されます。

◆[機能の制限]

- [ボックスからのプリント]

親展ボックス文書のプリントを制限するかどうかを設定します。

- [ボックスからの外部取り出し]

親展ボックス文書の送信や転送を制限するかどうかを設定します。

- [宛先指示方法の制限]

ファクス / インターネットファクス、またはメール送信で、アドレス帳に登録されていない宛先への送信を制限するかどうかを設定します。

[登録宛先のみ許可]に設定すると、キーパッドやキーボードからは、宛先を入力できなくなります。送信できるのは、アドレス帳に登録された宛先に制限されます。

補足

- ユーザーに[宛先指示方法の制限]を解除する権限を与えることもできます。詳しくは、「権限グループ」(P.389) を参照してください。

- [アドレス帳登録 / 変更の制限]

一般ユーザーによるアドレス帳への宛先の登録、変更を制限するかどうかを設定します。

補足

- ユーザーに[アドレス帳登録 / 変更の制限]を解除する権限を与えることもできます。詳しくは、「権限グループ」(P.389) を参照してください。

■[ユーザー登録 / 集計確認]

認証を有効にする場合、登録したユーザーの認証を行うために、ユーザー ID、およびユーザー名を登録します。

本機を利用するユーザーごとに、使用枚数の上限を設定できます。また、登録したユーザーごとの累積ページの確認などができます。ユーザーデータは、1,000 件まで登録できます。

[集計管理]の[ユーザー登録 / 集計確認]と同じ内容です。

参照

- 詳しくは、「[ユーザー登録 / 集計確認]」(P.355) を参照してください。

■[登録内容の削除 / 集計リセット]

全登録ユーザーに対して、一括で登録内容を削除したり、集計データをリセットしたりできます。削除 / リセットする前に、レポートを出力して、削除 / リセットされる内容を事前に確認することもできます。

[集計管理]の[登録内容の削除 / 集計リセット]と同じ内容です。

参照
- 詳しくは、「[登録内容の削除 / 集計リセット]」(P.355) を参照してください。

■[権限グループ登録]

機械管理者は認証ユーザーに対して、本来利用できない機能を利用できるようにする「権限」を与えることができます。権限グループを登録しておくと、ユーザーを権限ごとにグループ化して管理できます。

■[認証情報の設定]

認証するときに必要な情報を設定します。

◆[User ID の代替表記]

タッチパネルディスプレイの認証情報の表示エリアをタップしたときに表示される認証画面の、「User ID」と表示されている表記を、「UserName」や「Number」のように必要に応じて変更できます。

補足
- 設定した値は、レポート / リストの表示にも反映されます。

◆[User ID の入力表示]

ユーザー ID を入力したときの文字列の表示方法を設定できます。セキュリティーの強化など、必要に応じて設定してください。

[そのまま表示する] に設定すると、ユーザー ID を入力したときに、入力した文字列で表示します。[隠す] に設定すると、[*****] のように表示します。

◆[認証失敗の記録]

不正なアクセスを検知するための、認証回数を設定します。所定時間（10 分）以内に、ここで設定した回数の認証に失敗したときに、エラーとして記録します。

◆[認証解除時の確認画面表示]

認証解除時に確認画面を表示するかどうかを設定します。

◆[認証時の User ID 文字種]

認証時、ユーザー ID の文字種を設定します。

[大文字小文字を区別する] に設定すると、登録したまま（大文字小文字を含む）のユーザー ID で認証します。[大文字小文字を区別しない] に設定すると、ユーザー ID に大文字小文字が混在していても、大文字小文字を区別しないで認証します。

注記
- プライベートプリントに文書が保存された状態で設定を切り替えないでください。プリントできないなど、問題が発生することがあります。保存された文書をすべてプリントしたあと、設定を切り替えてください。
- “ABC” と “abc” のように、[大文字小文字を区別しない] に設定すると同一になるユーザーID が登録されているときは、設定を切り替えないでください。設定を切り替えると、一部のユーザーが表示されないなど、問題が発生することがあります。大文字小文字を区別しなくても同一にならないユーザー ID に変更してから設定を切り替えてください。

◆[IC カード接続時の認証]

本体認証の場合、本機に IC カードリーダー（オプション）が接続されているときに、ユーザー ID 認証を有効にするかどうかを設定します。

[IC カードのみ] に設定すると、ユーザー ID 認証は使用できません。[IC カードまたはパネル入力] に設定すると、IC カード認証とユーザー ID 認証の両方が使用できます。

◆［IC カード認証時のユーザー登録］

本体認証の場合、登録されていないユーザーが IC カードリーダー（オプション）に IC カードをかざしたときに、ユーザーを登録するかどうかを設定します。

［しない］に設定すると、ユーザー登録はされません。［自動登録する］に設定すると、ユーザーが登録されます。

補足

- ［自動登録する］を選ぶと、［ユーザー名］、［利用制限］、［権限の追加設定］の項目が表示されます。
- ［利用制限］を選ぶと、［コピー］、［ファクス］、［スキャナー］、［プリンター］の項目が表示されます。それぞれに対し［機能制限］、［上限ページ数の変更］の設定ができます。
- ［設定］>［認証 / 集計管理］>［認証・セキュリティ設定］>［認証の設定］>［パスワードの運用］>［パスワード使用 -IC カード認証時］が［する］に設定されている場合、ユーザー登録時にパスワードを 2 回入力します。

◆［ゲストの使用］

外部認証の場合、ゲストのユーザーを使用するかどうかを設定します。

◆［IC カードの使用］

本機に IC カードリーダー（オプション）が接続されているときに、IC カードを使用するかどうかを設定します。

［する］に設定すると、IC カードでジョブを制御するかしないかを、機能ごとに設定できます。

［する（PKI のみ）］は、認証やジョブ制御には IC カードを使用せず、セキュリティー機能だけを制御する場合に設定します。

補足

- この項目は、カスタマイズ拡張機能をご利用されている場合に表示されます。

◆［IC カード連携モード］

外部認証の場合、IC カード認証時に、パスワードの入力を要求するかどうかを設定します。

◆［IC カードの証明書検証］

IC カードを使用する場合に、IC カードの証明書を検証するかどうかを設定します。

チェックマークを付けると、IC カードの所有者を、PIN コードによる照合だけでなく、IC カード内の証明書の検証と秘密鍵との鍵の一致を検証します。この場合、IC カードの証明書の上位 CA 証明書を本機にインポートしておく必要があります。

チェックマークを外すと、IC カードの所有者を、PIN コードによる照合で検証します。

◆［非接触型 IC カード設定］

非接触型 IC カード認証時に、認証の解除方法を設定します。

［カードが離れると認証解除］に設定すると、IC カードをカードリーダーから離すことで、認証が解除されます。［パネル指示で認証解除］に設定すると、タッチパネルディスプレイの操作で認証が解除されます。

◆［外部認証情報の本体保存］

外部認証に使用したユーザー情報を本機に保存するかどうかを設定します。保存に設定して外部認証を行うと、ユーザー情報が本機に保存され、外部認証時に外部認証サーバーが起動していなくても、本機に保存されたユーザー情報を利用してユーザーを認証し、本機を使用できます。

補足
- IC カードで認証したユーザーだけが対象です。
- 本体保存されたユーザー情報を利用して認証されたユーザーは、［（保存済み外部認証情報での動作時の権限）］に設定されます。

◆［保存済み外部認証情報削除］

本機に保存した外部認証のユーザー情報を、削除するかどうかを設定します。

補足
- IC カードで認証したユーザーだけが対象です。

■［不正使用防止の設定］

なりすましによる不正な操作が行われないようするための機能です。同一のユーザー ID の認証に連続して失敗した場合にアクセスを拒否するように、その失敗回数を設定します。

［認証回数制限 - 機械管理者］、または［認証回数制限 - 一般ユーザー］で［する］を選び、［連続失敗回数］にアクセスを拒否するまでの回数を入力します。

補足
- 本機を再起動すると、失敗した回数はリセットされます。
- アクセス拒否状態を解除するときは、本機の電源を切って、入れ直して、本機を再起動してください。
- 一般ユーザーの認証回数制限は、本体認証の場合に設定できます。

■［パスワードの運用］

◆［パスワード使用 - パネル入力時］

ユーザーが本機を使用するときに、パスワードを入力するかどうかを設定します。

［する］に設定すると、［ユーザー登録 / 集計確認］の［パスワード］が有効になります。

［しない］に設定すると、上記の設定でパスワードが指定されていてもパスワードの入力は要求されません。

注記
- ［パスワード使用　-　パネル入力時］の設定は、操作パネルで認証するときに適用されます。CentreWare Internet Services などの外部からのアクセス時には、パスワードの使用の有無にかかわらず、常にパスワードの入力が必要です。また、認証の方法によっても常にパスワードの入力が必要なことがあります。

◆［パスワード使用 -IC カード認証時］

本体認証の場合、機械管理者およびユーザーが IC カード認証をするときに、パスワードを入力するかどうかを設定します。

◆［パスワードの最小桁数］

パスワードの最小桁数を指定します。

◆［パスワードの最大桁数］

パスワードの最大桁数を指定します。

■[認証 / プライベートプリントの設定]

受信したプリントジョブを、どのように扱うかを設定します。

プリントジョブを直接プリントしたり、保管文書の認証プリントやプライベートプリントに一時的に保存したりできます。

認証プリントは、認証されたユーザーのジョブをプリントする機能ですが、本機に一時的に保存することもできます。プリントするときに、本機からの操作でプリントします。本機を不特定ユーザーが使う場合に、出力紙を不用意に見られることを防止できます。認証プリントへの保存が設定されている場合、受信したプリントジョブはプリンタードライバー設定の蓄積用ユーザー ID ごとに保存されます。

プライベートプリントは、プリント指示の際に認証用ユーザー ID やサブユーザー ID を使って、本機にジョブを保存します。プリントするときは、本機の操作でプリントしますが、本機のパネルには、認証されたユーザーと関連づけられたサブユーザーの文書のみ表示されるため、プリント放置に限らず、プライバシーの保護を図ることができます。

参照

- 認証プリント、プライベートプリントについては、「認証プリント」(P.116)、および「プライベートプリント」(P.118) を参照してください。

◆[受信時の PJL 命令制御]

外部機器からのプリント受信を制御できます。コンピューターからプリント指示された認証プリントまたはプライベートプリントジョブを、指示どおりに［ジョブ情報］画面に表示される［認証プリント］または［プライベートプリント］に保存する場合は、［する］に設定します。

［しない］に設定したときは、後述の［受信制御］の設定に従います。

補足

- PJL とは、プリントジョブを制御するコマンドです。

◆[出力時の PJL 命令制御]

外部機器からのプリントジョブのプリントを制御できます。［ジョブ情報］画面に表示される［認証プリント］または［プライベートプリント］に保存された文書をプリントするときに、出力用紙、両面プリントなどのプリントモードをジョブの指示どおりに行う場合に、［する］に設定します。

補足

- PJL とは、プリントジョブを制御するコマンドです。

◆[受信制御]

受信したプリントジョブを、どのように扱うかを設定します。

参照

- プリンタードライバーからのプリント方法は、「プリント」(P.109) を参照してください。
- 保存されたプリントジョブをプリントおよび削除する方法は、「本機に蓄積したデータのプリント」(P.114) を参照してください。

• [プリンターの認証に従う]

認証 / 集計機能を利用し、［サービスへのアクセス］の［プリンター］を［制限する］に設定しているときに、［認証成功のジョブ］、［認証が不正のジョブ］、［User ID なしのジョブ］、それぞれについてジョブの扱いを設定できます。

補足

- 認証 / 集計機能を利用しない場合、および［サービスへのアクセス］の［プリンター］を［制限しない］に設定している場合は、プリンタードライバーの指示に従います。
- ［プライベートプリントに保存］に設定すると、プリンタードライバーで、セキュリティープリント、サンプルプリント、時刻指定プリント、ボックス保存プリントを指示しても無視されます。
- CentreWare Internet Services の［認証 / 集計 / 権限］>［権限設定］>［アクセス制限設定］>［ユーザー指定なしプリント］を［制限しない］に設定すると、本機側では、［User ID なしのジョブ］は自動的に［プリント］に設定されます。本機側で［認証プリントに保存］または［ジョブを中止］に設定すると、CentreWare Internet Services の［ユーザー指定なしプリント］が自動的に［制限する］に変わります。

- **［プライベートプリントに保存］**

認証機能を利用しているいないにかかわらず、ユーザー ID が付いたジョブをすべてプライベートプリントに保存します。また、［User ID なしのジョブ］、［PJL 命令なしのジョブ］、それぞれについてジョブの扱いを設定できます。

注記

- ［プライベートプリントに保存］に設定すると、認証に成功してもしなくても、ユーザー ID が付いたプリントジョブはすべて保存されます。不要なプリントジョブを増やさないためには、保存期間を設定して保存期間を過ぎたプリントジョブを自動的に削除するように設定するか、機械管理者が手動で削除してください。保存期間を設定する方法は、「［蓄積プリント文書の保存設定］」(P.298)を参照してください。

補足

- ［プライベートプリントに保存］に設定すると、プリンタードライバーで、セキュリティープリント、サンプルプリント、時刻指定プリント、ボックス保存プリントを指示しても無視されます。
- CentreWare Internet Services の［認証 / 集計 / 権限］>［権限設定］>［アクセス制限設定］>［ユーザー指定なしプリント］を［制限しない］に設定すると、本機側では、［User ID なしのジョブ］は自動的に［プリント］に設定されます。本機側で［認証プリントに保存］または［ジョブを中止］に設定すると、CentreWare Internet Services の［ユーザー指定なしプリント］が自動的に［制限する］に変わります。

- **［認証プリントに保存］**

認証機能を利用しているいないにかかわらず、受信したジョブをすべて認証プリントに保存します。

注記

- ［認証プリントに保存］に設定すると、認証に成功してもしなくても、プリントジョブはすべて保存されます。不要なプリントジョブを増やさないためには、保存期間を設定して保存期間を過ぎたプリントジョブを自動的に削除するように設定するか、手動で削除してください。保存期間を設定する方法は、「［蓄積プリント文書の保存設定］」(P.298)を参照してください。

補足

- ［認証プリントに保存］に設定すると、プリンタードライバーで、セキュリティープリント、サンプルプリント、時刻指定プリント、ボックス保存プリントを指示しても無視されます。

［強制印字一時解除］

本機能は、基本的には強制印字をしたいが、特定の出力物のみ強制印字なしで出力したいといった場合に使用します。

強制複製管理、UUID 印字、強制アノテーションなどの強制印字が設定されていても、一時的に強制印字を解除できます。

本機能を［する］に設定した状態で実行した、コピー、親展プリント、ボックスプリント、文書プリントが一時解除の対象となります（ファクス、通常のプリント、レポート / リストは対象となりません）。

この設定は、認証ユーザーの属する権限グループの［強制印字の一時解除］が［許可する］に設定されている場合のみ表示されます。

補足

- 実行中のジョブに関しては反映されません。
- ジョブフローを使って親展ボックス内の文書を選び、手動で実行する場合でも強制印字を一時解除できます。
- 管理者権限のユーザーは権限グループにかかわらず設定可能です。
- TrustMarkingBasic（別売）やコピーでユーザーが指定した複製管理に関しては解除対象となりません。

参照

- 強制複製管理については、「[複製管理]」(P.284) を参照してください。
- UUID 印字については、「[UUID 印字]」(P.287) を参照してください。
- 権限グループの設定は、「権限グループ」(P.389) を参照してください。

[ジョブ操作の設定]

実行中や実行待ちジョブやログの表示制限ができます。認証していないユーザーやジョブオーナーでないユーザーに対して、プライバシー保護、情報漏えいの抑止になります。

補足

- ジョブを表示しない設定にした場合、自分が実行したジョブを止めたり、削除したりできなくなります。そのため、コピー誤操作やファクス誤送信の場合でも、自分でジョブをキャンセルできません。

■[実行中 / 待ちジョブの表示設定]

実行中 / 実行待ちジョブの情報表示を制限するかどうかを設定します。

■[実行完了ジョブの表示設定]

◆[常に表示する]

認証に関わらず、すべての完了ジョブを確認できます。ジョブの詳細情報の表示を制限するかどうかを設定します。

◆[認証中は表示する]

本機に認証中のユーザーのみが完了ジョブを確認できます。確認できるジョブを認証ユーザーのジョブのみにするかどうか、ジョブの詳細情報の表示を制限するかどうかを設定します。

◆[表示しない]

認証に関わらず、すべての完了ジョブを非表示にします。

■[ジョブ操作の制限]

操作の種類ごとに、ジョブ操作を許可するユーザーの範囲を設定します。

[ダイレクトプリント機能の禁止]

本機能を［する］に設定した場合、文書プリント、メール受信プリント、インターネットファクス受信プリント、モバイルプリントなどのダイレクトプリント機能が使用できなくなります。

[稼動時の改ざん防止]

本機の稼動時に、許可されていないファイルへのアクセスおよび実行を検知するかどうかを設定します。

- [する] に設定すると、ファイルの書き込みや実行を拒否して、アクセス内容を監査ログに記録します。
- [ログ記録のみ] に設定すると、監査ログには記録しますが、ファイルへのアクセスは拒否されません。

補足

- 監査ログに記録するには、監査ログ機能を有効に設定する必要があります。詳しくは、「[監査ログ設定]」(P.368) を参照してください。

[監査ログ設定]

監査ログの設定と Syslog 送信（Syslog プロトコルを使って監査ログをネットワーク上の他のコンピューターに送信）に関する設定をします。

監査ログとは、いつ、誰が、どのような作業を本体で行ったかを記録したものです。監査ログ機能を使用すると、本体の不正使用や不正使用の試みを監視できます。

補足

- 監査ログを取り出すには、CentreWare Internet Services を使用します。詳しくは、CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。

参照

- 監査ログの記録項目については、弊社公式サイトで提供している『監査ログリファレンスガイド』を参照してください。

[監査ログの記録]

監査ログを記録するかどうか設定します。

監査ログ機能が有効になると、本体に監査ログが記録されます。

ログは最大で 15,000 件まで記録され、15,000 件を超えると日付の古いログから削除されます。

[監査ログの Syslog 送信]

監査ログを Syslog サーバーに送信するかどうか設定します。

[Syslog- サーバー名 / アドレス]

Syslog サーバーのサーバー名または IP アドレスを入力します。

[Syslog-UDP/TCP ポート番号]

Syslog サーバーの UDP または TCP のポート番号を入力します。

[Syslog-TLS ポート番号]

Syslog サーバーの TLS ポート番号を入力します。

[Syslog- トランスポートプロトコル]

Syslog に送信する際のトランスポートプロトコルを設定します。

[Syslog- ファシリティ]

Syslog に送信する監査ログのファシリティ番号を入力します。

[Syslog- タイムアウト値]

Syslog 送信時の送信タイムアウト値を入力します。

[送信エラー時の対応方式]

デバイス内の監査ログが Syslog 未送信のまま最大記録件数に達したときの動作を設定します。

■ [稼動優先]

日付の古いログから上書きされます。上書きされた監査ログは、Syslog 送信できません。

■［監査優先］

システムエラーとなり、本機が停止します。本体と Syslog サーバーを接続できる状態にしてから、本機の電源を切り、操作パネルのディスプレイが消灯したら、もう一度電源を入れてください。

[リセット]

[IPsec と 802.1x の設定をリセット]

[ネットワーク設定] > [セキュリティ設定] の [IPsec 設定] および [IEEE802.1x 設定] を無効にし、設定を初期化します。

[フォントとフォーム、マクロを消去]

本体内にダウンロードされたフォントデータ、フォームデータ、マクロデータをすべて消去します。

[工場出荷時の設定に戻す]

本機のすべての設定を工場出荷時の状態に戻します。

14

暗号化と署名機能の設定

暗号化と署名機能の概要

証明書の種類

本機で暗号化と署名機能を利用するには、証明書が必要です。

補足

- 本機で使用できる電子証明書は次のとおりです。
  - CentreWare Internet Services を使って作成した自己証明書
  - 認証局（CA）によって署名された証明書
- 本機にインポートできる電子証明書の規格は次のとおりです。
  - X.509（DER/PEM 形式）
  - PKCS#12（DER/PEM 形式）
  - PKCS#7（DER/PEM 形式）

参照

- 証明書のインポートについては、CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。

暗号化の種類により使用できるデバイス証明書

○ : 使用できる

△ : 必要に応じて使用する

×: 使用できない

	自己証明書	ほかの認証局で作成された証明書
クライアントから本機への HTTP 通信を暗号化する（SSL/TLS サーバー）	○	○
本機から外部サーバーへの HTTP 通信を暗号化する（SSL/TLS クライアント）	×	○
IPsec を使用して暗号化する	×	△*
メールのデジタル署名 / 暗号化通信をする	×	○
PDF 署名 /DocuWorks 署名をする	○	○

* :［IKE 認証方式］が［デジタル署名による認証］の場合に使用します。

暗号化の種類により設定できる証明書の条件

	鍵用途（V3 拡張領域に本項目がある場合のみ）		拡張鍵用途（V3 拡張領域に本項目がある場合のみ）			メールアドレス
	鍵暗号	デジタル署名	サーバー認証	クライアント認証	電子メール保護	
クライアントから本機への HTTP 通信を暗号化する（SSL/TLS サーバー）	○	○	○	-	-	-
本機から外部サーバーへの HTTP 通信を暗号化する（SSL/TLS クライアント）	○	○	-	○	-	-
IPsec を使用して暗号化する	-	○	-	-	-	-
メールのデジタル署名 / 暗号化通信をする	○	○	-	-	○	○
PDF 署名 /DocuWorks 署名をする	○	○	-	-	-	-

証明書の状態

証明書を使用するには、証明書の状態が有効である必要があります。証明書の状態を確認するには、CentreWare Internet Services の［システム］>［セキュリティー設定］>［証明書設定］画面から、［証明書の状態］を確認してください。

通信の暗号化機能

クライアントから本機への HTTP 通信を暗号化する（SSL/TLS サーバー）

クライアントから本機への HTTP 通信の暗号化には、SSL/TLS プロトコルを使用します。

補足

- SSL サーバー用証明書としてインポートする証明書に V3 拡張（KeyUsage）がある場合には、鍵暗号のビットがオンに設定されている必要があります。

通信を暗号化するには、デバイス証明書として、自己証明書またはほかの認証局で作成された証明書を使用します。

参照

- 設定の手順については、「HTTP の通信を暗号化するための設定」(P.376) を参照してください。

補足

- HTTP の通信を暗号化することによって､IPP でプリントするときに通信データを暗号化(SSL 暗号化通信）できます。

本機から外部サーバーへの HTTP の通信を暗号化する（SSL/TLS クライアント）

本機から外部サーバーへの HTTP 通信の暗号化には、SSL/TLS プロトコルを使用します。

通常、証明書を設定する必要はありませんが、外部サーバーが SSL クライアント証明を要求する設定の場合には、ほかの認証局で作成された証明書を使用できます。

また、サーバー証明書の検証を有効にして外部サーバーの SSL/TLS サーバー証明書を検証する場合には、その証明書パスに含まれる上位の認証局の証明書を CentreWare Internet Services を使用して本機にインポートしてください。

補足

- SSL クライアント用証明書としてインポートする証明書に V3 拡張（KeyUsage）がある場合には、デジタル署名のビットがオンに設定されている必要があります。

IPsec を使用し暗号化する

IPsec を使用して本機と暗号化通信ができます。アプリケーションに関係なく、IP レベルでの暗号化が行われます。

［IKE 認証方式］が［デジタル署名］の場合は、ほかの認証局で作成されたデバイス証明書が必要です。

［IKE 認証方式］が［事前共有鍵］の場合は、デバイス証明書は必要ありません。

補足

- IPsec 用証明書としてインポートする証明書に V3 拡張（Key-Usage）がある場合には、デジタル署名のビットがオンに設定されている必要があります。

参照

- IKE 認証方式については、「[IPsec 設定]」(P.351) を参照してください。
- 設定の手順については、「IPsec を使用して暗号化するための設定」(P.378) を参照してください。

また、通信相手装置を検証する場合には、相手側のほかの認証局で作成された証明書（上位の CA 証明書）を本機にインポートしておく必要があります。

メールのデジタル署名 / 暗号化通信をする

メールのデジタル署名 / 暗号化通信には、S/MIME を使用します。本機で S/MIME を使用する場合は、本機の S/MIME 証明書が必要です。

S/MIME 証明書には、自己証明書またはほかの認証局で作成された証明書を使用します。

暗号化通信を行うには、送信先の個人証明書またはデバイス証明書、本機のデバイス証明書が必要です。

注記

- メールのデジタル署名 / 暗号化通信をする場合、メール分割送信機能の［データサイズ単位で分割］を使用することはできません。

補足

- S/MIME の個人証明書およびデバイス証明書には、メールアドレス、および V3 拡張（KeyUsage）がある場合は、公開鍵アルゴリズムが RSA のときはデジタル署名と鍵暗号のビットが、ECC のときはデジタル署名と鍵合意のビットがオンに設定されている必要があります。また、V3 拡張（ExtendedKeyUsage）がある場合は、「電子メール保護」が設定されている必要があります。

参照

- 設定の手順については、「メールの暗号化/デジタル署名をするための設定」(P.380)を参照してください。

スキャン文書の暗号化と署名機能

PDF や DocuWorks 文書の暗号化の設定

PDF、DocuWorks 文書を暗号化して、パスワードを入力しないとファイルを開けないように設定できます。

参照

- 詳しくは、「出力ファイル形式の設定」(P.186) を参照してください。

PDF/DocuWorks 文書の署名の設定

PDF、DocuWorks 文書にデジタル署名を付けることができます。

補足

- デジタル署名用の証明書としてインポートする証明書に V3 拡張 (KeyUsage) がある場合には、デジタル署名のビットがオンに設定されている必要があります。

参照

- 設定の手順については、「PDF 署名 /DocuWorks 署名をするための設定」(P.385) を参照してください。

HTTP の通信を暗号化するための設定

Step1 証明書の準備

HTTP の通信を暗号化するための証明書を用意します。自己証明書（SSL サーバー用）を生成する方法と、ほかの認証局で作成された証明書をインポートする方法があります。

補足
- ［デバイス証明書］または［その他の証明書］のどちらかのカテゴリーに、すでに同じ証明書が登録されている場合は、インポートできません。登録されている証明書を削除してから、インポートしてください。

■自己証明書（SSL サーバー用）を生成する場合

1 CentreWare Internet Services を起動し、機械管理者モードにログインします。

参照
- 詳しくは、「CentreWare Internet Services を起動する」(P.92) を参照してください。

2 左側のメニューから［システム］をクリックします。

3 ［セキュリティー設定］＞［証明書設定］をクリックします。

4 ［新規作成］＞［自己署名証明書の作成］をクリックします。

5 必要に応じて、項目を設定します。

6 ［実行］をクリックします。

7 生成が終了したら、［閉じる］をクリックします。

■ほかの認証局で作成された証明書を本機にインポートする場合

ほかの認証局で作成された証明書を本機にインポートする前に、自己証明書を生成し、HTTP 通信を暗号化するよう設定してください。

1 CentreWare Internet Services を起動し、機械管理者モードにログインします。

参照
- 詳しくは、「CentreWare Internet Services を起動する」(P.92) を参照してください。

2 左側のメニューから［システム］をクリックします。

3 ［セキュリティー設定］＞［証明書設定］＞［インポート］をクリックします。

4 ［参照］をクリックして表示されるダイアログボックスでインポートするファイルを選び、［保存］をクリックします。

補足
- インポートするファイルのパスを直接入力することもできます。

5 ［パスワード］にインポートする証明書に設定されたパスワードを入力します。

6 ［パスワードの再入力］に同じパスワードを入力します。

7 ［実行］をクリックします。

8 インポートが終了したら、［閉じる］をクリックします。

Step2 証明書の設定

サーバー用の証明書を本機に設定します。

補足
- 本項目の設定を行っていない状態では、自己生成した証明書がサーバー用として自動的に設定されます。

1 CentreWare Internet Services を起動し、機械管理者モードにログインします。

参照
- 詳しくは、「CentreWare Internet Services を起動する」(P.92) を参照してください。

2 左側のメニューから［システム］をクリックします。

3 ［セキュリティー設定］＞［SSL/TLS 設定］をクリックします。

4 ［本体の証明書 - サーバー］で証明書を選びます。

注記
- 証明書を選べないときは、［システム］＞［セキュリティー設定］＞［証明書設定］にデバイス証明書が登録されていることを確認してください。

5 ［HTTP - SSL/TLS 通信ポート番号］を必要に応じて設定します。

注記
- ほかのポートと同じポート番号にしないでください。

6 ［保存］をクリックします。

7 本機を再起動する表示に変わったら、［今すぐ再起動］をクリックします。

Step3 コンピューターから本機へのアクセス方法

Web ブラウザーと本機の通信を暗号化する場合には、Web ブラウザーのアドレス欄には「http」ではなく「https」から始まるアドレスを入力します。

- IP アドレスの入力例

  https://192.0.2.1/（IPv4 の場合）

  https://[2001:DB8::1234]/（IPv6 の場合）

- インターネットアドレスの入力例

  https://myhost.example.com/

IPP の通信（インターネット印刷）を暗号化する場合は、コンピューターでプリンターを追加するときに、プリンターの URL に、「http」ではなく「https」から始まるアドレスを入力します。

IPsec を使用して暗号化するための設定

IPsec 通信で IKE 認証方式を「デジタル署名」にするときは、本機に証明書を設定します。証明書は、本体出荷時には、本機にインポートされていません。IPsec 用証明書をインポートします。インポート後、IPsec の設定をします。

IKE 認証方式が事前共有鍵の場合には、Step1 の「証明書の準備」は不要です。Step2 の「IPsec の設定」を行ってください。

参照
- IKE 認証方式は、「[IPsec 設定]」(P.351) を参照してください。

注記
- ［デバイス証明書］または［その他の証明書］のどちらかのカテゴリーに、すでに同じ証明書が登録されている場合は、インポートできません。登録されている証明書を削除してから、インポートしてください。

補足
- IPsec 用証明書としてインポートする証明書に V3 拡張（KeyUsage）がある場合には、デジタル署名のビットがオンに設定されている必要があります。

Step1 証明書の準備

CentreWare Internet Services で証明書を設定するには、HTTP の通信を暗号化する設定を行ってから、ほかの認証局で作成された証明書を本機にインポートして、IPsec 用証明書として設定します。

補足
- 本機にインポートできる証明書の公開鍵は、RSA® 公開鍵 4096 ビットまで、または ECC 公開鍵の P-256/P-384/P-521 のどれかとなります。
- IPsec 用には、CentreWare Internet Services で作成した自己証明書は使用できません。

参照
- HTTP の通信を暗号化する設定方法は、「HTTP の通信を暗号化するための設定」(P.376) を参照してください。

1. CentreWare Internet Services を起動し、機械管理者モードにログインします。

   参照
   - 詳しくは、「CentreWare Internet Services を起動する」(P.92) を参照してください。

2. 左側のメニューから［システム］をクリックします。
3. ［セキュリティー設定］>［証明書設定］>［インポート］をクリックします。
4. ［参照］をクリックして表示されるダイアログボックスでインポートするファイルを選び、［保存］をクリックします。

   補足
   - インポートするファイルのパスを直接入力することもできます。

5. ［パスワード］にインポートする証明書に設定されたパスワードを入力します。
6. ［パスワードの再入力］に同じパスワードを入力します。
7. ［実行］をクリックします。

8 インポートが終了したら、[閉じる] をクリックします。

Step2 IPsec の設定

本機の操作パネルを使用して、IPsec の設定をする手順について説明します。

1 ホーム画面で [設定] をタップします。

2 [ネットワーク設定] > [セキュリティ設定] をタップします。

3 [IPsec 設定] > [IPsec 設定] をタップします。

4 [IKE 認証方式] をタップし、IKE 認証方式を設定します。

■デジタル署名方式の場合

1) [デジタル署名による認証] を選びます。

2) [本体の証明書] をタップします。

3) 認証に使う証明書を選び、[OK] をタップします。

■事前共有鍵方式の場合

1) [事前共有鍵による認証] を選びます。

2) [事前共有鍵] をタップします。

3) 事前共有鍵にする文字列を入力し、[OK] をタップします。

5 [IPsec 通信] をタップし、[有効] を選びます。

6 その他の必要な設定をします。

参照

• 詳しくは、「[IPsec 設定]」(P.351) を参照してください。

Step3 通信先機器の設定

通信する相手機器の設定について説明します。

通信先機器では次の設定を行う必要があります。

- IP セキュリティポリシーの作成
- ポリシーの割り当て

参照

• 設定方法は、通信先機器のヘルプを参照してください。

メールの暗号化 / デジタル署名をするための設定

設置手順の概要

補足

- S/MIME を使用してメールの暗号化をする場合には、送信先の個人証明書またはデバイス証明書、本機のデバイス証明書が必要です。証明書には次の設定をします。
  - メールアドレス
  - V3 拡張 (KeyUsage) がある場合には、公開鍵アルゴリズムが RSA のときはデジタル署名と鍵暗号のビットを、ECDSA のときはデジタル署名と鍵合意のビットをオン
  - V3 拡張（ExtendedKeyUsage）がある場合には、「電子メール保護」
- S/MIME で暗号化できる宛先は、100 件までです。

送信元と送信先の設定

暗号化 / デジタル署名でメールを送受信するには、送信元および送信先になる機器で、必要な証明書をインポートしてください。

暗号化 / デジタル署名に必要な証明書の設定は、次のとおりです。

送信元	送信先	暗号化する	デジタル署名をする
		送信元に必要な証明書	送信先に必要な証明書
本機	コンピューター	コンピューターの個人証明書	本機の S/MIME 用デバイス証明書
	ほかの複合機	ほかの複合機の S/MIME 用デバイス証明書	本機の S/MIME 用デバイス証明書
コンピューター	本機	本機の S/MIME 用デバイス証明書	コンピューターの個人証明書
ほかの複合機		本機の S/MIME 用デバイス証明書	ほかの複合機の S/MIME 用デバイス証明書

Step1 証明書の準備

メールの暗号化とデジタル署名をするための証明書を用意します。自己証明書（S/MIME 用）を生成する方法と、ほかの認証局で作成された証明書をインポートする方法があります。

■自己証明書（S/MIME 用）を生成する場合

1 CentreWare Internet Services を起動し、機械管理者モードにログインします。

参照

- 詳しくは、「CentreWare Internet Services を起動する」(P.92) を参照してください。

2 ホーム画面上部の本体イラスト横にある［詳細］をクリックします。

3 ［本体メールアドレス］が入力されていることを確認します。

4 左側のメニューから［システム］をクリックします。

5 ［セキュリティー設定］>［証明書設定］をクリックします。

6 ［新規作成］>［自己署名証明書の作成］をクリックします。

7 必要に応じて、項目を設定します。

8 ［実行］をクリックします。

9 生成が終了したら、［閉じる］をクリックします。

■ほかの認証局で作成された証明書を本機にインポートする場合

ほかの認証局で作成された証明書を本機にインポートする前に、自己証明書を生成し、HTTP 通信を暗号化するよう設定してください。

参照
- HTTP の通信を暗号化する設定方法は、「HTTP の通信を暗号化するための設定」(P.376) を参照してください。
- 本機にインポートできる証明書の公開鍵は、RSA 公開鍵 4096 ビットまで、または ECC 公開鍵の P-256/P-384/P-521 のどれかとなります。

1 CentreWare Internet Services を起動し、機械管理者モードにログインします。

参照
- 詳しくは、「CentreWare Internet Services を起動する」(P.92) を参照してください。

2 ホーム画面上部の本体イラスト横にある［詳細］をクリックします。

3 ［本体メールアドレス］が入力されていることを確認します。

補足
- ［本体メールアドレス］と、証明書に記載されているメールアドレスが一致している必要があります。

4 左側のメニューから［システム］をクリックします。

5 ［セキュリティー設定］>［証明書設定］>［インポート］をクリックします。

6 ［参照］をクリックして表示されるダイアログボックスでインポートするファイルを選び、［保存］をクリックします。

補足
- インポートするファイルのパスを直接入力することもできます。

7 ［パスワード］にインポートする証明書に設定されたパスワードを入力します。

8 ［パスワードの再入力］に同じパスワードを入力します。

9 ［実行］をクリックします。

10 インポートが終了したら、［閉じる］をクリックします。

Step2 S/MIME の設定

1 CentreWare Internet Services を起動し、機械管理者モードにログインします。

参照
- 詳しくは、「CentreWare Internet Services を起動する」(P.92) を参照してください。

2 左側のメニューから［ネットワーク］をクリックします。

3 ［S/MIME］をクリックします。

4 ［有効］にチェックマークを付けます。

5 ［本体の証明書］で証明書を選びます。

注記
- 証明書を選べないときは、［システム］＞［セキュリティー設定］＞［証明書設定］にデバイス証明書が登録されていることを確認してください。

6 暗号化の設定をします。

［メッセージダイジェスト方式］

使用するメッセージダイジェスト方式を設定します。

補足
- 証明書の公開鍵が RSA 512 ビットの場合、［SHA512］を選ぶと不完全なメールが送信されることがあります。

［本文の暗号化方式］

本機からメール送信する場合に、メール本文の暗号化方式を設定します。

7 ［証明書の自動取得］で、自動的に証明書を保存するかどうかを選びます。

補足
- ［する］に設定すると、S/MIME 用証明書が添付されたメールを受信したときに、証明書が保存されます。
- 証明書の V3 拡張（KeyUsage）に、デジタル署名と鍵信号のビットがオンに設定されていないと、自動的に証明書を保存する設定にしていても、自動保存されません。また、登録されている宛先にも関連づけされません。

8 ［保存］をクリックします。

Step3 送信元と送信先の設定

暗号化 / デジタル署名でメールを送受信するには、本機にデバイス証明書をインポートするだけでは、送受信できません。

送受信するには、機器同士でデバイス証明書や個人証明書を交換しあう必要があります。

それぞれの機器を送信元にした場合、送信元および送信先で必要な証明書とインポート方法について説明します。

補足
- 使用する証明書のパスに登録されている、信頼されたルート証明機関、中間証明機関のすべてのインポートが必要です。

参照
- 暗号化/デジタル署名に必要な証明書の設定については、「送信元と送信先の設定」(P.380)の表を参照してください。

送信元が本機で送信先がコンピューターの場合

本機には、コンピューターの個人証明書のインポートが必要です。また、コンピューターには、本機のデバイス証明書のインポートが必要です。

本機にコンピューターの個人証明書をインポートするには、CentreWare Internet Services を使用します。

コンピューターに本機のデバイス証明書をインポートするには、次の方法があります。

- 本機からコンピューターに S/MIME デジタル署名メールを送信し、メールソフトの証明書ストアにインポートする

  本機の［設定］>［ネットワーク設定］>［セキュリティ設定］>［S/MIME 設定］>［署名 - メール送信］で、［常に署名する］または［送信時に選択する］を設定し、本機からメールを送信すると、S/MIME デジタル署名メールが送信されます。

- CentreWare Internet Services を使って、コンピューターに本機の証明書をエクスポートし、メールソフトの証明書ストアにインポートする

参照

- CentreWare Internet Services を使った証明書のインポート / エクスポートについては、CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。
- メールソフトへの証明書のインポート方法は、使用しているメールソフトのマニュアルを参照してください。

送信元が本機で送信先がほかの複合機の場合

本機には、ほかの複合機のデバイス証明書のインポートが必要です。また、ほかの複合機には、本機のデバイス証明書のインポートが必要です。

本機にほかの複合機のデバイス証明書をインポートするには、コンピューターからほかの複合機の CentreWare Internet Services を起動し、いったんコンピューターに証明書をエクスポートします。そのあと、本機の CentreWare Internet Services を起動し、ほかの機種の証明書をインポートしてください。

ほかの複合機に本機のデバイス証明書をインポートする場合も、同様に操作します。

参照

- CentreWare Internet Services を使った証明書のインポート / エクスポートについては、CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。

送信元がコンピューターで送信先が本機の場合

コンピューターには、本機のデバイス証明書のインポートが必要です。本機には、コンピューターの個人証明書のインポートは必要ありません。

コンピューターに本機の証明書をインポートするには、次の方法があります。

- 本機 (またはほかの複合機) からコンピューターに S/MIME デジタル署名メールを送信し、メールソフトの証明書ストアにインポートする

  本機の［設定］>［ネットワーク設定］>［セキュリティ設定］>［S/MIME 設定］>［署名 - メール送信］で、［常に署名する］または［送信時に選択する］を設定し、本機からメールを送信すると、S/MIME デジタル署名メールが送信されます。

- CentreWare Internet Services を使って、コンピューターに本機の証明書をエクスポートし、メールソフトの証明書ストアにインポートする。

参照

- CentreWare Internet Services を使った証明書のインポート / エクスポートについては、CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。
- メールソフトへの証明書のインポート方法は、使用しているメールソフトのマニュアルを参照してください。

本機とコンピューターのメール送受信で、動作を確認しているメールソフトは次のとおりです。

- Windows：Microsoft Outlook 2007、Microsoft Outlook 2010
- OS X 10.11 El Capitan：Mail9
- macOS 10.12 Sierra：Mail10
- macOS 10.13 High Sierra：Mail11
- macOS 10.14 Mojave：Mail12
- macOS 10.15 Catalina：Mail13

PDF 署名 /DocuWorks 署名をするための設定

スキャンした文書を PDF または DocuWorks 文書で送信するときに、署名する（PDF 署名 /DocuWorks 署名）ための設定について説明します。

注記
- ［デバイス証明書］または［その他の証明書］のどちらかのカテゴリーに、すでに同じ証明書が登録されている場合は、インポートできません。登録されている証明書を削除してから、インポートしてください。

Step1 証明書の準備

HTTP の通信を暗号化する設定を行ってから、ほかの認証局で作成された証明書を本機にインポートして、スキャンファイル署名用証明書として設定します。

参照
- HTTP の通信を暗号化する設定については、「HTTP の通信を暗号化するための設定」(P.376) を参照してください。

1 CentreWare Internet Services を起動し、機械管理者モードにログインします。

参照
- 詳しくは、「CentreWare Internet Services を起動する」(P.92) を参照してください。

2 左側のメニューから［システム］をクリックします。

3 ［セキュリティー設定］>［証明書設定］>［インポート］をクリックします。

4 ［参照］をクリックして表示されるダイアログボックスでインポートするファイルを選び、［保存］をクリックします。

補足
- インポートするファイルのパスを直接入力することもできます。

5 ［パスワード］にインポートする証明書に設定されたパスワードを入力します。

6 ［パスワードの再入力］に同じパスワードを入力します。

7 ［実行］をクリックします。

8 インポートが終了したら、［閉じる］をクリックします。

Step2 PDF 署名 /DocuWorks 署名の設定

1 CentreWare Internet Services を起動し、機械管理者モードにログインします。

参照
- 詳しくは、「CentreWare Internet Services を起動する」(P.92) を参照してください。

2 左側のメニューから［アプリ］をクリックします。

3 ［スキャン送信］をクリックします。

補足
- ［メール送信］からも同じ設定ができます。

4 ［PDF/DocuWorks の署名設定］をクリックします。

5 各項目を設定します。

補足
- 署名のある DocuWorks 文書を開くには、次のバージョンの DocuWorks が必要です。
  - ［SHA-1］に設定したときは、DocuWorks 5.0 以降の各バージョン
  - ［SHA-256］に設定したときは、DocuWorks 8.0 以降の各バージョン

6 ［本体の証明書］でインポートした証明書を選びます。

注記
- 証明書を選べないときは、［システム］＞［セキュリティー設定］＞［証明書設定］にデバイス証明書が登録されていることを確認してください。

7 ［保存］をクリックします。

8 本機を再起動する表示に変わったら、［今すぐ再起動］をクリックします。

Step3 コンピューターの設定

- 本機からコンピューターにDocuWorksセキュリティー証明書のファイルを送信する場合

  送信先となるコンピューターの個人証明書を本機にインポートし、アドレス帳に割り当てる必要があります。なお、本機にインポートする個人証明書は、ルート証明書を含めた形式にしてください。

  参照
  - 証明書のインポートについては、CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。
- 本機からコンピューターに PDF 署名、DocuWorks 署名ファイルを送信する場合

  送信先のコンピューターに、本機のスキャンファイル署名用証明書のルート証明書がインポートされていることを確認してください。

15

認証と集計管理機能について

認証機能と集計管理機能の概要

認証機能を利用すると、本機自体の利用を制限したり、サービスごとに利用を制限したりできます。また、サービスの使用状況をユーザーごとに集計して管理することもできます。

ユーザーの種類について

認証機能を利用しているときは、次のユーザーに分けられます。

補足
- 認証機能を利用していないときは、機械管理者と一般ユーザーに分けられます。

■機械管理者

使用環境に合わせてシステムの設定値を登録 / 変更できるユーザーです。

機械管理者は、機械管理者 ID という特別に定義されたユーザー ID を使用します。

■認証ユーザー

本機または外部のサーバーに登録されているユーザーです。それぞれのユーザー ID を使って認証します。

認証ユーザーのユーザー ID には、使用目的に応じてサブユーザーを関連づけできます。ひとつのユーザー ID には、最大 10 個のサブユーザー ID を関連づけできます。

補足
- サブユーザーを利用するには、別途アプリケーションが必要です。詳しくは、弊社の営業担当者にお尋ねください。

■認証未登録ユーザー

登録されていないユーザーです。

認証未登録ユーザーは、利用が制限されているサービスを利用できません。

管理の権限と権限グループについて

本機でユーザーごとに管理の権限や権限グループを設定できます。

外部認証先に ApeosWare Management Suite 2（別売）を利用している場合は、ApeosWare Management Suite 2（別売）で設定します。外部認証先に LDAP を利用している場合は、CentreWare Internet Services で設定します。

注記
- 本体認証でネット集計管理の場合、ユーザーに権限グループを指定できないため、権限グループに設定した機能を使用できません。

管理の権限

認証ユーザーごとに管理の権限を設定できます。指定したユーザーに機械管理や集計管理の権限を持たせることができます。

■機械管理の権限

機械管理者と同じ権限が与えられます。ただし、次の操作はできません。

- 親展ボックスの操作
- ジョブフローの操作
- 機械管理者パスワードの変更

■集計管理の権限

次の権限が与えられます。

- ユーザー情報の登録、削除、変更（パスワードのみ変更不可）、参照（設定により操作できないことがあります）
- 集計管理の登録、削除、変更、参照
- Account ID の代替表記 /Account ID の入力表示の変更
- ユーザー別集計管理レポートのプリント

権限グループ

利用制限に対する操作を許可する権限をグループ分けして、認証ユーザーを登録できます。権限グループに属したユーザーは、機械管理者と同様に操作を実行できます。

参照
- 詳しくは、「[権限グループ登録]」(P.361) を参照してください。

利用制限について

全体での利用制限

認証モードでは、本機自体および各サービスの利用を制限できます。利用するには、ユーザー認証が必要です。

参照
- 詳しくは、「[アクセス制御]」(P.359) を参照してください。

■デバイスへのアクセス

本機の操作パネルのボタン操作を制限できます。

■サービスのアクセス

コピー、ファクス、スキャナーなどの機能ごとに、利用を制限するかどうかを設定できます。

■機能の制限

親展ボックスからのプリント、親展ボックスからの取り出し、登録されていない宛先への送信、アドレス帳の登録や変更について、制限できます。

ユーザーごとの利用制限

ユーザーごとに、サービスの利用制限、上限ページ数、ジョブフロー、親展ボックスの作成、編集、利用を制限できます。

参照
- 詳しくは、「認証機能を使ったサービスの利用制限」 (P.394)、「ジョブフローと親展ボックスの認証」(P.396) を参照してください。

認証の種類について

認証の種類

■本体認証

本機に登録したユーザー情報を使用して認証管理します。

補足
- コンピューターから直接送信されたプリントデータは、あらかじめクライアント側のプリンタードライバーで設定した認証情報と、本機側に登録されている認証情報を照合することによって認証され、本機で受信できます。

参照
- プリンタードライバーの設定については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

■外部認証

外部の認証サーバー（LDAP、Kerberos、SMB、ApeosWare Management Suite 2（別売）または Azure Active Directory が使用できます）で管理されているユーザー情報を使用して認証します。本機にユーザー情報は登録しません。

注記
- 外部認証時（ApeosWare Management Suite 2（別売）を使用する場合を除く）は、外部認証サーバーから取得したアクセス許可情報に基づき、本機の操作パネルから利用可能なサービスを利用できます。
- 本体認証から外部認証に変更した場合、本機に登録されたユーザー情報、個人の親展ボックス、個人のジョブフロー、およびプライベートプリントジョブは削除されます。
- 外部認証サーバーに登録するユーザーIDは32文字以内、パスワードは128文字以内で設定してください。ただし、SMB 認証の場合、パスワードは 32 文字以内で設定してください。

認証方法

■ユーザー ID 認証

ユーザー ID やパスワードなどのユーザー情報を、本機または外部の認証サーバーにあらかじめ登録しておき、本機の操作パネルから直接ユーザー ID やパスワードを入力して認証します。

■カード認証

カードに登録されているカード番号、またはユーザー ID やパスワードなどのユーザー情報を、本機または外部の認証サーバーにあらかじめ登録しておき、カードを使って認証します。

補足
- カード（IC カードリーダー（オプション）または DocuLyzer（別売））を利用して認証します。
- DocuLyzer（別売）を接続する場合、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご相談ください。また、利用時の管理 / 取り扱いについては、DocuLyzer のマニュアルを参照してください。
- DocuLyzer（別売）で使用するカードには、あらかじめカード番号が登録されています。
- 外部認証と DocuLyzer（別売）を組み合わせることはできません。

■カード認証とユーザー ID 認証の併用

本機では、ユーザー ID 認証とカード認証の両方を併用できます。ただし、本体認証で併用する場合は、ユーザー ID 認証を有効にする必要があります。

参照
- ユーザー ID 認証を有効にするには、「[IC カード接続時の認証]」(P.361) を参照してください。

集計管理機能について

集計管理モードの種類

注記
- 認証モードが［外部認証］で、［認証システム］に［Authentication Agent］を設定しているときは、ApeosWare Management Suite 2（別売）が自動的に集計 / 認証サーバーになります。

補足

- 認証モードにより選ぶことができない集計管理モードがあります。詳しくは、「認証モードと集計管理モードの関係」(P.391) を参照してください。

■本体集計管理

本機にあらかじめ登録されている認証ユーザー情報を利用して、ユーザー別に集計管理します。

補足

- ユーザー別集計管理レポートは、機械管理者、機械管理の権限が設定されているユーザー、または集計管理の権限が設定されているユーザーで認証して出力できます。レポートの出力手順は、「[レポート / リストの出力]」(P.254) を参照してください。

参照

- 集計できるジョブは、「本体集計管理で集計できるサービス」(P.392) を参照してください。

■ネット集計管理

外部サービスで管理されているユーザー情報を使用して集計管理します。

外部のサーバーが本機に保存されているジョブデータを収集し、ユーザー別に集計します。

補足

- 外部サービスで管理されているユーザー情報は、外部サービスから本機に送られてきて、本機に登録されます。外部サービスで管理されているユーザー情報が更新された場合は、外部サービスからユーザー情報を本機に送信する必要があります。

■認証サーバーによる集計管理

認証サーバーを使って集計管理します。

外部のサーバーが本機に保存されているジョブデータを収集し、ユーザー別に集計します。

補足

- 認証サーバーは、ユーザー情報を管理し、集計情報を外部のサーバーから取得します。本機が対応している認証サーバーは、ApeosWare Management Suite 2（別売）です。

認証モードと集計管理モードの関係

認証モードと集計管理モードは別々に設定できます。設定できる組み合わせは、次のとおりです。

		集計管理モード			
		運用しない	本体集計管理	ネット集計管理	認証サーバー
認証モード	認証しない	○	×	○	×
	本体認証	×	○	○	×
	外部認証	○ *1	×	×	○ *2

○：できる、×：できない

*1 :認証モードが［外部認証］で、［認証システム］が［Authentication Agent］以外の場合、集計管理モードは「運用しない」になります。ApeosWare Management Suite 2（別売）で集計できます。

*2 :認証モードが［外部認証］で、［認証システム］が［Authentication Agent］の場合、集計管理モードは「認証サーバー」になりますが ApeosWare Management Suite 2（別売）で集計はできます。

本体集計管理で集計できるサービス

サービスごとのジョブについて、集計管理できる情報について説明します。

■プリント

対象サービス（ジョブ）		集計対象ユーザー	管理項目
通常プリント	本機用プリンタードライバー	認証ユーザー	プリント面数 / 枚数
	本機用プリンタードライバー以外（BMLinkS など）*	認証未登録ユーザー	
セキュリティープリント	文書のプリント	認証ユーザー	
サンプルプリント			
ボックスからのプリント			
時刻指定プリント			
認証プリント			
プライベートプリント			
メール受信プリント *		認証未登録ユーザー	

* :CentreWare Internet Services で、［認証 / 集計 / 権限］>［権限設定］>［アクセス制限設定］>［ユーザー指定なしプリント］を［制限しない］にした場合にプリントできます。

■スキャナー

対象サービス	集計対象ユーザー	管理項目
メール送信	認証ユーザー	スキャン読み取り、メール送信
ボックス保存		スキャン読み取り
スキャン送信		スキャン読み取り、ファイル転送
USB 保存		スキャン読み取り

■ファクス

対象サービス（ジョブ）		集計対象 ユーザー	管理項目
ファクス送信	自動送信	認証ユーザー	ファクス送信回数 / 面数、通信度数
	手動送信（発呼、着呼）		
ファクス受信、プリント	自動受信プリント	– *1	受信回数 / 面数、プリント面数 / 枚数
	手動受信プリント（発呼、着呼）		
ファクス親展受信	自動親展受信	– *1	受信回数 / 面数
	親展受信プリント	認証ユーザー *2	プリント面数 / 枚数

対象サービス（ジョブ）		集計対象 ユーザー	管理項目
ファクスポーリング	自動送信（親展送信）	認証未登録ユーザー	ファクス送信回数 / 面数
	自動受信プリント	認証ユーザー	ポーリング回数 / 面数、プリント面数 / 枚数
	予約文書確認プリント（親展ボックス、ポーリングボックス）	認証ユーザー *2	プリント面数 / 枚数
ダイレクトファクス送信		認証ユーザー	ファクス送信回数 / 面数、通信度数
インターネットファクス送信		認証ユーザー	インターネットファクス送信回数 / 面数
インターネットファクス受信、プリント	自動受信プリント	— *3	受信回数 / 面数、プリント面数 / 枚数
	自動親展受信		受信回数 / 面数
	親展受信プリント	認証ユーザー *2	プリント面数 / 枚数
インターネットファクス受信、ファクス転送	ファクス自動送信（転送）	— *4	ファクス送信回数 / 面数、通信度数

*1 :ファクス受信として集計されます。
*2 :機械管理者モードの認証機能の運用設定で、親展ボックスの操作を許可している場合は、認証未登録ユーザーで集計されます。
*3 :インターネット受信として集計されます。
*4 :インターネット受信ファクス転送として集計されます。

◆ファクスの集計管理をするときの注意制限事項

- 別々のユーザーから同じ宛先に送信しても、一括送信の対象になりません。
- 通信度数は、本機内部の独立したタイマーで計算しています。このため、通信度数から計算した通信料金が、電話会社などからの料金請求と若干の差異を生じることがありますので、あらかじめご了承ください。
- ページ分割をして受信したときは、プリントした面数ではなく、受信した面数でカウントします。
- 通信度数は、次の通信時には集計されません。
  - キーパッドでの番号入力、またはオンフック / オフフックを使用したとき
  - 課金情報が登録されていない宛先を使用したとき
  - 通話をしたとき（通信前に通話をしたときも含みます）

◆ファクスでの課金

- キーパッドから番号を入力してダイヤルした場合は、課金されません。
- 課金情報が登録されていない宛先への通信は、課金されません。
- 手動受信、手動送信、手動ポーリングは、課金されません。
- 通話をしたときは、課金されません。

認証機能を使ったサービスの利用制限

制限できる機能は、本機の利用形態によって異なります。

参照

- 認証機能利用時の、親展ボックスとジョブフローの制限は、「ジョブフローと親展ボックスの認証」(P.396) を参照してください。

利用制限できるサービス

利用制限には、ユーザーごとに設定できるものと、ユーザーにかかわらず機能に設定できるものとがあります。

参照

- ユーザーごとの設定は、「ユーザーを登録する（本体認証）」(P.401) を、機能への設定は、「[サービスへのアクセス]」(P.360) を参照してください。

認証モードと集計管理モードの組み合わせ

認証モードと集計管理モードの組み合わせによる、利用制限できるサービスおよび集計管理できるサービスは次のとおりです。

参照

- 認証方法については、「ユーザー認証機能を有効にする」(P.399) を参照してください。

補足

- 本体認証でユーザーID 認証とカード認証を併用して利用する場合は、ユーザーID 認証を有効にしてください。設定方法は、「[IC カード接続時の認証]」(P.361) を参照してください。

認証モードが「本体認証」で、集計管理モードが「本体集計管理」のとき

対象サービス	ユーザーごとの利用制限		ユーザー別の集計
	機能別利用制限 *	上限ページ数 *	
コピー	○	○	○
プリント	○	○	○
スキャン	○	○	○
ファクス	○	×	○

○：できる、×：できない

*：ユーザーごとの設定は、「ユーザーを登録する（本体認証）」(P.401) を参照してください。

認証モードが「本体認証」で、集計管理モードが「ネット集計管理」のとき

対象サービス	ユーザーごとの利用制限		ユーザー別の集計 *2
	機能別利用制限 *1	上限ページ数	
コピー	○	×	○
プリント	○	×	○
スキャン	○	×	○
ファクス	○	×	○

○：できる、×：できない
*1 :ApeosWare Management Suite 2（別売）で利用制限できます。
*2 :ApeosWare Management Suite 2（別売）で集計できます。

認証モードが「外部認証」のとき

対象サービス	ユーザーごとの利用制限		ユーザー別の集計 *2
	機能別利用制限 *1	上限ページ数 *1	
コピー	○	○	○
プリント	○	○	○
スキャン	○	○	○
ファクス	○	×	○

○：できる、×：できない
*1 :認証システムとして ApeosWare Management Suite 2（別売）を利用している場合は、利用制限できます。
*2 :ApeosWare Management Suite 2（別売）で集計できます。

ジョブフローと親展ボックスの認証

ジョブフローの作成 / 利用について

本機で作成できるのは、親展ボックスに蓄積された文書を対象とするジョブフローです。

認証機能を利用しているときに作成したジョブフローと、認証機能を利用していないときに作成したジョブフローとでは、利用制限が異なります。また、［ボックス操作］画面、および［ジョブフロー登録］から作成したジョブフローでも利用制限が異なります。

注記

- 本体認証機能を「利用する」から「利用しない」、または「利用しない」から「利用する」に変更した場合は、使用していたジョブフローは、機械管理者以外は使用できなくなります。使用していたジョブフローは、すべて削除して新しく作成し直してください。
- 認証機能を外部認証に変更した場合、または外部認証からほかの認証モードに変更した場合、変更する前に使用していたジョブフローは削除されます。
- 認証方式の変更によって使用できなくなるジョブフローが親展ボックスに関連づけられている場合、編集 / 複製はできなくなりますが、利用はできます。

  ただし、関連づけを解除すると、そのジョブフローは表示されなくなり、利用できなくなります。
- ［ボックス操作］画面から作成したジョブフローは、ジョブフローを作成した親展ボックスでのみ利用できます。ほかの親展ボックスでは使用できません。
- ネットワーク上のコンピューターで作成されたジョブフローは、本機で編集 / 複製はできません。

補足

- Device Setup（デバイス設定ツール）を使うと、ネットワークに接続されたコンピューターで親展ボックスおよびスキャン文書を対象とするジョブフローが作成できます。Device Setup（デバイス設定ツール）は、弊社の会員制ポータルサイト「富士ゼロックスダイレクト」の ApeosWare Management Suite 2 のページからダウンロードできます。

参照

- 本機でのジョブフロー作成方法は、「親展ボックスを起点とするジョブフローの作成」(P.221) を参照してください。

認証機能を利用している場合

補足

- 認証機能を利用しているときに、ジョブフローを利用できるのは、次のユーザーです。
  - ［本体認証］設定時、認証されたユーザーおよび機械管理者
  - ［外部認証］設定時、ゲストユーザー以外で認証されたユーザー
  - ［ネット集計管理］で［入力情報の照合］を［する］、［ユーザー入力項目］を［User ID と Account ID］または［User ID のみ］設定時に認証されたユーザー

■［ボックス操作］画面からジョブフロー作成

ジョブフローの作成者と利用できるユーザーおよび、利用できる操作は次のとおりです。

ジョブフローの作成者	利用できるユーザー	利用できる操作
認証ユーザー	作成者 / 機械管理者	編集、表示、複製、削除、選択、実行、親展ボックスへの関連づけ
機械管理者	すべての認証ユーザー / 機械管理者	編集*、表示、複製、削除*、選択、実行、親展ボックスへの関連づけ

*:機械管理者モードでのみ操作できます。

補足
- 複製したジョブフローは、複製したユーザーが作成者になります。

■[ジョブフロー登録]からジョブフロー作成

ジョブフローの作成者と利用できるユーザーおよび、利用できる操作は次のとおりです。

ジョブフローの作成者	利用できるユーザー	利用できる操作
認証ユーザー	作成者 / 機械管理者	編集、表示、複製、削除、選択、実行
機械管理者	すべての認証ユーザー / 機械管理者	編集*、表示、複製、削除*、選択、実行

*:機械管理者モードでのみ操作できます。

補足
- 複製したジョブフローは、複製したユーザーが作成者になります。

認証機能を利用していない場合

■[ボックス操作]画面からジョブフロー作成

ジョブフローの作成者と利用できるユーザーおよび、利用できる操作は次のとおりです。

ジョブフローの作成者	利用できるユーザー	利用できる操作
一般ユーザー	すべての一般ユーザー / 機械管理者	編集、表示、複製、削除、選択、実行、親展ボックスへの関連づけ
機械管理者	すべての一般ユーザー / 機械管理者	編集*、表示、複製、削除*、選択、実行、親展ボックスへの関連づけ

*:機械管理者モードでのみ操作できます。

補足
- 複製したジョブフローは、複製したユーザーが作成者になります。

■[ジョブフロー登録]からジョブフロー作成

ジョブフローの作成者と利用できるユーザーおよび、利用できる操作は次のとおりです。

ジョブフローの作成者	利用できるユーザー	利用できる操作
一般ユーザー	すべての一般ユーザー / 機械管理者	表示、編集、複製、削除、選択・実行
機械管理者	すべての一般ユーザー / 機械管理者	表示、編集*、複製、削除*、選択・実行

*:機械管理者モードでのみ操作できます。

補足
- 複製したジョブフローは、複製したユーザーが作成者になります。

親展ボックスの作成 / 利用について

親展ボックスは、認証機能を利用していないときに作成した親展ボックスと、認証機能を利用しているときに作成した親展ボックスでは、利用条件が異なります。

注記

- 認証機能を「利用する」から「利用しない」、または「利用しない」から「利用する」に変更した場合は、使用していた親展ボックスは、機械管理者以外は使用できなくなります。使用していた親展ボックスは、すべて削除して新しく作成し直してください。
- 認証機能を外部認証に変更した場合、または外部認証からほかの認証モードに変更した場合、変更する前に使用していた親展ボックスは削除されます。

認証機能を利用している場合

補足

- 認証機能を利用しているときに、親展ボックスを利用できるのは、次のユーザーです。
  - ［本体認証］設定時、認証されたユーザーおよび機械管理者
  - ［外部認証］設定時、ゲストユーザー以外で認証されたユーザー
  - ［ネット集計管理］で［入力情報の照合］を［する］、［ユーザー入力項目］を［User ID と Account ID］または［User ID のみ］設定時に認証されたユーザー

認証機能を利用しているときに、親展ボックスを作成 / 利用できる親展ボックスの作成者と利用ユーザーの関係は次のとおりです。

親展ボックスの作成者	利用できるユーザー	利用できる操作
認証ユーザー	作成者 / 機械管理者	表示、削除、設定変更、文書表示、文書削除、文書登録、文書出力、ジョブフロー表示、ジョブフロー関連づけ、ジョブフロー実行
機械管理者	すべての認証未登録ユーザー *2/ すべての認証ユーザー / 機械管理者	表示、削除 *1、設定変更 *1、文書表示、文書削除、文書登録、文書出力、ジョブフロー関連づけ *1、ジョブフロー表示、ジョブフロー実行

*1 :機械管理者モードでのみ操作できます。
*2 :機械管理者モードの認証機能の運用設定で、親展ボックスの操作を許可している場合に利用できます。

認証機能を利用していない場合

親展ボックスの作成者と利用ユーザーの関係は次のとおりです。

親展ボックスの作成者	利用できるユーザー	利用できる操作
一般ユーザー	すべての一般ユーザー / 機械管理者	表示、削除、設定変更、文書表示、文書削除、文書登録、文書出力、ジョブフロー表示、ジョブフロー関連づけ、ジョブフロー実行
機械管理者	すべての一般ユーザー / 機械管理者	表示、削除 *、設定変更 *、文書表示、文書削除、文書登録、文書出力、ジョブフロー関連づけ *、ジョブフロー表示、ジョブフロー実行

* :機械管理者モードでのみ操作できます。

補足

- ネットワークスキャナーユーティリティ 3 を利用しての文書登録、文書出力は認証の対象外です。

ユーザー認証機能を有効にする

本体認証をする場合は、認証方式とアクセス制御を設定したあとにユーザーを本機に登録します。外部認証をする場合は、認証方式とアクセス制御を設定したあとに認証サーバーを設定します。

補足

- 本体認証に設定する場合、必要に応じて権限グループを先に登録しておきます。
- 認証時にパスワードの入力を必須にするには、[パスワード使用 - パネル入力時] または [パスワード使用 -IC カード認証時] を [する] に設定します。詳しくは、「[パスワードの運用]」(P.363) を参照してください。
- 文字の入力方法については、「文字の入力方法」(P.80) を参照してください。

認証方式を設定する

1 ホーム画面で [設定] をタップします。

2 [認証 / 集計管理] > [認証・セキュリティ設定] をタップします。

3 [認証の設定] をタップします。

4 [認証方式の設定] をタップします。

5 [本体認証] または [外部認証] を選び、[OK] をタップします。

参照

- 認証方式については、「認証の種類」(P.389) を参照してください。

アクセス制御を設定する

本機の操作に認証が必要かどうかを設定します。

1 ホーム画面で [設定] をタップします。

2 [認証 / 集計管理] > [認証・セキュリティ設定] をタップします。

3 [認証の設定] > [アクセス制御] をタップします。

4 [デバイスへのアクセス] で [制限しない] または [制限する] を選びます。

補足

- [制限する] に設定すると、本機の操作パネルですべての操作に認証が必要になります。

5 [サービスへのアクセス] をタップします。

6 操作に認証が必要かどうかをサービスごとに設定します。

1) 変更したいサービスをタップします。

2) 設定を選びます。

補足

- [制限する（表示）] に設定すると、ホーム画面の該当する機能ボタンに が表示されます。サービスの利用には認証が必要になります。
- [制限する（非表示）] に設定すると、認証していない状態ではホーム画面に該当する機能ボタンが表示されません。

7 [<] をタップします。

8 [機能の制限] をタップします。

9 変更したい機能で [制限しない] または [制限する] を選びます。

権限グループを設定する（本体認証）

本体認証のユーザーに割り当てる権限グループを登録します。

1 ホーム画面で [設定] をタップします。

2 [認証 / 集計管理] > [認証・セキュリティ設定] をタップします。

3 [認証の設定] > [権限グループ登録] をタップします。

4 登録したい権限グループ No. を選び、［登録 / 変更］をタップします。

補足
- No.00 の［DefaultGroup（標準)］は、ユーザーを新規作成したときのデフォルト権限グループです。認証していないユーザーもデフォルト権限グループに属します。
- デフォルト権限グループも他の権限グループと同様に変更できます。

5 ［グループ名］をタップし、名称を入力して［OK］をタップします。

6 変更したい権限をタップし、設定を選びます。

補足
- お使いの機種またはオプションの取り付け状況によって、表示されない項目があります。

■［宛先指示方法の制限］

アドレス帳に登録されていない宛先への送信が制限されているときに、制限を解除するかどうかを設定します。

■［アドレス帳登録 / 変更の制限］

アドレス帳の編集が制限されているときに、制限を解除するかどうかを設定します。

■［強制印字の一時解除］

強制複製管理、UUID 印字、強制アノテーションなどの強制印字が設定されているときに、強制印字を一時的に解除できるようにするかどうかを設定します。

ユーザーを登録する（本体認証）

本体認証を設定したときの認証ユーザーを本機に登録します。

ユーザーごとに管理権限、サービスの利用制限や上限ページ数を設定できます。

補足
- ［集計管理］の［ユーザー登録 / 集計確認］でも同様にユーザーを登録できます。

1 ホーム画面で［設定］をタップします。

2 ［認証 / 集計管理］>［認証・セキュリティ設定］をタップします。

3 ［認証の設定］>［ユーザー登録 / 集計確認］をタップします。

4 ユーザーを登録する［No.］をタップします。

補足
- ［No.］はユーザー管理番号です。

5 ユーザー ID を入力し、［OK］をタップします。

6 ［ユーザー名］をタップします。

7 ユーザーの表示名を入力し、［OK］をタップします。

8 ［パスワード］があるときは、パスワードを設定します。

1) ［パスワード］をタップします。

2) ［新しいパスワード］を選び、パスワードを入力します。

3) ［次へ］をタップし、同じパスワードを入力します。

4) ［OK］をタップします。

補足
- 認証ユーザーが自分のパスワードを変更する方法は、「ユーザー自身でパスワードを変更する」(P.418) を参照してください。

9 必要に応じてメールアドレスを設定します。

1) ［メールアドレス］をタップします。

2) メールアドレスを入力し、［OK］をタップします。

補足
- メールアドレスは、認証時にメール送信での［送信者］の初期値に使用されます。

10 必要に応じて利用制限や権限を設定します。

■［デバイス利用許可］

本機の利用を許可するかどうかを設定します。

補足
- IC カードリーダー（オプション）が接続されている場合、許可するかどうかを認証方法ごとに設定できます。

■［サービスの利用制限］

サービスごとに利用制限や上限ページ数を指定します。サービスを選んでから［機能制限］または［上限ページ数］を設定し、［OK］をタップします。

■［ユーザーの権限］

ユーザーに権限を与えることができます。権限グループは［権限の追加設定］で設定します。

- ［一般ユーザーの権限］

  管理権限を持たない通常のユーザー権限です。

- ［機械管理の権限］

  機械管理者と同じ権限が与えられます。ただし、親展ボックス / ジョブフローの操作、機械管理者のパスワード変更はできません。

- ［集計管理の権限］

  集計管理に関する以下の権限が与えられます。

  - ユーザー情報の登録 / 変更（一部）/ 削除
  - 集計管理の登録 / 変更 / 削除
  - Account ID の代替表記 /Account ID の入力表示の変更
  - ユーザー別集計管理レポートのプリント

■[カード番号]

DocuLyzer（別売）を取り付けているときは、カード番号を設定します。

登録ユーザーを削除するとき

補足

- 削除するユーザーがオーナーになっているジョブフロー、親展ボックス、および親展ボックス内の文書も削除されます。ユーザーがオーナーになっている対象が多い場合（大量の文書が親展ボックス内に残っている場合など）は、削除に時間がかかります。

■ユーザーを個別に削除する

[ユーザー登録 / 集計確認]画面で削除するユーザー登録番号を選び、[すべての登録内容を削除] > [はい（削除する)]をタップします。

■すべてのユーザーを削除する

[認証の設定]画面で、[登録内容の削除 / 集計リセット]をタップし、[全ユーザーの登録内容]を選んでから[削除 / リセット] > [はい（削除する)]の順にタップします。

デフォルト権限グループを設定する（外部認証）

外部認証に設定したときのデフォルト権限グループの権限を設定します。

補足

- 以下の場合、すべてのユーザーはデフォルト権限グループに属します。
  - [認証システム]が[Authentication Agent]以外での認証ユーザー
  - 認証する前のユーザー

1. ホーム画面で[設定]をタップします。
2. [認証 / 集計管理] > [認証・セキュリティ設定]をタップします。
3. [認証の設定] > [権限グループ登録]をタップします。
4. [DefaultGroup（標準)]を選び、[登録 / 変更]をタップします。
5. 変更したい権限をタップし、設定を選びます。

補足

- お使いの機種またはオプションの取り付け状況によって、表示されない項目があります。

■[宛先指示方法の制限]

アドレス帳に登録されていない宛先への送信が制限されているときに、制限を解除するかどうかを設定します。

■[アドレス帳登録 / 変更の制限]

アドレス帳の編集が制限されているときに、制限を解除するかどうかを設定します。

■[強制印字の一時解除]

強制複製管理、UUID 印字、強制アノテーションなどの強制印字が設定されているときに、強制印字を一時的に解除できるようにするかどうかを設定します。

認証システムを設定する（外部認証）

外部認証サーバーを本機に登録します。

1 ホーム画面で［設定］をタップします。

2 ［ネットワーク設定］＞［外部認証サーバー / ディレクトリサービス設定］をタップします。

3 ［認証システムの設定］＞［認証システム］をタップします。

4 外部認証サーバーの種類を選び、［OK］をタップします。

補足
- 外部認証サーバーに、ApeosWare Management Suite 2（別売）を使用する場合は、［Authentication Agent］を選びます。

5 ［Authentication Agent］以外を選んだ場合は、［<］をタップしてから認証サーバーの情報を登録します。

参照
- 詳しくは、「[Kerberos サーバー設定]」(P.344)、「[LDAP サーバー / ディレクトリサービス設定]」(P.345)、「[SMB サーバー設定]」(P.348) を参照してください。
- Azure Active Directory の設定については、「外部認証の Azure Active Directory を設定する」(P.409) を参照してください。

外部認証の LDAP サーバーを設定する

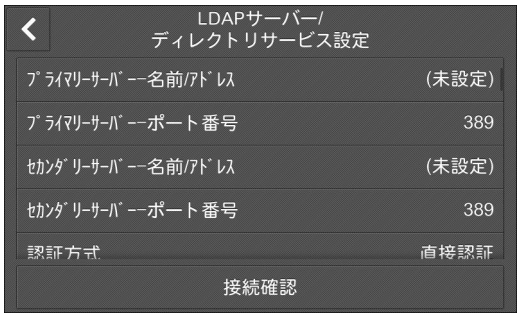
［認証システム］を［LDAP］に設定したときは、LDAP サーバーの情報を本機に登録します。

補足
- 本機が対応する LDAP サーバーは、Active Directory および OpenLDAP です。
- 手順で説明しているActive DirectoryでのDN形式や属性値の確認方法、グループにアカウントを追加する方法については、Microsoft 社の公式サイトを参照してください。
- 属性名などで操作パネルから入力できない文字列を使っている場合は、CentreWare Internet Services から設定してください。

1 ホーム画面で［設定］をタップします。

2 ［ネットワーク設定］＞［外部認証サーバー / ディレクトリサービス設定］をタップします。

3 ［LDAP サーバー/ ディレクトリサービス設定］>［プライマリーサーバー- 名前 / アドレス］をタップします。



4 LDAP サーバーの IP アドレス（またはホスト名）を入力し、［OK］をタップします。

補足
- LDAP サーバーのポート番号を変更するには、［プライマリーサーバー- ポート番号］で設定します。
- ［セカンダリーサーバー- 名前 / アドレス］、［セカンダリーサーバー- ポート番号］を設定しておくと、サーバーがメンテナンス中などで通信不能の場合に、自動的に代替サーバーに接続します。

5 ［認証方式］をタップし、LDAP サーバーへの認証方式を設定します。

■［直接認証］

ユーザー ID を使って、LDAP サーバーに認証を行います。

■［ユーザー属性認証］

特定の属性情報を基に、LDAP サーバーに認証を行います。たとえば、「mail」属性を設定しているときは、メールアドレスを入力してログインします。

［ユーザー属性認証］にするときは、［入力ユーザー名の属性］に属性名を設定します。

補足
- ユーザーごとに一意な値であることが保証される属性を設定してください。

6 ［認証用ユーザー名の属性］をタップし、ユーザーの表示名や識別子とする属性名を入力して［OK］をタップします。

補足
- ユーザーごとに一意な値であることが保証される属性を設定してください。
- 設定した属性が LDAP サーバーから取得できない場合は、ログインできません。
- 認証方式が［直接認証］の場合、操作パネルから認証時に入力するユーザー ID の属性と同じものを設定してください。

7 ログインするときの入力文字列に、補完情報を付与するかどうかを設定します。

たとえば、メールアドレス（user@myhost.example.com）を使って認証する場合、「@myhost.example.com」を追加する設定にしておくと、「user」のみの入力でログインできるようになります。

［ユーザー名追加文字列の使用］を［使用する］にして、［ユーザー名の追加文字列］に追加する文字列を設定します。

8 ［検索用の認証ユーザー］で、ディレクトリサービスで宛先などを検索する認証ユーザーを設定します。

■［外部認証のユーザー］

ログインしたユーザーの資格で LDAP サーバーを検索します。

補足
- ［外部認証のユーザー］は、［認証方式］が［直接認証］のときに選ぶことができます。

■［本体設定］

LDAP サーバーの検索資格をもつユーザーを登録し、その資格で LDAP サーバーを検索します。

［検索用ログイン名］および［検索用パスワード］に、必要情報を入力してください。

補足

- 検索用ログイン名は、基本的には DN 形式で入力してください。ただし、Active Directory の場合は表示名などの属性値を指定することも許可しています。詳しくは、Microsoft 社の公式サイトを参照してください。
- LDAP サーバーが匿名での検索を許可するように設定されている場合、[検索用ログイン名] と [検索用パスワード] を空欄に設定すると、匿名での検索が可能です。

9 ディレクトリツリー上の検索範囲を設定します。

補足

- ここで指定したエントリーがユーザー検索の基準になります。ログインするユーザーが含まれる階層のエントリーを指定してください。ただし、エントリー以下の階層に含まれるユーザーやグループの数が多すぎると、本機へのログインに時間がかかることがあります。適切な検索範囲を設定してください。

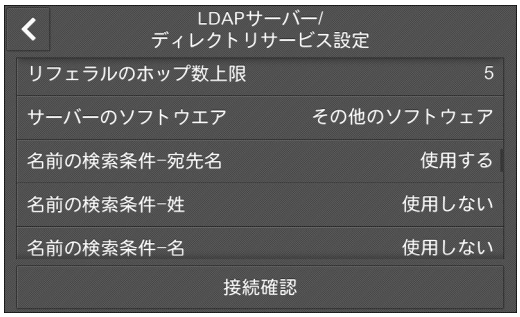
1) [検索起点エントリー（DN)] をタップし、検索の起点とするエントリーを DN 形式で入力して [OK] をタップします。

2) [起点からの検索範囲] で検索範囲を選びます。

3) 必要に応じて、[検索対象のオブジェクトクラス] をタップし、オブジェクトクラス名を入力して、{OK] をタップします。

10 ディレクトリーサーバーで使用されるソフトウェアを指定する場合は、[サーバーのソフトウェア] で設定します。

11 必要に応じて、検索の条件や属性型を定義します。



参照

- 詳しくは、「[LDAP サーバー / ディレクトリサービス設定]」(P.345) を参照してください。

12 ホームボタンを押し、[はい（再起動する)] をタップします。

その他の設定事例（LDAP）

本機と LDAP サーバー間の通信を暗号化したい

1 ホーム画面で［設定］をタップします。

2 ［ネットワーク設定］>［セキュリティ設定］をタップします。

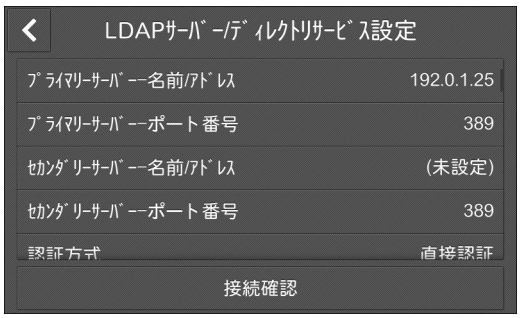
3 ［SSL/TLS 設定］をタップします。

4 ［LDAP-SSL/TLS 通信］を［有効］に設定します。

5 ［<］>［<］をタップします。

6 ［外部認証サーバー / ディレクトリサービス設定］をタップします。

7 ［LDAP サーバー / ディレクトリサービス設定］>［プライマリーサーバー - ポート番号］をタップします。



8 LDAPS が稼働するポート番号を入力し、［OK］をタップします。

補足

- 通常は 636 番ポートが使われますが、確認のうえ設定してください。

9 ホームボタンを押し、［はい（再起動する）］をタップします。

Active Directory で信頼関係を構築した LDAP サーバーのユーザーでログインしたい

次の条件を満たしている場合を例に、信頼関係先のドメインサーバー上のユーザーで本機にログインするための手順を説明します。

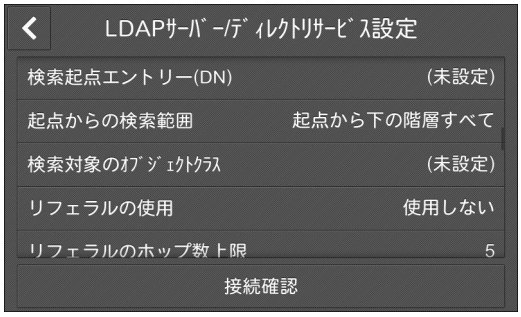
- ドメイン名に “w2k8adtest.local” が設定されている。
- ［Active Directory ドメインと信頼関係］で信頼関係が構築されている。

1 ホーム画面で［設定］をタップします。

2 ［ネットワーク設定］>［外部認証サーバー / ディレクトリサービス設定］をタップします。

3 ［LDAP サーバー / ディレクトリサービス設定］をタップします。

4 ［リフェラルの使用］を［使用する］に設定します。



5 必要に応じて、［リフェラルのホップ数上限］を設定します。

注記

- 接続するサーバー数の上限は［リフェラルのホップ数上限］で設定された数値までですので、この場合は 5 つの信頼関係先まで接続します。5 つを越える信頼関係先には接続しません。
- ［検索用の認証ユーザー］について、信頼関係先の LDAP サーバーにもアクセス資格が必要になります。
- セキュリティー機能の観点から、LDAPS が設定されている場合、非暗号の信頼関係先には接続しません。

6 ホームボタンを押し、［はい（再起動する）］をタップします。

ログインに時間がかかり、同じユーザーでログインに成功したり失敗したりする場合

LDAP サーバーやネットワークに負荷がかかっている可能性が高いため、基本的には使用環境の調査と見直しが必要です。

LDAP サーバーの検索範囲が大きすぎる場合、または検索範囲に含まれるエントリー数が多すぎることで時間がかかっている場合は、［ネットワーク設定］＞［外部認証サーバー / ディレクトリサービス設定］＞［LDAP サーバー / ディレクトリサービス設定］の［検索起点エントリー（DN）］を見直してください。

本機の LDAP サーバーへの通信時の待ち時間を十分長い時間に設定することでログインの失敗を回避できることがあります。ただし、ログインにかかる時間は短縮されないため、あくまでも暫定的な回避方法です。

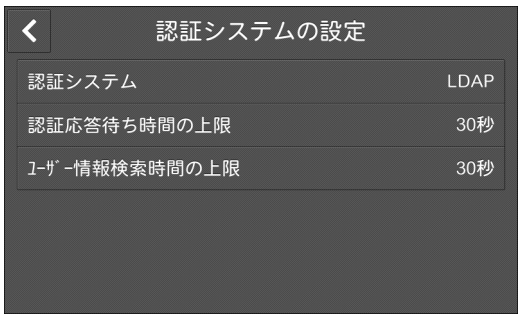
次の手順で通信時の待ち時間を設定できます。

1 ホーム画面で［設定］をタップします。

2 ［ネットワーク設定］＞［外部認証サーバー / ディレクトリサービス設定］をタップします。

3 ［認証システムの設定］をタップします。

4 以下の設定を確認し、必要に応じて変更します。



■[認証応答待ち時間の上限]

LDAP サーバーに認証要求を行った場合の、サーバーからの応答に対する待ち時間の上限を設定します。

ネットワークへの負荷が疑われる場合には、この値を変更してください。

■[ユーザー情報検索時間の上限]

LDAP サーバーに検索要求を行った場合の、サーバーからの応答に対する待ち時間の上限を設定します。

LDAP サーバーへの負荷が疑われる場合には、この値を変更してください。

5 ホームボタンを押し、[はい（再起動する）]をタップします。

外部認証の Azure Active Directory を設定する

[認証システム]を[Azure Active Directory]に設定したときは、Azure Active Directory を利用するための設定をします。

注記

- この機能は、ストレージが取り付けられ、かつ、ストレージに空きがある場合にのみ使用できます。
- この機能を利用するためには、EP-BB の契約をしている必要があります。詳しくは「EP システムについて」(P.572) を参照してください。また、EP 通信用のプロキシサーバーを設定する必要があります。設定方法は、「[EP プロキシサーバー設定]」(P.339) を参照してください。

補足

- Azure Active Directory の設定を変更する場合、事前に影響を確認してください。

参照

- Azure Active Directory について、詳しくは Microsoft 社の公式サイトを参照してください。

Azure Active Directory を使うための準備

■Azure Active Directory 上での管理者による同意

本機で Azure Active Directory を利用するには、本機が以下の各処理を行うことを、お客様に同意していただく必要があります。

- ユーザーの認証
- ユーザー名など基本情報の参照
- ユーザーのメールアドレスの参照
- ディレクトリ内に存在するグループ一覧の参照

同意の手順を説明します。

1 Web ブラウザーのアドレス入力欄に以下の URL を入力し、〈Enter〉キーを押します。

https://login.microsoftonline.com/common/adminconsent?client_id=8d4725eb-672b-4d11-8f26-069a8844097b&redirect_uri=https://account.fujixerox.com/consentResult.html

2 テナント管理者のアカウントでログインします。

3 権限に対する同意画面が表示されます。内容を確認し、[承諾]をクリックします。

4 同意成功の画面が表示されたら、Web ブラウザーを閉じます。

■DNS サーバーの設定

本機を使用するためには、DNS サーバーを設定する必要があります。

参照
- 設定方法は、「[IPv4 - DNS 設定]」(P.336)、または、「[IPv6 - DNS 設定]」(P.336) を参照してください。

■プロキシサーバー設定

本機能を使用するためには、プロキシサーバーを設定する必要があります。

参照
- 設定方法は、「[プロキシサーバー設定] / [プロキシサーバー設定 -Ethernet1]、[プロキシサーバー設定 -Ethernet2]、[プロキシサーバー設定 -Wi-Fi]」(P.338) を参照してください。

Azure Active Directory への接続情報を設定する

本機が Azure Active Directory に接続するために必要な情報の設定方法を説明します。

1 CentreWare Internet Services を起動し、機械管理者モードにログインします。

参照
- 詳しくは、「CentreWare Internet Services を起動する」(P.92) を参照してください。

2 左側のメニューから［認証 / 集計 / 権限］をクリックします。

3 ［認証設定］をクリックします。

4 ［外部認証］の［設定］をクリックします。

5 ［Azure Active Directory］を選び、［保存］をクリックします。

6 ［ディレクトリーID］に、お客様が契約されている Azure Active Directory のディレクトリ ID を入力します。

7 ［ドメイン設定］の［確認 / 変更］をクリックします。

8 Azure Active Directory のドメイン情報を入力します。

9 ［保存］>［保存］をクリックします。

10 本機を再起動する表示に変わったら、［はい（変更する)］をクリックします。

Azure Active Directory グループアカウントを設定する

ここでは、コピー機能へのアクセス権限を割り当てる Azure Active Directory グループアカウントを例に設定方法を説明します。

1 CentreWare Internet Services を起動し、機械管理者モードにログインします。

参照
- 詳しくは、「CentreWare Internet Services を起動する」(P.92) を参照してください。

2 左側のメニューから［認証 / 集計 / 権限］をクリックします。

3 ［認証設定］をクリックします。

4 ［外部認証］の［設定］をクリックします。

5 ［Azure Active Directory］を選び、［保存］をクリックします。

6 ［グループアカウントの権限設定］の［確認 / 変更］をクリックします。

7 ［コピー］をクリックします。

8 ［コピー］のグループに操作権限を割り当てたい Azure Active Directory グループのオブジェクト ID（OID）を xxxxxxxx-xxxx-xxxx-xxxx-xxxxxxxxxxxx の形式で入力します。xxxx は 16 進数です。

補足

- ログインしたユーザーがここで設定したグループアカウントに所属する場合、そのユーザーに対して操作権限を与えます。

参照

- Azure Active Directoryでのグループアカウントの DN の確認方法は、「Azure Active Directory グループのオブジェクト ID の確認方法」(P.411) を参照してください。

9 ［OK］をクリックします。

ほかの機能も制限する場合は手順 7 ～ 9 と同様に設定します。

10 ［保存］＞［保存］の順にクリックします。

その他の設定事例（Azure Active Directory）

Azure Active Directory グループのオブジェクト ID の確認方法

Azure Active Directory グループに登録されているオブジェクト ID を確認する方法を説明します。

1 Azure Portal に全体管理者でログインします。

2 ［Azure Active Directory］＞［グループ］で対象のグループを選びます。

3 ［オブジェクト ID］で Azure Active Directory のオブジェクト ID を確認します。

Azure Active Directory でグループにアカウントを追加する方法

Azure Active Directory で既存のグループにアカウントを追加する方法を説明します。

1 Azure Portal に全体管理者でログインします。

2 ［Azure Active Directory］＞［グループ］で対象のグループを選びます。

3 ［管理］領域の［メンバー］を選び、［メンバーの追加］をクリックします。

4 ［メンバーの選択または外部ユーザーの招待］から追加したいユーザーを選びます。

5 ［選択］をクリックします。

ログインに時間がかかり、同じユーザーでログインに成功したり失敗したりする場合

Azure Active Directory もしくはネットワークに負荷がかかっている可能性が高いため、基本的には使用環境の調査と見直しが必要です。

本機の Azure Active Directory への通信時の待ち時間を十分長い時間に設定することでログインの失敗を回避できることがあります。ただし、ログインにかかる時間は短縮されないため、あくまでも暫定的な回避方法です。

次の手順で通信時の待ち時間を設定できます。

1 CentreWare Internet Services を起動し、機械管理者モードにログインします。

参照
- 詳しくは、「CentreWare Internet Services を起動する」(P.92) を参照してください。

2 左側のメニューから［認証 / 集計 / 権限］をクリックします。

3 ［認証設定］>［詳細設定］をクリックします。

4 ［認証応答待ち時間の上限］と［ユーザー情報検索時間の上限］に適切な時間を入力します。

■［認証応答待ち時間の上限］

Azure Active Directory に認証要求を行った場合の、サーバーからの応答に対する待ち時間の上限を設定します。

ネットワークへの負荷が疑われる場合には、この値を変更してください。

■［ユーザー情報検索時間の上限］

Azure Active Directory に検索要求を行った場合の、サーバーからの応答に対する待ち時間の上限を設定します。

Azure Active Directory への負荷が疑われる場合には、この値を変更してください。

5 ［保存］をクリックします。

IC カード利用時にパスワードを省略したい

IC カード情報とユーザー情報ならびに当該ユーザーのリフレッシュトークンが複合機本体に保存されている場合、リフレッシュトークンの有効期間内であれば、パスワード入力を省略できます。

次の手順で、IC カード情報とユーザー情報ならびにリフレッシュトークンを複合機本体に保存できます。

1 IC カードを設定します。

補足
- IC カードの設定は、CentreWare Internet Services で行います。詳しくは、CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。

2 ［設定］>［認証 / 集計管理］>［認証・セキュリティ設定］>［認証の設定］>［認証情報の設定］>［外部認証情報の本体保存］を［する］に設定します。

3 IC カードをかざし、ユーザー ID とパスワードを入力します。

以降は、リフレッシュトークンの有効期間内は、IC カードをかざすだけで複合機へのログインが可能となります。

リフレッシュトークンの有効期間が切れた、またはリフレッシュトークンが無効となった場合は、再度ユーザー ID とパスワードの入力が必要です。

Azure Active Directory の情報を利用する

本機認証時に、Azure Active Directory からメールアドレスなどのユーザー属性情報を取得します。

補足

- 証明書は取得されません。

取得した情報は、本機使用時に以下の用途に利用します。

- 認証用ユーザー名は、ジョブのユーザーID およびジョブフローや親展ボックスの所有者として使用されます。
- メールアドレスは、メール送信の送信元アドレスなどとして使用されます。
- ホームディレクトリは、マイフォルダー保存の起点フォルダーに使用されます。

参照

- 設定方法は「マイフォルダーの設定」(P.62) を参照してください。

IC カードリーダー（オプション）で認証するための設定

IC カードに登録した情報によって認証したり、IC カードに登録した情報と本機に登録したユーザー情報を照合したりして、本機の利用制限やジョブなどの集計管理を行うことができます。

⚠警告

- 埋込み型心臓ペースメーカーおよび埋込み型除細動器を装着されている場合は、本装置または本装置のワイヤレスカードシステムのリーダライタ部（アンテナ部）から 12 cm 以上離れて携行および使用してください。電波により埋込み型心臓ペースメーカーおよび埋込み型除細動器の動作に影響を与える場合があります。
- 埋込み型心臓ペースメーカーおよび埋込み型除細動器以外の医用電気機器を本装置（ApeosPort 3060/2560/1860）の近傍で使用される場合には、電波による影響について個別に医用電気機器メーカーなどにご確認ください。電波により医用電気機器などの動作に影響を与える場合があります。

Step1 事前準備

使用できる IC カードの種類は、機種によって異なります。使用できる IC カードについては、お使いの IC カードリーダー（オプション）に付属のマニュアルを参照してください。

Step2 IC カードとパスワードの併用の設定

外部認証で、IC カードを使って本機にログインするときに、パスワードの入力を求めるかどうかを設定します。

1 ホーム画面で［設定］をタップします。

2 ［認証 / 集計管理］>［認証・セキュリティ設定］をタップします。

3 ［認証の設定］>［認証情報の設定］をタップします。

4 ［IC カード連携モード］でパスワード入力が必要かどうかを設定します。

5 ホームボタンを押し、［はい（再起動する）］をタップします。

Step3 IC カード使用時の認証解除の設定

IC カード使用時の認証解除方法を設定します。

1 ホーム画面で［設定］をタップします。

2 ［認証 / 集計管理］>［認証・セキュリティ設定］をタップします。

3 ［認証の設定］>［認証情報の設定］をタップします。

4 ［非接触型 IC カード設定］をタップします。

5 認証の解除方法を選び、［OK］をタップします。

参照
- 詳しくは、「［非接触型 IC カード設定］」(P.362) を参照してください。

6 ホームボタンを押し、［はい（再起動する）］をタップします。

Step4 IC カード情報の登録

機械管理者は、CentreWare Internet Services を使用して、IC カード情報と認証に使用する情報を設定します。

参照
- 詳しくは、CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。

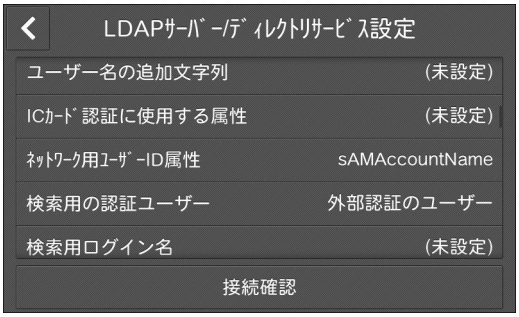
Step5 外部認証に LDAP サーバーを使うときの設定

IC カードの ID と対応させる属性と、認証後にユーザーの識別に使われる属性を設定します。

1 ホーム画面で［設定］をタップします。

2 ［ネットワーク設定］>［外部認証サーバー / ディレクトリサービス設定］をタップします。

3 ［LDAP サーバー / ディレクトリサービス設定］>［IC カード認証に使用する属性］をタップします。



4 IC カードの ID と対応させる属性名を入力し、［OK］をタップします。

補足
- 属性にはあらかじめカード ID が登録されている必要があります。
- ユーザーごとに一意な値であることが保証される属性を設定してください。

5 ［ネットワーク用ユーザー ID 属性］をタップします。

6 IC カードで認証したときに、ユーザーの表示名や識別子とする属性名を入力し、［OK］をタップします。

補足
- ユーザーごとに一意な値であることが保証される属性を設定してください。
- 設定した属性が LDAP サーバーから取得できない場合は、ログインできません。

7 ホームボタンを押し、［はい（再起動する）］をタップします。

集計管理するための設定

参照

- 認証モードと集計管理モードの関係については、「認証モードと集計管理モードの関係」(P.391) を参照してください。

1 ホーム画面で［設定］をタップします。

2 ［認証 / 集計管理］>［集計管理］をタップします。

3 ［集計管理機能の運用］をタップします。

4 集計管理モードを選び、［OK］をタップします。

参照

- 集計管理機能については、「集計管理モードの種類」(P.390) を参照してください。

ユーザー認証の操作

本機には、利用できるサービスを制限するための、認証機能があります。
制限されたサービスを利用するための認証とパスワードの変更について説明します。

登録ユーザーの認証

登録ユーザーを認証するには、本機の操作パネルを操作して認証する方法と、IC カードを IC カードリーダー（オプション）にタッチして認証する方法があります。

補足
- 本機への認証方法は、「認証モードへのログイン」(P.82) を参照してください。

パスワードの変更

ユーザー自身でパスワードを変更する

ユーザーが認証されているときは、ユーザー自身のパスワードを変更できます。

1. ホーム画面で、[設定] をタップします。
2. [認証 / 集計管理] > [ユーザー情報の設定] をタップします。
3. [パスワード変更] をタップします。
4. 現在のパスワードを入力し、[OK] をタップします。
5. [新しいパスワードを入力してください。] をタップします。
6. 新しいパスワードを入力し、[次へ] をタップします。
7. 同じパスワードを入力し、[OK] をタップします。

機械管理者がパスワードを設定 / 変更する

機械管理者は、CentreWare Internet Services を使用して、パスワードの設定や変更ができます。

参照
- タッチパネルディスプレイからのパスワードの設定 / 変更方法については、「[ユーザー登録 / 集計確認]」(P.355) を参照してください。

1. CentreWare Internet Services を起動し、機械管理者モードにログインします。

参照
- 詳しくは、「CentreWare Internet Services を起動する」(P.92) を参照してください。

2. 左側のメニューから [認証 / 集計 / 権限] をクリックします。
3. [アカウント一覧] から設定 / 変更するユーザーをクリックします。
4. [パスワード変更] をクリックします。
5. [新しいパスワード] に新しいパスワードを入力します。

6 ［パスワードの再入力］に同じパスワードを入力します。

7 ［保存］をクリックします。

16
日常の管理

消耗品を交換する

本機には、消耗品、および定期交換部品が用意されています。

消耗品 / 定期交換部品の種類
トナーカートリッジ（スポット保守サービス向け 9K）
トナーカートリッジ（トータル契約サービス向け 25K）
ドラムカートリッジ
ホチキス針 タイプ XE（2PCS）*1
ホチキス針 中とじ用タイプ XG（4PCS）*2
スタンプ交換キット（赤）

*1 :フィニッシャー A2（オプション）、フィニッシャー B3（オプション）用。
*2 :フィニッシャー B3 中とじユニット（オプション）用。

⚠警告

- こぼれたトナーを電気掃除機で吸い取らないでください。本製品内およびトナーカートリッジ、トナー回収ボトル等に付着したトナーを電気掃除機で吸引することもおやめください。掃除機を用いると、掃除機内部のトナーが、電気接点の火花などにより、発火または爆発するおそれがあります。床などにこぼしたトナーは、ほうきで掃き取るか、または石けん水を湿らした布などで拭き取ってください。大量にこぼれた場合、弊社カストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
- トナーカートリッジは、絶対に火中に投じないでください。トナーカートリッジに残っているトナーが発火または爆発する可能性があり、火傷のおそれがあります。使い終わった不要なトナーカートリッジは弊社にて回収いたしますので、必ず弊社カストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。

⚠注 意

- ドラムカートリッジやトナーカートリッジは幼児の手が届かないところに保管してください。幼児がトナーを飲み込んだ場合は、ただちに医師に相談し指示を受けてください。
- ドラムカートリッジやトナーカートリッジを交換する際は、トナーが飛散しないように注意してください。また、トナーが飛散した場合は、トナーが皮膚や衣服に付いたり、トナーを吸引したり、または目や口に入らないように注意してください。
- 次の事項に従って、応急処置をしてください。
  - トナーが皮膚や衣服に付着した場合は、石けんを使って水でよく洗い流してください。
  - トナーが目に入った場合は、目に痛みがなくなるまで15分以上多量の水でよく洗い、必要に応じて医師の診断を受けてください。
  - トナーを吸引した場合は、新鮮な空気のところへ移動し、多量の水でよくうがいをしてください。
  - トナーを飲み込んだ場合は、飲み込んだトナーを吐き出し、水でよく口の中をすすぎ、多量の水を飲んでください。すみやかに医師に相談し指示を受けてください。

消耗品 / 定期交換部品の取り扱いについて

- 消耗品 / 定期交換部品の箱は、立てた状態で保管しないでください。
- 消耗品 / 定期交換部品は、使用するまでは開封しないで、次のような場所を避けて保管してください。
  - 高温多湿の場所
  - 火気がある場所
  - 直射日光が当たる場所
  - ほこりが多い場所
- 消耗品 / 定期交換部品を使用するときは、取り扱い上の注意をよく読んでから使用してください。取り扱い上の注意は、消耗品 / 定期交換部品に同梱されているか、消耗品 / 定期交換部品の箱や容器に記載されています。
- 消耗品 / 定期交換部品は、予備を用意することをお勧めします。
- 消耗品 / 定期交換部品を発注するときは、商品コードを確認のうえ、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご注文ください。
- 弊社が推奨していない消耗品 / 定期交換部品を使用された場合、装置本来の品質や性能を発揮できないおそれがあります。本製品には、弊社が推奨する消耗品 / 定期交換部品をご使用ください。
- 本機が節電状態になっている場合は、トナーカートリッジを交換する前に、電源 / 節電ボタンを押して節電状態を解除し、ホーム画面の［設定］>［メーター確認］をタップしてください。

消耗品の状態確認

消耗品の状態は、［消耗品確認］画面で参照できます。

参照

- 消耗品確認については、「[消耗品確認]」(P.266) を参照してください。

トナーカートリッジを交換する

トナーの残量によって、次のようなメッセージが操作パネルのディスプレイに表示されます。メッセージに従って、処置してください。

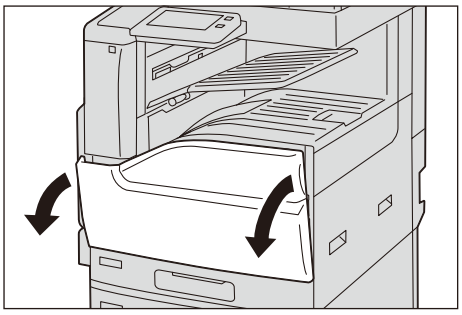
メッセージ	処置
予備を用意（トナーカートリッジ）	トナーカートリッジを交換する必要はありません。表示されたトナーカートリッジの予備を用意してください。 **補足** • メッセージが表示されてから、コピーまたはプリントできる残りページ数* は次のとおりです。 - ブラック：約 3,500 ページ
交換時期（トナーカートリッジ）	表示されたトナーカートリッジを交換してください。 **補足** • メッセージが表示されてから、コピーまたはプリントできる残りページ数* は約 40 ページです。
要交換（トナーカートリッジ）	本機が停止します。表示されたトナーカートリッジを交換してください。

* :使用可能ページ数は、A4（□）の用紙を使用した場合の枚数です。使用可能ページ数は、印字内容、用紙のサイズ、種類、使用環境などによって異なりますので、あくまでも目安としてお考えください。

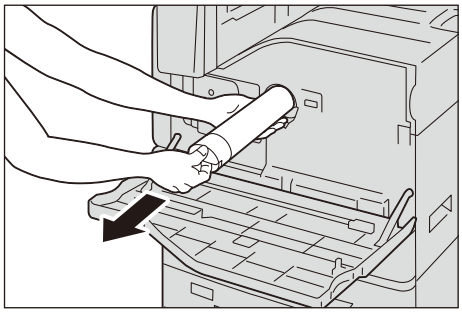
注記

- トナーカートリッジを交換するとき、トナーがこぼれて床面などを汚すことがあります。あらかじめ床に紙などを敷いて作業することをお勧めします。
- トナー残量が少なくなってきている場合、プリント中に本機が停止してメッセージが表示されることがあります。その場合は、トナーカートリッジを交換すると、コピー、またはプリントは継続されます。
- トナーカートリッジを交換するときは、本機の電源を入れたままの状態にしておいてください。
- 操作パネルのディスプレイに、「予備を用意（XXX）」とメッセージが表示されたあとは、コピー、またはプリント濃度が若干低下することがあります。

1 本機が停止していることを確認し、正面カバーを開けます。



2 トナーカートリッジを手前に静かに引いて、取り出します。

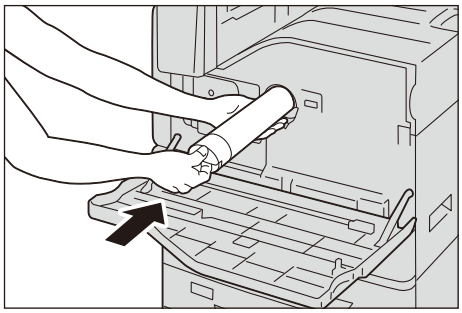


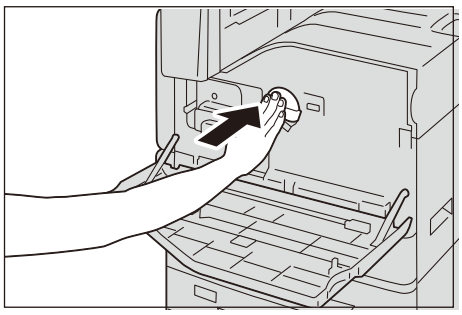
注記
- トナーカートリッジはゆっくりと引き出してください。トナーが飛び散ることがあります。
- 使い終わった不要なトナーカートリッジは弊社にて回収いたしますので、弊社カストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。

3 新しいトナーカートリッジを用意し、図のように軽く 10 回上下左右によく振ります。

注記
- シャッター部に触れないでください。

4 トナーカートリッジの矢印（↑）部を上に向けて、奥に突き当たるまで差し込みます。





5 正面カバーを閉じます。

ドラムカートリッジを交換する（スポット保守のお客様のみ）

ドラムカートリッジが寿命に近付くと、「予備を用意（保守を依頼）（ドラムカートリッジ）」というメッセージがディスプレイに表示されます。このメッセージが表示されたら、弊社のカストマーコンタクトセンターにご連絡ください。

メッセージが表示されたあと、交換しないで使い続けると、コピー、またはプリントが次のページ数に達したときに本機は停止し、コピー、またはプリントができなくなります。

- ApeosPort 3060：約 82,700 枚
- ApeosPort 2560：約 70,400 枚
- ApeosPort 1860：約 65,900 枚

ドラムカートリッジを交換するときには、コピーやプリントに濃度ムラや色ムラが発生するのを防ぐため、正面カバーの裏側に付属している清掃棒を使用して、LED プリントヘッド部を清掃してください。

補足

- ドラムカートリッジを、直射日光や室内蛍光灯の強い光に当てないでください。また、ドラムの表面に触れたり、傷を付けたりしないでください。きれいなプリントができなくなることがあります。
- 使用可能ページ数は、A4（□）の用紙を使用した場合の枚数です。用紙のサイズや方向、連続プリント枚数、使用環境などによって異なりますので、あくまでも目安としてお考えください。
- 操作パネルのディスプレイに、「予備を用意（保守を依頼）（ドラムカートリッジ）」が表示されたあとは、画像汚れが発生することがあります。
- ドラムカートリッジを交換するときは、タッチパネルディスプレイが点灯している場合もホーム画面の［設定］>［メーター確認］をタップして正確なドラムカートリッジの状態を確認してから、交換してください。

ホチキスカートリッジを交換する（フィニッシャー A2（オプション）装着時）

ホチキスの針の残量によって、次のようなメッセージがディスプレイに表示されます。メッセージに従って、処置してください。

メッセージ	処置
予備を用意（ホチキスカートリッジ（R1））	ホチキス針の予備を用意してください。 **補足** • ホチキス針の交換はできません。
要交換（ホチキスカートリッジ（R1））	ホチキス針を交換してください。

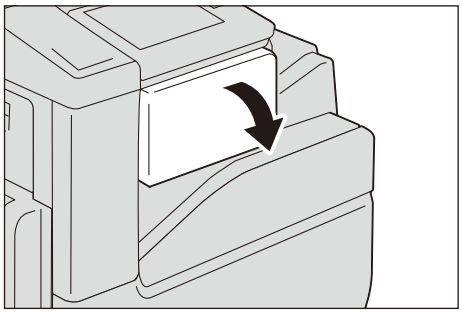
注記

- ホチキスカートリッジを交換するときは、タッチパネルディスプレイが点灯している場合でもホーム画面の［設定］>［メーター確認］をタップしてホチキスカートリッジの状態を確認してから、交換してください。

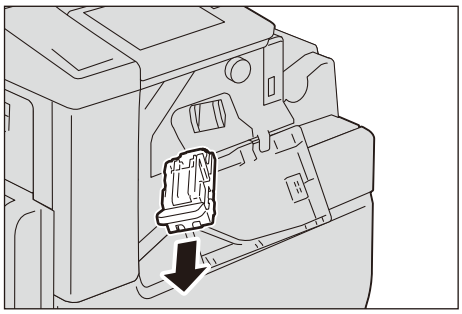
補足

- 交換がうまくいっていない場合、ディスプレイに交換を促すメッセージが表示されたままになります。その場合は、もう一度手順に従ってカートリッジをセットし直してください。

1 本機が停止していることを確認し、フィニッシャーの正面カバーをゆっくりと開けます。



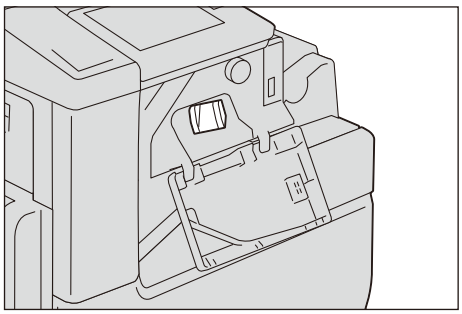
2 ホチキスカートリッジを取り出します。



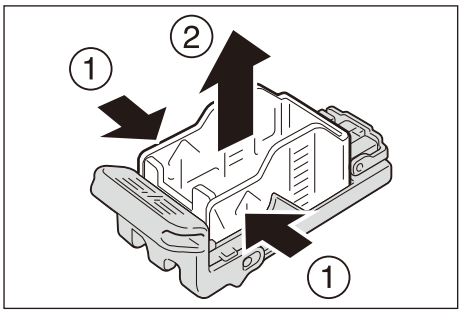
補足

- ホチキスカートリッジはしっかりセットされています。取り出すときは、強めにホチキスカートリッジを引いてください。

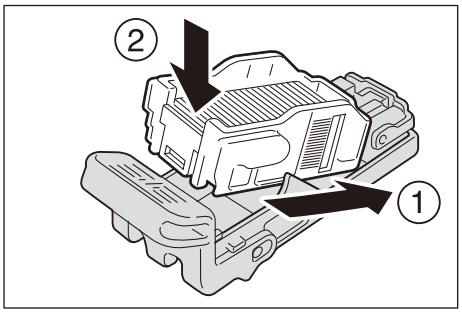
3 ホチキスカートリッジを取り出したあと、フィニッシャー内にホチキス針が残っていないことを確認します。ホチキス針があったら取り除いてください。



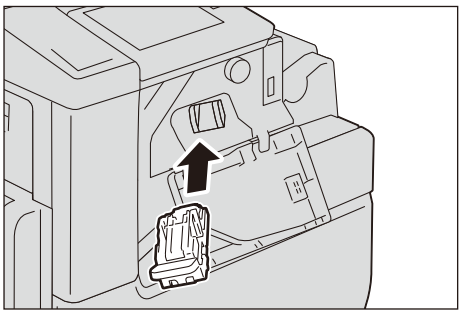
4 空になったホチキス針ケースの左右をつまみ（①）、ホチキスカートリッジから取り出します（②）。



5 新しいホチキス針ケースを用意し、ホチキスカートリッジに新しいホチキス針ケースを先端から挿入し（①）、後方を押してセットします（②）。



6 「カチッ」と音がするまで、ホチキスカートリッジを押し込みます。



7 フィニッシャーの正面カバーを閉じます。

ホチキスカートリッジを交換する（フィニッシャー B3（オプション）装着時）

ホチキスの針が無くなると、ディスプレイにメッセージが表示されます。メッセージが表示されたら、新しいホチキスカートリッジと交換してください。

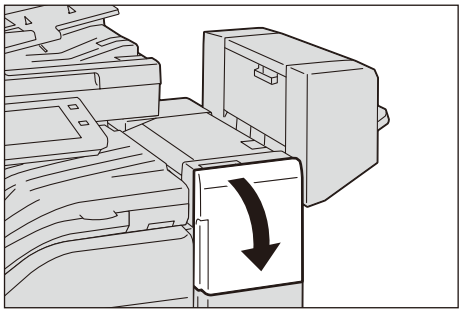
注記

- ホチキスカートリッジを交換するときは、タッチパネルディスプレイが点灯している場合でもホーム画面の［設定］>［メーター確認］をタップしてホチキスカートリッジの状態を確認してから、交換してください。

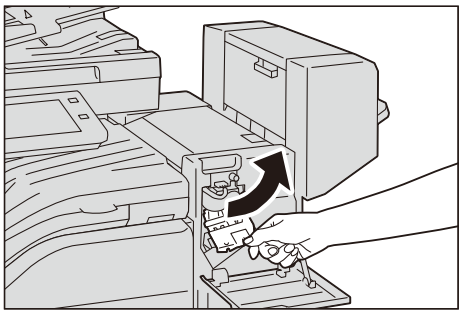
補足

- 交換がうまくいっていない場合、ディスプレイに交換を促すメッセージが表示されたままになります。その場合は、もう一度手順に従ってホチキスカートリッジをセットし直してください。

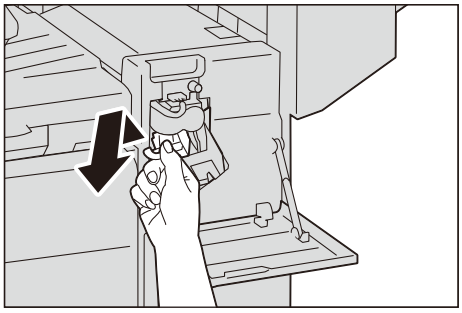
1 本機が停止していることを確認し、フィニッシャーの正面カバーを開けます。



2 ホチキスカートリッジ「R1」のつまみを持って、ホチキスカートリッジを右端（手前）へ引き寄せます。



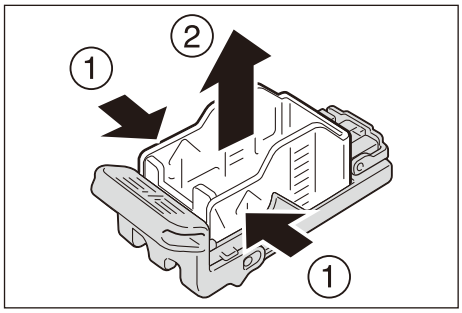
3 上方向へ引き上げ、ホチキスカートリッジを取り出します。



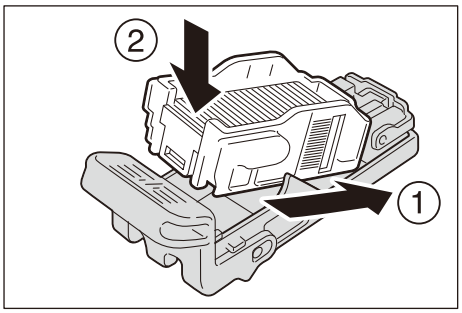
補足

- ホチキスカートリッジはしっかりセットされています。取り出すときは、強めにホチキスカートリッジを引いてください。

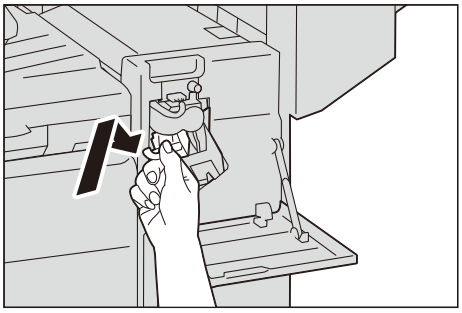
4 空になったホチキス針ケースの左右をつまみ（①）、ホチキスカートリッジから取り出します（②）。



5 新しいホチキス針ケースを用意し、ホチキスカートリッジに新しいホチキス針ケースを先端から挿入し（①）、後方を押してセットします（②）。



6 「カチッ」と音がするまで、ホチキスカートリッジを押し込みます。



7 フィニッシャーの正面カバーを閉じます。

中とじ用ホチキスカートリッジを交換する（フィニッシャーB3 中とじユニット（オプション）装着時）

ホチキス針の残量によって、次のようなメッセージがディスプレイに表示されます。メッセージに従って、処置してください。

メッセージ*	処置
予備を用意（中とじホチキスカートリッジ(R2)）	ホチキス針の予備を用意してください。 **補足** • ホチキス針の交換はできません。
要交換（中とじホチキスカートリッジ（R2））	ホチキス針を交換してください。

*：上記のメッセージは、中とじ用ホチキスの手前側（R2）が対象の場合です。奥側の場合は、「R2」が「R3」と表示されます。

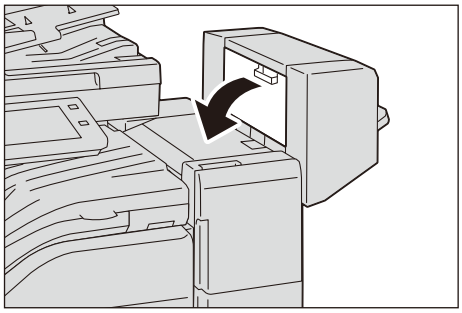
注記

• 中とじ用ホチキスカートリッジを交換するときは、タッチパネルディスプレイが点灯している場合でもホーム画面の［設定］>［メーター確認］をタップして中とじ用ホチキスカートリッジの状態を確認してから、交換してください。

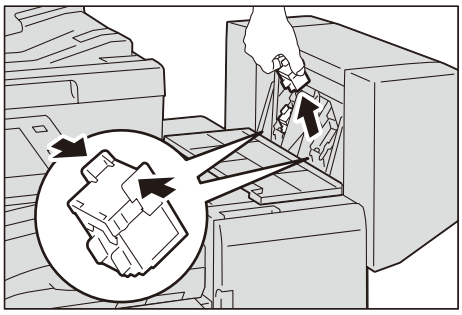
補足

• 交換がうまくいっていない場合、ディスプレイに交換を促すメッセージが表示されたままになります。その場合は、もう一度手順に従って中とじ用ホチキスカートリッジをセットし直してください。

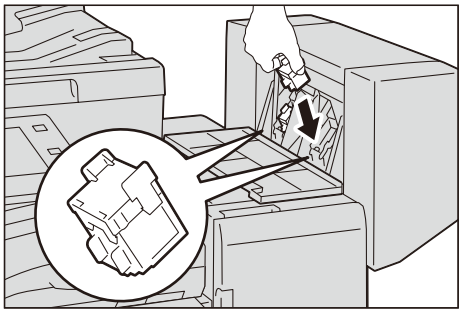
1 本機が停止していることを確認し、フィニッシャーの側面カバーを開けます。



2 中とじホチキスカートリッジの左右にあるツメを持ち、そのまま上に引きながら取り出します。



3 新しい中とじホチキスカートリッジの、左右にあるツメを持ちながら元の位置に戻し、上から軽く押して、「カチッ」と音がするのを確認します。



4 もう一方も同じように交換します。

5 フィニッシャーの側面カバーを閉じます。

パンチダストボックスのパンチくずを捨てる

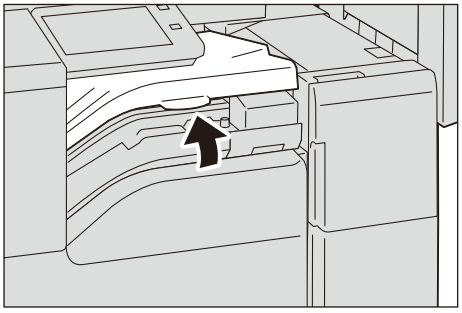
パンチダストボックスのパンチくずがいっぱいになると、ディスプレイにはメッセージが表示されます。表示されているメッセージに従って、パンチくずを捨ててください。

注記

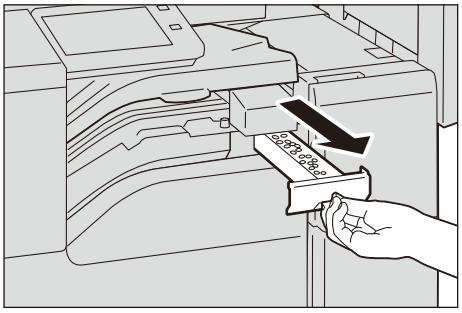
- パンチダストボックスのパンチくずを捨てるときは、本機の電源を入れたままの状態にしておいてください。電源を切ると、パンチくずを捨てたことを本機が認識できません。
- パンチダストボックスのパンチくずは、メッセージが表示されてから捨ててください。メッセージが表示される前に捨てると、正確なパンチくずの量を本機が認識できなくなります。
- パンチダストボックスのパンチくずは、必ずパンチくずが残らないように捨ててください。パンチくずが残っていると、メッセージが表示される前にパンチくずがいっぱいになり、故障の原因になります。
- 本機が節電状態になっている場合は、パンチダストボックスのパンチくずを捨てる前に、電源 / 節電ボタンを押して節電状態を解除し、ホーム画面の［設定］>［メーター確認］をタップしてください。
- パンチダストボックスのパンチくずを捨てるときは、タッチパネルディスプレイが点灯している場合でもホーム画面の［設定］>［メーター確認］をタップしてパンチダストボックスの状態を確認してから、パンチくずを捨ててください。

フィニッシャー B3（オプション）装着時の場合

1 本機が停止していることを確認し、フィニッシャー接続部上面カバーを上に持ち上げます。

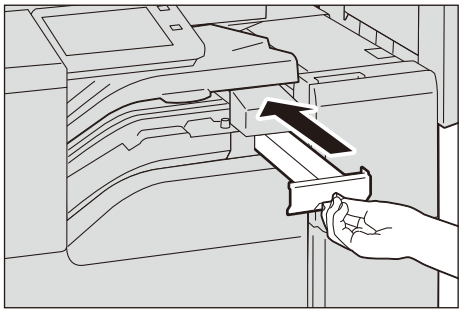


2 パンチダストボックスを手前へ引き抜きます。



3 パンチくずを、すべて捨てます。

4 空になったパンチダストボックスを、奥まで差し込みます。



5 フィニッシャー接続部上面カバーを閉じます。

スタンプを交換する

ファクス機能が使用できる場合で、通過スタンプキット（赤）（オプション）を使用しているときに、スタンプの写りが悪くなったら、スタンプインク（印体）を交換してください。

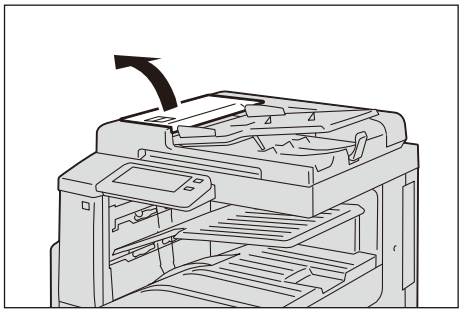
注記

- スタンプ面には直接手を触れないでください。手などに付着した場合はすみやかに洗ってください。
- 消耗品を使用するときは、消耗品の箱や容器に記載された取り扱い上の注意をよく読んでから使用してください。

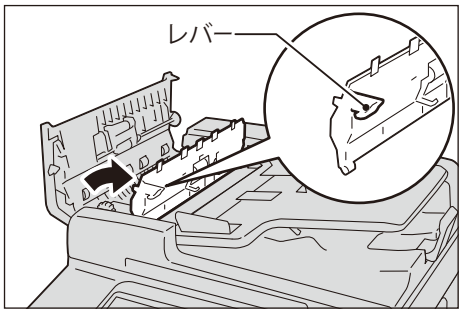
補足

- 消耗品は、弊社のカストマーコンタクトセンター、または販売店にご注文ください。

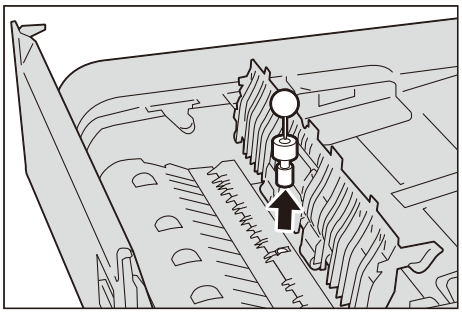
1 原稿送り装置の左側カバー手前の取っ手を引き上げて、止まるところまで開けます。



2 緑色のシールが貼られたレバーを持ち上げ、内カバーを開けます。



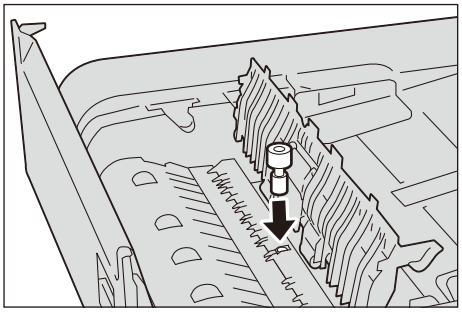
3 薄くなったスタンプの印体に、スタンプ交換キット（赤）に同梱のピンを突き刺して抜き取ります。



補足

- 印体のスポンジ部分だけ抜き取った場合は、印体の下部分も抜き取ってください。

4 新しいスタンプインク（印体）を差し込みます。



5 原稿送り装置の内カバーを閉じ、左側カバーを「カチッ」と音がするまで閉じます。

6 原稿送り装置の左側カバーを「カチッ」と音がするまで閉じ、カバーの手前や奥に浮きが無いことを確認します。

本体を清掃する

> ⚠警告
>
> 機械の性能の劣化を防ぎ安全を確保するため、清掃には指定されたものをご使用ください。スプレータイプのクリーナーは、引火や爆発の危険がありますので、絶対に使用しないでください。

> ⚠注意
>
> • 機械の清掃を行う場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。電源スイッチを切らずに機械の清掃を行うと、感電の原因となるおそれがあります。

本体外部の清掃

注記

- ベンジン、シンナーなどの揮発性のものを使用したり、殺虫剤をかけたりすると、カバー類の変色、変形、ひび割れの原因になります。
- 本機を水でぬらしすぎると、故障したりコピーするときに原稿が破れたりするおそれがあるので注意してください。

1 水でぬらして固く絞った柔らかい布で、本体の外側を拭きます。

注記

- 水または中性洗剤以外の洗浄液は、絶対に使用しないでください。

補足

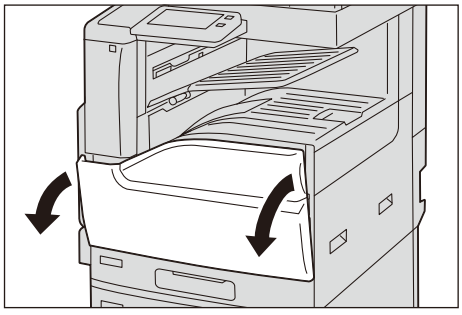
- 汚れが取れにくい場合は、柔らかい布に薄めの中性洗剤を少量含ませ、軽く拭いてください。

2 柔らかい布で、水分を拭き取ります。

本体内部（LED プリントヘッド部）の清掃

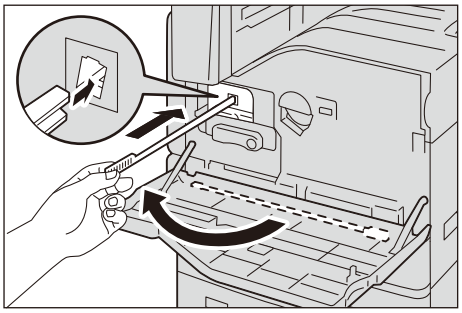
LED プリントヘッド部の清掃は、通常、ドラムカートリッジの交換時、およびトナー回収ボックスの交換時に行います。ただし、コピーやプリントに白筋や色筋がでるなど画質に影響がある場合は、LED プリントヘッド部を清掃してください。

1 本機が停止していることを確認し、正面カバーを開けます。

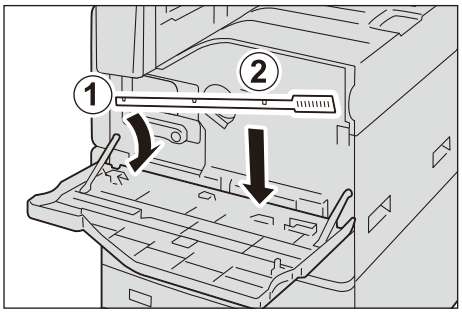


2 正面カバーの裏側に付属している清掃棒を取り出し、LED プリントヘッド部内をそれぞれ清掃します。

清掃棒の矢印（↑）部を上に向けて、奥に突き当たるまで差し込み、ゆっくりと引き抜きます。



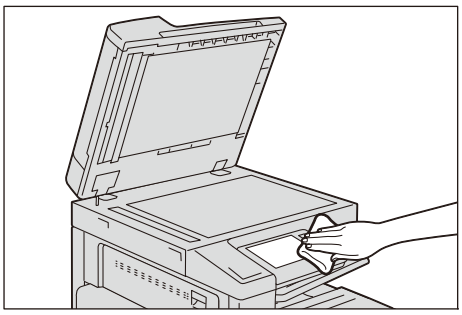
3 清掃棒を正面カバーの裏側にある元の場所に戻します。



4 正面カバーを閉じます。

タッチパネルの清掃

1 中性洗剤またはアルコールを染み込ませた柔らかい布で、液晶部だけを軽く拭きます。



注記

- 中性洗剤または、アルコールを布に染み込ませる量は、液垂れしない程度にしてください。染み込ませる量が多すぎた場合は軽く絞ってから拭いてください。
- ベンジン、シンナーなどの揮発性のものを使用したり、殺虫剤をかけたりすると、カバー類の変色、変形、ひび割れの原因になります。
- パネル部分を強い力でふくと損傷のおそれがあります。軽くふいてください。

原稿カバー、原稿ガラスの清掃

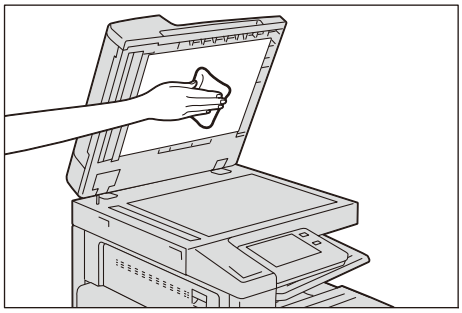
原稿カバー、原稿ガラスが汚れていると、コピー、ファクス、スキャン文書に汚れが出たり、原稿サイズを正しく検知しないことがあります。

いつもきれいなコピーなどをするために、1 か月に 1 回をめどに清掃してください。

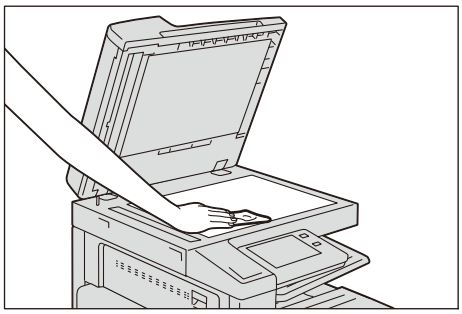
注記

- ベンジンやシンナーなどの薬品類は使用しないでください。プラスチック製品の塗装、コーティングなどを傷めることがあります。
- 本機を水でぬらしすぎると、故障したり原稿が破れたりするおそれがあるので注意してください。
- 水または中性洗剤以外の洗浄液は、絶対に使用しないでください。
- 汚れが取れにくい場合は、柔らかい布に薄めの中性洗剤を少量含ませ、軽くふいてください。

1 水で湿らせた柔らかい布で、原稿カバーの汚れをふき取ります。



2 水で湿らせた柔らかい布で、原稿ガラスの汚れをふき取り、乾いた柔らかい布でからぶきします。



フィルム、原稿読み取りガラスの清掃

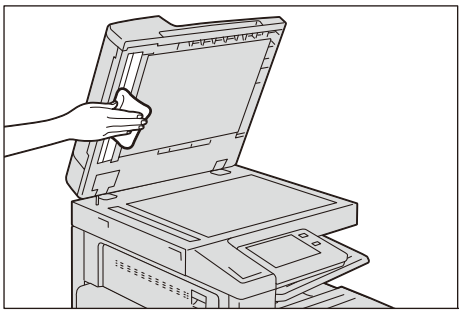
原稿送り装置のフィルム、原稿読み取りガラスが汚れていると、コピー、ファクス、スキャン文書に汚れが付着したり、原稿サイズを正しく検知しなかったりすることがあります。

いつもきれいなコピーなどをするために、1 か月に 1 回をめどに清掃してください。

注記

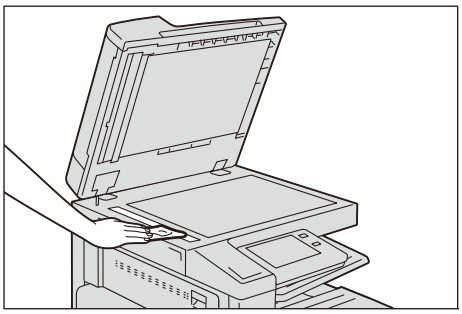
- ベンジンやシンナーなどの薬品類は使用しないでください。プラスチック製品の塗装、コーティングなどを傷めることがあります。
- 本機を水でぬらしすぎると、故障したり原稿が破れたりするおそれがあるので注意してください。
- 水または中性洗剤以外の洗浄液は、絶対に使用しないでください。
- 汚れが取れにくい場合は、柔らかい布に薄めの中性洗剤を少量含ませ、軽くふいてください。

1 水で湿らせた柔らかい布で、フィルムの汚れをふき取り、乾いた柔らかい布でからぶきします。



注記
- フィルムは破損しやすいので、強く押しすぎないでください。

2 水で湿らせた柔らかい布で、原稿読み取りガラスと裏面読み取りガラスの汚れをふき取り、乾いた柔らかい布でからぶきします。



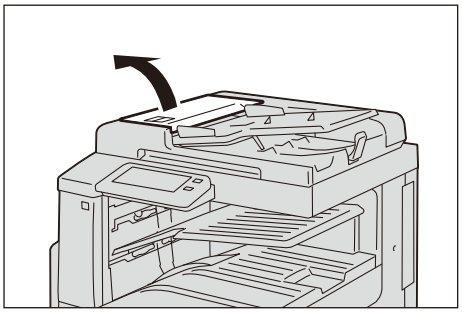
原稿送り装置のローラー部の清掃

原稿送り装置のローラーが汚れていると、コピー、ファクス、スキャン文書に汚れが出たり、原稿づまりの原因になることがあります。

いつもきれいなコピーなどをするために、1 か月に 1 回をめどに清掃してください。

注記
- ベンジンやシンナーなどの薬品類は使用しないでください。プラスチック製品の塗装、コーティングなどを傷めることがあります。
- 本機を水でぬらしすぎると、故障したりコピー、ファクス、スキャンやプリントするときに原稿が破れたりするおそれがあるので注意してください。

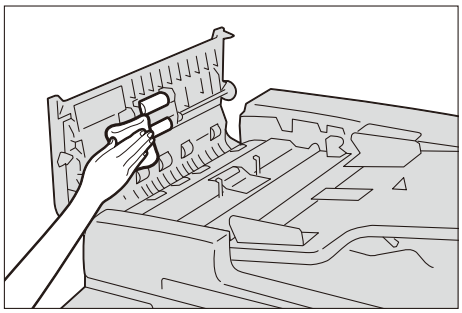
1 原稿送り装置の左側カバー手前の取っ手を引き上げて、左側カバーを止まるところまで開けます。



補足

- カバーを十分に開くと、固定される位置があります。カバーは、ゆっくりと開けてください。

2 ローラーを回しながら、少し水で湿らせた柔らかい布で清掃します。



注記

- 水または中性洗剤以外の洗浄液は、絶対に使用しないでください。
- 布は水滴が落ちない程度に固く絞ってご使用ください。内部に水滴が落ちると、誤動作を起こす場合があります。

補足

- 汚れが取れにくい場合は、柔らかい布に薄めの中性洗剤を少量含ませ、軽くふいてください。

3 原稿送り装置の左側カバーを「カチッ」と音がするまで閉じ、カバーの手前や奥に浮きが無いことを確認します。

設定復元ツール

設定復元ツールとは、本機のストレージの故障によるデータ消失に備えて、ネットワークで接続されたコンピューターに、設定データなどをバックアップする機能です。

ストレージの交換後に、データを復元することを目的としています。

設定復元ツールは、弊社公式サイトからダウンロードしてください。URL は次のとおりです。

https://www.fujixerox.co.jp/download/

補足

- 本機にストレージ、および Ethernet インターフェイスが取り付けられている場合に、バックアップできます。

次のデータがコンピューターにバックアップされます。

- アドレス帳
- 親展ボックス（文書データを除く）
- ユーザー登録リスト
- ジョブフロー
- ジョブログ
- エラーログ
- 監査ログ
- その他、お客様が設定した情報など

ストレージの交換はお客様ではできませんので、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。

アライメント調整を行う

手動アライメント調整

出力イメージの位置がずれている場合などに、調整値を入力してずれを調整します。

補足

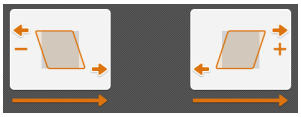
- 調整可能範囲以上の調整が必要な場合は、プリンタードライバーの［基本］タブの［とじしろ / プリント位置］でプリント位置の調整機能を使用してください。

調整可能項目

調整は次の順に行います。

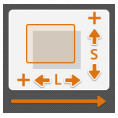
■直角度

副走査方向（用紙送り方向）の出力イメージの歪み（平行四辺形）を調整します。



■リード / サイドレジ

副走査方向（用紙送り方向）、主走査方向（用紙送り方向に対して垂直方向）の出力イメージの位置を調整します。



調整手順

1. 調整したいトレイに、調整したい用紙をセットします。

   補足

   - 調整のためのサンプルチャートを出力したいときは、以下のどれかの用紙をセットしてください。
     - A3、A4、11x17"、8.5x11"

2. ホーム画面で［設定］をタップします。
3. ［保守］>［画質調整］をタップします。
4. ［アライメント調整］をタップします。
5. 手順 1 で用紙をセットしたトレイを、［用紙選択］で選びます。

6 ［調整面］で調整する印刷面を選びます。

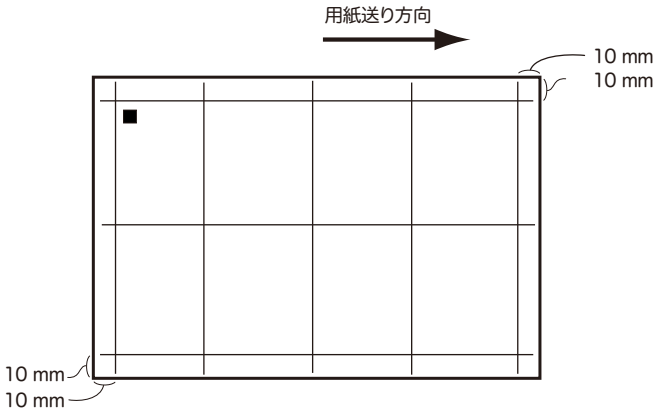
7 ［プリント設定］でサンプルのプリント枚数を指定します。

補足

- 出力ばらつきも考慮するため、サンプルは 3 枚程度プリントすることをお勧めします。

8 ［サンプル出力］をタップします。

9 出力されたサンプルを確認し、調整値を入力します。



補足

- 出力イメージの位置が正しい場合には、用紙の端から 10 mm の位置に線がプリントされます。ただし、手順 1 でサンプルチャート出力に対応していないサイズの用紙をセットしたときは、この限りではありません。
- 用紙送り方向を示すため、用紙の後端には■（黒い四角マーク）がプリントされます。おもて面には■が 1 つ、うら面には■が 2 つプリントされます。

参照

- 直角度の調整については、「直角度の調整」(P.442) を参照してください。
- リード / サイドレジの調整については、「リード / サイドレジの調整」(P.443) を参照してください。

10 ［調整値設定］をタップします。

調整値が反映されます。

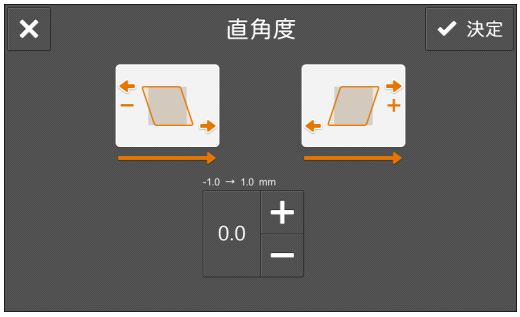
11 ［サンプル出力］をタップして、出力されたサンプルの調整結果を確認します。

12 必要があれば、もう一度、調整し直します。

直角度の調整

1 ［直角度］をタップします。

2 調整量を現在の設定値に加えた値を、入力します（1 ステップ =0.1 mm）。

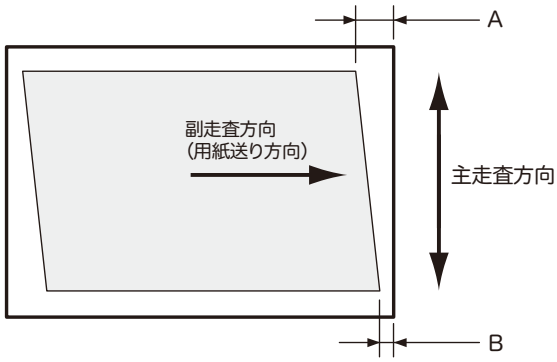


注記

- 直角度については、トレイや調整面に関わらず同一の調整値となり、トレイ / 調整面ごとの調整はできません。

補足

- 調整量（mm）= 傾き量（A と B の差分）（mm）× 300 ÷（用紙の主走査方向幅（mm）− 20）

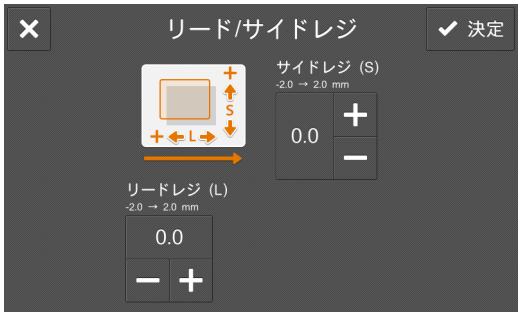


3 ［決定］をタップします。

リード / サイドレジの調整

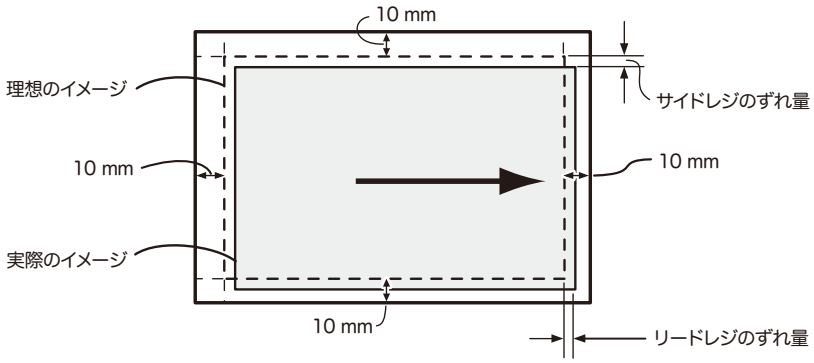
1 ［リード / サイドレジ］をタップします。

2 調整量を現在の設定値に加えた値を、入力します（1 ステップ =0.5 mm）。



補足

- 調整量（mm）= 実際のイメージ位置の用紙端からの距離（mm）− 10



3 ［決定］をタップします。

製本折り位置の調整

製本の折り位置とホチキス位置を調整します。

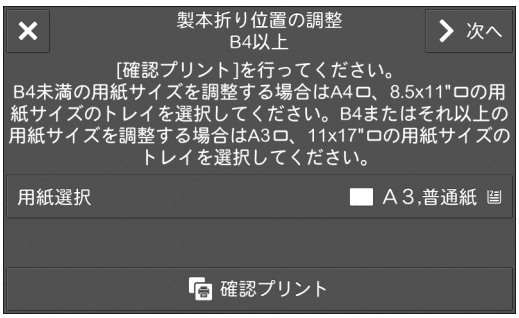
1 トレイに調整用の用紙をセットします。

2 ホーム画面で［設定］をタップします。

3 ［保守］をタップします。

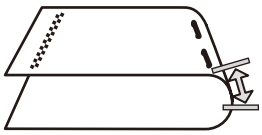
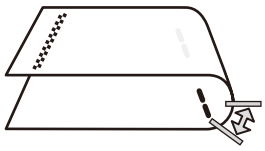
4 ［製本折り位置の調整］をタップします。

5 ［用紙選択］でセットした用紙トレイを選びます。



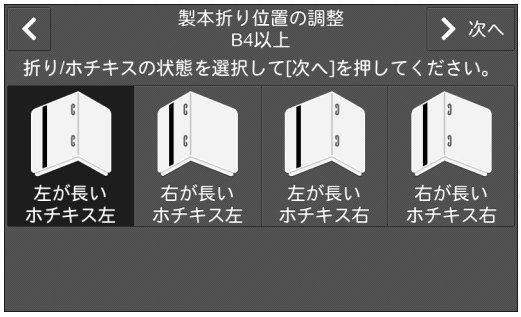
6 ［確認プリント］をタップします。

7 出力サンプルを確認して、位置のずれ量を計測します。

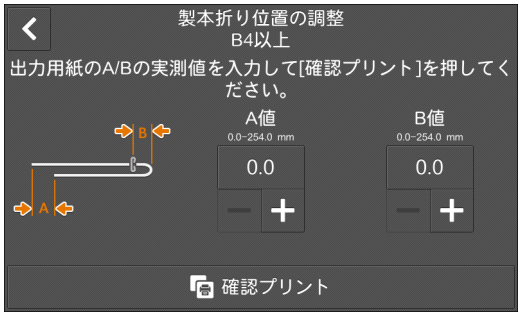
• ずれていないとき	• 印字されているページ側にホチキスが打たれているとき	• 印字されていないページ側にホチキスが打たれているとき
		
調整は不要です。	［左が長いホチキス左］または［右が長いホチキス左］を選び、ずれ量を入力します。	［左が長いホチキス右］または［右が長いホチキス右］を選び、ずれ量を入力します。

8 ［次へ］をタップします。

9 出力用紙の折りとホチキスの位置の状態を選んで、［次へ］をタップします。



10 計測したずれ量（A/B）を入力します。



11 ［確認プリント］をタップします。

12 出力サンプルの結果を確認します。

13 問題なく調整されていたときは、［終了］をタップします。

補足

- 再調整の必要がある場合は、［もう一度］をタップして手順９からやり直してください。

17

困ったときは

トラブルを解決する

本機にトラブルが発生した場合の処置について説明します。

補足

- EP システムを利用している場合、機械の点検や修理が必要になったときに、機械から弊社のカストマーコンタクトセンターに連絡が行きます。連絡を受けると、必要に応じて、カストマーエンジニアが訪問します。
- EP システムは、一部の地域で利用できない場合があります。適用については、弊社の営業担当者または販売店にお問い合わせください。

参照

- EP システムについては、「EP システムについて」(P.572) を参照してください。

機械本体のトラブル

故障かなと思う前に、もう一度、本機の状態を確認してください。

症　状	原　因	処　置
電源が入らない	電源が切れていませんか？	電源を入れてください。 参照 •「本機をセットアップする」(P.37) を参照してください。
	電源プラグがコンセントに差し込まれていますか？	電源をいったん切り、電源コードを確実に差し込んでください。そのあと、電源を入れてください。 参照 •「電源について」(P.38) を参照してください。
	本機側の電源コードのコネクターが抜けていませんか？	
	電源の電圧が適切ですか？	電源が 100 V、15 A であることを確認してください。本機の最大消費電力に見合った電源容量が確保されていることを確認してください。
状態表示ランプがオレンジ色で点滅している	本機のシステムや付属機器にトラブルが発生しているおそれがあります。	本機の電源を切って、入れ直してください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
	用紙づまり、原稿づまりが発生していませんか？	詰まった用紙や原稿を取り除いてください。 参照 • 用紙が詰まった場合は、「用紙が詰まった場合」(P.488) を、原稿が詰まった場合は、「原稿が詰まった場合」(P.499) を参照してください。
	本機の正面カバーや上面カバーなどが開いていませんか？	表示されているメッセージに従って処置してください。
	ディスプレイに消耗品の交換を促すメッセージが表示されていませんか？	メッセージに表示されている消耗品を交換してください。 参照 •「消耗品を交換する」 (P.422) を参照してください。
	ディスプレイの上部にメッセージが表示されていませんか？	メッセージの内容を確認し、処置してください。また、メッセージの末尾に「016-450」などの番号が表示されている場合はエラーコードの表で内容を確認し、処置してください。 参照 •「エラーコード」(P.508) を参照してください。
ディスプレイが暗い	節電状態に入っていませんか？	電源 / 節電ボタンを押して、節電状態を解除してください。 参照 •「本機をセットアップする」(P.37) を参照してください。
プリントできない、またはコピーできない	操作パネルのディスプレイにメッセージが表示されていませんか？	表示されているメッセージに従って処置してください。

症　状	原　因	処　置
プリントできない、またはコピーできない	メモリー容量が不足していませんか？	次のどれかの方法で処置してください。 • プリンタードライバーで［印刷モード］を［標準］にするか、［ページ印刷モード］を利用して再プリントする • 使用していないポートを［停止］に設定する
	プリンターモードがオフラインになっていませんか？	ホーム画面で、［プリンターモード］を確認してください。［オフライン］になっていたら、［オンライン］を選択してください。
	プリンタードライバーがオフラインになっていませんか？	プリンターアイコンを開いて、プリンターメニューのオフライン使用のチェックを外してください。
	電源コードのコネクターが抜けていませんか？	電源をいったん切り、電源コードを確実に差し込んでください。そのあと、電源を入れてください。 参照 •「電源について」(P.38) を参照してください。
プリントまたはコピー開始に時間がかかる	次のような状況ではありませんか？ • 長時間空けて電源を入れた • スリープ復帰直後に出力した • 大量の文書を出力した	設置環境の変化やスリープ復帰の直後、あるいは大量の文書を出力した際など、画質調整が行われて出力開始に時間がかかることがあります。
プリントを指示したのにデータランプが点滅しない	インターフェイスケーブルが抜けていませんか？	インターフェイスケーブルの接続を確認してください。 参照 •「本機をコンピューターに接続する」(P.40) を参照してください。
	使用するポートが［起動］に設定されていますか？	使用するポートの状態を確認し、［起動］に設定してください。 参照 •「[ポート設定]」(P.329) を参照してください。
用紙トレイ 5（手差し）にプリントを指示したのにプリントされない	指定したサイズの用紙がセットされていますか？	表示されたメッセージに従って、正しいサイズの用紙をセットして、もう一度プリントを指示してください。 参照 •「用紙トレイ　5（手差し）に用紙をセットする」(P.99) を参照してください。
印字品質がよくない	画質のトラブルが発生しているおそれがあります。	後述の「画質のトラブル」を参照して処置してください。 参照 •「画質のトラブル」(P.454) を参照してください。
正しい文字が印字されない（文字化けが起こる）	本機に標準で搭載されていないフォントを使用してプリントしています。	アプリケーションまたはプリンタードライバーの設定を確認してください。 PostScript（オプション）を使用している場合は、必要なフォントを本機にダウンロードしてください。
用紙トレイの出し入れができない	プリント中にカバーを開けたり、電源を切ったりしませんでしたか？	無理に用紙トレイを出し入れしないで、電源を切ってください。数秒経過後、電源を入れてください。本機がデータを受信できる状態になったことを確認して、用紙トレイの出し入れをしてください。

症　状	原　因	処　置
希望のサイズにコピーされない	原稿ガラスまたは原稿カバーが汚れていませんか？	原稿ガラスまたは原稿カバーを清掃してください。 参照 •「原稿カバー、原稿ガラスの清掃」(P.437) を参照してください。
	OHP フィルムなどの透過度が高い原稿ですか？	原稿ガラスに原稿をセットし、その上に白紙を載せてコピーしてください。
	原稿がずれていませんか？ 原稿が正しくセットされていますか？	原稿を正しくセットしてください。 参照 •「原稿をセットする」 (P.104) を参照してください。
	原稿送り装置の原稿ガイドがずれていませんか？	原稿ガイドを正しくセットしてください。 参照 •「原稿をセットする」 (P.104) を参照してください。
	原稿が折れ曲がっていませんか？	原稿をのばして正しくセットし直してください。 参照 •「原稿をセットする」 (P.104) を参照してください。
	定形外サイズの原稿をセットしていませんか？	原稿のサイズを入力してください。 参照 •「原稿をセットする」 (P.104) を参照してください。
用紙づまり、紙しわがたびたび発生する	用紙が用紙トレイに正しくセットされていますか？	用紙を正しくセットしてください。 参照 •「用紙をセットする」(P.94)を参照してください。
	用紙トレイが正しくセットされていますか？	用紙トレイを確実に奥まで押し込んで正しくセットしてください。 参照 •「用紙をセットする」(P.94)を参照してください。
	用紙が湿気を含んでいませんか？	未開封の用紙と交換してください。 参照 •「用紙をセットする」(P.94)を参照してください。
	用紙がカールしていませんか？	用紙トレイ内の用紙をうら返すか、未開封の用紙と交換してください。 参照 •「用紙をセットする」(P.94)を参照してください。
	用紙と用紙トレイの設定は正しいですか？	セットしている用紙に合わせて、正しく用紙と用紙トレイを設定してください。 参照 •「[共通設定]」(P.263) を参照してください。

症　状	原　因	処　置
用紙づまり､紙しわがたびたび発生する	機械の内部に詰まった用紙や紙片が残っていたり、異物が入っていませんか？	機械を開けるか、用紙トレイを引き出して、紙片や異物を取り除いてください。 参照 •「用紙が詰まった場合」 (P.488)、「用紙をセットする」(P.94) を参照してください。
	規格外の用紙がトレイに入っていませんか？	使用基準内の用紙と交換してください。 参照 •「用紙について」　(P.94)、「用紙をセットする」(P.94) を参照してください。
	用紙トレイ内の用紙上限線を超えて、用紙をセットしていませんか？	用紙トレイ内の用紙上限線を超えないように、用紙をセットしてください。 参照 •「用紙をセットする」(P.94) を参照してください。
	用紙ガイドが正しくセットされていますか？	用紙を正しくセットして、用紙ガイドを用紙に軽く当てるように合わせてください。
	用紙いっぱいに画像がありませんか？	先端のわく消し量を増やしてください。 参照 • コピーの場合は「コピー」 (P.129)、プリントの場合はプリンタードライバーのヘルプを参照してください。
	用紙がきれいに裁断されていますか？	用紙の種類によっては、きれいに裁断されていない場合があります。よくさばいてから用紙をセットしてください。
原稿が送り込まれない	原稿が小さくありませんか？	原稿を正しくセットしてください。 参照 • 原稿送り装置にセットできる原稿のサイズについては､「原稿をセットする」(P.104) を参照してください。
用紙トレイ 5（手差し）に用紙をセットするとエラーメッセージが表示される	用紙トレイ 5（手差し）の手前にある用紙ガイドの位置がずれていませんか？	用紙ガイドを正しい位置にセットしてください。 参照 •「用紙トレイ　5（手差し）に用紙をセットする」(P.99) を参照してください。
原稿がたびたび詰まる	適切な原稿を使用していますか？	原稿送り装置に適した原稿を正しくセットしてください。 参照 •「原稿をセットする」 (P.104) を参照してください。
	変形原稿や名刺、OHP フィルム、薄い原稿を使用していませんか？	
	付せん紙やクリップ、セロハンテープなどをつけたまま使用していませんか？	付せん紙やクリップ、セロハンテープなどを取ってからコピーしてください。
	原稿ガイドの位置がずれていませんか？	原稿ガイドを正しくセットしてください。 参照 •「原稿をセットする」 (P.104) を参照してください。

症　状	原　因	処　置
原稿がたびたび詰まる	原稿の一部が破れて、原稿送り装置に紙片が残っていませんか？	原稿送り装置のカバーを開けて確認してください。 参照 •「原稿が詰まった場合」 (P.499) を参照してください。
	サイズの異なる原稿を読み込むときに、[ミックスサイズ原稿送り]の設定が[する]になっていますか？	[ミックスサイズ原稿送り］の設定を［する］にしてください。 参照 •「[ミックスサイズ原稿送り]」(P.137) を参照してください。
	ミックスサイズ原稿送り機能を使用しているときに、A5 サイズの原稿をよこ置き（⏍）にして原稿送り装置にセットしていませんか？	A5 サイズの原稿は、たて置き（⏍）にセットしてください。
原稿の端が折れる	原稿がカールしていませんか？	原稿のカールを直してから、セットしてください。
ホチキスがうまく留められない	ホチキスカートリッジに針づまりなどが発生していませんか？	詰まった針を取り除くなどの処置をしてください。 参照 •「ホチキスがうまく留められないとき」 (P.502) を参照してください。
	プリンタードライバーが正しく設定されていますか？	コンピューターからプリントする場合、プリンタードライバーの［印刷設定］で［ホチキス］の設定を確認してください。

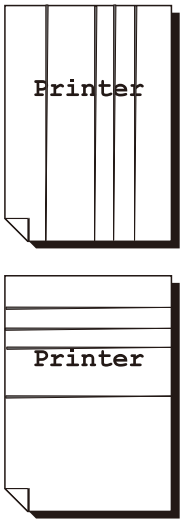
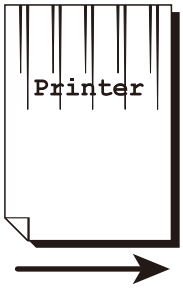
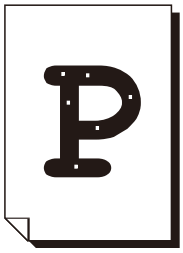
画質のトラブル

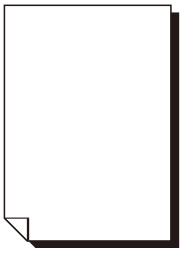
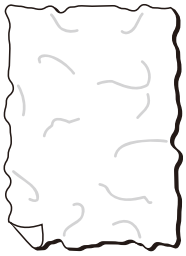
プリント結果の画質が悪い場合は、次の表から最も近いと思われる症状を選び、処置してください。

該当する処置をしても画質が改善されない場合は、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。

症　　状	処　　置
コピーが汚れている	原稿ガラスまたは原稿カバーが汚れているときは、清掃してください。 **参照** •「原稿カバー、原稿ガラスの清掃」(P.437) を参照してください。
	OHP フィルムなどの透過度が高い原稿では、原稿カバーの汚れがコピーに写ります。原稿の上に白紙を載せてコピーしてください。
	原稿がカラーペーパー、ざら紙、青焼きなどの場合、背景色がコピーされることがあります。 濃度や画質を調整してコピーしてください。 **参照** •「機能リスト」(P.135) を参照してください。
	原稿が光沢のある印画紙の場合、原稿ガラスに張り付きやすく、影が汚れのようにコピーされることがあります。OHP フィルムなどの透明フィルムを原稿の下に敷いてコピーしてください。
コピーに黒筋が入る	原稿読み取りガラスを清掃してください。 **参照** •「フィルム、原稿読み取りガラスの清掃」(P.437) を参照してください。
コピーがわずかにずれる	用紙をそろえて、用紙の先端を用紙トレイの角に合わせてセットしてください。 **参照** •「用紙をセットする」(P.94) を参照してください。
コピーがずれたり、曲がって写る	原稿を正しくセットしてください。 **参照** •「原稿をセットする」(P.104) を参照してください。
	用紙を正しくセットしてください。 **参照** •「用紙をセットする」(P.94) を参照してください。
	用紙トレイ 5（手差し）から給紙するときは、用紙ガイドが用紙に触れるように正しくセットしてください。 **参照** •「用紙トレイ 5（手差し）に用紙をセットする」(P.99) を参照してください。
	原稿送り装置に原稿をセットするときは、原稿ガイドを原稿の両端に当ててください。 **参照** •「原稿をセットする」(P.104) を参照してください。

症　状	処　置
コピーが部分的に写らない	用紙が湿気を含んでいると、コピーが部分的に写らなかったり、不鮮明になります。未開封の用紙と交換してください。
	トレイの用紙に折り目やしわが入っていないかを確認してください。または、未開封の用紙と交換してください。
	貼り合わせ原稿や折り込みの原稿の場合、貼り合わせたのりの部分や折りの部分が反り返って、原稿ガラスに密着せず、原稿が浮いていることが考えられます。 原稿の上に白紙の束を載せて、原稿ガラスに密着するようにセットしてください。
コピーをすると縞模様が発生する	拡大コピーをすると、倍率によって縞模様が発生することがあります。コピーの倍率を調整してください。 **参照** •「[倍率選択]」(P.135) を参照してください。
プリントがうすい (かすれる、不鮮明) 	用紙が湿気を含んでいることがあります。新しい用紙と交換してください。 **参照** •「用紙をセットする」(P.94) を参照してください。
	ドラムカートリッジが劣化、または損傷していることがあります。新しいドラムカートリッジと交換してください。 **参照** •「ドラムカートリッジを交換する（スポット保守のお客様のみ）」(P.426) を参照してください。
	トナーカートリッジ内にトナーが残っていないことがあります。新しいトナーカートリッジと交換してください。 **参照** •「トナーカートリッジを交換する」(P.424) を参照してください。
黒点がプリントされる 	ドラムカートリッジが劣化、または損傷していることがあります。新しいドラムカートリッジと交換してください。 **参照** •「ドラムカートリッジを交換する（スポット保守のお客様のみ）」(P.426) を参照してください。

症　状	処　置
黒線がプリントされる  	ドラムカートリッジが劣化、または損傷していることがあります。新しいドラムカートリッジと交換してください。 **参照** •「ドラムカートリッジを交換する（スポット保守のお客様のみ）」(P.426) を参照してください。
	本体内部を清掃してください。 **参照** •「本体内部（LED プリントヘッド部）の清掃」(P.435) を参照してください。
	原稿読み取りガラスを清掃してください。 **参照** •「フィルム、原稿読み取りガラスの清掃」(P.437) を参照してください。
等間隔に汚れが起きる  	用紙搬送路に汚れが付着していることがあります。数枚プリントしてください。
	ドラムカートリッジが劣化、または損傷していることがあります。新しいドラムカートリッジと交換してください。 **参照** •「ドラムカートリッジを交換する（スポット保守のお客様のみ）」(P.426) を参照してください。
黒くぬりつぶされた部分に白点が現れる 	使用している用紙が適切かどうかを確認してください。 **参照** •「用紙をセットする」(P.94) を参照してください。
	ドラムカートリッジが劣化、または損傷していることがあります。新しいドラムカートリッジと交換してください。 **参照** •「ドラムカートリッジを交換する（スポット保守のお客様のみ）」(P.426) を参照してください。
指でこするとかすれる トナーが定着しない 用紙がトナーで汚れる 	用紙が湿気を含んでいることがあります。新しい用紙と交換してください。 **参照** •「用紙をセットする」(P.94) を参照してください。
	使用している用紙が適切かどうかを確認してください。 **参照** •「用紙をセットする」(P.94) を参照してください。

症　状	処　置
用紙全体が黒くプリントされる 	ドラムカートリッジが劣化、または損傷していることがあります。新しいドラムカートリッジと交換してください。 **参照** •「ドラムカートリッジを交換する（スポット保守のお客様のみ）」(P.426) を参照してください。
	高圧電源の故障が考えられます。弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
何もプリントされない 	一度に複数枚の用紙が搬送されています（重送）。用紙をよくさばいてからセットし直してください。
	電源または高圧電源の故障が考えられます。弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。
白抜けや白筋または白もやが出る 	用紙が湿気を含んでいることがあります。新しい用紙と交換してください。 **参照** •「用紙をセットする」(P.94) を参照してください。
	使用している用紙が適切かどうかを確認してください。 **参照** •「用紙をセットする」(P.94) を参照してください。
	本体内部を清掃してください。 **参照** •「本体内部（LED プリントヘッド部）の清掃」(P.435) を参照してください。
全体がうっすらとプリントされる 	用紙トレイ 5（手差し）を使用してプリントしたときに、プリンタードライバーで指定した用紙と実際にセットされている用紙が異なっています。 用紙トレイ 5（手差し）に、正しい種類とサイズの用紙をセットしてください。 **参照** •「用紙トレイ 5（手差し）に用紙をセットする」(P.99) を参照してください。
	一度に複数枚の用紙が搬送されています（重送）。用紙をよくさばいてからセットし直してください。
用紙にしわが付く 	使用している用紙が適切かどうかを確認してください。 **参照** •「用紙をセットする」(P.94) を参照してください。
	トレイに残っている用紙の上に新しい用紙を補給しないでください。 用紙が湿気を含んでいることがあります。新しい用紙と交換してください。 **参照** •「用紙をセットする」(P.94) を参照してください。

症　状	処　置
文字がにじむ 	使用している用紙が適切かどうかを確認してください。 **参照** •「用紙をセットする」(P.94) を参照してください。
	用紙が湿気を含んでいることがあります。新しい用紙と交換してください。 **参照** •「用紙をセットする」(P.94) を参照してください。
たて長に白抜けする 排出方向	ドラムカートリッジが劣化、または損傷していることがあります。新しいドラムカートリッジと交換してください。 **参照** •「ドラムカートリッジを交換する（スポット保守のお客様のみ）」(P.426) を参照してください。
	トナーカートリッジ内にトナーが残っていないことがあります。新しいトナーカートリッジと交換してください。 **参照** •「トナーカートリッジを交換する」(P.424) を参照してください。
	本体内部を清掃してください。 **参照** •「本体内部（LED プリントヘッド部）の清掃」(P.435) を参照してください。
斜めにプリントされる 	用紙カセットの用紙ガイドが正しい位置にセットされていません。たてよこの用紙ガイドを正しい位置にセットしてください。 **参照** •「用紙をセットする」(P.94) を参照してください。

コピーのトラブル

コピーできない

症　状	処　置
原稿送り装置から原稿がうまく送り込まれない	原稿送り装置にセットできる原稿の最小サイズを確認して、適切なサイズの原稿をセットしてください。 参照 •「原稿をセットする」(P.104) を参照してください。
	変形原稿、名刺、OHP フィルム、薄い原稿は原稿送り装置では使用できません。また、付せん、クリップ、セロハンテープを付けた原稿も使用できません。
	原稿サイズに合わせて、原稿ガイドを正しくセットしてください。 参照 •「原稿をセットする」(P.104) を参照してください。
	原稿が破れて、原稿送り装置に紙片が残っているときは、原稿送り装置のカバーを開けて、紙片を取り除いてください。 参照 •「原稿が詰まった場合」(P.499) を参照してください。
	サイズが異なる原稿をセットしている場合に、［ミックスサイズ原稿送り］を設定しないと、原稿詰まりが発生します。サイズが異なる原稿をセットした場合は、必ず［ミックスサイズ原稿送り］の設定を［する］にしてください。 参照 •「[ミックスサイズ原稿送り]」(P.137) を参照してください。

思ったとおりのコピー結果にならない

症　状	処　置
コピーが汚れている	原稿カバーまたは原稿ガラスが汚れているときは、清掃してください。 参照 •「原稿カバー、原稿ガラスの清掃」(P.437) を参照してください。
	OHP フィルムなどの透過度の高い原稿の場合、原稿カバーの汚れがコピーに写ります。原稿の上に白紙を載せてコピーしてください。
	原稿がカラーペーパー、ざら紙、青焼きなどの場合、背景色がコピーされることがあります。 濃度を調整するか、画質を調整するか、地色除去を指定してコピーしてください。
	原稿が光沢のある印画紙の場合、原稿ガラスに張り付きやすく、影が汚れのようにコピーされることがあります。OHP フィルムなどの透明フィルムを原稿の下に敷いてコピーしてください。

症　状	処　置
コピーが濃すぎる、または薄すぎる	黒い文字をコピーし、薄いと感じた場合は、[原稿の画質] で [文字] を選んでください。 **参照** •「[原稿の画質]」(P.137) を参照してください。
コピーがわずかにずれる	用紙をそろえて、用紙の先端を用紙トレイの手前の角に合わせてセットしてください。 **参照** •「用紙をセットする」(P.94) を参照してください。
コピーが部分的に写らない	用紙が湿気を含んでいると、コピーが部分的に写らなかったり、不鮮明になったりします。未開封の用紙と交換してください。
	トレイの用紙に折り目やしわが入っていないかを確認してください。または、未開封の用紙と交換してください。
	貼り合わせ原稿や折り込みの原稿の場合、貼り合わせたのりの部分や、折りの部分が、原稿ガラスに密着していないことが考えられます。 原稿の上に白紙の束などを重ねて、原稿ガラスに密着するようにしてください。
コピーに縞模様が写る	拡大コピーをすると、倍率によって縞模様が発生します。コピーの倍率を調整してください。 **参照** •「[倍率選択]」(P.135) を参照してください。
コピーがずれたり、曲がって写っている	原稿を正しくセットしてください。 **参照** •「原稿をセットする」(P.104) を参照してください。
	原稿送り装置に原稿をセットするときは、原稿ガイドを原稿の両端に当ててください。 **参照** •「原稿をセットする」(P.104) を参照してください。
	用紙トレイを確実に奥まで押し込んで、正しくセットしてください。 **参照** •「用紙をセットする」(P.94) を参照してください。
	用紙トレイ 5（手差し）から給紙するときは、用紙ガイドが用紙に触れるように正しくセットしてください。 **参照** •「用紙トレイ 5（手差し）に用紙をセットする」(P.99) を参照してください。
希望のサイズにコピーされない	原稿カバーまたは原稿ガラスが汚れているときは、清掃してください。 **参照** •「原稿カバー、原稿ガラスの清掃」(P.437) を参照してください。
	OHP フィルムなどの透過度が高い原稿では、原稿カバーの汚れがコピーに写ります。原稿の上に白紙を載せてコピーしてください。

症　状	処　置
希望のサイズにコピーされない	原稿がずれないように正しくセットしてください。 参照 •「原稿をセットする」(P.104) を参照してください。
	原稿送り装置に原稿をセットするときは、原稿ガイドを原稿の両端に当ててください。 参照 •「原稿をセットする」(P.104) を参照してください。
	定形外サイズの原稿は、サイズを入力してコピーしてください。 参照 •「原稿をセットする」(P.104) を参照してください。
	原稿が折れ曲がっている場合は、のばしてからセットし直してください。 参照 •「原稿をセットする」(P.104) を参照してください。
コピーの端が切れる	倍率を調整して、少し小さめにコピーしてください。
ホチキスが留められない	ホチキスを留めるにはフィニッシャーが必要です。フィニッシャーを取り付けるか、プリントオプションでホチキスを解除してください。
	コピー枚数をホチキスで留められる枚数以下にしてください。 参照 • ホチキスで留められる枚数はお使いのフィニッシャーによって異なります。詳しくは、「主な仕様」(P.510) を参照してください。

プリンターのトラブル

プリントできない

症　　状	処　　置
コンピューターのプリンターアイコンにデータが残っている	本機の電源が入っていないときは、電源を入れてください。 参照 •「電源について」(P.38) を参照してください。
	コンピューターのネットワークケーブルが外れていないかを確認してください。
	本機のネットワークケーブルが外れていないかを確認してください。 参照 •「本機をコンピューターに接続する」(P.40) を参照してください。
	本機でエラーが発生している場合は、内容を確認して対処してください。
	正しい IP アドレスを設定してください。
	コンピューターと本機の間のネットワークが正常ではないことがあります。ネットワーク管理者に相談してください。
	プリンタードライバーが利用しているポートを起動してください。 参照 •「[ポート設定]」(P.329) を参照してください。
	本機のストレージ容量が不足しています。親展ボックスのデータや蓄積されている文書（認証プリント、プライベートプリント、セキュリティープリントなど）で不要になったデータを削除し、空きスペースを増やしてください。
	しばらく待ってから、再度プリントしてください。
指定枚数より多くプリントされて処理が終わらない、または、プリント結果が文字化けする	適切なプリンタードライバーを使用してください。プリンタードライバーのプロパティ画面で、[詳細設定] タブのドライバーが本機になっていることを確認してください。他社のプリンタードライバーを使った場合は、動作は保証されません。
データは本機に送られている	用紙がないときは、用紙を補給してください。
	指定した用紙サイズの用紙をセットしてください。
	コピーの割り込み操作を解除してください。
	本機でエラーが発生している場合は、内容を確認して対処してください。
	ジョブが一時停止になっているときは、キャンセルするかどうかを指定してください。
	本機で保存文書を確認してください。 参照 •「セキュリティープリント」(P.116) を参照してください。

思ったとおりのプリント結果にならない

症　状	処　　置
ホチキスが留められない	ホチキスを留めるにはフィニッシャーが必要です。フィニッシャーを取り付けるか、プリントオプションでホチキスを解除してください。
	コピー枚数をホチキスで留められる枚数以下にしてください。 **参照** • 詳しくは「主な仕様」(P.510) を参照してください。
両面でプリントされない	本機のメモリーが不足しています。プリンタードライバーで［印刷モード］を［標準］に設定してください。また、使用していないポートを［停止］に設定してください。
紙折りされない	紙折りユニットが必要です。本機に取り付けられているオプションを確認して、プリンター構成を再度設定してください。
異なった用紙サイズでプリントされる	トレイにセットされている用紙サイズを変更するか、指定した用紙サイズがあるトレイにプリントオプションを変更してください。
用紙の端にあるイメージが欠ける	本機の印刷エリアを拡張するか、ドキュメントの印字エリアを小さくしてください。
コンピューターで指定したフォントとプリント結果のフォントが異なる	プリンタードライバーのフォントの置き換えテーブルを確認してください。 **参照** • プリンタードライバーのヘルプを参照してください。
プリントスピードが遅い	写真などのイメージデータを高精細でプリントするとプリント速度が遅くなります。［印刷モード］で［標準］を選んでください。
プリントオプションで指定した内容が無効になる	適切なプリンタードライバーを使用してください。プリンタードライバーのプロパティ画面で、［詳細設定］タブのドライバーが本機になっていることを確認してください。
	本機に取り付けられているオプションを確認して、プリンタードライバーのプロパティ画面で、［プリンター構成］タブの［オプションの設定］を再度設定してください。
端が欠ける	本機の印刷エリアを拡張するか、ドキュメントの印字エリアを小さくしてください。
出力紙に黒線が出る	適切なプリンタードライバーを使用してください。プリンタードライバーのプロパティ画面で、［詳細設定］タブのドライバーが本機になっていることを確認してください。

ファクスのトラブル

注記

- 光回線や IP 電話回線におけるファクス通信について

  当社製品は、NTT のアナログ回線規格に準拠しています。お客様が利用している（または、これから利用しようとしている）回線が、光回線や IP 電話回線の場合には、伝送路の回線品質（パケットロス、エコー、遅延など）により、ファクス通信がエラーになることがあります。その場合は、回線事業者にお問い合わせください。

参照

- インターネットファクスのトラブルについては、「メール機能のトラブル」(P.478) を参照してください。

送信時のトラブル

症　状	処　　置
未送信レポートが出力された	未送信レポートの「通信結果」欄を確認して対処してください。 **参照** • エラーコードが表示されている場合は、「エラーコード」(P.508) を参照して対処してください。
通信できない（一般のファクス）	本機には電話線を差し込む場所が複数あります。正しい場所に差し込まれていないと通信できません。 正しい場所に差し込まれている場合、「オンフック」機能を使用して一般回線に電話できます。
	本機に設定されている回線の種別を、契約している回線の種別（PB/10 pps/20 pps）と合わせてください。
	近くにある電話機で、電話ができるかどうか確認してください。電話ができない場合は、本機の異常ではなく、電話回線に問題があります。
	送信先のファクスの電源が切れていたり、受信モードが手動受信であったり、G3 受信ができないファクスの場合、送信することはできません。また、送信先が用紙切れやメモリーオーバーの可能性もあります。 送信先に電話をかけて確認してください。
	ファクス番号を確認して、再度送信してください。 G3 で DP（ダイヤルパルス）を使用する場合は、ファクス番号に「*」や「#」を使用できません。
	内線から発信している場合、外線発信番号が必要です。 ダイヤル時に、外線発信番号「0」などをダイヤルしてから、ファクス番号をダイヤルしてください。 交換機が変更になり、外線発信番号「0」をダイヤルしても通信できない場合は、「0 ＊」で通信できるようになる場合もあります。
	アドレス帳の宛先を指定して発信時に外線発信番号を付与している場合、アドレス帳の宛先に外線発信番号の「0」が、すでに登録されていることがあります。未送信レポートで送信先の電話番号を確認してください。
	原稿のデータ量が多すぎると送信できません。 解像度を下げてデータ量を少なくするか、数回に分けて送信してください。

症　状	処　　置
通信できない（一般のファクス）	原稿サイズが大きすぎると送信できません。 読み取り可能なサイズに変更するか、原稿を分割して送信してください。
	ファクス網に問題がないかを確認してください。 「161」または「162」のあとに、「-」（ポーズ）を 2 回入れてから電話番号を入力してください。また、ファクス網と契約しているかどうかも確認してください。
	ポーリングなどの機能を使うときは、送信先のファクスが対応しているかどうか確認してください。
	認証、集計管理機能を使用している場合にコンピューターから直接ファクスを送信するときは、ファクスドライバーに、本体に登録されている正しいユーザー名と暗証番号の設定が必要です。 参照 • 認証、集計管理機能については、「認証と集計管理機能について」(P.387) を、コンピューターからの直接ファクス送信については、「ダイレクトファクス」(P.159) を参照してください。
通信できない（IP ファクス（SIP））	本機に正しい IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイアドレスを設定してください。
	本機に正しい SIP 本体アドレスを設定してください。
	本機に正しい SIP サーバーの IP アドレスを設定してください。
	SIP サーバーが正常に動作していることを、ネットワーク管理者に確認してください。
	SIP サーバーへの本機の情報の登録が失敗していることがあります。本機の電源を切って、入れ直してください。
	送信先の IP ファクス（SIP）機の電源が切れている場合は、送信することはできません。送信先に電話をかけて確認してください。
	宛先の指定方法が正しいかを確認してください。次の宛先を指定してください。 • SIP サーバー、VoIP ゲートウェイともに使用していない場合 宛先に「SIP ユーザー名 @IP アドレス」を指定してください。 • SIP サーバーだけを使用している場合 宛先に「SIP ユーザー名」、または「電話番号」を 指定してください。 • VoIP ゲートウェイを使用している場合 宛先に「電話番号」を指定してください。 • SIP サーバー、VoIP ゲートウェイともに使用している場合 宛先に「SIP ユーザー名」、または「電話番号」を指定してください。
	ポーリングなどの機能を使うときは、送信先のファクスが対応しているかどうかを確認してください。
	認証、集計管理機能を使用している場合にコンピューターから直接ファクスを送信するときは、ファクスドライバーに、本体に登録されている正しいユーザー名と暗証番号の設定が必要です。 参照 • 認証、集計管理機能については、「認証と集計管理機能について」(P.387)、コンピューターから直接ファクスを送信する方法については、「ダイレクトファクス」(P.159) を参照してください。

症　状	処　　置
通信できない（IP ファクス（SIP））	IP ファクス（SIP）の同時接続数は 1 つです。同時に IP ファクス（SIP）の送受信はできません。 IP ファクス（SIP）を受信中の場合は、受信終了後に、もう一度、送信してください。
	ネットワーク中継機器(スイッチ / ルーター/ ファイヤーウォールなど）で、IP ファクス（SIP）用ポートを利用可能に設定してください。
	SIP サーバーを使用する環境で、本機で受付 IP アドレスを制限している場合は、受け付ける IP アドレスに SIP サーバーの IP アドレスを追加してください。 CentreWare Internet Services を使って、[システム] > [セキュリティー設定] > [受付 IP アドレス制限] で登録してください。
	Ethernet ケーブルが 1 分以上抜けていた場合、SIP サーバー上の Register リカバリが終了すると登録に成功します。処置は必要ありません。
通信できない（IP ファクス（SIP）で VoIP ゲートウェイを使用している場合）	本機に正しい VoIP ゲートウェイを登録してください。
	VoIP ゲートウェイが正常に動作していることを、ネットワーク管理者に確認してください。
	VoIP ゲートウェイ上の設定が正しいことをネットワーク管理者に確認してください。
	送信先の G3 ファクス機の電源が切れている場合には、送信することはできません。送信先に電話をかけて確認してください。
IP ファクス（SIP）通信に時間がかかる	使用しているネットワーク環境（QoS）に合わせ、本機の [IP パケット送信優先度] の設定値を大きくしてください。 **参照** • [IP パケット送信優先度] については、「[T.38 設定]」(P.342) を参照してください。
	ネットワーク中継機器（スイッチ / ルーターなど）で QoS 値ごとに割り当てているキュー（バッファ）が小さいため、通信データの損失が大量に発生していることがあります。 ネットワーク中継機器で、ネットワーク環境に適したパラメーターを設定してください。
	ネットワーク内で通信速度が異なっていると、通信データの損失が大量に発生します。ネットワーク内で通信速度を統一してください。
	VoIP ゲートウェイの通信パラメーター（input gain/output attenuation、echo 設定など）がネットワーク環境に合っていないため、通信データの損失が大量に発生していることがあります。 VoIP ゲートウェイで、ネットワーク環境に適したパラメーターを設定してください。

症　状	処　　置
IP ファクス（SIP）通信に時間がかかる	電話用ネットワークとデータ用ネットワークを分けて運用している場合に、IP ファクス（SIP）機をデータ用ネットワークに接続しているときは、ネットワーク環境全体で QoS 設定をして、トラフィック管理を行ってください。 本機の QoS は［IP パケット送信優先度］を設定してください。 **参照** • ［IP パケット送信優先度］については、「［T.38 設定］」(P.342) を参照してください。
IP ファクス（SIP）通信時にネットワークのほかの通信 / 通話が遅くなる	使用しているネットワーク環境（QoS）に合わせ、本機の［IP パケット送信優先度］の設定値を小さくしてください。 **参照** • ［IP パケット送信優先度］については、「［T.38 設定］」(P.342) を参照してください。
	電話用ネットワークとデータ用ネットワークを分けて運用している場合に、IP ファクス（SIP）機を電話用ネットワークに接続しているときは、ネットワーク環境全体で QoS 設定をして、トラフィック管理を行ってください。 **参照** • 本機の QoS は［IP パケット送信優先度］を設定してください。［IP パケット送信優先度］については、「［T.38 設定］」(P.342) を参照してください。
画質が悪い	原稿読み取りガラスを清掃してください。 **参照** • 「フィルム、原稿読み取りガラスの清掃」(P.437) を参照してください。
	濃度が適切でないときは、調節してください。 **参照** • 「［送信濃度］」(P.166) を参照してください。
	送信先に問題がないかを確認してください。 **補足** • 通信時は、本機側だけの問題ではなく、相手機側のトラブルによって画質に異常が発生することがあります。
ヘッダーの自局情報が間違っている、またはヘッダーに自局情報がプリントされる	発信元名を修正してください。相手側のディスプレイや通信管理レポートに表示される情報が間違っている場合は、自局名を修正してください。 **参照** • 「［自局情報］」(P.317) を参照してください。
	発信元が記録されないように設定してください。 **参照** • 「［発信元記録］」(P.168) を参照してください。

受信時のトラブル

症　状	処　　置
通信できない（一般のファクス）	本機には電話線を差し込む場所が複数あります。正しい場所に差し込まれていないと通信できません。正しい場所に差し込まれている場合、「オンフック」機能を使用して一般回線に電話できます。
	近くにある電話機で、電話ができるかどうか確認してください。電話ができない場合は、本機の異常ではなく、電話回線に問題があります。
	電話会社との回線契約（ナンバー・ディスプレイ / 発信者番号表示およびダイヤルイン）が正しく設定されているかを確認してください。 **参照** • 「[回線 1 付加サービス]～[回線 3 付加サービス]」(P.314) を参照してください。
	発信番号通知の振り分け機能を利用するには、NTT とのナンバー・ディスプレイの契約が必要です。
	モデムダイヤルインの振り分け機能を使用するには、NTT とのモデムダイヤルインの契約が必要です。
	本機の電源が入っていないと、受信できません。本機の電源を入れてください。
	本機に用紙がセットされていない場合、受信した文書をプリントできません。
	本機の操作パネルを見て、紙詰まりが発生している場合は用紙を取り除いてください。 **参照** • 「用紙が詰まった場合」(P.488) を参照してください。
	本機が機械管理者モードになっている場合は、受信できません。機械管理者モードを終了してください。
	受信パスワードを設定している場合、F コードで正しい受信パスワード送信してくる相手だけ、受信やポーリングを受け付けることができます。
	ファクス受信モードが［手動受信］に設定されているときは、手動で受信するか、［自動受信］に設定し直してください。 **参照** • 「受信について」(P.176) を参照してください。
	FAX 情報サービスを利用するには、オンフックまたはオフフック画面で手動受信モードに設定し直して、情報コードなどを入力したあとで、最後に［スタート］をタップしてください。
	送信元に問題がないかを確認してください。 **補足** • 通信時は、本機側だけの問題ではなく、相手機側のトラブルによって異常が発生することがあります。
通信できない（IP ファクス (SIP)）	本機に正しい IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイアドレスを設定してください。
	本機に正しい SIP サーバーの IP アドレスを設定してください。

症　状	処　　置
通信できない（IP ファクス（SIP））	SIP サーバーが正常に動作していることを、ネットワーク管理者に確認してください。
	SIP サーバーへの本機の情報の登録が失敗していることがあります。本機の電源を切って、入れ直してください。
	本機の電源が入っていないと、受信できません。本機の電源を入れてください。
	本機が機械管理者モードになっている場合は、受信できません。機械管理者モードを終了してください。
	受信パスワードを設定している場合、F コードで正しい受信パスワードを送信してくる相手だけ、受信やポーリングを受け付けることができます。
	IP ファクス（SIP）の同時接続数は 1 つです。同時に IP ファクス（SIP）の送受信はできません。 IP ファクス（SIP）を送信中の場合は、送信終了後に、送信元に再送を依頼してください。
	ネットワーク中継機器(スイッチ / ルーター/ ファイヤーウォールなど）で、本機の IP ファクス（SIP）用ポートを利用可能に設定してください。
	SIP サーバーを使用する環境で、本機で受付 IP アドレスを制限している場合は、受け付ける IP アドレスに SIP サーバーの IP アドレスを追加してください。 CentreWare Internet Services を使って、[システム] > [セキュリティー設定] > [受付 IP アドレス制限] で登録してください。
	Ethernet ケーブルが 1 分以上抜けていた場合、SIP サーバー上の Register リカバリが終了すると登録に成功します。処置は必要ありません。
通信できない（IP ファクス（SIP）で VoIP ゲートウェイを使用している場合）	本機に正しい VoIP ゲートウェイを登録してください。
	VoIP ゲートウェイが正常に動作していることを、ネットワーク管理者に確認してください。
	VoIP ゲートウェイ上の設定が正しいことをネットワーク管理者に確認してください。
IP ファクス（SIP）通信に時間がかかる	使用しているネットワーク環境（QoS）に合わせ、本機の [IP パケット送信優先度] の設定値を大きくしてください。 **参照** • [IP パケット送信優先度] については、「[T.38 設定]」(P.342) を参照してください。
	ネットワーク中継機器（スイッチ / ルーターなど）で QoS 値ごとに割り当てているキュー（バッファ）が小さいため、通信データの損失が大量に発生していることがあります。 ネットワーク中継機器で、ネットワーク環境に適したパラメーターを設定してください。
	ネットワーク内で通信速度が異なっていると、通信データの損失が大量に発生します。ネットワーク内で通信速度を統一してください。

症　状	処　　置
IP ファクス（SIP）通信に時間がかかる	VoIP ゲートウェイの通信パラメーター（input gain/output attenuation、echo 設定など）がネットワーク環境に合っていないため、通信データの損失が大量に発生していることがあります。 VoIPゲートウェイで､ネットワーク環境に適したパラメーターを設定してください。
	電話用ネットワークとデータ用ネットワークを分けて運用している場合に、IP ファクス（SIP）機をデータ用ネットワークに接続しているときは、ネットワーク環境全体で QoS 設定をして、トラフィック管理を行ってください。 本機の QoS は［IP パケット送信優先度］を設定してください。 **参照** • ［IP パケット送信優先度］については､「［T.38 設定］」(P.342) を参照してください。
IP ファクス（SIP）通信時にネットワークのほかの通信 / 通話が遅くなる	使用しているネットワーク環境（QoS）に合わせ、本機の［IP パケット送信優先度］の設定値を小さくしてください。 **参照** • ［IP パケット送信優先度］については､「［T.38 設定］」(P.342) を参照してください。
	電話用ネットワークとデータ用ネットワークを分けて運用している場合に、IP ファクス（SIP）機を電話用ネットワークに接続しているときは、ネットワーク環境全体で QoS 設定をして、トラフィック管理を行ってください。 本機の QoS は［IP パケット送信優先度］を設定してください。 **参照** • ［IP パケット送信優先度］については､「［T.38 設定］」(P.342) を参照してください。
画質が悪い	ドラムカートリッジに傷があることがあります。コピーを実行しても画質が悪い場合は、ドラムカートリッジを交換してください。 **参照** •「ドラムカートリッジを交換する（スポット保守のお客様のみ）」(P.426) を参照してください。
	原稿読み取り部が汚れていないかを送信元に確認してください。 **補足** • 通信時は、本機側だけの問題ではなく、相手機側のトラブルによって画質に異常が発生することがあります。
	解像度の設定が低すぎないかを送信元に確認してください。 **補足** • 通信時は、本機側だけの問題ではなく、相手機側のトラブルによって画質に異常が発生することがあります。

<table>
<tr><th>症　状</th><th>処　　置</th></tr>
<tr><td>1 ページの受信文書が複数に分割される</td><td>原稿サイズが大きいファクスを受信しました。
本機は、原稿を受信した場合の処理方法を、自動縮小受信との組み合わせで設定できます。組み合わせによって、受信文書は次のようにプリントされます。

<table>
<tr><td></td><td>［自動縮小受信］
あり</td><td>［自動縮小受信］
なし</td></tr>
<tr><td>しきい値以内の場合</td><td>縮小されて、1 枚にプリント</td><td>定形サイズを超える部分をカットしてプリント</td></tr>
<tr><td>しきい値を超える場合</td><td>等倍で分割されてプリント</td><td>–</td></tr>
</table>

参照
• 「［ページ分割しきい値］」(P.313)、「［自動縮小受信］」(P.313) を参照してください。</td></tr>
<tr><td>ボックスセレクター機能を設定しているのに、受信文書が選んだ親展ボックスに蓄積されず、プリントされてしまう</td><td>ボックスセレクター機能を設定する場合は、登録済みの親展ボックスを選んでください。未登録の親展ボックスを選ぶと、受信文書は親展ボックスに蓄積されず、プリントされます。

参照
• 親展ボックスの登録については「ボックスの登録」(P.210) を、ボックスセレクター機能の設定については「［受信文書の保存先 / 排出先］」(P.316) を参照してください。</td></tr>
</table>

スキャナーのトラブル

本機でスキャンできない

症　状	処　　置
原稿送り装置から原稿がうまく送り込まれない	原稿送り装置にセットできる原稿の最小サイズを確認して、適切なサイズの原稿をセットしてください。 参照 •「原稿をセットする」(P.104) を参照してください。
	変形原稿、名刺、OHP フィルム、薄い原稿は原稿送り装置では使用できません。また、付せん、クリップ、セロハンテープを付けた原稿も使用できません。
	原稿サイズに合わせて、原稿ガイドを正しくセットする。 参照 •「原稿をセットする」(P.104) を参照してください。
	原稿が破れて、原稿送り装置に紙片が残っているときは、原稿送り装置のカバーを開けて、紙片を取り除いてください。 参照 •「原稿が詰まった場合」(P.499) を参照してください。
	サイズが異なる原稿をセットしている場合に、[ミックスサイズ原稿送り] を設定しないと、原稿詰まりが発生します。サイズが異なる原稿をセットした場合は、必ず [ミックスサイズ原稿送り] の設定を [する] にしてください。 参照 •「[ミックスサイズ原稿送り]」(P.204) を参照してください。

スキャン文書をコンピューターに取り込めない

症　状	処　　置
スキャナーが見つからない	本機の電源が入っていないときは、電源を入れてください。 参照 •「電源について」(P.38) を参照してください。
	コンピューターのネットワークケーブルが外れていないかを確認してください。
	本機のネットワークケーブルが外れていないかを確認してください。 参照 •「本機をコンピューターに接続する」 (P.40) を参照してください。
親展ボックスが開かない	親展ボックスを登録しているかを確認してください。 参照 •「ボックスの登録」(P.210) を参照してください。

症　状	処　　置
親展ボックスが開かない	親展ボックスのパスワードは確認できません。パスワードを忘れてしまった場合は、機械管理者にパスワードを「なし」に設定してもらってから、再度パスワードを登録してください。
TWAIN　通信エラーでスキャナーからデータが取り込めない	スキャナードライバーをインストールしてください。
取り込み中に動作が止まってしまう	ファイルサイズが大きすぎることがあります。解像度を低く設定して、再度読み込んでください。 参照 •「[読み取り解像度]」(P.203) を参照してください。
未送信レポートが出力された	未送信レポートの「通信結果」欄を確認して対処してください。エラーコードが表示されている場合は、「エラーコード」(P.508) を参照して対処してください。

スキャン文書を開けない

症　状	処　　置
マルチページ TIFF 文書が開かない、または 1 ページめしか表示されない	複数ページの原稿を読み取ると、マルチページ TIFF 文書になります。マルチページ TIFF に対応している TIFF Viewer をインストールしてください。
カラー原稿を読み取ったが、文書が開かない	文書が TIFF 形式で保存されている場合は、TIFF Viewer を使用して文書を開くことができます。PDF を閲覧できる環境の場合は、文書を PDF 形式で保存してください。
	CentreWare Internet Services で取り出した文書は TIFF 形式になるため、TIFF Viewer を使用すると文書を開くことができます。文書を取り出すときに［1 ページ取り出し］を有効にすると、JPEG 形式で取り出せます。PDF を閲覧できる環境の場合は、文書を PDF 形式で保存してください。

スキャン文書をネットワーク転送（FTP/SFTP/SMB）できない

症　状	処　　置
未送信レポートが出力された	未送信レポートの「通信結果」欄を確認して対処してください。 参照 • エラーコードが表示されている場合は、「エラーコード」(P.508) を参照して対処してください。
ネットワーク転送できない	サーバーの入力を確認してください。
	保存場所の入力を確認してください。
	転送プロトコルが SMB の場合、共有名の入力を確認してください。
	ログイン名の入力を確認してください。
	パスワードの入力を確認してください。
	Windows OS への転送の場合、本機と Windows の時刻設定を一致させてください。

症　状	処　　置
ネットワーク転送できない	Windows OS を使用している場合に、パスワードを設定しないユーザーで SMB 転送したいときは、次の方法でネットワークへのアクセス設定を変更します。 **1.** Windows を起動し、[コントロールパネル] > [管理ツール] をクリックし、[ローカル セキュリティ ポリシー] を選ぶ。 **2.** [セキュリティの設定] > [ローカルポリシー] から [セキュリティ オプション] を選ぶ。 **3.** [アカウント : ローカルアカウントの空のパスワードの使用をコンソールログオンのみに制限する] を [無効] に設定する。
	SMB 転送するときは、3 つ以下のルートで構成された DFS 名前空間を指定してください。
	指定した保存場所で、ファイルやフォルダーの読み取りおよび書き込みができるようにアクセス権を設定してください。
	SMB 転送するときは、転送先のサーバー、および複合機とサーバーの間に存在するルータや転送先のサーバー上のウィルススキャンソフト、ファイアウォールソフトなどで SMB ポートがブロックされていないか確認してください。

メール送信できない

症　状	処　　置
未送信レポートが出力された	未送信レポートの「送信結果」欄を確認して対処してください。 **参照** • エラーコードが表示されている場合は、「エラーコード」(P.508) を参照して対処してください。
メールが送信できない	メール送信の上限データサイズを変更するか、解像度を下げてください。 **参照** • 「[合計データサイズ上限]」(P.309)、または「[読み取り解像度]」(P.203) を参照してください。

イメージが思ったとおりの結果にならない

症　状	処　　置
イメージが汚れている	原稿カバーまたは原稿ガラスが汚れているときは、清掃してください。 **参照** • 「原稿カバー、原稿ガラスの清掃」(P.437) を参照してください。
	OHP フィルムなどの透過度が高い原稿では、原稿カバーの汚れがイメージに写ります。原稿の上に白紙を載せてスキャンしてください。

症　状	処　　置
イメージが汚れている	原稿がカラーペーパー、ざら紙、青焼きなどの場合、背景色がスキャンされることがあります。 読み込み濃度を調整するか、画質を調整してスキャンしてください。 **参照** •「機能リスト」(P.203) を参照してください。
	原稿が光沢のある印画紙の場合、原稿ガラスに張り付きやすく、影が汚れのようにスキャンされることがあります。OHP フィルムなどの透明フィルムを原稿の下に敷いてスキャンしてください。
イメージが濃すぎる、または薄すぎる	読み込み濃度を調整してください。 **参照** •「[読み込み濃度]」(P.204) を参照してください。
	原稿に合った画質を選んでください。 **参照** •「[原稿の画質]」(P.203) を参照してください。
イメージが部分的に写らない	貼り合わせ原稿や折り込みの原稿の場合、貼り合わせたのりの部分や、折りの部分が、原稿ガラスに密着していないことが考えられます。 原稿の上に白紙の束などを重ねて、原稿ガラスに密着するようにしてください。
イメージが希望のサイズでない	原稿カバーまたは原稿ガラスが汚れているときは、清掃してください。 **参照** •「原稿カバー、原稿ガラスの清掃」(P.437) を参照してください。
	OHP フィルムなどの透過度が高い原稿では、原稿カバーの汚れがイメージに写ります。原稿の上に白紙を載せてスキャンしてください。
	原稿がずれないように正しくセットしてください。 **参照** •「原稿をセットする」(P.104) を参照してください。
	原稿送り装置に原稿をセットするときは、原稿ガイドを原稿の両端に当ててください。 **参照** •「原稿をセットする」(P.104) を参照してください。
	定形外サイズの原稿は、サイズを入力してスキャンしてください。 **参照** •「原稿をセットする」(P.104) を参照してください。
イメージが希望のサイズでない	原稿が折れ曲がっている場合は、のばしてからセットし直してください。 **参照** •「原稿をセットする」(P.104) を参照してください。
イメージが粗い	解像度を高く設定してください。 **参照** •「[読み取り解像度]」(P.203) を参照してください。

症　状	処　　置
イメージが粗い	［画質 / ファイルサイズ］を低い圧縮率で設定してください。 **参照** •「［画質 / ファイルサイズ］」(P.204) を参照してください。
白黒のグラデーションが希望どおり再現されない	［カラーモード］が［白黒（2 階調）］の場合は、［グレースケール（256 階調）］に変更してください。 **参照** •「［カラーモード］」(P.203) を参照してください。

ネットワークのトラブル

TCP/IP を使用したときのトラブル

Windows OS の場合

症　状	処　　置
プリントされない。	本機に正しい IP アドレスが設定されているかを確認してください。
	単一ファイルのデータサイズが受信バッファのメモリー容量の上限を超えている場合は、小さいサイズに分割してプリントしてください。
	複数ファイルのデータサイズの合計が受信バッファのメモリー容量の上限を超えている場合は、1 度にプリントするファイル数を減らしてください。
	操作パネルのディスプレイにエラーが表示されている場合は、本機の電源を切り、ディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れてください。
	プリンタードライバーが使用するプロトコルを［起動］に設定してください。 **参照** •「[ポート設定]」(P.329) を参照してください。
	プリンタードライバーのプロパティ画面にある［デバイスの設定］タブで、CTRL-D を送信しない設定にしてください。
プリント結果がおかしい。	プリントデータのプリント言語に一致するプリント言語を指定してください。
	適切なプリンタードライバーを使用してください。プリンタードライバーのプロパティ画面で、[詳細設定] タブのドライバーが本機になっていることを確認してください。他社のプリンタードライバーを使った場合は、動作は保証されません。

macOS/OS X の場合

症　状	処　　置
プリントされない。	Bonjour を使用して検出したプリンターでプリントする場合は、LPD ポートを起動してください。

CentreWare Internet Services を使用したときのトラブル

症　状	処　　置
CentreWare Internet Services に接続できない。	本機の電源が入っているかを確認してください。
	「機能設定リスト」をプリントしてインターネットサービスが起動しているかを確認してください。
	インターネットアドレスをもう一度確認してください。接続できない場合は、IP アドレスを入力して接続してください。

症　状	処　　置
CentreWare Internet Services に接続できない。	プロキシサーバーによっては、接続できないことがあります。プロキシサーバーを使わないで、Web ブラウザーの設定を「プロキシサーバーを使用しない」にするか、使用するアドレスを「プロキシサーバーを使用しない」に設定してください。
最新の情報が表示されない。	Web ブラウザーの表示を更新してください。
[保存] をクリックしても反映されない。	本体の操作パネルで操作中は、CentreWare Internet Services での設定は適用されません。 また、自動リセット機能が設定されている場合、操作後であっても設定時間が経過するまで、CentreWare Internet Services での設定は無効になります。しばらくお待ちください。
[保存] をクリックすると、Web ブラウザーに「無効なまたは認識されない応答をサーバーが返しました」や「データがありません」などのメッセージが表示される。	パスワードの確認入力の内容が一致していません。正しいパスワードを入力してください。
	本機を再起動してください。
ジョブを削除できない。	しばらく待ってから Web ブラウザーの表示を更新してください。

メール機能のトラブル

メール通知（消耗品の状態通知）サービス、メール受信プリント、メール送信、インターネットファクスを使用している場合のトラブルについて、処置方法を記載しています。

症　状	処　　置
メール受信ができない（メール受信プリント、インターネットファクス）	本体メールアドレスを正しく設定しているかを確認してください。
	[メール受信] が [起動] になっているかを確認してください。
	SMTP サーバーの IP アドレス、POP3 サーバーの IP アドレス（受信プロトコルで POP3 を選んでいる場合）などを正しく設定しているかを確認してください。
	POP3 ユーザー名、およびパスワードを正しく設定しているかを確認してください。
	[送受信ドメインの制限] を設定しているときは、CentreWare Internet Services で、自分のドメインが送受信許可ドメインに含まれているかどうかを確認してください。
	SMTP サーバー、POP サーバーが正常に動作しているかをネットワーク管理者に確認してください。
メール送信ができない（メール通知、インターネットファクス、メール送信）	本体メールアドレスを正しく設定しているかを確認してください。
	[メール通知サービス] が [起動] になっているかを確認してください。（メール通知の場合）
	[メール送信] が [起動] になっているかを確認してください。

症　状	処　　置
メール送信ができない（メール通知、インターネットファクス、メール送信）	SMTP サーバーの IP アドレスなどを正しく設定しているかを確認してください。
	メール通知の場合、通知項目が正しく設定されているかを CentreWare Internet Services のホーム画面にある［通知］の設定画面で確認してください。
	送信先メールアドレスが正しく入力されているかを確認してください。
	SMTP サーバーが正常に動作しているかをネットワーク管理者に確認してください。 SMTP サーバーが配送確認（DSN）に対応していないことが原因の可能性もあります。配送確認（DSN）の設定をしないで、メールを送信してください。

インターネット / イントラネット接続のトラブル

症　状	処　　置
インターネット/ イントラネットに接続できない。	本機で対応している認証機能は、Basic 認証だけです。NTLM/digest には対応していません。外部サーバーで使用している認証機能が、本機に対応しているか確認してください。 セキュリティー上の問題を考慮する場合には、SSL を使った認証に変更してください。
	外部連携サービスを使用する場合は、該当する製品 / モデル / オプションを購入してください。
	IP アドレスの設定を確認してください。IP アドレスが正しく設定されていない場合は、IP アドレスを固定で指定するか、DHCP または AutoIP などを使用して、IP アドレスを解決してください。
	プロキシサーバーに接続する場合、または Web サーバーに接続するために IP ゲートウェイを経由する場合は、IP ゲートウェイアドレスを正しく入力してください。
	使用している環境に合わせてサブネットマスクを正しく設定してください。
	DNS サーバーのアドレスを確認してください。
	アドレスを解決できる DNS サーバーを設定してください。 • プロキシサーバーを経由する場合 プロキシサーバーのアドレスを解決できる DNS サーバーのアドレスを設定してください。 • プロキシサーバーを経由しない場合 宛先アドレスを解決できる DNS サーバーのアドレスを設定してください。

症　状	処　　置
インターネット/ イントラネットに接続できない。	プロキシを経由しないアドレスの設定が正しいかを確認してください。 FQDN 形式でプロキシを経由しないアドレスを指定していても、IP アドレスを指定してアクセスしている場合には、除外対象にはなりません。プロキシを経由しないアドレスを IP アドレスでも指定してください。 同様に、IP アドレスでプロキシを経由しないアドレスを指定していても、FQDN 形式でアクセスする場合には、除外対象になりません。プロキシを経由しないアドレスを FDQN 形式でも指定してください。
	接続するサーバー、またはプロキシサーバーが正常に稼働しているかどうかを確認してください。
	ネットワークケーブルの接続を確認してください。ネットワークの切断に強い環境を構築するためには、スパニングツリー環境を使用することをお勧めします。
	サーバーアプリケーションに負荷がかかっているため、通信できないことがあります。その場合はしばらく待ってから、もう一度アクセスしてください。
	本体にエラーが発生していることがあります。バックグラウンド処理を実行中は、操作パネルにはエラーが表示されません。[ジョブ情報] 画面を表示するか、ジョブ履歴レポートをプリントして、エラー有無を確認してください。
	次のアクセス制限によって接続できていないことがあります。設定されているアクセス制限を確認してください。 • アドレス（ポート）制限 • SSL 利用制限 • ユーザーアクセス制限（アクセス権レベルも含む） • コンテンツブロック • 利用スキーム制限（HTTP 利用不可など） • 転送データサイズ制限 • 利用メソッド制限（POST 利用不可など） • HTTP ヘッダー制限（特定ブラウザーだけ受付など） • 時間制限（特定時間帯だけ利用可能など）
	本機で有効なSSL/TLSバージョンは初期状態でTLS1.2です。接続先が TLS1.2 をサポートしていない場合は、TLS1.1 を有効にしてください。
目的の Web サーバーに接続できない。	プロキシを経由する環境では、プロキシサーバーを使用するように設定されていないと、目的の Web サーバーに接続できません。プロキシサーバーを使用するように設定してください。
	イントラネットに接続する場合など、プロキシを経由する必要がない環境では、プロキシサーバーを使用する設定にはしないでください。
	プロキシサーバーを使用する設定になっている場合には、プロキシサーバーのアドレスが正しく設定されていないと、目的の Web サーバーに接続できません。プロキシサーバーのアドレスを正しく設定してください。
	プロキシサーバーに接続を許可されているユーザー名とパスワードを、本機に設定してください。
	本機で有効なSSL/TLSバージョンは初期状態でTLS1.2です。接続先が TLS1.2 をサポートしていない場合は、TLS1.1 を有効にしてください。

IPv4 または IPv6 接続のトラブル

症　状	処　　置
IPv4 に接続できない。	IPv4 アドレス入力時、「192.0.2.010」のようにアドレス先頭に 0 を付加した場合、正しく動作しません。「192.0.2.10」のように 0 を付けないで入力してください。
IPv6 に接続できない。	リンクローカルアドレスを指定するときに本機にアクセスできない場合は、リンクローカルアドレスにスコープ識別子を付加してください。 たとえば Windows 10 の Internet Explorer 11 を利用して、「fe80::203:baff:fe48:9010」を指定してアクセスする場合には、Windows 10 のイーサネットアダプタローカルエリア接続の番号（例：8）をスコープ識別子として付加し、「fe80::203:baff:fe48:9010%8」と入力してください。
	IPv6 が利用できる Windows OS と通信できない場合は、Windows OS で固定アドレスを設定してください。 通信を許可するホストアドレスとして、設定した IPv6 固定アドレスを本機に登録してください。
	ルーターを越える検索が正しく動作しないことがあります。 SMB を使った検索でルーターを越える場合、宛先アドレスを直接入力してください。 マルチキャストに応答するのは、ローカルリンク内でのマルチキャスト（FF02::1）のみです。
	SSL/TLS を有効に設定している場合、「https://［IPv6 アドレス］」サイトを指定してください。
IPv6 でプリントできない。	DNS サーバーが存在しないと、IPv6 が利用できる Windows OS から Windows 共有プリンターが使用できません。 Windows OS 上の hosts ファイルに本機のコンピューター名を登録してください。 格納先例： C:\Windows\system32\drivers\etc の hosts ファイルに登録します。

症　状	処　　置
IPv6 でスキャンできない。	リンクローカルアドレスだけでファイル転送に失敗する場合は、グローバルアドレスを割り当ててください。
	［スキャン送信］で、SMB 転送の格納先サーバーにコンピューター名を指定した場合、DNS サーバーが存在しないとファイル転送に失敗します。格納先サーバーの IPv6 アドレスを指定してください。
	インターネットファクスダイレクトの宛先として、次のようなIPv6のアドレスリテラル形式を使用すると正しく動作しません。 例： csw@［ipv6:2001:db8::1］ インターネットファクスダイレクト機能を使うときは、DNS サーバーを運用して宛先を FQDN 形式で指定してください。
	メールアドレスとして、次のような IPv6 のアドレスリテラル形式を使用すると正しく動作しません。 例： csw@［ipv6:2001:db8::1］ メール送信するときは、DNS サーバーを運用してメールアドレスを FQDN 形式で指定してください。
UPnP（ユニバーサルプラグアンドプレイ）で IPv6 機器を検索できない。	IPv6 環境では Web Services on Devices（WSD）のディスカバリー機能を使用してください。
SMB 認証の SMB サーバー設定にコンピューター名を指定すると認証に失敗する。	DNS サーバーが存在しないことが原因と考えられます。認証サーバーのコンピューター名に、IPv6 アドレスを指定してください。
DocuShare など外部アクセス接続サービスで、接続先 URL に IPv6 アドレスを指定すると正しく動作しない。	DNS サーバーを運用して接続先 URL を FQDN 形式で指定してください。
出力されたジョブログに IPv6 アドレスが正しく記載されない。	IPv4 で運用してください。

ヘルプ / リモートアシスタンス接続時のトラブル

ホーム画面の［ヘルプ］または［リモートアシスタンス］に関するトラブルが発生した場合の処置方法を記載しています。

症　状	処　　置
［ヘルプ］/［リモートアシスタンス］が表示されない。	［ヘルプ］/［リモートアシスタンス］を初めて使用するときは、機械管理者モードで利用規約への同意が必要です。同意されているかどうかを確認するか、機械管理者に連絡してください。
利用規約に同意しても、インターネットに接続できない。または通信エラーが発生する。	IP アドレスや DNS など、TCP/IP の設定を確認してください。 **参照** •「［プロトコル設定］」(P.334) を参照してください。
	プロキシサーバー経由の環境の場合、設定が正しいか確認してください。 **参照** •「［プロキシサーバー一覧］」(P.338) を参照してください。

症　状	処　　置
利用規約に同意しても、インターネットに接続できない。または通信エラーが発生する。	［Web ブラウザー設定］で、以下の設定になっているか確認してください。 • ［外部アクセスバージョンの選択］：［V4］または［V5］ • ［ファイルプリント機能の使用］：［する］ • ［Cookie の使用］：［する］または［保存を確認する］ 参照 • 「［Web ブラウザー設定］」(P.327) を参照してください。
	リモートアシスタンスが接続できないときは、以下の設定になっているか確認してください。 • ［SOAP- ポート］：［起動］ • ［SOAP- ポート番号］：［80］ 参照 • 「［SOAP］」(P.333) を参照してください。
「無効な証明書が通知されました。一時的に有効な証明書として通信を行いますか？」というメッセージが表示される。	本機にインストールされていた証明書が削除されていることがあります。 次のどちらかで処置してください。 • 表示された画面で、［はい］を選ぶと、一時的にヘルプに接続できます。 • 本機の電源を切 / 入し、再起動すると、必要な証明書が再インストールされます。

文書プリントのトラブル

症　状	処　　置
ホーム画面に［USB］が表示されない。	USB メモリーが認識されていません。USB メモリーをいったん抜いてから、もう一度コネクターの奥まで差し込んでください。
	CentreWare Internet Services を起動し、［アプリ］＞［USB］＞［プリント機能の使用］にチェックマークを付けてください。

プライベートプリント（一括出力）のトラブル

症　状	処　　置
文書がないと表示される	ジョブの送信が完了しているか、確認してください。[再試行] をタップすると、文書が再取得されます。
機能が使用できないと表示される	電源を切り、タッチパネルディスプレイが消灯してから、もう一度電源を入れ直してください。それでも状態が改善されないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。

メール受信プリントのトラブル

症　状	処　　置
Yahoo！メールを使用して、メール受信プリントすると、同一文書が何回もプリントされる。	メール送信画面で［添付ファイルとして転送］を選んでください。
Gmail などの Web メールを使用して、メール受信プリントすると、添付文書が印刷されない場合がある。	転送された Web メールがさらに転送されています。メール受信プリントでは、転送メールをさらに転送しないでください。
beat モバイルを使用して、メール受信プリントすると、印刷結果が印刷設定と異なる場合がある。たとえば、添付文書のみ印刷する設定にしていても、メール本文が印刷されてしまう。	beat モバイルでメールを転送すると、転送元のメールの本文が添付文書として送信されます。ほかの Web メールを使用して、転送してください。

AirPrint のトラブル対処

プリンター選択時のトラブル

症状	処置
プリンターの選択画面で、本機が検出されない。	ネットワークに接続できませんでした。 本機と iOS/macOS/OS X のネットワーク設定を確認してください。
	Bonjour および IPP ポートが起動していません。 ［設定］>［ネットワーク設定］で、ポートの設定を確認してください。
	AirPrint が有効になっていません。 CentreWare Internet Services を起動し、［ネットワーク］>［AirPrint］で、［有効］にチェックマークを付けてください。 **参照** • 本機でAirPrintを有効にする設定については、「AirPrintの設定を有効にする」(P.124) を参照してください。
	macOS/OS X からプリント指示する場合に、本機とコンピューターが別のネットワークを使用しています。 本機とコンピューターで、同一のネットワークを使用してください。ルーターを超えてプリントする場合は、本機とコンピューターで、Wide-Area Bonjour を有効にしてください。 **参照** • 本機でWide-Area Bonjourを有効にする設定については、CentreWare Internet Services のヘルプを参照してください。 • macOS/OS X や DNS サーバー側での設定については、ネットワーク管理者にご相談ください。

プリント時のトラブル

症状	処置
プリントされない。	本機で認証プリントまたはプライベートプリントの設定をしています。 認証プリントやプライベートプリントには対応していません。本機の設定を変更してください。

用紙が詰まった場合

用紙が詰まると、機械が停止してアラームが鳴ります。また、ディスプレイには、メッセージが表示されます。表示されているメッセージに従って、詰まっている用紙を取り除いてください。

用紙は破れないように、ゆっくりと取り除いてください。取り出す途中で紙が破れたときも紙片を機械の中に残さないで、すべて取り除いてください。

処置を終了しても紙づまりのメッセージが表示されるときは、ほかの箇所でも用紙が詰まっています。メッセージに従って処置してください。

紙づまりの処置が終了すると、用紙が詰まる前の状態から自動的にプリントが再開されます。

コピーの途中の場合は［スタート］をタップすると、用紙が詰まる前の状態からコピーが再開されます。

> ⚠警告
>
> トレイを引き抜いて紙詰まり処理を行う場合には、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。お客様自身で行うと思わぬケガをするおそれがあります。

> ⚠注意
>
> 機械内部に詰まった用紙や紙片は無理に取り除かないでください。
>
> 特に、定着部やローラー部に用紙が巻き付いているときは無理に取らないでください。ケガややけどの原因となるおそれがあります。ただちに電源スイッチを切り、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。

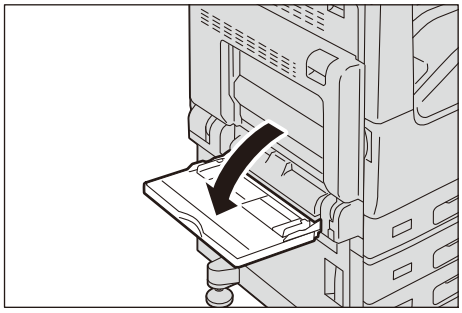
注記

- 紙づまりが発生したとき、紙づまり位置を確認しないで用紙トレイを引き出すと、用紙が破れて機械の中に紙片が残ってしまうことがあります。故障の原因になるので、紙づまりの位置を確認してから、処置をしてください。
- 紙片が本機内に残っていると、紙づまりの表示は消えません。
- 紙づまりの処置をするときは、本機の電源を入れたままの状態にしておいてください。電源を切ると、本機のメモリー上に蓄積された情報が消去されます。
- 本機内部の部品には触れないでください。印字不良の原因になります。

本体の左側面上部カバー［A］での紙づまり

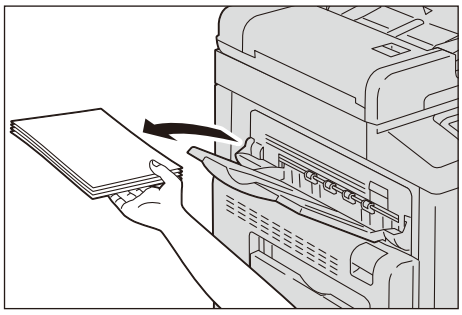
注記
- 用紙を取り除くとき、左側面上部のカバーの内部にある本体側の転写ベルト（黒いフィルム状のベルト）に画像が付いていることがあります。この転写ベルトには、触れないでください。画質に影響をおよぼしたり、転写ベルトが損傷して交換が必要になることがあります。

1 用紙トレイ 5（手差し）を開きます。

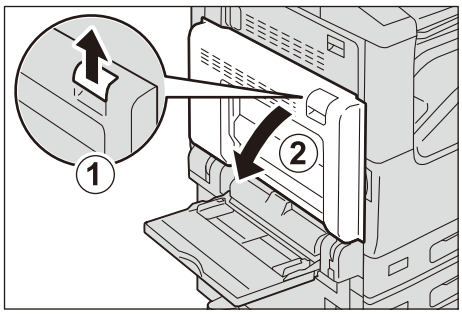


■サイドトレイ（オプション）装着時

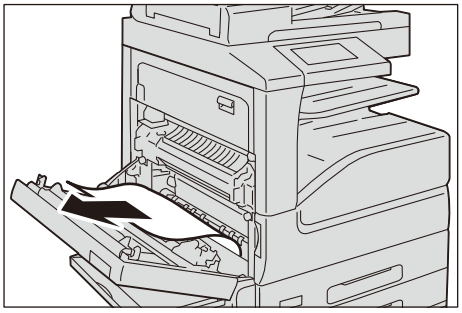
サイドトレイ（オプション）の用紙を取り除いてください。



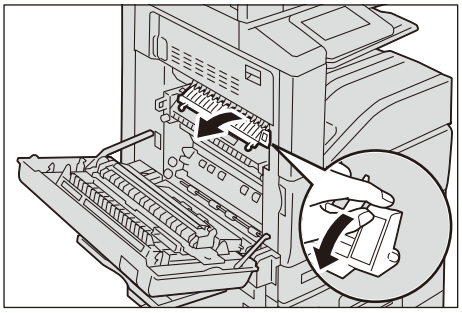
2 カバー［A］のレバーを押し上げて（①）、カバー［A］を開きます。（②）



3 詰まっている用紙が定着部に達していない場合は、詰まっている用紙を取り除きます。手順 6 に進みます。詰まっている用紙が定着部に達している場合は手順 4 に進みます。



4 レバー［A1］を矢印の方向に倒して、定着部のカバーを開きます。



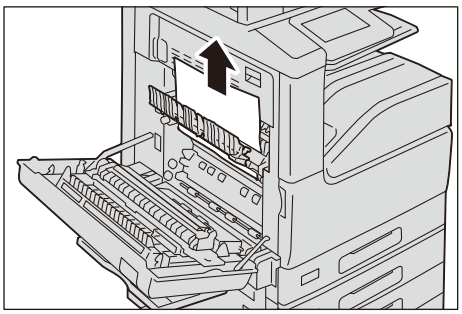
注記

- 定着部は高温になっています。やけどの原因となるおそれがあります。触れないように注意してください。

5 矢印の方向に用紙を取り除きます。

補足

- 用紙が破れた場合、紙片が残っていないかを確認してください。



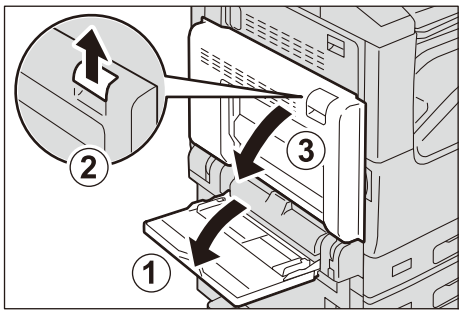
6 レバー［A1］を戻して定着部のカバーを閉じます。

7 カバー［A］をしっかりと閉じます。

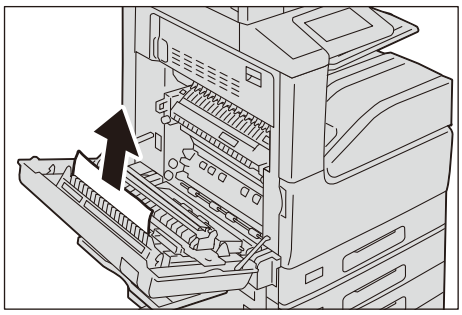
8 用紙トレイ 5（手差し）を閉じます。

両面ユニットでの紙づまり

1 用紙トレイ 5（手差し）を開いてから、カバー［A］のレバーを押し上げて、カバーをゆっくりと開きます。

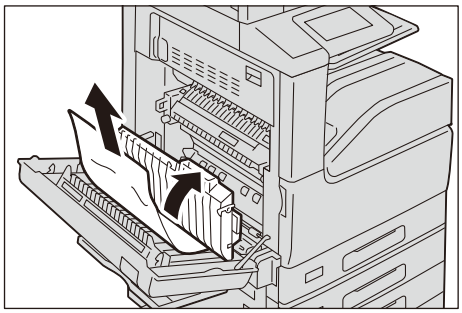


2 詰まっている用紙を取り除きます。



■カバー [A] のシュートに用紙が詰まっている場合

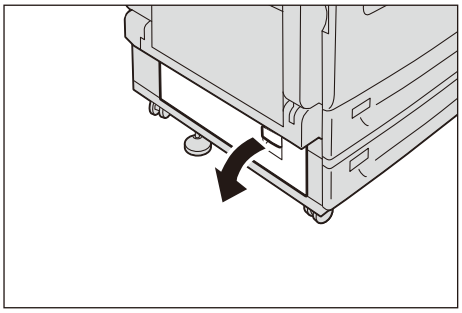
レバー [A2] を持ち上げて、詰まった用紙を取り除き、レバー [A2] を戻します。



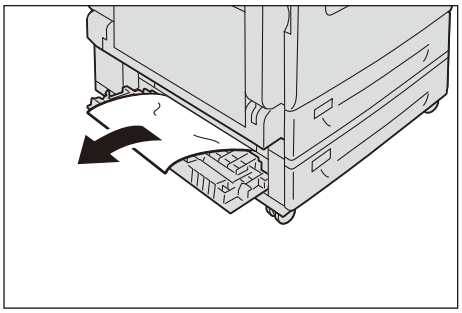
3 カバー［A］を閉じ、用紙トレイ 5（手差し）を上げます。

本体の左側面下部カバー［B］での紙づまり（2 トレイ構成の場合）

1 リリースレバーを引きながら、左側面下部のカバーをゆっくりと開きます。



2 詰まっている用紙を取り除きます。



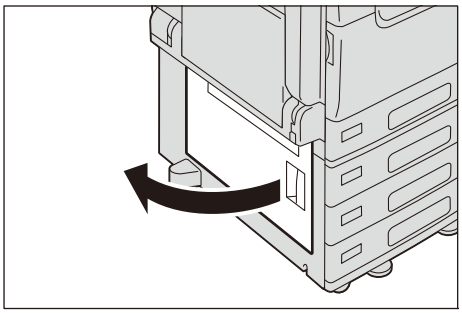
補足

- 上部の見えにくい所に用紙が詰まっている場合があります。よく確認してください。

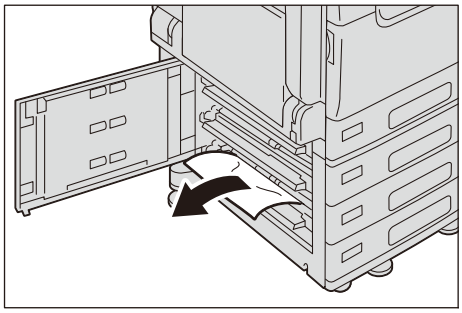
3 左側面下部のカバーをゆっくりと閉じます。

本体の左側面下部カバー［B］での紙づまり（4 トレイ構成の場合）

1 リリースレバーを引きながら、左側面下部のカバーをゆっくりと開きます。



2 詰まっている用紙を取り除きます。



補足

- 上部の見えにくい所に用紙が詰まっている場合があります。よく確認してください。

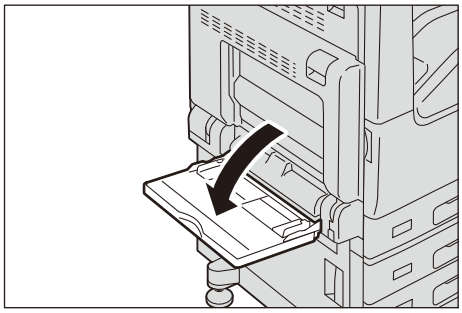
3 左側面下部のカバーをゆっくりと閉じます。

本体の左側面最上部カバー［C］での紙づまり

注記

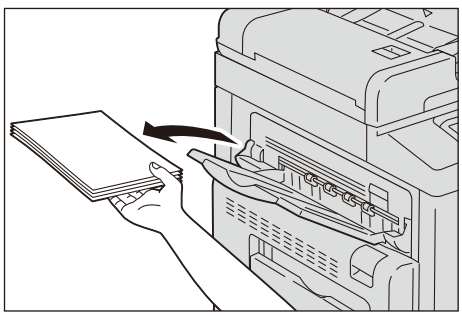
- 用紙を取り除くとき、左側面上部のカバーの内部にある本体側の転写ベルト（黒いフィルム状のベルト）に画像が付いていることがあります。この転写ベルトには、触れないでください。画質に影響をおよぼしたり、転写ベルトが損傷して交換が必要になることがあります。

1 用紙トレイ 5（手差し）を開きます。

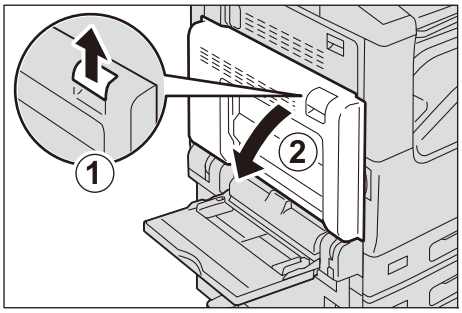


■サイドトレイ（オプション）装着時

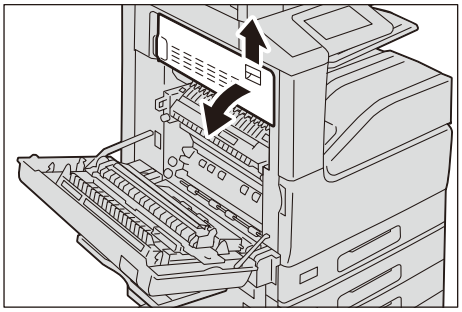
サイドトレイ（オプション）の用紙を取り除いてください。



2 カバー［A］のレバーを押し上げて（①）、カバー［A］を開きます。（②）



3 レバーを持ち上げて、最上部カバー［C］を開きます。



注記
- 定着部は高温になっています。やけどの原因となるおそれがあります。触れないように注意してください。

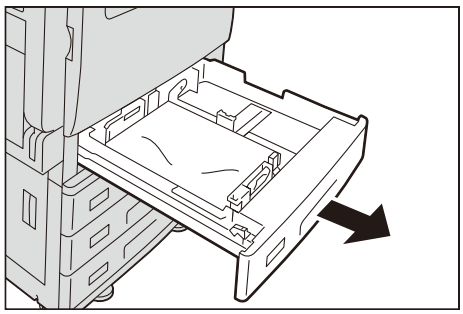
4 詰まっている用紙を取り除きます。

5 最上部カバー C を閉じます。

6 左側面上部 A のカバーの中央部を押して、ゆっくりと閉じ、用紙トレイ 5（手差し）を閉じます。

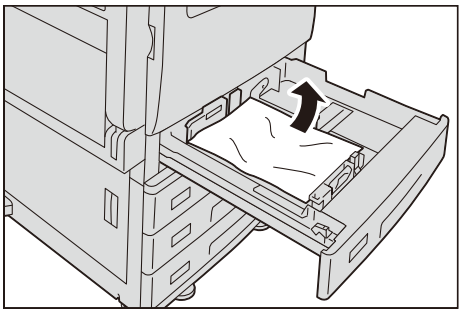
用紙トレイ 1 ～ 4 での紙づまり

1 用紙が詰まっている用紙トレイを引き出します。



注記
- 紙づまりの位置を確認しないで用紙トレイを引き出すと、用紙が破れて機械の中に紙片が残ってしまうことがあります。故障の原因になるので、ディスプレイで紙づまりの位置を確認してから処置をしてください。

2 詰まっている用紙を取り除きます。



3 用紙ガイドの位置を確認します。

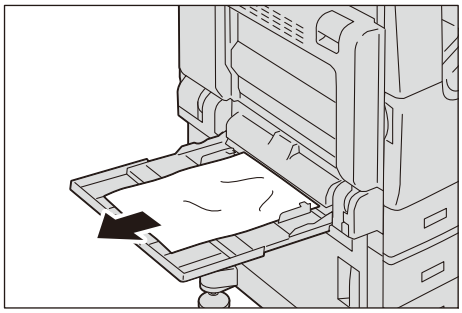
4 奥に突き当たるところまで、用紙トレイをゆっくりと押し込みます。

用紙トレイ 5（手差し）での紙づまり

1 本体の左側面上部カバー［A］内に詰まっている用紙を取り除きます。

参照
- 「本体の左側面上部カバー［A］での紙づまり」(P.489) を参照してください。

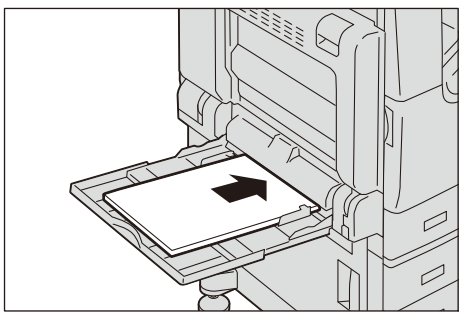
2 用紙トレイ 5（手差し）の奥（用紙の差し込み口付近）を点検し、詰まっている用紙を取り除きます。



注記
- 用紙を複数枚セットしていたときは、いったんすべての用紙を取り出してください。

3 用紙を複数枚セットしていた場合、取り出しておいた用紙の四隅をそろえます。

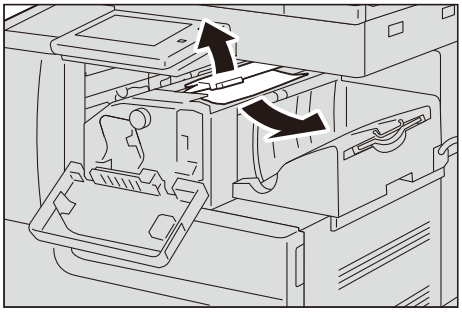
4 プリントしたい面を下にして、用紙先端を差し込み口に軽く突き当たるまで入れます。



フィニッシャー A2（オプション）での紙づまり

フィニッシャーの上面カバーでの紙づまり

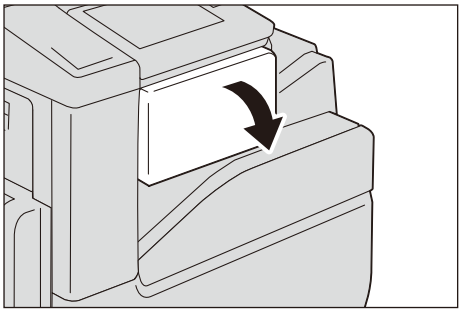
1 フィニッシャーの上面カバーを開け、詰まっている用紙を取り除きます。



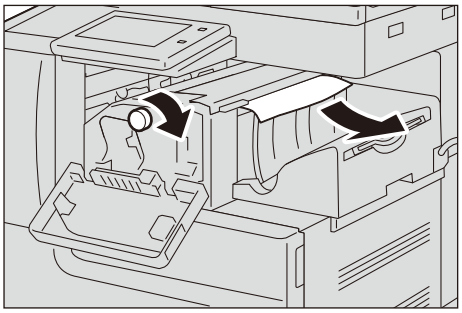
2 上面カバーを閉じます。

フィニッシャー接続部での紙づまり

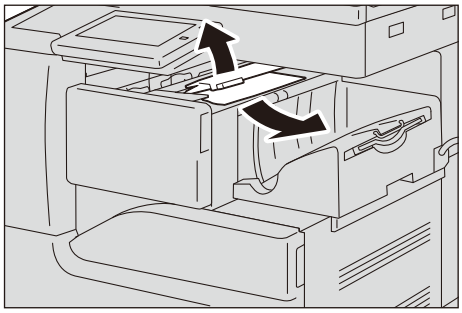
1 フィニッシャーの正面カバーをゆっくりと開けます。



2 ノブを回して、詰まっている用紙をフィニッシャートレイ側に送ります。



3 フィニッシャーの上面カバーを開け、用紙を取り除きます。



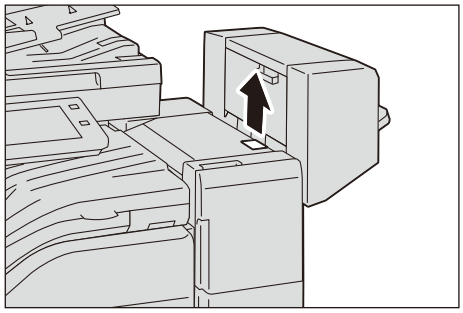
4 上面カバーを閉じます。

5 フィニッシャーの正面カバーを閉じます。

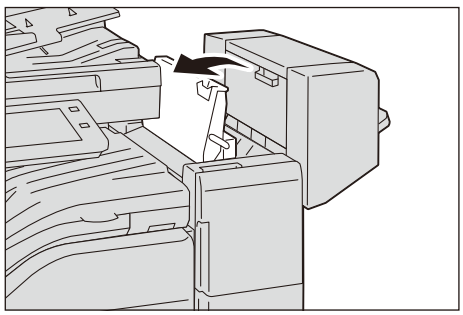
フィニッシャー B3（オプション）での紙づまり

フィニッシャー上面カバーでの紙づまり

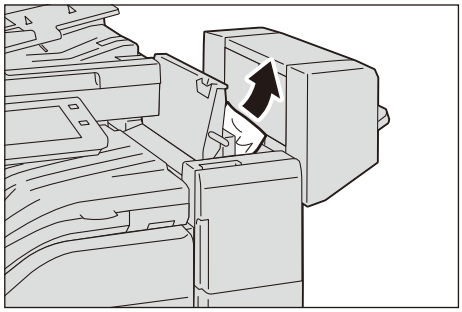
1 フィニッシャーの上面カバーにあるレバーを引き上げます。



2 フィニッシャーの上面カバーを開けます。



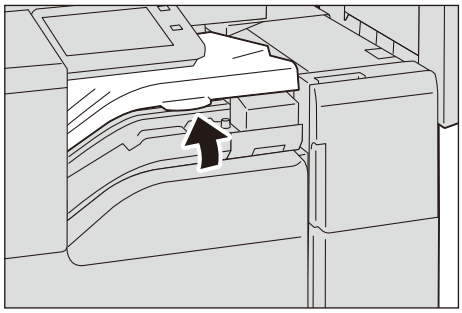
3 詰まっている用紙を取り除きます。



4 フィニッシャーの上面カバーを閉じます。

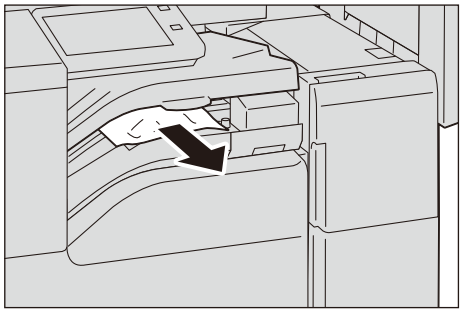
センター部の紙づまり

1 フィニッシャー接続部上面カバーを上に持ち上げ、開きます。



補足
- フィニッシャー接続部上面カバーは外れません。

2 詰まっている用紙を取り除きます。



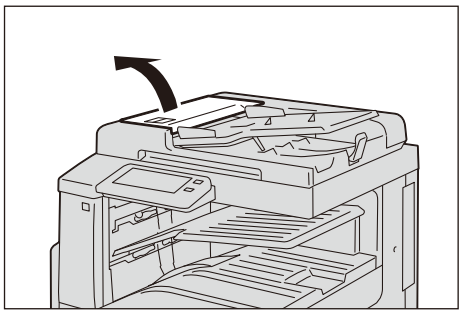
3 フィニッシャー接続部上面カバーを閉じます。

原稿が詰まった場合

原稿送り装置に原稿が詰まると、機械が停止し、ディスプレイにエラーメッセージが表示されます。メッセージに従って、原稿づまりの処置をしたあと原稿送り装置に原稿をセットし直します。

自動両面原稿送り装置 のカバー部での原稿づまり

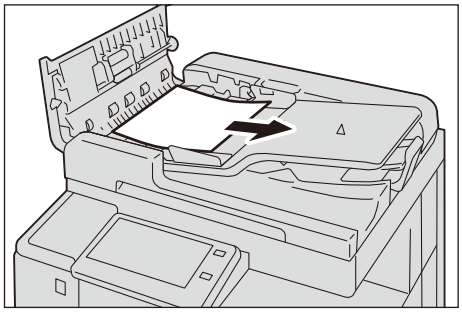
1 原稿送り装置の左側カバー手前の取っ手を引き上げて、左側カバーを止まるところまで開けます。



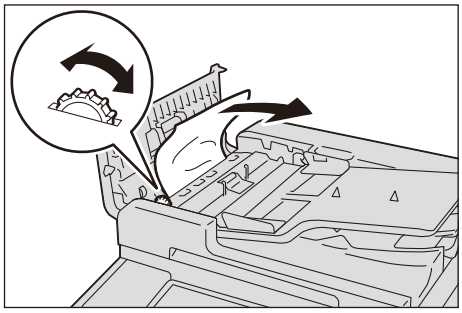
補足

- カバーを十分に開くと、固定される位置があります。カバーは、ゆっくりと開けてください。

2 原稿が引き込み部にはさまっていない場合は、そのまま原稿を取り除きます。



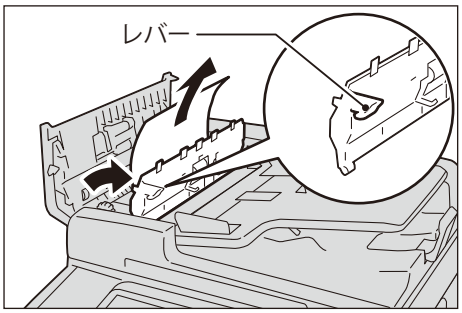
3 メッセージにノブを回す指示がある場合は、ノブを回して、上側に原稿を送り出して取り除きます。



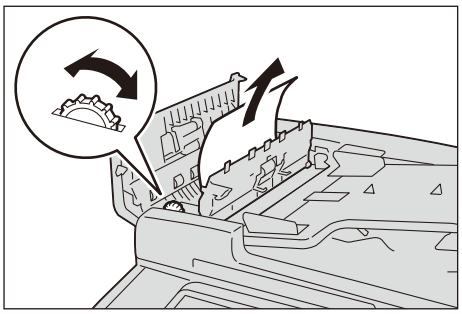
注記

- 原稿がはさまっている場合は、直接引き抜かないでください。原稿が破損するおそれがあります。

4 メッセージに内カバーを開ける指示がある場合は、レバーを持ち上げて内カバーを開けます。



5 ノブを回して上側に原稿を送り出して取り除きます。



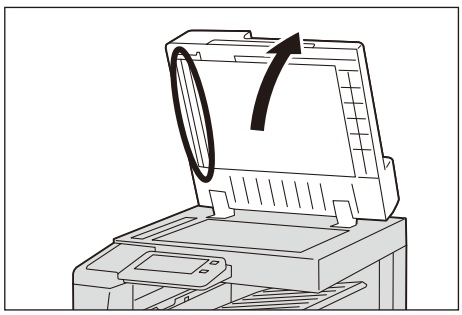
注記

- 原稿がはさまっている場合は、直接引き抜かないでください。原稿が破損するおそれがあります。

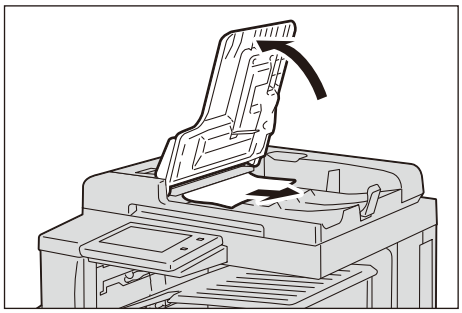
6 原稿送り装置の内カバーを閉じます。

7 原稿送り装置の左側カバーを「カチッ」と音がするまで閉じ、カバーの手前や奥に浮きが無いことを確認します。

8 原稿が見つからない場合は、原稿送り装置を静かに持ち上げて、原稿があれば取り出し、原稿送り装置を閉じます。



9 手順８で、原稿が見つからない場合は、原稿送りトレイを持ち上げて、原稿を取り除きます。



10 原稿送りトレイを静かに戻します。

11 原稿に破れ、しわ、折れがないことを確認し、ディスプレイに表示されているメッセージに従って、原稿をもう一度セットします。

補足

- 原稿に破れ、しわ、折れがあると、原稿づまりや原稿破損の原因になります。このような場合は原稿を原稿ガラスに直接セットしてください。

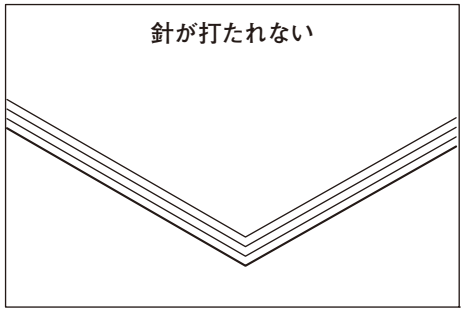
ホチキスがうまく留められないとき

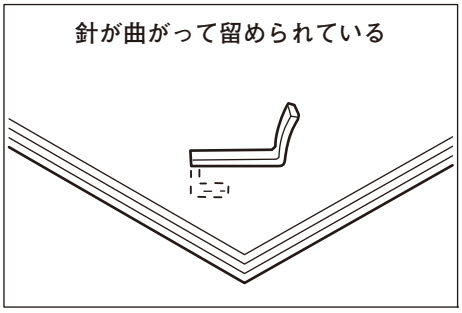
フィニッシャー（オプション）が装着されている場合に、ホチキスがうまく留められないときの対処方法を説明します。

ホチキス針が打たれなかったり、針が曲がって留められているときは、次ページの手順に従って対処してください。対処しても正常に戻らないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。

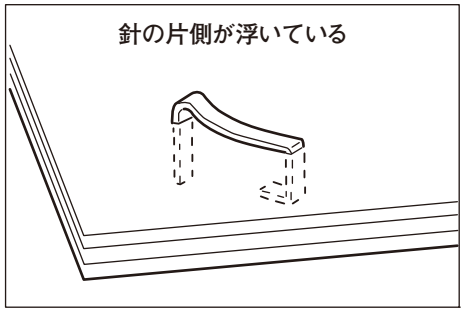
注記

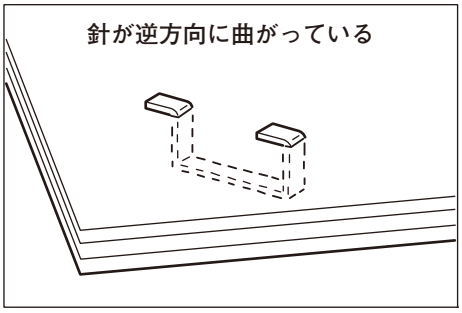
- ホチキスが正しく留まっていても、排出された用紙の取り扱い方によっては、針の先端が用紙から離れることがあります。

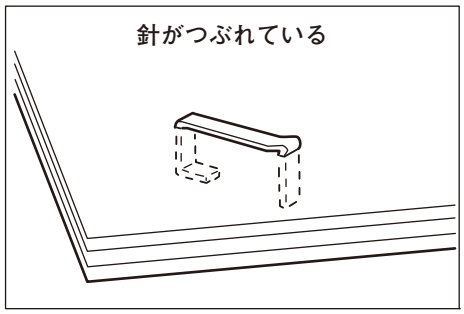


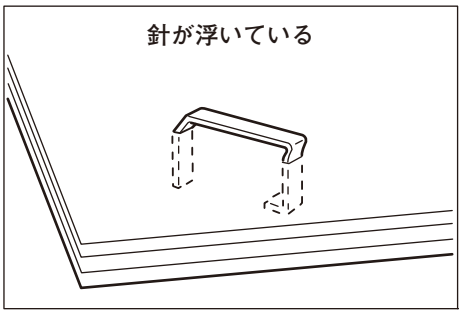


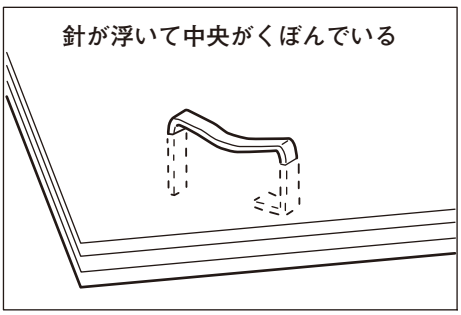
下図のように針が打たれているときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。





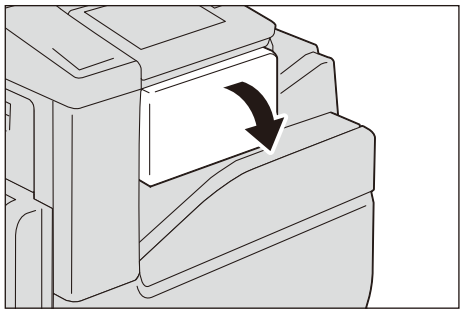




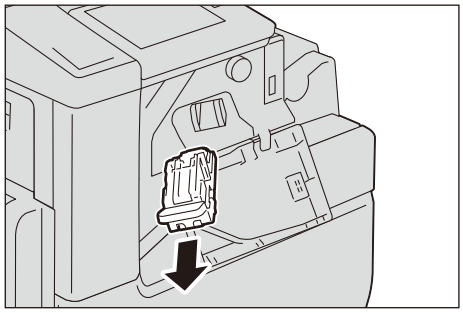


ホチキスカートリッジの針づまり（フィニッシャー A2（オプション）の場合）

1 本機が停止していることを確認し、フィニッシャーの正面カバーをゆっくりと開けます。



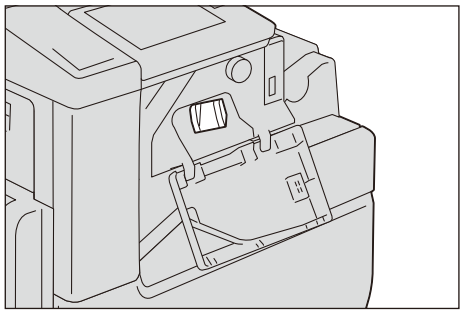
2 ホチキスカートリッジを取り出します。



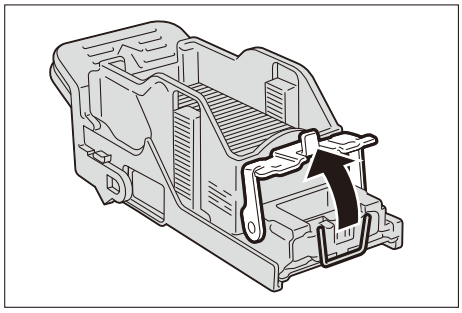
補足

- ホチキスカートリッジはしっかりセットされています。取り出すときは、強めにホチキスカートリッジを引いてください。

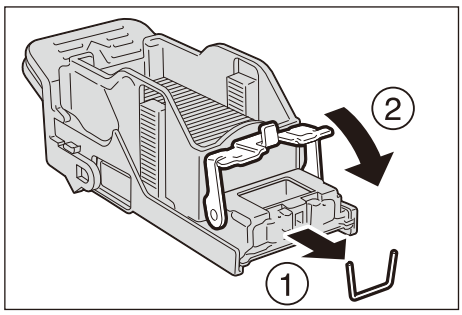
3 ホチキスカートリッジを取り出したあと、フィニッシャー内にホチキスが残っていないことを確認します。ホチキスがあったら取り除いてください。



4 ホチキスカートリッジの、図の位置にある金属部分を押し上げます。

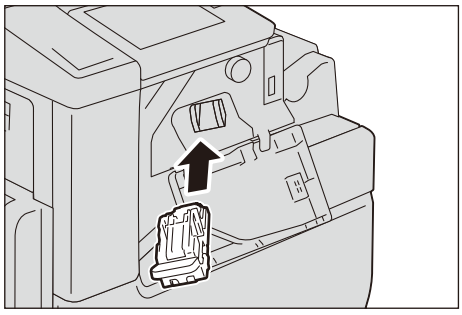


5 詰まっているホチキス針を取り除き（①）、手順 4 で押し上げた金属部分を元に戻します（②）。



> ⚠注意
>
> 詰まったホチキス針を取り除くときには、指などにケガをしないように十分注意してください。

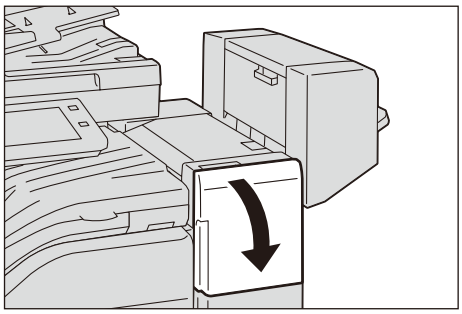
6 「カチッ」と音がするまで、ホチキスカートリッジを押し込みます。



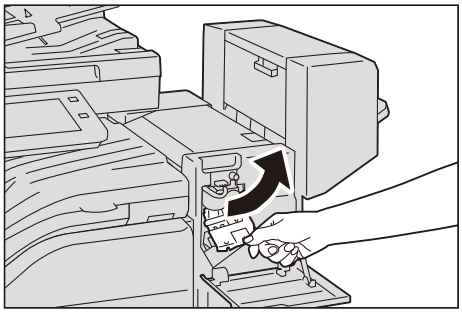
7 フィニッシャーの正面カバーを閉じます。

ホチキスカートリッジの針づまり（フィニッシャー B3（オプション）の場合）

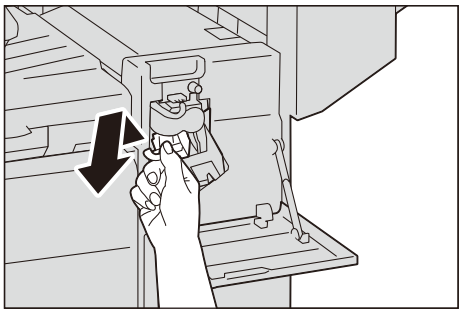
1 本機が停止していることを確認し、フィニッシャーの正面カバーを開けます。



2 ホチキスカートリッジ「R1」のつまみを持って、ホチキスカートリッジを右端（手前）へ引き寄せます。



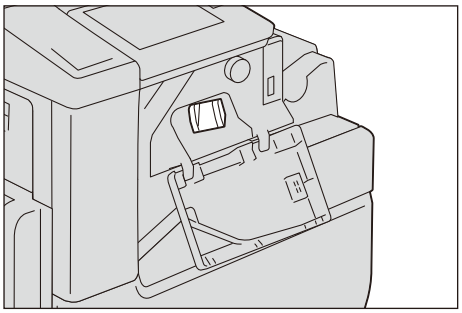
3 上方向へ引き上げ、ホチキスカートリッジを取り出します。



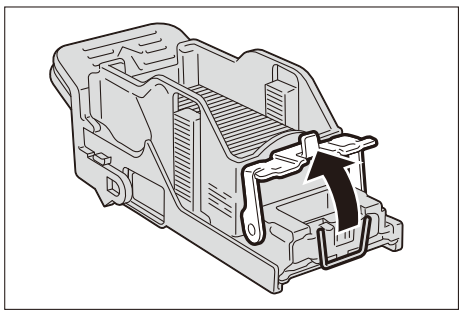
補足

- ホチキスカートリッジはしっかりセットされています。取り出すときは、強めにホチキスカートリッジを引いてください。

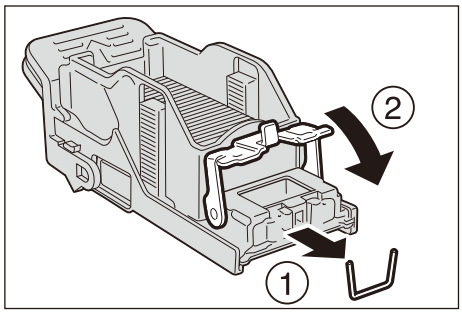
4 ホチキスカートリッジを取り出したあと、フィニッシャー内部に針が無いか確認します。



5 ホチキスカートリッジの、図の位置にある金属部分を押し上げます。

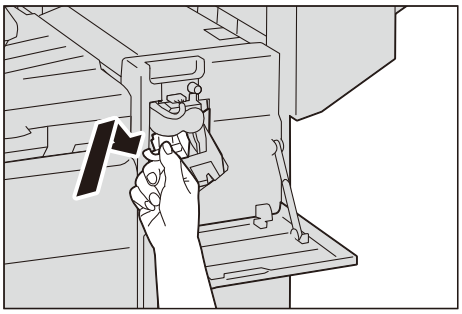


6 詰まっているホチキス針を取り除き (①)、手順 5 で押し上げた金属部分を元に戻します（②)。



> ⚠注 意
>
> 詰まったホチキス針を取り除くときには、指などにケガをしないように十分注意してください。

7 「カチッ」と音がするまで、ホチキスカートリッジを押し込みます。



8 フィニッシャーの正面カバーを閉じます。

エラーコード

エラーが発生してプリントが正常に終了しなかった場合や本機に故障が発生した場合は、操作パネルのディスプレイにメッセージとエラーコード（***-***）が表示されます。

ファクスの場合、［通信管理レポート］や［未送信レポート］などにもエラーコードが表示されます。

注記

- エラーコードが表示されたときは、本機内に残っているプリントデータや、本機のメモリーに蓄えられた情報は保証されません。

補足

- ホーム画面で、［ヘルプ］をタップし、［検索］＞［エラーコード検索］を選択すると、エラーコードの詳細をタッチパネル上で確認できます。
- エラーコードの画面に［ヘルプ］が表示されている場合は、そのボタンをタップすると、該当するエラーコードの詳細を確認できます。

参照

- エラーコードの処置方法については、弊社公式サイトのエラーコード検索を参照してください。

弊社公式サイトに記載されていないエラーコードが表示された場合や、記載に従って処置をしても正常に戻らないときは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にご連絡ください。状況により、お客様に確認を依頼する場合や、カストマーエンジニアによる保守が必要となる場合があります。カストマーコンタクトセンターの電話番号は、機械に添付してあるラベル、またはカードに記載されています。

18

付録

主な仕様

製品の仕様、および外観は、予告なく変更する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

基本機能 / コピー機能

■形式

デスクトップ / コンソールタイプ

■メモリー容量

4 GB（最大：4 GB）

■ストレージ容量

- ApeosPort 3060/2560
  128 GB
- ApeosPort 1860
  3.6 GB

注記
- 表記された容量のすべてをお客様が利用できるわけではありません。

■読み取り解像度

600×600 dpi

■書き込み解像度

1,200 × 2,400 dpi

■階調 / 表現色

235 階調

■ウォームアップ・タイム

組み込みプラグイン機能 / カスタムサービス * 有効時：28 秒以下（室温 23 ℃）、無効時：22 秒以下（室温 23 ℃）
* :工場出荷時は有効に設定されています。

■リカバリータイム（スリープ復帰時間）

12 秒以下（室温 23 ℃）

■原稿サイズ

シート、ブック共に最大 297×432 mm（A3、11×17"）

■用紙サイズ

- 最大：A3、11×17"
- 最小：A5
  [手差しトレイでは郵便はがき（日本郵便製）、長形 4 号]
- 画像欠け幅：先端 4.0 mm、後端 2.0 mm、左 / 右 2.0 mm

■用紙坪量

トレイ：60 ～ 256 g/m^2

手差しトレイ：60 ～ 216 g/m^2

注記

- 弊社推奨紙の使用をお勧めします。使用条件によっては正しくコピーできない場合があります。
- 用紙によっては、紙づまりしたり、しわが出たりする場合があります。

■ファーストコピー・タイム

注記

- 機器構成によって、数値が変わることがあります。

- ApeosPort 3060/2560
  4.5 秒（A4 ）
- ApeosPort 1860
  5.9 秒（A4 ）

■複写倍率

- 等倍：1:1 ± 0.7 %
- 固定倍率：50 %、70 %、81 %、86 %、115 %、122 %、141 %、200 %
- 任意倍率：25 ～ 400 %（1 % きざみ）

■連続複写速度

注記

- 画質調整のため速度が低下することがあります。

- ApeosPort 3060
  A4 /B5 : 30 枚 / 分
  A4：23 枚 / 分
  B4：20 枚 / 分
  B5：13 枚 / 分
  A3：17 枚 / 分
- ApeosPort 2560
  A4 /B5 : 25 枚 / 分
  A4：19 枚 / 分
  B4：16 枚 / 分
  B5：11 枚 / 分
  A3：14 枚 / 分
- ApeosPort 1860
  A4 /B5 : 18 枚 / 分
  A4：14 枚 / 分
  B4：12 枚 / 分
  B5：8 枚 / 分
  A3：10 枚 / 分

■給紙方式 / 給紙容量

Model-1T：560 枚 × 1 トレイ＋手差しトレイ 100 枚
Model-2TS/2T：560 枚 × 2 トレイ＋手差しトレイ 100 枚
Model-4T：560 枚 × 4 トレイ + 手差しトレイ 100 枚

注記
- 弊社 P 紙の場合です。

■連続複写枚数

999 枚

注記
- 画質安定化処理のため、機械の動作を一時的に中断することがあります。

■出力トレイ容量

約 400 枚（A4 ）、200 枚（A3）

注記
- 弊社 P 紙の場合です。
- インナー排出トレイ（オプション）装着時のトレイ容量はセントートレイが 250 枚（A4 ）、インナー排出トレイ（オプション）が 250 枚（A4 ）になります。

■電源

AC 100 V±10 %、15 A、50/60 Hz 共用

■最大消費電力

- ApeosPort 3060
  1.5 kW
  スリープモード時：0.4 W
  低電力モード時：54 W
  待機モード時：90 W
- ApeosPort 2560
  1.5 kW
  スリープモード時：0.4 W
  低電力モード時：54 W
  待機モード時：74 W
- ApeosPort 1860
  1.5 kW
  スリープモード時：（DC モデル）0.4 W、（F モデル）0.3 W、（PF モデル）0.4 W
  低電力モード時：54 W
  待機モード時：74 W

■エネルギー消費効率

- ApeosPort 3060
  71 kWh/ 年　区分：複合機 c
- ApeosPort 2560
  56 kWh/ 年　区分：複合機 c

- ApeosPort 1860（DC モデル）
  11 Wh/h　区分：複写機 17
- ApeosPort 1860（F モデル）
  43 kWh/ 年　区分：複合機 c
- ApeosPort 1860（PF モデル）
  36 kWh/ 年　区分：複合機 c

注記
- 省エネ法（平成 25 年 3 月 1 日付）で定められた測定方法による数値です。

■大きさ

- ApeosPort 3060/2560
  ＜ Model-1T ＞
  P モデル：幅 590× 奥行 659 × 高さ 803 mm
  P/PFS モデル：幅 590× 奥行 659 × 高さ 768 mm
  ＜ 1 トレイモジュール装着時＞
  P モデル：幅 590× 奥行 659 × 高さ 689 mm
  P/PFS モデル：幅 590× 奥行 659 × 高さ 882 mm
  ＜ 1 トレイモジュール + キャスター装着時＞
  P モデル：幅 590× 奥行 659 × 高さ 882 mm
  P/PFS モデル：幅 590× 奥行 659 × 高さ 962 mm
  ＜キャビネット付き 1 トレイモジュール装着時＞
  P モデル：幅 590× 奥行 659 × 高さ 1,040 mm
  P/PFS モデル：幅 590× 奥行 659 × 高さ 1,119 mm
  ＜ Model-4T ＞
  P モデル：幅 590× 奥行 659 × 高さ 1,040 mm
  P/PFS モデル：幅 590× 奥行 659 × 高さ 1,119 mm
- ApeosPort 1860
  ＜標準＞
  DC モデル：幅 590× 奥行 659 × 高さ 689 mm
  F/PF モデル：幅 590× 奥行 659 × 高さ 768 mm
  ＜ 1 トレイモジュール装着時＞
  DC モデル：幅 590× 奥行 659 × 高さ 803 mm
  F/PF モデル：幅 590× 奥行 659 × 高さ 882 mm
  ＜ 1 トレイモジュール + キャスター装着時＞
  DC モデル：幅 590× 奥行 659 × 高さ 882 mm
  F/PF モデル：幅 590× 奥行 659 × 高さ 962 mm
  ＜キャビネット付き 1 トレイモジュール装着時＞
  DC モデル：幅 590× 奥行 659 × 高さ 1,040 mm
  F/PF モデル：幅 590× 奥行 659 × 高さ 1,119 mm

＜3 トレイモジュール装着時＞
DC モデル：幅 590× 奥行 659 × 高さ 1,040 mm
F/PF モデル：幅 590× 奥行 659 × 高さ 1,119 mm

■質量

- ApeosPort 3060/2560
  ＜ Model-1T ＞
  DC モデル：50 kg
  F/PFS モデル：55 kg
  ＜1 トレイモジュール装着時＞
  DC モデル：60 kg
  F/PFS モデル：65 kg
  ＜1 トレイモジュール + キャスター装着時＞
  DC モデル：68 kg
  F/PFS モデル：73 kg
  ＜キャビネット付き 1 トレイモジュール装着時＞
  DC モデル：71 kg
  F/PFS モデル：77 kg
  ＜3 トレイモジュール装着時＞
  DC モデル：75 kg
  F/PFS モデル：80 kg
- ApeosPort 1860
  ＜標準＞
  DC モデル：50 kg
  F/PFS モデル：55 kg
  ＜1 トレイモジュール装着時＞
  DC モデル：60 kg
  F/PFS モデル：65 kg
  ＜1 トレイモジュール + キャスター装着時＞
  DC モデル：68 kg
  F/PFS モデル：73 kg
  ＜キャビネット付き 1 トレイモジュール装着時＞
  DC モデル：71 kg
  F/PFS モデル：77 kg
  ＜3 トレイモジュール装着時＞
  DC モデル：75 kg
  F/PFS モデル：80 kg

注記
- トナーカートリッジを含みます。

■機械占有寸法

- ApeosPort 3060/2560
  P モデル：幅 916× 奥行 659 mm（手差しトレイを最大に伸ばした時）
  PF/PFS モデル：幅 969× 奥行 659 mm（手差しトレイを最大に伸ばした時）
- ApeosPort 1860
  DC モデル：幅 916× 奥行 659 mm（手差しトレイを最大に伸ばした時）
  F/PF モデル：幅 969× 奥行 659 mm（手差しトレイを最大に伸ばした時）

注記
- 社名バッジの突起分は含みません。

プリント機能

■形式

内蔵型

■連続プリント速度

基本機能 / コピー機能に準ずる

注記
- 画質調整のため速度が低下することがあります。
- ドキュメントによってはプリント速度が低下することがあります。

■書き込み解像度

- 標準【ART EX ドライバー】
  標準：1,200×2,400 dpi、高画質：1,200×2,400 dpi、高精細：1,200×1,200 dpi
- オプション【Adobe PostScript 3 ドライバー】
  高速（標準）：600×600 dpi、高画質：1,200×2,400 dpi、高精細：1,200×1,200 dpi

■ページ記述言語

標準：ART EX
オプション：Adobe PostScript 3

■対応プロトコル

- Ethernet（標準）：
  TCP/IP（lpd、IPP、Port9100）

■対応 OS

- 標準：
  【ART EX ドライバー】
  Windows 10（32 ビット）
  Windows 10 （64 ビット）
  Windows 8.1（32 ビット）
  Windows 8.1（64 ビット）
  Windows Server 2019（64 ビット）
  Windows Server 2016（64 ビット）
  Windows Server 2012 R2（64 ビット）

Windows Server 2012（64 ビット）

【Mac OS X ドライバー】

macOS 10.15 Catalina

macOS 10.14 Mojave

macOS 10.13 High Sierra

macOS 10.12 Sierra

OS X 10.11 El Capitan

OS X 10.10 Yosemite

- オプション：

Windows 10（32 ビット）

Windows 10 （64 ビット）

Windows 8.1（32 ビット）

Windows 8.1（64 ビット）

Windows Server 2019（64 ビット）

Windows Server 2016（64 ビット）

Windows Server 2012 R2（64 ビット）

Windows Server 2012（64 ビット）

macOS 10.15 Catalina

macOS 10.14 Mojave

macOS 10.13 High Sierra

macOS 10.12 Sierra

OS X 10.11 El Capitan

OS X 10.10 Yosemite

注記

- 最新の対応 OS については、弊社公式サイトをご覧ください。
- Linux® OSについては、PDFダイレクトプリントを用いたオプションとして、弊社ダウンロードページからのみ、無保証のソフトウェアとして日本語版を提供します。

■内蔵フォント

- 標準：

アウトラインフォント（平成明朝体™ W3*、平成角ゴシック体™ W5*、欧文 19 書体）

* :JIS2004 対応フォント

ストロークフォント（日本語書体、欧文書体：HP-GL 用）、欧文 82 書体、シンボル 37 セット

補足

- ART EX では日本語 2 書体の JIS 第一水準、第二水準の文字は JIS2004 の字形で出力されます。

- オプション：

Adobe PostScript 3 キット：

平成 2 書体版：日本語 2 書体（平成明朝体™ W3、平成角ゴシック体™ W5）、JIS2004 対応日本語 2 書体（平成明朝 StdN W3、平成角ゴシック StdN W5）、欧文 136 書体

■エミュレーション

- 標準：

  ART IV、ESC/P（VP-1000）、BMLinkS、PDF、XPS、DocuWorks、TIFF、JPEG、PC-PR201H、HP-GL（HP7586B）、HP-GL2 / RTL（HP Designjet 750C Plus）、PCL5 / PCL6

■インターフェイス

- 標準

  Ethernet 1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T、USB 3.0

- オプション

  無線 LAN（IEEE 802.11 a/b/n/g/ac）

スキャン機能（オプション）

■形式

カラースキャナー

■原稿サイズ

基本機能 / コピー機能に準ずる

■読み取り解像度

600×600 dpi、400×400 dpi、300×300 dpi、200×200 dpi

■原稿読み取り速度

自動両面原稿送り装置（オプション）の原稿読み取り速度に準ずる

■インターフェイス

- 標準

  Ethernet 1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T

- オプション

  無線 LAN（IEEE 802.11 a/b/n/g/ac）

■ボックス保存

- 対応プロトコル：TCP/IP（WebDAV、HTTP）
- 出力フォーマット：
  - モノクロ 2 値：TIFF、DocuWorks 文書[*1]、PDF[*1]
  - グレースケール：TIFF、JPEG[*2]、DocuWorks 文書[*1]、PDF[*1]
  - フルカラー：TIFF、JPEG、DocuWorks 文書[*1]、PDF[*1]、高圧縮 DocuWorks 文書[*1]、高圧縮 PDF[*1]

*1 :CentreWare Internet Services を利用して文書を取り出す場合だけ対応しています。
*2 :ネットワークスキャナーユーティリティ 3 を使用している場合だけ対応しています。

- ドライバー：

  TWAIN インターフェイス対応

- ドライバー対応 OS：

  Windows 10（32 ビット）

  Windows 10（64 ビット）

Windows 8.1（32 ビット）
Windows 8.1（64 ビット）
Windows Server 2019（64 ビット）
Windows Server 2016（64 ビット）
Windows Server 2012 R2（64 ビット）
Windows Server 2012（64 ビット）

注記
- 最新の対応 OS については、弊社公式サイトをご覧ください。

macOS 10.15 Catalina
macOS 10.14 Mojave
macOS 10.13 High Sierra
macOS 10.12 Sierra
OS X 10.11 El Capitan

■PC 保存

- 対応プロトコル：TCP/IP（SMB、FTP、SFTP）
- 対応 OS：

Windows 10（32 ビット）
Windows 10 （64 ビット）
Windows 8.1（32 ビット）
Windows 8.1（64 ビット）
Windows Server 2019（64 ビット）
Windows Server 2016（64 ビット）
Windows Server 2012 R2（64 ビット）
Windows Server 2012（64 ビット）
macOS 10.15 Catalina*1
macOS 10.14 Mojave*1
macOS 10.13 High Sierra*1
macOS 10.12 Sierra
OS X 10.11 El Capitan

* :SMB のみ対応しています。

注記
- 最新の対応 OS については、弊社公式サイトをご覧ください。

- 出力フォーマット：
  - モノクロ 2 値：
    TIFF、DocuWorks 文書、PDF
  - グレースケール / フルカラー：
    TIFF、JPEG、DocuWorks 文書、PDF、高圧縮 DocuWorks 文書、高圧縮 PDF

■メール送信

- 対応プロトコル：
  TCP/IP（SMTP）
- 出力フォーマット：
  - モノクロ 2 値：
    TIFF、DocuWorks 文書、PDF、XPS
  - グレースケール / フルカラー：
    TIFF、JPEG、DocuWorks 文書、PDF、XPS、高圧縮 DocuWorks 文書、高圧縮 PDF、高圧縮 XPS

ファクス機能（オプション）

■送信原稿サイズ

最大：A3、11×17"、長尺原稿可（最長 600 mm）

■記録紙サイズ

最大：A3、11×17"、最小：A5

■電送時間

2 秒台

注記
- A4 判 700 字程度の原稿を、標準画質（8×3.85 本 /mm）、高速モード（28.8 kbps 以上：JBIG）送信時。画像情報のみの電送時間で、通信の制御時間は含まれておりません。なお、実際の通信時間は原稿の内容、相手機種、回線の状況により異なります。

■通信モード

ITU-T G3

■走査線密度

- 標準：8×3.85 本 /mm、200×100 dpi
- 高画質：8×7.7 本 /mm、200×200 dpi
- 超高画質（400 dpi）：16×15.4 本 /mm、400×400 dpi
- 超高画質（600 dpi）：600×600 dpi

■符号化方式

MH、MR、MMR、JBIG

■通信速度

G3：
33.6/31.2/28.8/26.4/24.0/21.6/19.2/16.8/14.4/12.0/9.6/7.2/4.8/2.4 kbps

■適用回線

- ApeosPort 3060/2560
  加入電話回線、PBX、ファクシミリ通信網（PSTN）、最大 3 ポート *（G3：3 ポート）
  * :接続可能な回線数は最大 3 回線です。ポートとは通信可能なチャンネル数のことです。
- ApeosPort 1860
  加入電話回線、PBX、ファクシミリ通信網（PSTN）、最大 1 ポート *（G3：1 ポート）
  * :接続可能な回線数は最大 1 回線です。ポートとは通信可能なチャンネル数のことです。

ダイレクトファクス機能（オプション）

■送信原稿サイズ

A3、B4、A4

■送信画質

ファクス機能の走査線密度に準ずる

■通信速度

ファクス機能に準ずる

■適用回線

ファクス機能に準ずる

■対応 OS

- ART EX ドライバー
  Windows 10（32 ビット）
  Windows 10 （64 ビット）
  Windows 8.1（32 ビット）
  Windows 8.1（64 ビット）
  Windows Server 2019（64 ビット）
  Windows Server 2016（64 ビット）
  Windows Server 2012 R2（64 ビット）
  Windows Server 2012（64 ビット）
- Mac OS X ドライバー
  macOS 10.15 Catalina
  macOS 10.14 Mojave
  macOS 10.13 High Sierra
  macOS 10.12 Sierra
  OS X 10.11 El Capitan
  OS X 10.10 Yosemite

注記

- 最新の対応 OS については、弊社公式サイトをご覧ください。

インターネットファクス機能（オプション）

■送信原稿サイズ

A3、JIS B4、A4

■走査線密度

ファクス機能に準ずる

■出力フォーマット

フォーマット：TIFF-FX
圧縮方式：MH、MMR、JBIG

■プロファイル

TIFF-S、TIFF-F、TIFF-J

■対応プロトコル

送信：SMTP、受信：SMTP、POP3

■インターフェイス

- 標準
  Ethernet 1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T
- オプション
  無線 LAN（IEEE 802.11 a/b/n/g/ac）

IP ファクス（SIP）機能（オプション）

■送信原稿サイズ

ファクス機能に準ずる

■走査線密度

ファクス機能に準ずる

■対応プロトコル

SIP、JT-T.38

■符号化方式

ファクス機能に準ずる

■インターフェイス

- 標準
  Ethernet 1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T
- オプション
  無線 LAN（IEEE 802.11 a/b/n/g/ac）

両面出力機能

■自動両面可能用紙サイズ

基本機能 / コピー機能に準ずる

■用紙坪量

60 ～ 169 g/m^2

自動両面原稿送り装置（オプション）

■原稿送り装置の種類

自動両面原稿送り装置

■原稿サイズ

最大：A3、11×17"

最小：A5*

* :非定形サイズの場合は、125×85 mm です。

■用紙坪量

38 ～ 128 g/m^2（両面時：50 ～ 128 g/m^2）

■原稿積載枚数

110 枚

注記

- 弊社 P 紙の場合です。

■原稿読み取り速度

- コピー時（A4 片面）

  ApeosPort 3060：30 枚 / 分

  ApeosPort 2560：25 枚 / 分

  ApeosPort 1860：18 枚 / 分

- スキャン時

  モノクロ : 55 枚 / 分、カラー 55 枚 / 分

  [弊社標準原稿（A4）200 dpi、親展ボックスまで]

注記

- 原稿によって読み取り速度は異なります。

■大きさ

幅 540 × 奥行 492 × 高さ 95 mm

■質量

6 kg

サイドトレイ（オプション）

■用紙サイズ

基本機能 / コピー機能に準ずる

■用紙坪量

60 ～ 256 g/m^2

■トレイ容量

100 枚

注記

- 弊社 P 紙の場合です。

■大きさ

幅 353 × 奥行 429 × 高さ 198 mm

■本体接続時の占有寸法

幅 969 × 奥行 659 mm

注記
- 本体＋サイドトレイ（オプション）、手差しトレイを最大に伸ばし、自動両面原稿送り装置ストッパーを開いたとき。

フィニッシャー A2（オプション）

■トレイ形式

ソート（オフセット可）/ スタック（オフセット可）

■用紙サイズ

- 定型サイズ

  最大：A3、11×17"

  最小：郵便はがき（日本郵便製）
- 非定型サイズ

  幅 88.9 ～ 297.0 mm、長さ 98.0 ～ 432.0 mm

■用紙坪量

60 ～ 256 g/m^2

■トレイ容量

- ステープルなしの場合

  A4: 500 枚、B4：250 枚、A3 以上：200 枚、ミックススタック*：250 枚

  * :小さいサイズの上に大きいサイズの用紙が積載された場合
- ステープルした場合

  30 部

注記
- 弊社 P 紙の場合です。

■ステープル

- 最大ステープル枚数：

  A4: 50 枚（90 g/m^2 以下）、B4 以上 : 30 枚（90 g/m^2 以下）
- ステープル用紙サイズ：

  最大：A3、11×17"

  最小：B5
- ステープル用紙坪量：

  60 ～ 256 g/m^2
- ステープル箇所：

  1 箇所

  2 箇所

■大きさ

幅 658 × 奥行 461× 高さ 238 mm

■質量

11 kg

■本体接続時の占有寸法

幅 1,140 × 奥行 659 mm

注記
- 本体+フィニッシャー A2（オプション）、手差しトレイを最大に伸ばしたとき。

フィニッシャー B3（オプション）

■トレイ形式

ソート（オフセット可）/ スタック（オフセット可）

注記
- 用紙幅 210 mm 未満は、オフセットせずに排出されます。

■用紙サイズ

- 最大：A3、11×17"
- 最小：A5

■用紙坪量

60 ～ 256 g/m^2

■トレイ容量

- ステープルなしの場合：

  A4：2,000 枚

  B4 以上：1,000 枚

  ミックススタック[*1]：300 枚
- ステープルした場合：

  A4：100 部または 1,000 枚

  B4 以上：75 部または 750 枚

  中とじ / 折り目をつけた場合[*2]：50 部または 600 枚

  折り目をつけた場合[*2]：500 枚

*1 :サイズが混在する用紙を積載することをいいます。
*2 :中とじ / 折り目機能はフィニッシャー B3 中とじユニット（オプション）が必要です。折りたたみやすいように折り目をつけます。中とじ / 折り目を指定した出力の後は、トレイから用紙を取り除かないと、次のジョブは出力されない場合があります。また、小さいサイズの上に中とじ / 折り目を指定した出力の場合も、トレイから用紙を取り除かないと排出されない場合があります。

注記
- 弊社 P 紙の場合です。

■ステープル

- 最大ステープル枚数：

  50 枚（90 g/m^2 以下）
- ステープル用紙サイズ：

  最大：A3、11×17"

  最小：A5

- ステープル用紙坪量：

  60 ～ 256 g/m^2

- ステープル箇所：

  1 箇所

  2 箇所

■パンチ

- パンチ数：2 穴 /4 穴または 2 穴 /3 穴（US 規格）
- パンチ用紙サイズ：A3、11×17"、B4*2、A4*1、A4 、レター*1、 レター、B5*1、B5*2、A5*1、A5*1
- 用紙坪量*3*4：60 ～ 220 g/m^2

*1 :3 穴、4 穴は使用できません。
*2 :4 穴は使用できません。
*3 :厚紙は 256 g/m^2、コート紙は 169 g/m^2 までパンチできます。
*4 :ラベル紙はパンチできません。

注記

- フィニッシャーB3 パンチユニット 2/4 穴（オプション）、またはフィニッシャーB3 パンチユニット 2/3 穴（US 規格）（オプション）が必要です。

■中とじ / 折り目

- 最大枚数：

  中とじ 15 枚、折り目 5 枚

- 用紙サイズ：

  最大：A3、11×17"

  最小：A4、レター

- 用紙坪量：

  60 ～ 105 g/m^2

注記

- 中とじ / 折り目機能を利用するには、フィニッシャーB3 中とじユニット（オプション）が必要です。折りたたみやすいように折り目をつけます。中とじ / 折り目を指定した出力の後は、トレイから用紙を取り除かないと、次のジョブは出力されない場合があります。また、小さなサイズの上に中とじ / 折り目を指定した出力の場合も、トレイから用紙を取り除かないと排出されない場合があります。
- 中とじの表紙は、印字する場合は最大 169 g/m^2（厚紙 1）まで、印字しない場合は 256 g/m^2（厚紙 3）まで選択できます。

■大きさ / 質量

幅 607 × 奥行 653 × 高さ 1,041 mm、25 kg

幅 607 × 奥行 673 × 高さ 1,079 mm、35 kg （中とじユニット装着時）

注記

- 本体内に収まる接続部は除いた値です。

■本体接続時の占有寸法

幅 1523 × 奥行 659 mm

中とじユニット装着時：幅 1523× 奥行 679 mm

注記

- 本体＋フィニッシャー B3（オプション）、延長トレイ引き出し時、手差しトレイ最大伸長時。

プリント可能領域

標準印字領域

用紙の上下左右の端から余白（4.1 mm）を除いた領域です。

拡張印字領域

印字領域を広げてプリントします。

ただし、本機の制限によって用紙の端までプリントできない部分があります。

注記

- 本機は、用紙の上端から 4.0 mm、下端および左右の端から 2.0 mm はプリントできません。また、プリント時の本機の最大印字可能領域は、291.0 mm×476.6 mm です。これを越えてプリントすることはできません。

補足

- プリント領域を拡張するには、ART EX プリンタードライバー、または操作パネルの［プリント可能領域］で設定を変更します。

参照

- プリンタードライバーでの設定方法については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。操作パネルでの設定方法については、「［プリント可能領域］」(P.299) を参照してください。

エミュレーション

プリントデータはある規則（文法）に従ったデータになっています。この規則（文法）をプリント言語といいます。

本機が対応しているプリント言語は、ページ単位にイメージを作るページ記述言語と、他のプリンターでのプリント結果に近い結果を得ることができるエミュレーションに分類できます。

エミュレーションモード

本機が対応するページ記述言語以外のデータをプリントするときは、本機をエミュレーションモードにします。エミュレーションモードと、エミュレートするプリンターの対応は、次のとおりです。

エミュレーションモード	エミュレートするプリンター
ESC/P エミュレーションモード（ESC/P モード）	VP-1000
PC-PR201H エミュレーションモード（PC-PR201H モード）	PC-PR201H
HP-GL エミュレーションモード（HP-GL モード）	7586B または DJ750C Plus
HP-GL/2 エミュレーションモード（HP-GL/2 モード）	DJ750C Plus
PCL エミュレーションモード（PCL モード）	HP-LJ4200

プリント言語の切り替え

本機は、マルチエミュレーションに対応しています。このため、対応するプリント言語の切り替えができるようになっています。

対応するプリント言語を切り替える方法は、次のとおりです。

コマンド切り替え

対応するプリント言語を切り替えるコマンドを用意しています。本機は、コマンドを受け取ると、対応するプリント言語に切り替えます。

自動切り替え

ホストインターフェイスが受信したデータを分析し、プリント言語を自動的に特定します。

プロトコル従属

CentreWare Internet Services を使って、プロトコル（LPD、IPP、Port9100、WSD）ごとにプリント言語を固定化できます。

モードメニュー画面

エミュレーションモード固有の項目を設定する画面です。モードメニュー画面を表示するには、ホーム画面で［プリンターモード］をタップし、設定するエミュレーションモードを選んでください。

補足

- ［メモリー呼び出し］、［メモリー登録 / 削除］、［立ち上げメモリー］は、ESC/P モード、HP-GL/2 モード、PC-PR201H モードに表示されます。

［メモリー呼び出し］

メモリーに登録した設定を呼び出します。

［工場出荷時の設定］を選ぶか、［ユーザー登録メモリー］で登録してある設定の番号を選びます。

［詳細確認 / 変更］

エミュレーションモードの項目番号に設定されている値を確認 / 変更します。

- ［項目番号］に機能の項目番号を入力すると現在の設定値を表示できます。
- 設定値を変更するには、［変更値］に変更する値を入力し、［決定］をタップします。

［メモリー登録 / 削除］

現在の設定項目の内容を［ユーザー登録メモリー］に登録したり、登録済みのメモリーを削除したりします。

［立ち上げメモリー］

本機を起動したときの初期値を設定します。

［工場出荷時の設定］を選ぶか、［ユーザー登録メモリー］で登録してある設定の番号を選びます。

使用できるフォント

使用できるフォントは、［フォントリスト］および［PCL フォントリスト］で確認できます。

ユーザー定義文字（外字）

ESC/P モード、PC-PR201H モードでは、ユーザー定義文字（外字）を使用できます。

ユーザー定義文字は、ビットマップフォントとして登録され、電源を切っても保持されます。各プリント言語の間で共有はできません。

ART IV、ESC/P エミュレーションについて

エミュレーションモードでのプリント機能

■N アップ（ESC/P）

N アップは、複数ページを縮小して、1 枚の用紙にプリントする機能です。

ESC/P モードでは、2 アップを利用できます。

■フォーム合成

ESC/P モードでは、あらかじめフォームをプリンターに登録しておき、プリントデータに合成してプリントできます。ESC/P モードからは、ESC/P および ART IV のフォームが使用でき、操作パネルから、合成するフォームを指定します。

■バーコード

ESC/P および ART IV モードでは、バーコードを利用できます。利用できるバーコード規格は、次のとおりです。

- JAN コード
- CODE39
- CODABAR
- Industrial 2 of 5
- Matrix 2 of 5
- Interleaved 2 of 5

■フォームについて

ART IV または ESC/P を使用して定形のフォームを登録できます。

登録できるフォームの数は次のとおりです。

	ART IV	ESC/P
ストレージなし	64	64
ストレージあり	2,048	64

補足

- フォーム登録数の上限を超えてフォームを登録しようとした場合またはフォーム用のメモリー容量がいっぱいになった場合、フォーム登録の操作中にエラーなどは表示されませんが、新しいフォームは登録されません。

参照

- フォームが登録されたかどうかは、「[ART IV, ESC/P ユーザー定義リスト]」(P.257) で確認してください。

ART IV および ESC/P に関連する設定メニュー

■[ポート設定]

[設定] > [ネットワーク設定] > [ポート設定] で、エミュレーションモードで使用するポートを設定します。

- ポートの起動（LPD/IPP/USB/Port9100/WSD）

  エミュレーションモードで使用するポートを起動します。

- [USB- プリントモード指定]

  USB ポートのプリントモード指定を、ART IV または ESC/P エミュレーションが使用できるように設定します。プリントモードとして [ART IV] や [ESC/P] を指定できます。

補足

- [USB- プリントモード指定] では、ホスト装置から受信したデータの処理方法を設定します。ここで [ART IV] や [ESC/P] を設定すると、「プリント言語の切り替え」(P.527) で説明している「自動切り替え」は行われません。
- CentreWare Internet Services を使って、プロトコル（LPD、IPP、Port9100、WSD）ごとにプリントモードを指定することもできます。

■[メモリー設定]

[設定] > [アプリ設定] > [プリンター設定] > [メモリー設定]で、ART IV のフォームやユーザー定義で使用するメモリー容量を指定します。

- [ART IV, ESC/P, 201H フォームメモリー]

  フォームを格納するメモリー容量を設定します。設定できる最大値はメモリーの空き容量によって変化します。ストレージが取り付けられている場合は、[(ストレージ)]と表示されます。

- [ART IV ユーザー定義用メモリー]

  ART IV のユーザー定義で使用するメモリー容量を設定します。設定できる最大値はメモリーの空き容量によって変化します。

■[フォーム削除]

[設定] > [アプリ設定] > [プリンター設定] > [フォーム削除]で、本機に登録されているフォームを削除します。

ESC/P 設定項目一覧

ESC/P のモードメニューで設定できる項目について、基本設定項目と拡張設定項目に分けて説明します。

基本設定項目

設定項目	項目番号	設定値
給紙トレイ	3	【0】：自動 【1】（初期値）：トレイ 1 【2】：トレイ 2 【3】：トレイ 3 【4】：トレイ 4 【5】：トレイ 5（手差し） **補足** •「自動」に設定した場合、同じサイズの用紙が同じ用紙方向で複数のトレイにセットされているときは、トレイ 1 → トレイ 2 → トレイ 3 → トレイ 4 の順に給紙されます。また、同じサイズの用紙が異なる向きで複数のトレイにセットされているときは、よこにセットされている用紙が優先されます。

設定項目	項目番号	設定値
原稿サイズ	1	【99】（初期値）：用紙 【100】：連続紙（10×12"） 【101】：連続紙（10×11"） 【102】：連続紙（15×12"） 【103】：連続紙（15×11"） 【3】：A3 【4】：A4 【5】：A5 【14】：B4 【15】：B5 【21】：8.5×14" 【22】：8.5×13" 【23】：8.5×11" 【24】：11×17" 【0】：はがき **補足** •「原稿サイズ」で連続紙に設定した場合、「用紙位置」の設定はできません。 •「倍率」で「固定倍率」または「カット紙全面」が設定されている場合、「原稿サイズ」と「用紙サイズ」の組み合わせで倍率が自動設定されます。ただし、45 ～ 210% に収まらない倍率値となった場合、原稿は自動拡張 / 縮小されず等倍でプリントされます。また、2 アップモードが設定されている場合は、「原稿サイズ」と「用紙サイズの 1/2」の組み合わせで倍率が自動設定されます。
用紙方向	19	【0】（初期値）：縦 【1】：横 **補足** • ここで設定する方向は「原稿の向き」です。トレイ内の用紙のセットの方向には影響しません。
用紙サイズ	2	「給紙トレイ」の設定が「自動」、または「トレイ 5（手差し）」の場合の用紙サイズを設定します。また、設定できる用紙はカット紙だけです。 【3】：A3 【4】：A4 【5】：A5 【14】：B4 【15】：B5 【21】：8.5×14" 【22】：8.5×13" 【23】：8.5×11" 【24】：11×17" 【0】：はがき **注記** •「給紙トレイ」を「トレイ 1」～「トレイ 4」のどれかに設定しているときには、「用紙サイズ」の設定はできません。 **補足** •「倍率」で「固定倍率」または「カット紙全面」が設定されている場合、「原稿サイズ」と「用紙サイズ」の組み合わせで倍率が自動設定されます。ただし、45 ～ 210% に収まらない倍率値となった場合、原稿は自動拡張 / 縮小されず等倍でプリントされます。 また、2 アップモードが設定されている場合は、「原稿サイズ」と「用紙サイズの 1/2」の組み合わせで倍率が自動設定されます。

拡張設定項目

設定項目	項目番号	設定値
用紙位置	20	【0】（初期値）：カットシートフィーダーなし（左） 【1】：カットシートフィーダーあり（中央） **補足** • カットシートフィーダーなしの場合は、FF（改ページコマンド）を受信すると、VFU で設定された値だけ行送りをします。カットシートフィーダーありの場合は、改ページします。 •「原稿サイズ」で連続紙に設定した場合、「用紙位置」の設定はできません。
出力部数	8	【1 ～ 250】（初期値：1）：1 ～ 250 枚 **注記** • クライアントからプリント部数の指定があった場合、その値が反映されてプリントされます。プリント後、操作パネルの設定もその値に書き換えられます。ただし、lpd ポートから指定された部数は、プリント後、操作パネルの設定を書き換えることはありません。
倍率	54 （倍率モード）	【0】（初期値）：固定倍率 【1】：任意倍率 【2】：カット紙全面 固定倍率とは、設定されている「原稿サイズ」と「用紙サイズ」から自動算出される倍率のことで、原稿サイズの印字エリアが用紙サイズの印字エリアに収まるように印字されます。このため、原稿サイズと用紙サイズが同じであれば 100%（等倍）印字となります。また、2 アップが設定されている場合には、2 枚分の原稿サイズが 1 枚の用紙サイズの印字エリアに収まるように印字されます。 任意倍率とは、「倍率」＞「任意倍率」で設定される倍率のことです。倍率の基準値は印字エリアの左上です。これは文字、イメージ、グラフィックスすべてにおける基準点になります。 カット紙全面領域が印字エリアに印字されます。 カット紙全面とは、設定されている「原稿サイズ」と「用紙サイズ」から自動算出される倍率のことで、設定されている原稿サイズの物理的な紙の大きさが用紙サイズの印字エリアに収まるよう印字されます。 **補足** •「原稿サイズ」で連続紙が設定されている場合、「固定倍率」と「カット紙全面」は同じ印字結果となります。
	17 （任意倍率 / 縦倍率）	【45 ～ 210】（初期値：100）：45 ～ 210%
	18 （任意倍率 / 横倍率）	
2UP モード	21	【0】（初期値）：なし 【1】：順方向 【2】：逆方向 **注記** •「原稿サイズ」でよこ向きを指定している場合、「順方向」と「逆方向」のどちらを設定しても同じ結果となります。

設定項目	項目番号	設定値
排出先	9	【0】（初期値）：センタートレイ（下段） 【1】：サイドトレイ（オプション） 【2】：センタートレイ（上段）（オプション） 【80】：フィニッシャートレイ（オプション） 【81】：フィニッシャー排出トレイ（オプション） **補足** • インナー排出トレイ（オプション）が取り付けられていない場合は、「センタートレイ（下段）」がセンタートレイになります。
トレイ5確認表示	67	トレイ 5（手差し）から給紙するプリント指示をしたあと、本体側の操作によってプリントを開始します。 【0】（初期値）：なし 【1】：あり
罫線	22	2 バイト系罫線フォントの印字方法を設定します。 【0】（初期値）：イメージ 【1】：フォント
両面	12	【0】（初期値）：なし 【1】：左右開き 【2】：上下開き
フォント	13 （漢字書体）	2 バイト系文字（漢字）の書体を設定します。なお、2 バイト系半角文字もこの書体が適用されます。 【0】（初期値）：明朝 【1】：ゴシック **注記** • 本設定は、初期値を指定する機能のため、拡張コマンドが送られてきた場合には反映されません。
	14 （英数字書体）	1 バイト系文字（ANK）の書体を設定します。 【0】（初期値）：ローマン 【1】：サンセリフ **注記** • 本設定は、初期値を指定する機能のため、拡張コマンドが送られてきた場合には反映されません。
印字制御	50 （漢字コード）	使用する漢字コード表を設定します。 【0】（初期値）：エプソン 【1】：東芝
	51 （白紙排出）	改ページだけのデータのように、プリントするデータがまったくない場合に、白紙を排出するかしないかを設定します。 【0】（初期値）：しない 【1】：する **補足** •「しない」に設定した場合でも、外字で作成されたスペースや、白だけのイメージデータのときは白紙が排出されます。 •「しない」が設定され、2 アッププリントまたは両面プリントの指示がされている場合、白紙となるページはスキップして処理します。
	52 （印字桁範囲）	右マージンの位置を拡張できます。 【0】（初期値）：標準 【1】：拡張 **注記** • 印字桁範囲を「拡張」から「標準」に設定変更した場合は、左右マージン値が初期化されます。 • コマンドで右マージン位置が設定された場合は、その位置が右端となります。

設定項目	項目番号	設定値
印字制御	53 （イメージエンハンスメント）	イメージエンハンスメントとは、白黒の境めを滑らかにしてギザギザを減らし、疑似的に解像度を高める機能です。 【0】：OFF 【1】（初期値）：ON
ESCP スイッチ	55 （文字品位）	文字の印字品質モードを高品位かドラフトに設定します。 【0】（初期値）：高品位 【1】：ドラフト **注記** • 「文字品位」、「縮小文字」、「文字コード表」、「ページ長」および「1 インチミシン目スキップ」の各設定は、初期値を指定する機能のため、拡張コマンドが送られてきた場合には反映されません。 **補足** • 設定状態の変更で、実際の印字は変化しません。 • 本設定は、文字品位選択コマンドに影響します。文字品位選択コマンドについては、『リファレンスマニュアル（ESC/P 対応）』（別売）を参照してください。
	56 （縮小文字）	1 バイト系の英数字を印字する場合、文字を縮小して印字できます。縮小するか等倍で印字するかを設定します。 【0】（初期値）：しない 【1】：する
	57 （文字コード表）	1 バイト系の英数字を印字する場合のコード表の種類を設定します。国内版アプリケーションをご使用の場合はカタカナを、海外版アプリケーションをご使用の場合は拡張グラフィックスに設定してください。 【0】（初期値）：カタカナ 【1】：拡張グラフィックス
	58 （ページ長）	1ページの長さ(印字エリア)を11インチまたは12インチに設定します。 【0】（初期値）：11 インチ 【1】：12 インチ
	59 （1 インチミシン目スキップ）	ページとページの間を 1 インチ空けるか、空けないかを設定します。 【0】（初期値）：しない 【1】：する **注記** • 「用紙位置」で CSF が「なし」に設定されている場合だけ実行されます。
	60 （給紙位置）	印字開始位置を、用紙の上端から 8.5 mm か 22 mm に設定します。 【0】（初期値）：8.5 mm 【1】：22 mm
	61 （CR の機能）	CR コマンド受信時の動作を設定します。 【0】（初期値）：復帰 【1】：復帰改行
位置補正	15 （縦位置補正）	データをプリントする位置をたてまたはよこ方向に移動し、余白の位置を変える機能です。 【0】（初期値）：しない 【1 ～ 500】：-250 ～ +250 mm **注記** • 印字エリアを超えるデータは、位置補正をしても印字されません。また、位置補正により印字エリアを超えたデータは、印字されません。
	16 （横位置補正）	

設定項目	項目番号	設定値
拡張子	62 （拡張子指定）	通常の拡張コマンドは、コマンドを識別するための拡張子として、先頭に 16 進法で 1BH である ESC とそれに続く；（セミコロン =3BH）を指定しています。 ホストコンピューターで ESC コードやセミコロンを使用できない場合は、それに代わる特定の文字列を拡張子として使用できます。この拡張子の置き換え機能を有効にするかどうかを設定します。 有効にする場合、項目番号 63 で、拡張子を指定します。 【0】（初期値）：無効 【1】：有効 **参照** • 拡張コマンドについては、『リファレンスマニュアル（ESC/P 対応）』（別売）を参照してください。
	63 （拡張子）	テキストコードで制御できるようにする場合は、拡張コマンドの拡張子（先頭 2 バイト）を指定します。画面に表示されるキーボードから 2 文字を入力します。 【&%】（初期値）：0x21 ～ 0x7e
フォーム合成	64	登録されているフォーム名（No.01 ～ 64）を指定することによって、常にフォームを合成します。 【0】（初期値）：しない 【1 ～ 64】：No.1 ～ No.64 **注記** • 本設定は、初期値を指定する機能のため、拡張コマンドが送られてきた場合には反映されません。 • フォームを指定したあと、フォームが削除された場合でも、そのフォーム名が表示されています。この場合はフォームが合成されません。
ホチキス留め	66	【0】（初期値）：しない 【1】：左上 1 か所 【2】：上辺 2 か所 【3】：右上 1 か所 【4】：左辺 2 か所 【5】：右辺 2 か所 【6】：下 1 か所 【7】：下辺 2 か所 【8】：右下 1 か所
手差し給紙の一時停止	67	手差しトレイから給紙するときに、一時停止するかしないかを設定します。一時停止したあとに本体側の操作によって、プリントを開始します。 【0】：しない 【1】（初期値）：する
フォーム種類	68	【0】（初期値）：ESC/P 【1】：ART IV
パンチ	69	パンチ穴を開ける位置を設定します。 【0】（初期値）：しない 【1】：上辺 【2】：下辺 【3】：左辺 【4】：右辺
パンチ穴数	70	【0】（初期値）：2 穴 【1】：3 穴 【2】：4 穴
文字コード	71	【0】（初期値）：JIS 【1】：ShiftJIS

設定項目	項目番号	設定値
バイナリーデータの指定文字列	72	16 進表記でコマンドを入力する指定文字列を設定します。 【0】（初期値）：OFF 【1】：&$%$ 【2】：$?!#
0 の字体	73	0 の字体を設定します。 【0】（初期値）：0 【1】：Ø
有効出力部数	74	プリント部数の指定方法を設定します。 【0】：プロトコル指定 【1】：パネル 【2】（初期値）：コマンド
バーコードモード	75	バーコードモードを設定します。バーコードモードに設定すると、バーコードの輪郭がはっきりと印刷されます。 【0】（初期値）：通常モード 【1】：バーコードモード

PC-PR201H エミュレーションについて

エミュレーションモードでのプリント機能

PC-PR201H エミュレーションモードで使用できる、本機のプリント機能について説明します。

■N アップ

N アップは、複数ページを縮小して、1 枚の用紙にプリントする機能です。

■フォーム合成

PC-PR201H モードでは、あらかじめフォームをプリンターに登録しておき、プリントデータに合成してプリントできます。PC-PR201H および ART IV のフォームが使用できます。

操作パネルから、合成するフォームを指定できます。

■バーコード

PC-PR201H モードでは、バーコードを利用できます。利用できるバーコード規格は、次のとおりです。

- JAN コード
- CODE39
- CODABAR
- Industrial 2 of 5
- Matrix 2 of 5
- Interleaved 2 of 5

■フォームについて

本機では、PC-PR201H を使用して定形のフォームを登録できます。フォームは、64 ファイルまで登録できます。

補足

- フォーム登録数の上限を超えてフォームを登録しようとした場合またはフォーム用のメモリー容量がいっぱいになった場合、フォーム登録の操作中にエラーなどは表示されませんが、新しいフォームは登録されません。

参照

- フォームが登録されたかどうかは、「[ART IV, ESC/P ユーザー定義リスト]」(P.257)で確認してください。

PC-PR201H に関連する設定メニュー

■[ポート設定]

[設定] > [ネットワーク設定] > [ポート設定]で、エミュレーションモードで使用するポートを設定します。

- ポートの起動（LPD/IPP/USB/Port9100/WSD）

  PC-PR201H エミュレーションで使用するポートを起動します。

- [USB- プリントモード指定]

  USB ポートのプリントモード指定を、PC-PR201H エミュレーションが使用できるように設定します。プリントモードとして[PC-PR201H]を指定できます。

補足

- [USB- プリントモード指定]では、ホスト装置から受信したデータの処理方法を設定します。ここで[201H]を設定すると、「プリント言語の切り替え」(P.527)で説明している「自動切り替え」は行われません。
- CentreWare Internet Services を使って、プロトコル（LPD、IPP、Port9100、WSD）ごとにプリントモードを指定することもできます。

■[メモリー設定]

[設定] > [アプリ設定] > [プリンター設定] > [メモリー設定]で、PC-PR201H のフォームで使用するメモリー容量を指定します。

- [ART IV, ESC/P, 201H フォームメモリー]

  フォームを格納するメモリー容量を設定します。設定できる最大値はメモリーの空き容量によって変化します。ストレージが取り付けられている場合は、[(ストレージ)]と表示されます。

■[フォーム削除]

[設定] > [アプリ設定] > [プリンター設定] > [フォーム削除]で、本機に登録されているフォームを削除します。

PC-PR201H 設定項目一覧

モードメニューで設定できる項目について、基本設定項目と拡張設定項目に分けて説明します。

基本設定項目

設定項目	項目番号	設定値
原稿サイズ	301	【0】：はがき 【3】：A3 【4】：A4 【5】：A5 【14】：B4 【15】：B5 【21】：8.5×14" 【22】：8.5×13" 【23】：8.5×11" 【24】：11×17" 【99】（初期値）：用紙 【100】：連続紙（10×12"） 【101】：連続紙（10×11"） 【102】：連続紙（15×12"） 【103】：連続紙（15×11"） **補足** • プリント保証桁は、連続紙（10×12"）は 80 桁 /72 行、連続紙（10×11"）は 80 桁 /66 行、連続紙（15×12"）は 136 桁 /72 行、連続紙（15×11"）は 136 桁 /66 行です。 •「原稿サイズ」で連続紙に設定した場合、「用紙位置」の設定はできません。 •「倍率」で「固定倍率」または「カット紙全面」が設定されている場合、「原稿サイズ」と「用紙サイズ」の組み合わせで倍率が自動設定されます。ただし、45 ～ 210% に収まらない倍率値となった場合、原稿は自動拡張 / 縮小されず等倍でプリントされます。 また、2 アップモードが設定されている場合は、「原稿サイズ」と「用紙サイズの 1/2」の組み合わせで倍率が自動設定されます。
用紙サイズ	302	「給紙トレイ」の設定が「自動」、または「トレイ 5（手差し）」の場合の用紙サイズを設定します。また、設定できる用紙はカット紙だけです。 【0】：はがき 【3】：A3 【4】：A4 【5】：A5 【14】：B4 【15】：B5 【21】：8.5×14" 【22】：8.5×13" 【23】：8.5×11" 【24】：11×17" **注記** •「給紙トレイ」を「トレイ 1」～「トレイ 4」のどれかに設定しているときには、その用紙トレイにセットされている用紙の大きさが用紙サイズとなるため、「用紙サイズ」の設定はできません。 **補足** •「倍率」で「固定倍率」または「カット紙全面」が設定されている場合、「原稿サイズ」と「用紙サイズ」の組み合わせで倍率が自動設定されます。ただし、45 ～ 210% に収まらない倍率値となった場合、原稿は自動拡張 / 縮小されず等倍でプリントされます。 また、2 アップモードが設定されている場合は、「原稿サイズ」と「用紙サイズの 1/2」の組み合わせで倍率が自動設定されます。

設定項目	項目番号	設定値
給紙トレイ	303	【0】：自動 【1】（初期値）：トレイ 1 【2】：トレイ 2 【3】：トレイ 3 【4】：トレイ 4 【5】：トレイ 5（手差し） **補足** • 「自動」に設定した場合、同じサイズの用紙が同じ用紙方向で複数のトレイにセットされているときは、トレイ 1 → トレイ 2 → トレイ 3 → トレイ 4 の順に給紙されます。また、同じサイズの用紙が異なる向きで複数のトレイにセットされているときは、よこにセットされている用紙が優先されます。
出力部数	305	【1】～【250】（初期値：1）：1 ～ 250 枚 **注記** • コンピューターからプリント部数の指定があった場合、その値が反映されてプリントされます。プリント後、操作パネルの設定もその値に書き換えられます。ただし、lpd ポートから指定された部数は、プリント後、操作パネルの設定を書き換えることはありません。

拡張設定項目

設定項目	項目番号	設定値
排出先	306	【0】（初期値）：センタートレイ（下段） 【1】：サイドトレイ（オプション） 【2】：センタートレイ（上段）（オプション） 【80】：フィニッシャートレイ（オプション） 【81】：フィニッシャー排出トレイ（オプション） **補足** • インナー排出トレイ（オプション）が取り付けられていない場合は、「センタートレイ（下段）」がセンタートレイになります。
両面	307	【0】（初期値）：なし 【1】：左右開き 【2】：上下開き
フォント	308 （漢字書体）	2 バイト系文字（漢字）の書体を設定します。なお、2 バイト系半角文字もこの書体が適用されます。 **参照** • フォントについては「使用できるフォント」(P.528) を参照してください。 【0】（初期値）：明朝 【1】：ゴシック **注記** • 本設定は、初期値を指定する機能のため、拡張コマンドが送られてきた場合には反映されません。
	309 （英数字書体）	1 バイト系文字（ANK）の書体を設定します。 **参照** • フォントについては「使用できるフォント」(P.528) を参照してください。 【0】（初期値）：ローマン 【1】：サンセリフ **注記** • 本設定は、初期値を指定する機能のため、拡張コマンドが送られてきた場合には反映されません。
位置補正	310 （横位置補正）	データをプリントする位置をたてまたはよこ方向に移動し、余白の位置を変える機能です。

設定項目	項目番号	設定値
位置補正	311 （横位置補正）	【0】（初期値）：しない 【1】～【250】：-250 ～ -1 mm 【251】～【500】：+1 ～ +250 mm **注記** • 印字エリアを超えるデータは、位置補正をしても印字されません。また、位置補正により印字エリアを超えたデータは、印字されません。
倍率	312 （縦倍率）	【45】～【210】（初期値：100）：45 ～ 210%
	313 （横倍率）	
用紙方向	314	【0】（初期値）：縦 【1】：横 **補足** • ここで設定する方向は「原稿の向き」です。トレイ内の用紙のセットの方向には影響しません。
用紙位置	315	【0】（初期値）：左置き 【1】：中央置き **補足** •「原稿サイズ」で連続紙に設定した場合、「用紙位置」の設定はできません。
2UP モード	316	【0】（初期値）：なし 【1】：順方向 【2】：逆方向 **注記** •「原稿サイズ」でよこ向きを指定している場合、「順方向」と「逆方向」のどちらを設定しても同じ結果となります。
罫線	317	2 バイト系罫線フォントの印字方法を設定します。 【0】（初期値）：イメージ 【1】：フォント
印字制御	318 （白紙排出）	改ページだけのデータのように、プリントするデータがまったくない場合に、白紙を排出するかしないかを設定します。 【0】（初期値）：しない 【1】：する **補足** •「しない」に設定した場合でも、外字で作成されたスペースや、白だけのイメージデータのときは白紙が排出されます。 •「しない」が設定され、2 アッププリントまたは両面プリントの指示がされている場合、白紙となるページはスキップして処理します。
	319 （印字桁範囲）	右マージンの位置を拡張できます。 【0】（初期値）：標準 【1】：拡張 **注記** • 印字桁範囲を「拡張」から「標準」に設定変更した場合は、左右マージン値が初期化されます。 • コマンドで右マージン位置が設定された場合は、その位置が右端となります。
	320 （イメージエンハンス）	イメージエンハンスメントを行うか行わないかを設定します。 イメージエンハンスメントとは、画像の境めを滑らかにしてギザギザを減らし、疑似的に解像度を高める機能です。 【0】：OFF 【1】（初期値）：ON

設定項目	項目番号	設定値
印字制御	321 （倍率モード）	【0】（初期値）：固定 【1】：任意 【2】：カット全面 固定倍率とは、設定されている「原稿サイズ」と「用紙サイズ」から自動算出される倍率のことで、原稿サイズの印字エリアが用紙サイズの印字エリアに収まるように印字されます。このため、原稿サイズと用紙サイズが同じであれば 100%（等倍）印字となります。また、2 アップが設定されている場合には、2 枚分の原稿サイズが 1 枚の用紙サイズの印字エリアに収まるように印字されます。 任意倍率とは、「倍率」＞「任意倍率」で設定される倍率のことです。倍率の基準値は印字エリアの左上です。これは文字、イメージ、グラフィックスすべてにおける基準点になります。 カット紙全面領域が印字エリアに印字されます。 カット紙全面とは、設定されている「原稿サイズ」と「用紙サイズ」から自動算出される倍率のことで、設定されている原稿サイズの物理的な紙の大きさが用紙サイズの印字エリアに収まるよう印字されます。
	322 （国別文字）	【0】（初期値）：日本 【1】：アメリカ 【2】：イギリス 【3】：ドイツ 【4】：スウェーデン
	323 （自動改行）	右マージン位置を超えたときの自動改行の動作を設定します。 【0】：CR 【1】（初期値）：CR/LF 「CR」は印字復帰だけします。「CR/LF」は印字復帰したあと改行します。
	324 （印字指令）	印字指令のコマンドを設定します。 【0】（初期値）：CR 【1】：すべて 「CR」は印字指令のコマンドを CR のみ、「すべて」は印字指令のコマンドを、CR、LF、VT、FF、US、ESC a、ESC b とします。
	325 （CR の機能）	CR コマンド受信時の動作を設定します。 【0】（初期値）：復帰 【1】：復帰改行 **注記** • この設定は、初期値を設定する機能のため、拡張コマンドが送られてきた場合には反映されません。 **補足** • この設定は、8 ビットドットイメージ印字コマンドの印字結果に影響します。
	326 （0 の書体）	数字の 0 の字体を設定します。 【0】（初期値）：0 【1】：Ø 「0」は普通の字体、「Ø」は斜線のついた字体に設定します。
	327 （グラフィックドット数）	ドット対応のグラフィックドット数の種類を設定します。 【0】（初期値）：ネイティブ 【1】：コピー
	328 （データサイズ）	データのビットサイズを設定します。 【0】：7 ビット 【1】（初期値）：8 ビット
	329 （1 ページ長）	1 ページの長さ（印字エリア）を 11 インチ（初期値）か 12 インチに設定します。 【0】（初期値）：11 インチ 【1】：12 インチ

設定項目	項目番号	設定値
印字制御	330 （拡張子指定）	通常の拡張コマンドは、コマンドを識別するための拡張子として、先頭に 16 進法で 1BH である ESC とそれに続く；（セミコロン =3BH）を指定しています。 ホストコンピューターで ESC コードやセミコロンを使用できない場合は、それに代わる特定の文字列を拡張子として使用できます。 この拡張子の置き換え機能を有効にするかどうかを設定します。 有効にする場合、項目番号 331 で、拡張子を指定します。 【0】（初期値）：無効 【1】：有効 **補足** • 拡張子に 1B3B を使用する時は「無効」、任意の文字列を使用する場合は「有効」を設定してください。
	331 （拡張子）	テキストコードで制御できるようにしたい場合は、拡張コマンドの拡張子（先頭 2 バイト）を指定します。画面に表示されるキーボードから 2 文字を入力します。 【&%】（初期値）：0×21 ～ 0×7e
	332 （フォーム合成）	登録されているフォーム名 (No.01 ～ 64) を指定することによって、常にフォームを合成します。 【0】（初期値）：しない 【1】～【64】：No.1 ～ No.64 **注記** • 本設定は、初期値を指定する機能のため、拡張コマンドが送られてきた場合には反映されません。
	336 （フォーム種類）	フォームの種類を指定します。 【0】（初期値）：PC-PR201H 【1】：ART Ⅳ
ホチキスとめ	333	【0】（初期値）：しない 【1】：左上 1 か所 【2】：上辺 2 か所 【3】：右上 1 か所 【4】：左辺 2 か所 【5】：右辺 2 か所 【6】：左下 1 か所 【7】：下辺 2 か所 【8】：右下 1 か所
パンチ	334	パンチ穴を開ける位置を設定します。 【0】（初期値）：しない 【1】：上辺 【2】：下辺 【3】：左辺 【4】：右辺
パンチ穴数	337	【0】（初期値）：2 穴 【1】：3 穴 【2】：4 穴
トレイ5確認表示	335	トレイ 5（手差し）から給紙するプリント指示をしたあと、本体側の操作によってプリントを開始します。 【0】（初期値）：なし 【1】：あり

設定項目	項目番号	設定値
カットシートフィーダー(CSF)	338	カットシートフィーダー機能を設定します。 CSF なしの場合は、改ページコマンドを受信したら、VFU で設定された設定値まで印字ヘッドを移動させ、印字位置は左よりになります。 CSF ありの場合は、改ページコマンドを受信したら、用紙を自動排出後に自動給紙して、印字位置は中央になります。 【0】(初期値):CSF なし 【1】:CSF あり
有効出力部数	339	プリント部数の指定方法を設定します。 【0】:プロトコル指定 【1】:パネル 【2】(初期値):コマンド

PCL エミュレーションについて

PCL に関連する設定メニュー

■[ポート設定]

[設定]>[ネットワーク設定]>[ポート設定]で、エミュレーションモードで使用するポートを設定します。

- ポートの起動(LPD/IPP/USB/Port9100/WSD)

  PCL エミュレーションで使用するポートを起動します。

- [USB- プリントモード指定]

  USB ポートのプリントモード指定を、PCL エミュレーションが使用できるように設定します。プリントモードとして[PCL]を選びます。

補足

- [USB- プリントモード指定]では、ホスト装置から受信したデータの処理方法を設定します。ここで[PCL]を設定すると、「プリント言語の切り替え」(P.527)で説明している「自動切り替え」は行われません。
- CentreWare Internet Services を使って、プロトコル(LPD、IPP、Port9100、WSD)ごとにプリントモードを指定することもできます。

PCL 設定項目一覧

設定項目	項目番号	設定値
給紙トレイ	201	【0】(初期値):自動 【1】:トレイ 1 【2】:トレイ 2 【3】:トレイ 3 【4】:トレイ 4 【5】:トレイ 5(手差し) **補足** ・「自動」に設定した場合、同じサイズの用紙が同じ用紙方向で複数のトレイにセットされているときは、トレイ 1 → トレイ 2 → トレイ 3 → トレイ 4 の順に給紙されます。また、同じサイズの用紙が異なる向きで複数のトレイにセットされているときは、よこにセットされている用紙が優先されます。

設定項目	項目番号	設定値
用紙サイズ（「給紙トレイ」が「自動」の場合）	202	「給紙トレイ」の設定が「自動」の場合の用紙サイズを設定します。また、設定できる用紙はカット紙だけです。 【3】：A3 【4】（初期値）：A4 【5】：A5 【14】：B4 【15】：B5 【21】：8.5×14" 【22】：8.5×13" 【23】：8.5×11" 【24】：11×17" 【25】：ユーザー定義用紙 【30】：8K **注記** • 「給紙トレイ」を「トレイ 1」～「トレイ 4」のどれかに設定しているときには、「用紙サイズ」の設定はできません。設定しているトレイにセットされている用紙サイズが表示されます。 **補足** • 「原稿サイズ」と「用紙サイズ」の組み合わせによって、倍率符号が「?」となることがあります。この場合、原稿は等倍でプリントされます。
用紙サイズ（「給紙トレイ」が「手差しトレイ」の場合）	203	「給紙トレイ」の設定が「手差し」の場合の用紙サイズを設定します。また、設定できる用紙はカット紙だけです。 【3】：A3 【4】（初期値）：A4 【5】：A5 【14】：B4 【15】：B5 【21】：8.5×14" 【22】：8.5×13" 【23】：8.5×11" 【24】：11×17" 【25】：ユーザー定義用紙
排出先	204	【0】（初期値）：センタートレイ（下段） 【1】：サイドトレイ（オプション） 【2】：センタートレイ（上段）（オプション） 【80】：フィニッシャートレイ（オプション） 【81】：フィニッシャー排出トレイ（オプション） **補足** • インナー排出トレイ（オプション）が取り付けられていない場合は、「センタートレイ（下段）」がセンタートレイになります。
原稿の向き	205	【0】（初期値）：縦 【1】：横
両面	206	【0】（初期値）：オフ 【1】：オン

設定項目	項目番号	設定値
デフォルトフォント	207	1 バイト系文字（ANK）の書体を設定します。初期値は「23」で Courier です。 **参照** • フォントについては「使用できるフォント」(P.528) を参照してください。 【0】: CG Times 【1】: CG Times Italic 【2】: CG Times Bold 【3】: CG Times Italic Bold 【4】: Univers Medium 【5】: Univers Medium Italic 【6】: Univers Bold 【7】: Univers Bold Italic 【8】: Univers Medium Condensed 【9】: Univers Medium Condensed Italic 【10】: Univers Bold Condensed 【11】: Univers Bold Condensed Italic 【12】: Antique Olive 【13】: Antique Olive Italic 【14】: Antique Olive Bold 【15】: CG Omega 【16】: CG Omega Italic 【17】: CG Omega Bold 【18】: CG Omega Bold Italic 【19】: Garamond Antiqua 【20】: Garamond Kursiv 【21】: Garamond Halbfett 【22】: Garamond Kursiv Halbfett 【23】（初期値）: Courier 【24】: Courier Italic 【25】: Courier Bold 【26】: Courier Bold Italic 【27】: Letter Gothic 【28】: Letter Gothic Italic 【29】: Letter Gothic Bold 【30】: Albertus Medium 【31】: Albertus Extra Bold 【32】: Clarendon Condensed 【33】: Coronet 【34】: Marigold

設定項目	項目番号	設定値
デフォルトフォント	207	【35】: Arial 【36】: Arial Italic 【37】: Arial Bold 【38】: Arial Bold Italic 【39】: Times New 【40】: Times New Italic 【41】: Times New Bold 【42】: Times New Bold Italic 【43】: Symbol 【44】: Wingdings 【45】: Line Printer 【46】: Times Roman 【47】: Times Italic 【48】: Times Bold 【49】: Times Bold Italic 【50】: Helvetica 【51】: Helvetica Oblique 【52】: Helvetica Bold 【53】: Helvetica Bold Oblique 【54】: CourierPS 【55】: CourierPS Oblique 【56】: CourierPS Bold 【57】: CourierPS Bold Oblique 【58】: SymbolPS 【59】: Palatino Roman 【60】: Palatino Italic 【61】: Palatino Bold 【62】: Palatino Bold Italic 【63】: ITC Bookman Light 【64】: ITC Bookman Light Italic 【65】: ITC Bookman Demi 【66】: ITC Bookman Demi Italic 【67】: Helvetica Narrow 【68】: Helvetica Narrow Oblique 【69】: Helvetica Narrow Bold 【70】: Helvetica Narrow Bold Oblique 【71】: New Century Schoolbook Roman 【72】: New Century Schoolbook Italic 【73】: New Century Schoolbook Bold 【74】: New Century Schoolbook Bold Italic 【75】: ITC Avant Garde Book 【76】: ITC Avant Garde Book Oblique 【77】: ITC Avant Garde Demi 【78】: ITC Avant Garde Demi Oblique 【79】: ITC Zapf Chancery Medium Italic 【80】: ITC Zapf Dingbats

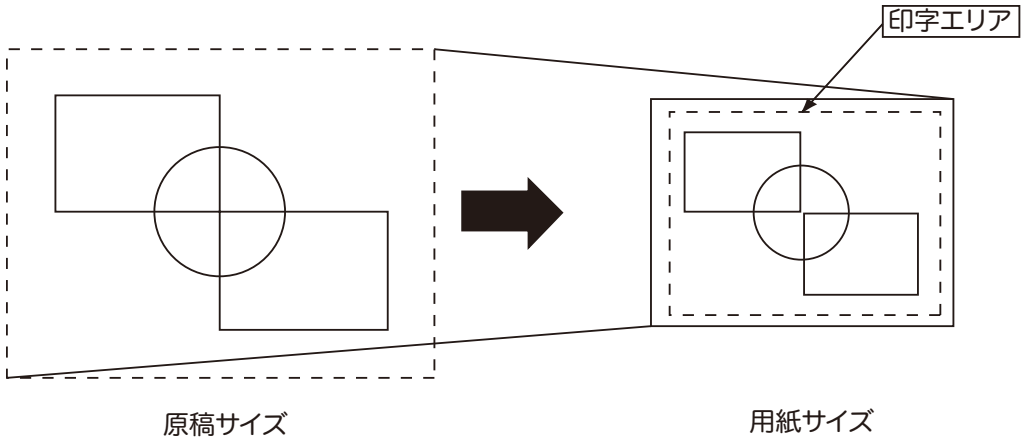
設定項目	項目番号	設定値
デフォルトシンボル	208	シンボルセットの初期値を設定します。 【0】（初期値）：Roman 8 【1】：ISO 8859-1 Latin 1 【2】：ISO 8859-2 Latin 2 【3】：ISO 8859-9 Latin 5 【4】：ISO 8859-10 Latin 6 【5】：PC-8 【6】：PC-8 DN 【7】：PC-775 【8】：PC-850 【9】：PC-852 【10】：PC-1004（OS/2） 【11】：PC Turkish 【12】：Windows 3.1 Latin 1 【13】：Windows 3.1 Latin 2 【14】：Windows 3.1 Latin 5 【15】：DeskTop 【16】：PS Text 【17】：MC Text 【18】：Microsoft Publishing 【19】：Math 8 【20】：PS Math 【21】：Pi Font 【22】：Legal 【23】：ISO 4 United Kingdom 【24】：ISO 6 ASCII 【25】：ISO 11 Swedish:names 【26】：ISO 15 Italian 【27】：ISO 17 Spanish 【28】：ISO 21 German 【29】：ISO 60 Norwegian v1 【30】：ISO 69 French 【31】：Windows 3.0 Latin 1 【32】：Windows Baltic 【33】：Symbol 【34】：Wingdings 【35】：UCS-2
フォントサイズ	209	【400】～【5000】（初期値：1200）：4.00 ～ 50.00 ポイント
フォントピッチサイズ	210	【600】～【2400】（初期値：1000）：6.00 ～ 24.00 ポイント
フォント行数	211	【5】～【128】（初期値：64）：5 ～ 128 行
プリント部数	212	【1】～【999】（初期値：1）：1 ～ 999 部 **注記** • コンピューターからプリント部数の指定があった場合、その値が反映されてプリントされます。プリント後、操作パネルの設定もその値に書き換えられます。ただし、lpd ポートから指定された部数は、プリント後、操作パネルの設定を書き換えることはありません。
イメージエンハンス	213	イメージエンハンスとは、画像の境界を滑らかにしてギザギザを減らし、疑似的に解像度を高める機能です。 【0】：OFF 【1】（初期値）：ON
HexDump	214	HexDump を有効にするかどうかを設定します。 【0】（初期値）：OFF 【1】：ON

設定項目	項目番号	設定値
薄墨印刷	215	白黒でプリントする場合に、黒でプリントされる部分を薄墨色でプリントします。この機能は、原稿全体に対して有効です。 【0】（初期値）：OFF 【1】：ON
両面時のとじ方	217	【0】（初期値）：長辺とじ 【1】：短辺とじ
行末処理	218	行末処理を設定します。 「CR-××」は、CR のとき LF を後につけ、LF と FF のとき CR を前につけます。 【0】（初期値）：OFF 【1】：LF を後につける 【2】：CR を前につける 【3】：CR-××
ユーザー定義用紙サイズの初期値	219 （短辺）	ユーザー定義用紙の初期値を設定します。 【2100】（短辺初期値）：210.0 mm 【2970】（長辺初期値）：297.0 mm
	220 （長辺）	【0】～【9999】：0 ～ 999.9 mm
有効出力部数	221	プリント部数の指定方法を設定します。 【0】：プロトコル 【1】：パネル 【2】（初期値）：コマンド

HP-GL/2 エミュレーションについて

工場出荷時の設定

工場出荷時の、HP-GL、HP-GL/2 エミュレーションモードの設定では、次のように用紙サイズに合わせて、原稿データを縮小拡大してプリント（オートレイアウト）します。



■ペーパーマージン

工場出荷時は用紙サイズが A サイズに設定されており、少しでもプリントデータが有効座標エリアからはみ出す場合は、次の大きさの A 系列サイズに（例：A5 サイズの次は A4）プリントされます。

ペーパーマージンを設定すると、エリア判定モードで求めた有効座標エリアから、ページマージンで設定した領域を差し引いたエリアを有効座標エリアとします。指定した用紙サイズより大きいサイズにプリントされるような場合は、本設定を行ってください。

ハードクリップエリア

HP-GL モードでは、印字可能エリアとは別に、用紙によって作画可能な領域が決まっています。この領域はハードクリップエリアと呼ばれ、ペンが移動する最大範囲を決定します。したがって、ハードクリップエリアを超えて作画することはできません。本機では、次の中からハードクリップエリアを選びます。

- 標準

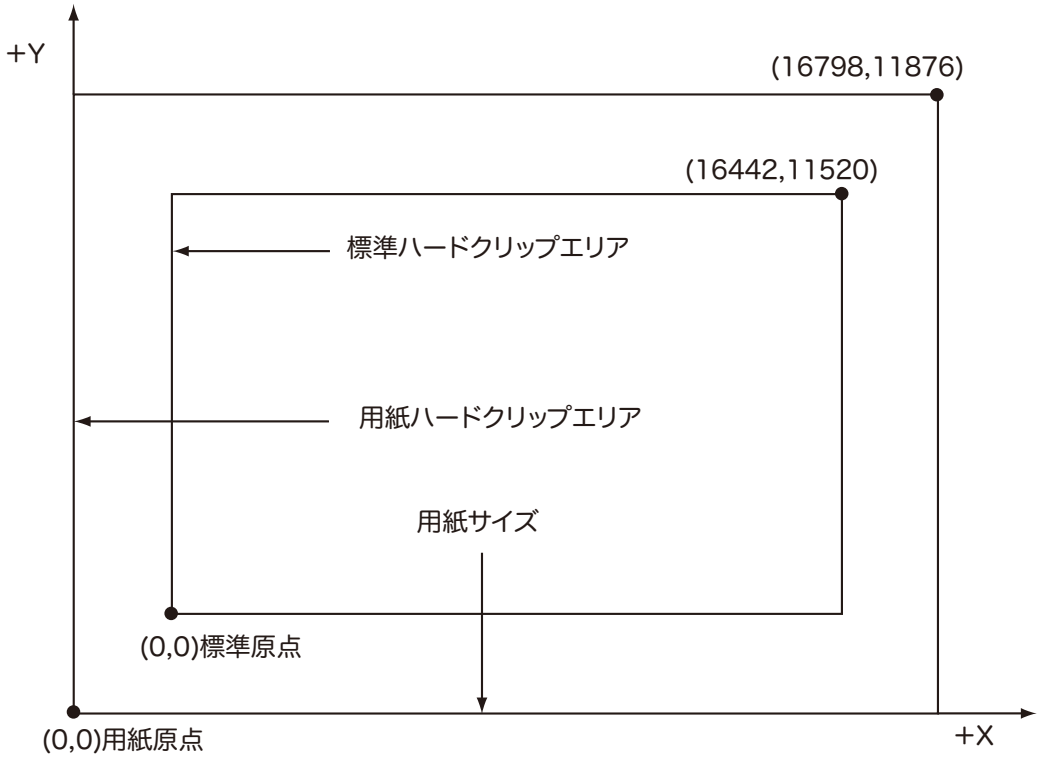
  本機の印字可能エリアをハードクリップとして定義します。

- 用紙

  用紙と同じサイズをハードクリップエリアとして定義します。しかし、実際にプリントできる領域は印字可能エリア内のみとなります。

  ハードクリップエリアの設定は、HP-GL エミュレーションモード設定、またはハードクリップの指定コマンド &I で行うことができます。

  下図の座標値は、A3 サイズで原点が左下（HP-GL/2 でオートレイアウト時）に設定されている場合です。



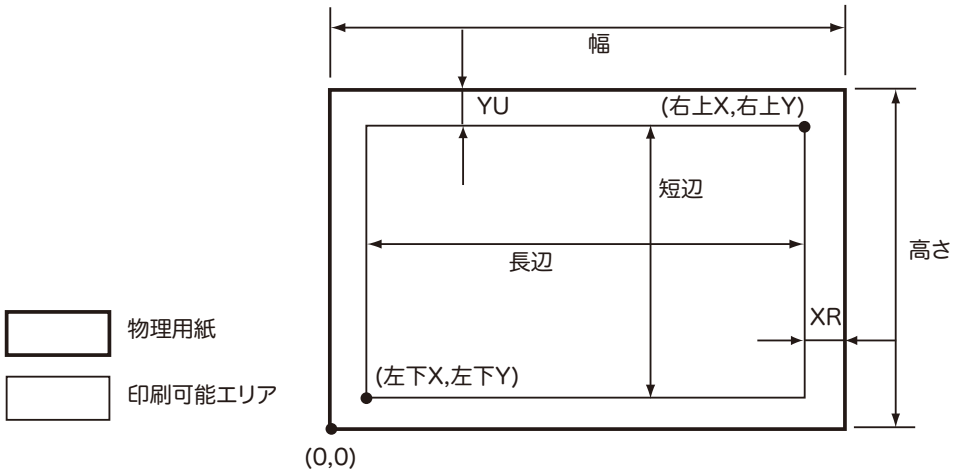
印字可能エリア

HP-GL モードで印刷できるエリアは、次のとおりです。

■用紙サイズと印刷可能エリア

用紙サイズ	用紙長（1/7200 インチ）		座標値（1/7200 インチ）							
	X 方向	Y 方向	マージン		印刷可能エリア		右上端		マージン	
	幅	高さ	左下 X	左下 Y	長辺	短辺	右上 X	右上 Y	XR	YU
A3	119052	84168	1260	1260	116532	81648	117792	82908	1260	1260
A4	84168	59508	1260	1260	81648	56988	82908	58248	1260	1260
A5	59508	41940	1260	1260	56988	39420	58248	40680	1260	1260
B4	103176	72828	1260	1260	100656	70308	101916	71568	1260	1260
B5	72828	51588	1260	1260	70308	49068	71568	50328	1260	1260

補足
- HP-GL エミュレーションでサポートしている用紙サイズは、A3、A5、A4、B4、B5 の 5 種類です。

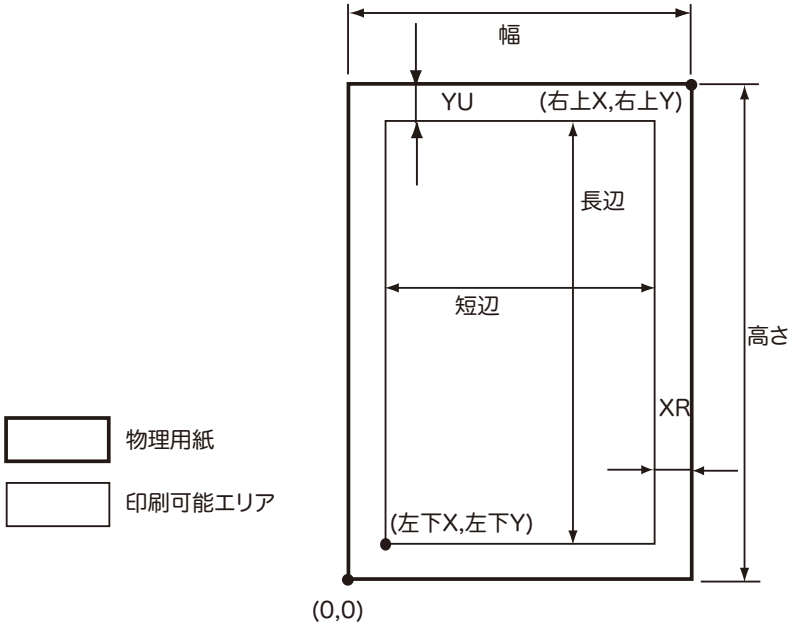


用紙サイズ	用紙長（1/7200 インチ）		座標値（1/7200 インチ）							
	X 方向	Y 方向	マージン		印刷可能エリア		右上端		マージン	
	幅	高さ	左下 X	左下 Y	長辺	短辺	右上 X	右上 Y	XR	YU
A3	84168	119052	1260	1260	81648	116532	82908	117792	1260	1260
A4	59508	84168	1260	1260	56988	81648	58248	82908	1260	1260

用紙サイズ	用紙長（1/7200 インチ）		座標値（1/7200 インチ）							
	X 方向	Y 方向	マージン		印刷可能エリア		右上端		マージン	
	幅	高さ	左下 X	左下 Y	長辺	短辺	右上 X	右上 Y	XR	YU
A5	41940	59508	1260	1260	39420	56988	40680	58248	1260	1260
B4	72828	103176	1260	1260	70308	100656	71568	101916	1260	1260
B5	51588	72828	1260	1260	49068	70308	50328	71568	1260	1260

補足

- HP-GL エミュレーションでサポートしている用紙サイズは、A3、A5、A4、B4、B5 の 5 種類です。



オートレイアウト

■オートレイアウトとは

オートレイアウトとは、ホスト装置から入力された HP-GL データをもとに原稿サイズを判断し、描画する用紙サイズに合わせて拡大・縮小し、描画データが用紙の中央にくるようにレイアウトする機能のことです。オートスケール・オートレイアウト機能を使用することによって、原稿サイズ、原点位置などを意識することなく、HP-GL モードでプリントできます。

オートレイアウトの指定はすべて操作パネルで行います。拡張コマンドで設定することはできません。

■オートレイアウト機能を有効にするためには

オートレイアウト機能を有効にするためには、操作パネルを使って次の項目の設定をします。

- 原稿サイズを「オート」に設定します。
- 原点位置を設定するために、オートレイアウトを「ON」に設定します。
- スケールを「ON」に設定します。
- エリア判定モードで、有効座標エリアを求める方法を選びます。
- ペーパーマージンでペーパーマージンを設定します。
- スケールモードを設定します。

■設定項目の詳細

◆原稿サイズ

原稿サイズで「オート」を選ぶと、オートレイアウトの設定を「ON」にできるようになります。

◆オートレイアウト

オートレイアウトの設定を「ON」に設定します。「ON」に設定すると、スケール、エリア判定モード、ペーパーマージン、スケールモードの設定が有効になります。

◆スケール

原稿サイズが用紙サイズに合うように、原稿サイズを拡大・縮小（スケーリング）するかどうかを設定します。

◆エリア判定モード

HP-GL データをもとに有効座標エリアを求める方法には、次のものがあります。

「自動」

有効座標エリア判定方法を、PS、IW、IP、Adapted の中から自動的に選択されます。このときの優先順位は、PS > IW > IP > Adapted となります。

「IW」

データ中の最後の IW コマンドで指定された領域を、有効座標エリアとします。データ中に IW コマンドがない場合は、Adapted で有効座標エリアを決定します。

「IP」

データ中のすべての IP コマンドで指定された領域を含むエリアを、有効座標エリアとします。データ中に IP コマンドがない場合は、Adapted で有効座標エリアを決定します。

「Adapted」

次の条件から有効座標エリアを決定します。

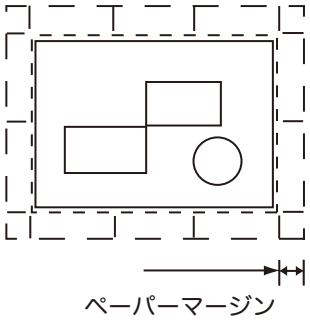
- 描画するコマンドがプロットする最大と最小の位置座標
- そのページ内に指定された最大の文字サイズ
- 最大の線幅

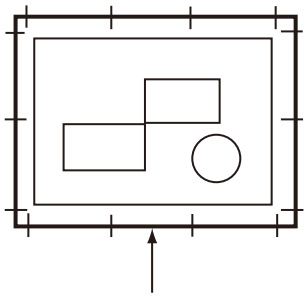
「PS」

データ中の最初に PS コマンドで指定された領域を含むエリアを、有効座標エリアとします。データ中に PS コマンドがない場合は、Adapted で有効座標エリアを決定します。

◆ペーパーマージン

0 ～ 99 mm の範囲で設定します。初期値は 0 mm です。エリア判定モードで求めた有効座標エリアから、ページマージンで設定した領域を差し引いたエリアを有効座標エリアとします。





エリア判定モードで求めたエリア

エリア判定モードで求めたエリアからペーパーマージンを差し引いたエリア

◆スケールモード

求めた有効座標エリアから、原稿サイズを決定するモードを選びます。また、有効座標エリアからよこ置きまたはたて置きの判断もします。

「有効座標エリア」の場合

エリア判定モードで求めたエリアからページマージンで設定した領域を差し引いたエリアを原稿サイズとします。

「用紙サイズ」の場合

求めた有効座標エリアと原点位置の設定から、原稿サイズを設定します。原稿サイズは、A 系列の用紙サイズ（A0、A1、A2、A3、A4、A5 の 6 種類）から選択されます。

■原稿サイズの決定方法

原稿サイズは、スケールモード、ペーパーマージン、エリア判定モードで求めた有効座標エリアをもとに、各用紙サイズの用紙ハードクリップエリアと比較し、決定されます。

◆スケールモードが用紙サイズの場合

1) エリア判定モードに従い、入力された HP-GL データから有効となる座標エリアを求めます。

2) 手順 1 で求めた有効となる座標エリアに対し、ページ内で指定された文字の大きさまたはデフォルトの文字の大きさ、または指定されたペン幅の 1/2 のいずれか値の大きいほうをマージンとして加えます。

3) 手順 2 で求めた有効な座標エリアから、ペーパーマージンで設定された値を引きます。

4) 手順 3 で求めた有効な座標エリアを含む最小のサイズを原稿サイズとします。

◆スケールモードが有効座標エリアの場合

1) エリア判定モードに従い、入力された HP-GL データから有効となる座標エリアを求めます。

2) 手順 1 で求めた有効となる座標エリアに対し、ページ内で指定された文字の大きさまたはデフォルトの文字の大きさ、または指定されたペン幅の 1/2 のいずれか値の大きいほうをマージンとして加えます。

3) 手順 2 で求めた有効な座標エリアから、ペーパーマージンで設定された値を引きます。

4) 手順 3 までの処理で求めた座標エリアを原稿サイズとします。

例 :

スケールモード = 用紙サイズ、原点位置 = オート、ペーパーマージン 10 mm、エリア判定モード =IP の場合に下記データが入力された場合

ペン幅設定はすべて 0.1 mm

下記データでは文字サイズ指定コマンドは存在せず、IP,IW で指定しているエリアは A3 物理サイズ

IN;

IP-8399,-5938,8399,5938;

IW-8399,-5938,8399,5938;

PU;

SP1;

:

:

SP0;

1) エリア判定モードが IP のため IP コマンドで指定されたエリア -8399,-5938,8399,5938 を有効座標エリアとします。

2) 上記例では文字サイズ指定コマンドなし、ペン幅はすべて 0.1 mm のため A3 サイズのデフォルト文字サイズの高さ /2（75 プロッタユニット）のサイズを手順 1 で求めた有効座標エリアに加えます。

手順 2 で求めた有効座標エリア　-8474,-6013,8474,6013

3) ペーパーマージンで設定されている値（10 mm=400 プロッタユニット）を手順 2 で求めた有効座標エリアから差し引きます。

手順 3 で求めた有効座標エリア　-8074,-5613,8074,5613

4) 手順 3 で求めた有効座標エリアは A4 サイズを超え A3 サイズのため、原稿サイズは A3 と判断されます。

また、ペーパーマージンの設定が 0 mm だった場合の有効座標エリアは -8474,-6013,8474,6013 なので、A3 サイズを超え A2 サイズ以下のため、原稿サイズは A2 と判断されます。

■用紙サイズの決定方法

操作パネルの設定が次の場合、用紙サイズの決定方法は次のようになります。

- 原稿サイズ : オート
- 給紙トレイ : 自動

用紙サイズの決定方法は、操作パネルの用紙サイズの設定、およびスケールモードの設定によって異なります。

◆用紙サイズの設定が「A サイズ」の場合

A3、A4、A5 の 3 種類の中から実際にトレイにセットされている用紙サイズが、用紙サイズの候補となります。

A 系列（A3、A4、A5）の用紙がトレイにセットされていない場合は、A3、A4、A5 すべてのサイズを候補とし、操作パネルには、A 系列の用紙のセットを促すエラーメッセージが表示されます。

◆用紙サイズの設定が「オート」の場合

A3、B4、A4、B5、A5 の 5 種類の中から実際にトレイにセットされている用紙サイズが、用紙サイズの候補となります。

A3、B4、A4、B5、A5 の用紙がトレイにセットされていない場合は、このすべてのサイズを候補とし、操作パネルには、用紙のセットを促すエラーメッセージが表示されます。

◆スケールモードの設定が「用紙サイズ」の場合

原稿サイズと同じ用紙サイズがある場合は、原稿サイズと同じサイズの用紙を選びます。

原稿サイズが、候補となったどの用紙サイズよりも大きい場合は、いちばん大きいサイズの用紙を選びます。

原稿サイズが、候補となったどの用紙サイズよりも小さい場合は、いちばん近いサイズの用紙を選びます。

◆スケールモードの設定が「有効座標エリア」の場合

有効座標エリアを含むいちばん小さい用紙サイズを選びます。

有効座標エリアが、候補となったどの用紙サイズよりも大きい場合は、いちばん大きいサイズの用紙を選びます。

有効座標エリアが、候補となったどの用紙サイズよりも小さい場合は、いちばん近いサイズの用紙を選びます。

補足

- 原稿サイズが「オート」以外に設定されている場合、用紙サイズは操作パネルの［用紙サイズ］で設定されているサイズとなります。
- 給紙トレイが「自動」に設定されている場合、用紙サイズは各トレイにセットされている用紙サイズとなります。ただし、サポートされていないサイズの用紙がセットされていると、サポートしているサイズの用紙のセットを促すエラーメッセージが表示されます。

■倍率の決定方法

オートスケール実行時、スケーリングの倍率は原稿サイズおよび用紙サイズで決定しますが、スケールモードの設定によって異なります。

補足

- スケーリングを有効にするためには、操作パネルのスケールの設定を「ON」にします。「OFF」の場合は、等倍（100%）で描画されます。

◆原稿サイズが「オート」、スケールモードが「用紙サイズ」の場合

ハードクリップの設定は、無効になります。ハードクリップエリアは常に用紙ハードクリップエリアとなります。

- 原稿サイズ＝用紙サイズの場合は、等倍（100%）で描画します。
- 原稿サイズ＞用紙サイズの場合は、縮小して描画します。
- 原稿サイズ＜用紙サイズの場合は、等倍（100%）で描画します。

用紙サイズ / 原稿サイズ	A3	A4	A5	B4	B5
A0	35	25	100	31	100
A1	50	35	25	43	31
A2	71	50	35	61	43

用紙サイズ / 原稿サイズ	A3	A4	A5	B4	B5
A3	100	71	50	87	61
A4	100	100	71	100	87
A5	100	100	100	100	100

描画位置は、原点位置がレイアウトの場合、原稿を用紙の中央に配置して描画します。

原点位置が左下または中央の場合、原稿、用紙それぞれの原点を合わせて描画します。

◆原稿サイズが「オート」、スケールモードが「有効座標エリア」の場合

ハードクリップの設定は、無効になります。ハードクリップエリアは常に拡張ハードクリップエリアとなります。

倍率は、有効座標エリアと用紙サイズによって決定します。各用紙サイズの有効座標範囲は次のとおりです。

単位 : プロッターユニット

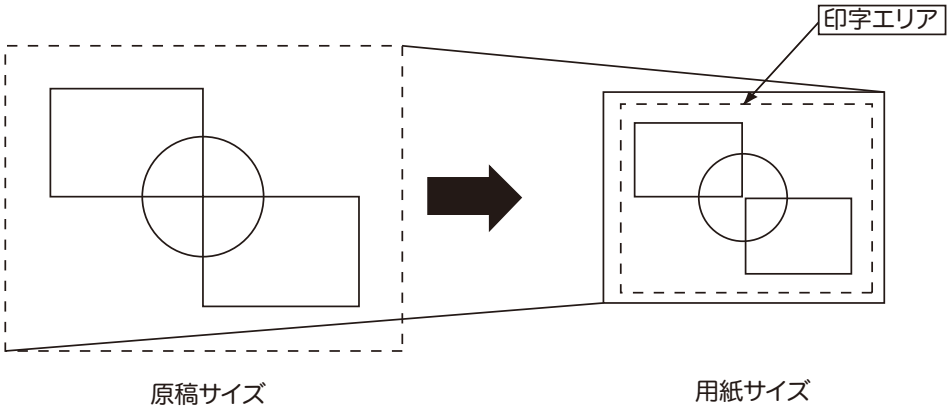
用紙サイズ	0 度				90 度			
	最小値		最大値		最小値		最大値	
	P2x - P1x	P2y - P1y	P2x - P1x	P2y - P1y	P2x - P1x	P2y - P1y	P2x - P1x	P2y - P1y
A3	7829	5485	73075	51200	5485	7829	51200	73075
A4	5485	3828	51200	35733	3828	5485	35733	51200
A5	3828	2648	35733	24720	2648	3828	44088	35733
B4	6762	4723	63120	44088	4723	6762	44088	63120
B5	4723	3297	44088	30773	3297	4723	30773	44088

倍率の最大値は、各用紙サイズの拡張ハードクリップエリアの 210.0%、倍率の最小値は、22.5% となります。

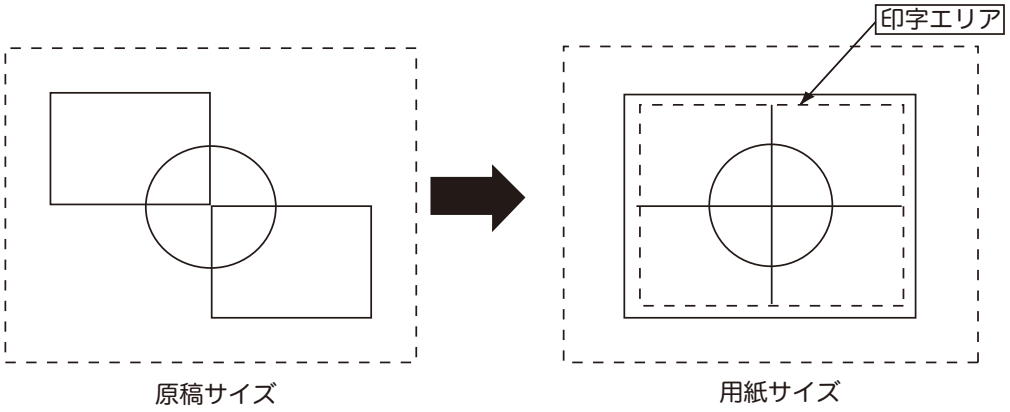
■各機能組み合わせ例

次に各機能の組み合わせによって、どのような印刷結果となるか例を記載します。

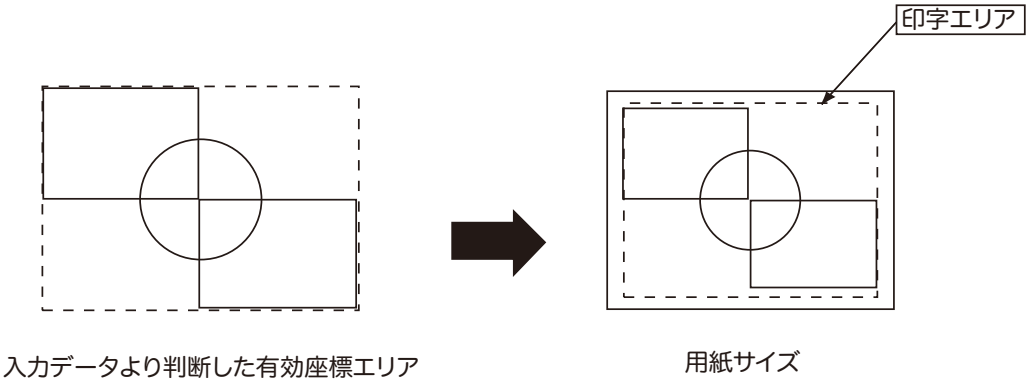
◆原稿：自動、座標原点：0°、スケールモード：用紙サイズ、スケール：ON



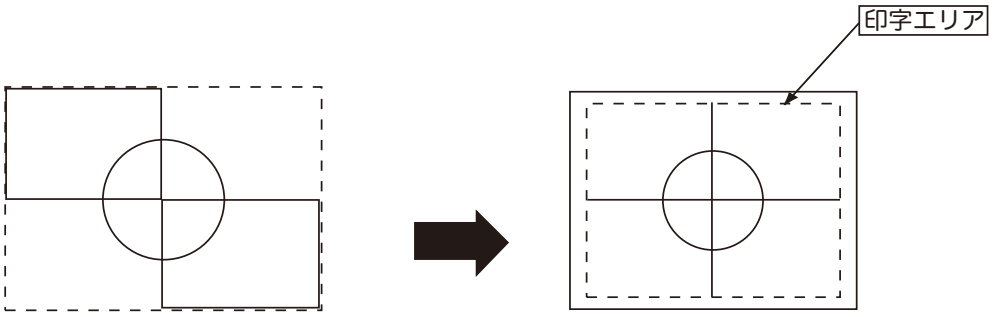
◆原稿：自動、座標原点：0°、スケールモード：用紙サイズ、スケール：OFF



◆原稿：自動、座標原点：0°、スケールモード：有効座標エリア、スケール：ON



◆原稿：自動、座標原点：0°、スケールモード：有効座標エリア、スケール：OFF



入力データより判断した有効座標エリア　　用紙サイズ

HP-GL/2 に関連する設定メニュー

■[ポート設定]

[設定] > [ネットワーク設定] > [ポート設定] で、エミュレーションモードで使用するポートを設定します。

- ポートの起動（LPD/IPP/USB/Port9100/WSD）

  エミュレーションモードで使用するポートを起動します。

- [USB- プリントモード指定]

  USB ポートのプリントモード指定を、HP-GL/2 エミュレーションが使用できるように設定します。プリントモードとして [HP-GL/2] を指定できます。

補足

- [USB- プリントモード指定] では、ホスト装置から受信したデータの処理方法を設定します。ここで [HP-GL/2] を設定すると、「プリント言語の切り替え」(P.527) で説明している「自動切り替え」は行われません。
- CentreWare Internet Services を使って、プロトコル（LPD、IPP、Port9100、WSD）ごとにプリントモードを指定することもできます。

■[メモリー設定]

[設定] > [アプリ設定] > [プリンター設定] > [メモリー設定] で、HP-GL/2 のオートレイアウトメモリーで使用するメモリー容量を指定します。

- [HP-GL/2 オートレイアウト用メモリー]

  オートレイアウト実行時、プリントデータを格納するメモリーの容量を設定できます。

HP-GL/2 設定項目一覧

モードメニューで設定できる項目について、基本設定項目と拡張設定項目に分けて説明します。

基本設定項目

設定項目	項目番号	設定値
原稿サイズ	101	【0】：A0 【1】：A1 【2】：A2 【3】：A3 【4】：A4 【5】：A5 【10】：B0 【11】：B1 【12】：B2 【13】：B3 【14】：B4 【15】：B5 【99】（初期値）：オート 【100】：用紙 「オート」に設定すると、「印字制御」のスケールモード、エリア判定モード、ペーパーマージンの設定が有効になります。 **補足** •「オート」以外に設定すると、拡張設定項目の「オートレイアウト」の設定は「しない」になります。 •「原稿サイズ」と「用紙サイズ」の組み合わせによって、原稿は等倍でプリントされます。
用紙サイズ	102	「給紙トレイ」の設定が「自動」、または「トレイ 5（手差し）」の場合の用紙サイズを設定します。また、設定できる用紙はカット紙だけです。 【3】：A3 【4】：A4 【5】：A5 【14】：B4 【15】：B5 【99】：オート 【101】（初期値）：A サイズ **注記** •「給紙トレイ」を「トレイ 1」～「トレイ 4」のどれかに設定しているときには、「用紙サイズ」の設定はできません。設定しているトレイにセットされている用紙サイズが表示されます。 **補足** •「A サイズ」または「オート」に設定した場合は、次のように設定されます。 -「原稿サイズ」を「オート」以外に設定すると、「A3」になります。 •「原稿サイズ」と「用紙サイズ」の組み合わせによって、倍率符号が「?」となることがあります。この場合、原稿は等倍でプリントされます。
給紙トレイ	103	【0】（初期値）：自動 【1】：トレイ 1 【2】：トレイ 2 【3】：トレイ 3 【4】：トレイ 4 【5】：トレイ 5（手差し） **補足** •「自動に設定した場合、同じサイズの用紙が同じ用紙方向で複数のトレイにセットされているときは、トレイ 1 → トレイ 2 → トレイ 3 → トレイ 4 の順に給紙されます。また、同じサイズの用紙が異なる向きで複数のトレイにセットされているときは、よこにセットされている用紙が優先されます。
座標回転	104	【0】（初期値）：0 度 【1】：90 度

設定項目	項目番号	設定値
階調モード	105	【1】（初期値）：グレースケール 【2】：黒ペン

拡張設定項目

設定項目	項目番号	設定値
オートレイアウト	106	オートレイアウトを使用するかしないかを設定します。 【0】（初期値）：ON 【1】：OFF
パレット優先指定	107	優先して使用するパレットを設定します。 【0】（初期値）：コマンド 【1】：パネル
プリント部数	108	【1】～【250】（初期値：1）：1 ～ 250 枚 **注記** • コンピューターからプリント部数の指定があった場合、その値が反映されてプリントされます。プリント後、操作パネルの設定もその値に書き換えられます。ただし、lpd ポートから指定された部数は、プリント後、操作パネルの設定を書き換えることはありません。
排出先	109	【0】（初期値）：センタートレイ（下段） 【1】：サイドトレイ（オプション） 【2】：センタートレイ（上段）（オプション） 【80】：フィニッシャートレイ（オプション） 【81】：フィニッシャー排出トレイ（オプション） **補足** • インナー排出トレイ（オプション）が取り付けられていない場合は、「センタートレイ（下段）」がセンタートレイになります。
両面	110	【0】（初期値）：なし 【1】：左右開き 【2】：上下開き
フォント	111 （漢字書体）	2 バイト系文字（漢字）の書体を設定します。なお、2 バイト系半角文字もこの書体が適用されます。 **参照** • フォントについては「使用できるフォント」(P.528) を参照してください。 【0】（初期値）：ストローク 【1】：明朝 【2】：ゴシック
	112 （英数字書体）	1 バイト系文字（ANK）の書体を設定します。 **参照** • フォントについては「使用できるフォント」(P.528) を参照してください。 【0】（初期値）：ストローク 【1】：ローマン 【2】：サンセリフ
位置補正	113 （縦位置補正） 114 （横位置補正）	ハードクリップエリアをたてまたはよこ方向に移動させる機能です。-250 ～ 250 mm まで 1 mm 単位で設定できます。 【0】（初期値）：しない 【1】～【250】：-250 ～ -1 mm 【251】～【500】：+1 ～ +250 mm **注記** • 印字エリアを超えるデータは、位置補正をしても印字されません。また、位置補正により印字エリアを超えたデータは、印字されません。

設定項目	項目番号	設定値
有効出力部数	115	プリント部数の指定方法を設定します。 【0】（初期値）：プロトコル指定 【1】：パネル 【2】：コマンド
印字制御	150 （HP-GL モード）	グラフィックス言語の変更ができます。この設定は、HP-GL コマンドの IW、OW、UC コマンドに影響します。 【0】（初期値）：HP-GL 【1】：HP-GL/2 **補足** • BP コマンドを含まない HP-GL/2 コマンドを印字する場合は「HP-GL/2」に設定してください。
	151 （ハードクリップ）	ハードクリップエリアの大きさを設定します。 HP-GL モードでは、用紙によって作画可能な領域が決まっています。この領域はハードクリップエリアと呼ばれ、ペンが移動する最大範囲を決定します。したがって、ハードクリップエリアを超えて描画することはできません。 【0】：標準 【2】（初期値）：用紙
	152 （排出コマンド（SP）） 153 （排出コマンド（SP0）） 154 （排出コマンド（NR）） 155 （排出コマンド（FR）） 156 （排出コマンド（PG）） 157 （排出コマンド（AF）） 158 （排出コマンド（AH））	描画の終了を示すコマンドを設定します。ここで指定したコマンドを受信すると描画を終了し、用紙が排出されます。 【0】：OFF 【1】：ON 初期値は、SP0 は「ON」、SP0 以外のコマンドは「OFF」に設定されています。 **補足** • 複数のコマンドが指定された場合は、どれか1つのコマンドを受信した時点で、描画を終了して用紙が排出されます。
	159 （スケール）	原稿サイズが用紙サイズに合うように、原稿サイズを拡大 / 縮小（スケーリング）するかを設定します。 【0】：OFF 【1】（初期値）：ON

設定項目	項目番号	設定値
印字制御	160 （スケールモード）	オートスケール実行時の原稿サイズを、A 系列の用紙サイズ（A0、A1、A2、A3、A4、A5 の 6 種類）とするか、エリア判定モードで指定された方法によって求められた有効座標エリアとするかを設定します。 【0】（初期値）：用紙サイズ 【1】：有効座標エリア **補足** • 「有効座標エリア」は、「オートレイアウト」が「ON」の場合だけ設定できます。「OFF」の場合は、「用紙サイズ」になります。 • スケールモードの設定は、「原稿サイズ」が「オート」の場合に有効になります。
	161 （エリア判定コマンド）	オートスケール実行時、有効座標エリアを求める方法を設定します。 【0】（初期値）：Auto 【1】：PS 【2】：IW 【3】：IP 【4】：Adapted **補足** • エリア判定コマンドの設定は、「原稿サイズ」が「オート」の場合に有効になります。
	162 （ペーパーマージン）	オートスケール実行時のペーパーマージンを設定します。 【0】～【99】（初期値：0）：0 ～ 99 mm **補足** • ペーパーマージンの設定は、「原稿サイズ」が「オート」の場合に有効になります。
	163 （イメージエンハンス）	イメージエンハンスを行うか行わないかを設定します。 イメージエンハンスとは、画像の境界を滑らかにしてギザギザを減らし、疑似的に解像度を高める機能です。 【0】：OFF 【1】（初期値）：ON
ホチキスとめ	164	【0】（初期値）：しない 【1】：左上 1 か所 【2】：上辺 2 か所 【3】：右上 1 か所 【4】：左辺 2 か所 【5】：右辺 2 か所 【6】：左下 1 か所 【7】：下辺 2 か所 【8】：右下 1 か所
パンチ	166	パンチ穴を開ける位置を設定します。 【0】（初期値）：しない 【1】：上辺 【2】：下辺 【3】：左辺 【4】：右辺
パンチ穴数	167	【0】（初期値）：2 穴 【1】：3 穴 【2】：4 穴
トレイ5確認表示	165	【0】：なし 【1】（初期値）：あり
対象機	169	エミュレーションする対象機を設定します。 【0】（初期値）：HP750 【1】：FX4036

設定項目	項目番号	設定値
ペン属性	800 ～ 815（幅）	16 本のペン（No.00 ～ No.15）の幅（太さ）を設定します。ペンの幅は、0.0 ～ 25.5 mm の範囲で、0.1 mm 刻みに設定できます。No.00 の項目番号が 800 です。 【0】～【255】（初期値：3）：0 ～ 25.5 mm **補足** • 「原稿サイズ」と「用紙サイズ」の組み合わせによって縮小された場合、ペンの幅も最小 0.1 mm まで縮小します。 • 線の幅は線の中心から太くなります。 • 太さが 0.0 mm の場合は、何も描画されません。 • 本項目は、書体がストローク以外の文字には無効です。
	850 ～ 865（ペン終端形状）	16 本のペン（No.00 ～ No.15）の先端を設定します。No.00 の項目番号が 850 です。 【0】（初期値）：切断 【1】：丸め 【2】：矩形 「切断」（初期値） ：座標指定位置 「丸め」 ：座標指定位置 「矩形」 ：座標指定位置 **補足** • 本項目は、書体がストローク以外の文字には無効です。
	900 ～ 915（ペン接続形状）	16 本のペン（No.00 ～ No.15）の、ペンの線を接続した場合の処理を設定します。No.00 の項目番号が 900 です。 【0】（初期値）：なし 【1】：交差 【2】：丸め 【3】：切断 「なし」（初期値） 「交差」 「丸め」 「切断」 **補足** • 「なし」は、処理時間がもっとも短く、確認用に適しています。 • シンボルモードコマンドによってシンボルが設定されている場合、連結処理は行われません。シンボルモードコマンドとは、シンボルを指定する HPGL コマンドです。 • 本項目は、文字には無効です。

PDF ダイレクトプリントを使用するには

PDF ダイレクトプリントとは、PDF ファイルをプリンタードライバーを使わないで、直接 lpr コマンドなどを使ってプリントする機能です。PDF ダイレクトプリントを使ってプリントする場合、次の項目は［プリンターモード］の［PDF エミュレーション設定］の設定に従ってプリントされます。

- 出力部数
- 両面
- 印刷モード
- ソート
- レイアウト
- 用紙サイズ
- プリント処理モード

補足

- PDFファイルのダイレクトプリント機能は、Adobe純正のPDFダイレクトプリントとPostScript非搭載の PDF ダイレクトプリント（PDF Bridge）の 2 種類が可能です。どちらを優先するかは、「プリント処理モード」で設定できます。
- lpr コマンドを使ってプリントする場合、［PDF エミュレーション設定］の「出力部数」の設定は無効になります。部数を指定するときは、lpr コマンドで行ってください。なお、lpr コマンドで部数の指定をしない場合は、1 部として処理されます。
- lprコマンドを使ってPDFファイルをプリントする場合は、操作パネルまたはCentreWare Internet Services を使って、本体側の LPD ポートを起動しておく必要があります。

モードメニュー画面

PDF ダイレクトプリント機能固有の項目を設定する画面です。モードメニュー画面を表示するには、ホーム画面で［プリンターモード］をタップし、［PDF エミュレーション設定］を選んでください。

［詳細確認 / 変更］

PDF ダイレクトプリント機能の項目番号に設定されている値を確認 / 変更します。

- ［項目番号］に機能の項目番号を入力すると現在の設定値を表示できます。
- 設定値を変更するには、［変更値］に変更する値を入力し、［決定］をタップします。

［パスワード］

ファイルにパスワードが設定されている場合は、あらかじめ、そのパスワードを設定しておきます。プリントするファイルと、設定したパスワードが一致した場合にだけプリントできます。

PDF ダイレクトプリント機能の設定項目

PDF ダイレクトプリント機能で設定できる項目について、説明します。

弊社ユーティリティの「ContentsBridge」を使用しないで PDF ファイルをプリントする場合は、ここでの設定が有効になります。

補足

- ContentsBridge Utility を使用して PDF ファイルをプリントする場合は、メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内の『メディア情報』を参照してください。

設定項目	項目番号	設定値
出力部数	401	【1 ～ 999】（初期値：1）：1 ～ 999 枚
両面	402	【0】（初期値）：しない 【1】：長辺とじ 【2】：短辺とじ

設定項目	項目番号	設定値
印刷モード	403	【0】（初期値）：標準 【1】：高速 【2】：高画質
ソート	404	【0】（初期値）：しない 【1】：する
レイアウト	405	**補足** • この項目は、「プリント処理モード」で「PDF Bridge」に設定した場合だけ、設定が有効になります。 【0】（初期値）：自動倍率 【1】：カタログ（製本） 【2】：2 アップ 【3】：4 アップ 【4】：100%（等倍）
用紙サイズ	406	【0】（初期値）：自動 【1】：A4
プリント処理モード	408	PDF エミュレーション機能を使用するとき、プリント処理をするモードを指定します。 【0】（初期値）：PDF Bridge 【1】：PS PDF Bridge は、PDF を弊社製の PDF エミュレーション機能を使用して処理します。 PS は、PDF を Adobe 社製の PostScript の機能を使用して処理します。 **補足** • この項目は、Adobe PostScript キット（オプション）を取り付けている場合に表示されます。 •「PDF Bridge」に設定した場合と「PS」に設定した場合では、プリント結果が異なることがあります。 •「PS」に設定した場合は、「レイアウト」での設定は無効になります。

DocuWorks ダイレクトプリントを使用するには

DocuWorks ダイレクトプリントとは、DocuWorks ファイルをプリンタードライバーを使わないで、直接 lpr コマンドなどを使ってプリントする機能です。
DocuWorks ダイレクトプリントを使ってプリントする場合、次の項目は［プリンターモード］の［DocuWorks プリント設定］の設定に従ってプリントされます。

- 出力部数
- 両面
- 印刷モード
- ソート
- レイアウト
- 用紙サイズ

注記

- DocuWorks文書をダイレクトプリント方式でプリントすると、デバイスフォントに置き換わってプリントされます。DocuWorks 文書をコンピューター上で表示した場合やプリンタードライバー経由でプリントした場合とは、フォントの違いなどから見栄えが異なりますので注意が必要です。
- DocuWorks Desk Ver.7.0 と ContentsBridge の組み合わせた場合だけ、コンピューターの画面表示どおりのフォントでプリントされます。

補足

- lpr コマンドを使ってプリントする場合、［DocuWorks プリント設定］の「出力部数」の設定は無効になります。部数を指定するときは、lpr コマンドで行ってください。なお、lpr コマンドで部数の指定をしない場合は、1 部として処理されます。
- lpr コマンドを使って DocuWorks ファイルをプリントする場合は、操作パネルまたは CentreWare Internet Services を使って、本体側の LPD ポートを起動しておく必要があります。

モードメニュー画面

DocuWorks ダイレクトプリント機能固有の項目を設定する画面です。モードメニュー画面を表示するには、ホーム画面で［プリンターモード］をタップし、［DocuWorks プリント設定］を選んでください。

［詳細確認 / 変更］

DocuWorks ダイレクトプリント機能の項目番号に設定されている値を確認 / 変更します。

- ［項目番号］に機能の項目番号を入力すると現在の設定値を表示できます。
- 設定値を変更するには、［変更値］に変更する値を入力し、［決定］をタップします。

［パスワード］

ファイルにパスワードが設定されている場合は、あらかじめ、そのパスワードを設定しておきます。プリントするファイルと、設定したパスワードが一致した場合にだけプリントできます。

DocuWorks ダイレクトプリント機能の設定項目

DocuWorks ダイレクトプリント機能で設定できる項目について、説明します。

弊社ユーティリティの「ContentsBridge」を使用しないで DocuWorks ファイルをプリントする場合は、ここでの設定が有効になります。

補足

- ContentsBridge Utility を使用して DocuWorks ファイルをプリントする場合は、メディア（ソフトウェア / 製品マニュアル）内の『メディア情報』を参照してください。

設定項目	項目番号	設定値
出力部数	501	【1 ～ 999】（初期値：1）：1 ～ 999 枚
両面	502	【0】（初期値）：しない 【1】：長辺とじ 【2】：短辺とじ
印刷モード	503	【0】（初期値）：標準 【1】：高速 【2】：高画質
ソート	504	【0】（初期値）：しない 【1】：する
レイアウト	505	【0】（初期値）：自動倍率 【2】：2 アップ 【3】：4 アップ 【4】：100%（等倍）
用紙サイズ	506	【0】（初期値）：自動 【1】：A4

外部アクセス

外部アクセスの概要

外部アクセスとは、本機に組み込まれたブラウザーからネットワークを介して Web サーバーにアクセスし、データを格納したり、表示したりできる機能です。

本機では次の機能が使用できます。

- 外部サービスにアクセスして、Web アプリケーション画面を表示する
- スキャン文書を Web アプリケーション上のフォルダーに格納する
- 外部のサーバーに格納してあるファイルをプリントする

注記

- 表示できる Web アプリケーションは、連携済みのものだけです。インターネットのホームページなどにはアクセスできません。

接続先を登録する

接続先のサーバーを本機に登録します。

補足

- 登録したいサーバーが複数ある場合は、登録先をホーム画面に表示されるボタンに割り付けると便利です。詳しくは、「ホーム画面のカスタマイズ」(P.83) を参照してください。

1 ホーム画面で［設定］をタップします。

2 ［アプリ設定］>［外部アクセス設定］をタップします。

3 ［接続先の登録］をタップし、登録するサーバー番号を選びます。

4 サーバーの URL を入力し、［OK］をタップします。

補足

- 外部アクセス用 Web ブラウザーのバージョンを特定した接続にしたい場合は、プロトコルの種類（http や https）とコロンの間にバージョンを指定します。たとえば、V4 で接続したいときは「http-v4://www.example.com」と入力します。
- WebブラウザーのバージョンをURLに指定して接続したときは、［外部アクセスバージョンの選択］の設定は無効になります。

5 必要に応じて、ほかの項目を設定します。

■［接続先名］

接続先の表示名を設定します。

■［説明］

接続先の説明を設定します。

■［接続用ユーザー ID の使用］

外部サービスにアクセスするためのユーザー ID を使用するかどうかを設定します。

補足

- ［使用しない］に設定しても、アクセス時にユーザー ID とパスワードの入力が必要になることがあります。
- ［認証方式の設定］が［外部認証］の場合、本項目を［使用しない］に設定すると、本機で認証されているユーザー情報を使用して、外部サービスにアクセスします。

参照
- 外部サービスへアクセスしたときに、認証の確認画面を表示するかしないかを設定できます。「[認証情報送信時の確認画面]」(P.327) を参照してください。

■[接続用ユーザー ID]

外部サービスに認証するためのユーザー ID を設定します。

注記
- 外部サービスの種類によっては、[接続用ユーザー ID] を設定しても、設定が無効になることがあります。使用する外部サービスの設定を確認してください。

補足
- [接続用ユーザー ID] を設定するときは、[接続用ユーザー ID のパスワード] も一緒に設定してください。
- 接続する外部サービスの認証方法が、ユーザー ID とパスワードを入力する方法以外の場合、ここでの設定は無効になります。

■[接続用ユーザー ID のパスワード]

認証に使用するパスワードを設定します。

■[本体 / 認証情報の通知]

本体を特定するための情報や、利用するユーザーの認証情報を、外部サービスに接続するたびに接続先に通知するかどうかを設定します。

補足
- これらの情報は、接続する外部サービスによって使用するかどうかが判断されます。

■[ユーザー権限情報の通知]

利用するユーザーの権限情報を、外部サービスに接続するたびに接続先に通知するかどうかを設定します。

■[機能コード]

ApeosPort との連携サービス使用時に必要に応じて設定します。

サーバー証明書の検証を行う場合の設定

インターネットゾーンなどにある外部サーバー（ASP）への接続において、Windows の Web ブラウザーと同様に、サーバー証明書を検証する設定にしてフィッシングを抑止できます。

サーバー証明書の検証には、サーバー証明書を発行しているルート証明機関のルート証明書（CA 証明書）を使います。

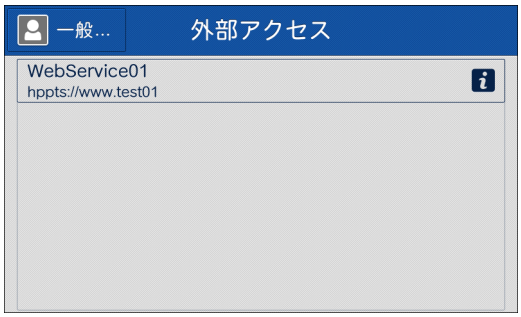
補足
- CA 証明書ファイルの対応形式は次のとおりです。
  - DER encoded binary X.509 形式（.CER）
  - Base64 encoded X.509 形式（.CER）
  - Cryptographic Message Syntax Standard - PKCS #7 証明書形式（.P7B）

参照
- 詳しくは、「本機から外部サーバーへの HTTP の通信を暗号化する（SSL/TLS クライアント）」(P.374) を参照してください。

外部サービスに接続する

1 ホーム画面で、[外部アクセス]をタップします。

2 接続先をタップします。



保守サービスについて

本機を安心してお使いいただくために、トータルサービス契約とスポット保守サービス方式の 2 種類の保守サービス方式があります。

トータルサービス契約

ドラムカートリッジ、トナーカートリッジなどの消耗品および保守サービス料金が含まれている保守サービス契約です。ただし、用紙代・ホチキス針代は含まれておりません。トータルサービス契約の有効期間は 5 年間です。

機械の修理と点検

機械が故障した場合は、お客様のご要請により当社技術員が訪問し修理をいたします。また、必要に応じて故障箇所以外の点検・調整を実施いたします。

トナーカートリッジなどの配送

機械をいつも正常な状態でご使用いただくために必要な、トナーカートリッジなどをお届けいたします。(用紙は除く)

部品の交換

修理や点検で、部品の交換が必要な場合には、これを交換いたします。

スポット保守サービス方式

お客様のご要請の都度、当社営業時間内に保守サービスを有料でお引き受けする方式です。ドラムカートリッジ、トナーカートリッジなどの消耗品は、機械本体とは別にお買い上げいただきます。

補修用性能部品の保有期間について

弊社は本製品の補修用性能部品（機械の機能を維持するために必要な部品）を機械本体の製造終了後 7 年間保有しています。

EP システムについて

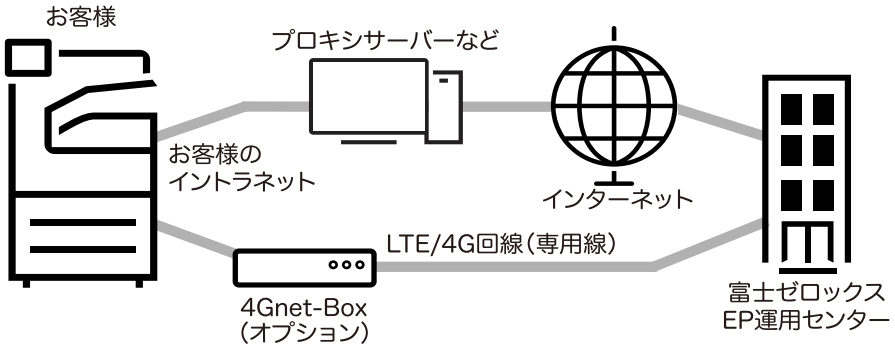
EP（エレクトロニック・パートナーシップ）とは、本機と弊社の EP 運用センターを結ぶことで、機械の管理業務を自動化するシステムです。

公衆回線を使用する場合と、インターネットを使用する場合があります。

本機で EP システムを使用する場合の操作について説明しています。

補足

- EP システムのサービスは、機械の電源が切られている状態ではご利用できません。
- EP システムは、一部の地域でご利用できない場合があります。適用については、担当の営業、または販売店にお問い合わせください。



EP システムで利用できるサービスは、次のとおりです。

- メーターカウントの自動検針

  毎月、設定した日時に、メーターのカウントを機械が自動的に弊社に通知します。この締め時カウントは、メーター確認ボタンをタップするとディスプレイで確認できます。

補足

- ［締め時カウント］を表示するには、カストマーエンジニアの設定が必要です。詳しくは、弊社のカストマーコンタクトセンターまたは販売店にお問い合わせください。

- 機械の点検 / 修理依頼

  機械の点検や修理が必要になった場合、点検 / 修理の依頼を行うと、機械から弊社のカストマーコンタクトセンターに点検 / 修理依頼の連絡をします。連絡を受けると、必要に応じてカストマーエンジニアが訪問します。この操作は、機械を管理する機械担当者が行ってください。

- 機械異常時の自動通報

  機械に異常が発生した場合、機械は自己診断をして、自動的に弊社のカストマーコンタクトセンターに異常発生の通報をします。

  通報を受けると、カストマーエンジニアが訪問します。

- 機械消耗品の適時配送

  トナーカートリッジなど、機械消耗品の使用数量を弊社に通知します。お客様の使用実績に基づき、機械消耗品を配送します。

- 各種設定のリモート変更

  機械の各種設定を、ご要望に応じて弊社からリモートで変更できます。設定内容の詳細については、弊社のカストマーコンタクトセンターにお問い合わせください。

- ソフトウェアの更新

  本機のソフトウェアのバージョンアップが必要になったときは、お客様ご自身の操作で、新しいソフトウェアをダウンロードして、ソフトウェアバージョンアップを行うことができます。

参照

- ソフトウェアバージョンアップについては、「[ソフトウェアバージョンアップ]」(P.272) を参照してください。

使い方のヒント

操作パネルでヘルプを使う

操作パネルのヘルプ機能では、本機の操作方法やエラーコードの詳細を確認できます。調べた情報は、プリントしたり、モバイル端末に転送したりできます。

補足

- この機能を初めて使用するときは、機械管理者モードで利用規約への同意が必要になります。
- この機能を利用するには、インターネットに接続できる環境が必要です。お使いのネットワーク環境によっては、プロキシーサーバーの設定も必要になることがあります。

1 ホーム画面で［ヘルプ］をタップします。

2 任意の項目を選びます。

■よくある質問

問い合わせの多い項目をまとめてあります。

■最近のジョブエラー

ジョブエラーの履歴から、必要な情報を確認できます。

■モバイル連携

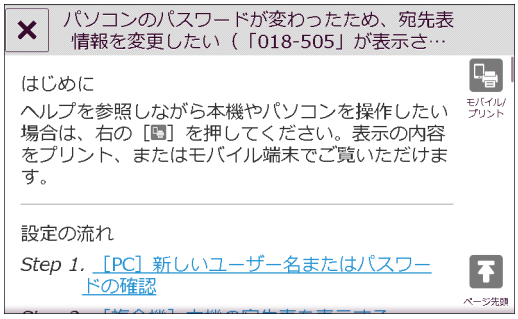
画面に表示された QR コードをモバイル端末で読み取ると、ヘルプの情報を Web ブラウザーで閲覧できます。

■ （検索）

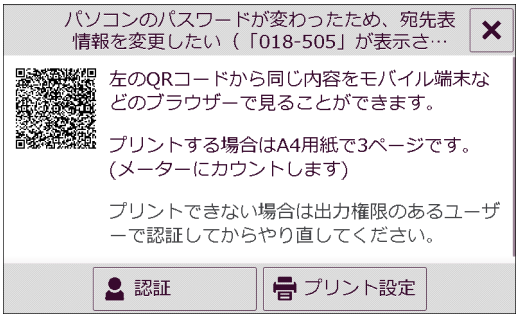
キーワードやエラーコードで、必要な情報を検索できます。

ヘルプのコンテンツ ID が分かっている場合は、ID を直接入力できます。

3 ヘルプの内容をプリントしたり、モバイル端末で閲覧したりする場合は、［モバイル / プリント］をタップします。



4 画面に表示されたQRコードをモバイル端末で読み取ると、Webブラウザーで閲覧できます。
プリントする場合は、[プリント設定]をタップします。



本機とコンピューターで厚紙を指定してプリントする

厚紙がセットされている用紙トレイを設定しておくと、コンピューターで厚紙を指定してプリントを実行したときに、自動的に用紙トレイが選択されます。

1 用紙トレイに厚紙をセットします。

参照
- 「用紙をセットする」(P.94) を参照してください。

2 [用紙トレイの設定]画面で、厚紙をセットしたトレイを選び、用紙種類をセットした厚紙に変更します。

参照
- 「用紙の設定を変更する」(P.102) を参照してください。

3 コンピューターで、アプリケーションソフトウェアの[ファイル]メニューから、[印刷]をクリックします。

補足
- プリントの手順はお使いのアプリケーションソフトウェアによって異なります。詳しくは、各アプリケーションソフトウェアのマニュアルを参照してください。

4 本機のプリンタードライバーを選び、[プロパティ]をクリックします。

5 [基本]タブで、[用紙設定ガイド]をクリックします。

6 ナビゲーション画面で、プリントする用紙に応じて必要な項目を設定したら、プリンターのプロパティ画面で[OK]をクリックします。

7 [印刷]ダイアログボックスで、印刷部数を指定し、[OK]をクリックします。

問題が解決しないときは

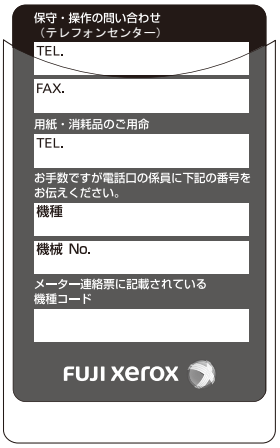
保守・操作・修理（内容・期間・費用など）のお問い合わせ、消耗品のご注文は、カストマーコンタクトセンター、または販売店にご連絡ください。

電話番号は、機械本体に貼付のカードやシールに書かれています。

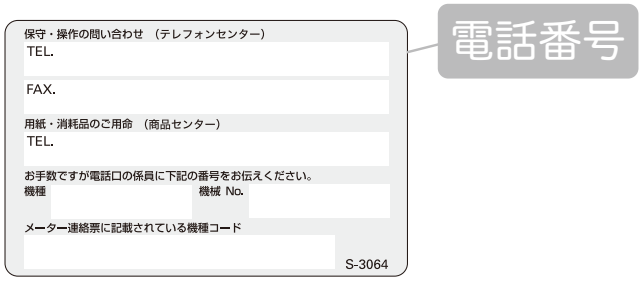
受付時間　土曜、日曜、祝日を除く　9時 ～ 17時30分　（一部の地域では異なります）

電話番号　機械本体の 貼付カード をご確認ください。

カードの例 ❶



ここに書いてあります



カードの例 ❷

- カードは、名刺くらいの大きさです。
- 色やイメージが、イラストと異なる場合もあります。
- 問い合わせ先がわからない場合は、お客様相談センターで電話番号を確認してください。

- 本機を廃棄する場合は、弊社の営業担当者にご連絡ください。

ご意見やご相談の受付窓口

お客様相談センター　0120-27-4100

土、日、祝日および弊社指定休業日を除く　9時～12時、13時～17時

- フリーダイヤルは、携帯電話・PHSおよび海外からはご利用いただけません。また、一部のIP電話からはつながらない場合があります。
- お話の内容を正確に把握するため、また後に対応状況を確認するため、通話を録音させていただくことがあります。

商品全般に関する情報

ホームページアドレス　URL https://www.fujixerox.co.jp/

- 商品全般に関する情報、最新ソフトウェアなどを提供しています。

ApeosPort 3060/2560/1860 ユーザーズガイド

著作者 ― 富士ゼロックス株式会社
発行者 ― 富士ゼロックス株式会社

発行年月 ―2021 年 2 月　第 3 版

（管理番号：ME8976J1-3）